

一 上海事変の勃発と停戦協定の成立

二 满州国の成立と日本の承認

三 リットン調査団の動向

(以上第一冊)

事項四 日中紛争をめぐる米国および各国との交渉ならびに 国際連盟における審議状況

(編注) 本項については、事項一にも関連文書が収載されている。

1 昭和7年1月7日 (在パリ沢田連盟事務局長より)
犬養外務大臣宛 (電報)

錦州占領後の理事会対策について

⁽¹⁾ 第八号 (暗、至急)

四日上海発「インド・パシフィック」通信ハ南京政府ハ我軍
錦州占領ヲ理由トシテ緊急理事会招集方連盟ニ電請シタル
趣報道セル処事務局側ヨリ得タル情報ニ依レハ只今 (六日
正午) 迄ノ処事務局トシテハ支那側ヨリスカル申出ニ接シ
當リ居リタル支那代表部員ハ五日寿府ニ赴キタル由ニモ有
償及軍縮ノ二大会議ヲ目前ニ控ヘ居ル次第ニモ有之旁此際
遽ニ緊急理事会ヲ開クカ如キコトハ万無キヤニ観測セラル
ルモ過般理事会後施肇基ニ代リ当地ニテ議長等トノ連絡ニ
之支那側ニ於テハ来る理事会ヲ前ニシテ種々策動ヲ為スニ
非スマト察セラル其結果万々一緊急理事会開カルルコトト
ナリタル場合ハ勿論前記當方観測通り之カ開催ヲ見ルコト
ナシトスルモ來ル理事会ニ於テハ調査委員問題ヲ始メ錦州
問題モ必ス論議ニ上サルルコトト察セラルルニ付テハ我方
トシテモ早キニ及ンテ之ニ備フル所ナカルヘカラスト存ス
⁽²⁾ 然ル處往電第一二号 (マッシグリ) 本官ニ対スル質問ハ簡
單乍ラ連盟筋ハ勿論當方面一般ニ於テ錦州問題ニ関シ蔵ス
ル懸念ヲ反映シ居ルモノト認メラルヲ以テ此際斯ル懸念
ヲ一掃シ公正ナル態度ヲ中外ニ宣示シ以テ支那側ノ策動ニ
一方當方面ニ於テハ歐州諸国一般ニ最大ノ関心ヲ有スル賠

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

対シ機先ヲ制シ置クコトハ我方トシテ正ニ執ル可キ次回理事会対策ノ一ナリト思考ス依テ出来得ヘクハ適当ノ機会ヲ捉ヘ客月二十七日御声明ノ引続キトシテ同声明後展開セル各種事業ヲ叙述スルト共ニ今後満州ニ於テ政府ノ執ラル御方針ノ一般ヲ闡明セル新宣言ヲ発セラレ之ニ基キ内外相呼応シ我方ノ立場ヲ具合良ク説明シ得ル様御措置相願ヒ度ク右ハ或ハ既ニ御考量中ノ事カト存スルモ気付ノ儘申進ス在欧米各大使、支ヘ転電セリ

2 昭和7年1月(11)日 在英國松平大使より
犬養外務大臣宛(電報)

米国政府の対日通告に対する英國政府の態度について

第一三号

十日「サンディ・タイムズ」及「オブザーバー」ハ外務省公表トシテ英國政府ハ九国条約ノ保障スル満州ニ於ケル門戸開放主義ヲ保持スルハ勿論ナルモ既ニ十月十三日日本代表ハ寿府ニ於テ満州ニ於ケル列國ノ經濟的活動ニ對シ門戸開放機會均等主義ヲ擁護スヘキ旨ヲ声明セルノミナラス十二月二十八日更ニ新内閣首相ノ同趣旨声明アルニモ顧ミ今

次米国政府ノ対日抗議ニ倣ヒ何等日本政府ニ對シ公式通告ヲ提出スルノ必要ヲ認メス目下單ニ日本大使ヲシテ此点ニ關スル日本政府ノ確約取付中ナル旨報シ居レリ

3 昭和7年1月11日 在英國松平大使より
犬養外務大臣宛(電報)

米国政府通告に対する回答至急發出方について

第一四号

往電第九号ニ關シテハ其後當國ハ外務省ヨリ往電第一三号ノ通り發表セル次第ニ付米國「ノート」ノ結果起ルコトアルヘキ一般ノ反日氣勢ヲ避ル上ニモ此際時機ヲ失セス成ル可ク至急回答スルコト然ル可シト思考ス

4 昭和7年1月11日 在ベルギー国菖田(均)臨時代理大使より
犬養外務大臣宛(電報)

米国政府の対日通告に対するベルギー政府の反応について

プラッセル 1月11日後発
本 省 1月12日前着

第四号(暗)
(一八一三六文書)

在米大使発大臣宛電報第一三号ノ件ニ關シ十一日外務次官ニ面会シ米国ノ申入レニ對シ白耳義ハ如何ナル措置ニ出テラル意向ナリヤト尋ねタル處米國覺書ノ内容ハ電報ヲ受取レルモ未タ政府ノ態度ハ決定シ居ラス英仏ノ態度ヲ見タル上ニテ何分決定ノ筈ナルカ國柄ノ似タル關係上専ラ和蘭政府ト打合セ中ナリト云へリ尚次官ハ全ク私案トシテ米國政府カ覺書ノ末尾ニ於テ同政府ハ連盟規約及不戦条約ノ義務ニ反シテ為サレタル協定若ハ事態ヲ承認スル意無キ事ヲ明白ニセルハ極メテ興味アル事ナリト述ヘ白耳義モ或ハ連盟ノ一員トシテ同趣旨ノ書面ヲ日本ニ送ル事アルヤモ知レス併シ此点ハ全ク不明ナリト付言セリ

在欧米各大使ヘ暗送セリ

5 昭和7年1月12日 在ニュー・ヨーク堀内総領事より
犬養外務大臣宛(電報)

米国政府通告の動機および対策について

ニュー・ヨーク 1月12日後発
本 省 1月13日前着

第七号(暗)

今回ノ満州問題(一八一三六文書)
他方日本ノ意図ニ對スル疑惑ヨリシテ将来ニ備ヘントスルニアルカ如シ満州事變以来米國輿論ノ大勢ハ依然孤立主義ニ傾キ概ネ不干涉ヲ是トシ来レルモ其間自由主義者、平和團体、宗教團体、婦人團体等ハ不戦条約及九国条約擁護ノ必要ヲ説キ或ハ國際連盟トノ協力ヲ主張シ或ハ大使引揚乃至經濟封鎖ヲ唱フルモノモアリタルカ連盟及米國ノ掣肘モ其効ナク日本ノ軍事行動益々進展スルニ及ヒ日本カ侵略ノ結果獲得スヘキ一切ノ協定ヲ否認スヘシトノ説唱ヘラルニ至リ(例ヘハ客年往電第一一八号「リップマン」ノ主張)又國務省ノ秘密外交ヲ攻撃シテ外交文書ノ公表ヲ迫ルモノモ鮮カラス一方最近満州ヨリノ通信カ頻リニ日本軍ノ外国商權圧迫ノ事実ヲ報シテ門戸開放主義ノ危殆ヲ伝フルヤ從來日本ニ好意ヲ寄セ居タル方面ニ於テモ漸次不安ヲ感シ殊ニ錦州進軍ノ報道ニ依リ対日感情悪化シタル模様ナリシカ同時ニ自由主義者ノ政府筋ニ對スル対日干渉運動モ益々加ハリ来レルヤニ観測セラレタリ然ルニ日本側ニテハ米國ノ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

希望警告ニ拘ラス一層軍事行動ヲ拡大シ錦州占領ヨリ更ニ山海関及胡蘆島ヘモ進出セリト報セラルルニ及ヒ日本ノ軍事行動ハ今後或ハ關内ニモ及フコトナキヤトノ懸念ヲ生シ又張学良臨時政府ノ錦州撤退ト前後シテ日本方面ヨリ満州自治乃至独立説伝ヘラレタル為日本ノ意図ニ対スル米国官辺並民間ノ疑惑ヲ益々助長シタルカ如シ

(2) 二、今回ノ米国通牒ハスル状勢ノ下ニ発送公表セラレタルヲ以テ(イ)日本ノ行動ニ対スル直接批判又ハ抗議ヲ避ケテ

「アイソレーショニスト」ノ意ヲ迎フルト同時ニ(ロ)門戸開放領土及行政上ノ保全等ニ対スル権利ヲ留保シテ前記民間ノ不安ヲ除クニ勉メハ実力解決ニ依ル新事態及約定否認ノ自由ヲ留保シ條約ニ依ル一種ノ制裁ヲ暗示シテ平和主義者ノ主張ヲ満足セシメントシタル跡有ルヤニ認メラル故ニ右公表後当方面ノ新聞ハ既報ノ如ク大概贊意ヲ表シタルカ中ニハ(イ)斯ル政策ノ決定カ事件当初ニ行ハレサリシ事ヲ遺憾トシ或ハ(ロ)独リニ原則ノ声明ニ止ラス日本ノ条約侵犯ヲ指摘シ之カ抑制ニ勉メサルヲ不満トスルモノアル一方ハ此際満州ノ門戸開放及領土保全ニ関シ一層明確ナル日本政府ノ声明ヲ希望スト云ヒ(2)右通牒ニ依リ支那側カ力ヲ得テ対日

及蘭、西へ転電セシム

6 昭和7年1月12日 在オランダ國松永(直吉)公使より

犬養外務大臣宛(電報)

米国の対日通告に同調せずとの外務次官談話について

ハーベ 1月12日後発
本省 1月13日前着

7 昭和7年1月12日 長(延連)警視総監より

中橋(徳五郎)内務大臣、犬養外務大臣宛

米国大使辞任の情報について

1月12日付
1月13日着

外秘第三七号 警視総監 長 延連

第三号(暗)

十二日外務次官ノ求ニ依リ面会シタルニ次官ハ大臣ノ命ニ

依ルモノトシテ蘭国政府ハ七日米国政府ヨリ日支兩国政府

ニ対スル同国政府ノ覺書写ヲ受ケタルニ対シ本日米国政府

ニ回答ヲ発セリ其「テキスト」ハ示シ難キモ其趣旨ハ日支

兩国カ夫々米国ニ回答ヲ為シ他方連盟ニ於テ調査委員派遣

等ニ依リ事件ノ円満ナル解決ヲ図ル為最善ノ努力ヲ為シツ

ツアルニ顧ミ蘭国政府ハ兩国政府ニ対シ何等措置ヲ取ルコ

トヲ得策トセスト云フニアリト述ヘタリ

尚次官ハ右回答ハ米国政府ノ慾漁ヲ婉曲ニ謝絶スル意味ナ

リト付言セリ

米、在欧各大公使へ暗送セリ

交渉ヲ遅ラシ其結果却テ日本ノ行動ヲ硬化セシメサルヤトノ懸念ヲ述ヘタルモノアリ

三、要スルニ今回ノ通牒ハ法理的ニハ單ニ米国ノ外交方針ヲ声明シテ権利ノ留保ヲナシタルニ止リ満州ニ於ケル日本ノ権利及行動ヲ直接否認シ又ハ日本ニ向テ抗議乃至要求ヲナスモノニ非サルモ之ヲ政治的ニ観察スルトキハ事變当初

米国政府カ勉メテ日本ノ行動ヲ掣肘スルカ如キ言動ヲ避ケ却テ右ハ極東ノ平和維持ノ為已ムヲ得ストスルカ如キ気配スラ見エタルニ今ヤ自ラ外交的原則ヲ公表シテ日本ノ行動ニ対シ暗ニ警告ヲ与ヘ以テ将来ニ備ヘントスルノ必要ヲ感スルニ至リタル事ハ政治的空氣ノ重大ナル一転化トシテ看過シ難ク同時ニ米国ノ斯ル態度ハ仮令英仏等ノ追随ヲ得サル場合ニ於テモ将来支那側ノ対日態度ヲ自然硬化セシメテ

滿州問題ノ解決ヲ一層困難ナラシメ且解決後ニ於テモ将来支那側ニ種々ノ口実ヲ与フル事トナル虞アル可シ故ニ此際我方トシテハ滿州ノ領土保全及門戸開放等ニ対スル方針ヲ實際上ニ示シ米国其他列國ノ輿論善導ニ資スルコト肝要ナルヤニ思考ス

在米大使、在加公使、桑港ニ暗送、英ニ転電シ在欧各大使

右者動靜ニ関シテハ本月七日外秘第六号ヲ以テ既報ノ処本人ハ来ル三月中辞任帰米ノ途ニ就ク予定ニテ既ニ荷物ノ取片付ケニ着手シツツアル趣ニテ側近者ノ言ニ依レハ同大使ハ共和党ノ有力ナル党員ニシテ巨額ノ富ヲ有シ「フーヴア

(一) 満州問題終局ノ帰結ヲ何レニ求ムヘキヤ
(二) 排日排貨其他対支対策如何
(三) 対列強並ニ連盟關係ヲ如何ニ處理スヘキヤ
ニ関シ方針確立ヲ要ス卑見ヲ以テセハ満蒙終局ノ帰結ハ連盟ヲシテ我ニ満州ノ一種ノ「マンデート」ヲ承認セシムルニアリト信ス支那問題ニ連盟ヲ引入ルルノ可否ニ付テハ議論アルモ抑満蒙問題ヲ日支間ノ直接交渉ニ於テ我独自ノ立場ヨリ解決スト云フハ言壯ナルカ如キモ鬼面人ヲ嚇スノ類ニシテ自ラ偽ル自信ナキ外交ト云フへク國際相倚ルノ今日満蒙問題ヲ斯ク迄拡大セシメ而モ其交渉ニ第三者ノ介在ヲ許サスト云フモ誰カ我ニ聽從スヘキヤ弱者ヲ犠牲ト為スモノナリトシテ斯ル主張ヲ統クル限り世界ノ輿論ハ我真意ニ付疑問ヲ挿ミ支那ハ益々我ト交渉ヲ避クルニ至ルヘシ我対スルノ抱負ト勇氣アリテコソ我本来ノ主張ヲ達成シ得ヘキ滿対支政策ハ世界ノ高閣ニ立チテ堂々主張スヘク之ヲ主張状ヲ現実ニ了解シ來リ支那ノ主張ヲ押ヘ連盟ノ面目立ツ以ナリ幸ニ十二月理事会ハ其経過ニ顧ミルニ支那ノ無力ト暴

米国の対日通告に不参加との情報について

- 「大統領ノ選挙ニ際シ多大ナル物質援助ヲ為シタル報酬
トシテ現地位ヲ与ヘラレタルモ元來外交上ノ経験ナク且ツ
多クノ興味ヲモ有セサル由ニテ客年九月十九日即チ滿州問
題勃発ノ翌日同大使ハ横浜解纜ノ「エムブレス、オブ、ジ
ヤパン」号ニテ賜暇（自己投費事業ノ整理監督ノ為ナリト
謂フ）帰米セシカ國務卿「スチムソン」ハ同大使カ斯ル緊
要ナル時期ニ任地ヲ離レタルコトニ対シ大ニ遺憾ノ意ヲ表
シタル趣ニテ當時既ニ「フォーブス」大使ハ辞任閑地ニ就
キタキ旨ヲ乞ヒ一九三一年末マテニハ滿州問題落着ノ観測
ニテ夫レマテ留任スルコトトシ帰任シタルカ同問題ノ解決
遷延ノ為メ更ニ離任ヲ延期セシ趣ナリ尚今回同大使カ本国
國務省宛辭表ノ電報ヲ發シタルハ曩ニ「スチムソン」國務
大使カ其ノ間ニ立チテ以來頗ル窮地ニ在ルヲ以テ一層辭任
ノ意ヲ強メタリト謂フ

「パッセ」カ当国外務省ヨリノ聞込トシテ内報スル処ニ依
レハ日支事件ハ目下連盟ニ付議セラレ居ルヲ以テ当国政府
ハ八日付日支両国政府宛米国政府公文ニ参加セサル趣ナリ
右既ニ「アヴァス」ヨリ電報済ミナル由ナルモ為念
米、英ニ転電シ、連盟ニ転報ス

上満州問題ハ暫ク日本ノ手ニ委ネテ手ヲ引カントスル意向ヲモ示セリ連盟ニシテ極東ノ平和、支那民衆四億ノ福祉ヲ
顧念シ世界經濟復興ヲ念トスル以上且ツ今般派遣セラルヘ
キ連盟調査委員派遣ヲ機トシ支那改造ニ着目スルニ於テハ
之カ改造ノ実際の方策ニ付テハ我ニ依頼スルノ外無ク又我
方トシテモ其協力ヲ惜ムヘキニ非ス事茲ニ至リテ我ノ連盟
參加カ始メテ意義ヲ有シ来リ極東ニ於ケル連盟ノ支柱トシ
テ歐州問題ニ於ケル英仏ト同等ノ地歩ヲ占メ極東唯一ノ大
國トシテ連盟ノ名ト力トヲ利用シテ支那問題ヲ我カ思フカ
儘ニ解決スルノ機會ヲ得ヘシ彼ノ排日排貨問題ノ如キハ世
界輿論ノ非難、支那自身ノ反省ニ依リテ雲消霧散スヘク全
支那問題ヨリ觀レハ局地的問題ニ過キサル滿蒙問題ニ闕シ
テハ支那カ獨力治安ノ実ヲ挙クル能ハサル以上我ニ「マン
デー卜」ヲ適當ノ形ニ於テ容認スルヲ以テ自然ノ成行ト為
スヘシ前記問題ノ帰結ヲ叙上ノ觀点ニ立脚セシムルニ於テ
帝国政府ノ態度ハ甚々明瞭トナリ英米政府今回ノ質問ニ對
シ簡明直截ナル回答ヲ為シ得ヘキナリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

13 昭和7年1月16日 在英國松平大使より

芳沢外務大臣宛(電報)

日本政府の満州における門戸開放主義確認に
関する英國政府の声明について

ロンドン 1月16日後発
本省 1月17日前着

第二二号

帝国政府ノ満州ニ於ケル門戸開放主義確認ニ関シ十五日夜
英国外務省ハ左ノ趣旨ノ公表文ヲ發表セリ

満州ノ事態ニ関スル一月八日ノ外務大臣及日本大使間会談
ノ結果トシテ日本大使ハ十四日外務省ヲ來訪シ日本ハ満州
ニ於テ何等領土的野心ヲ有セス且門戸開放主義及九国条約
ノ原則ヲ尊重スヘキ旨ノ同國政府ノ明白ナル確言ヲ伝達ス
ル處アリタリ

米及連盟ニ転電セリ

14 昭和7年1月16日 芳沢外務大臣より
在米國出淵大使宛(電報)

対米回答手交の際の米大使との会談内容につ
いて

同感ノ意ヲ表シ居リタリ

次ニ「フ」ハ日本ハ満州ニ独立國ヲ建設スヘシトノ新聞報
道アル処果シテ然ルヤト訊ネタルニ付本大臣ヨリ自分ハ今

回満州通過ノ際日本軍當局其他ヨリ該問題ニ付テモ種々聞
知シタルカ右ニ依レハ満州ノ「ガヴァナー」達ハ既ニ南方

ト分離シタル以上将来ニ亘リ彼等自身ノ利益ヲ擁護スルカ
為メニハ独立國家ヲ建設スルニ如カストノ意見ヲ抱キ居レ

リトノコトナリ固ヨリ日本ハ満州地方ノ治安維持ヲ以テ絶
対の必要ト認メ居リ從テ自然右意見ニモ大ナル注意ヲ払ヒ
居ル訳ナリ日本側ニテハ理事会決議ノ実行ト満州事變ノ善
後措置トニ付テハ種々考案ヲ有スル次第ナルモ本件獨立國
家問題ハ支那側ノ計画ニシテ日本側ハ之ニ對シ多大ノ関心
ヲ有スルノミト答へ置キタリ

仏、支、北平、奉天、廣東へ転電シ仏ヲシテ在欧各大使及
連盟へ転電セシメ支ヲシテ南京へ転報セシメタリ

芳沢外務大臣より
在米國出淵大使、在仏國栗山臨時代
理大使他宛(電報)

米国政府通告に対する日本政府の回答について

第一二二号(暗)

往電合第一一一号ニ関シ

我方回答手交ノ際本大臣ヨリ米大使ニ同回答ノ一読ヲ求メ
タル上何等意見アリヤト訊不タルニ「フォーブス」ハ「ホ

スタイル、オキュベイション」云々ノ点ヲ指摘シ今次日本
軍ノ軍事行動ハ戰時占領ニ非ストノ趣旨ヲ認メアル處日本
ノ新聞記事等ハ實際ニ戰争行ハレツツアリヤノ感ヲ与ヘ居
リ又現地タル満州ニ於テハ公然之ヲ戰争ト称シ居レルハ如
何ト述ヘタルニ付本大臣ヨリ新聞記事等ハ問題トスヘキニ
非ス要スルニ日本軍ノ満州ニ於ケル行動ハ自衛行動若ハ警
察行為ナリト答ヘタル處「フ」ハ更ニ日本ハ学良ノ軍隊二
十万ヲ擊破シ其ノ匪賊トナリテ跳梁スルヤ之ヲ殲滅セント
スト述ヘタルニ付本大臣ヨリ学良ノ軍隊ヲ擊破セルハ即チ
自衛行動ニ外ナラス而シテ一度其ノ匪賊化ヲ見ルヤ之ヲ鎮
圧スルハ当然ナリト告ケタリ尚ホ其ノ際本大臣ヨリ事変前
学良ハ満州ニ於ケル収入ノ八割ヲ其ノ軍隊ノ維持ニ用ヒタ
ル次第ナルカ実ハ満州ニハ前記ノ如キ大軍ヲ置クノ要ナキ
コト何人ニモ明ニシテ該經費ノ大部分ハ産業其他ノ建設的
支途ニ向ケ得ヘキモノナリト付言セルニ「フ」ハ右ニ対シ

コト

(編注) 省略、付記参照、別電合第一〇七号は米、仏国あて、
別電合第一〇号は其他あてである。

なお本電報は、上海、北平、奉天、廣東にも発電され
た。

(付記)

米国大使通牒（一月八日付）ニ対スル芳沢外相回答
(一月十六日付)

(一月十六日発表)

以書翰啓上致候陳者本月八日付貴翰御来示ノ次第ニ付テハ
帝国政府ニ於テ最慎重ナル考慮ヲ相加ヘ候

セソコトヲ期スルモノニシテ右帝国政府ノ努力ニ対シテハ
常ニ米国政府ノ全幅ノ支持アルヘキヨ確信シタリシカ今回
改メテ右確信ノ誤ラサリシコトヲ確メ得タルハ帝国政府ノ
欣幸トスル所ニ有之候

貴大使ノ特ニ言及セラレタル所謂門戸開放ノ政策ハ曩ニ屢
屢言明セル如ク帝国政府ニ於テ極東ニ関スル政策ノ枢軸ト
認ムル所ナリ唯々憾ムラクハ支那全土ニ亘ル不安定ナル事
態ノ為右政策ノ効果著シク滅殺セラレ居ル次第ナルモ帝国
政府ハ其ノ力ノ及フ限り満蒙ニ於テモ支那本部ニ於ケルト
同様ニ門戸開放ノ政策ヲ維持セムコトヲ期スルモノニ有之
候

帝国政府ハ貴翰中米国政府乃至米国人民ノ條約上ノ権利ヲ
侵害シ若クハ千九百二十八年八月二十七日ノ条約ニ違反ス

唯々茲ニ一言致度ハ支那ニ關スル諸条約ノ適用ニ付テハ常
ニ同國国情ノ変化ニ対シテ相当ノ考慮ヲ加フルヲ要シ殊ニ
現下同國ノ不安紊亂ノ情況ハ華府条約ノ締結ニ際シ当事國
ノ曾テ予想セサリシ所ナル事ニ有之當時ニ於テモ支那ノ國
情不満足ナリシハ勿論ナルモ現今ノ如ク不和不統一ヲ暴露
セサリシ次第ナリ固ヨリ之レカ為メ關係諸条約ノ拘束力乃
至内容ニ何等影響アル次第ニ非サルモノ条約ノ適用ニ當リテ
ハ必スヤ現実ノ事態ニ即シテ之ヲ行フヲ要スルヲ以テ前記
ノ如キ支那ノ国情ハ此ノ点ニ関シ深甚ナル斟酌ヲ必要トス
ヘキヤニ思料セラルル次第ニ有之候

尚帝国政府ハ満蒙ノ行政当局ニ変更アリタルハ全ク該地方
人民カ必要已ムヲ得サルノ处置トシテ自ラ之ヲ行ヒタルニ

過キサル所以ヲ指摘セントスルモノニ有之候今回ノ我軍事
ノ如キ支那ノ国情ハ此ノ点ニ関シ深甚ナル斟酌ヲ必要トス
ヘキヤニ思料セラルル次第ニ有之候

行動ト性質ヲ異ニスル戰時占領ノ場合ニ於テモ普通地方官
憲ハ其ノ職ニ留ルヲ例トスル処今次事件ニ際シ満蒙ニ於ケ
ル支那官憲ハ大方逃亡又ハ辞職シ其ノ結果政治機能ノ破壊
ヲ來シタル次第ニシテ帝国政府ハ支那国民ノミカ他国民ト
異リ民族自決ノ権能ヲ欠キ其ノ官憲ノ逃亡ニ際シ自ラ政權
ヲ組織シテ秩序ノ維持ニ任シ得サルノ理由無キヨ信スルモ
ノニ有之候

帝国政府カ満蒙ニ対シ何等領土的企図ヲ有セサルハ改メテ
言明ノ必要ナキ處貴大使モ御承知有之ヘキ通り満蒙ニ於ケ
ル安寧福祉ノ維持並ニ該地方ノ一般通商ニ対スル解放ハ帝
國ニ取り最大ノ関心事タルト共ニ至上ノ重要問題ナリ米國
政府カ極東問題ノ重要性ヲ看過セラレサルノ態度ハ從来モ
種々ノ機会ニ於テ之ヲ明ラカニセラレタル所ナルカ現下帝
國ニ存立ニ関スル重大ノ時局ニ際シ同政府カ友好的精神ヲ
以テ事態ノ正当ナル認識ヲ得ルカ為細心ノ注意ヲ払ハレツ
ツアルヲ知ルハ帝国政府ノ欣快トスル所ニ有之候

以上ノ次第ヲ本国政府ニ御伝達相成様貴大使ニ御依頼申進
スルト共ニ茲ニ重ネテ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

昭和七年一月十六日

ル手段ニ基キテ成立セル事項ノ合法性ヲ認ムルコトヲ得ス
トノ御申出ヲ了承セリ純理ヨリ論スレハ特定ノ場合手段ノ
妥当ナラサルコトカ常ニ必然的ニ結果ヲ無効ナラシムルヤ
否ヤハ疑問ノ余地アルヘキモ帝国政府ニ於テハ素ヨリ何可
妥当ナラサル手段ニ訴フルノ意思ナキヨ以テ實際上ハ斯ノ
如キ問題ハ發生セサル義ト思料致候

唯々茲ニ一言致度ハ支那ニ關スル諸条約ノ適用ニ付テハ常
ニ同國国情ノ変化ニ対シテ相当ノ考慮ヲ加フルヲ要シ殊ニ
現下同國ノ不安紊亂ノ情況ハ華府条約ノ締結ニ際シ当事國
ノ曾テ予想セサリシ所ナル事ニ有之當時ニ於テモ支那ノ國
情不満足ナリシハ勿論ナルモ現今ノ如ク不和不統一ヲ暴露
セサリシ次第ナリ固ヨリ之レカ為メ關係諸条約ノ拘束力乃
至内容ニ何等影響アル次第ニ非サルモノ条約ノ適用ニ當リテ
ハ必スヤ現実ノ事態ニ即シテ之ヲ行フヲ要スルヲ以テ前記
ノ如キ支那ノ国情ハ此ノ点ニ関シ深甚ナル斟酌ヲ必要トス
ヘキヤニ思料セラルル次第ニ有之候

尚帝国政府ハ満蒙ノ行政当局ニ変更アリタルハ全ク該地方
人民カ必要已ムヲ得サルノ处置トシテ自ラ之ヲ行ヒタルニ

過キサル所以ヲ指摘セントスルモノニ有之候今回ノ我軍事
ノ如キ支那ノ国情ハ此ノ点ニ関シ深甚ナル斟酌ヲ必要トス
ヘキヤニ思料セラルル次第ニ有之候

16 昭和7年1月(17)日 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

額駐米公使の連盟理事会への赴任について

第三五号(暗)

新任支那公使額惠慶最近本使ヲ來訪セル際自分ハ滿州時局
ノ關係上南京政府ノ懇請ニ余儀無クセラレ來任シタルモ天津ニ在ル業務ノ關係上成ルヘク速ニ帰國ヲ希望スト述ヘ居
リタルカ今回連盟理事会出席ノ内命ヲ受ケタリトテ昨十五
日当地出發「ブレーメン」号ニテ寿府ヘ向ヒタリ
連盟ヘ転電セリ

17 昭和7年1月19日 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

日本政府の回答に米国側不満の模様について

ワシントン 1月19日後発
本省 1月20日前着

第四〇号(暗)

貴電合第一(五文書)
一一一號ニ関シ

國務長官議會關係ニテ多忙ノ為十八日國務次官ニ面会我回

答写ヲ手交シ置キタリ

其際同次官ハ我回答ハ留保的説明多キ為却テ世間ノ誤解ヲ
深カラシメタル模様ニテ從来日本ニ対シ好意的態度ヲ示シ
來レル「ヘラルド・トリビューン」ノ態度硬化シタルカ如
キハ甚々遺憾トスル處ナル旨ヲ内話セリ米国政府当局ニ於
テハ何等意見ヲ公表シ居ラサルモ各方面ノ報道ヲ綜合スル
ニ我回答ニ対シ余り満足シ居ラサル模様ナリ本使十九日夜
出發「ハヴァナ」ニ向フ二十九日朝帰任ノ予定

18 昭和7年1月19日 在南京上村領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

日本政府の対米回答に対する中央日報記事に

ついて

南京 1月19日後発
本省 1月19日後着

第四九号

十九日ノ中央日報ハ日本ノ対米回答ハ我ヲ侮辱スルコト甚
シトノ見出ノ下ニ外交部責任者ノ意見トシテ我対米回答ノ
内容ヲ批評セル記事ヲ掲載セル處其内左ノ点御参考迄
一、日本ハ支那現下ノ不安紊亂ノ状況ハ華盛頓會議當時各
國ノ予想セサリシ所ナルヲ以テ九国条約ノ適用ニ当リテハ
訴フルカ如キコトナキヲ保セス又他国理事中ニモ滿州問題
ノ事態ニ関シ質問又ハ討議スルモノアルヤモ計ラレス之等
ニ対シテハ累次ノ御垂示ニ依リ応酬然ルヘキモ當方トシテ
モ出来得ル限り準備ヲ整へ理事会ニ臨ム要アリ依テ左記諸
点ニ關シ當方心得迄ニ至急何分ノ儀御回示ヲ請フ

一、調査委員会経費ニ付テハ往電第一八号ノ次第アル処同

委員会ハ其設定ノ趣旨及經緯ニ鑑ミ我方ニ於テ之ヲ善導
宜シキヲ得ハ調査ノ結果世界ノ公論場裡ニ於テ我方ノ立
場ヲ固ムル機会ヲ作り得ヘシト認メラレ旁我方トシテハ
出来得ル限り同委員ニ好意ヲ表彰シ置ク方然ルヘク既ニ
閣下当地御出發前御話アリタル如ク相成ルヘクハ右経費
分担方御快諾相成ルト共ニ調査ニ關シ各般ノ便宜ヲ供与
スヘキ用意アルコト等声明スルヲ得ハ前段懸念ノ如キ仮
リニ理事会ニ於テ種々ノ議論起ルカ如キ場合ニモ之ヲ抑

修正ノ必要アリト称スルモ夫ハ日本ノ條約違反ノ口実ニ過
キス其日本ノ言分ニシテ正当ナランカ日本政府カ自國ノ參
謀本部及東北ニ在ル軍隊ニ対シ全ク統制力無キ状況ハ華盛
頓會議各國ノ予想セサリシ所ト言ヒ得ヘシ

二、元來華盛頓會議各國ハ日本政府ハ近代的組織アル政府
トシテ自國軍隊ヲ絶対服従セシメ得ルモノト考ヘタルカ奉
天ニ於ケル驚クヘキ事実ハ嘗テ各國ノ來往セル日本政府ナ
ルモノハ今ヤ真ノ日本政府ニ非スシテ真ノ政府ハ參謀本部
即チ旧幕府ノ繼承者タルコトヲ証明スルニ足ルヘシ

委細公信、支、北平、奉天へ転電セリ

19 昭和7年1月20日 在パリ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

一月下旬開会の連盟理事会への対策について

第二〇号 至急

(1) 来ル理事会ニ於ケル日支問題取扱振りニ付テハ容易ニ予断
ヲ許ササルヘキモ目下ノ處支那内情混沌タル一方當方ニ於
テハ賠償、軍縮ノ二大會議ヲ眼前ニ控ヘ「ブリアン」外相
ノ引退、「ドラモンド」ノ永キ引籠リ(尤モ同人ノ病氣モ
平癒シ一両日前帰寿セル由)等ノ事情モアリ旁々今後予期

庄スル具トモ為シ得ヘク我方ニ執リ得策ナラント信スル
處右ニ關シテハ如何ナル程度迄声明シ然ルヘキヤ之ニ関
連シ我方「アッセッサー」早晚御任命アルコトト察セラ
ルル處之モ理事会ノ機會ニ言明シ得ルコトトモナラハ幸
ナリ

(2) 二、錦州地方ノ情勢ニ付テハ過般理事会中ノ經緯モアリ各
方面ニ於テ注目シ居ルヲ以テ理事会内外ニ於テ種々話題
ニ上ルコトト推察セラル依テ我方トシテハ我軍同地方進
出後ノ治安維持上ノ設備及現場支那官憲ノ地位及該地方
出動中ノ我軍其後ノ動静等ニ付成ル可ク詳細御垂示ヲ願
ヒ啓発ニ努ムルコト致シ度ク又必要ニ応シ我軍ニ於テ
ハ山海關以西ニ絶対ニ進出ノ意図ヲ有セスト言明シ然ル
可キヤ

三、対支政策ノ根本義ニ付テハ貴電合第一〇七号対米回答
ニ於テ一応我方ノ立場ヲ明カニセラレタル次第ナルカ英
国宛貴電(一五文書参照)第七号対英申入ノ末段ニ言及セラレアル対理事
会声明ハ是非実行出来得ル様御取計ヒ願ヒ度ク尚最近ニ
至リ当方面ノ各新聞ハ滿蒙独立政權近々確立セラル可
右ハ日本ノ保護下ニ置カルルモノナリトカ或ハ日本ハ之

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ト同盟ヲ結ヒ同地方ニ広大ナル利権ヲ得ルコトトナル可シト云フカ如キ電報ヲ屢々掲載シ居リ寿府事務局内部ニ於テモ右ニ閔シ種々取沙汰シ居ル由ナル處之ニ対シテモ適宜啓蒙ノ策ヲ講シ置クコト必要ト存ス右ハ如何ニ説明シ置キ然ルヘキヤ

四、貴電合第六八号奉山鉄路局新設ノ件ニ付テハ英國側ニ

於テ神経ヲ尖カラシ居ルヤノ新聞報道モアリ理事会ニ

テモ問題ニスルモノナキヲ保セス就テハ該局新設ノ由來

英國側トノ関係同線運用現状等本件応酬ニ必要ナルヘキ

詳細ノ情報御供給願ヒタシ

五、將又時局一般ニ閔スル帝国外政ノ大方針ニ付テハ近日

中閣下ヨリ議会ニ於テ御闡明アルコトト察セラレ当方ト

シテハ理事会ニ於テモ之ヲ基礎トシ必要ニ応シ前記各項

ニ対スル御回示ノ趣旨ヲ加味敷衍シ適宜応酬然ルヘシト

存スル処万一此ノ機会ニ於テ是以外ニ理事会ニ対シ特ニ

當方ヨリ進ンテ言明方然ルヘシトセラル点アラハ併セ

テ御回訓ヲ請フ

在歐米各大使、支、奉天ニ転電セリ

20 昭和7年1月(20日) 在上海村井總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)
我方の満州に関する日清条約付属取締発表に
対する金前外交部次長の談話について

第四五号

我方ノ日清密約発表ニ閔シ前外交部次長金問泗ハ十八日大
要左ノ如キ談話ヲ発表セリ

日本ハ該密約ニ根拠シ打通線カ満鉄線ノ平行線ニシテ條約
違反ナリト称シ居ルモ曩ニ顧外交部長カ反駁セルカ如ク右

密約ハ日支兩國政府カ編纂セル如何ナル條約書中ニモ又英
米各国ノ外交文書中ニモ全然記載ナク光緒三十一年十二月

ノ東三省ニ閔スル日支條約亦正約三款付約十二款ニ止マリ

本密約ニ言及シ居ラス抑々本密約ハ「ロックフェラー」及
「マクマレー」ノ條約書中ニ始メテ記載セラレタルモノナ

ルカ兩國全權ノ署名ナク又其根拠ヲ明カニシ居ラス今次日

本外務省ノ公表ハ全然「マクマレー」ノ條約書中ノモノト

同一ニシテ日本ハ殊更該書中ヨリ之ヲ訳出シ来リタルモノ
ニ非スヤトノ疑ヲ抱カシム又一步ヲ譲リ仮リニ斯カル事實

アリタリトスルモ兩國全權ノ署名ナキヲ以テ結局ナル議

事録ニ過キスシテ條約ニ非ス之ヲ條約ト言フハ当ラス又一

九〇五年ノ日露講和條約第四条ニ於テ日露両國ハ滿州ニ於
テ商工業發展ノ為中國カ實行スル一般ノ計画ヲ阻礙セサル

旨ヲ規定セリ日本ノ打通線敷設反対ハ本條約ノ違反ナリ日
本カ今般両國代表ノ署名ナク條約ノ性質ヲ備ヘス而モ根本

ヨリ其事実ニ疑アル密約ナルモノヲ一方的ニ公表セルハ其
用意ノ那辺ニ在ルヤ了解ニ苦シム云々

支ヘ転報セリ
北平、奉天、南京ヘ転電セリ

21 昭和7年1月(21日) 在パリ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)
満州事變關係の日米往復文書上院提出に關する國務長官の談話について

第四三号(暗)

22 昭和7年1月(21日) 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)
満州事變關係の日米往復文書上院提出に關する國務長官の談話について

第二六号(暗)

二十日國務長官ノ求ニ依リ加藤往訪シタル處同長官ハ御承
知ノ通り先般上院ニ於テ滿州事件ニ閔スル文書ヲ同院へ提
示センコトヲ決議シタルカ(客年往電第五六八号參照)之
ヲ拒絶スルコトハ諸般ノ關係上自分ノ好マサル所ナルノミ
ナラス今般特ニ關係文書ヲ自ラ仔細ニ点検シタルニ別段支
障アルモノモナシト認メタルニ付之等文書ヲ上院外交委員
會秘密會へ提示スルコトニ決定セリ右ハ素ヨリ公衆ニ対シ
直接発表スルトハ自ラ其意味ヲ異ニスル訳ナルモ如何ニ秘
密會トハ謂ヒ一旦外交委員會ニ披露セラレタル以上ハ世上
ニ洩レ伝ハラサルコトヲ保証シ得サル關係モアリ旁國際禮
儀上右予メ御耳ニ入レ置キタキ次第ナリト述ヘタリ尚何ノ
程度迄ノ文書ヲ提示セラルル御考ナリヤト為急尋ネタルニ
対シ長官ハ両國間ニ往復セラレタル「ノート」及文書ノ形
ヲ以テセル「エイドメモア」ノミニテロ頭ヲ以テセル通報
及問合ニ閔スル記録等ハ一切含マサルコトトナリ居レリト

支ヨリ北平、南京、奉天、天津、哈爾濱ヘ転電アリタシ
Rennei Geneve 宛發送アリタシ
在欧各大公使、米及支ヘ転電セリ
支ヨリ北平、南京、奉天、天津、哈爾濱ヘ転電アリタシ

答へタル趣ナリ

23 昭和7年1月21日

在シヤム国矢田部(保吉)公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

日本政府の対米回答に関する新聞社説について

第八号

日本ノ対米回答ニ関シテハ二十日夕刊「デーリー・メール」
紙ハ社説ニ於テ連合放送ノ「カッスル」氏ノ批評ヲ引用シ日
本ノ外務省員カ國務卿ノ威圧的態度ニ対スル憤懣ヲ隠シテ
婉曲ナル弁明ヲ草シタル心事ハ賞賛ニ値スト冷カシ「スチ
ムソン」氏ノ「デマルシュ」ニ対スル日本ノ回答ハ米国力
事態ヲ制止センカ為ニ努力セセル友誼ノ精神ニ対スル謝意ノ
表明タルニ過キスト断シ此ノ結果「ス」氏ノ立場ヲ一層困
難ナラシメ九国条約ニ依ル米国ノ権利侵害セラルコトナ
キヤトノ質問ニ対シ日本カ自他各国ノ同條約上ノ権利確保
ヲ熱望シ米国カ同様ノ見解ヲ有スルヲ至当スト答ヘタル
ハ恰モ後ヨリ一蹴ヲ与ヘ前ニ廻リテ握手セルカ如キ状態ニ

バンコク 1月21日後発
本省 1月21日後着

24 昭和7年1月21日 芳沢外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛(電報)

伊藤参事官の中国出張方について

第一九号

伊藤参事官ニ米国経由中華民国へ出張ヲ命ス旅費電送ス
芳沢外務大臣より
在ベルギー国佐藤(尚武)大使宛(電報)

25 昭和7年1月21日

芳沢外務大臣より

連盟理事会日本代表に就任方要請について

第四号(暗)

本大臣大命拝受ト共ニ連盟理事会ニ於ケル帝国代表者タル
ノ資格消滅シタルニ付テハ本大臣ノ後任タルヘキ在仏大使
ノ着任迄理事会ニ於ケル帝国代表者トシテ貴大使ヲ煩ハス

ハ恰モ後ヨリ一蹴ヲ与ヘ前ニ廻リテ握手セルカ如キ状態ニ

テ「ス」氏モ面喰ハサルヲ得サルヘシト評シ米国今後ノ態
度ハ一層興味深シ日本カ一片ノ警告ニ依リ現在ノ政策ヲ捨
テサルヘキハ勿論ニシテ而シテ「ス」氏ハ勿論満州問題ニ
付多大ノ関心ヲ持タサル一般米人カ之力為戰争ニ訴フルコ
トハアリ得ヘカラス要スルニ満州ニ於ケル戰争ヲ中止セシ
ムル途ハ他ノ一層大ナル戰争ヲ起スニアルモ之ハ「ケログ」
条約ノ擁護者ノ欲セサル処ナラン云々ト結ヘリ

コトシ度ク且次回理事会切迫ノ折柄取急キ任命ノ必要ニ
迫ラレ居ルニ付奏請ノ手続ヲ執ルコトセリ御諒承アリ度
シ委細ハ松平大使ト御懇談ニ依リ御承知ト存ス尙任命アリ
次第電報スヘシ
在英大使及連盟事務局長ニ転電アリ度シ

26 昭和7年1月(22)日 在パリ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

次回理事会対策に関する杉村・ドラモンド会

談要領について

第二七号(暗)

二十日杉村「ドラモンド」トノ会談要領左ノ通内報アリ

一、「ド」ハ次回理事会ニ於ケル日支問題取扱振ニ付テハ
自分モ大ニ意ヲ用ヒ居ル處ナルカ議長ヨリ十二月以来ノ本
件経過報告ノ際調査委員会ノ構成ヲ了シ同委員会ハ既ニ寿
府ヲ出発セル旨ヲ告ケ理事会トシテハ此際ノ場合右委員会
調査ノ結果ヲ俟ツ外無キ事ヲ披露シ今回ハ之ヲ以テ本件ヲ
結了セシメ度キ所存ナル處支那側ハ必スヤ何カノ点ヲ捉ヘ
テ討議ヲ開始セント試ムヘク其際ハ議長トシテモ之ヲ阻止
スル事能ハサルヘキヲ以テ日本側モ之ニ応酬スルノ已ム無

キ事トナルヘシト想像セラル依テ目下ノ処次回理事会ノ初
日タル二十五日ニハ非公開會議ヲ催シ専門的事項、支那調
査委員会ノ経費等ノ問題ヲ議シ其翌日前記議長ノ報告及支
那側ノ陳述アルコトシ日本側カ直ニ之ニ応酬セラレサル
場合ニハ理事会会期中他ノ一日ヲ日本側ノ応酬ニ充ツル事
ニセムカト考ヘ居レリ

二、次ニ「ド」ハ所謂滿蒙獨立國ノ件ニ付何カ承知シ居ル
ヤト尋ネタルニ付杉村ハ自分ハ何等承知セスト述ヘタル処
「ド」ハ若シ日本ノ真意ニシテ新聞紙ノ伝フル如クナラハ
本件ハ実ニ厄介ナル問題ニシテ日支問題ノ解決ハ益々容易
ナラサルヘク結局非常ニ長引ク事トナルヘシト述ヘ
三、最後ニ「ド」ハ軍縮會議ニ言及シ同會議ノ前途ハ中々
見据付カストテ悲觀ノ口吻ヲ洩ラシタル上同會議中満州事
変ヲ持出ス者アルヤモ知レスト述ヘタルニ付杉村ハ其場合
ニハ該事件ハ連盟ニ繫属中ニテ同會議ノ関スル所ニ非スト
シテ之ヲ排除シ得ヘシト述ヘタルニ「ド」ハ其通りナルモ
安全保障問題等ノ討議ニ當リ間接ニ該事件ニ言及スルカ如
キ者アリタル場合之ヲモ阻止スルコトハ困難ナルヘシ然シ
之カ為「コンフュージョン」ニ陥ルカ如キ事ハ之ヲ防カサ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ル可カラススクシテ軍縮会議ニテ本件ノ討議ヲ避ケシメ得
タリトルモ本年総会ニテハ本件必ス問題トナルヘキ事ハ
之ヲ覺悟シ置カサル可カラス云々ト述ヘタリ

在欧米各大使、支へ転電セリ

27 昭和7年1月(22)日 在イタリア国吉田大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

米国の日中両国あて通告に対するイタリア国
の不参加について

第一七号(暗)

二十日米亞局長ニ面会ノ節十八日ノ「タム」ニ華府通信ト
シテ伊國ハ米発閣下宛電(一八一三四文書)報第一二号ノ米ノ態度ニ倣フヘシ
ト信セラル旨ノ記事アルヲ指摘シ其ノ真否ヲ訊シタルニ
本件ニ関スル米國ノ九国条約締約國ニ対スル期待ニ関シテ
ハ日本カ現ニ連盟理事会ニ於テ声明ヲ為セル事實ニ顧ミ伊
国トシテハ米國同様ノ申送リヲ為スハ事ヲ二重ニスルコト
トナルニ過キサルニ付其ノ必要ヲ認メサル旨米國政府へ回
答方在米伊國大使宛發(脱?)同案目下大臣ノ手許ニ提出
中ニテ二十一日中ニハ決定発令ニ至ルヘシト内話シタリ

在米大使へ転電シ、英、仏、独へ暗送セリ

28 昭和7年1月(22)日 在ベルギー國佐藤大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

米国の対日通告に関するベルギー政府の申入

内容について

第一〇号

当国外務省発表ニ依レハ米國ノ対日支覚書ニ關シ外相ハ駐
米白國大使ヲシテ國務長官ニ対シ大要左記ノ主旨ヲ申入レ
タル趣ナリ

米國覚書中ニ掲ケラレタル諸條約ノ尊重ハ白國政府ノ重大
視スル處ニシテ特ニ不戦条約ニ反スル方法ニ依リ満州ニ設
立セラルヘキ事態ヲ認メサルヘシトノ同覚書ノ一節ヲ了承

ス白國政府ハ在白日支両國代表ニ対シ日支問題ニ關スル連
盟ノ平和的行動ノ成功ヲ希望スル旨ヲ述ヘ置キタルカ理事
会ニ於ケル本問題ノ推移ニ關シテハ今後共一層ノ注意ヲ怠
ラサルヘシ云々

在欧各大使、米、蘭、西へ郵送セリ

29 昭和7年1月(23)日 在ベルギー國佐藤大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

別電一 同日芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田連盟事
務局長宛第五号

遼西方面における匪賊討伐状況および錦州方面
中国軍の撤退について
二 同日芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田連盟事
務局長宛第六号
東北地方における独立運動の原因について
三 同日芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田連盟事
務局長宛第七号
奉山鉄路局新設事情並びに京奉線の運行状況について

第一三号(暗)

今回理事会ニ於テハ我ヨリ進ンテ事ヲ荒立ツル必要ナキハ
勿論ノ儀ニシテ支那側ヨリ挑戦シ来ル場合ニハ我方トシテ
モ充分応戦滿蒙問題一氣解決ノ端緒ヲ開ク様尽力致シ度ク
就テハ本省並ニ軍司令官ノ意向ハ大体承知シ居ルモ為念沢
田局長発閣下宛電報第一二〇号ニ対シ至急何分ノ儀御訓令ア
リ度ク本使ハ滿州自治政権擁護ノ方針ヲ以テ進ミ理事会ヲ
シテ之ヲ容認セシムル様努力シ度キモ支那側ノ出様如
ニ付ハ予メ本省ト充分打合セ致シ度キモ支那側ノ出様如
何ニ依リ臨機ノ措置ヲ執ル必要アリ且ツハ電信料節約ノ御
訓令モアリ大体ノ趣旨ニ於テ御異存ナクハ折衝振ハ本使ノ
責任ニ於テスルコトニ御承認アリ度シ右ニ対シ何分ノ儀寿
府宛御回電ヲ請フ

英ニ転電シ仮、連盟ニ転報セリ、奉天ニ転電アリ度シ

~~~~~

30 昭和7年1月23日 芳沢外務大臣より  
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

日本軍の行動、滿蒙獨立問題等第四次理事会

キニトニシテ連盟トシテ直接関与フヘキ筋合ニ非ストノ  
建前ヲ以テ論議ヲ避ケラレ度

シテニシテ之カ区別ヲ困難トスルコト等ニ顧ミ固ヨリ我方ノ  
責任ニ非スト雖モ日支兩軍衝突ノ危険存スルコトヲ虞レ  
タル次第ナル處御承知ノ通り支那軍ニ於テ我軍ノ遼西進  
出ニ伴ヒ逸早ク自發的ニ同地方ヲ撤退シタル結果幸ヒニ  
シテ両軍ノ衝突ヲ避け得タル次第ナリ爾來我軍ハ差当リ  
錦州方面ノ支那側治安維持機関存セサルニ顧ミ同地方ニ  
止リ引続キ治安維持ニ從事シツツアル処（別電第五号）  
同軍ハ平津地方ニ於ケル我軍及我居留民カ重大緊急ノ危  
険ニ曝露セラルル如キ例外的事態ニテモ發生セサル限り  
山海關以西ニ進出セサルヘキハ勿論特ニ必要ヲ生セサル  
限り熱河方面ニ遠征スルカ如キ意図ヲ有セス將又同軍ハ  
奉天政府自身ノ治安維持能力充実ニ從ヒ逐次同地方ノ警  
備ヲ同政府ノ手ニ移ス方針ニテ（以上将来ニ於ケル我軍  
ノ行動ニ関スル意図乃至方針ハ軍事上ノ機密ニ属スルノ  
ミナラス之ヲ公表スルニ於テハ張學良等支那側ニ乗セラ  
ルル虞アルニ付貴官ノ含ニ止メラレ度尤モ連盟首腦部等  
ニ対スル内密ノ説明ニ利用サルルコトハ差支ナキモ公開  
ノ席上等ニテ説明ノ必要アル場合ニハ然ルヘクホカシテ  
声明セラルル様致度）現ニ新三奉天政權ノ編成セル約一

ト五百ノ有力ナル警察隊ハ近ク奉山鉄道ノ警備ニ当ルコ  
ケル我軍ノ行動ハ理事會兩度ノ決議ニ何等矛盾スル所ナ  
キモノナリ

一方所謂錦州政府ナルモノハ張學良側ノ我方ニ対スル軍  
事的策動ノ中心タル以外何等ノ意義ヲモ有セサリシモノ  
ニシテ從テ前記支那軍ノ撤退ト共ニ管内ニ引揚ケタル次  
第ナルカ右引揚後ニ於ケル錦州方面ノ狀況ハ奉天発貴官  
宛電報第一号ノ通り

(a) (1) 帝国政府ノ満蒙ニ対スル根本方針ニ関シテハ過般ノ本大臣議会演説第八節 (Japan harbors no territorial designs ヲリ for economic development迄) ノ趣旨ヲ以テ応酬セラレ度尚ホ必要ノ場合ニハ我方ヨリ進シテ前記  
趣旨ヲ声明セラレ差支ナシ尤モ往電合第一〇七号対米回  
答等ニモ関連シ九国条約等ノ諸条約及門戸開放機会均等ノ原則ノ解釈乃至適用等ヲ問題トスルモノアル際ニハ条約ノ尊重ハ連盟ノ关心事タルコト我方ノ熟知スル所ニシテ且我方トシテハ既存条約ヲ尊重スヘキコト前述ノ通りナルモ右解釈等ハ條約締結國乃至関係当事国ノ処理スヘ  
アリ從テ英國等ニ対スル関係ヲ斡旋スルコトアルモ右ハ奉天政府等ニ本邦人顧問入り居ル等ノ事情ニ基ク好意的措置ナリトノ建前ヲ執り居ル次第ナルヲ以テ此点篤ト御含ノ上前記情報御利用相成度  
四、支那調査委員会経費分担ノ件ハ客年往電第三二三号ノ通り巴里発貴電第三〇号ノ四ノ予算額ノ半分ヲ寄付スルコトトスヘシ（但シ右ハ議会再開ノ上本年度追加予算又ハ來年度予算トシテ請求スル筈ナルニ付差当リ連盟側ヲシテ立替ヘシムルヲ要スル次第ナリ）將又調査ニ関シ各般ノ便宜ヲ供与スヘキコトハ申ス迄モナキ儀ニシテ右聲明方固ヨリ差支ナシ  
別電ト共ニ在欧各大使（土ヲ除ク）ニ転電アレ  
別電ト共ニ支、奉天、北平、廣東ニ転電シ支ヲシテ南京ニ  
転報セシメタリ

(+) (別電) 別電ト共ニ在欧各大使(土ヲ除ク)ニ転電アレ  
別電ト共ニ支、奉天、北平、廣東ニ転電シ支ヲシテ南京  
転報セシメタリ

(a) 遼西方面匪賊討伐

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

客年末遼西方面匪賊討伐ニ向ヘル我軍ハ兵匪ヲ擊破シツツ一月三日乃至四日錦州ニ入り次テ四、五両日ニ亘り連山、葫蘆島、綏中、義州、錦西等ニ各一部隊ヲ進出セシメタリ

右ニテ我軍ノ遼西方面匪賊討伐ハ一段落トナリタルカ我軍進出ノ側面ニ於テハ尙ホ匪賊ノ猖獗スルアルヲ以テ引き右等匪賊ノ討伐ニ從事シツツアリ一方打通線方面ニ於テモ匪勢盛ニシテ十日打虎山ノ我部隊ヲ襲撃セル兵匪二、三百名ハ交戦二時間ノ後撃退セラレ又十一日約一千名ノ匪賊我新立屯部隊ヲ襲撃セルニ依リ我軍ハ彰武ヨリ急援隊ヲ派セリ

(b) 其他各地ノ匪賊討伐

各地ノ匪勢衰ヘス例ヘハ一月一日以来安奉線五竜背、満鉄本線烟台、鄭通線大罕等ニ相当数ノ兵匪現ハレ我軍ノ討伐スル所トナレル有様ニテ一月五日ヨリ十二日迄ノ期間ヲ見ルモ我軍ハ比較的小規模乍ラ毎日何レノ方面カニ於テ出動シ匪賊ノ討伐ニ当リ居レリ鄭通線ハ從来匪勢頗ル盛ナリシ处客年十一月中旬嫩江事件前後以來一時同線方面ハ匪賊跳梁ニ委ヌル外ナカリシモ本年ニ入り同方面

ニ一部隊ヲ派シ一月十四日以来鄭通線主要駅ニ分駐セリ  
(2) 錦州方面支那軍ノ撤退

錦州方面ノ支那軍ハ客年末ヨリ引続キ撤退シ二日午前六時迄ニハ計三十一列車同日午後九時迄ニハ計三十八列車ノ入閔ヲ見、三日午前五時秦皇島通過ヲ以テ完了セルカ撤退部隊兵數總計二万二千余（馬匹三千六百、大砲六十七門）ナリ撤退部隊ハ灤州付近（第十二旅、砲兵第十三團、工兵營通信隊）遷安付近（第二十旅）昌黎付近（第十九旅）及唐山付近（轄重教導隊）ニ集結セルカ如シ尚打通線方面ニ在リシ騎兵第三旅ノ第三十九、四十兩團及歩兵並義勇隊一部ハ北票方面ヨリ朝陽ニ向ヘルカ如シ錦州政権警務處長黃顕声ハ其所屬公安隊ヲ石門塞、海陽鎮、沙河塞一帯ニ駐防セシメ義勇隊ハ今尚殆ト全部閑外各所ニ散在セシメ居ル旨七日天津ニ於テ新聞記者ニ語レル趣ナリ

支那軍ノ撤退ニ伴ヒ錦州ニ在リシ各國「オブザーバー」ハ同地ヲ引揚ケ一日天津通過北平ニ帰着セリ  
(2)

第六号

一、由來東北地方ハ支那本部ニ対シ事実上半独立ノ状態ニアリ殊ニ一九二二年第一奉直戰ヨリ一九二四年曹鏡政府倒壊迄張作霖ハ中央ニ対シ殆ト完全ナル独立状態ヲ保チタリ又一九二八年張學良ノ易幟後東北地方ハ中央隸属ノ程度ヲ形式上増加シタルモ実質ニ於テハ依然トシテ半独立ノ状態ヲ統ケタル次ニテ要スルニ從来多年ニ亘リ中央ノ権力ハ東北政権ノ容認スル限度ニ於テノミ同地方ニ及ヒタル実情ナリ

二、右ノ如キ事態ノ一原因ハ東北人ノ支那本部人殊ニ南支人ニ対スル反感及其立場擁護ノ觀念ニ存ス即チ東北人一般ノ支那本部人殊ニ南方人ニ対スル感情ハ同一支那人乍ラ意外ニ冷淡ナルモノアリテ時ニ反感、憎惡ノ念サヘ藏シ居ルハ周知ノ事実ナリ從テ從來東北人ハ中央政府ノ派遣スルモノ殊ニ南方人力東北ニ於ケル枢要ノ地位ヲ占ムルコトニ極力反対シ居ル次第ニシテ現ニ易幟後国民政府鐵道部カ其官吏ノ東北交通委員会割込ヲ執拗ニ画策セルモ常ニ不成功ニ終レル経緯ノ如キハ東北人ノ南方人ニ対スル立場擁護ノ觀念ヲ如実ニ証スルモノナリ

三、將又最近ニ於ケル所謂東北獨立運動ノ一原因ハ東北非

軍閥一派ノ文治運動ニ存スルコトモ疑ナキ所ナリ蓋シ作霖、學良等張一門カ東北地方ヲ地盤トシテ巨大ノ兵備ヲ擁シ中央政局乗リ出シニ腐心セル結果東北人民ハ多年軍費（東北収入ノ八割）ノ負担、軍人ノ跋扈等苛政ニ惱マサレ來リタルハ周知ノコトナルト共ニ之ニ対スル東北人一般ノ反感カ次第ニ鬱積シ來リタルコトモ想像ニ難カラサルヘキ処今次事變前ニ至リ前記非軍閥一派ニ於テ眞面目ニ右軍閥政治ノ打倒ヲ計画シ居リタル事実アリ而シテ此等一派ハ勿論東北人一般ハ今次事變ニ依リ張學良政権ノ倒壊ヲモツケノ幸トシ居ルモノノ如ク從テ彼等ニ於テ學良ノ復帰ヲ好マサルハ勿論他ノ軍閥等異分子侵入シ來リ再ヒ東北ヲ中央政局ノ禍中ニ投スルカ如キコトナカラム様極度ニ警戒シ居ルヤニ認メラル

四、尚ホ前記ノ如キ支那ノ地方的自主運動ハ其程度ノ差コソアレ各地ニ存スル次第ニテ外蒙古、西藏、新疆等ノ状態ハ暫ク措キ支那本部ニテモ四川、雲南等カ年來殆ト半独立ノ状態ニアルハ周知ノ事実ナリ又最近南京政府ノ勢力失墜ニ伴ヒ早クモ浙江、山東等ノ如キ中央ニ比較的接近セル地方ニ於テ塩余ノ押収等ヲ開始シタリ將又所謂独

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

立宣言云々ト云フカ如キハ支那ニテハ有勝ノコトニテ例へハ清朝没落ノ際督軍連ハ逸早ク独立ヲ宣言シ又曹錕政府倒壊ノ際ニモ同様ノコト行ハレタリ尤モ此等独立宣言ハ新ナル中央政府ノ樹立ト共ニ直ニ取消サレタルカ一方前記第一奉直戦後ノ東北独立ハ二年以上モ継続シタル後張作霖ノ閔内進出ニ依リ之ヲ取消シタリ又最近反蔣派ハ廣東ニ立籠リ独立政府ヲ樹立シタルカ約半年後ニ蒋介石トノ妥協ニ依リ自ラ中央政権ヲ把握スルト共ニ右独立政府ヲ解消セリ要之支那ニ於ケル地方自主乃至所謂独立ナルモノハ同國建国ノ歴史及支那人ノ極メテ「ルーズ」ナル國家觀念等ニ加フルニ近年ニ於ケル不安定不統一ナル政治状況ニ伴フ特殊ノ現象ナル處均シク地方自主ト云ヒ又独立ト云フモ種々難多ノ成行ト内容ト程度トヲ有スル次第ニテ西欧流ノ考ヲ以テ一概ニ之ヲ処理スルコトハ危険ナリ

(三)

第七号

一、本年一月初旬錦州方面時局一段落ト共ニ奉天政府ハ奉山鉄路局ヲ新設シテ山海關以東ノ京奉線ヲ管理セシメタ

ルカ右ハ同線カ大正十一年第一次奉直戦以来数度ニ亘り山海關以西ノ京奉線ト分離セラレ奉天派ノ独立管理ノ下ニ在リタル事實ニ顧ミレハ何等異トスルニ足ラサルヘン即チ第一次奉直戦後張作霖ハ奉榆鉄路局ヲ設ケテ右閔内進出シ又同年十二月郭松齡事件後翌年四月奉天派ノ閔内進出ニ至ル迄同線ハ再ヒ奉天派ノ独立管理ニ帰シ又其後昭和三年六月国民軍ノ北伐完成シ奉天派カ京津地方ヲ撤退シタル際瀋州以東ノ京奉線ハ亦奉天派ノ独立管理ニ帰シタルカ右ハ翌年七月南京政府トノ交渉ニ依リ京奉線全線カ形式上中央政府ノ下ニ統一セラルルニ至ル迄(全線統一後ニ於テモ同鉄路局長ハ奉天派ヨリ任命セラレ又関外線ノ収入ハ依然トシテ奉天ニ送金セラレタル模様ナルカ昭和五年秋奉天派ノ閔内進出ト共ニ同線ハ閔内閔外共奉天派ノ下ニ統一管理セラレタリ)繼續シタリ

二、次ニ奉山鉄路局新設ニ對スル英國側ノ態度ヲ見ルニ前記ノ如ク山海關以東ノ京奉線ハ從来屢々分割管理ノ下ニ在リタル次第ナルカ京奉線關係ノ英國借款ハ從來殆ト延

滯ナク支払ハレタル訳ニモアリ英國側ニ於テモ大体之ヲ

默認シ來リタル狀態ナルノミナラス今次滿州事變勃發後ノ該借款支払ニ付テハ既ニ電報ノ通り奉天新政府ニ於テ相当誠意ヲ示シ居ル次第ニテ右鉄路局ノ新設ニ對シテハ未タ英國側ヨリ抗議ラシキモノヲ提出シ居ラス

三、最近ニ於ケル京奉線ノ運行状況ニ付テハ過般錦州方面ニ於ケル軍事行動ノ為同線ハ一時運行ヲ阻害セラレタルコトアリ又今般奉山鉄路局新設ノ結果同線ノ列車運転ハ山海關ニ於テ切斷セラレ居ルモノノ如キ処十三日中英公司側ヨリ奉天新政府ニ對シ同線ニ対スル英國側ノ債權保全ノ為英國側ヨリ管理者ヲ出シ奉天北京間直通運行方取計ヒタキ旨申出アリタル趣ナルカ右交渉ハ不調ニ終レル模様ナリ

31 昭和7年1月23日 芳沢外務大臣より  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

連盟規約第十五条による満洲事變の理事会付

託に反対の論拠について

第八号(暗)

佐藤理事へ  
前回理事会閉会後ニ於ケル滿州ノ事態ニ鑑ミ且理事会カ規約第十二条ノ範囲ニ於テ滿州事變ヲ解決スルコト困難ナルヘントノ見越ノ下ニ支那側ニ於テ規約第十五条ニ基キ滿州事件ヲ今期理事会ノ審査ニ付セントスルヤモ計ラレス此場合ニ於テ我方トシテハ政治的及法律的理由ヲ以テニ反対スルニ力ムルコトトシ度ク或ハ御見込ニ依リ理事会開催前連盟首脳部及有力ナル理事ニ對シ此等ノ理由ヲ敷衍説明シ予メ極力之ヲ阻止スルト共ニ理事会席上突如支那側ニ於テ本件提議ヲ為スカ如キ場合ニモ理事会カ之ヲ取上ケサル様充分諒解ヲ遂ケ置クコトト致シ度シ

#### A 法律的理由

(一)今回ノ満州事變ハ支那側ノ不法侵害ニ端ヲ發シ引継ギ土匪馬賊ノ横行ニ依リ日本人ノ生命財産カ大ナル危機ニ曝サレ居リ且支那側ニ於テ排日排貨ノ手段ヲ講シ居ル実状ノ下ニ我方ノ自衛的行動ニ依ル事実行為ニシテ之ヲ以テ直チニ第十五条ニ所謂「紛争」ト見做スコトヲ得ス(二)仮リニ之ヲ「紛争」ナリトスルモ右ハ未タ国交断絶ニ至ル虞アルモノニアラス我方ニ於テハ支那側ノ挑戦ナキ限り

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

極力事態ノ拡大ヲ防止スルコトニ努力シ居リ現在ノ事態ハ何等両国間ノ戦争又ハ国交断絶ノ虞アルモノニアラス

最近支那側ニ於テハ帝国ト国交断絶ヲ為スヘシトノ風評アリ、尤モ右断絶ナルモノノ内容明ナラサルモ右ニ依リ

第十五条ノ適用ヲ見ンコトヲ欲スルナランモ元来此ノ種ノ宣伝ハ单ニ支那側ノ内政的ノ理由ニ基クモノニシテ規約第十五条ニ所謂国交断絶ノ場合即チ紛争当事国間ニ意見ノ相違アリテ双方相対峙シテ下ラス相互ノ国际関係ノ緊張ヨリ戦争ノ勃発又ハ国交断絶ノ虞アル場合ト異リ相手方ノ態度如何ニ拘ラス一方的ニ国交断絶ヲナスハ規約第十五条ノ精神ニアラス加之事件ノ解決ニ関スル誠意ヲ示サスシテ直ニ謂レナク国交ヲ断絶スルハ規約違反ト云フヘシ

(三)将又連盟理事会ハ一当事国ノ要求ニ依リ直チニ事件ヲ取上ルカ如キ裁判機関ニアラス円満ニ事件ノ解決ヲ図ルヘキ調停者ノ任務ヲ有スルコト第十五条第三項ニ徴スルモ明カナリ故ニ理事会ハ事件ノ推移、解決手段ノ成否ヲ見極メタル後其ノ場合ニ応スル適當ナル措置ヲ採ルヘキモノニシテ支那側ノ提言ヲ今直チニ取上ルハ理事会ノ本來

在欧各大使及在米大使ニ転電アリ度シ

32 昭和7年1月25日

芳沢外務大臣より  
在仏國栗山臨時代理大使宛(電報)

日清条約付属取極に関する金前外交部次長談

話への反駁について

第二二二号(暗)

往電第一六号ニ関シ

往電(二〇〇文書参照)第一七号金問酒談話ニ関スル反駁左ノ如シ

一、本件会議録中ノ約束事項カ日支両国ノ編纂セル条約集及英米各国ノ外交文書中ニ記載ナシト云フハ公表セラレタル条約集及外交文書ヲ指スモノナルヘキ処右ハ往電第一〇号ノ事由ニ依ル当然ノ結果ナリ(從来支那側ニテハ本件会議録ノ存在ヲ否定スルモノアル処當方ニ於テハ支那側ハ清朝没落ノ際又ハ其後ノ政変ニ際シ関係記録ヲ喪失シ南京政府ニ於テ之ヲ有セサルニ非スマトノ疑問ヲ抱キ居レリ)

二、「ロックヒル」条約集ハ二巻ヨリ成リ第一巻ハ普通ノ

条約集ニテ公表セラレ居ルモ第二巻ハ「ロックヒル」ノ

編纂セルモノヲ印刷ニ付シ米国国務省極東部ヨリ在日英

ノ任務ト規約構成ノ精神トヨリスルモ機宜ノ措置ニアラス

ス

### B 政治的理由

理事会ハ過去三回ノ会議ニ於テ滿州事件ヲ討議シタルカ滿州ニ於ケル特殊ナル事態及極東ノ安寧秩序ヲ害スル虞アル支那全体ノ事態ニ関シ充分ナル認識ヲ欠キタル為往ニシテ事実ニ即セサル論議ヲ上下シタルコトアリ此ノ事実ニ鑑ミ帝国政府ニ於テハ日支両国政府ニ依ル事件ノ円満ナル解決ニ資スル為ニハ理事会ヲシテ事実ニ関スル正確ナル認識ヲ得シムルニ在リトシ進シテ支那調査員派遣ヲ提議スルニ至リ該委員ハ近ク極東ニ向ツテ出発セントススル事態ノ下ニ理事会カ支那ノ第十五条ニ依ル提議ヲ取上ルコトアリトスルモ結局前三回ノ会議ニ於ケルカ如キ空虚ナル論議ヲ繰返スニ止リ判断ノ正鵠ヲ得ル能ハサルヘシ徒ラニ架空ノ法律論ニ捉ハレ事実ヲ正視セスシテ事態ヲ一層紛糾セシムルハ連盟及当事国ノ為ニ好シカラサルノミナラス危険ナリト認ム

在支公使、北平、奉天、廣東ニ転電シ支那シテ南京ニ転報セシメタリ

右約束事項ノ有効ナルコトニ付テハ何等疑ナキコトヲ答弁シ居レリ（同著書第一〇一頁）

三、本件会議ハ明治三十八年十一月十七日ヨリ同年十二月二十二日迄開カレタルモノナルカ十一月十七日ノ第一回

会見ニ於テ両国全権ノ間ニ会議手続五ヶ条ヲ定メ其ノ第

二条ニ於テ「各会見ニ付テハ日清両國文ヲ以テ会議録ヲ

作り両国全権委員之ニ記名スルコト」トアリ仍テ右第一

回会見ヨリ十二月二十二日ノ第二十二回会見ニ至ル迄各

会見ノ都度会議録ヲ作成シ毎会毎ニ日本側全権小村寿太

郎内田康哉清国側全権慶親王瞿鴻禕（Chü Hung-chi）袁

世凱夫々記名ノ上華押（調印）シ居レリ即チ本件会議録

ハ単ナル議事録ニ非スシテ正式ニ作成セラレタル「プロ

トコール」ナリ而シテ右会議録ハ大部分「ディスカッショ

ン」ヨリ成レルモ十六個条ノ約束事項所載ノ部分ハ特

ニ「双方討議ノ結果左記事項ヲ会議録ニ記入シ置クニ決

セリ」等ト前置シ次ニ一段下ケテ右事項ヲ掲ケ居レリ即

チ右ハ往電第一〇号前段ノ経緯及前記次第ニ顧ミ約束事

項トシテ掲ケアルモノナルコト極メテ明ナリ（追テ平行

線ニ閲スル約束事項所載ノ本件会議録第十一号正本全文

報セシム

別電ト共ニ米及在欧各大使ニ転電アリ度

33 昭和7年1月(26)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第五号（電報）

ドラモンド事務総長辞任申出に対する処置に

ついて

別電

同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第五号

ドラモンド事務総長の辞任申出書

(1) 第四号（暗、極秘）  
佐藤理事ヨリ

理事会二十五日前第一回会議開催後秘密会ヲ開キ議長ヨリ「ドラモンド」ノ事務総長辞職ノ要求ニ閲スル書面（別電第五号）ヲ呈示シ之ニ閲スル処置振りニ付意見ヲ交換セ

リ右ニ付議長ハ先ツ「ド」ニ於テ辞職ノ決意ヲ翻ヘサンコ

トヲ懇請シ「ユーゴスラブ」代表亦軍縮會議以前事務総長

ノ辞表提出ノ件世間ニ漏ルルハ異常ナル「センセイション」

ヲ起ス可シトテ少クトモ五月理事会迄発表ヲ見合セ改メテ

熟議セン事ヲ提議シタルモ「ド」ハ自己ノ辞表提出モ熟考

撮影ノ上郵送ス

四、平行線禁止ニ閲スル約束方日露講和條約第四条ニ反ス

トノ議論ニ付テハ先ツ形式的ニ之ヲ見レハ(1)右第四条ハ

日露両國力相互ニ約束セル事項ニシテ何等支那政府ニ対

シテ約束セルモノニ非サルヲ以テ支那側ヨリ右第四条ヲ

楯トシテ條約違反ヲ称フヘキ筋合ニ非ス又実質的ニハ

(2)右第四条ノ列国ニ共通スル一般ノ措置トハ主トシテ

open portノ開設等一般的ニ外國ノ利益ニ関係アル措置ヲ

ヲ意味スルモノニシテ右ハ日露講和會議ニ於ケル第四条

挿入ノ經緯ニ徴スルモ明ナリ（同条ノ規定ハ我方ハ曾テ

日清新條約（追加通商航海條約）締結交渉中満州ニ於ケ

ル某々地點ヲ外國貿易ノ為開カムコトヲ清國ニ要求シタ

リシ時露國力故障ヲ提起シタルコトアルニ鑑ミ我方ヨリ

特ニ之ヲ主張シテ挿入シタルモノニシテ右事情ハ日露兩

國全権ノ記名セル日露講和會議録ニ明記シアル所ナリ）

従テ特ニ満鉄ノ利益保護ノ為メノ限定セラレタル措置ヲ

阻止スル本件約束事項第三号ハ前記第四条ト何等抵触ス

ルモノニ非ス

別電ト共ニ支、奉天、北平ニ転電シ支ヨリ南京、上海ニ転

ノ結果ナル事ヲ指摘シ且五月理事会ニ於テ辞表ヲ提出セハ恰モ軍縮會議中ニ属スルコトトテ一層事件ヲ紛糾セシム可シト述へ決意ヲ翻スコト無ク「セシル」卿モ單ニ「ド」ノ辞表撤回ヲ勧告スルハ「ド」自身ノ為親切ナル考へ方ニ非ス理事会カ兩三日間之ヲ秘シテ熟考セントスルハ可ナルモ長ク之ヲ發表セサランツルモ不可能ナリト述へ結局本日ノ秘密会ニ於テ改メテ意見交換ヲ行フコトトナレリ  
(2) 卑見ニ依レハ本件ハ既ニ長キ以前ヨリノ問題ニモアリ「ド」ノ決意ハ到底翻スヘクモ非ス又連盟ニ於ケル物質上ノ待遇ハ頗ル不充分ニシテ生活上ノ安定ヲサヘ得サル事情モ在リ旁々ナマジツカ同氏ノ留任ヲ希望スル理ニモ行カスト考へラル尤モ同日夕刻ニ至リ「セシル」卿ト本件ニ閲シ会談ノ機會アリ同卿ノ考ヲ聞キ得タル處右秘密会後仮国側「ボンクル」ヨリ「ド」ノ真実ノ内情ニ閲シ立入り尋ね呉レマシキヤトノ依頼アリ一両日中ニ自分ヨリ懇談ヲ試ミ度キ考ニテ或ハ軍縮會議後一年間モ現職（ノ）儘休業スル筈ノ条件ニテ辭職ヲ思ヒ止マラシムル様語シ見ル事モ一案カト考へ居レリト答へタリ就テハ以上ノ点ニ閲シ御考量ノ上何分ノ

(別電)

## 第五号（暗、至急）

予ハ規約付属書ノ任命ニ係リ且ツ十二年間勤務シタル事務総長ノ職ヲ辞セん事ヲ理事会ニ申出ツルノ光栄ヲ有ス予ハ既ニ可ナリ久敷キ以前ヨリ辞職ノ意向ヲ有シタリ然レトモ総会カ事務局ノ組織ニ関スル問題ヲ審査セル間ハ辞職ヲ差控フルヲ可ナリト思考セリ尚又軍縮會議ノ接近セル事ヲモ考慮ニ入レタリ予ハ一九三三年ノ半適當ナル時機ニ職ヲ離レン事ヲ欲ス本書ハ規約第六条ノ規定ニ依リ之ヲ各連盟国政府ニ通セラレン事ヲ望ム

34 昭和7年1月(26)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

## 一月二十五日の理事会における日中紛争討議の経過について

別電 一月二十七日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛第七号  
日本軍の行動に關する中国理事の陳述に対する佐藤理事の反駁声明

一、理事会本二十五日開催日支問題ハ二十六日討議ノ予定ナリシ處支那代表ハ本日午前ノ公開理事会ノ席上滿州問題一層急迫シ上海ニ於テモ事態緊急ナルモノアルニ鑑ミ

本日午後ヨリ本件討議ヲ開始セントヲ主張シ佐藤理事右日程ノ繰上ケニ異議ナキ旨ヲ述ヘ依ツテ午後五時半ヨリ公開理事会開催日支問題ニ付討議セラル

二、劈頭議長仏國代表「ボール・ボンクール」ハ前回理事会以來ノ事態ノ推移ヲ簡単ニ説明シ即チ理事会討議ニ基キ議長「ブリアン」ハ事務總長ト協議ノ上調査委員会ヲ組織シタル處同委員ニハ常任理事國民及米国人ノミ選任セラレタルモ右ハ今回ノ事件ノ如キ特別ナル事情ニ際シ最モ適當ト認メタルカ為ニ外ナラスシテ将来此種委員会ニ其レ以外ノ国人ヲ排斥スル趣旨ニ非サル事ヲ証明シ次テ委員会ノ權限ハ諮詢的ナルコトハ勿論ナルモ其ノ權限ハ広汎ニシテ委員会カ適當ト認ムル事項ニ就キ報告ヲ提出シ得ル事ヲ述ヘ且ツ同委員会ハ「リットン」卿議長ノ下ニ近ク極東ニ出発スル予定ナル次第ヲ披露ス

三、次テ支那代表顏惠慶ハ日本軍ノ行動ハ單ニ支那ノミナ

ラス世界ノ平和ヲ危クスルモノナリ日本ハ現在ニ於テハ滿州全土ヲ占領シ居ルカ前二回ノ理事会決議ハ何レモ日本軍ノ撤退ヲ規定シ居ルニ拘ラススル日本側ノ行動ハ右理事会決議ヲ全然躊躇セルモノナルノミラス日本ハ中支及南支ニ至ル迄侵入ヲ企テ青島、上海、福州ニ於テ争乱ヲ起シタルカ以上ノ如ク事態力悪化セルコトハ何人モ否定シ能ハサル所ナリ乍然本件ハ今後モ引続キ理事会ノ問題トシテ處理セラルヘキハ當然ニシテ實地調査ノ為調查委員派遣セラルヘキ處右委員ノ派遣遲延シ且右ハ直接現場ニ赴カス其現場到着カ四月以後トナルヘキハ予ノ大イニ遺憾トスル所ナリ予ハ此際右委員ハ出來得ル限り速ニ現場ニ到着シ実地ヲ調査セラレンコトヲ希望スト述べ

次ニ本件ハ目下規約第十一條ノ問題トシテ處理セラレ居ルカ同条ニ依リ有効ナル手段カ執ラル限リ支那ハ他ノ措置ヲ取ラサルヘキモ必要アリト認ムル時ハ支那政府ハ規約ノ一切ノ他ノ条項ヲ援用スル意向ナリ何レニシテモ理事会決議ヲ実施スル為有効ナル措置ヲ執ルハ理事会自体ノ義務ナリト述ヘ

四、佐藤理事次テ別電ノ通り本邦側ノ見解ヲ述フ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

最近発生セル上海事件ニシテ予ハ此点ニ付未タ各理事ト協議スルノ暇ナキモ例へハ事態ヲ悪化セシムルカ如キ一切ノ措置ヲ執ラサル様日支両國ニ希望スルカ如キ方法ニ對シテハ各員ニ於テモ異議ナキモノト認ムト述フ

七、以上ニテ一応討議ヲ打切り明二十六日公開理事会ニ於テハ他ノ話題ニ付審議スルコトニ決定散会ス

在欧米各大使、上海、奉天ニ転電ス

(別電)

第七号（暗、至急）

往電第六号四ニ関シ

佐藤理事声明ノ大要左ノ通り

一、予ハ茲ニ満州ノ実状ニ付詳細説明ヲ試ムヘシ

第一ニ支那理事ハ日本軍カ錦州ヲ占領シ満州全土ニ亘リ軍事占領セリト称スルモ右ハ事実ニアラス少數軍隊ニ依リ斯ル広大ナル地域ヲ占領スルコトハ不可能ノ話ニテ日本軍ノ満州ニ出兵シタル以来モ支那官民ハ依然同地方ニ安住シ居リ唯地方政府ノ更迭ヲ見タルノミナリ

二、次イテ錦州ノ事態ニ付寿府宛責電(三〇文書)第四号ノ(一)及奉天發

本官宛第一号ノ次第ヲ敷衍説明ス

三、予ハ最近軍縮會議打合セノ為帰朝往復ノ途次二回ニ亘リ満州ヲ通過奉天等ニ於テ各方面ト意見ノ交換ヲナシタルカ満州匪賊ノ活動ハ猖獗ヲ極メ且ツ之等匪賊カ錦州政府ノ後援ヲ受ケ居リタルコト疑ヒノ余地ナシ

四、支那理事ハ事件カ中支南支ニ拡大セリト称スルモ福州事件ニ付テハ既ニ日本代表部ヨリ連盟宛詳細通告セル通リナリ上海事件ニ至リテハ事態甚々危険ナリ然レトモ斯ル事態ニ立至リタルハ日本側ノ責任ニアラス（以下貴電第一〇号及屢次ノ來電ニ依ル連盟宛本邦通告ヲ通訳ヲシテ朗読セシメタル上更ニ敷衍説明ス）

五、日本ハ満州ニ於テ條約上ノ権利及幾多既存ノ権益ヲ有スル處右権益尊重セラレ且在留民ノ安全ヲ計ルハ日本ノ為絶対必要トスル處ナリ然ルニ支那中央官憲ハ組織的ニ條約ノ一方的廢棄ヲ企テ張學良ハ満州ニ於テ一切ノ日本ノ事業ヲ破壊セントセリ日本ハ幾年ノ永キニ亘リ隱忍自重セルモ中村事件万宝山事件ニ加ヘ九月十八日事件ニ依リ遂ニ事變ノ勃發ヲ見タリ日本国民ハ其権益保護ノ要求ニ一致團結ス

而シテ日本ハ事件ノ解決ノ為支那ニ對シ虛心坦懐交渉ヲ

求メタルモ支那側ノ拒絶ニ依リ速急ノ解決不可能トナリ

且又錦州政府ハ引続キ敵対行為ヲ統ケ日本軍及在留民ニ對シ不正規兵ヲ以テ襲ハシメタルカ斯ル不定分子ノ排除ハ吾人安寧ノ為欠クヘカラサル処ナリ而シテ余ハ日本政府ノ政策ヲ説明ゼンカ為最良ノ方法トシテ一月二十一日外務大臣ノ帝国議会ニ於テ為シタル演説ノ一句ヲ援用セントス（以下寿府宛責電第四号(一)括弧内ノ部分）

六、尚支那理事ハ調査委員派遣遲延ノ件ニ言及セラレタルカ余ハ右派遣ヲ最モ欣幸トスルモノニシテ素ヨリ同委員調査ノ結果カ如何ナルモノタルヤ予見シ得サルモ一先其報告ノ提出ヲ俟テ再ヒ審議スルヲ妥当トスヘク今日ノ場合合手段ヲ考察スヘキニ非サルヘシ

歐米各大使、支、奉天ニ転電セリ

芳沢外務大臣より  
（在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
（電報）

我方が門戸開放機会均等主義に違反との非難

の不当性について

第一号（暗）

二、滿州ノ新政權カ邦人顧問等ヲ採用シ居ル關係上言葉等ノ関係ニテ本邦商入カ比較的利益ノ地位ニ立ツ如キ場合

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

絶無ニアラサルヘキモ右ハ支那海閥ノ公用言語カ英語ナル関係ヨリシテ英米人等カ有利ナル地位ニ立ツト同様事実上ノ問題トシテ止ムヲ得サル所ナリ又日本ハ満州ニ於テ条約上巨多ノ権利ヲ有シ其ノ結果本邦人カ他人ニ比シ有利ナル立場ニアル次第ナル處之即チ我方ノ満州ニ於ケル特殊地位ノ内容ヲナスマノナリ又此等ノ権利中ノ或モノニ付テハ一般最恵国民モ均霑シ得ル理ナルカ之トテモ實際上本邦人カ最モク其恩恵ヲ蒙ルコトアアルヘキハ地理的近接ノ関係上等止ムヲ得サル所ナリ

三、事変以来外人ノ利益ヲ侵害セルモノノトシテ提起セラレタル具体的の案件ヲ見ルニ夫々特殊ノ理由ニ基クモノニシテ門戸開放機会均等ノ主義ヲ無視セリト見ルヘキモノナシ（現ニ右等事例中主要ナルモノノ一ナル壳掛代金不払ノ如キニ付テハ日本商人ハ外国商人ト同様若クハ夫レ以上ノ不利益ヲ蒙リツツアル状況ナリ）尚ホ是等案件ハ多クハ支那政權ヲ当事者トシ日本官憲ハ第三者ノ立場ニ立ツ次第ナルカ日本側トシテハ本邦人顧問等ヲ通シテ支那政權ニ対シ斯種問題ノ無差別的迅速解決ヲ慾憤シツツアリ現ニ其ノ結果ナルニヤ往電合第一一九号（奉天來電第

二、本使ハ各理事ノ懸念ハ誠ニ尤モニシテ之ヲ日本政府ニ致ノ希望ナリシヲ以テ貴理事ニ於テ右各理事ノ懸念ヲ日本政府ニ伝ヘラレ且ツ政府ニ対シ事態ノ悪化防止方ニ関シ上申セラルルヲ得ハ誠ニ幸トスル次第ナリト極メテ鄭重ナル語調ニテ語レルニ付

三、本使ハ各理事ノ懸念ハ誠ニ尤モニシテ之ヲ日本政府ニ取次クコトハ何等差支ナキモ今回ノ事件ハ支那側ノ暴戾飽クナキ排日運動ニ胚胎シ目下居留民ノ憤慨極度ニ達シ居ル状態ナルヲ以テ支那側ニ対スル要求ノ容レラレサル場合多少ノ強力ヲ用フルモ亦已ムヲ得サル次第ニテ予メ之ヲ阻止スルカ如キ意味ニテ上申スルハ自分トシテハ不可能ナリ殊ニ支那ハ常ニ第三者カ或ル種ノ措置ヲ執ルニ於テハ之ヲ以テ直ニ罪日本ニ在リトナシ聽クヘキ要求モ却クル傾向アルハ注意セサル可ラス尤モ上海ノ現状ニ付先刻得タル情報ニ依レハ幾分緩和シ殊ニ工部局モ亦日本ノ希望タル抗日会ノ解散ヲ実行セントスル模様ナリト説明シタル処

三、「セシル」ハ果シテ然ラハ日本トシテハ右結果ニ満足シ強力ヲ用ヒサル様何トカ出来マシキヤト尋ネタルニ付本使ハ夫ハ今次ノ交渉ノ推移ニ待ツ外ナキ次第ナルカ自分一己ノ思付トシテハ若シ上海ニ特ニ利害関係ヲ有スル國々ノ

二〇九号）奉天省債務整理委員会ノ如キノ成立ヲ見タル次第ニテ其他案件ニ付テモ漸次支那側政權ニ於テ合理的な解決ニ進マンコトヲ期待スルモノナリ  
米、支、北平、奉天、廣東ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報セシメタリ

36 昭和7年1月(27)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛（電報）

上海の事態悪化防止に関する理事会首脳部と  
の会談について

第九号（至急極秘）<sup>(1)</sup>

佐藤理事ヨリ

二十六日朝面談ヲ約束シ置キタルニ依リ夕刻「ボンクール」議長ヲ往訪シタル處「セシル」「ドラモンド」独伊両理事代理同席シタル上大要左ノ如キ談話ヲ交換セリ

一、議長ハ今朝公開理事会後十二国理事会開催セラレ長時間ニ亘リ日支事件今後ノ措置振ニ関シ協議ヲ遂ケタルカ目下上海ニ起レル事件ハ各理事ノ最モ関心スル所ニシテ同地ノ特殊ノ状態ニ鑑ミ事態ノ悪化セサラソコトハ各理事ノ一

四、「セシル」ハ上海カ各国ノ利害錯綜セル事実ヲ挙ケテ同地ニ於ケル事件ノ危険ヲ説キタル後（本使ハ之ニ対シ事件勃発以来我領事及海軍官憲ニ於テ極力租界ノ治安維持ニ苦心シ居ルコトヲ説明セリ）佐藤大使ノ「サゼスト」セラレタル出先官憲ノ協力ハ此際結構ナル思付ト思考スルヲ以テ之ヲ英國政府ニ「リコマンド」スヘシト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ最近ノ賁電ニ基キ上海ニ於ケル日支間交渉ノ模様ヲ説明シ結局支那側カ抗日会ノ解散ヲ済リ居ル点ニ困難ノ存スルコト、抗日会本部カ租界内ニ存スルコト等ヲ指摘シ租界当局ノ協力ノ必要ナル所以ヲ説明セリ（「セシル」ハ本使ノ思付ヲ本国政府ニ取次クヘシト述ヘタルモ本件ニハ余り重キヲ置キ難シ）

五、次テ議長及「ドラモンド」ハ共ニ理事会ハ決シテ日本ノ執リタル手段ヲ彼此論議セントスルモノニアラス今日ノ話合ヒハ全ク個人的友誼的ノ性質ヲ有スルニ過キス理事会トシテハ一一ニ全ク支那側カ理事会ニ泣付ク新ナル口実トナルヘキ重大ナル事端ノ発生ヲ防止セントスルモノニ外ナラ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ストテ本使ノ斡旋ヲ懇請シタルニ付本使ハ御趣旨ハヨク東京ニ取次クヘシト述ヘタリ

六、次テ本使ヨリ議長ニ対シ今後本問題ニ関シ如何ナル方針ニ出テラルル次第ナリヤト尋ネタル處此ノ上悪化セサレハ調査委員会ノ情報ヲ待ツコトトシテ本件ヲ一先打切り得ル次第ナルカ其ノ際日本側ヨリ今後ノ方針ニ関シ何等カノ

形ニ於テ連盟ニ安心ヲ与フル声明例へハ規約第一〇条ノ原則ヲ遵守スト云フカ如キ声明ヲ為サルニ於テハ事ヲ容易ナラシメ得ヘシト述ヘタルニ付

七、本使ハ既ニ昨日ノ理事会ニ於テ我方ノ方針ハ充分之ヲ声明シタル次第ナルヲ以テ此ノ上声明ヲ繰返ス要ナキヤニ思考スルモ此点更ニ熟考スヘシト述ヘ辞去セリ

八、上述ノ会談ニ依リ御推察相成ルヘキ通理事会側ニテハ何トカシテ上海事件ヲ悪化セシメス今回ノ会期限り満蒙問題ヲ重大化セシテ終リ度キ希望アリト見受ケラレ本邦側トシテモ此ノ方得策ト思考セラルニ付テハ上海事件ヲ成ルヘク穩便ニ済マセ以上ノ方針ヲ以テ進ムコト如何ナルヘキヤ尤モ支那側ノ出様如何ニ依リテハ此ノ上紛糾スルコトナキヲ保シ難キモ右電稟ス至急御回訓ヲ請フ

在欧米各大使、在支公使へ転電セリ

37 昭和7年1月(28日)※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

排日運動停止に關し中国側へ警告について

第一〇号(至急極秘)  
佐藤理事事ヨリ

往電第九号会談ノ際本使ハ上海事件ハ支那側ノ排日行動ニ起因スルモノナルヲ以テ日本ノ執リツツアル行動ハ極メテ公正ニシテ批難ヲ受クヘキ筋合ニアラス從テ理事会側カ日本側ニ対シテノミ強力使用ヲ避ケラレ度キ旨ヲ申入ラルルハ片手落ト云フ可ク支那側ニ対シテコソ本件ノ真因タル抗日運動ノ停止ヲ警告セラルコト当然ト思考スト述ヘタル処各理事ハ全然本使ニ同感ノ意ヲ表シ実ハ之ヨリ支那理事ニ対シ右ノ如キ手強キ警告ヲナス手筈ナリト述ヘ日本側ニ對スル勸告カ全ク友誼的ノ性質ヲ有スルコトヲ繰返シ居りタリ右ノ点前電補足旁申進ス

38 昭和7年1月28日※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

居留民の生命財産保護のため最小限度の対抗

手段採択について

第一七号(暗)至急

貴電第九号(三六文書)ニ閔シ

佐藤理事ヘ

我方ニ於テハ上海事件ノ悪化ヲ防キ出来得ル限り穩便ニ済

マセ度キ意向ナルコト勿論ナリ唯支那側ハ抗日会ノ解散其他排日運動ノ取締ニ誠意ヲ示ササルノミナラス多数ノ軍

隊ヲ集中シテ我方ヲ脅威スルカ如キ態度ニ出テ來ル以上(只今海軍省入電ニ依レハ支那側ハ我方要求条項四箇条ヲ

容レタル趣ナルニ付多分形勢ノ緩和ヲ見ルヘシト思考セラ

ルルモ支那側ニ於テ果シテ右实行ノ誠意ヲ有スルヤ引続キ

嚴重監視スルヲ要スル次第ナリ)我方トシテハ最小限度ノ

対抗手段ヲ採ラサルヲ得ス尤モ右ハ從来英、米、仏等列國

側ニ於テ居留民保護ノ為執リタル實力行為並現ニ此等諸國カ上海ニ軍隊ヲ駐屯セシメ居ル趣旨ト均シク全ク居留邦人ノ生命財産保護ノ外他意ナキ次第ニシテ我方ニ於テハ上海

地方ニ対シ領土的野心ヲ有スル等政治的意図ヲ抱キ居ラサルコト申ス迄モナク又出来得ル限り列国トノ協調ヲ保ツ方針ニテ現ニ我出先官憲ニ於テ列国側官憲ト密接ナル連絡ヲ保チツツアルハ往電合第一二三七号ノ通ナリ要スルニ我方ニ於テハ帝國臣民ノ生命財産保護ノ為必要ニ応シ適當ノ措置ヲ執ル外本件ニ関シ規約第一〇条ニ抵触スルカ如キ行動ニ出テサルヘキコト勿論ナリ就テハ右趣旨ニ依リ可然御措置相成度ン

米、支、奉天、北平、廣東ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報セシム

在欧(土ヲ除ク)各大使ニ転電アレ

合第一三九号(暗)至急

哈爾賓方面ニ於ケル吉林政府軍ト反政府軍トノ衝突事件(委細追電ス)ニ鑑ミ我方ニ於テハ同地ニ於ケル我居留民

(約五千六百名)ノ保護其他治安維持ノ為本廿八日旅團長

昭和7年1月28日※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米國出淵大使宛(電報)

居留民保護のためハルビンへ出兵について

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

指揮ノ下ニ千名未満ノ部隊ヲ長春ヨリ同地ニ派遣セリ  
寿府ヨリ在欧各大使ニ転電アリタシ

米ヨリ紐育、市俄古、桑港ニ転電アリタシ

芳沢外務大臣より

在英國松平大使 在米國出淵大使宛

40 昭和7年1月28日

(芳沢外務大臣より)  
在英國松平大使 在米國出淵大使宛

排日運動阻止のため上海にて最小限度の実力

行使の可能性について

合第二三七号 (暗) 至急

今次ノ上海事件ニ付キテハ累次電報ノ通ナルカ支那側ハ我方ノ公正妥当ナル要求ニ対シ毫モ誠意アル態度ヲ示ササルノミナラス同地方ニ軍隊ヲ増派シ我方ヲ威嚇スルカ如キ態度ヲモ示シ居ル結果我海軍ヲ刺戟シ且居留民ヲ極度ノ不安ニ陥ラシメ居ル次第ニシテ結局我方ニ於テ排日運動阻止ノ為メ最小限度ノ実力手段ヲ講スルノ已ムナキニ至ルヤモ測ラレサル處我方トシテハ殊更事態拡大ノ意ナキハ勿論上海地方ノ国際的関係ハ充分ニ認識シ居ルヲ以テ我出先官憲ニ於テ關係列国各領事、工部局及英米仏各国軍隊側トハ常ニ必要ノ連絡ヲ取リツツアル次第ナリ

42 昭和7年1月(29)

(在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報))

議長宣言案に関するフランス代表マシグリと  
の会談について

(別電)

同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第一九号、第二〇号

議長宣言案

第一八号 (暗、至急)

二十八日午後十時半「マシグリ」ハ「ボンクール」議長ノ命ニ依ル趣ヲ以テ本官ノ來訪ヲ求メ先ツ上海ノ状況如何風説ニ依レハ日本ハ軍事行動ヲ開始シタリトノ事ナルカ右ハ

真実ナリヤト尋ネタルニ付本官ハ上海発閣下宛電報第一三

二号ノ次第ヲ告ケタル処「マ」ハ若シスクノ如クシテ上海ノ事態カ落着クニ於テハ本日午後十二国理事カ決シタル通

リ今回ハ何等決議等ヲ為サス議長カ一ノ声明ヲ為シ遲クモ

土曜日正午ニハ閉会シ得ヘシト云ヒタル上別電第一九号及第二〇号ノ議長声明案ヲ手交シ本声明案ハ極メテ無害ノモ

ノニシテ何人ヲモ拘束セサル次第ナルモ理事会ノ席上佐藤理事カ之ニ対シ何等カノ「オブザーベイション」ヲ為サル

就テハ如上ノ趣旨ヲ以テ屢次ノ往電ヲ御利用ノ上責任国政府当局ニ可然説明シ置カレ度シ

英ヨリ本大臣ノ訓令トシテ仮伊ニ転電シ参考トシテ白独露連盟ニ転電アリタシ、在支公使北平ニ転電シ支ヲシテ上海南京ニ転報セシメタリ

41 昭和7年1月(29)

(在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報))

中国側の要求受諾に鑑み上海事件に強硬態度

回避方について

第一四号 (暗、大至急、極秘)

佐藤理事ヨリ

在上海總領事發貴大臣宛電報第一一三号ニ依レハ支那側ハ我方要求ノ大部分ヲ承諾シタルモノノ如キ處此ノ上我ニ於テ強硬ノ態度ヲ持続スルハ意外ノ国際紛争ヲ激発スル処アリ引テハ滿蒙問題ノ解決ニモ累ヲ及ホスヘキニ付テハ出来得ル限り速ニ上海事件解決ニ御配慮願ヒ度ク如何ナル場合ニモ強力ヲ用フルコトハ避ケラル様希望ニ堪ヘス

松平大使ト協議済

在歐米各大使、支ニ転電セリ

ルモ何等差支ヘ無シト述ヘ吾人ノ目下最希望シ居ルハ上海ノ事態カ之レ以上悪化セサル事ナリト繰返シ居リタリ

本電別電ト共ニ在歐米各大使、支ヘ転電セリ

(別電)

(一)

第一九号 (暗、大至急)

九月及十二月ノ理事会ノ決議ハ依然拘束力ヲ有ス、現状ニ付吾人カ了解スル限り且理事会カ調査委員ノ最初ノ報告受

領前ニ於テ滿州問題ニ付新ナル決議ヲ採用スル要ナシ

但シ本問題ニ直接関係セサル各理事ハ自分ニ対シ意見交換

ノ結果之ヲ漸ク解説スヘキコトヲ要求シ来レリ吾人ハ当事

國ノ協力及米國政府援助ノ下ニ複雜ナル事件ノ公正且急速

ナル解決ヲ計ランカ為四ヶ月以來為シタル努力ヲ茲ニ中断

セントスル意向全然ナシ現状ノ改善ヲ見サル限り極東平和

ノ維持ニ対スル不斷ノ脅威存在スルノミナラス日支両国民

及極東在住外国人ノ不安ノ念ハ輕減セラルコトナカルヘシスカル事態ハ夫レ自体ニ於テ悲シムヘキ事実ナルノミナラス世界經濟不況ノ今日ニ於テ一層憂慮スヘキコトナリ



## 上海事件に関する米国の対日態度に対する英

### 紙記者の批判について

上海における実力行使に関する英国外務当局

への説明について

### 第三八号

第三九号（至急、極秘）

二十八日諸新聞ハ米国政府ハ英國政府ニ対シ上海事件ニ関

シ英米共同動作ヲ慾漁スル趣旨ノ「ノート」ヲ送リタリト  
解セラレ居ル旨ノ華府通信ヲ掲ケタルカ「テレグラフ」外  
交記者ハ英國ハ日本ノ行動ニ対シ米國ノ如ク猜疑ノ念ヲ抱  
キ居ラス米國ハ日本ヲ警告シ又ハ非難スルノ傾向アルモ英

国ハ自己ノ希望ヲ表明シ又ハ保障ノ取り付ケヲ以テ満足ス  
ルナラント述ヘ「ボスト」外交記者ハ英國政府ハ米國「ノ  
ート」ニ閲シ尚考量中ニシテ態度決定ニ至ラス今日迄ノ處  
日本ハ単独ニ行動シツツアル点ヲ除キテハ一九二七年上海  
ニ於ケル關係国共同行為ノ先例ト矛盾スヘキ何事ヲモ為シ  
タルコトナシ關係国トノ予備協議ハ九国条約ノ精神ニハ副  
フヘキモ同條約中斯カル義務ヲ強制スル条項ナシト付言シ  
居レリ

米及松平大使ニ転電セリ

45 昭和7年1月(29) 在英國沢田臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

力手段ノ何タルヤハ貴官來談ノ趣旨ヲ閣議ニ説明スルニ先  
立チ是非共承知シ置キタキニ付政府ニ問合セアリタキ旨希  
望セラレタリ依テ本官ハ我出先官憲ニ於テ關係国現地官憲  
ト連絡ヲ保チ居ルコトハ既ニ極東局長ニ対シ説明ノ通りニ  
モアリ旁今後我方ニ於テ講セントスル措置ニ付テモ同様関  
係官憲ノ承知ニモ入ルルコトナルヘク之ニ依リテ共同租  
界ノ關係ヲ紛糾セシムルカ如キコトナシト思考スルモ御希  
望ノ点ハ政府ニ問合スヘキ旨ヲ答ヘテ引取リタリ

本日ノ夕刊ニ依レハ往電第三八号所報米國「ノート」ノ件

相当重要視セラレ英國側ニ於テ今回ノ米國側提議ヲモ前回

同様取上ケサルニ於テハ今後英米ノ一般的關係ニモ影響ヲ

及ホスヘシトノ見地ヨリ慎重審議セラレツツアリト伝ヘラ

レ居リ旁前頭外務大臣懸念ノ点ニ対シ幾分ノ安心ヲ与フル

ヲ得ハ米國ニ対スル英國側回答ヲ我方ニモ都合好キモノタ

ラシムル上ニモ效果アルニ非スヤト思考セラレ從テ差支ナ

キ範囲ニ於テ我実力手段ノ何ナルカラ内話シ置クコト得策  
ナラスヤト存セラル至急何分ノ儀御回電アリタシ  
米、仏、伊、連盟ヘ転電セリ

本二十八日外務省極東局長ヲ往訪シ貴電合第一三七号ノ趣旨ヲ述ヘ累次ノ貴電ヲ引用シテ上海ノ事態ヲ説明シタル処同局長ハ當國ニ於テモ上海ニ深キ利害ヲ感スル向キニ於テハ目下同地ノ事態ニ非常ナル不安ヲ抱キ居ル次第ナルカ愈日本側ニ於テ実力ヲ使用セラルコトトナラハ益々此不安ヲ募ラスコトナキヤヲ惧ル但御来示ノ次第ハ外務大臣ニ伝

ヘ置クヘシト答ヘタリ帰館後間モナク外務大臣ヨリ求メアリシヲ以テ往訪シタルニ同大臣ハ先刻極東局長ニ対スル來談ノ次第ヲ承知シタルカ日本側ニ於テ講セントセラルル実力手段トハ如何ナルモノヲ意味セラルルヤトノ尋ネアリ本官ハ此ノ点ニ付テハ政府ヨリ未タ訓令ナキ旨ヲ答ヘタルニ

同大臣ハ言フ迄モナキ事乍ラ上海ノ共同租界ニ付テハ英國ハ他列國同様多大ノ関心ヲ有シ居リ從テ日本側ノ執ラントセラルル実力手段如何ニ依リテハ當國ノ輿論ニ刺戟ヲ与フルコトナキヤ甚タ心配ニ堪ヘス就テハ自分カ上海ノ事態ニ付特ニ心配シ居ルコトヲ本国政府ニ伝ヘラルト共ニ右実

セラレタル実力手段如何ニ依リテハ當國ノ輿論ニ刺戟ヲ与フルコトナキヤ甚タ心配ニ堪ヘス就テハ自分カ上海ノ事態ニ付特ニ心配シ居ルコトヲ本国政府ニ伝ヘラルト共ニ右実

46 昭和7年1月29日 在英國出淵大使より  
(四四文書)  
芳沢外務大臣宛(電報)

ハルビン出兵理由に關し米大使に説明について

第二二号(暗)

(四七文書)

二十八日往電合第一五三号会談ノ後米國大使ヨリ日本カ哈

爾賓ニ出兵セリトノコトナルカ右ハ居留民保護ノ為ト思ハルル處右目的達成ノ上ハ之ヲ引揚ケラル所存ナリヤト質問セルニ付本大臣ハ二十七日夜日本新聞社及ヒ日本病院ハ

支那軍隊ノ為建物内ノ目覺シキモノ全部ヲ掠奪セラレ又同

日午後日本臣民四名支那兵ノ為殺害セラレ十數名ノ邦人避

難民ハ支那軍司令部ニ抑留セラレ内四名ハ同所ニ於テ殺害

セラレタル趣ニテ既ニ八名ノ日本人殺害セラレ事態頗ル重

大ナルヲ以テ閑東軍ヨリ派兵シタル迄ニテ唯今ノ處斯ノ如

キ危險狀態ニ顧ミ何時軍隊ヲ引揚クルヤ其辺ハ未タ決定セ

スト取敢ヘス答ヘ置キタリ

連盟ニ転電シ連盟ヲシテ在欧各大使(土ヲ除ク)ニ転電セ

シメタリ

支、哈爾賓、北平、奉天ニ転電シ、支ヲシテ南京ニ転報セ

シメタリ

47 昭和7年1月29日

芳沢外務大臣より  
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長、在  
米国出淵大使他宛(電報)

### 上海における米国権益の侵害および日本軍の

#### 行動に関する米国政府申出について

一月二十八日芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使他宛合第一五五号、合第一五七号  
真茹無電台の保護ならびに上海における各国の利益尊重に関する米国政府の希望について

合第一五三号(暗)

二十八日在本邦米国大使來訪別電第一五七号及第一五五号  
二通ノ米国政府訓電ヲ読上ケタリ  
仍テ本大臣ハ同大使ニ対シ本大臣ノ嚴肅ニ言ハントスル所  
ハ日本ハ米国ハ勿論他國ノ権利利益ヲ侵害スルノ意向ナク  
又侵害シタルコトナシ租界ノ権利利益ニ付テモ亦同様ナリ  
抑モ今回ノ事件ハ遇日五名ノ日本臣民カ上海「タオル」工  
場付近通過ノ際工場内ノ支那人ヨリ何等ノ挑発ナクシテ襲  
撃セラレ其ノ内三名重傷ヲ負ヒ一名ハ遂ニ死亡スルニ至レ

ルニ起因ス実ハ先年來支那ニ於ケル日本人ハ排日運動ノ為  
メ汎有ル迫害ヲ受ケ非常ニ昂奮シ居タル矢先民國日報ノ不  
敬記事事件ニ次クニ右工人ノ暴行事件起リタル為メ在留邦  
人ノ憤慨一時ニ爆發セルモノナリ排日運動ハ滿州事件以来  
多少其ノ度ヲ強メタルコトアルヘキモ該事件勃發以前既ニ  
幾多ノ事件發生シ居リ其ノ辛辣ナルコト全世界ノ未タ曾テ  
経験セサル所ナリ即チ国民党カ細胞組織ヲ以テ商民ノ好マ  
サルニ拘ラス惡辣ナル手段ニ依リ之ヲ遂行シ居ルモノニシ  
テ最近ニ於テハ其ノ手段最モ巧妙トナリ日本商人ハ殆ト絶  
対ニ支那商人トノ取引ヲ為ス能ハス日本人ハ料理店ニ於テ  
支那人ト隣席スルコトスラ出来難キ状況ナリ以テ如何ニ排  
日ノ深刻ナルカラ知ルニ足ルヘン凡ソスクノ如キ排日ハ敵  
対行為トモ看做シ得ヘク客年十月日本公使カ南京政府ニ提  
出シタル抗議中此ノ趣旨ヲ明カニシ居レリ事態斯クノ如ク  
ナル為メ日本居留民ノ忍耐モ既ニ極度ニ達シ居ル次第ニテ  
適々前記出来事ノ為メ今回ノ事件ニ發展シタルモノニシテ  
右事情ハ貴大使ヨリ篤ト米国政府ニ報告セラレ度斯ル排日  
運動ヲ目前ニ控ヘ之ニ對シ日本政府ニ於テ生緩キ措置ヲ取  
ル場合ニハ如何ナル内閣ト雖モ直ニ失脚スヘク今ヤ日本ノ

朝野ヲ挙ケテ支那ノ排日態度ニ対シ憤慨シ居ル状況ナリ米  
国政府ノ訓令中地方官憲カ保護ノ実ヲ挙ケ得サル場合ノ外  
強力ヲ用ユルコト能ハサル旨指摘セラレ居ルモ支那官憲ハ

日本臣民ヲ保護セサルノミナラス之カ迫害行為ヲ裏面ヨリ

合第一五五号

(編注) 本電報、別電は、在上海村井總領事にも発電された。

(別電)

(一)

陸セシムル場合ニハ租界當局ニ対シ予メ通告ヲ了シ又支那  
側トノ交渉ニ付テハ不絶主要國ノ領事ハ接触ヲ保チ居ル次  
第ニテ其ノ間何等ノ誤解ナシト思考ス將又無線電台付近ニ  
於ケル行動云々ノ如キハ全然事實ニ非サルニ付誤解ナキヲ  
望ム之ヲ要スルニ貴大使説明ノ如キ米国政府ノ抗議ハ我方  
ニ於テ之ヲ受クル何等ノ理由ナキモノト認ムト答ヘタルニ  
同大使ハ其ノ旨直ニ本国政府ニ電報スヘシト述ヘ引取りタ  
リ

右会談中適々海軍側ニ支那側カ我方要求全部ヲ承認セル旨  
入電アリタル趣ヲ同大使ニ告ケ事件ハ之ニテ解決セルモノ  
ト認ムル旨ヲ付言シ置キタリ

別電ト共ニ連盟ヨリ在欧各大使(土ヲ除ク)ニ転電アリタシ

別電ト共ニ上海ヨリ公使及南京ニ転電アレ  
別電ト共ニ北平、奉天、廣東ニ転電セリ

合第一五七号

(二)

冒頭上海事件ノ顛末ヲ詳述シ日本海軍司令官ハ總領事ノ要  
求ニシテ容レラレサレハ日本人ノ權益保護ノ為適當ノ手段

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ヲ執ルヘキ旨宣言セル等ノ点ヲ指摘セル上状況斯ノ如クニシテ日本ノ官民カ重大ナル時局ノ紛糾ニ如何ニ貢献シツツアルカ明カナリ日本ノ海軍及総領事館ハ連盟若ハ租界付近ニ於テ彼等ノ目的ヲ遂行スルタメ強力ヲ用ヒントシツツアリ上海ノ平和ノ攪乱ハ全世界ニトリ重大ナル関心事ナリ上海ノ商業ニ対スル干渉ハ独リ支那ノ貿易ニ不利ナル影響ヲ与フルノミナラス主要商業国ニ不利ナル影響ヲ与フ

米国政府ハ或ル一外国政府カ上海ニ於ケル其海軍司令官ニ對シ同司令官ノ裁量ニ於テ同國ノ領事ノ為シタル要求ヲ援助セムカタメ居住營業ニ関シ條約及協約ノ基礎ニ於テ権利利益ヲ有スル他ノ諸国政府ノ地方的代表者ノ協賛又ハ同意ナクシテ強力ヲ用ユルノ権能ヲ与ヘタリト云フカ如キ事態ニ対シ無関心ヲ以テ臨ム能ハス

米国政府ハ上海ニ於ケル時局ニ不利ナル影響ヲ与ヘ若クハ与ヘントスルカ如キ發展ニ対シテハ格別ナル関心ヲ有ス況ソヤ米国側ハ上海租界ニ於テ多大ノ権益ヲ有スルニ於テオヤ如何ナル国ト雖モ地方官憲カ外国人保護ノ義務ヲ履行セサル場合ノ外自国人保護ノタメ外國領土ニ兵力ヲ上陸セシムル權能ナシ上海共同租界ニ於テハ工部局ハ行政ノ責任ヲ

会ヲ閉鎖スヘシト言ヘルニ対シ同外相ハ其ノ報道ニ対シテハ自分ハ重大ナル関心ヲ以テ之ヲ聞ク次第ナリ上海ノ居留地ニハ各國ノ利益錯綜シ居ルヲ以テ日本ノ単獨行動ハ宜シカラス関係國協同シテ行動スヘキモノト思考スト答ヘタル趣本国政府ヨリ來電アリタル旨述ヘタルニ依リ本大臣ハ之ニ對シ日本海軍トシテハ各國軍ト共同シテ行動シ居リ抗日會解散問題ニ付テハ日本ノ總領事及海軍司令官ハ工部局ト協調シ居リ支那側トノ交渉ノ發展ニ付テハ主要國ノ領事ニ通報シ居レリ即チ我方トシテハ工部局及領事団トハ充分接觸シツツアル次第ナリ昨日上海市長ハ日本ノ要求四項ヲ容レタルヲ以テ此ノ上ハ我方トシテハ支那側カ忠実ニ其ノ約束ヲ履行スルヤラ監視スルノミナリ幸ニ之ヲ忠実ニ履行セハ上海事件ハ結了スヘク從テ英外相ノ心配セラルルカ如キ事ナカルヘシト思考ス然ルニ今朝未明日本海軍カ各國軍ト共ニ夫々警備區域ノ部署ニ就カントスル際支那正規軍ヨリ発砲セル為メ我方ヨリモ之ニ応戦シ茲ニ衝突ヲ来セルカ其ノ後ノ情報ニ依レハ事態改善ノ模様ニ認メラルト述ヘ尚此ノ事件ノ発端ニ関シ往電合第一五三号米国大使ニ対スル談話ノ趣旨ヲ説明シ置ケリ

ヲ執ルヘキ旨宣言セル等ノ点ヲ指摘セル上状況斯ノ如クニシテ日本ノ官民カ重大ナル時局ノ紛糾ニ如何ニ貢献シツツアルカ明カナリ日本ノ海軍及総領事館ハ連盟若ハ租界付近ニ於テ彼等ノ目的ヲ遂行スルタメ強力ヲ用ヒントシツツアリ上海ノ平和ノ攪乱ハ全世界ニトリ重大ナル関心事ナリ上海ノ商業ニ対スル干渉ハ独リ支那ノ貿易ニ不利ナル影響ヲ与フルノミナラス主要商業国ニ不利ナル影響ヲ与フ

米国政府ハ或ル一外国政府カ上海ニ於ケル其海軍司令官ニ對シ同司令官ノ裁量ニ於テ同國ノ領事ノ為シタル要求ヲ援助セムカタメ居住營業ニ関シ條約及協約ノ基礎ニ於テ権利利益ヲ有スル他ノ諸国政府ノ地方的代表者ノ協賛又ハ同意ナクシテ強力ヲ用ユルノ権能ヲ与ヘタリト云フカ如キ事態ニ対シ無関心ヲ以テ臨ム能ハス

米国政府ハ上海ニ於ケル時局ニ不利ナル影響ヲ与ヘ若クハ与ヘントスルカ如キ發展ニ対シテハ格別ナル関心ヲ有ス況ソヤ米国側ハ上海租界ニ於テ多大ノ権益ヲ有スルニ於テオヤ如何ナル国ト雖モ地方官憲カ外国人保護ノ義務ヲ履行セサル場合ノ外自国人保護ノタメ外國領土ニ兵力ヲ上陸セシムル權能ナシ上海共同租界ニ於テハ工部局ハ行政ノ責任ヲ

就テハ至急外務大臣ニ面会シ篤ト右ノ事情ヲ説明セラルヘク米国政府ハ日本政府カ支那ヲ含ム多數關係國人ノ生命及利益ヲ危険ナラシムルカ如キ措置ヲ執ラムトスルノ意向ナキモノト信ス米国政府ノ関心スル点ハ各國ノ利益ヲ尊重セムコトナリ從ツテ日本政府ニ於テ最大ノ自制心ヲ用ヒラレムコトヲ友好ノ精神ヨリシテ希望スルモノナリ

集ヲ行フヲ得ヘシ

48 昭和7年1月29日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英  
国沢田臨時代理大使他宛(電報)

上海における列國の共同行動の必要性に関する英外相声明について

合第二七二号(暗)

二十九日在本邦英國大使來訪昨二十八日在英日本大使館一等書記官「サイモン」外相ヲ訪問シ日本ハ強力ヲ以テ抗日

上海ヨリ在支公使、南京ニ転報アリタシ  
寿府ヨリ英、土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ  
北平、奉天、廣東ニ転電セリ

(編注) 本電報は、在上海村井總領事にも発電された。

49 昭和7年1月30日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
務大臣宛第二二号 芳沢外務大臣宛(電報)

日中間紛争に規約第十条、十五条適用を中国  
側より連盟に申出について

別電 同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第二二号  
右中國理事の連盟宛通牒

佐藤理事ヨリ

支那理事ハ廿九日朝事務総長宛電第二二号ノ通申入レ日  
支事件ヲ規約第十条及第十五条ニ依リ理事会ニ付託方ノ要求ヲ提出セリ右不取敢  
本電別電ト共ニ在欧米各大使及在支公使ヘ転電セリ  
(別電)

No.22 (Very urgent)

Under instructions from my Government I have the

honour hereby to give notice as follows;

1. A dispute between two Members of the League of Nations, to wit: China and Japan arising from the aggression of the latter against the territorial and administrative integrity and political independence of the former in violation of the provisions of the Covenant of the League of Nations, exists.
2. This dispute has not been submitted to arbitration or to judicial settlement in accordance with any of the Articles of the Covenant.

3. The said dispute has now reached a stage when it is likely to lead to an immediate rupture between China and Japan.

4. China hereby invokes the application (not in derogation of the measures taken or which may be taken by but in addition thereto) both of Article Ten and of Article Fifteen of the Covenant to the said dispute and formally submits the said matter to the Council for all appropriate and necessary action

under both of said Articles.

5. For this purpose China begs leave to refer to and hereby adopts as and for the statement of its case comprising the relevant facts and papers in relation to said matter, all the statements and papers heretofore made and submitted by China in the proceedings of the Council taken in said controversy under Article Eleven of the Covenant from September 18th, 1931 to the date hereof.

50 昭和7年1月(30日)※在シネーヴル澤田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
支那事務局總裁兼中國問題部長  
申入れ立ヒムト

第111号(暗) 大臣總  
<sup>(四九文書)</sup>  
往電第111号(閣)

佐藤理事

一十九日正午「ニシヤハヌ」<sup>(2)</sup> 往訪シ差レリノ氣付ヘハ左ノ四点付本使ノ疑問ヲ追々タリ

一、支那側ハ第十五条ニ依リ事件ヲ付託シタルカ如キモ支

那側「ハーネ」第四項ニ依レハ第十一條ノ手続ハ之ヲ継続スルモノナル處此ノニケ条ハ全然別ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ兩條ヲ併立シテ取扱フコト可能ナリヤ疑問ナリ

二、仮令此處第十五条ノ手續ヲ開始シ得トスルモノ自分ノ見ル所ニ依レハ支那側「ハーネ」ハ單ニ從来ノ事実及書類ヲ引用シ居ルノミテ紛争ノ範囲性質ヲ確立シ居ラス依テ支那側ヲシテ之ヲ確定ヤシタル後事件ヲ提出セシムル要アリ

三、而シテ憲理事會カ第十五条ニ依リ本件ヲ取上クルコム

トナレハ從來第十一條ニテ行ヒ來レル手續トハ全然基礎異ナルヲ以テ日本トシテハ第十一條ニ基ク理事会決議等ハ効力ニ闕シ留保ヲ為サカルヲ得ス

特ニ十一月十四日決議ニ依ル調査委員会ハ第十五条ニ依リ設置セラルロトタルベキ委員会ニハ異ナリタル性質ヲ有スルヲ以テ若シ理事会カ第十五条ニ依リ問題ヲ取扱フ

四、又經由ノ点ハ別トスル中第十一條ニテ繼續シ來リタル手續ノ基礎ヲ變更スルハ政治上面白カラス帝国政府トシ

テハ別段支那側ノ権利行使ニ付彼是云フ意思ナキモ問題ノ解決ヲ之カ為破壊スルハ面白カラスト思考ス

右ニ対シ「ニ」ハ貴理事ノ述ヘランタル諸点ノ内第一点ハ特ニ重要ト思考ス自分トシテモ第十一條第十五条ニ二条カ併行シ得ルヤ又第十五条ノ手續ヲ開始シタル場合第十一條ノ手續ニ依ル決議カ如何ナル地位トナルヤニ付疑問ヲ有スルヲ以テ先ツ之ヲ決定セサルヘカラスト述ヘタルニ付本使ハ本使トシテハ第十一條ノ手續進行中第十五条ノ手續ヲ開始スレハ第十一條ノトニテ為サレタル一切ノ決議等ハ實行シ得サルニ至ルモノト思考スト述ヘタリ

尚「ニ」ハ19日午後三時ヨリ11個國理事会合ヲ開催本件ヲ審議シ同三時四十五分ヨリノ公開理事会日程ノ劈頭本件ヲ上程スル筈ナリト述ヘ自分ハ由里以来支那側カ十五條ニ依ラントスルヲ極力抑へ來レルモノ昨日上海ニテ日本カ軍事行動ヲ開始シタリトノ情報ニ接シ最早到底支那側ヲ抑へ切ノサルコトヲ感シタリト述ヘ居リタリ

右会見ノ後議長「ボンクーパ」ニ面会同様ノ意見ヲ述ヘタルニ議長ハ同一事件ノ進行中ニ規約ノ一個条ヨリ他ノ個条ニ移ルコムハ差支ナク調査委員ノ如キモ理事会ノ意向次第

ニテ第十五条ニ依ル調査委員ト為シ得ヘシト思考スル旨述  
ヘタリ右不取敢

在欧米各大使、在支公使へ転電セリ

51 昭和7年1月(30日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

### 一月二十九日連盟理事会における第十五条適 用問題討議の大要について

第二四号(大至急)

理事会ハ本二十九日午後三時四十五分ヨリ一般議題ノ討議ニ先立チ支那側提起ニ係ル日支紛争ニ対スル第十五条適用要求ノ問題ヲ討議ス

一、劈頭事務総長ハ既報ノ第十五条適用ニ関スル支那側観

書ヲ読ミ上ケ

一、次テ議長ハ理事会ハ日支紛争ニ関シ不斷ノ努力ヲ続ケ  
本会期ニ於テハ本件ニ関シ議長ヨリ宣言ヲナス予定ナリ  
シナリトテ既報議長宣言案ニ多少変更ヲ加ヘタルモノヲ  
披露シ且右宣言ニ依リ討議ヲ打切ル積リナリシニ拘ハラ  
ス支那側ヨリ第十五条ノ提起アリ一九二七年理事会委員  
会採決ノ「ブルッカ」報告(一九二七年七月連盟月報

ルモノナリ)

依テ予ハ本国政府ノ命令ニ依リ第十五条適用ヲ要求覚書

ヲ提出シタルナリトノ趣旨ヲ敷衍陳述シ次ニ上海事件ニ  
関スル電報ヲ読ミ上ケ支那側ハ日本總領事ノ要求ヲ受諾  
セルヲ以テ一旦事態ハ改善ニ向ヒタルニ不拘日本司令官

最後通牒ヲ突キツケ支那軍ノ撤退ヲ要求シ支那カ之ニ抗  
議セル間日本陸戦隊ハ攻撃ヲ開始セリ事件ノ責任ハ全然  
日本ニアリト説キ且ツ日本駆逐艦及飛行機ノ策動ヲ叙述

三、次テ支那理事ハ提案ノ理由ヲ説明ス即チ理事会カ第十  
一条ニ依リ平和維持ノ為努力セルコトヲ了承スルモ不幸  
ニシテ右努力ハ充分ナル効果ヲ収メス支那ノ領土及行政  
ノ保全ハ日本ノ侵略ニ依リ侵害セラルタルカ斯カル侵略  
行為ハ規約第十条ニ違反スルコト疑ヒナク即チ日本軍ノ  
行動ハ第十条ノ精神ノミナラス本条ノ規定自体ヲ破リタ  
ト述フ

シ日本側ハ事件勃発ニ先立チ南京其他各地ノ在留民ヲ撤  
退セルカ右ハ攻撃カ予メ準備セル行為ナル事ヲ証セルモ  
ノナリト結論ス

四、右ニ対シ佐藤理事ハ事態ノ悪化ヲ見タルハ予ノ甚々遺  
憾トスル処ニシテ予ハ唯今議長ノ述ヘラレタルカ如ク議  
長宣言ニ依リ討議ノ打切りヲ希望シタルモノナリ然シナ  
カラ事態今日ノ如キ發展ヲ見タルハ日本ノ責任ニ非ス支  
那理事ノ陳述ニ依レハ事件ハ日本側ヨリ誘起セラレタル  
如キ印象ヲ与フルモ当方接受ノ情報ニ依レハ右ハ正反対  
ナリトテ上海租界ニ於ケル各國兵ノ配置英米領事ノ在留  
民引揚ケ勧告支那便衣隊ノ活動支那軍ノ進出攻撃等ニ付  
屢次來電ノ趣旨ニヨリ敷衍説明シ且ツ日本在留民ノ撤退

ハ日本軍行動ノ準備タルモノニ非サル事ヲ述フ

(1)理事会ハ從来第十二条ニテ処理セル事項ヲ更ニ第十五条

ニテ處理シ得ルヤ即チ同一事項ニ対シ性質ヲ異ニセル兩条  
項ヲ併セ適用シ得ルヤ甚々疑ハシ又第十五条ヲ適用スル場

合從前第十二条ニ依リ採択セラレタル決議ノ効力如何例ヘ  
ハ第十五条ニ依ル事務総長ノ取調ハ十二月理事会決議ニ依  
ル調査委員会ノ調査トハ性質ヲ異ニスヘシ因テ斯カル疑問  
ノ決定的解決迄去ル十二月決議ニ基ク調査委員ノ出発ハ之  
ヲ延期スルコト寧口得策ナルヘシ

(2)支那側覚書ニ依レハ同國政府カ第十五条ノ適用ヲ要求ス

ル紛争ニ付テハ從来同國ヨリ第十二条ニ依リ理事会ニ提起

セル通告ヲ以テ陳述書及関係書類提出済ナリト云フモ第十

一条ニ依ル討議ト第十五条ニ依ル討議トハ基礎ヲ異ニスル

ヲ以テ從来提出セラレタル通告カ如何ニシテ支那ノ付託セ

ントスル紛争ノ陳述書ト成リ得ルヤ明カナラス理事会カ其

リト述ヘ又本件ニ対スル第十五条適用問題ニ付テハ日支  
問題ハ元来第十二条ニ依リ提起セラレ理事会ハ從来同条

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

於テ一切ノ事実証拠ヲ挙ケテ付託事項ヲ明示セラルヘシ  
(イ)第十五条ハ国交断絶ノ恐アル紛争ニ関スル規定ナルカ支那側付託事項カ明瞭ナリトスルモ同国政府ハ右紛争ニ関シ近ク国交断絶ヲ為ス意向アリヤ又若シ紛争アリトスルモ右ハ支那兵ノ満州ニ於ケル鉄道破壊ニ依リ誘起セラレタルモノニシテ日本官憲ノ措置ハ自衛手段ニ外ナラス即チ第一ニ第十五条ノ規定スル紛争アリヤ否ヤ疑アルノミナラスカル紛争カ日支間ノ国交断絶ヲ齎スモノナリヤ否ヤ疑問ナリ

(乙)坂ニ第十五条ノ規定スル如キ紛争アリトスルモ各理事ハ関係国間ノ外交交渉ヲナササル以前事件ヲ理事会ニ提起スルコト正当ナリト思考スルヤ直接交渉ハ紛争解決ノ第一歩ニシテ日本政府ハ九月以来商議ノ開始ニ努メタルモ支那之ニ応セサリシ為直接交渉ニ入ルヲ得ス第十五条ノ適用ハ連盟国間ノ最後ノ手段ニシテ連盟国ハ他ノ手続特ニ関係国間直接商議ヲ為スコト望マシ

以上疑問ノ提起ノ後佐藤理事ハ理事会ハ国交断絶ノ虞アル紛争ノ有無ヲ審査スル義務アリトハ主張セサルモ第十五条ニ依リ事件ヲ討議スルコト適當ナリヤ否ヤヲ審査スル權能

(イ)坂ニ第十五条ヲ適用シタル場合第十二条ニ依ル手続キヲ如何ニ処理スルヤハ問題アリ

(乙)支那側カ第十五条ニ依リ何レノ事件ヲ付託セルヤ明白ナラサルトコロアルモ目下ノ事態力甚タ危険ナルコトハ日本理事モ之ヲ認メ(タル)処ニシテ事務総長ハ之カ事態ヲ明白ナラシムル為各種情報ヲ求ムルコトヲ得ト述へ結局支那側ノ第十五条適用ノ要求ハ之ヲ拒否スルヲ得スト述フ

(六)事務総長ハ次テ発言ヲ求メ事件ノ取調ハ事務総長之ヲ往電第二二一号ノ如ク二十九日正午近クトナリ支那側カ急ニ第十五条ニ依リ事件ヲ付託スルニ至レル事情ニ関シ当方ノ観測左ノ通り

一、二十八日迄ハ往電第一八号所報ノ如ク生温キ議長声明ニ依リ今回ノ理事会ヲ終了スル事ニ決定シ居リタル處支那側ニ於テハ之ニ失望シ何等カ展開ノ途ヲ求メントシタル折柄恰モ上海ニ於テ日本カ軍事行動開始ノ報道頻々トシテ來リタルヲ以テ之ヲ奇貨トシテ列國ノ同情ヲ求メントスルノ態度ニ出テ各理事ニ於テモ予定ノ声明ノミニテハ打切り難キヲ感得スルニ立至レルモノノ如シ

(2)二、尚最近米國ノ態度頓ニ強硬トナリ米國ハ英國ハ固ヨリ仏伊等ニ對シテモ共同措置ヲ執ランコトヲ提議セル模様ニ

- 七、佐藤理事ハ之ニ対シ第十五条ノ適用ハ甚タ重大ナル問題ナリ而シテ予ハ議長ノ規約ノ解釈ニ同意スルモノニ非サルニ付今後適當ノ機会ニ此ノ点ニ付意見ヲ提起スル権利ヲ留保スト声明ス
- 八、議長ハ理事会ハ喜ンテ日本理事ノ意見ヲ聴クヘシ尚日支關係カ緊張セルコトハ両国理事ノ等シク認メラルル所ナルヲ以テ両国理事ニ対シ之以上人命ノ喪失ヲ來スカ如キ措置ヲ執ラレサル様各本国政府ニ稟申セラレントコトヲ望ムト述ヘ且ツ理事会ハ今日三十日ニテハ議事終了困難ナルヘキニ付会期ヲ延期スルコトヲ得ヘシト述フ
- 九、佐藤理事ハ理事会一致ノ要求アラハ右議長ノ申出ヲ政府ニ取次クコトニ異存ナシ但シ今回ノ支那ノ要求ハ日支關係ヲ却テ悪化セシムル虞アル点ニ付注意ヲ喚起シタシ十、支那理事ヨリモ同様議長ノ申出ヲ政府ニ伝達スヘシト述ヘ本日ノ討議終了ス

52 昭和7年1月(30日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
佐藤理事ヨリ  
<sup>(四九文書)</sup>  
中国の連盟規約第十五条適用申請の事情について  
第二五号(暗、至急)  
往電第一二一号ノ如ク二十九日正午近クトナリ支那側カ急ニ第十五条ニ依リ事件ヲ付託スルニ至レル事情ニ関シ当方ノ観測左ノ通り

一、二十八日迄ハ往電第一八号所報ノ如ク生温キ議長声明ニ依リ今回ノ理事会ヲ終了スル事ニ決定シ居リタル處支那側ニ於テハ之ニ失望シ何等カ展開ノ途ヲ求メントシタル折柄恰モ上海ニ於テ日本カ軍事行動開始ノ報道頻々トシテ來リタルヲ以テ之ヲ奇貨トシテ列國ノ同情ヲ求メントスルノ態度ニ出テ各理事ニ於テモ予定ノ声明ノミニテハ打切り難キヲ感得スルニ立至レルモノノ如シ

(2)二、尚最近米國ノ態度頓ニ強硬トナリ米國ハ英國ハ固ヨリ仏伊等ニ對シテモ共同措置ヲ執ランコトヲ提議セル模様ニ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

テ上海事件悪化ノ様子見ヘタル為右米國ノ態度ハ強ク理事會ニ反映スルニ至レリ

三、加之今回ノ理事会ハ十二月ノ時ト異ナリ「ブリアン」「ドウズ」「サイモン」等一流ノ人物出席セス第二流ノ人物多数ヲ占メ理論ニ走ル傾向アル為十二月理事会ノ如ク支那ニ圧迫ヲ加ヘ得ルモノナキ有様ナリ

四、支那側ハ国内ノ事情ヨリ云フモ第十五条提起ノ必要アリ理事会及事務総長等ハ出来得ル限り之ヲ押へ来リタルモ上海事件悪化ノ為急転直下遂ニ二十四時間内ニ形勢逆転スルノ已ムヲ得サルニ至レル次第ナルカ如シ  
在欧米各大使、支ヘ転電セリ

53 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より  
在英國澤田臨時代理大使宛（電報）

局への説明方について  
第一九号 暗、大至急

貴電(四五文書)第三九号ニ関シ

(一)今次上海ニ於ケル不敬記事事件及日蓮宗僧侶殺傷事件カ支那側ノ執拗深刻ナル排日運動ノ一ノ現レニシテ我方ニ

於テ右日蓮宗僧侶殺害事件ヲ切掛けニ上海市政府ニ対シ排日運動ノ取締等ニ関シ上海発本大臣宛電(一六文書)第五七号ノ要求ヲ提出シタル經緯ハ往電合第二六七号声明中ニ明ニシ置キタル通ナリ而シテ我方ニ於テハ結局支那側カ右要求ヲ容レサル場合ニハ我方權益擁護ノ為メ抗日会手入、排日伝單撤去、排日宣伝諸施設廃止並ニ封存日貨解放等ノ実力的対抗手段ヲ租界内外ニ行フ外ナント思考シ居リタル次ニテ租界内ニ於ケル右対抗手段ノ實行ニ関シテハ工部局当局ト充分ナル連絡ヲトリツツアリタルハ上海発本大臣宛電報第一二一号等ノ通ナルカ二十八日ニ至リ支那側ニ於テ前記我方要求ヲ容認セルヲ以テ我方ハ静力ニ其ノ実行振ヲ監視シ居リタル次第ナリ

(二)然ルニ當時共同租界付近ニ集中セラレ居タル支那軍隊ノ

不穏ナル狀況ニ鑑ミ工部局ハ二十八日午後四時ヨリ戒厳令ヲ布告シタルヲ以テ我陸戦隊ハ上海発本大臣宛電報第一三三号ノ外國警備指揮官會議ニ基キ其ノ受持区域ノ配備ニ就キタル處支那軍隊ヨリ突然攻撃ヲ受ケタルヲ以テ之ヲ反撃シタル次第ナリ

(三)要之叙上我方ノ措置ハ從來列國カ支那各地ニ於テ執り來

レルト同様ノモノニテ殊ニ前記(一)日本海軍ノ軍事行動力について

本省 1月31日後着

工部局ノ戒嚴令ニ基ク列國警備軍共同措置ノ一部ナルコ

トハ大正十四年ノ五卅事件等ノ際ノ事例ト何等差異ナキ

次第ナルニ付右趣旨充分徹底スル様説明シ置カレ度

米及連盟ニ転電セリ貴電ト共ニ支、北平、奉天、廣東ニ転電シ支ヲシテ上海、南京ニ転報セシム

仮、伊ニ転電アリタシ

第六三号（暗）

在英大使宛貴電合(四〇文書)第三三七号ニ関シ同電二十九日夕刻接到

三十日朝「レヂュ」政商局長ヲ往訪累次貴電ノ趣旨ニ依リ上海ノ事態カ悪化シ来レル次第ヲ説明シタル上官頭貴電ノ

趣旨ヲ述タリ

同局長ハ仏外務省ノ接受シ居ル電報ニ依レハ在上海日本總領事ハ同地各國總領事ニ對シ日本側ハ其要求ニ付満足ヲ得タル旨声明シ居レリトテ右趣旨ノ公電ヲ読ミ聞カセタル上日本側ニテ満足ヲ得タル以上何故強力手段ニ出ツルカ了解ニ苦シム所ナリト言ヘリ

本官ハ未タ日本側カ満足ヲ得タリトノ公電ニハ接シ居ラス（貴電合第二六七号ハ右会見後接到セリ又上海總領事發閣下宛電報第一二三号ハ未タ接受シ居ラス）若シ果シテ右カ事実ナリトセハ昨夕及今朝ノ新聞ニ伝ヘラル闡北ニ於ケル日支商軍ノ衝突ハ我方ノ要求トハ關係ナキモノナルヘク

右ハ同地方ニ於ケル日本人ノ生命財産ヲ保護スル為派遣セ

54 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より  
在英國澤田臨時代理大使宛（電報）  
米国出淵大使宛（電報）

真茹無電台爆破報道の事実無根について

合第二七八号（暗、至急）

二十九日上海発朝日特電ハ我カ海軍飛行機カ同日午後真茹無電台ヲ爆破セル旨報道シタルカ右ハ事実無根ナリ  
寿府ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ又米ヨリ紐育、市俄古、桑港ニ転電アリ度

55 昭和7年1月31日 在仏國栗山臨時代理大使より

芳沢外務大臣宛（電報）

上海の事態に關し仏国外務省當局に事情説明

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ラレタル日本軍隊ニ対シ秩序ナキ支那軍隊カ挑戦シタルニ  
依ルモノト思ハル何レニスルモ帝国政府ハ時局ヲ悪化スル  
意思無ク又上海事件ハ地方的問題トシテ解決セントスル意  
向ヲ有スルモノナリト説明セリ

尚同局長ハ日支事件ニ付テハ連盟ハ之カ解決ノ為三回ニ亘  
リテ理事会ヲ開キタルカ事件ハ今ヤ哈爾賓及中支方面ニ迄  
拡大セントシツアリ右ノ事態ハ日本ノ極東ニ於ケル権威  
ノミナラス世界ニ於ケル日本ノ信用ノ問題トモナルヘク日  
本ノ為時局ヲ重大化セサラン事ヲ切望スト述ヘタリ

「レヂュ」ノ許ヨリ退出セントスル際亞細亞局長來リ合セ  
タルヲ以テ本官ハ更ニ同局長ヲ訪ヒ同様説明シタル處同局  
長ハ昨二十九日在巴里英國大使館ヨリ仏國政府ニ公文ヲ以  
テ英國政府ハ在倫敦日本大使館ヨリ通告ヲ受ケタル趣ヲ以  
テ仏國政府カ英國政府同様日本政府ニ対シ上海共同租界ノ  
國際的地位尊重方申入ヲ為サン事ヲ希望スル旨申シ来レル  
ニ対シ仏国外務省ハ在巴里日本大使館ヨリ何等ノ申出ニ接  
セサルモ不取敢在東京「マルテル」大使ニ英國ト同様ノ申  
出ヲ為スヘキ旨訓令ヲ発シ置キタリト告ケタル後滿州ニ於  
ケル日本ノ行動ハ別トシテ上海ニ於ケル行動ハ英米ニ対ス

ル反響鮮カラス又其國際的影響ハ重大ナルモノアル可シ日  
本ノ上海ニ於ケル實力行使ニ付テハ共同租界内ニ於テ之ヲ  
為ス場合ト租界外ニ於テ之ヲ為ス場合ニ分チテ考フヘキモ  
ノニシテ前者ニ付テハ日本ハ租界ノ國際的地位ヲ尊重スル  
ノ必要アルヘキ処万一日本カ租界内ニテ實力ヲ行使スルカ  
如キ場合ニハ予メ工部局ト打合セテ之ヲ為スモノト了解シ  
テ可ナリヤト問ヘルニ付本官ハ政府ノ訓令ニ依レハ政府ハ  
上海地方ノ國際的性質ヲ充分認識シ居ルヲ以テ我出先官憲  
ニ於テ關係列國領事及工部局、英、米、仏各國軍隊側ト常  
ニ必要ナル連絡ヲ取りツツアル旨ヲ明カニシ居ルヲ以テ勿  
論然リト思フ旨ヲ述ヘシニ同局長ハ夫レナラハ結構ニシテ  
英國政府ハ日本カ右ノ場合ニ予メ打合セヲ為ササルモノト  
誤解シタル為共同措置ヲ仏國政府ニ申入レ来リシモノト思  
ハル本件ニ付テハ英國側ニテ誤解アルモノト認メラルルニ  
付只今御話ノ次第ハ早速「マルテル」大使ニ電報スヘシト  
述ヘタリ

尚本官ヨリ「レヂュ」局長ニ述ヘシト同シ開北ノ出来事  
ハ日本總領事カ上海市長ニ出シタル要求ノ問題トハ關係ナ  
カル可キ旨ヲ述ヘタルニ同局長ハ同様ノ報道ヲ受ケ居レリ

ト言ヘリ

亞細亞局長ハ英國政府ヨリハ共同措置方ニ関シ公文ニ接シ  
居ル關係モアリ右會見ニ於ケル本官申入ニ付為念公文ノ送  
付ヲ得度キ旨希望シタルニ付在英大使宛貴電合(四〇文書)第一二三七号

ノ趣旨ヲ簡単ナル「ノート」ニ認メ右「ノート」ノ末段ニ  
租界ニ閑スル限り実力行使ノ場合ニハ予メ工部局ト打合ス  
ヘキ旨日本總領事及司令官ヨリ工部局當局ニ確保済ナリト  
付加シ三十日午後再ヒ亞細亞局長ヲ往訪手交シタル處同局  
長ハ之ヲ謝シ「マルテル」大使ヨリモ日本政府ノ声明ノ要  
項ヲ電報シ來リ居リ今ヤ日本政府ノ意向モ能ク解リタルヲ  
以テ本件ニ關シ仏國政府トシテハ之ニテ満足セリト言ヘル  
ニ付本官ハ共同租界内ニテ實力ヲ行使セントスル場合何等  
事前ノ打合ナクシテ行動スルカ如キハ帝國政府ノ寸時モ考  
ヘタル事ナキ處ナリト思考スト述ヘ置キタリ

米、英、伊、白、独、露、寿府ニ転電セリ

56 昭和7年2月(1日) ※在シユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条適用の場合中國調査委員会との  
關係に関するドラモンド事務総長の談話につ

いて

第二八号(暗、大至急)  
<sup>(1)</sup>  
佐藤理事ヨリ

廿日午後「ドラモンド」ト會見「ド」ノ語ル所大要左ノ通  
一、支那調査委員会ハ從前設定セラレタル儘トシ何等変更  
ヲ加ヘサルコト致シ若シ十五條カ適用セラレタリトテ右  
委員会ヲ廢止スルコトトセハ何ノ途再ヒ調査委員ノ必要ヲ  
見ルニ至ルヘク其際ハ大国ノミニテ組織スルコトハ不可能  
ナルヘキニ付寧ロ此ノ儘既存ノ調査委員ヲシテ活動ヲ開始  
セシムルコト得策ナルヘシ唯旅行ヲ切詰ムル必要迫ルヤモ  
知レサルニ付或ハ旅程ヲ変更シ西比利亞經由トナルヤモ計  
ラレス但シ其目的カ全支那ノ調査ニアルコト且日本ニ赴キ  
テ當局ノ意見ヲ聽クコトニ付テハ何等変ルコトナキ様致シ  
度キ積ナリ

二、十五条ニ依ルコトトナリタリトテ實状今迄ノ手続ト成  
果ニ於テ何等異ル所ナカルヘシ其理由ハ第十二条ニテ統ク  
ル場合ニモ調査委員ノ報告ニ基キ早晚理事会ニ於テ報告調  
査スル要アリ調査委員ハ成ル程第十二条ニ依リ組織セラレ  
タルモノナルモ其実状報告ハ第十五条ノ場合ニモ利用シ得

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ヘク且同委員ノ報告ハ到底五月ノ理事会迄二間ニ合フ様提出セラルコトナカルヘキニ付五月ニ至リ十二条规定ノ六ヶ月ノ審査期間ヲ延期センコトヲ理事会ニ要求スヘク理事會モ特別ノ事情發生セサル限り勿論之ヲ容認スヘシ然ラハ六ヶ月ノ期間ハアルモ相当ノ期限迄延長スルコト可能ナルヘク第十一條ト異ル處実際ニ於テナカルヘシ又第十五條ニ於テモ此等ノ実地報告ニ基キ理事会ノ先ツ尽力スヘキ所ハ兩紛争國ノ調停ニ在リテ右調停不成立ノ場合初メテ理事会報告ヲ調製シ満場一致ノ場合ト多數決トノ場合ニ於ケル其ノ効果ヲ異ニスルコトナルニ止マルヘシ

三、上海事件ニ関シ現地調査委員会ヲ設置シタルモ右ハ決シテ問題ノ速急解決ヲ計ラントスルノ意味ニアラス單ニ事件カ「フレッショ」ナル間ニ実相ヲ摑マントスルト又一ハ輿論ニ対スル或ル程度ノ満足ヲ与ヘントシタルニ過キス從テ其ノ報告ノ提出ヲ別ニ急キ居ル訳ニアラス從テ本件ニ関シ現在ノ狀況ニ於テハ急速理事会会合ノ必要ヲ感シ居ラス右ハ「ドラモンド」カ差当リノ意見ヲ述ヘタルニ留リ同人自身ニ於テモ第十五条ノ手続カ如何ニ進展スヘキヤ確タル見極メヲ付ケ得サル狀態ニアルヤニ見受ケラレタルモ何等

違反シ支那ノ領土保全及独立ヲ侵害シタル為生シタル紛争ナリト称スルヲ利用シ帝國政府從来ノ行動ハ自衛權ノ發動ニシテ領土ノ獲取又ハ独立ノ破壊ヲ目的トスルモノニ非サルコトハ本邦カ再三声明セル処ニシテ理事会亦其説明ヲ認メ居ルコトヲ高唱シ満州上海ニ於ケル日本ノ措置ハ以上ノ理由ニ依リ規約第十条ニ違反セルモノニ非サルコトヲ認メタル陳述書ヲ逸早ク提出シ以テ日支事件ハ支那側ノ思考スル如ク規約第十五条ニ依リ処理スヘキモノニ非サルコトヲ主張スルカ(2)支那側ノ説明ニ依ル所謂紛争ノ性質範囲等ニ関シ明確ヲ欠クコトヲ理由トシ支那陳述書ノ提出ヲ見タル上我方陳述書ヲ作製スルカ(ハ)満州問題ハ十二月十日理事会決議後新事実發生セサリシヲ理由トシ第十五条ノ適用ヲ上海事件ノミニ限ルコトトシ陳述書ヲ提出スルカノ三方法アルヘシ尚右三方法ハ夫々利害得失アルコトハ勿論其成功ノ可能性ニ関シ差異アルコト御注意願ヒ度シ

三、第十五条第二項ニ依レハ該陳述書ハ成ルヘク速ニ提出スルコトトナリ居ルモ右ハ之カ作製ニ事實上必要ナル相當ノ期間ヲ指スモノニシテ「成ルヘク速ニ」トハ単ニ不

ヘク且同委員ノ報告ハ到底五月ノ理事会迄二間ニ合フ様提出セラルコトナカルヘキニ付五月ニ至リ十二条规定ノ六ヶ月ノ期間ハアルモ相当ノ期限迄延長スルコト可能ナルヘク第十一條ト異ル處実際ニ於テナカルヘシ又第十五條ニ於テモ此等ノ実地報告ニ基キ理事会ノ先ツ尽力スヘキ所ハ兩紛争國ノ調停ニ在リテ右調停不成立ノ場合初メテ理事会報告ヲ調製シ満場一致ノ場合ト多數決トノ場合ニ於ケル其ノ効果ヲ異ニスルコトナルニ止マルヘシ

三、上海事件ニ関シ現地調査委員会ヲ設置シタルモ右ハ決シテ問題ノ速急解決ヲ計ラントスルノ意味ニアラス單ニ事件カ「フレッショ」ナル間ニ実相ヲ摑マントスルト又一ハ輿論ニ対スル或ル程度ノ満足ヲ与ヘントシタルニ過キス從テ其ノ報告ノ提出ヲ別ニ急キ居ル訳ニアラス從テ本件ニ関シ現在ノ狀況ニ於テハ急速理事会会合ノ必要ヲ感シ居ラス右ハ「ドラモンド」カ差当リノ意見ヲ述ヘタルニ留リ同人自身ニ於テモ第十五条ノ手續カ如何ニ進展スヘキヤ確タル見極メヲ付ケ得サル狀態ニアルヤニ見受ケラレタルモ何等

必要ニ提出ヲ長引カササル意味ト解スルヲ適當トス  
在歐米各大使(土ヲ除ク)在支公使ヘ転電セリ

58 昭和7年2月2日 在ジュネーヴ(田連盟事務局長より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条に基づく日本側陳述書に対する  
ドラモンドの示唆について

第三五号(至急、極秘)  
往電(五七文書)  
第三〇号ニ閲シ

一日朝「ドラモンド」ハ杉村ニ対シ日本側カ第十五条第二項ニ基キテ提出セラルヘキ陳述書ハ昨年九月十八日以来滿州及上海ニ發生シタル事件全部ヲ包括スヘク而シテ規約ノ趣旨ニ従ヒ支那側ノ陳述書提出ヲ待チテ起草ニ取掛ルカ如キコトナク成ルヘク速ニ提出セラルコトト致シ度シ支那側ニ於テハ日本ガ規約ニ違反シ領土主權等ヲ侵害シタル旨ヲ陳述スヘク之ニ対シ日本側ハ「ド」ノ私見ニ依レハ(ハ)数年来滿州ニ於ケル支那側ノ條約違反等排日的行動ヲ指摘シ昨年九月十八日ノ鉄道破壊後日本軍隊カ執レル行動カ在満邦人ノ生命財産保護ノ為真ニ已ムヲ得サリシ自衛手段ナリシ旨ヲ叙シ次ニ馬賊ノ跳梁カ錦州進撃ヲ必要ナラシメン

ヘク且同委員ノ報告ハ到底五月ノ理事会迄二間ニ合フ様提出セラルコトナカルヘキニ付五月ニ至リ十二条规定ノ六ヶ月ノ期間ハアルモ相当ノ期限迄延長スルコト可能ナルヘク第十一條ト異ル處実際ニ於テナカルヘシ又第十五條ニ於テモ此等ノ実地報告ニ基キ理事会ノ先ツ尽力スヘキ所ハ兩紛争國ノ調停ニ在リテ右調停不成立ノ場合初メテ理事会報告ヲ調製シ満場一致ノ場合ト多數決トノ場合ニ於ケル其ノ効果ヲ異ニスルコトナルニ止マルヘシ

三、上海事件ニ関シ現地調査委員会ヲ設置シタルモ右ハ決シテ問題ノ速急解決ヲ計ラントスルノ意味ニアラス單ニ事件カ「フレッショ」ナル間ニ実相ヲ摑マントスルト又一ハ輿論ニ対スル或ル程度ノ満足ヲ与ヘントシタルニ過キス從テ其ノ報告ノ提出ヲ別ニ急キ居ル訳ニアラス從テ本件ニ関シ現在ノ狀況ニ於テハ急速理事会会合ノ必要ヲ感シ居ラス右ハ「ドラモンド」カ差当リノ意見ヲ述ヘタルニ留リ同人自身ニ於テモ第十五条ノ手續カ如何ニ進展スヘキヤ確タル見極メヲ付ケ得サル狀態ニアルヤニ見受ケラレタルモ何等

必要ニ提出ヲ長引カササル意味ト解スルヲ適當トス  
在歐米各大使(土ヲ除ク)在支公使ヘ転電セリ

規約第十五条ニ依リ差当リ開始セラルヘキ手続ニ関シ當方研究ノ結果御参考迄左ノ通

一、第十五条第一項ハ事務總長ノ執ルヘキ手続ヲ規定スル處同總長ハ往電第二五号ノ通り昨卅日理事会ニ於テ理事國ノ在上海代表者(領事司令官)ヲ以テ委員会ヲ組織シ上海事件ニ關スル報道ヲ得ル筈ナルニ付在上海理事國代表者ノ調査ハ本邦トシテ甚タ重視スルヲ要スヘシ

二、同條約第二項ニ依レハ当事國ハ陳述書ヲ提出スルコトトナリ居ル處該陳述書ノ作成ニ關シ目下ノ方針トシテハ(1)往電第一二三号事務總長宛支那側通牒ニ依レハ支那カ第十五条ノ適用ヲ要求セル「適用」ハ日本カ規約ノ規定ニ

規約第十五条ニ依リ差当リ開始セラルヘキ手續ニ關シ當方研究ノ結果御参考迄左ノ通

一、第十五条第一項ハ事務總長ノ執ルヘキ手續ヲ規定スル處同總長ハ往電第二五号ノ通り昨卅日理事会ニ於テ理事國ノ在上海代表者(領事司令官)ヲ以テ委員会ヲ組織シ上海事件ニ關スル報道ヲ得ル筈ナルニ付在上海理事國代表者ノ調査ハ本邦トシテ甚タ重視スルヲ要スヘシ

二、同條約第二項ニ依レハ当事國ハ陳述書ヲ提出スルコトトナリ居ル處該陳述書ノ作成ニ關シ目下ノ方針トシテハ(1)往電第一二三号事務總長宛支那側通牒ニ依レハ支那カ第十五条ノ適用ヲ要求セル「適用」ハ日本カ規約ノ規定ニ

57 昭和7年2月1日 在ジュネーヴ(田連盟事務局長より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条適用の際の措置について

第三〇号(暗、大至急)  
往電第一九号ニ閲シ

規約第十五条ニ依リ差当リ開始セラルヘキ手續ニ關シ當方研究ノ結果御参考迄左ノ通

一、第十五条第一項ハ事務總長ノ執ルヘキ手續ヲ規定スル處同總長ハ往電第二五号ノ通り昨卅日理事会ニ於テ理事國ノ在上海代表者(領事司令官)ヲ以テ委員会ヲ組織シ上海事件ニ關スル報道ヲ得ル筈ナルニ付在上海理事國代表者ノ調査ハ本邦トシテ甚タ重視スルヲ要スヘシ

二、同條約第二項ニ依レハ当事國ハ陳述書ヲ提出スルコトトナリ居ル處該陳述書ノ作成ニ關シ目下ノ方針トシテハ(1)往電第一二三号事務總長宛支那側通牒ニ依レハ支那カ第十五条ノ適用ヲ要求セル「適用」ハ日本カ規約ノ規定ニ

規約第十五条ニ依リ差当リ開始セラルヘキ手續ニ關シ當方研究ノ結果御参考迄左ノ通

一、第十五条第一項ハ事務總長ノ執ルヘキ手續ヲ規定スル處同總長ハ往電第二五号ノ通り昨卅日理事会ニ於テ理事國ノ在上海代表者(領事司令官)ヲ以テ委員会ヲ組織シ上海事件ニ關スル報道ヲ得ル筈ナルニ付在上海理事國代表者ノ調査ハ本邦トシテ甚タ重視スルヲ要スヘシ

二、同條約第二項ニ依レハ当事國ハ陳述書ヲ提出スルコトトナリ居ル處該陳述書ノ作成ニ關シ目下ノ方針トシテハ(1)往電第一二三号事務總長宛支那側通牒ニ依レハ支那カ第十五条ノ適用ヲ要求セル「適用」ハ日本カ規約ノ規定ニ

御参考迄聞込ミノ儘申進ス尙本件ニ關スル卑見ハ追テ申進スヘシ

在歐米各大使、在支公使ヘ転電セリ

昭和7年2月1日 在ジュネーヴ(田連盟事務局長より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

御参考迄聞込ミノ儘申進ス尙本件ニ關スル卑見ハ追テ申進スヘシ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

事情ヲ説キ(2)更ニ「ボイコット」其ノ他支那側ノ抗日的策動カ上海ニ於ケル事件ヲ惹起スル事等ヲ事実ニ基キ叙述セラル事然ルヘシ(既ニ公表セラレタル文書等ニ「リファード」スル事モ便宜ナラン)要スルニ日本ノ政策ヲ客観的見地ヨリ弁護セル陳述書ヲ提出セラル事適當ナラント思考ス云々ト内話セル趣ナリ

以上ハ「ド」ノ内話ヲ御参考ニ供スル次第ニ付外部ニハ絶対秘密ニ付セラレ度シ

米、支ニ転電シ在欧各大使ニ暗送セリ

59 昭和7年2月2日(2日)

在米国出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

國務長官の中国軍撤退斡旋の意向および南京

砲撃の中止要請について

第七六号(暗、至急)

一日午前求メニ依リ國務長官ヲ往訪シタル處長官ハ昨三十日閣下ト米国大使トノ会談ニ言及シ閣下ヨリ同大使ニ対シ日本政府ハ上海ニ於ケル英米総領事カ事件拡大防止ノ為斡旋ヲ為シ居ル事ニ對シ感謝ノ意ヲ表セラレタル事日本側ニ於テハ支那側ニ於テ攻勢ニ出テサル限り之以上陸戦隊ヲ

右会談ノ際得タル印象ニ依レハ長官ハ閣下ノ御申出ニ從ヒ支那側ヲ説キ付ケ上海ヲ去ル一定距離迄其ノ軍隊ヲ撤退セシムル事ニ努力スル事ニ決心シタル模様ニテ從テ南京砲撃ノ報道ニ接シ頗ル意外ノ感ニ打タレタル模様ナリ尚本使ト会見前ニ長官ニ於テ英國大使ト会談シタル事実アルニ付右長官ノ決意ハ英國政府ニモ伝ヘラレタルモノト察セラル南京砲撃ノ理由並ニ其ノ後ノ發展大至急電報アリ度シ

英へ転電シ英ヨリ仏及寿府連盟へ転電セシム

60 昭和7年2月2日

芳沢外務大臣より  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

規約第十五条適用の際の問題点について

第二八号(暗、至急)

貴電第二九号ニ関シ

佐藤理事へ

一、連盟側カ今日迄支那側ヲ押エテ第十五条ノ適用ヲ避クルニ努力シ来リ乍ラ單ナル上海事件ノ発生ニ依リ(而モ同事件ノ真相ヲモ確メスシテ)一朝ニシテ右努力ヲ放棄シタルハ甚々諒解ニ苦ム所ニシテ連盟側ハ客年十月ノ理事会ニ於ケル輕率ナル振舞ヲ繰返スモノト云フヘシ

二、累次ノ貴電ニ依ルニ第十五条ノ適用ハ上海事件ニ限ラルルヤ又ハ満州問題ニ迄及フヤ明ナラサル処(満州問題ト上海事件トハ均シク支那ノ不安定、不統一ナル状態及一般的ノ排日乃至排外運動等ヲ背景トスル次第ナルモ具体的の案件トシテハ全然別個ニ取扱フヘキモノナリ)若シ満州問題ニ迄及ホス趣旨ナラハ其ノ不合理ヤ甚シ蓋シ満州問題ハ今日迄規約第十二条ノ下ニ審議セラレ来リ將ニ

増派セサル而已ナラス陸兵ヲ派遣スルカ如キ事ハ之ヲ欲セサルニ付支那側ニ於テ一定ノ安全距離迄其ノ軍隊ヲ引揚クル様斡旋ヲ希望スル旨申出テラレタル趣ニ付自分ハ芳沢外相ノ希望ニ添ハンカ為目下serious considerationヲ払ヒツツアルヤ諒解ニ苦シム所ナル而已ナラス支那側説得上当惑シツツアリ就テハ日本側ヨリ斯ノ如キ攻勢ニ出ツル事無キ様至急手配方閣下ニ電報アリ度旨申出タリ

右会談ノ際得タル印象ニ依レハ長官ハ閣下ノ御申出ニ從ヒ支那側ヲ説キ付ケ上海ヲ去ル一定距離迄其ノ軍隊ヲ撤退セシムル事ニ努力スル事ニ決心シタル模様ニテ從テ南京砲撃ノ報道ニ接シ頗ル意外ノ感ニ打タレタル模様ナリ尚本使ト会見前ニ長官ニ於テ英國大使ト会談シタル事実アルニ付右長官ノ決意ハ英國政府ニモ伝ヘラレタルモノト察セラル南京砲撃ノ理由並ニ其ノ後ノ發展大至急電報アリ度シ

英へ転電シ英ヨリ仏及寿府連盟へ転電セシム

調査委員モ出発セントスル一方満州ニ於テハ自衛措置トシテ土匪兵匪ノ掃蕩等ヲ為シ居ル外ニ別段新事態ノ發生ヲ見サルニ偶々上海事件ノ勃発ニ乘シ之ト満州ノ事態トヲ故ラニ結ヒ付ケ一括シテ第十五条ヲ適用セントスルハ到底我方ノ了解シ得サル所ナルノミナラス右ハ折角我方ニ於テ事件ノ円満ナル解決ヲ図ランカ為種々ノ困難ナル点迄モ讓歩シ來レル努力ヲ却テ無効ナラシメ我國ノ輿論ヲ極端ニ激セシムル虞アリ何レニスルモ連盟側カ満州問題ノ處理ニ関スル從来ノ経緯ヲ無視シ且二十九日ノ理事会等ニ於テ貴理事ノ述ヘラレタル規約適用上ノ疑義ニ拘ラス強テ第十五条ニ依リ満州問題ヲ審議セムトスルカ如キ圧迫的態度ニ出テ来ル場合ニハ我方トシテハ帝国ノ連盟ニ對スル関係ニ付根本的ノ考慮ヲナスノ要アリト存ス三、又第十五条ノ適用ヲ上海事件ニ限ル趣旨ナリトスルモ同事件ノ真相ハ往電殊ニ英宛往電第一九号ノ通リニテ本件ヲナスハ全ク事實ニ即セサルモノナリ元來支那各地ニ於ケル同國官民ノ不法行為ニ對シ列国側カ実力ヲ以テ対抗スルハ普通ノ現象ニシテ大正十三年及昭和二年ノ上海

#### 事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

出兵及大正十四年ノ沙面事件、同十五年ノ万県事件、昭和二年ノ南京事件、昭和三年ノ濟南事件等ハ其著例ナル處列國ノ斯種実力行動ニ対スル支那側ノ第十五条適用要求ヲ一々取上クルカ如キハ現実ノ事態ニ反ス

四、就テハ第十五条ノ適用ヲ上海事件ニ限ル趣旨（即チ満州問題ハ依然トシテ第十二条ノ下ニ審議セラル）ナラハ此際不取敢「上海事件ハ第十五条ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス」トノ我方ノ主張ヲ無視シテ行ハレタル第十五条ヲナシタル上日本ノ主張ヲ付改メテ厳肅且明確ナル留保

第一項適用ノ結果ヲ静観スルト共ニ我方トシテハ第十五条第二項ノ陳述書トシテニハアラサルモ實際上事務総長ノ取調ノ為便宜ヲ供スルコトト致度特又第十五条ノ適用ヲ満州問題ニ迄及ホス趣旨ナラハ之カ措置振更ニ請訓セラレ度

五、尚ホ貴電(一)五文書)第一二三号連盟規約適用伸縮論ハ此上共連盟側ニ徹底スルコト肝要ニシテ必要ノ場合ニハ独立國家力普通ニ具有スル統治能力ヲ欠如シ從テ普通ノ國際義務ヲ履行シ得サルカ如キコトヲ常態トスル現今ノ支那ニ対シ連盟規約ヲ完全ニ適用スルノ不可ナルヲ公然主張スルコト

ルコトニモアリ一層寒心ニ絶ヘス此際我方ニ於テ上海南京方面ニ於テ積極的手段ヲ執ラサル様極力御措置相成度ク切望ニ絶ヘス南京彼我砲火交換ノ公報ニ接シ右特ニ申進ス在歐米各大使、在支公使ヘ転電セリ

（編注）本電報は、佐藤理事よりとみとめられる。

62 昭和7年2月(3日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）  
上海の事態に関する二月二日公開理事会の議事経過について

別電 同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第三九号  
英國理事提出の戦闘行為停止案

第三八号（大至急）  
(1) 英国側ヨリ日支事件ニ関シ急遽理事会開催方要求アリタル結果本二日午後三時半開催ノ予定ノ軍縮會議ヲ一時間繰下ケ同二時半ヨリ公開理事会開催ス議長「ボンクール」（脱？）故ヲ以テ仮國陸軍大佐「タルヂュ」臨時議長トナリ英國大臣「トーマス」伊国「グランヂ」出席ス議事大要左ノ通り

時宜ニ適スト認ム  
在欧各大使ニ転電アレ  
米、支、奉天、北平、廣東ニ転電シ支ヲシテ南京、上海ニ  
轉報セシメタリ

61 昭和7年2月(3日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）  
上海、南京方面における我が軍事行動自重方について

#### 第三七号（大至急極秘）

上海事件ノ收拾ニ関シテハ政府ニ於テモ深甚ノ考量ヲ加ヘ居ラル次第屢次ノ電報ニテ承知シ居ルモ今日トナリテハ戰争ヲ仕掛ケタル方カ惡者トナリ總テノ責任ヲ負ハサルヘカラサルニ至ルハ多言ヲ要セス又目下恰モ軍縮會議中ニシテ連盟總会開催ニ便多キヲ以テ支那側ニ臨時總会招集ノ口実ヲ与ヘ若ハ小國側ノ要求ニ依リ臨時總会招集ヲ見ル虞ナシトセス又其噂モ昂マリ來ツツアル現状ナルニ付我方ヨリ手出シスルコトハ絶対ニ避ケサルヘカラス又大局ヨリ考フルモ上海問題ノ為満州ノ時局收拾ヲ困難ナラシムルハ得策ニ非ス時恰モ哈爾賓出兵ト懸合ヒ既ニ世上ノ衝動ヲ來シ居

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ラレタルカ英國政府ハ英國ノ一般利益ノ為共同租界ニ近接スルヲ以テ英國在留民ノ生命財産ニ及ボス危険ノ為本出来事ノ發生ヲ最モ憂慮スルモノナリ我政府ハ日支両國政府及其ノ軍司令官ニ対シ緊急數回ニ亘り交渉ヲナシ上海英米総領事ノ協定セル中立地帯設置案ノ受諾ヲ勧奨シタリ右中立地帯ハ共同租界ニ軍隊ヲ駐屯セシメ居ル中立軍ニ依リ占拠セラルヘク政府ハ既ニ該地帯設立ノ上ハ之ニ協力スベキ旨ノ訓令ヲ英國駐屯軍ニ与ヘタリ両總領事努力ノ結果二十九日休戦成立セルモ新聞報ニ依レハ不幸ニシテ再ヒ戰闘開始セラレタル由ナリ但シ政府ハ日支両國政府ニ対シ事態解決ノ為全力ヲ尽スベキコトヲ強ク申入レタリ上海ニハ目下英國ノ三個大隊以上駐屯スル外歩兵及砲兵各一大隊ヲ搭載セル軍艦ヲ香港ヨリ派遣スルコトニ三十一日決定シタリ斯クテ英國艦隊ハ「ローンウェル」「ハンドウイシ」及二砲艦ノ外「ケント」「サッフォーク」到達セル筈ナリ<sup>(3)</sup>政府ハ他ノ関係諸国ト常ニ協調ヲ保チタルカ今後モ亦協調ノ為努力スヘシ上海英総領事モ又他国代表ト密接協力ヲ続ケツツアリ昨夜午後十一時日本軍艦ハ南京方面ニ向ケ砲撃ヲ開始セルモ最近情報ニ依レハ事態平穏ニシテ英國在留民モ安全ナル敵對行為ヲ止メシムル為列國協調シテ有効ナル措置ヲ執ル可シトハ最初日本政府ヨリ申出テタル処ニシテ中立地帶設立案モ又在上海日本總領事カ他国同僚ト会見ノ際出来タルモノナリ又南京事件ニ付英國理事ノ報告ニテハ日本側ヨリ砲火ヲ開キタル如ク聞ユルモ事実ハ支那側ヨリ砲撃セル結果之ニ応対シタル迄ノ事ナリトテ南京砲撃ニ関スル貴電ノ次第ヲ説明ス

(八)事務総長次チ發言ヲ求メ上海ニ於ケル調査委員会モ組織セラレタルコトナレハ理事会トシテハ右委員会報告ノ到達スルヲ待チ事件ヲ審議スルコト致度ク尚同委員会ノ事務総長ニ任命セラレタル「ベース」ヨリノ電報ニ依レハ委員会ハ本日ヨリ会合スル次第ナリト披露シ連盟予算ヨリ同委員会費用トシテ一万五千瑞西法支出方要求ス  
九議長ハ右費用支出方ニ付賛成ヲ求メタル處異議ナク之ヲ

ル由最後ニ余ハ以上ヲ理事会ニ披露スルト共ニ右ハ各理事ノ承諾及支持ヲ受クベキコトヲ確信スト述フ

三議長ハ次テ仏國政府ハ英國ヨリノ通告ニ依リ駐日大使及駐支公使ニ対シ両國政府ニ同様ノ申出ヲ為スコトヲ昨夜訓令セリ尚上海駐屯仏國陸海軍ニ増援軍派遣中ナリト宣言ス<sup>(4)</sup>伊國理事ハ同國モ在日支大公使ニ対シ同様ノ措置ヲ執ルヘキ旨訓令済ナル由並ニ両國カ新ナル困難ヲ排除スル為必要ナル手段ヲ執ルコトヲ要望スル旨声明ス

四獨逸理事ハ英國理事宣言ハ早速本国政府ニ通告シ同一措置ヲ執ルコトヲ申送ルヘシト述フ

五支那理事ハ理事會カスル重大ナル措置ヲ採リタルコトヲ了承スルト共ニ英國宣言ヲ直ニ南京政府ニ通達スヘシト述フ

六佐藤理事ハ英國理事ノ宣言ニ対シ他国理事モ之ヲ支持セラレ居ル処余モ又斯ル提案アリタルヲ欣幸トスルモノナリ即チ上海事件ニ關シ列國カ協調シ有効ナル措置ヲ執ル可キ必要アリトハ元來日本ノ主張シタル処ニシテ即チ外務大臣ハ在東京米、仏大使ニ対シスル提案ヲ為シタリ之ニ対シ今伊國モ又參加セラレタルハ喜フ可シ吾人ハ上海事件ニ対シ

可決最後ニ議長ハ(一)上海事件ニ就テハ委員会報告到着ヲ待チテ審議スルコト(2)理事会ハ英國通告ヲ承支持スルコトニ就キ意見ノ決定ヲ見タリト述べ直ニ閉会ヲ宣言ス  
在歐米各大使、上海、奉天ニ転電セリ  
(別電)  
No.39 (Very urgent)  
En conséquence il (le Gouvernement britannique) a présenté à Tokio et à Nankin requête formelle ainsi conçue.

(1) il sera mis fin à tous actes de violence et à tous préparatifs en vue de hostilités.  
(2) dans zone de Shanghai deux parties retireront leurs troupes et pour assurer davantage protection de zone internationale on créera zone neutre.

(3) on commencera lors immédiatement des négociations pour résoudre différend dans esprit du Pacte Paris et de résolution Conseil 9 décembre dernier.

## 対日空気悪化の状況について

いて

第四〇号（暗、大至急、極秘）

往電第三八号ニ関シ

朗読セシメタル際「支那側ノ挑戦」及「我方ヲ脅威スル如キ地域」ト言フカ如キ字句ニ至ルヤ新聞記者席一般傍聴席ニ於テ嘲笑ノ声ヲ放ツ者アリ我方ニ対スル一般ノ空気客

年十月理事会ノ際ニ比シ更ニ一層悪化セルヤノ感アリタリ理事会後軍縮会議多数国ノ代表部員中当事務局員ト知合ノ者ハ日本ノ満州ニ於ケル行動ノ可否ハ別トシ其権益ニ付テハ漸ク列国ノ承認ヲ得来リシニ之ニ満足セス今回ノ上海事件ヲ起シ其遭口ハ徒ニ英米等ノ反感ヲ挑発シ世界ノ同情ヲ失ヒタルノミナラス日本ノ満州ニ於ケル立場ヲモ覆ヘスニ至ル虞アリ吾人等ノ全ク諒解シ得サル所ナリト口ヲ揃ヘテ内話シタル趣ナリ当地ニ於ケル一般的空氣トシテ右御参考ニ供ス

64 昭和7年2月3日

在仏國栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に関する仏国外務当局との会談につ

内話シタル趣ナリ当地ニ於ケル一般的空氣トシテ右御参考ニ供ス

英、米、伊、連盟へ転電セリ

65 昭和7年2月3日

在ペルー國栗柄（三郎）公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に関する仏国外務当局との会談につ

上海事変に対する方針内示方要請について

第五号（暗）

（一四四文書）  
貴電合第三〇二号（合第二九八号）ニ関シ

支那側ハ連盟及米国等引入レノ最後ノ手段トシテ今後トモ上海南京方面等ノ形勢ヲ故意ニ益々重大化セシムルニアラ

スマト観測セラルル處上海事変ノ結果我国ノ満州方面ニ於

ケル行動ハ首肯シ得ルモ上海ハ然ラストナス人心機微ノ転換当國如キニ於テスラ看取セラレ折柄帝国政府ニ於テモ或

ハ之ヲ善用セラレ上海事変善後措置其ノ他支那本部ノ関スル限り益々英國、米国、仏國等ト協力ヲ進メラレ延テハ排

外ヲ基調トスル「革命外交」ニ対シ列国共同政策確立ノ氣運ヲ作ラルルト共ニ一方事満州ニ関シテハ南京政府ノ反省ヲ待ツ

意無力ナル現状ニ鑑ミ直接地方的解決ヲモ辞セサル御決意ヲ示サルル御方針ナリヤ連盟理事國タル關係ノ外支那人在留民コトトシ此ノ儘形勢ノ推移拡大ニ任せ单ニ軍事的ニ応酬セ

ラル御方針ナリヤ連盟理事國タル關係ノ外支那人在留民激昂シ居り警察冤角不行届ナル土地柄万々一不慮ノ事件ヲ惹起セサル様密カニ注意シ居ル様ノ次第ニ付何分ノ儀御回

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

パリ 2月3日後発  
本省 2月4日前着

第七五号（暗）

貴電合第三六九号ニ関シ

三日午後本官亞細亞局長ヲ往訪シ同電（一）ノ点ヲ参考トシテ通報シタル際同局長ハ吳淞攻撃ハ大シテ重要視セサルカ如キ口吻ヲ洩ラシ問題ハ一日モ速ニ閘北ノ事態ヲ沈静スルニアリト述ヘ又今回ノ四国共同提案ニ付第三項ハ英國ノ提議セシ所ナルカ早急ノ際充分話合ノ暇無ク仏國政府モ兎ニ角之ニ賛同セリト内話セリ尚同局長ハ上海ニ於ケル日本兵力残忍ナル行為ニ出テタル由ニテ英、米、仏ノ指揮官ヨリ夫自國領事ニ報告アリタリト述ヘタルニ付本官ハ日本軍人ニ限り斯ル事無シト信スト答へ置キタルモ右ノ報道ハ三日当地新聞ニモ伝ハリ居ルニ付上海ニ於テ速ニ事情ヲ明ニシ誤解ヲ解ク様然ルヘク御措置相成様致度シ

電アリタシ

66 昭和7年2月4日

在英國沢田臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

英國下院におけるランズベリー議員の日本非難發言について

第五四号

英國議会ハ二日再開セラル此日下院ニ於テ外相ハ上海事件ニ関シ同日連盟理事会ニテ「トーマス」代表ノ予メ発表シタルト同様ノ声明（沢田連盟局長発貴大臣宛電報第三八号及

（六二文書）第三九号参照）ヲ為シ次テ労働院内総務「ランズベリー」ヨリ此機会ニ本件討議ヲ許サレン事ヲ要求シタルニ対シ外相ハ今朝関係國側ヨリ日支兩國政府ニ提出シタル要求ニ対シテ未タ回答モ無キ折柄ニテモアリ只今其問題ヲ討議スル事ハ其時期ニ非スト思考スル旨ヲ答ヘタル處「ランズベリー」ハ色ヲ為シテ曩ニ日支事件カ本議院ノ問題トナリシ際自分ハ右ニ付何等ノ措置ヲ執ラレツツアルモノト確信シテ其成行ヲ見ル事トシタル次第ナルカ今ヤ世界各國ハ日本政

府ハ一種ノ国際的海賊行為ニ從事シツツアル事ヲ認メサル可カラスト述フルヤ議場騒然議長ハ貴下ノ言辞ハ我友邦ニ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

関スルモノナルコトヲ念トセラレ度シトテ注意ヲ与ヘ其他取消ヲ要求スル者モアリタルカ「ランスベリー」ハ自分ハ寸毫モ取消ノ意思ヲ有セス我友邦タル露西亞ニ対シテモ從來屢々斯ノ如キ言辞ヲ加ヘラレタルニ非スヤト述へ結局上海事件ノ討議ハ右ニテ打切ラレタリ尚当日満州事件ニ対スル一議員ノ質問ニ対シ外務省政務次官ハ支那軍ノ国内撤退ニ依リ一月三日日本軍ハ戦フ事無ク錦州ニ入城シタルカ爾來満州ハ日本ノ「コントロール」ノ下ニアルカ如キ形ヲ為シ日本側ハ引続キ不正規軍ノ掃蕩ニ従事シツツアリ奉天北方ノ状況ハ稍々不明ナルモ吉林賓県両軍ノ衝突ノ結果賓県軍北方ニ潰走シ日本ハ居留民ノ生命財産保護ノ目的ヲ以テ哈爾賓ニ二個大隊ヲ派遣シツツアリトノ情報アル旨答へタリ米及松平大使へ転電セリ

67 昭和7年2月(4日)

在カナダ国徳川(家正)公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に対するカナダ政府の反応について

第一八号(暗)

奉天事件以来我方ノ立場及事實ノ真相等隨時當國當局ニ説明方取計ヒ居レルカ最近上海ニ於ケル事態ハ特ニ世上ノ注

68 昭和7年2月(5日)

※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条適用範囲に関するドラモンド事務総長との折衝について

第四四号(至急極秘)  
<sup>(1)</sup>  
佐藤理事ヨリ  
貴電(一八四文書)  
第二九号一日夜接到三日松平大使ト同道「ドラモンド」往訪御訓令ノ次第出来ル文詳細陳述シ且ツ本邦ニ於テハ本問題ニ関シ多大ノ関心ヲ有シ居ル次第ヲ告ケタル處「ド」ハ第十五条適用ニ付テハ詳細研究ノ結果理事会ニハ紛争國ノ要求アル以上之ヲ却下スル權能無シトノ論及ニ到達シ居リ既ニ去ル三十日ノ理事会ニ於テモ貴理事ノ論難ニ拘ハラス他ノ總テノ理事ハ支那ノ要求ヲ拒絶シ得ストノ意見ナリシ事御承知ノ通ナリ此ノ点何人ニモ疑義無ク仮令海牙司法裁判所ノ意見ヲ徵セラルモ結局同一ノ結論ニ達スヘシトタル後日本政府ニテハ十五条ニ余り重キヲ置カルニ非スヤト察セラル自分ノ考ニテハ同条第三項ノ理事会ノ仲介カ意味ヲ為スモノニテ結局第十一条ノ場合ト大差無シト信スル旨反復説明シ日本側ノ御希望ニハ出来ル丈度キモ支那側要求ヲ單純ニ却下スルハ理事会トシテ遺憾乍ラ不可能ナリト答ヘタリ

<sup>(2)</sup>  
右ニ対シ本理事ヨリ更ニ十五条適用ノ場合満州問題ニ付理事会ノ介入ヲ承知スルコトトナリ之迄日本カ第(三)者ノ

干渉ヲ容認シ得サリシ事情ト反対ノ結果ヲ生スヘク此点到底甘受シ難キ次第ヲ述フ「ド」ハ之ニ対シ十五条ニ関スル支那側要求ハ上海事件ノ勃発ナクトモ支那ハ提出ノ決心ヲ有セシモノニテ理事會議長及自分ニ於テ出来得ル限り其提出ヲ阻止シ来リシモ遂ニ及ハサルニ至レル次第諒承セラレタク又支那ノ要求ハ日支間紛争ヲ指シ満州問題上海問題ノ二者ヲ判然區別シ得ヘキ性質ニ非サルカ故ニ日本側主張ノ如ク同条適用ヲ上海問題ニ局限セントスルコトモ実際不可能ナリト述フ

<sup>(3)</sup>  
松平大使モ傍ヨリ口ヲ添ヘ十五条ノ決定カ日本側ニ悪シキ印象ヲ与ヘ理事会カ恰モ無法ノ支那側要求ヲ取上ケタルカ如キ感想ヲ懷キ十二月理事会ノ際ノ好意的態度ニ顧ミ失望シ居リ事件解決上甚々面白カラストテ専ラ政治的見地ヨリ十五条適用ノ不可ヲ力説セラレタルモ「ド」ハ前述ノ如キ十五条ノ内容ヨリ之ヲ見決シテ制裁ヲ意味セス單ニ国交断絶ニ至ル虞アル紛争ノ処理上理事会ノ手続ヲ定メタルニ過問題ニ言及シ(脱退問題ニ関シテハ客年本使ト「ド」トノキサル旨慎重説明セリ尚「ドラモンド」ハ日本ノ連盟脱退話頭ニ上リタルコトアリタルヲ以テ之ヲ持出シタルモノト

意ヲ喚起シ居ル様認メラレ且当國議会ハ二月四日ヨリ開会スルコトニモアリ政府ニ対スル質問等アル場合ヲ予期シ旁々二日不取敢外務次官ヲ訪ヒ閣下ノ在東京英、米、仏大使ニセラレタル説明其他同日迄ニ接受ノ貴電並ニ上海来電ニ依リ最近ノ事情ヲ説明シ置キタルカ次官ハ右報道ヲ謝シ満州ニ対スル日本ノ立場ハ心アルモノハ了解シ居ルモ上海ニ対シテハ共同租界ノ関係モアリ兎角人心ヲ刺激シ易ク殊ニ市街ノ爆撃ハ何分ニモ一般ノ感情ヲ悪化スル惧アリ之ヲ避ケ得レハ輿論ヲ余程沈静セシメ得ヘシト述ヘタリ尚当國政府ハ從来トモ時局ニ関シ沈黙ヲ守リ新聞紙上政府當局談其他政府筋ノ意見ヲ洩ス記事ヲ掲ケタルコトナク上海事件ニ関シ各方面ノ意見ヲ探訪シタル新聞アルモ政府當局方面ハ何等特別ノ措置ヲ執リ居ラス冷静ニ監視シ居レリトノ記事ヲ見タルノミナリ

晩香坡ヘ郵報セリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

思考ス) 仮令日本ハ連盟ヲ脱退セラルルトスルモ規約第一  
条第三項ノ規定ニ依リ二年間ハ義務ヲ負担スヘキ次第ナル  
ニ付此点特ニ注意セラレタキ旨ヲ述ヘタルヲ以テ本使ハ右

ハ文面上其通ナランモ實際上ハ脱退ト同時ニ日本ト連盟ト  
ノ縁ハ切ルル次第ト思考スト述ヘ置キタリ

(4) 右ノ次第二テ本使等兩人「ド」ト会見ノ結果當方主張ヲ容  
認セシムルニ至ラシテ引取り次テ打揃ヒ「セシル」卿ヲ

訪問シ同様我方ノ主張ヲ繰返シタルモ之レ又「ド」ト大同  
小異ノ議論ニ終レリ尤モ満州ニ対シ十五条適用ヲ容認シ得

サル我方政治上ノ理由ニ付テハ多少素首ヲ傾ケタルヤニ認  
メラレ本理事ハ之ニテ先ツ辞去シ松平大使ハ引続キ同卿ニ

上海事件ノ詳細ヲ地図ニ付説明シ引取ラレタリ尚同大使ハ  
同日「トーマス」ト會見同様上海事件ニ付誤解ナキ様詳細

説明セラレタリ同卿ハ本使等會見後直ニ「トーマス」大臣  
ノ許ニ報告ニ赴ケリト云フ

「ボンクール」議長三日漸ク巴里ヨリ帰着セルニ付四日正  
午本件ニ付談合ヲ遂ケタルカ其結果ハ追電スヘシ

英、米、仏、独、伊、支ヘ転電セリ

69 昭和7年2月5日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
規約第十五条適用問題に関するポール・ポン  
クール理事会議長との会談について

第四五号(大至急、極秘)  
(1) 佐藤理事ヨリ

四日「ボンクール」ト本使単独会談ス

十五条適用ニ関スル支那側要求ヲ理事会トシテ無下ニ拒  
(否)スルコトノ不可能ナル点ハ「ドラモンド」「セシル」ノ

意見ト別段異ナル所ナク且ツ十五条適用ノ場合ニ於テモ十  
一条ノ場合ト大差ナキ点ヲ高調シ十五条ノ手続中先ツ執ル  
ヘキ手段ハ第一項ニ依ル实地調査ニシテ上海ニ関シテハ此

ノ点至急ヲ要スルニ付去ル三十日理事会ニテ調査委員会設  
置ヲ決議シ目下其ノ報告ヲ待チツアル次第ナルモ満州問  
題ニ關シテハ之ト異ナリ既ニ別個ノ調査委員ヲ派遣スルコ

トニ決シ且ツ十二月十日以来特別新事実ナキニ顧ミ之ヲ別  
取扱シタル次第ニシテ右ハ当然ノ処置ト信スト述ヘ尚議  
(2)

長個人ノ考トシテ敷衍スル所ニ依レハ十五条カ満州問題ニ  
適用セラルルトシテモ余リニ之ニ重キヲ置ク必要ナキハ勿

タル以上ハ其實際ノ適用振ニ關シテハ充分ノ伸縮性ヲ保タ  
シムルコト当然ノコトト思考スト付加セリ

右会談ニ於テ得タル印象ニ依レハ國際的ニ重要且機微ナル  
關係ヲ有スル上海事件サヘ日本側ノ適當ナル措置ニ依リ  
(充) 分ナル解決ヲ見ルニ至ラハ之ヲ以テ満州問題ノ解決

ニ資シ得ヘキニアラスヤトノ感ヲ得タルノミナラス議長自  
身ハ満州ニ関スル限り我方ノ主張ニ對シ充分ノ諒解アルヤ  
ニ見受ケラレタリ右内密ノ御参考迄

英、米、仏、独、伊、支ニ転電セリ

70 昭和7年2月5日 在英國沢田臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
英國下院におけるランズベリーの日本批判發  
言について

第六〇号(暗)

往電第五七号「ランズベリー」カ議会ニ於テ本邦ニ對シ矯  
激ナル言辭ヲ用ヒタルニ付テハ支那側ニ於テ労働党方面ニ  
近付キ居リタル形跡モアルヤノ聞込アリタルヲ以テ予テ労  
働党及「トレード、ユニオン」方面ニ近付キ多キ茂木惣兵  
衛氏ニ夫レトナク探リヲ入レラレタキ旨話シ置キタルカ三

得ヘキハ右貴説ノ如キ伸縮性ニ在リテ理事会ノ執ルヘキ措  
置モ此考ヲ以テ實際のニ進ムヲ要スヘキ次第ナリト答ヘ  
唯今回ノ紛争力歐州ニ於テモ重要ナル先例ヲ作ル点ニ於テ  
自分等モ慎重ノ注意ヲ払ヒツツアル次第ニシテ此ノ十五条  
適用ノ要求ヲ無下ニ斥ケ得ス且同条第一項ノ処置ヲ迅速ニ  
執ラサルヲ得サル所以ナルモ一旦同条ノ適用ヲ見ルニ至リ  
ノ干与ヲ容認シ得サル次第ヲ述へ且支那ニ對シ正直ニ連盟  
規約ヲ適用スルノ不可能ナル所以即チ規約適用ノ伸縮性ニ  
関シ自説ヲ主張セル處議長モ之ヲ首肯シ極メテ重要なル所  
説ナリト称シ理事会トシテ實際上日支紛争ノ處理ニ当リ心  
得ヘキハ右貴説ノ如キ伸縮性ニ在リテ理事会ノ執ルヘキ措

日茂木カ「ランズベリー」其他二、三ノ労働党議員ニ接シ

テ得タル想像ニ依レハ別ニ支那側ヨリ近付キ居レル形跡認

メラレサリシ由ニテ寧ロ日本ノ條約上ノ権益ニ対シ支那側

ノ非行ハ之ヲ認メ居リ只此カ矯正ノ為日本ハ國際連盟其他

ノ國際機関若ハ手段ニ訴フヘキニ拘ハラス自ラ実力ヲ以テ

解決ヲ計ラントスルコトニハ同意シ難ク日本ノ帝國主義ニ

ハ何處迄モ反対セサルヘカラストノ労働党ノ純粹ナル理論

上ノ立場ヨリ攻撃セントスルモノナリト述ヘタル趣ニテ茂

木ヨリ日本ノ立場ヲ説明スルト共ニ海賊ナル用語ハ過激ニ

失シ事ヲ纏メントスル政治家ノ慎ムヘキ処ニ非スヤト注意

シタルニ対シ「ランズベリー」ハ實ハ自分達ニハ正確ナル

情報ヲ得ル途ナク一ニ新聞ノ報道ニ依ルノミナル處特ニ最

近上海方面ヨリ日本ノ行動ハ行過キ居レリトノ報道多キヲ

見テハ日本ノ真意侵略ニアリト断セ（サルヲ得）サリシ次

第二テ遂ニ強キ言葉ヲ用ヒタルモノナリト答ヘタル趣ナリ

松平大使ニ転電セリ

71 昭和7年2月(6日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛（電報）

南京砲撃事件は日本側より開始との中國理事

#### 第四七号

支那理事ヨリ事務總長ニ提出セル廿一日及一日付南京電報

要点左ノ通

一、丁超ヨリノ報告ニ依レハ十八日日本軍ハ寬城子駅ヲ占

領シ駅長ヲ逮捕シ駅員數名ヲ銃殺シ列車ノ出発ヲ阻ミ且日

72 昭和7年2月(6日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛（電報）

上海における日本軍の警備区域問題に関する

中國側提出電報の内容について

#### の通告について

#### 第四六号

支那理事ハ二日付事務總長宛通告ヲ以テ南京事件ニ關シ右

ハ日本軍艦カ突然八発ノ砲撃ヲ開始シタルニ始マリ獅子台

砲台ハ日本側砲撃中何等応戦セルコトナシト述ヘ且南京政

府ハ本件ニ關シ賠償ヲ求ムルノ權利ヲ留保スヘク又在外公

使ニ對シ任國政府ニ外交上ノ申出ヲ為スコトヲ訓令セル趣

ヲ述ヘ居レリ

英、米、仏各大使、在支公使ヘ転電シ他ノ在欧大使ヘ郵送

セリ

支那理事ヨリ事務總長ニ提出セル廿一日及一日付南京電報

要点左ノ通

一、丁超ヨリノ報告ニ依レハ十八日日本軍ハ寬城子駅ヲ占

領シ駅長ヲ逮捕シ駅員數名ヲ銃殺シ列車ノ出発ヲ阻ミ且日

72 昭和7年2月(6日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛（電報）

上海における日本軍の警備区域問題に関する

中國側提出電報の内容について

#### 第四九号（大至急極秘）

往電第<sup>(1)</sup>六九文書<sup>(2)</sup>四五号ニ閔シ

佐藤理事ヨリ

「ボンクール」トノ會見後伊国外務大臣及独逸理事会代表者ト会談ス

今回事務總長及英仏伊獨各代表者トノ會見ニ依リ得タル印

象ニ依レハ屢次ノ往電ニモ述ヘタル如ク上海事件ノ解決サ

ヘ急速実（現）スルニ於テハ滿州問題ノ方ハ既ニ十二月十

日ノ理事会決議ニ依ル調査委員ノ出発セル今日ナルニ付先

ツ其調査ノ結果ヲ待ツコトトシ時日ヲ遷延セシメ其内ニ何

トカ余リ問題ヲ荒立テスシテ自然的ニ解決セシメント考へ

居ルモノノ如ク見受ケラル以上ノ次第ニ付上海問題ニ閔シ

テハ同地ニ於ケル調査委員会報告接到次第多分理事会ヲ開

催シ右ヲ披露スルノ段取りトナル可ク（此点ハ上海問題交渉ノ形勢推移如何ニ依リ異ル可シ）而シテ支那側ハ上海満

州問題全部ニ亘ル陳述書ヲ提出ス可キ事想像ニ難カラサル

處既報ノ通此際十五条ノ適用ヲ上海事件ノミニ限ラントス

ルカ如キ約束ヲ前以テ各方面ヨリ取クル事頗ル困難ナル

ヲ以テ我方トシテハ問題ヲ（脱）上海事件ノミニ付陳述書ヲ

郵送セリ

73 昭和7年2月(6日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛（電報）

規約第十五条適用を事實上上海事變に限定す  
べき方策について

提出スル事トシ我方ノ関スル限り事實上十五条ヲ上海事件ノミニ限定スル如キ方策ニ出ツル事然ル可ク若シ右ニ對シ

理事会ニ於テ何等異議アルニ於テハ其ノ節改メテ我方ノ決意ヲ示シ奮闘ス可ク夫レ迄ハ形勢ヲ我ニ有利ニ導ク可ク理

事会内外ニ於テ善處スルヲ得策トス可シ尚貴電(第一八四文書)第二九号ニ於テ第十五条ヲ滿州問題ニ迄適用セントスル場合ニハ重大ナル決意ヲ為サルヲ得ス云々ト申越サレタルハ連盟脱退ノ問題ヲ考慮シ居ラルコト存スル脱退問題ハ单ニ日支間ノ紛争ノミヨリスレハ或ハ日本ノ主張ニ付満足ヲ得サル場合之ヲ考慮スルトモ無理カラ又次第ト存スルモ脱退ト共ニ日本ハ國際団体ヨリ敵視セラルノミナラス滿州問題ニ関シテモ單ニ日支間ニ於テ解决シ得ヘキモノニアラスドノ道國際間ニ右解决ヲ承認セシムルヲ要スル次第ニテ寧ロ連盟ヲ利用シ他国ノ承認ヲ取付クルコト各般ノ理由ニ依り我方ニ利益ナルヘシト思考セラル右數次ノ往電ト重複ノ点アルモ卑見御参考迄申進ス

英、米、仏、独、伊、支ニ転電セリ

74 昭和7年2月(6)日 ※在シユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

ニ於テ攻勢ニ出テサル限り我方ニ於テハ攻撃スルノ意ナシ  
満州ニ於ケル我カ「バイタル、インテレスト」ニ関スル問題トハ全ク性質ヲ異ニシ寧ロ滿蒙問題解決ノ為ニモ此ノ地方ニ於テ事ヲ起スコトハ日本ニ於テ好マサル所ナル旨説明シタル処「タルジュ」ハ之ヲ聽取シ自分ハ日本ノ友人トシテ腹蔵ナキコトヲ申上クルカ若シ上海事件ニシテ成ルヘク速ニ鎮静セサルニ於テハ日本ニ取り「シリアス」ナル状況起ルコトヲ心配シ居レリト述へ当地ニ於テモ小国側ニ於テハ大国側ト異リ日本ニ対スル反感非常ニ強ク現ニ二日前ハ可成リ日本ニ対シ險惡ナル空氣アリ日本代表ヲ副議長ニ選フコトニ対シテスラ反対ノ運動アリタル程ナリト述ヘタルニ付本使ハ目下日本モ成ルヘク速ニ解决スヘキ方針ヲ以テ進ミ居ル旨ヲ述へ更ニ軍縮問題ニ移リ今次諸問題殊ニ重大ノ利害関係アル問題ニ付テハ腹蔵ナク意見ノ交換ヲナスコト然ルヘシト述ヘタル処「タルジュ」ハ倫敦海軍會議ニ付テハ日仏間ニ稍々連絡不充分ナル感アリタルモ今回ノ會議ニ於テハ出来得ルタケ協調連絡ヲ取リタキ旨ヲ述ヘタリ後段動モスレハ世上ノ誤解ヲ招ク虞アルニ付外部ニ洩レサル様御取扱アリタシ

上海事変の早期解決をタルジュー仏全権勧告

について

第五〇号(極秘)

松平大使ヨリ

二月五日「タルジュ」ヲ往訪シ上海事件ニ関スル最近ノ報道トシテ貴大臣ヨリ三政府ニ回答セラレタル回答ノ内容ヲ同氏参考迄ニ説明シ尚同事件ニ関シ一般ニ誤解ノ生スル点ニ関シ説明シタルカ同氏ハ同地方ノ支那軍ナルモノノ性質即チ正規軍ナリヤ又何レノ政権ニ属シ居ルヤ又租界内ニ於ケル日本兵其ノ他外國兵トノ間ニ事件ノ起ルコトナキヤ等種々質問シタルニ付之ニ対シ当方ニ於テ有スル報道ニ依リ説明シ置ケリ尚同氏ハ更ニ進出スル意アリヤト訊ネタルニ付日本ハ上海ニ於ケル僧侶虐殺事件ニ関シテ提出シタル要求一旦支那側ニ依リテ受諾セラレタル以上武力ヲ用フル意志ナカリシモ唯工部局ニ於テ戒嚴令ヲ布告シタル為各国軍ト共ニ其ノ警備区域ニ向ヒタル際支那側ヨリ射撃ヲ開始シタルニ因ヲ發スルモノニシテ我方ニ於テハ支那側ヨリ発砲セサル限り之ヲ攻撃セサル方針ナリシモ数回ニ亘リ支那側ニ於テ約ヲ破リタル為生シタルモノナルヲ以テ若シ支那側

75 昭和7年2月(6)日 在米国出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
上海停戦問題に関する日本側回答への米国の  
対応について  
第九六号(暗、大至急)  
帝国政府回答ニ付テハ米国政府ニ於テハ之ヲ以テ甚タ不満足ナリトテ失望シ乍ラモ閣下カ列国側ヨリ更ニ何等提議アラハ喜ンテ傾聴スヘシト述ヘラレタルコト並ニ日本陸戦隊ニ於テ四日来英米受持区域ヨリ引揚ケタルコト等ニ鑑ミ此ノ際何トカ話合ヒ纏マル望アリト考ヘ居ルヤニ報セラレタル處五日午後極メテ信スヘキ筋ヨリノ内報ニ依レハ米国政府ニ於テハ閣下ト關係国大使トノ応答ノ模様、日本カ愈々陸兵派遣ヲ決定シタルコト並ニ上海ニ於ケル戰闘拡大ノ状態ニ顧ミ到底此上交渉ヲ繼續スルモ満足ナル解決ニ到達スルコト困難ナルヘシト認メ此際断然日本トノ交渉ヲ打切り關係各國ヨリ日本政府ニ対シ其旨回答スルト共ニ各國ハ上海ニ於ケル各国民ノ生命財産保護ノ為最善ノ努力ヲ尽スヘキコトヲ通告スルコトニ内定シ且下關係国ト相談中ナルカ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

「マクドナルド」病氣中ナルト共ニ「サイモン」ハ恰モ寿府行キノ途中ニアル為最モ重要ナル英國トノ話合纏マラサル為日本ニ対シ意思表示ヲスル迄ニハ尚若干ノ時間ヲ要スヘシトノコトナリ英國トノ交渉ノ結果或ハ変更ヲ見ルカ如キコトアルヤモ計リ難キモ聞込ノ儘取急キ電報ス

寿府連盟へ転電シ、連盟ヨリ英、仏、伊へ転電セシム

76 昭和7年2月6日

在仏國栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に関する仏國上、下院における討議について

パリ 2月6日後発  
本省 2月7日前着

第八三号

新聞報ニ依レハ五日上院外交委員会ニ於テ同委員會議長代理「モーリス・オルディネール」ハ日支紛争ニ関スル日本側主張ヲ概説シタル上日本カ支那各地ニ亘り支配権ヲ及ホスカ如キ事態發生セハ日本ハ歐米諸国ニ対シ「ボリシェヴィズム」討伐若クハ和平ノ確立ヲ約シタルニ反シ國際平和ノ脅威ヲナスモノナリ上海事変ハ此危險ヲ感得セシムトシ

77 昭和7年2月6日

芳沢外務大臣より  
在仏國栗山臨時代理大使、在ソ連広田大使宛(電報)

日本軍のハルビン進出について

合第四二九号(暗)

吉林新政府ハ一月上旬未タ同政府ニ帰順セサル省内ノ反動分子討伐ヲ企テ同月中旬先ツ榆樹(Yushu)(吉林ノ北約百二十粄)ニ拠レル張作舟軍ヲ破リ次イテ哈爾賓方面ニ向ヒタルカ馮占海、李杜等反政府軍ハ廿七日政府軍ト博家甸方

速カニ國際協調ノ必要ヲ説キタル後討議行ハレタルカ或ハ紛争ノ根本原因トシテ支那ノ無秩序状態ヲ指摘スルモノ若クハ右ノ外國際連盟ノ無力ヲ挙クル者アリ一二議員ハ仏國ハ印度支那及上海ニ多大ノ利益ヲ有スル処今ヤ上海ニ於ケル利益ハ直接脅カサレタリト述ヘタル趣ナリ

尚四日下院ニ於テ社会党議員「ムーテ」ハ日支紛争ニ関スル同人ノ質問ニ付即時討議ヲ要求スルト共ニ侵略國ニ関スル政府ノ態度表明ヲ要求シ極左派議員ノ支持アリタルカ票決ノ結果三一四票対二六三票ヲ以テ政府要求通り本件討議上程ノ日取りハ二月九日改メテ決定スル事トナレリ

面(哈爾賓ノ北郊)ニ於テ衝突セリ其ノ際博家甸ヨリ哈爾賓市内ニ避難中ノ我居留民中四名ハ支那兵ノ為ニ銃殺セラレ之ト同行ノ十余名ハ司令部ニ拘禁セラレ内三名銃殺セラレ又博家甸ノ本邦人家屋ハ掠奪ヲ受ケ哈爾賓及付近ノ我居

留民(約六千名)ノ安全頗ル脅威セラルニ至レリ茲ニ於テ我方ハ我居留民保護ノ為長春ヨリ一部隊ヲ北上セシムルコトトナリ廿八日早朝出動命令発セラレタルカ東鐵護路軍(支那兵)ハ我軍ノ北上ヲ阻止センカタメ老少溝(Lao hsiao kou)(東支鉄南部線沿線長春ノ北百二十粄)付近

ニ於テ鉄道ヲ破壊シ居リシ等ノ為メ我軍ノ進出著シク阻害セラレタルモ二月一日当初我軍輸送ヲ拒否セル東支鐵側カ

態度ヲ変シ之ヲ承諾セル結果増援隊ノ進出モ抄リ四日哈爾賓南方三、四里ノ地点ニ進出セリ之ヨリ先在哈爾賓總領事館ニ於テハ哈爾賓付近ノ反政府軍ニ対シ我軍トノ衝突ヲ避クル為撤退セムコトヲ勧告セルモ応セス四日午後我軍ハ哈爾賓南方郊外ニテ右反政府軍ヲ擊退セル後ハ五日午後同市ニ入レルカ其間前記事件勃発当初ノ被害ノ外居留民ニ事故ナカリシモノノ如ク市中ハ我軍ノ入市後忽チ平穏ニ帰シタル由ナリ反政府軍ハ四日来博家甸方面ヨリ賓県街道及松花

江ヲ渡リ統々退却シツツアル趣ナリ

(編注) 本電報は、「米、ミニラ、シンガポール、浦潮、リオデジャネイロ」にも発電された。

78 昭和7年2月7日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条適用撤回問題に関する連盟事務局側意見について

第五一号(極秘)  
佐藤理事ヨリ

英米仏三国政府提議ノ各項ニ付「ドラモンド」杉村「レジエ」等ト事務局側ニ於テ折角攻究ヲ重ネタル由ナルカ杉村ヨリノ内報ニ依レハ右攻究ノ結果帝国政府ノ訓電中第一項乃至第三項ハ其ノ儘トナシ第四項ニ付テハ全部拒絶セラル代リニ单ニ上海事件ノ解決ニ付テノミ之ヲ応諾スルコトトセラレ右応諾ノ條件トシテ滿州及上海事件ニ付規約第十一条ヲ適用セントスル支那側ノ要求ヲ撤回セシメ即チ(イ)満州ニ付テハ從来通り規約第十二条ニ依ル昨年十二月十日ノ理事会決議ニ依リ解決ヲ計リ又(ロ)上海ニ付テハ三国提議第

五項ニ依リ解決スルノ方法ヲ關係方面ニ提示シテハ如何ト

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ノ点ニ意見一致シタル趣ナリ右ニ関シ「ド」ハ日本側サヘ大体ニ於テ右ニ御異存ナクハ英米仏等ヲ動カシ支那側ニ対シ事件カ遠隔ノ地ニ起レルニ顧ミ理事会ヲシテ第十五条ニ依リ六ヶ月間にニ報告ヲ提出セシムルコト実際上殆ト不可能ナルノ事情ヲ指摘シ此ノ際寧ロ上海事件タケナリトモ三國ノ提議ニ依リ急速解決スルコトニ力ヲ注キ第十五条ノ要求ハ撤回スル方得策ナルヲ力説スヘク支那側説得ノ見込ナキニアラスト解シ居ル由

(2) 尚(一)米国側ノ理事会ニ対スル協力ハ第十二条ノ場合ニ於テモ単ニ一二回「オブザーバー」ヲ出席セシメタルト同様ニ依ル調査委員ノ派遣ニ参加シタル位ニ止マリタル次第ナルカ若シ愈同國ノ甚タシク好マサル第十五条ヲ適用スルコトトモナラハ理事会トシテハ最早米国側ノ協力ヲ期待シ得サルニ至ルヘク此ノ点支那側ニ於テ特ニ反省ノ要アルヘキコト(二)日本側ニ於テハ愈第十五条ヲ満州ニ迄適用スルコトトモナラハ遂ニハ連盟ヲ脱退スルニ至ルナラント見受ケラルル事実ハ連盟首脳部ニ於テ充分慎重ニ考慮セサルヘカラサルコト(三)支那側カ最近規約第十五条ノ適用ヲ要求シ置キナカラ今更之ト全然趣ヲ異ニスル三国提議ノ第五項ヲ承認

シタルコト等目下強ク連盟当局ノ注意ヲ惹キ居ル要点ナル由將又上海事件ノ解決ニ三国提案第五項ノ方法ヲ採用スル場合十二月十日理事会決議ハ上海事件ヲ予想セサルモノナレハ当然問題外トナルヘキニ付不戦条約ノ精神ニ従フノ外連盟規約又ハ理事会ノ決定トハ連絡ナキコトトナリ上海事件ノ処理ハ一見理事会ノ手ヲ離ルルヤノ外觀ヲ呈スヘキモ右ノ如キ形式ノ問題ハ関係國間ノ話合ニテ如何様ニモ解決シ得ヘク第五項ニ依ル交渉ノ経過及其後成立セル協定ヲ理事會ニ通報スル程度ノ取極トナシ置カハ可ナラントノ説モアリ前記「ド」等ノ考案ハ既ニ政府ニ於テ三國政府提議ニ對シ確答ヲ与ヘラレタル次第ニモ非サルニ付帝国政府側ヨリ進ニ於テハ判断シ兼ヌルモ上海事件ニ関スル三國側トノ交渉全然打切ラレタル次第ニモ非サルニ付帝国政府側ヨリ進ニテ右考案ヲ基礎トシ新ニ三國側へ提議セラルルコト事件打開上一案ナルヘシト存セラル

英、米、仏、伊、独、支ヘ転電セリ

79 昭和7年2月7日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条適用問題に関するドラモンドの――

態度変更について

第五二号(暗)

<sup>(1)</sup> (七八文書)

往電第五一号ニ関シ

佐藤理事ヨリ

同電ハ昨五日夕刻迄ニ杉村カ事務総長ト会談ノ結果得タル感想ヲ御参考ニ供シタル次第ノ處今六日朝ニ至リ形勢逆転ノ氣味アリ事務総長ハ各方面ニテ受ケタル情報ニ依レハ日本ノ態度ハ判明セス初メ日本ヨリ関係國ノ仲介ヲ依頼シ置キ乍ラ今日ニテハ英、米、仏三国ノ調停条件ヲ殆ト総拒絶セル有様ニテハ到底各国ニ於テ支那ヲ圧迫シ十五

本ノ態度ハ判明セス初メ日本ヨリ関係國ノ仲介ヲ依頼シ置

キ乍ラ漏シタリトノ事ニテ唯同総長ハ事実満州

ニ関スル限り十五条ハ適用ヲ見サル様出来得ル丈尽力ス可

ク殊ニ支那ノ陳情書モ六ヶ月以内ニ提出セラルルコトアルヘキカ為結局調査委員ノ報告提出ヲ待チ其上ニテ何トカ処

決スル外ナク其場合成ルヘク理事会モ深入リセサル様取計度キ考ナリト語レル由ナリ

以上ノ事実ニ前記往電ト对照シ朝令暮改ノ氣味アルモ六日朝ノ実情ニシテ何故「ドラモンド」カ斯ク急ニ態度(ヲ)

朝ノ事実ニ前記往電ト对照シ朝令暮改ノ氣味アルモ六日朝ノ実情ニシテ何故「ドラモンド」カ斯ク急ニ態度(ヲ)

シタルコト等目下強ク連盟当局ノ注意ヲ惹キ居ル要点ナル由將又上海事件ノ解決ニ三国提案第五項ノ方法ヲ採用スル場合十二月十日理事会決議ハ上海事件ヲ予想セサルモノナレハ当然問題外トナルヘキニ付不戦条約ノ精神ニ従フノ外連盟規約又ハ理事会ノ決定トハ連絡ナキコトトナリ上海事件ノ処理ハ一見理事会ノ手ヲ離ルルヤノ外觀ヲ呈スヘキモ右ノ如キ形式ノ問題ハ関係國間ノ話合ニテ如何様ニモ解決シ得ヘク第五項ニ依ル交渉ノ経過及其後成立セル協定ヲ理事會ニ通報スル程度ノ取極トナシ置カハ可ナラントノ説モアリ前記「ド」等ノ考案ハ既ニ政府ニ於テ三國政府提議ニ對シ確答ヲ与ヘラレタル次第ニモ非サルニ付帝国政府側ヨリ進ニ於テハ判断シ兼ヌルモ上海事件ニ関スル三國側トノ交渉全然打切ラレタル次第ニモ非サルニ付帝国政府側ヨリ進ニテ右考案ヲ基礎トシ新ニ三國側へ提議セラルルコト事件打開上一案ナルヘシト存セラル

英、米、仏、伊、独、支ヘ転電セリ

79 昭和7年2月7日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条適用問題に関するドラモンドの――

80 昭和7年2月9日 在米国出淵大使より

芳沢外務大臣宛(電報)

中国主要都市周辺に中立地域設定等日本側提

案に関する情報の真偽について

第一〇八号(暗)

八日東京発「エーピー」通信ハ外務省「スポーツマン」

ノ言ニ依レハ適當ノ機会ニ外國政府ヘ申入ル様在外使臣

ヘ訓令セラレタル新提案中ニハ九国條約ノ規定ヨリ満州ヲ

除外スルコト及支那ノ主要都市(上海、廣東、漢口、青島

及天津ニシテ満州ノ都市ハ除外セラル)ノ周囲ニ五十哩乃至二十哩ノ中立地帯ヲ設ケ國際警察力ヲ以テ之ヲ警備スル

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

コトカ含マレ居リ後者ハ支那ニ平和ト安定セル政府ヲ与フ  
ル為或種ノ國際的干渉ノ必要ヲ認ムヘキ處右ハスル外国ノ

干渉ヲ避クルノ原則ニ立脚セル九国条約ニ反スルカ如キモ

元來華盛頓諸條約ハ支那カ一人前ノ國家ナルコトノ仮定ノ

下ニ作ラレタルモノニシテ斯カル仮定ノ誤ナルコト明トナ

レル今日ニ於テハ列國ノ干渉モ亦已ムヲ得ストノ意味合ヲ

報シ右ハ頗ル世上ノ注意ヲ喚起セリ

八日國務省高官ハ新聞記者會見ニ於テ米国政府ハ未タ正式ニスル提案ニ接セサルモ若シ正式ノ提案ヲ受ケタル場合ハ之ニ反対スヘシ何トナレハ右ハ三十五年前ノ支那分割問題ヲ再演セシムルモノナリト述ヘタル趣ナリ就テハ最近何レカノ筋ヨリ何等似寄リノ事柄ヲ記者団ニ語ラレタルコトアリヤ本使含ミ迄至急御回電ヲ請フ

81 昭和7年2月10日 在仏國栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日中紛争に関する仏國下院の討議について

第九三号

パリ 2月10日後発  
本省 2月11日前着

82 昭和7年2月(10)日 在イタリア國吉田大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

対英協調の必要性について

第三三号(暗)

上海ノ時局ヲ帝国ノ力ヲ以テ一応收拾スルコト帝国ノ威信ノ保持及我對支商權ノ将来ノ為先決且緊急ノ事タルハ重光

公使ノ所見ノ如シト信ス從テ陸兵派遣亦已ムヲ得サルヘシ  
外國側ノ非難モ我真意明白タルニ至ラハ自然消滅スヘク一  
時ノ苦境ハ致シ方無キモノトシテ上海ニ於ケル我軍ノ行動ニ益々慎重且細心ノ注意ヲ加ヘシメラルト共ニ此ノ上共  
秩序ノ回復其ノ他ノ善後処分ニ付テハ力メテ列國ト協調ス  
ルノ御方針ヲ飽ク迄固守セラレタキモノト存スル處列國ト  
ノ協調ト謂フモ伊國ノ如キハ列強ノ一タル體面ヲ維持スル  
ニ専ラナルノ外常ニ英米ノ態度ニ追従スルニ過キサルヘク  
仏亦支那問題ニ付テハ英美ヲ離レテ行動スルモノニアラサ  
ルヘク結局英米トノ協調ニ帰着スル次第ナルカ米ノ「スチ  
ムソン」ハ極東問題ニ關シ「キャスル」程ノ智識ナク「キ  
ャスル」ノ智識ニ信頼スル程ノ度量モナシ既ニ我ニ対シ  
種ノ感情ヲ生セル以上直接彼ヲ動カスコト甚タ困難ナルハ  
明カニシテ英ノ助言ニ俟ツノ外無カルヘシ而シテ英國政府  
ノ最近ノ態度ハ松平大使累次ノ電報ニ明カナル通り日英協  
調回復ノ希望ハ容易ニ之ヲ窺知スルヲ得ヘク又英國輿論ノ  
傾向ニ微スルニ自由労働系ニ属スルモノハ別トシ目下議會  
ニ絶対多数ヲ占ムル保守党側ノ意向ハ「モーニング・ボス  
ト」乃至ハ「デーリー・メール」等ニ反映セラレ上海事件

コトカ含マレ居リ後者ハ支那ニ平和ト安定セル政府ヲ与フ  
ル為或種ノ國際的干渉ノ必要ヲ認ムヘキ處右ハスル外国ノ

往電第八三号後段ニ関シ  
(七六文書)  
九日下院ニ於テ日支問題上程事実ニ関スル討議ハル一二  
社会党議員ハ日本ノ侵略行為ニ直面シ仏國政府ノ執リツツ  
アル傍観的態度ハ卑怯ナリト攻撃シ共産党議員之ニ和シ又  
急進社会党總裁「エリオ」ハ今ヤ支那ハ領土ヲ侵略サレ連  
盟及不戦条約ハ存立ヲ危クサレタリ政府ハ宜シク当事國ニ  
対シテ仲裁裁判ヲ強要スヘシト述へ同党一議員ハ日本ノ行  
動ハ支那ニ於ケル共産主義ノ發展ヲ助長ストセリ之ニ対シ  
首相ハ先ツ連盟理事会及仏國政府ノ執レル措置ヲ説明シ仲  
裁裁判付託説ヲ反駁シタル後仏國政府ハ目下列強ト協調シ  
テ平和的解決ノ為交渉中ナルノミナラス旁問題ノ機微ナル  
性質ニ鑑ミ本件討議ハ一先ツ打切トシタキ旨述ヘ票決ノ結果  
果三〇〇票対二六七票ヲ以テ政府ノ要求可決セラレタリ

ニ関連シ英國新聞カ拳テ我ニ非難ヲ加フルニ拘ラス依然ト  
シテ我ヲ弁護シ居ルハ保守党ノ我ニ対スル存意察知スルニ  
足ルヘク刻下ノ上海事件處理ニ関シテハ廟算既ニ定マレル  
モノアルヘク本使等ノ容喙スヘキ限りニアラサルモ本件交  
渉ノ間ニモ右保守党ノ存意ハ充分御考慮相成ト共ニ適當ノ  
機會モアラハ我ヨリ進ンテ英國政府ニ対シ対支政策ノ将来  
ニ付テ協議ヲ開始セラレ百弊ノ因ヲ生スル處ハ支那政情ノ  
混亂政争党争ニアリ中央政権ノ樹立秩序ノ回復ハ啻ニ極東  
平和維持ノ為ノミナラス支那民族四億ノ幸福ハ素ヨリ世界  
不況回復ノ為ニ打棄テ置クヘカラサル所以ヲ説キテ英國側  
ノ切実ナル考慮ヲ求メラル事然ルヘク支那ノ「レコンス  
トラクション」ハ結局ハ列強ノ協力ヲ以テ支那国民ニ客年  
十二月二十一日往電第二〇一号所載ノ如キ諸点ヲ考究シテ  
強要スルノ外無カルヘシト雖対支政策ノ大局ニ付彼我所見  
合致ノ点見出サルニ於テハ翻テ上海事件ノ善後処分ニモ  
彼我ノ意見自然ニ通スルモノ生シテ切迫セル上海方面ノ局  
面モ自然我ニ有利ニ展開スヘキヤト存セラル將又彼我ノ協  
力ト云フモ其ノ実我對支貿易ノ發展カ主要ノ目的ニシテ從

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ハ満腔ノ贊意ヲ表シ來レルヲ以テ実業家側ヨリ先ツ協調論ノ声ヲ挙ケシムレハ英國側モ我カ協調論ヲ以テ單ニ一時ノ政略ニ出テ居ルニ非サルヲ知リ一層其ノ熱心ヲ加フヘク其ノ辺ニ付テモ御考慮ヲ希望ス上海事件ノ紛糾ノ時日英協調論ノ提倡ハ現実ニ即セサル如キ感アルヘキモ却テ之目下ノ局面轉回ノ一案カト存シ重ネテ平生ノ所論ヲ電稟ス

連盟、支ニ転電シ英ニ暗送セリ

83 昭和7年2月(11)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海の局面緩和の必要について

第六七号(至急、極秘)

往電第六六号ニ関シ

佐藤理事ヨリ

九日ノ理事会ニ於テハ本使ヨリ現地ニ於テ戦闘行為休止中立地帯設置ニ關スル交渉今尚行ハレツツアル趣旨ノ声明ヲ発シタルニ対シ「サイモン」外相ハ之ヲ裏書シツツ日本力成ルヘク速ニ戦闘行為(脱?)ヲ為サントスル意見アルコトヲ他理事ト共ニ「テークノート」シ度シト述へ議長モ亦本使ノ披露シタル現地ニ於ケル交渉ニ依リ理事会ノ最モ希

右ニ付テハ政府ニ於テモ充分御考慮中トハ存スルモ前記當方ノ情勢モ御顧念ノ上本件御纏メ方精々御配慮相成度シ目下軍縮會議中ニテ各國理事当地ニ滯在シ居リ理事会ハ何時ニテモ開キ得ルヲ以テ(議長ハ一般議題ハ既ニ議了セルニ拘ハラス未タ今期理事会ノ閉会ヲ宣シ居ラス)從テ上海方面ノ事態一通り落着カサル限り理事会トシテモ手ヲ引ク能ハサル状況ニ在ル次第ニモアリ卑見率直ニ申上ク  
英、米、仏、伊、独、支ニ転電セリ

84 昭和7年2月(12)日 在仏國栗山臨時代理大臣より  
芳沢外務大臣宛(電報)

仏國下院における上海停戦問題に関する首相の陳述について

第九五号(八文書)

仏首相陳述中左ノ点議事録ニ基キ追電ス

一、理事会ハ第十五条適用ニ關スル支那側要求ニ付テハ目下研究中ニシテ未タ決定ニ至ラサルモ冤ニ角報告提出ノ為現地調査委員ヲ任命セルモノナリ

二、日支両国ニ対シ二月二日為シタル三国共同提議ニ対シ日本政府ハ交渉ニ「オブザーバー」若ハ第三者ノ介入ノ為ニ付テハ之ヲ拒絕シ新タル動員ノ中止ニ關シテハ其上海現有兵力疲弊ノ結果一万ノ派兵ヲ決定シタル今日最早之ヲ受諾スルヲ得スト答ヘ中立地帯設定ニ關シテハ支那軍ノ撤退スルニ於テハ日本軍ハ現ニ占拠スル地点ヨリ前進セサル

ヘシトノ留保ノ下ニ原則トシテ之ヲ受諾シ此点ニ關シ日本海軍司令官ハ列国軍指揮官及領事並ニ支那官憲ト協調スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケタリ中立地帯ハ第三國ノ警察力ニ依リ守

ラルヘク協定ノ大要ハ現地ニ於テ決定セラルヘン  
連盟ハ英、米、伊ニ転電セリ

85 昭和7年2月12日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米國出淵大使宛(電報)

第九師団の発煙筒携行について

合第四八一号(暗)

今回出勤ノ第九師団ハ(十四、五日頃上海着ノ予定)発煙筒ヲ携行スヘキ処右ハ單ニ「スマーカ、スクリーン」ヲ張ル為メノモノニシテ何等國際法ニ違反スルモノニ非ス且之カ使用ニ当リテハ列国軍司令官等ニ対シ適當説明シ必要ニ応シ其実驗ヲ為サシムル筈ナリ支那側ニテ毒瓦斯等ト惡宣伝ヲナス虞アルニ付念ノ為

寿府ヨリ在欧各大使(土ヲ除ク)ヘ転報アリタシ  
米ヨリ加奈陀、紐育、市俄古、桑港ヘ転報アリ度

上海事変の急速処理方について

第七〇号(暗、大至急)

佐藤理事ヨリ  
往電第六七号ニ閔シ  
(六三文書)

理事会ハ上海事件カ一応落付カサル限り手ヲ引ク能ハサル次第八冒頭往電末段申進メノ通ナル處其後本使カ軍縮會議ト関係無キ各國理事トノ会談ヨリ得タル印象ニ依レハ各理事ハ何トカ上海問題丈ニテモ取纏メ此際理事会ヲ終了セシメ度キ希望ニ見受ケラル而シテ本邦側ニトリテモ成ル可ク早ク今期理事会ヲ終了セシムル事利益ニシテ若シ此上徒ラニ時日ヲ遷延センカ支那側ハ必スヤ種々ノ策動ヲ為シ理事會モ窮余我方ニ不利ナル措置ニ出ツル虞無シトセス且当地ノ形勢ハ決シテ我ニ有利ナラサルニ付上海問題ノ始末ト共ニ理事会ヲシテ支那側ヲ抑ヘシメ滿州問題ハ調査委員ノ報告ヲ待ツ事トスル様仕向ケタシ右事情御考量ノ上急速上海方面ヲ片付クル様何分ノ御配慮相成タク理事会ハ「メイメル」ニ於ケル「クーデタ」問題ニテ明十三日会合ノ筈支那問題モ或ハ再ヒ上程セラルヘク上記ニ対シ帝国政府ノ御決心ニ付本理事ヨリ披露スルノ必要ニ迫フルルヤモ知レス右併セテ御考量ヲ請フ

英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

集シ事件ヲ審査 (for consideration on the dispute) ゼシムルカノ三ノ場合ヲ予想シ得ヘク右ノ内(一)ハ到底アリ得ヘカラサルコトニ属シ(二)ハ理事会ニ於テ總會議事規則第一条第二項末段ニ依リ總會ヲ招集シ本件処理ノ経過ヲ報告シ總會之ニ付論議シ其結果或ハ理事会ニ対シ勧告又ハ希望ヲ提出スルコトアルヘキモ事件ノ処理ハ法律上依然理事会ノ手ニ於テ行ハルヘキモノト解スヘク支那ノ申出ニ依レハ日本支事件ニ付理事会ハ規約第一〇条及第十二条ノ関スル限り依然之カ処理ニ任シ唯第十五条ニ付テノミ總會之力解決ニ当ル次ニテ理屈ハ兎ニ角理事会及總會カ同時ニ同一ノ事件ノ解決ヲ取扱フハ将来紛糾ヲ免レサルコト言ヲ待タス殊ニ(三)ノ場合ニ於テ然ラサルヲ得サル次第ナレハ理事会ニ於テ之ニ付スル責任ヲ取ルコト絶対ニ好マシカラス從テ(一)ノ場合ニ依リ支那ヨリ自ラ進テ總會ニ付議シ之ニ付スル全責任ヲ取ルヘキコト当然ト思考ス尚總會招集期日ニ付テハ議事規則第三条第三項ノ規定ハアルモ結局第一条第二項ニ依リ理事会ニ於テ之ヲ決定スルコトトナルヘシト察セラルモ此ノ点ニ付テハ法律部ノ意見ヲ徵シツツアレハ其上ニテ確定的意見ヲ回示スルコトト致度シ

### 日中紛争の總会移牒に関する中國側提案について

第七四号(暗、大至急)

往電第七三号ニ閔シ  
(一三九文書)

佐藤理事ヨリ

第一、十二日午後「ドラモンド」ハ支那側要求ニ対スル差當リノ意見トシテ大要左ノ通申述ヘタル旨杉村公使ヨリ内報アリタリ

伊日支事件ヲ改メテ總會ニ提起セントスル支那理事ノ申出ニ基キ本日午後五時半ヨリ十二国理事ノ会合ヲ開キ非公式ニ意見ノ交換ヲ為ス筈ナルカ本件ノ決定ハ必ス日支理事ヲ交ヘタル理事会ニ於テ之ヲ行フヘキヲ以テ日本側カ十二理事ノ決定ニ係ル既成事實ヲ押シ付ケラルルカ如キ事無キハ勿論日本側ノ意見モ充分ニ斟酌シテ決定ヲ為シ度キ希望ナリ(2)支那側ノ申出ニ依レハ(1)支那ハ事件ヲ改メテ總會ニ付議スルカ(2)理事会カ之ヲ總會ニ移スカ(3)理事会カ總會ヲ招

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

88 昭和7年2月(13日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日中紛争の総会移牒に関する十二国理事秘密  
会の審議模様について

第七五号(大至急、極秘)  
(<sup>1</sup>八七文書)

往電第七四号ニ関シ

十二日午後五時半ヨリ十二国理事秘密会ニ於テ本件支那側

要求ヲ審議シタルカ其ノ模様ニ付事務局ヨリノ聞キ込ミト

シテ杉村ヨリ左ノ通り内報アリ

(<sup>2</sup>八七文書)  
(1)一般ニ往電第七四号乙(2)及(3)ノ方法ハ理事会カ責任ヲ取

ルコトトナルヘキヲ以テ之ハ採用シ難ク(1)ノ方法即チ支那

側ノ責任ヲ以テ事件ヲ総会ニ移サシムル外ナシトノ意見多

シ(2)然ルニ支那側ノ真意ハ今直ニ総会ヲ開キ本件ノ審議ヲ求

ムルニ非ス唯将来本件ヲ総会ニ付議シ得ル権利ヲ留保シ置

カントスルモノナリトノ説アルモ支那側今回ノ措置ニ依リ

将来ニ亘リ斯ル権利ヲ留保シ得ルヤ否ヤ法律上疑問アリト

スル意見アリ

(3)又理事会ト総会トノ関係規約第十二条第二項ノ六ヶ月ノ

期間ノ問題等ニ付疑問百出シ結局何等纏マリタルコトナク十五日更ニ会合且具体的対策ヲ立ツルコトニ決定セリ尚公開理事会ハ多分十六日トナルヘク手続問題ニ関スル當方意見ハ研究ノ上追電御指令ヲ仰キ度ク存シ居レリ

前通り転電セリ

89 昭和7年2月(14日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日中紛争の総会移牒問題に関する対策について

第七七号(大至急、極秘)  
(<sup>1</sup>八八文書)

往電第七五号ニ関シ

佐藤理事ヨリ

一、十二国理事会合ニ於ケル形勢カ幸ニ杉村内報ノ如シト

セハ此ノ際理事会ハ自ラ臨時総会ヲ招集スルヲ避ケ支那側

ハ結局自己ノ責任ニ於テ第十五条ニ繫属中ノ事件ヲ総会ニ

移ス外ナキコトトナルヘシ而シテ支那側ノ真意若シ単ニ将来事件ヲ総会ニ付託スル権利ヲ留保スルニアルニ於テハ支

那側トシテモ上海方面ノ事態急変セサル限り此ノ際急ニ総会招集ヲ要求スルノ挙ニ出ツルヤ否ヤ疑問ナキ能ハス我方

トシテハ種々ノ場合ヲ想像シ

一、理事会自身カ第十五条第九項前段ニ依リ事件ヲ総会ニ移スカ又ハ二、理事会カ其一般権限(即チ第十五条第九項以外ノ手続)ニ依リ事件ノ審査ヲナス為総会ノ招集ヲナスカ如キ場合ニハ目下事件ハ第十一条ニ依リ理事会ニテ審理中

ニテ既ニ調査委員モ出発シ又第十五条ニ依リ事務総長カ上海事件ニ付調査中ノ現状ナルニ顧ミ理事会自ラ自分ノ無力ヲ表示シ現在迄為シ来レル努力ヲ無ニスルコトトナル点ヲ指摘シ理事会自身スル挙ニ出ツルコトナキ様努力ヲ試ルト

同時ニ支那側カ自己ノ責任ニ於テ事件ヲ第十五条第九項ニ依リ総会ニ移ス場合ニハ右ハ規約ニ認メラレタル権利ニシテ何人モ之ヲ阻止シ得サルヘキモ(1)スル挙ニ出ツルコトニ依リ事件ハ少クトモ第十五条ニ関スル限り理事会ノ手ヲ離ルルコトトナリ理事会ニ対スル甚タシキ不信任ノ意思表示トナルコト及(2)支那側今回ノ申出カ第十五条ニ依ル理事会ノ手続ハ其儘之ヲ進行セシメ支那側ノ都合好キ時機ニ之ヲ容認シ得サルノミナラス之亦理事会ヲ侮辱スルモノナルニ於テハ日本トシテハスル措置ハ規約ノ解釈上到底之ヲ容認シ得サルノミナラス之亦理事会ヲ侮辱スルモノナルニ

コトヲ指摘シ理事会及支那側ノ注意ヲ喚起スルト共ニ此ノ

二、然ルニ一方翻ツテ当地ノ形勢ヲ見ルニ軍縮會議ニ於ケル一般討議ニ於テ日支事件ニ言及セサルモノ殆ト皆無ニシテ小国代表者中ニハ明カニ理事会ニ対スル不満ノ意ヲ示スモノアリ又當地各種國際團体等ハ英米其他ノ同種團体ト相呼応シ日本カ停戦セサレハ第十六条ヲ適用スヘシ等トノ極端ナル決議等ヲ為サントスルカ如キ模様ニテ一般空氣我ニ取り頗ル不利トナリツツアル處上海方面休戦及中立地帯ノ設置急速実現出来得レハ未タシモ支那側ヲシテ総会招集ヲ思ヒ止マラシムルノ一縷ノ望ナキニアラスト思ハルモノノ如ク休戦ノ即時実現絶望ナルノミナラス陸兵上陸ト支那軍二十哩撤退ノ件ニテ関係国間ニ一向協議取運ハサルモノノ如ク休戦ノ即時実現絶望ナルノミナラス陸兵上陸ト共ニ大規模ノ戰闘行為行ハルヘシトモ想像セラレスクテハ前記支那側ノ申出ノ外理事会トシテモ輿論ノ手前進ンテ総会招集ヲ主張スルニ至ルヤモ計リ難ク然ラサル迄モ支那側

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

カ第十五条九項ノ手続ニ依リ又ハ同条ノ手続トハ別ニ臨時総会招集ヲ要求シタル場合之ヲ支持スルノ態度ニ出テサルヲ得サルヘシト存ス而シテ一旦総会開会セラレンカ小国多数ヲ占ムルコト故日本ノ主張弁明等ハ到底彼等ノ耳ニ這入ラス我方ニ不利益ナル決議ヲ見十六条ノ適用ト迄ハ行カストモ道義上我方トシテ頗ル憂慮スヘキ立場ニ置カレ世界ノ前ニ孤立トナルコトヲ如実ニ示サルルニ至ラストモ限ラス事茲ニ至リテモ屈服スルハ日本人ノ性格トシテ有り得マシク結局世界ヲ相手トシテ戦フ外ナキニ至ルヘク本使等ノ微力ヲ以テシテ到底此ノ大勢ヲ阻止スルコト不可能ナルヘシ危急ノ場合ニ当リ唯一ノ望ハ前述上海方面ノ休戦ニ在リ時既ニ遅キヤモ知レサルモ政府トシテ重大ナル決意ヲ以テ休戦実行ヲ決行セラル外救済ノ途ナシト考フ慎重ナル御詮議ヲ煩シ度シ

在欧、米各大使、支へ転電セリ

90 昭和7年2月(14)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

規約第十五条第二項に基づく陳述書の提出について

について

種決議文ハ一日平均十通ニテ今日迄既三百五十通以上ニ達シ居レル旨申越セリ、尚「リーグ、オブ、ネーションズ、ユーニオン」ハ英、米共同提案ヲ支持シ之カ拒絶セラルニ於テハ英國政府ハ須ラク連盟総会招集ノ手段ヲ採リ規約第十六条ニ依リ日本ニ対シ所有外交的、経済的圧迫ヲ加フヘシトノ趣旨ノ決議ヲ為シタル趣ニテ十三日各新聞紙ニ之ヲ掲載シタルカ「クロニクル」及「ガーディアン」ノ論説ニ於テ右決議ヲ支持シ居レリ  
松平大使ヘ転電セリ

92 昭和7年2月(15)日 在イタリア国吉田大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

総会開会の際ににおける対策について

第三四号(暗)

寿府発大臣宛電報第七三号ニ関シ  
(一)(三九文書)

連盟ニ対スル從来ノ我態度ハ支那問題ニハ成ル可ク連盟ノ関与ヲ排シ直接交渉ヲ以テ支那ヲ押ヘント欲スルヤニ見ヘ支那ヲシテ益々連盟ニ縋り総会招集迄ノ提議ヲ為サシムルニ至レルモノカト思考スル処連盟総会ノ開カルルニ於テハ我方トシテハ一方ニ於テ上海事件ニ処セル我態度ヲ更ニ説

第七八号(暗、至急極秘)  
佐藤理事ヨリ

明スルト共ニ進ンテ正々堂々時局收拾ニ對スル支那側ノ無誠意ヲ攻撃シ支那ノ無政府状態ト其ノ暴状ヲ發キ日支親善ヲ念トシ我多年隠忍シ來レル事実ヲ列挙シ條約ノ無視、権益ノ侵害、巨額ノ公私債権ノ不支払、邦人ノ殺害、邦貨ヲ取扱ヘル日支商人ノ虐待、「ボイコット」等実状ヲ詳述シ連盟ハ連盟國ノ無責任ナル暴状ヲ黙過スヘキニ非ス連盟ノ權威維持極東平和ヨリ觀ルモ連盟國ニシテ國ノ体ヲ為サス國政治マラス國際ノ平和ヲ念トセサルモノハ連盟トシテ強制手段ヲ講スヘキヲ説キ支那改造ハ連盟トシテ考慮スヘキ公然ノ任務ナルコトヲ力説シ以テ支那ノ反省ヲ促シ小国ノ妄動ヲ防キ遂ニ連盟ヲシテ将来支那再造ニ進出スヘキ基礎ヲ此ノ際ニ開拓スルコト此ノ際ノ機宜ノ措置ト信ス  
連盟、支ニ転電セリ

93 昭和7年2月15日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中国軍の撤退実現が解決への第一歩と主張方について

佐藤理事へ

一、貴電ニ付テハ貴見ノ通り取計ハレ度

二、上海事件ニ関シテハ支那側ノ宣伝及事件発生当初ニ於ケル外国新聞記者其他ノ躁急ナル誇張的報道等カ先入主トナリ今尚ホ我方カ何等意図ヲ抱キ支那側ニ対シ攻撃的ニ出テ居ルカ如キ誤解アル處事件ノ原因及経過ハ帝国政府声明及累次ノ電報ニ依リ明ナルヘク我方ハ支那側ノ攻撃ニ対シ居留民ノ保護及租界ノ安全保持ノ為必要ノ対抗手段ニ出テ居ル次第ニシテ支那側カ三万余ノ巨兵ヲ我警備区域ノ周囲ニ集中シ間断ナキ攻撃ヲ加ヘ居ル現状ニ於テ我方ニ対シテノミ増兵モスヘカラス戰鬪行為ニモ出ツヘカラストナスカ如キハ我軍及我居留民ノ自滅ヲ要求スルニ等シク不当モ甚シ要スルニ刻下ノ急務ハ支那軍ヲ危険區域外ニ撤退セシメ居留民及租界ニ対スル緊急ノ危険ヲ除クコトニ存スル處支那軍ハ我方ノ要求及関係列國側ノ奔走ニ拘ラス（最近ハ支那商民自身カ十九路軍ノ撤退又ハ我軍ニ依リ掃討ヲ希望シ居ル趣ノ情報アリ）頑トシテ撤退ヲ肯セサル次第ニシテ我方トシテ此ノ上現在ノ

如キ状態ヲ続クルハ到底忍ヒサルニ付支那軍ニシテ平和的ニ撤退セサル限り実力ニ依リ右撤退ヲ強制セサルヲ得ス（尤モ我方トシテハ差当リ租界ニ対スル緊急ノ危険ヲ除去シ得ル距離即チ大体着弾距離丈ヶ撤退セシメ得レハ足ル訳ナルニ付前記撤退強制ノ場合ト雖モ必要以外ニ長追シテ奥地ニ進出スル意向ナキコトハ勿論ナリ）兎ニ角此際一日モ速ニ支那軍撤退ノ実現カ事態好転ノ唯一ノ発足点ナルト同時ニ右撤退カ将来ニ亘リ列国共通ノ利益タルコトハ世界ハ明確ニ認識スルヲ要ス

就テハ累次ノ電報ヲモ御斟酌ノ上連盟側ニ於テ充分ニ事態ヲ正視シ苟モ輕率ナル措置ニ出テ却テ問題ノ紛糾ヲ増スカ如キコトナキ様説明方御努力相成度

三、將又右我方ノ説明努力ニ拘ラス遂ニ連盟総会ノ招集ヲ見ルニ至ラハ固ヨリ我方トシテハ敢然トシテ我公正ナル立場ヲ主張シ其ノ間仮令世界ニ孤立スルカ如キ事態トルモ終局ノ勝利ヲ確信シ飽迄論戦ヲ統ケ行ク外ナシト存ス

在米大使、在支公使、北平、奉天、廣東ニ轉電シ支ヨリ上海ニ轉報セシメタリ、土ヲ除ク在欧各大使ニ轉電アリタシ

94

昭和7年2月(16)日

※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中國側の臨時総会招集要求について

第八三号(暗、大至急)

往電第七七号ニ関シ

佐藤理事ヨリ

十五日朝事務局側ヨリ得タル情報ニ依レハ支那側ハ若シ理

事会自ラ臨時総会ヲ招集スルコトヲ欲セサル場合ニハ自己ノ責任ニ於テ第十五条第九項ニ依リ一週間以内ニ臨時総会ヲ招集センコトヲ要求スルニ決シ居ル趣ナリ

尚事務局法律部ニ於テハ第十五条第九項ニ依リ支那側カ本件ヲ總会ニ付託シタル場合ニハ同条第十項及第十二条第二項ノ適用ニ依リ總会ハ六ヶ月以内ニ報告ヲ作成スル必要ア

ルヲ以テ臨時総会招集ノ必要ヲ生シ右臨時総会ノ期日ハ總會議事規則第一条第二項ニ依リ理事会ノ多数決ニ依リ決定

スヘキモノナリトノ意向ナル由（本件ニ付テハ目下当地ニ出張中ノ「レイ」博士モ同意見ナリ）

本件ニ関シテハ明十六日午後理事会ヲ開キ何分ノ決定ヲ見ル筈ナルニ付本使ノ心得迄貴見大至急御回示アリタシ

95

昭和7年2月(16)日

※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

臨時総会延期の方策について

第八四号(暗、大至急極秘)

往電第八三号ニ関シ

佐藤理事ヨリ

支那側カ果シテ自己ノ責任ニ於テ臨時総会招集ヲ求ムルニ於テハ理事会トシテモ不本意乍ラ之カ期日ヲ決定スルニ至

ルヘク臨時総会ノ開催ハ最早避ケ難キ形勢ニ在リト観測セラル

ラル處支那側ノ要求通り一週間内ニ之ヲ開催スルカ如キコトハ不可能ナルヘキモ若シ政府ニ於テ此際御出發セラル

ル筈ト承知シ居ル長岡大使ノ着任ヲ待ツカ又ハ他ノ代表者ヲ特ニ本邦ヨリ派遣セラル御意向アルニ於テハ總会期日

決定ノ際之ヲ理由トシテ多少ノ延期ヲ求ムルヲ得ヘキカト

思考セラル尤モ事件ノ緊急性ニ鑑ミ右延期ハ必要ナル最小限度ニ限ラルヘク又我方カ之ヲ口実トシテ延期ヲ策スルカ如キ印象ヲ与フルコトハ面白カラサル結果ヲ生スルヲ以テ

此辺ノ事情篤ト御考慮ノ上何分ノ御意向折返シ御回示相成



回田午後之ヲ続行スルコムナリタル趣ナリ不取敢

英、米、伊、独、支へ軽電ヤリ

~~~~~  
99 昭和7年2月(17)日 ※往シ「ネーヴ沢田連盟事務局長」
芳沢外務大臣宛(電報)

十一国理事の勧告を理事會議より申致し〇
トレ

別 番 同口着在シ「ネーヴ沢田連盟事務局長」
務大臣宛第八八号、第八九号
十一国理事通告文

第八七号(至急)
(九八文書)
往電第八五号ハ闕シ

佐藤理事ヨリ

十六日午後本使「ポンクール」議長ハ求メハシシ往訪シタル處議長ハ別電第八八号及第八九号ヲ手交シニテ日本政府ハ伝達方依頼シタルハ付本使ハ別段其内容ニ立入ルコムタクニテ東京ニ取次クヘキ眞ニ述く引取りタリ尚本件文書ハ十七日夕当地ニ於テ公表ヤハルハ署ナルカ在當地本邦新聞記者ハ本省ヨリ各新聞ニ通牒ヤハルハ眞ニ體ヤタハ付右通達方御取計ハ請フ

在欧米各大使、支く軽電ヤリ

96

(司 附)

丁

Gaimudaijin, Tokio.

No. 88 (Urgent)

Monsieur l'Ambassadeur,

Les Membres du Conseil, autres que les Représentants de la Chine et du Japon, ont procédé cet après-midi à un nouvel échange de vues sur la situation sino-japonaise.

Ils ont jugé nécessaire dans les circonstances actuelles d'adresser dans l'esprit le plus amical un appel urgent au Gouvernement japonais.

J'ai l'honneur de vous faire tenir le texte de cet appel en vous priant de vouloir bien le transmettre à votre Gouvernement.

Veuillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances de ma très haute considération.

Paul-Boncour

Le Président en exercice du Conseil.

丁
No. 89 (Urgent)

Le Président du Conseil parlant au nom de ses collègues dans un appel adressé aux deux parties le 29 janvier disait "seuls la collaboration et le respect mutuels peuvent garantir le maintien des relations internationales, aucun règlement de caractère permanent ne saurait être obtenu par l'emploi de la force qu'elle soit militaire, qu'elle soit même économique et plus la situation actuelle se prolongerait plus la mésentente entre les deux peuples grandirait rendant la solution du différend plus difficile et causant un grave préjudice non seulement aux deux nations directement intéressées."

Aujourd'hui les Membres du Conseil, autres que les Représentants de la Chine et du Japon, ont l'obligation d'adresser au Gouvernement japonais un pressant appel pour qu'il reconnaîsse les responsabilités particulières et le devoir de modération et de sagesse

qu'impose au Japon dans le conflit actuel son titre de Membre de la Société des Nations et occupant au Conseil un siège permanent.

La situation qui s'est développée en Extrême-Orient au cours de ses derniers mois fera l'objet d'une étude complète de la part de la Commission nommée avec le consentement des parties. Mais depuis que cette Commission a été constituée il s'est produit et il se produit encore à Shanghai et dans la région de Shanghai des événements qui ont augmenté l'émotion de l'opinion publique, qui mettent en péril la vie et les intérêts des ressortissants de nombreux pays et qui ont ajouté aux difficultés exceptionnelles que rencontre le monde dans la crise qu'il traverse ils menacent de créer de nouveaux et sérieux obstacles à la Conférence du Désarmement.

Les douze Membres du Conseil n'oublient nullement les griefs invoqués par le Japon et ils lui ont au cours des derniers mois écoulés accordé toute la

confiance à laquelle a droit un associé de la première heure qui observa toujours scrupuleusement ses obligations et ses devoirs de Membre de la communauté internationale. Ils ne peuvent cependant s'empêcher de regretter que le Japon n'ait pas jugé possible de s'en remettre sans réserve aux méthodes de règlement pacifique stipulées dans le Pacte de la Société des Nations, ils lui rappellent une fois de plus l'engagement solennel du Pacte de Paris aux termes duquel la solution des différends internationaux ne devra jamais être recherchée que par des moyens pacifiques. Les douze Membres du Conseil doivent constater que dès le premier moment dans cette lutte qui se déroule sur son territoire la Chine a porté son différend avec le Japon devant la Société des Nations et s'est engagée à accepter les propositions faites par celle-ci en vue d'un règlement pacifique.

Les douze Membres du Conseil désirent rappeler qu'aux termes de l'article 10 du Pacte de la Société des Nations tout Membre de la Société s'est engagé à respecter et à maintenir l'intégrité territoriale et l'indépendance politique présente de tous les Membres de la Société. Ils ont le droit à titre amical d'appeler l'attention sur cette disposition d'où il résulte notamment à leur avis qu'aucun empiétement sur l'intégrité territoriale et aucune atteinte à l'indépendance politique d'un Membre de la Société des Nations commis au mépris de l'article 10 ne sauraient être reconnus comme valides et effectifs par les Membres de la Société.

Devant l'opinion publique du monde le Japon a l'immense responsabilité de se montrer juste et modéré dans ses rapports avec la Chine. Il a déjà reconnu cette responsabilité dans les termes les plus solennels en signant en 1922 le Traité des Neuf

Puissances par lequel les parties contractantes ont convenu expressément de respecter la souveraineté et l'indépendance ainsi que l'intégrité territoriale et administrative de la Chine. Faisant appel à son sentiment élevé de l'honneur les Membres du Conseil demandent au Japon de reconnaître les obligations que lui imposent sa situation particulière ainsi que la confiance que les nations du monde ont placée en lui en sa qualité d'associé à l'organisation et au maintien de la paix.

訪シテ、今回十一國理事ヨウジニ日本ニホンニ対ヘ「アラヨーン」アラヨーンハ送スル
「ナリタム処獨逸ハシナムハ斯ル通牒ハスルツムシヲ日本ニホンニ対ヘノ
「付反対ハシナム」ハシナム表シタルヤ何分ハシナム英國ガ米國
ト日本ニホンハ上執ハシナムリタル「マリシタチ」マリシタチハ獨逸ハシナムハ全
ク既成事實ハシナムノ前ハシナム置カタル次第ハシナムテ結局ハシナム之ハシナム回意スル外
無カラシ次第ナル⁽¹⁾付不惡御諒承ハシナムアリ度キ並内話ハシナム日本月
11日ハシナム四國共同措置ハシナム日本件ハシナム英國等カ常ハシナム既成事
実ハシナム作リ之ハシナム押付タル態度ハシナム出シルローヌ付不滿ハシナムノ意ハシナム洩
ラハ居ハシナムタリ
在歐米各大使ハシナム転電ハシナム

100 昭和7年2月17日 在ジ・ネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

十一國理事會の獨逸代表ノ眞本官ニ來
シ

△ ホーム 2月17日前發
本 略 2月17日後着

第九〇函(證)
(九九文書)
往電第八七号(闕)

十六日午後十一國理事會後獨逸代表船ノ眞本官ニ來

101 昭和7年2月(17)日 ※在ジ・ネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

十一國理事會の獨逸代表ノ眞本官ニ來
シ

長の認可シテ

第九一號(證)
(九九文書)
往電第八七号(闕)

議長「ヨンクール」^(九九文書)ハ往電第八八号ノ勧告ハシナム本使ハシナム手文ハシナム
タル際右勧告ハシナム提田ベルハシナム至リタル經緯ハシナム説明シテ曰ク実

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ハ十三日英外相寿府出立帰英前理事会議長宛ニ書面ヲ寄セ
英國理事ハ二月二日ノ理事会ニ於テ日本政府ニ対シ上海ニ
於ケル日支両國軍ノ衝突ヲ防止スル為申出ヲ為ス可キ意向
ヲ披露シ関係国政府ノ協力ヲ求メタル行懸モアリ（往電第
（六二文書）
三八号参照）其際ノ交渉ノ経過ニ付理事会ニ報告ノ義務ヲ
有スル次第ノ處本十三日迄ノ處ニテハ不幸ニシテ日本ト関
係国間ノ協議成立ニ至ラス唯同日在支英國公使上海ニ到着
シ日本ヲ初メ米、仏等ノ同僚ト交渉ヲ開始シタルニ付或ハ
時局ノ好転ヲ期シ得可キカト思考スル旨ノ通報アリ右交渉
ニ依ルモ少クトモ十三日迄ハ日本ト関係列国間ノ協定成ラ
サリシ事明ニシテ理事会トシテモ此ノ上安閑トシテ傍観ス
ル事不可能ナリトテ日支ヲ除キ十二国会議ニ於テ本件勧告
ヲ議了シ只今茲ニ貴大使ノ手ヲ経テ本国政府ニ之カ伝達ヲ
請フ次第ナリ而シテ之ヲ正式理事会ノ議題トシテ討議セサ
リシ所以ハ若シ支那理事會カ審議ニ加ハリ右勧告ニ同意スル
事アリテハ日本ニ対シ甚タ不愉快ナル事態トナル事アルヲ
恐レ殊更十二国理事会議ノ決議ニ止メタル次第ニシテ又勧
告ノ趣旨モ決シテ日本ニ圧迫ヲ加フル意味ニ非サルコトハ
充分誤解ナキ様願度シト述ヘタリ

シ日本ヲ初メ米、仏等ノ同僚ト交渉ヲ開始シタルニ付或ハ
時局ノ好転ヲ期シ得可キカト思考スル旨ノ通報アリ右交渉
ニ依ルモ少クトモ十三日迄ハ日本ト関係列国間ノ協定成ラ
サリシ事明ニシテ理事会トシテモ此ノ上安閑トシテ傍観ス
ル事不可能ナリトテ日支ヲ除キ十二国会議ニ於テ本件勧告
ヲ議了シ只今茲ニ貴大使ノ手ヲ経テ本国政府ニ之カ伝達ヲ
請フ次第ナリ而シテ之ヲ正式理事会ノ議題トシテ討議セサ
リシ所以ハ若シ支那理事會カ審議ニ加ハリ右勧告ニ同意スル
事アリテハ日本ニ対シ甚タ不愉快ナル事態トナル事アルヲ
恐レ殊更十二国理事会議ノ決議ニ止メタル次第ニシテ又勧
告ノ趣旨モ決シテ日本ニ圧迫ヲ加フル意味ニ非サルコトハ
充分誤解ナキ様願度シト述ヘタリ

右ニ対シ本使ハ勧告ノ取次ニ付敢テ異論ヲ唱フヘキ筋合ニ
非ス又其内容ニ閑シ意見ヲ申述フルコトモ差控フヘキモ第
一日本ニ対シテノミ勧告ヲ為シ支那ニ対シテハ何等注文ヲ
発セストノ趣旨ハ全然了解シ兼ヌル次第ナリト述ヘタル處
議長ハ何ト云フテモ東洋ニ於テハ日本ハ強大国ニシテ其大
国タル日本ヨリ進テ寛容ナル態度ヲ示サレンコトヲ希望シ
タルニ止マルト答ヘタリ

依テ本使ハ更ニ北支方面ハ初置キ中支、南支ニ於テハ日本
ノ勢力必スシモ強大ナリト云フ能ハス支那ヲ圧倒シ得ルカ
如キ実力ヲ行使スルコトモ不可能ナルニ鑑ミルモ右日本ノ
ミヲ強大国ナリトテ斯ル措置ニ出ツルコト疑問ニ堪エス且
又日本ノ上海ニ於テ目的トスル処ハ決シテ支那政府ニ対ス
ル敵対行為ニ非ス單ニ南京政府ト快カラサル第十九路軍ノ
撤退ヲ希望スルニ過キサル次第ナルヲ以テ理事会トシテモ
真ニ戦争ノ防止ヲ望ムニ於テハ支那軍ヲ相当距離離撤退セ
シメ両軍間ニ中立地帯ヲ設立シ中立軍ヲシテ其治安ヲ維持
セシムル様何分ノ手段ヲ講スル事ヲ要スル次第ナルヘシ即
チ支那側ニ対シテモ理事会ハ十九路軍ノ撤退ヲ要求スヘキ
筋合ナリト心得ルニ拘ハラス事茲ニ出テサルハ本使ノ了解
結合ナリト心得ルニ拘ハラス事茲ニ出テサルハ本使ノ了解

ニ苦シム処ナリ更ニ申述度ハ目下上海ニ於テハ日本代表ハ

関係国代表ト共ニ連日会合シ支那軍撤退及中立地帯設置ニ

闘シ努力シツツアル事実ナリ成程今日迄ハ協議纏マルニ至

ラサルモ全然之力成立ノ見込無キ次第ニ非ス英國外務大臣

書翰末段モ亦其意味ナリト考ヘラルニ拘ハラス十二国理

事会議ハ右協議ヲ以テ不成功ニ終リタルモノノ前提ノ下ニ

スカル勧告ヲ為スハ心得難シト述ヘタリ

議長ハ之ニ対シ決シテ協議不成功ニ終リタリト言フ訛ニ非

ス今後短時日ノ中ニ貴電ノ如キ協議ノ成立スルコトハ理事

会トシテモ最モ熱望スル処ニシテ本勧告ノ趣旨モ本協定ノ

達成ヲ熱心希望スルモノナリト答ヘタリ

右ノ如キ問答ノ後辞去シタル次第ナルカ本勧告ノ内容ハ我

方ニ取り甚タシク不愉快ナル箇所多ク本使連日ノ努力ニ拘

ハラススカル結果ヲ見ルニ至リタルハ遺憾千万ナルモ内聞

スル処ニ依レハ本勧告ノ第一案ハ米国側ヨリ出テタルモノ

ニシテ英國之カ協議ニ与リタル由ニテ尚又最初事務總長起

草ノ文案ハ余程穩健ナルモノナリシニ拘ハラス英仏ノ外西

班牙、諾威等ノ加ハリタル起草委員会ニ於テ添削セラレ語

氣峻嚴トナリタルモノナル趣ナリ

英、米、仏、伊、独、露、支ヘ転電セリ

102 昭和7年2月(17)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

臨時総会招集への対策について

第九二号(暗)
(九七文書)

貴電第(九七文書)三九号ニ閑シ

本件理事会ハ或ハ十八日トナルヤモ知レサル処目下ノ形勢

ニテハ支那側ハ依然臨時総会招集ヲ固執スヘク其場合冒頭

貴電(一)ノ趣旨ヲ申述ヘテ全責任ヲ支那側ニ嫁スルコトハ當

方ノ望ム所ナルモ往電第八三号ヲ以テ申進メタル通事務局

法律部ノ意見トシテハ第十五条第九項ハ單ニ権限移転ノ規

定タルニ止マラス該項ニ依リ事件カ総会ニ繫属シタル場合

ニハ第十二条第二項ノ関係モアリ臨時総会招集ヲ必要トス

ルニ至リ理事会ハ総会規則第一条第二項ニ依リ該臨時総会

ノ期日ヲ決定スヘキモノト解シ(議事規則第一条第三項ノ

場合別段規約ニ根拠無ク一国又ハ多數國カ臨時総会ノ招集

ヲ要求スル場合ノ規定ト解ス)又理事会ハ支那側カ自己ノ

責任ニ於テ総会招集ヲ要求スルニ於テハ何レノ途之カ期日

ヲ決定セサル可カラストシ右第一条第三項ニ拠ラサルコト

トナルヤモ知レススカル場合手続上ノ点ニ固執スルハ我方
カ徒ラニ総会ノ招集ヲ恐ルルカ如キ印象ヲ与ヘ面白カラサ
ルニ付理事会ノ情勢ニ依リ法律上ノ欠点ハ余り之ヲ固執セ
サルコト致シ度キニ付右御含置キアリ度シ

103 昭和7年2月(17)日

在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

九国条約改訂、中国主要開港場中立問題に關し
米國務長官に釈明について

第一二九号(暗)

八日「エイ・ピー」其ノ他ヨリ伝ヘラレタル九国条約改訂
及支那主要開港場中立問題ハ意外ニ当國輿論ヲ刺激シ諸新

聞始ト一斉ニ我国ニ対シ不利益ナル論評ヲ加ヘタル次第ニ
テ國務省ニ於テモ相当注意ヲ払ヒタル様子ナリシニ付十五
日會見ノ際國務長官ニ対シ右ハ外務省係官カ其ノ個人的意
見トシテ新聞記者団ト應答シタル事カ大袈裟ニ伝ハリタル
ニ過キサルコトヲ説明シタル處長官ハ実ハ日本側ニ於テ上
海問題ニ関連シ一定ノ距離迄支那軍隊ノ撤退ヲ主張シ居ラ
ルルニ顧ミ或ハ他ノ地点ニ対シテモ自然右様ノ提議ヲ為ス
ニ至ル無キヤヲ一般ニ危ミ居リ尚又滿州ノ現状ニ照シ自然

方トシテハ大使ノ着任ヲ待ツカ又ハ出來得レハ外務大先輩
ノ特派ヲ請ヒ陣容ヲ整へ總会ニ臨ムコトト致シタク昨十六
日「ドラモンド」ノ内話中ニ支那側ニ於テハ必シモ總会
ノ開催ヲ急キ居ラサル様子ニモ有之本邦ヨリ代表者特派ノ
場合ニハ最小限度ノ必要期間延期ヲ求メ得ヘキカトモ思考
セラル尤モ「ド」ノ内話ハ右ノ如クナルモ今後事件発展ノ
模様如何ニ依リテハ開会期日繰上ラストモ限ラス期日不確
定ニテ御迷惑トハ存スルモ本邦ヨリ派遣ノコトニ御内定ア
ラハ直ニ交渉ヲ試ムヘシ何分ノ儀御回示ヲ請フ

(編注) 同番号前出。

105

昭和7年2月(18)日

在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

十二国理事勧告の提出事情に関するトイツ筋

より聞込みの情報について

第九五号(暗)

往電第九〇〇号(文書)

聞込タル情報ニ依レハ本件勧告案最初ノ草案ハ英文ニテ草
案セラレアリシニ付多分事務総長官房長ノ許ニ於テ起案セ
ラレタルモノト思ハル由ニテ十五日本件ニ関スル第一回

日本ニ於テ該地域ヲ九国条約適用範囲外ニ置カントスル底
意アルニ非スマト懸念シ居ル向鮮カラサルヲ以テ所謂「ス
パークスマン」ノ談話ナルモノハ意外ニ米国一般ノ反感ヲ
微発シタル次第ニシテ支那問題ニ関シ左無キタニ一般ニ神
經興奮シ居ル今日ノ場合寔ニ不幸ナル事ナリシカ貴大使ノ
説明ニ依リ事情ヲ明ニスル事ヲ得タルヲ喜フ旨語レリ

104 昭和7年2月(18)日

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

臨時総会に代表特派方について

第九〇号(至急極秘)

佐藤理事(ヨリ)

貴電第三九号第三項御來示ニ依レハ来ルヘキ臨時総会ニハ
特ニ本邦ヨリ代表者派遣ノ御意向無之ヤニ想察セラルル處
愈同総会開催ノ場合ニハ之ヲ機会ニ全世界ニ対シ時局ニ閑
スル本邦ノ立場ヲ堂々闡明シ出来得ル限り公論ノ善導ヲ計
ルコト肝要ニシテ見方ニ依リテハ同総会ハ右目的達成ノ好
機會トモ存セラレ少クトモ當方トシテハ此ノ意氣込ヲ以テ
同会ニ臨ムコト必要ナリト存ス本使ニ於テ責任回避ノ意思
ハ毛頭無之モ何分事態重大ニ付往電第八四号稟申ノ如ク當
(九五文書)

日本ニ於テ該地域ヲ九国条約適用範囲外ニ置カントスル底
意アルニ非スマト懸念シ居ル向鮮カラサルヲ以テ所謂「ス
パークスマン」ノ談話ナルモノハ意外ニ米国一般ノ反感ヲ
微発シタル次第ニシテ支那問題ニ関シ左無キタニ一般ニ神
經興奮シ居ル今日ノ場合寔ニ不幸ナル事ナリシカ貴大使ノ
説明ニ依リ事情ヲ明ニスル事ヲ得タルヲ喜フ旨語レリ

十二理事會同ノ際独逸側ノ受ケタル印象ニ依レハ議長始メ
仏國側ハ全然斯ノ如キ提議アリタルヲ知ラサリシ様子ニテ
又勧告案最初ノ草案(右ハ滿州問題ヲ除外シ居ルノミナラ
ス一般語氣緩和セラレ日本人ノ武士道的精神ニ訴フル趣旨
ノモノ)提出ノ際ニ於テ独逸理事ハ斯カル勧告ノ提出ハ日
本人ノ感情ヲ害スル虞アルニ付慎重注意ヲ要スル次第ヲ述
ヘタルニ拘ラス英仏伊西諾ヨリナル起草委員会ニ付託ノ結
果最終案ノ如キ峻厳ナルモノトナリ同案カ再ヒ十二理事會
議ニ廻付セラレタル際ニハ独逸側トシテハ最早故障ヲ申出
タス余地ナカリシ趣ナリ又独逸ニ於テハ本翰ノ提出ヲ見ル
ニ至リタルハ本件紛争カ此ノ儘ニテ總会ニ移サルル事ハ理
事會ノ無能ヲ表示スルモノニシテ理事會及事務局トシテ忍
ヒ得サル處ナルニ付最後ノ一策トシテ已ムヲ得ス執リタル
措置ナル可シト觀測シ居ル由ナリ

以上ニ関シ杉村ノ意見ニ依レハ本件勧告ノ最初ノ案ノ出所
ハ不明ナルカ米發貴大臣宛電報第一二五三文書
本邦ニ対シ何等カノ抗議ヲ提出セントスル意向ヲ有シ居リ
本邦大使ト前後シテ英仏大使トモ會見シタル事実モアレハ
此辺ノ話合カ基礎トナリタルモノトモ考ヘラル可ク特ニ連

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

盟トシテハ從来トモニ米国ノ支援ナキ限り強キ態度ヲ執リ得サリン成行ニ考フルモ斯カル推量ヲ強ムルモノト云フ可シ且ツ英国内輿論モ硬化シ事務総長ノ許ニハ各種団体ヨリ多数ノ抗議アリ事務総長トシテモ何等カノ手段ヲ執ルノ必要ニ迫ラレタル模様モアリ之亦案文ノ語氣ヲ強クシタル理由ナリト考ヘラルトノ見解ヲ有シ居レリ以上事件経過ノ追報トシテ電報ス

英、米、独、伊、仏、支へ転電セリ

106 昭和7年2月(18日)※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

中国側の総会招集要求に対する疑義提出について

いて

第一〇四号(暗)

(1)九七文書
貴電第三九号ニ閲シ

佐藤理事ヨリ

十二国理事ハ十七日会合ヲ遂ケ総会招集ニ閲スル支那側ノ要求ヲ研究スルコトトナリ居ル旨聞込ミタルニ付杉村公使トモ協議ヲ遂ケ右ニ先タチ支那側ノ要求ニ対スル當方意見ヲ議長宛申入レ置クコト時宜ニ適スト認メラレタルヲ以テ

要ニ迫ラレタル模様モアリ之亦案文ノ語氣ヲ強クシタル理由ナリト考ヘラルトノ見解ヲ有シ居レリ以上事件経過ノ追報トシテ電報ス

当地出張中ノ「レイ」博士ノ協力ヲ得十七日午前主トシテ左ノ諸点ニ閲スル法律上ノ疑義ヲ掲ケタル書キ物ヲ送付シタル処同日午後ノ十二国理事会合ニ於テハ専ラ右我方ノ意見ニ付協議ヲ遂ケ之ヲ法律家委員会ニ付託シ明十八日午前中ニ其結果ヲ報告セシムルコトナレル趣ナリ

(2)冒頭貴電(一)ノ趣旨ヲ掲ク

二、規約第十五条第九項ノ特殊且例外的性質ヲ有スルコトヲ述ヘタル後該項ノ適用ヲ受ケントスル場合ニハ明確ニシテ且無条件ノ要求ヲ為ストヲ要スル處支那側ノ要求ハ二箇ノ解除条件ヲ付シ居リ該項カ期限ヲ十四日ト明定シ且理事会ト総会トノ権限ノ紛淆ヲ防カントスル趣旨ヲ没却シ事件ヲ長ク不安定ノ状態ニ置ク虞アルコトヲ指摘ス

三、次テ支那側ノ要求ハ目下理事会ノ取扱ヘル事件ノ全体即チ第十一条ニ依リ取扱ヒ來レル事件及第十五条第九項ノ場合ハ理事会ニ事件カ繫属後十四日以内即チ未タ事件カ理事会ノ手ニテ処理セラレサル間ニ總会ニ移サルルコトヲ予想シ居ルモノナル處既ニ四ヶ月以來理事会ニテ取扱ヒ來レル反対ヲ今更總会ニ移スハ全ク第十五条第九項ノ精神ニ反シ總会

件ヲ長ク不安定ノ状態ニ置ク虞アルコトヲ指摘ス

理事会ニ事件カ繫属後十四日以内即チ未タ事件カ理事会ノ手ニテ処理セラレサル間ニ總会ニ移サルルコトヲ予想シ居ルモノナル處既ニ四ヶ月以來理事会ニテ取扱ヒ來レル反対ヲ今更總会ニ移スハ全ク第十五条第九項ノ精神ニ反シ總会件ヲ長ク不安定ノ状態ニ置ク虞アルコトヲ指摘ス

三、次テ支那側ノ要求ハ目下理事会ノ取扱ヘル事件ノ全体即チ第十一条ニ依リ取扱ヒ來レル事件及第十五条第九項ノ場合ハ理事会ニ事件カ繫属後十四日以内即チ未タ事件カ理事会ノ手ニテ処理セラレサル間ニ總会ニ移サルルコトヲ予想シ居ルモノナル處既ニ四ヶ月以來理事会ニテ取扱ヒ來レル反対ヲ今更總会ニ移スハ全ク第十五条第九項ノ精神ニ反シ總会件ヲ長ク不安定ノ状態ニ置ク虞アルコトヲ指摘ス

トヲ希望シテ貴官ノ來訪ヲ求メタル次第ナリトテ

(1)右「ノート」ノ性質ハ全然日本政府ニ対スル「アピール」ニ外ナラサルコト即チ現連盟国ニシテ而モ有力ナル連盟国タル日本ニ対シ現下ノ時局ニ対シ更ニ隠忍アランコトヲ訴フルモノニ外ナラス

(2)而シテ右「アピール」ハ何レノ一国ヨリノモノニモアラス十二国理事委員会全体換言スレハ主要連盟国全体ヨリ日本ニ訴ヘタルモノナリ本日午後議会ニ於テモ色々質問アリ自分ハ本「ノート」ノ内容ヲ発表セサリシモ今般寿府ニ於テ発表セラレタル曉右ハ何レノ特定國ノ「ノート」ナリト云ハルヘキモノニアラサル旨ヲ述ヘラレタリ

依テ本官ハ右「ノート」ノ發送セラレタルコト而シテ日本ニ対シテノミ發送セラレタルコトハ甚タ遺憾ニ存スルモ右ハ自分ノ論議ノ限りニアラス日英國交ヲ顧念シテノ右御説明ハ其儘本国政府ニ伝フヘキ旨答ヘタルニ外務大臣ハ御承知ノ通過日來議会ニ於テ議事ヲ日本ニ不利ニ向ケントスル趣旨ノ種々ナル質問アルニ対シ自分ハ出来得ルタケ正ニシテ公平ナル態度ヲ以テ之カ答弁ニ当リツツアル次第ニシテ日英親交維持ノ為ニハ事實有ユル努力ヲ統ケ居レリ松平大

107 昭和7年2月(18日)在英國沢田臨時代理大臣より
芳沢外務大臣宛(電報)

十二国理事勧告に関する英国外相の談話について

第九二号(暗、至急極秘)

二月十七日夕刻外務大臣ノ求メニ依リ往訪シタルニ同大臣ハ十六日理事会議長ヨリ手交シタル「ノート」ニ言及シ自分ハ日英親交ヲ顧念シ次ノ諸点ヲ日本政府ニ伝ヘラレント

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

使ト話シ合へハ直ニ了解シ吳レラルルコトト信スル処右ノ
点日本政府ニ於テモ全幅ノ信頼ヲ置カレンコトヲ希望スル
旨述ヘタリ

尚外務大臣ハ在支公使発閣下宛第二二五号ノ出来事ニ言及
(一一一五四文書)

シ支那側ニ対シテハ直ニ最モ嚴重抗議スル様訓令シ置キタ
ルカ此種事件発生ハ議会及輿論ニ対スル關係上英國政府ハ
益々困難ナル立場ニ置カルモノナリト述ヘタルニ付本官
ハ右ハ全ク遺憾ノ出来事ナリシヲ述ヘルト共ニ我出先官憲
及軍司令官ニ於テ共同租界ニ迷惑ヲ及ボササル様充分注意
シテ措置シ居ル旨答ヘタル(ニ)外務大臣ハ勿論自分ハ何
人モ「ブレーム」セントハ欲セス唯右ノ如キ出来事ノ頻發
ハ益々困難ナル事態ヲ展開セシムルニヨリ日本側ニ於テ此
ノ上共充分隱忍アランコトヲ希望スル次第ナリト述ヘラレ
タリ

在欧各(土ヲ除ク)大使ニ転電セリ、支、連盟局長、米ヘ
転電セリ

108 昭和7年2月(19)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

ドラモンドによる十二国理事勧告原案作成に

英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

109 昭和7年2月(19)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)
在上海における日本の最後通牒に關連し中國側
緊急理事会の招集を要求について
第一一〇号(暗、至急)
支那理事ハ十八日午後事務総長宛今朝上海日支軍憲ノ間ニ
行ハレタル交渉決裂シ日本側ハ支那軍ノ撤退ヲ求メ二十日
午後五時迄ニ之ヲ実行セサルトキハ必要ナル措置ニ出ツヘ
キ旨ノ最後通牒ヲ送リ事態極メテ重大ナルヲ以テ明十九日
公開理事会ヲ開カレタキ旨申入レ其結果十九日午後理事会
開催コトトナレリ
在欧米各大使、在支公使、奉天ニ転電セリ

110 昭和7年2月(19)日 在英國沢田臨時代理大使より
芳沢外務大臣宛(電報)
英國下院における日中問題に関する質疑応答
について

⁽¹⁾ 第九六号
十七日下院ニ於テ「ランズベリー」以下数名ノ議員ト外相

ついて

第一〇五号(暗、至急、極秘)
(一〇五文書)

佐藤理事ヨリ
往電第九五号ニ閲シ

其ノ後杉村ヨリ「ドラモンド」ニ対シ十二国理事勧告ノ原

案ノ出所ニ付確メタル處「ド」ハ原案ノ作成者ハ自分ナリ
ト言明セル由尚本使ヨリ各方面ニ就キ探リタル所ニ依ルモ
米國カ本勧告ノ提出ヲ発議シタル形跡無ク「ド」ノ言明ス

ル如ク原案カ彼ノ手許ニ於テ作成セラレタルコトハ最早疑
ノ余地無シト存セラル而シテ「ド」カスカル試ニ出テタル
動機ニ付テハ種々解釈ノ余地アルヘキモ最近英國ノ輿論力
極端ニ悪化シタルハ其ノ主要ナル原因ナルヘク又既報新聞

報ノ如ク臨時總会招集ノ要求及理事会無能ニ対スル非難等
モ亦「ド」ノ発意ヲ固メタル原因ナリト察セラル尤モ「ド」
ノ原案ハ日本ニ対シ余程丁寧ナルモノナリシモ十二国理事
起草委員会ニ於テ修正ノ結果往電(九九文書)第八九号ノ如ク峻厳ナル
モノトナリタル点ニ付テハ「ド」ニ於テモ遺憾ト認メ居ル
模様ナリ

以上往電第九五号ノ次第モアルニ付不取敢報告ス
(一〇五文書)

トノ間ニ支那事変ニ関シ次ノ如キ質問応答アリタリ

一、問 連盟理事会ノ日本ニ対スル共同勧告ノ模様如何
答 日支両国代表ヲ除ク連盟理事会員ハ昨夜アピール

ノ性質ヲ有スル「ノート」ヲ日本政府ニ発送シタルカ其
内容ハ今夕刻理事会ヨリ發表セラルル筈ナリ(十七日夜
閣員ニ配布セラレタリ)

二、問 外相ハ必要ニ応シテハ日支事変審議ノ為連盟總会
ノ招請ヲ提議スルコトヲ得策トセサルカ又日本ニ対シ規
約第十六条適用ノ意向ナキカ

答 連盟總会ノ招請ニ付テハ既ニ支那代表ヨリ請求アリ
タリ英國政府トシテハ日本ニ対シ第十六条適用提議ノ意
思ナシ今次事変ノ責任問題ニ付テハ目下規約第十五条ノ
規定ニ依リ理事会ニ於テ審理中ナルカ支那政府ハ理事会
カ關係理事ノ陳述ヲ受理スル前ニ本問題ヲ理事会ヨリ撤
回シ改メテ總会ニ付議セシコトヲ要請シタル次第ナリ右
ノ如キ事情ニテ本件ハ目下折角關係國ノ裁判審理ニ委セ
ラレ居ル際ニテモアリ英國政府トシテハ此際早計ニ彼此
意見ヲ陳フルコト適當ニアラスト思考ス

三、問 滿州獨立國成立スルカ如キ場合英國ハ九国條約ニ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

違反スルモノトシテ是ヲ承認セサル考ナルカスノ如キ企団ニ対シテハ寧ロ事前ニ抗議スルコト得策ナラスヤ

答 本件ハ唯新聞報道ニ依リ承知シ居ルノミニシテ未タ公報ニ接セス何レニスルモ事態ノ真相ヲ確カムル事先決問題ナリ

四、問 小学校長「パークー」被害事件ニ付日本政府ニ対シ謝罪及損害賠償ノ積リナルヤ

答 事実ノ報告ヲ促シツツアリ右到着ノ上考慮ヲスヘシ

五、問 日本軍ノ支那侵略ニ対シ米仏伊及獨ト協同シテ場合ニ依リ外交機関ノ引揚ヲ断行スヘシトテ最強硬ナル抗議提出ノ積リナキカ

答 事態ハ刻下連盟ノ手中ニアリ英國政府ハ此上共連盟関係国及米国トモ連帶ノ上善処スヘシ

六、問 速ニ日本ノ軍事行動阻止ノ措置ヲ講セスンハ豪州其他英帝国ノ他ノ地域ニ対シテモ恐ルヘキ危険ノ迫ルコトアルヘキヲ懸念セスマ

答 自分トシテモ何等豪州ヲ閑却シ居ルニアラス此点誤解ナキ様致度シ

七、問 日本当局ノ関係国領事ニ対スル約束ニモ拘ハラス

ルコトナシ（此項海外貿易大臣答弁）

米、支、連盟及土ヲ除ク在欧各大使ニ転電セリ

111 昭和7年2月(20日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

二月十九日理事会経過大要について

第一五号

往電第一一四号ニ関シ

本十九日理事会経過大要左ノ通

(1)議長「ボンクール」ハ本日ノ理事会ハ支那側ノ総会招集要求ノ件及支那理事ノ希望ニ依リ上海事件ニ付審議ノ為開会セル旨ヲ宣ス

(2)支那理事直ニ発言ヲ求メ南京政府ヨリノ電報ニ依レハ上海ニ於ケル事態甚々緊急ナルモノアルニ付特ニ理事会招集ヲ希望シタル次第ナリト前提シ上海ニ於ケル日支軍衝突ノ状況及支那側ノ見解ヲ繰返シ又日本ノ南京砲撃事件ヲ再述シ日本軍爆撃ノ為水災避難民ニ損害ヲ与ヘタル事ヲ述へ上海ニ於テ日本ハ obus pyrosulfurique ヲ使用シ

タルノミナラス「ダムダム」弾ヲモ用ヒタルコトニ付テハ

日本軍ハ租界内上陸ヲ決行セリト聞ク如何ナル抗議的措置ニ出タルカ

答 御承知ノ如ク英國政府ハ三度日本政府ニ対シ租界内ヲ攻撃ノ根拠地トスヘカラサルコトヲ明カニシタリ最近更ニ在上海英國總領事ハ日本側地方當局ニ対シ租界ノ防禦ト關係ナキ軍事的行動ノ手段トシテ使用スヘカラサル旨ノ抗議ヲ提出シタルカ日本政府ハ援軍ノ目的ハ租界及日本國民ノ防衛ニアリトノ声明ヲ為シタル次第ナリ

八、問 上海事変調査委員報告書中ニ記述セラレタル共同租界内ニ於ケル日本兵及在鄉軍人等ノ居留民殺戮及無節操ナル犯罪行為ニ付日本政府ノ責任ヲ問ヒ損害賠償要求ノ意ナキカ

答 自分ノ了解スル所ニテハ本件報告ハ連盟事務總長宛ニ電報セラレタルモノニ係リ且下連盟ニテ考慮セラレ居ル資料ノ一部ヲ為シ居ル次第ニ付此際右ニ關シ何等臆測カマシキ見解ヲ加フルコト能ハス

九、問 戰爭助長ノ因トモ認メラル武器ノ日支兩國ヘノ輸出ハ事變繼續中之ヲ禁スルコト可ナラスヤ

答 今日迄ノ處日支何レニ対シテモ武器輸出ヲ禁止シタ

(3)佐藤理事之ニ対シ先ツ日本軍爆撃ノ為水災避難民ニ損害

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ヲ与ヘタル件ニ付遺憾ノ意ヲ表シ「シンプソン」抗議ノ件ニ付テハ右抗議ノ提出カ遲レタル為總領事及軍司令官ニ於テ緊急措置ヲ執リ得サリシ事ハ殘念ナリト証明シタル後支那理事ノ陳述中自分ノ承服シ得サル点多々アリ第ニ「ダムダム」弾ハ日本軍ニ於テ日露戦争ニ於テモ使用セサリシモノニシテ此ノ度ノ事件ニ使用シタル筈無ク又日本ハ煙幕ヲ使用シタルモ右ハ何等有毒性ノモノニアラス支那側カ毒瓦斯使用ノ宣伝ヲ為スコトアルヲ予見シ煙幕使用方ニ関シテハ過日既ニ事務總長宛ニ通告シ置キタリト酬ヒ元來日本カ支那ニ於テ強力ヲ使用セルハ全然本邦人保護ノ為ニ外ナラス支那ハ保全措置ヲ要求セルモ日本ハ上海ニ於ケル敵対行為中止ノ為各種ノ手段ヲ講シ休戦条件スラ申出テタルモ商議遂ニ成功セサリシト述べ日本軍カ支那軍撤退ノ要求ヲ為スノ已ムナキニ至リタル理由ハ從来繰返シ説明シタル処ニ依リ明白ナリト前提シタル後支那ハ本件ヲ總会ニ付託セル以上自分カ理事会ニ於テ會議スル機会ハ或ハ今日カ最後ナランカト存ス依テ余ハ此ノ機会ニ両国紛争ノ真原因ニ付赤裸々ニ説明シタル前提シ規約ハ「組織アル人民」ヲ規律スルモノナル

(3)タリト酬ヒ元來日本カ支那ニ於テ強力ヲ用キタルコトニ依テモ知リ得ル處ナリ他國ノ斯ル自衛手段カ承認セラル以上日本ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ意味シ日本トシテハ到底黙認出来ストテ上海ニ於ケル日本ノ投資額・通商關係ケル日本ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ意味シ日本トシテハ到底黙認出来ストテ上海ニ於ケル日本ノ投資額・通商關係サルモノナリト云ヒ上海ヲ拋棄スルコトハ支那全土ニ於ケル日本ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ意味シ日本トシテハ到底黙認出来ストテ上海ニ於ケル日本ノ投資額・通商關係サルハ勿論実際ヲ云ヘハ連盟ト雖充分ナル保護ヲ講シ得ス理事会カ解決ヲ求ム際ニ当リテハ地方的状況ヲ充分斟酌シ解決ノ基礎ヲ求ムルヲ要スヘシト述フ

(4)次ニ十二国理事ノ勧告ニ對シテハ未タ政府ノ意見ヲ承知セサルモ差當リ自分ノ意見ヲ述ヘソニ先ツ本勧告ハ規約定ヲ見ルニ至ランカ日本ハ直ニ撤兵スヘシト声明ス(4)(6)

第十条ヲ引用シ居ル處新聞ハ滿州獨立ヲ報シ居ルニ付此点ニ付説明シタントテ東北行政委員会設置ニ関スル貴電ノ趣旨ヲ説明シ滿州ノ独立乃至自治ハ今日始マリタル事ニ非ス滿州人ノ滿州トハ從来ヨリノ「モットー」ニシテ日本ハスル自治運動カ内部ヨリ起ルモノナルヲ知リ之ニ同情スルモノナリ吾人ハ滿州ニ投下セル多額ノ資本回復ノ必要アル以上滿州ノ政情ニ無関心ナルヲ得スト述ヘ又日本カ理事会決議ニ違反セリトノ非難アル処九月理事会以来各種ノ事変相次テ勃発シ直接交渉モ拒絶セラレタル以上日本軍ノ撤退シ得サルコト明白ナリトテ支那側官民ニ依ル排日ニ言及シ之ノ儘ニ放置センカ日本在留民ハ殆ト支那ヨリ驅逐セラルルニ至ルヘシト説明ス

(5)次テ日本ハ連盟成立以来人種平等及通商自由ヲ高唱シ來リタルモ今ニ移民ノ自由ヲ妨ケラレ居ル方面アリ此ノ上支那滿州ヨリ驅逐セラルルコトアランカ右ハ到底承諾シ得サル処ナリ日本ノ希望ハ單ニ日本人活動ノ地域ヲ求ムルニ在リ門戸開放ハ吾人ノ最モ歓迎スル所ニシテ何等領土上ノ野心ヲ有スルモノニ非ス日露戦争ニ依リ日本ハ支那ノ領土ヲ保全シタルハ其明白ナル証拠ナリト述フ

カ支那ニ内乱相続キ無政府状態ニアルコト久シク到底組織アル国民ト云フコト能ハス之今日ノ紛争ヲ惹起セル根本ノ原因ナリ若シ支那カ秩序アル國家タラハ日本ハ勿論平和的手段及規約ノ文字通ノ手続ニ依リ紛争ノ解決ヲ計リタルナランモ支那ニ對シテハ右カ不可能ナルコトハ近年外國カ屢々支那ニ於テ強力ヲ用キタルコトニ依テモ知リ得ル處ナリ他國ノ斯ル自衛手段カ承認セラル以上日本ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ意味シ日本トシテハ到底黙認出来ストテ上海ニ於ケル日本ノ投資額・通商關係サルモノアランカ是等諸国モ亦侵略者ト看做ササルヲ得ス要スルニ支那ノ現状ハ規約ヲ嚴格ニ適用スルヲ許サルモノナリト云ヒ上海ヲ拋棄スルコトハ支那全土ニ於ケル日本ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ意味シ日本トシテハ到底黙認出来ストテ上海ニ於ケル日本ノ投資額・通商關係サルハ勿論実際ヲ云ヘハ連盟ト雖充分ナル保護ヲ講シ得ス理事会カ解決ヲ求ム際ニ当リテハ地方的状況ヲ充分斟酌シ解決ノ基礎ヲ求ムルヲ要スヘシト述フ

(4)次ニ十二国理事ノ勧告ニ對シテハ未タ政府ノ意見ヲ承知セサルモ差當リ自分ノ意見ヲ述ヘソニ先ツ本勧告ハ規約定ヲ見ルニ至ランカ日本ハ直ニ撤兵スヘシト声明ス(4)(6)

次ニ外蒙古独立ノ件ヲ説キ若シ連盟トシテ滿州ノ独立ニ付故障アラハ何故外蒙ノ独立ヲ默認シタルヤト尋問シ最後ニ上海ニ於テモ日本人保護ノ保障確立シ中立地帯ノ設定ヲ見ルニ至ランカ日本ハ直ニ撤兵スヘシト声明ス(4)支那理事之ニ對シ數時間後ニハ最後通牒ノ期限来ルヘキ処日本理事ハ極メテ長キ陳述ヲ為シワザト討議ヲ長引カセントスルモノナラント毒付キタル後支那ノ如キ大國ニ於テ完全ナル平和及秩序ノ必スシモ維持セラレ居ラサルハ當然ナル次第ナリト述ヘ日本モ亦組織アル國家ナリヤ否ヤ疑ハシ、現ニ日本軍ハ政府ノ支配ヲ逸脱シ居ルニ非セヤ且大震災後東京ニ於テ、又昨夏朝鮮ニ於テ支那人殺害事件ヲ見タル如キモ亦日本ニ充分組織ナキヲ証スルモノナリト反駁シ且日本カ支那ヲ無政府状態ニ在リト觀ルニ於テハ何故連盟ノ干渉ヲ排シ之ト直接交渉ヲ求ムルヤ理解シ難シ、支那ニ内乱アルハ事實ナルモ日本ハ支那ノ統一ヲ欲セス、常ニ之ヲ邪魔シ居ルモノニシテ支那ノ混亂ハ多クハ日本ノ策動ニ起因ス、右ハ支那ノ統一ヲ助成セン為締結セラレタル九国條約ノ目的ニ反スルモノナリト述ヘ次ニ革命ハ世界各国ノ経験セル所ニシテ革命ヲ利

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

用セントスルモノハ日本ナリ、又日本在留民ノ保護ヲ連盟ニ依頼セスト言フモ侵略者ハ保護ヲ得ル能ハス制裁ヲ科セラルヘシト説キ外国ハ日本ノ如キ侵略行為ヲ為シタルコトナシ且水災ニ遭遇セル支那ヲ攻撃セル日本軍ハ最モ武士道的精神ニ違反セルモノナリト説キ且滿州人ノ為ノ滿州トハ無稽ノ言ナリトテ滿州カ古来ヨリ支那ノ一部ナリシコト、滿州ニ於テ支那人多数ナルコト、同地方ノ日本移民ノ失敗セルコト、張作霖爆死事件等ヲ列挙シ反駁ス、又外蒙ノ独立ハ連盟創立以前ノ出来事ナリトテ連盟ノ介入スルモノニ非サル次第ヲ述ヘ日本ハ領土的野心ナシト言フモ朝鮮ヲ併合シタル事例ニ徵スルモノ誰カ日本ハ結局滿蒙ヲ併合スルコトナシト云ヒ得ル者アランヤト説キ最後ニ理事会ノ保全措置促進方ノ採用ヲ懲通ス。

(5)佐藤理事之ニ対シ日本カ支那ノ内乱ヲ助成セリトノ批難ニ対シ反駁シ日本カ常ニ支那ノ安寧ト秩序ノ確保ヲ希望シ其助長ヲ以テ対支政策ノ根本義ト為シ居ル所以ヲ敷衍説明スルト共ニ支那ニハ各種ノ政治上ノ運動アルニ付之等運動ヲ充分理解セサル限り支那ニ付公正ナル観測ヲ得ル能ハスト注意ス

(6)議長ハ佐藤理事ノ全般ニ亘ル陳述ヲ充分傾聴シタル旨ヲ述ヘ現下ノ事態ノ重大ナルヲ説キ理事会ハ支那側ノ要求ニ依リ事件ヲ総会ニ付託セルニ至レルモ之レ決シテ理事会ノ無力ヲ示スモノニ非ス理事会ノ措置ノ緩慢ナルハ事件ノ性質上全ク止ムヲ得サル次第ニシテ手続ノ進行中敵対行為ノ行ハルルハ理事会ノ活動ヲ麻痺セシムル所以ナリト言ヒ往電第八七号ノ勧告ニ言及シ該勧告ヲ日本ノミニ送リタルハ日本カ常任理事国ニシテ且軍備ノ上ヨリ言フモ他ノ方面ヨリ觀ルモ大国トシテ特ニ之ニ信頼スル所アルカ故ニシテ決シテ非友誼的性質ヲ有スル次第ニ非ス専ラ日本ニ信頼シテ敵対行為ヲ休止セシメントスルニ外ナラス然ルニ日支軍憲間ノ交渉決裂シ最後通牒ノ送付ヲ見ルニ至リ大規模ノ戦闘行ハルニ至ラントスルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘス此ノ際此ノ危機ヲ救フ道ハ日本側カ最後通牒ノ期限ヲ延長シ中立地帯ノ設定ノ交渉ヲ続クル余裕ヲ与フルニ在リ之レ連盟ヲ救フ唯一ノ方法ナリ支那理事ハ理事会ニ対シ保全措置ヲ要求シタルモ斯カル保全措置ハ関係国間ノ合意ニ依ル外ナクスカル合意無クハ吾人ハ如

何トモスル能ハス依テ佐藤理事ニ於テ吾人カ最後通牒ノ期間延長ヲ要請セルコトヲ日本政府ニ伝達セラレ度ク右期限ノ延長アラハ理事会ハ之ニ力ヲ得テ中立地帯設置ノ為尽力スルヲ得ヘシト述フ英國領事「ロンドンデリー」ハ議長ノ提議ヲ賛スル旨述ヘタル後上海ノ事態緊急ナル次第ヲ高調シ且十二国理事勸告ニ言及シ右ハ何等日本ノ行動ヲ批判シ又ハ其名譽ヲ傷ツクルモノニ非スト弁ス

(7)(8)次テ支那以外各国理事全部逐次議長ノ提議ニ賛意ヲ表シ中立國ノ調停ノ速行方希望スル旨ヲ述フ

(8)佐藤理事之ニ答ヘ理事会ノ憂慮スル処ハ能ク之ヲ理解スルト共ニ關係諸国ノ調停ハ常ニ喜ンテ之ヲ聽クヘン但シ日本ノミニ撤退ヲ要求スルコトハ日本ノ地歩ヲ捨テンコ

トヲ要求スルニ等シク議長ノ提案ハ之ヲ本国政府ニ伝達スヘキモ特ニ注意シ度キハ上海ニ於ケル紛争ハ支那側ノ攻撃ニ因ルモノナレハ支那側ニ対シテモ等シク撤退ヲ要求スヘキコト当然ナリト述フ

(9)議長ハ之ニ対シ日本理事カ余ノ提議ヲ伝達スルコトヲ承諾セラレタルハ感謝ニ堪ヘス尚余カ特ニ日本ニ対シ斯カル要請ヲナシタルハ調停ノ成否ハ最後通牒ノ期限ノ延長

112 昭和7年2月(20)日 ※(在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報))

面目論による戦争開始の危険性について

第一一七号(至急、極秘)

佐藤理事ヨリ

今十九日午後理事会ノ経過ハ往電第一一五号ノ通り而シテ會議ノ情勢ハ本使ノ予テ想像セル通り日本ハ全然孤立ノ状態ニ陥リ支那代表者ノ辛辣ナル攻撃ニ対シテハ我ニ於テモドウヤラ対抗シ得タルモ最後ニ議長ヨリ明晰ナル言辞ヲ以テ諄々トシテ日本ニ難キヲ忍シテ最後通牒ノ期間延長ヲ懇請スルニ至リ各国理事相次テ皆之ヲ支持シ日本ハ傍聴席新

第一一八号(暗)

往電第一〇四号(闇)

佐藤理事ヨリ

十九日議長ヨリ書面ヲ以テ法律家委員会ノ意見ヲ送付越ス

ト共ニ本件ノ緊急性ニ鑑ミ本日午後ノ公開理事会ニ於テ本

件ヲ審議スヘキ旨申越タリ法律家委員会ノ意見左ノ如シ

一、頭往電(1)我方ノ意見ニ対シテ支那側ノ要求ハ理事

会自身カ総会ニ対シ権限ヲ移転スル場合ニ付留保ヲ為シ

居ルヤ該当要求中ニ² Chinese Government is con-

strained hereby to request said dispute be referred

to Assembly ネタル³以テ斯ル留保ノ有無⁴拘ハス支

那側ノ総会ニ対スル権限移転ノ要求ハ「カテカリック」

ナルヤノト認ムト回答シ

114 頭往電⁵ノ我方意見ニ対シテハ別電第一一九号ノ通

意見ヲ述べ

114 之ヲ要ヘルニ支那側ノ要求ハ⁶我方ノ⁷義理ヘキヤハナリ
ト總體ヤニ

(四)

No.119(諸)

Conseil est actuellement saisi, en vertu d'article 15, par appel que lui a adressé délégation chinoise 29 janvier. Dans cet appel, il est déclaré que différend existant entre Chine et Japon a atteint actuellement un point tel qu'il est susceptible d'entraîner une rupture immédiate et que, par conséquent, il rentre dans hypothèse vue par article 15 du Pacte. Dans 14 jours après le dit appel, délégation chinoise a présenté la requête tendant à faire convoquer l'Assemblée. Cette requête est donc parfaitement régulière, elle se rattache à la déclaration qu'à un certain moment le conflit était devenu tel que l'article 15 devenait applicable.

Cette constatation ne saurait affecter droit pour le Gouvernement japonais, ainsi que pour tout autre Membre de la Société des Nations, de présenter

que, à suite dudit appel, Conseil se trouve saisi de certaines questions qui ne lui avaient pas été déférées avant le 29 janvier 1932, il est incontestable que requête actuelle de délégation chinoise est suffisante pour mettre Conseil dans obligation de convoquer Assemblée, conformément à article 15, alinéa 9 du Pacte, sans que Conseil puisse faire distinctions entre questions qui font objet de différend: raison en est que, d'une part, même en se plaçant au point de vue du Gouvernement japonais, on serait forcé de reconnaître que requête a été présentée en temps utile au moins pour quelques-unes de ces questions et que, d'autre part, ce n'est qu'à l'Assemblée elle-même qu'il appartiendra de déterminer les limites qui pourraient s'imposer aux débats ouverts devant elle.

devant l'Assemblée elle-même toutes les considérations qu'il jugera fondées en vue de déterminer quelles sont les questions de droit ou de fait, dont l'Assemblée devra connaître.

A cet égard donc, pour ce qui est du Conseil, il ne saurait faire autre chose que s'incliner devant droit que délégation chinoise a résolu d'exercer et qu'elle tient de l'article XV alinéa 9 du Pacte de la Société des Nations.

114 昭和7年2月(21日) ※在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

総会の開催決意の件

第111〇号(暗)

佐藤理事より

一、十九日ノ理事会ニ先チ総会招集手続問題ニ関シ議長ヨリ我方ノ意見ニ対シ回答アリタル次第ハ往電第一二一八号ノ通ナル処理理事会ノ席上往電第一一六号ノ決議案提出アリ其際更ニ手続上ノ問題ヲ繰返スハ重大ナル事態ニ直面セル際ニモアリ頗ル面白カラスト認メラントルニ付之ヲ差控バタ

第1111号

111事務総長ヨリ左ノ通臨時総会招集アリタリ

The Chinese Government having requested the Council in accordance with article fifteen of the Covenant to refer Sino-Japanese dispute to the Assembly, Council convokes Assembly March third. May I be informed names of representatives.

116 昭和7年2月(21日) ※在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

臨時総会の招集の件

第1111号

111事務総長ヨリ左ノ通臨時総会招集アリタリ

英へ暗送セリ

第1111号(極秘)
松平大使より
儀御回電ヲ請フ
英へ暗送セリ

今回事件ノ重大化ニ伴ヒ列国ト我国トノ関係益々機微ニ赴ケル際英米殊ニ英國トノ関係ハ從来ノ成行ニモ鑑ミ重キヲ置クヘキ處同國ノ態度悪化ノ徵アルハ屢次電報ノ如クニシテ事態最善ノ注意ヲ要スルコト申ス迄モナク而シテ実ハ軍縮會議ノ方ハ未タ緒論ニ過キスシテ各國首席全權ノ如キモ

117 昭和7年2月(21日) 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

ロウエルハーベード大学総長等の対日經濟断交方請願にハシメ

第一四四号

十九日華府発通信トシテ日本ノ軍事行動阻止ノ為米国ハ連盟ヲ支持シテ日本ニ対シ經濟圧迫ヲ加フヘシトノ大統領並ニ米國議會宛請願書ヲ前陸軍長官「ヒューレン・ド・ベイカー」「ハーバード」大學總長「H.・ローレンス・ロウエル」其他數名ノ大學總長及知名ノ記者等ニ依リ提出セラントル廿一日各新聞ニ掲載セラレ注目ヲ惹キ居ルカ「ハーバード・トリビューン」通信ニハ右請願ハ三月三日ノ連盟總會ヲ鞭撻シ結局規約十六条ノ適用ヲモ敢行セシメントル運動ト看做サルル並ニ官刃ノ意見トシテ請願書署名者等ニ於テハ斯ル極端ナル措置ノ影響ヲ充分ニ承知ノ上之ヲ断行セント欲スルモノト認メラノ且本請願ハ過去數週間來静カニ行ハレ來レル対日經濟圧迫行使ノ運動ヲ後援スノ都合ヲ見計ヒ一時帰任ノ儀予メ御承認相成度ク右何分ノ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ルモノト認メラルル旨ヲ述ヘ居レリ又紐育「タイムス」通信ハ米国当局ハ曩ニ連盟カ日本ニ対シ加ヘントスル制裁ニ信シ米国政府ニ於テ予メ贊意ヲ表スルカ如キ事無カルヘシトノ意見ヲ表示シタリシモ日支紛争更ニ悪化シ連盟カ積極策ヲ執ラントスル場合ニ於テハ連盟ト協力ノ余地存スル理ナリト述ヘ尚多数ノ大学総長其他ノ名士ヨリ請願参加ノ申込アリタルモ請願提出後ニ接到シタル旨付記シ居レリ請願書郵送ス

118

昭和7年2月22日

芳沢外務大臣より
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

ロンドンへの帰任承認について

第四四号 暗、極秘
(一六八文書)
貴電第一二三号ニ閲シ

松平大使へ

此際英國側態度緩和ニ努ムルノ要アルコトハ全然同感ナル
處臨時総会ニハ貴大使ノ右佐藤、吉田ノ両大使ヲ代表ニ任
命シ度内意ナルニ付右御含ノ上一時帰任セラルル様致度

来ルヘキ臨時総会カ如何ニ展開スヘキヤハ主トシテ上海方面事態今後ノ推移ニ懸ルコト勿論ナルモ当方面ノ我方ニ対スル空氣ノ悪化ハ本邦ニ於テ想像セラルルヨリモ遙ニ甚シキモノ有之當方トシテ今後共出来得ル限り之力善導ニ努ムヘキモ茲十日間ニ形勢遽ニ我方ニ有利ニ展開スヘントモ思ハレス就テハ此際努メテ重光公使発閣下宛電報第一一四八号ノ通上海事件ヲ局限シ我方ノ面目ヲ維持シ得ル限り我方從來ノ声明ヲ裏切ラサル様速ニ時局ヲ收拾セラルルコトハ總会ニ對スル関係ニ於テモ絶対ニ必要ト思考セラル若シ然ラスシテ總会中モ戦鬪行為依然トシテ継続セラレ居ランカ其結果ハ計リ知ラ(レ)サルモノアルヲ覺悟セサルヘカラス何レニスルモ今後ノ臨時総会ニ於テハ我方ハ未タ曾テ無キ苦戦ヲ為スノ已ムヲ得サルニ至ルヘキヲ以テ充分ノ準備ヲ整ヘ之ニ臨ムノ要アリト存ス就テハ左ノ諸点ニ付予メ政府

119 昭和7年2月(23日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

臨時総会への対策について

第一二五号(極秘)

佐藤理事ヨリ

リ實際上滿州問題ノ解決ニ第三者ヲ成ル可ク介入セシメサルコトト為ス(ヲ)得策トスルニ非スヤト存セラル
三、臨時総会ニ於テ滿州問題ニ閲シ第十五条ノ適用ヲ事實上避ケシメ且我方ヲ侵略者ト看做スカ如キ極端ナル措置ニ出テシメサランカ為ニハ我方ノ行為カ全ク自衛行為ニシテ我方ノ責任無キコト支那カ無秩序不統ニシテ責任アル政
府ヲ有セサル事実支那ノ排日行為ノ暴戾ナルコト條約侵害ノ事実等ヲ充分ニ認識セシムルニ努メ各連盟國ヲ納得セシムルニ全力ヲ尽スヘキコト勿論ノ儀ニシテ此ノ点ニ付テハ各在外使臣ノ一致協力ヲモ必要トスル次第ナル處當方面目下ノ輿論ハ寧ロ我方ノ立場ハ一応諒トシツツモ上海ニ於ケル我方ノ行動力か過キタルハ争フヘカラストシ一方上海ニ直接利益關係アル諸國ハ自國ノ利益ヲ害セラルルカ如キ事端ノ發生ヲ惧レ他方我軍ノ行動カ人道上許スヘカラサルモノ如キ印象ヲ与ヘ之等ノ利害打算ト感情トハ多大ニ相反映シテ異常ノ衝動ヲ与ヘ居ル次第ニシテ其余波ハ滿州問題ニ迄影響ヲ及ボシツツアル次第ナルニ付刻下ノ急務ハ成ルヘク速ニ上海方面ニ於ケル軍事行動ヲ終局セラレ支那軍撤退ノ後ハ在支公使發閣下宛第一三九号ニ所謂円卓會議ヲ開

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

催シ上海事件ヨリ生シタル一切ノ事態及租界ノ将来ニ付日支両国及英米其他ノ関係列国トノ間ノ話合ヲ始メラル様御取計レ度若シ臨時総会迄ニ右円卓會議ノ輪郭ナリトモ判明シ得ル様運ヒ得ルニ於テハ是ヲ手懸トシテ臨時総会ヲシテ實際上上海事件ヨリ手ヲ引カシムル様努力ヲ試ミルコト致シ度ク依テ出来得ヘクンハ総会前主要国内議ヲ遂ケ右円卓會議開催ヲ決定シ置キ総会ヲシテ是ヲ以テ第十五条三項ニ付所謂紛争ノ解決ノ方法タルコトヲ認メシメ之ヲ切掛ニ手ヲ引カシタル措置ヲ作ルト共ニ輿論ノ鎮静ヲ計ルコト致シ度クスシテ輿論鎮静スルニ於テハ満州問題ニ就テハ既ニ調査委員モ東洋ニ到着シ居レルニ顧ミ総会ハ理事会ノ今後ノ措置振ヲ靜観スル様仕向クル方得策ナリト存セラル

支、英、米、仏、伊、独ヘ転電セリ

120 昭和7年2月(23)日 在イタリア國吉田大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変善後対策に關し意見具申シてく
第三六号(暗)

連盟並ニ英米ノ我ニ対スル批判ハ今ヤ益々深刻ニシテ上海

員ノ決心ヲ以テ内ハ國際協調外交ノ要ヲ国民ニ説キ外ハ支那重要地點、倫敦、華府、紐育、巴里、寿府等ニ於テ常ニ帝国ノ立場ヲ闡明スルニ足ル機関ヲ完備シ以テ我今後ノ世界外交ニ資スルノ基礎ヲ樹ツル方策等御断行ヲ希望ス連盟、支ニ転電セリ

121 昭和7年2月23日 ※在ジョネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

十一国理事通告に対する我方回答シテ
別電 同日芳沢外務大臣より在ジョネーヴ沢田連盟事務局長宛第四七、第四八号
右回答につゝて

第四六号(暗)
佐藤理事く

十六日ノ十二国理事要請ニ関シ本大臣發理理事会議長宛回答(11月11日付ス)トシテ別電第四七号ニ別電第四八号ヲ添ヘ転達方可然取計ハレ度尚二十四日当地朝刊ニ発表ス別電ト共ニ在欧各大公使(露土ヲ含ム)ニ転電アリタシ別電ト共ニ米ニ転電シテ伯、墨、加奈陀、紐育、「シカ」桑港ニ転電シ伯ヲシテ在南米各公使ニ転電ヤシメタリ

方面ノ事態益々紛糾シ時局誠ニ重大ナリト雖モ事茲ニ至レル以上ハ万難ヲ排シテ直ニ上海付近ノ支那兵ヲ掃蕩シ獨力秩序回復ヲ計ルニ邁進スル一事アルノミ之カ為必要トアラハ増兵ノ即時断行亦已ムヲ得サルヘク連盟又列強ノ関係等ハ爾後ノ結果ニ応シテ善後ノ措置ヲ講スヘク今ニ於テ躊躇逡巡セハ万事休ゼンノミ切ニ我軍ノ迅速果斷事功ヲ挙ケルヲ翹望シテ曰マス帝国政府ノ御方針亦茲ニアラント信スル處其所謂善後措置ニ関シテハ今日ヨリ深甚ナル考慮ト用意ナルヘカラズ

第一、上海善後措置方針ニ関シ速ニ廟(議)御決定相成リ第一、右決定方針ハ努メテ寛容ニシテ簡明ナルヲ要スヘク而シテ其綱領ヲ成ルヘク早目ニ列強特ニ英、米ニ内示シ以テ其我態度ニ付安心ヲ与ヘ

第二、列強特ニ英、米ニ対シ時局重大ニ顧ミ特ニ重要人物ヲ派シ我立場及上海善後措置方針及対支政策ノ全局ニ付充分ノ諒解ヲ得ントスルノ努力ト誠意トヲ示サレ

第四、上海、滿州諸事件ニ依リ世界ニ斯ク迄ノ衝動ヲ与ヘシ以上帝国外交ノ威信回復ノ為格別ノ考慮ヲ要スヘク外務省トンテハ外交機関特ニ情報部ノ拡張計画ヲ企テ外交總動力

別電ト共ニ支、北平、奉天、廣東ニ転電セシメタリ
(別電)
第四七号

Excellency:

I have the honour to acknowledge your Note of 16 February, 1932, addressed to the Ambassador of Japan at Brussels, the Representative of Japan on the Council of the League of Nations, covering a communication from twelve Members of the Council of the League.

I must in the first place express my thanks to you for your courtesy in becoming the intermediary of this communication, which has had, as I need not say, my most earnest and immediate attention. I would ask you to express to your Colleagues who collaborated in its composition my very real and sincere appreciation of the extremely courteous and sympathetic terms in which it is couched: terms which are

flattering to the legitimate pride taken by the Japanese people in the record of their country as a devoted friend of peace.

No one can read their statement without being profoundly impressed by their keen realization of the perils and difficulties of the situation and by the generous anxiety which is apparent on their part to leave no avenue unexplored by which the unhappy state of affairs now unfortunately prevailing in the neighbourhood of Shanghai might be remedied.

I cannot but feel, however, that they have addressed their moving appeal to a quarter, where it is not necessary. They are "forcing an open door." It lies in the hands of the Chinese leaders to bring about a discontinuance of the armed conflicts which Japan would never have begun, and which she intensely deplores and dislikes. Your Excellency will find enclosed a statement by my Government in which

their views are set forward in detail, and which I shall be obliged if you will be good enough to lay before those Members of the Council who participated in the statement transmitted by you as above. I trust, however, that I may be allowed, without being misunderstood, to deprecate the growth of the practice of substituting for discussions by the Council of the League, discussions by a select committee of whatever composition. This appears to be in accordance neither with the spirit nor the letter of the Covenant, which implies that the discussions arising out of every case submitted to the Council will be conducted in the presence of all the Members—whatever weight may be attached to their respective votes in the result. Whilst conscious of the fact that the Powers are actuated by the best of motives, and that they are hampered by very considerable difficulties, my Government cannot but decline to recognize that these regular and repeated *ex parte* discussions are really

compatible with the procedure of the League. The public naturally confuse them with the proceedings of the Council, with most unfortunate results.

As a matter of courtesy, however, I have willingly responded to the individual desires of your Colleagues, by drawing up the statement above referred to for submission through your good offices to each of these Powers, whose strenuous efforts in the cause of humanity and peace I desire gratefully to acknowledge. Japan is only too anxious to put a stop to the conflict.

I have &c.
T
録四(印)

1. The Japanese Government cannot understand why the appeal of the Twelve Powers should be addressed to Japan,—as though she were able, by the exercise of some unspecified act of forbearance, immediately to bring about the cessation of the

alarming situation at Shanghai. It is to the Chinese, as the attacking party, to whom the appeal might be effectively made. At the very least, it is impossible to see why it should be made to Japan alone. It does not appear to be suggested that Japan was wrong in resisting the attack made on her Marines, and unless that is assumed, why is she called upon to discontinue that resistance?

2. If the Note had any positive suggestion to offer, such as the establishment of a "safety zone" adjoining Shanghai, with a view to the effective separation of the Chinese from the Japanese forces, or indeed any other guarantee for the cessation of conflict, the appeal would be intelligible. But no such suggestion is made. The Japanese forces are expected to lay down their arms, or to withdraw to Japan, and to allow the Chinese troops to occupy the International Settlement—for that would be the inevitable result. If it is said that the Chinese would be afraid to put themselves thus

definitely in the wrong, the answer is that they already have done so twice; moreover, the storm of Shanghai could always be attributed to irresponsible soldiery.

3. Strong exception must be taken to the assumption that China is willing to resort only to peaceful measures for the solution of the dispute, while Japan is not so disposed. China may undoubtedly and formally declare her willingness to take none but peaceful measures: but deeds speak louder than words. There is no possible reason why the aggressive measures of China should be condoned because of her pacific declarations, while the defensive measures of Japan are branded as hostile. While Japan is daily sustaining losses of life and treasures through Chinese military attacks, it is distinctly surprising to be told that China is willing to settle all disputes by peaceful means:

The Japanese Government do not understand the observation that "Japan has not found it possible to have recourse unreservedly to the methods of pacific

settlement provided for in the Covenant of the League of Nations." Japan has participated unreservedly in the process of settlement provided for in the Covenant; it surely cannot be supposed that

these methods exclude the interim measures of self-defence which are interdicted by no resolution of the League or that these methods compel her to accept a departure from their own express provisions, in the shape of a majority decision. It is a universally accepted axiom that all Treaties of Pacific Settlement leave unimpaired the right of legitimate self-defence! The gravamen of the regret appears rather to be that Japan has not unreservedly put herself in the hands of her colleagues: and this, with great respect, she was legally and morally entitled to decline to do. Legally, because she was under no promise to do otherwise. Morally, because, although reposing the greatest confidence in their judgment and goodwill, she believes that she is

naturally and necessarily in a far better position to appreciate the facts than any distant Power can possibly be.

4. The Appeal invokes Article 10 of the Covenant of the League of Nations. The measures of Japan, strictly defensive, do not infringe the provisions of that Article. That they do not do so is illustrated by the fact that neither when strong reinforcements were despatched by other Powers five years ago to defend Shanghai, nor when American and British forces bombarded Nanking, nor on various other occasions which will readily be recalled, was any question raised by any Power concerning this provision of the Covenant. It is a very proper provision; but it does not exclude self-defence, nor does it make China a "chartered libertine", free to attack other countries without their having any right to repel the attack.

5. As Japan does not, any more than it was contemplated on those occasions, contemplate any attack on

the territorial integrity or independence of a Member of the League of Nations, it is superfluous to say that the bearing of the observation that attacks of such a character made in defiance of Article 10 of the Covenant cannot be recognized as valid and effective, is totally obscure to the Japanese Government. They take this occasion of once more firmly and emphatically declaring that Japan entertains no territorial or political ambitions whatsoever in China.

6. The Japanese Government are also unable to suppose that the duty of justice and moderation towards China is one which flows from the "Nine-Power" Treaty of Washington. The duty of justice and moderation towards all Powers is entirely independent of Treaty, and it is most willingly and gladly accepted by Japan, who is equally appreciative of the justice and moderation shown to herself by others. Japan is fully prepared to stand by all her

obligations under the "Nine-Power" Treaty, but it is conceived that it would be inconvenient and improper to enter upon a discussion of its terms with Powers other than those who are parties to that engagement, and in the absence of some who are parties.

7. Finally it must be emphasized that the Japanese Government do not and cannot consider that China is an "organized people" within the meaning of the League of Nations Covenant. China has, it is true, been treated in the past, by common consent, as if

the expression connoted an organized people. But fictions cannot last for ever, nor can they be tolerated when they become grave sources of practical danger. The time has inevitably come when realities, rather than fictions, must be reckoned with. The general desire to see China happy, prosperous and united, has led the world to treat her as united in a way in which in sober fact she was not. Its population is not organized, except in patches. If Japan had no interests there, it might be

short compass which this Government desire to adduce in answer to the appeal to them, an appeal of which they keenly feel the generosity and lofty humanity. It has been shown that the Powers, in appealing to Japan, are forcing an open door, and that it is the aggressive Chinese forces to whom the appeal should be addressed. It has been suggested that, to be really useful and practical, the appeal should comprise some specific plan such as the creation of a "safety-zone". The charge has been rebutted that Japan is less disposed than China to settle matters by peaceful means. Lastly, it has been shown that China cannot be dealt with on any other footing than that of fact and reality, and that the fact is that China does not constitute an "organized people". It remains for the Japanese Government to repeat their deep sense of the high purpose and philanthropic energy which have actuated the Powers in taking this unusual step. It is their sincere belief that,

possible to go on indefinitely respecting the fiction that the region is occupied by an "organized people". Japan, however, has enormous interests there. It is impossible any longer to treat chaos in China as if it were the order. The authorities which subsist in various parts of China derive their title simply from the fact that they do exercise control within limited areas. But they can have no title to extend their control beyond them. This anomalous state of things cannot but profoundly modify the application to Chinese affairs of the Covenant of the League. Instead of a single organized people, we have there various rudimentary nuclei of organization. The Japanese Government do not pretend that it is easy to work out the implications and consequences of this situation. It is not easy, but it is necessary. We must face the facts: and the fundamental fact is that there is no unified control in China, and no authority which is entitled to claim entire control in China.

8. The considerations have now been stated in

on reflection, those Powers will come to coincide with the views now advanced and it is earnestly hoped that they will not relax their utmost efforts to induce the Chinese to refrain from aggressive acts such as those which have precipitated the armed conflicts of the past five months.

Japan altogether repudiated the stigma which is attempted in some quarters to be attached to her, of favouring and desiring war. Her people yield to none in their detestation of war and its inevitable horrors. If the efforts of the twelve Powers should succeed in bringing about a pacific attitude on the part of China, nowhere will more sincere delight be felt than in Japan.

122 昭和7年2月24日 在シテネーク田連署事務課
芳沢外務大臣宛(電報)

總理事務官の本職は總理の本職より

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

表ノ試ムヘキ演説カ総会内外ノ空氣指導上頗ル重要ナル役目ヲ演スヘキコトハ申ス迄モ無キコトニシテ從テ我方トシテモ其ノ内容ニ就テハ早キニ及ンテ慎重準備ノ要アリ右ハ

本省ニ於テモ既ニ御考慮中ノコトト存スルモ出来得ヘクハ

其ノ骨子本週中ニ御内示ヲ仰キ他方ニ於テハ之ヲ基礎トシ總会直前内外ノ情勢ニ顧ミ適宜敷衍整備致度ク右様心得置キ然ル可キヤ當方準備ノ都合モアルニ付何分ノ御内意折返

シ御回示請フ

123

昭和7年2月(24日)

在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会に対する我が方針を各國政府に申入

れ方にについて

第一三五号(暗)

臨時総会ニ於テハ小國ノ勢力侮り難キモノアルハ御承知ノ通ニシテ総会前各國政府ヲシテ出来得ル限り我方ノ立場ヲ理解セシメ寿府ニ於ケル代表者ヲシテ善處セシメ得ル様取計ヒ得レハ極メテ結構ナリト思考セラルニ付政府ノ総会ニ対スル御方針御決定ノ上ハ在外各使臣ヲシテ一齊ニ各政府ニ右方針ヲ申入レシメラルト共ニ之カ説明資料等ハ成

ルヘク豊富ニ供給方御取計相煩度ク既ニ御氣付ノコトトハ存スルモ為念申進ス

在欧各大使へ転電セリ

124

昭和7年2月(24日)

※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

総会審議の方向に關しギリシャ代表と意見交換について

別電

同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第一三七号

ボリチス代表の決議案文

第一三六号(至急極秘)

佐藤代表ヨリ

(1)二十三日「ボリチス」(希臘代表)ヨリ本使ニ會見ヲ求

メ來レル処「ボ」ハ自分ハ日本ノ旧キ親友トシテ御話スル次第ナルカ来ルヘキ臨時総会ニ於テハ多クノ国ハ各自ノ意見ヲ述フルコトニ付頗ル躊躇スル有様ニテ成ルヘク態度表明ヲ余儀ナクセラルコトナキ様希望スル次第ナリ就テハ総会開会ト同時ニ日本ノ代表ヨリ停戦ヲ承諾スル意志アルコトヲ明言セラレタク左スレハ総会ノ任務遂行上極メテ好都合ナルヘシ御承知ノ通り現在ノ寿府ノ空氣ハ頗ル日本ニ

惡ク日本トシテハ率先シテ右ノ如キ声明ヲ為ササル限り支

那ト同一ノ地歩ニテ総会ニ臨ムコト困難ナルヤニ思考セラル若シ日本カ右ノ如キ声明ヲ為サルニ於テハ総会ハ第一

日ニ於テ別電第一三七号ノ如キ決議ヲ採択シ第二日ニ於テハ委員会ヲ開キテ停戦ノ大要ヲ定メテ之ヲ総会ニ報告シ第

三日ニ於テ総会之ヲ受理スルコトトスレハ総会ノ權威モ保

タレ平和ノ維持ニ貢献シタリトシテ一応手ヲ引キ得ヘシ日本モ亦極東ノ大国トシテノ立場ヲ保チ得ヘシ云々ト述ヘタルニ付本使モ実ハ成ル可ク速ニ敵対行為ノ終結ヲ見シ事ヲ

希望シ一両日來焦慮シ居ル次第ノ處総会ハ果シテ右停戦ノ提議ノミニテ解散シ得ルヤ否ヤ疑問ナリ事件其ノモノノ解

決ニ付テハ如何ニスヘキヤト尋ねタル処「ボ」ハ其処迄考へ居(ラ)サリシモノノ如クナリシニ付本使ハ全然自分一

己ノ思付トシテ上海ニ円卓會議ヲ開催シ総会ハ紛争ノ解決

ハ之ニ讓ル事トシテハ如何ト述ヘタル処「ボ」ハ其ハ非常ニ面白キ考案ナリ是非之ヲ実現シ度シトテ贊意ヲ表シタル

上兎ニ角自分ノ案ニ対スル日本側ノ意向ヲ茲両三日中ニ承知スルヲ得ハ之ニ依リ各國代表者ノ同意ヲ求メ総会前ニ膳立ヲシタシ若シ該案カ成リ立テハ支那側ヲ圧迫シテ演説等

ヲ為サシメス速ニ実行方法ニ入り度シ云々ト述ヘタリ

(2)〔3〕卑見ニ依レハ軍事行動依然繼續ノ場合連盟トシテ先ツ考

フヘキハ敵対行為ノ停止ニ在ルハ申迄モ無ク又數多ノ前例モアル次第ニテ「ボ」案ノ如キハ連盟トシテハ當然案出セ

ラルル提案ト言ハサルヘカラス唯日本側ヨリスレハ本件決議ノ如キモノ採決セラレタリト仮定センカ軍事行動予定通り進行ノ場合ハ兎ニ角然ラスシテ敵軍ヲ注文通り後退セシメ得サル場合ニモ右停戦ノ要求ニ応セサルヲ得サル破目ト

ナリ皇軍ノ權威上到底承諾出来ストノ反対論当然起ルヘシト考ヘラル但連盟カ一旦停戦ヲ要求スルニ決シタル以上之ヲ承諾セサル國ハ當然侵略者ト看做サルヘク此点大ニ注意ヲ要スル次第ナルニ付右篤ト御考量ノ上「ボ」案ニ対スル

御意見至急御回訓ヲ請フ

(3)〔4〕尚「ボ」ハ余談トシテ理事会ハ第十五条ノ手続ヲ完全ニ

実行スルコトヲ逡巡シ同条第三項ノ調停ヲサヘ行ハサリシカ右ハ調停ニ失敗シタル場合ニハ第四項ニ進ムノ外無キ為

ナリ此困難ハ総会ニ於テモ同様ニシテ万ー総会ニ於テ調停

ヨリ第四項ノ報告ニ進ムニ於テハ其日本ニ及ホス影響頗ル大ニシテ遂ニハ第十六条ノ適用ヲモ見ルニ至ルヘク其場合

初メハ緩和シタル制裁方法ヲ執ルトスルや日本国民ハ却テ反撥スベク結局世界戦争トナリ其勝敗ノ如何」抱ケベ漁夫ノ利ヲ占ムルモノハ「ハシヒット」ナルロムハ誰ノヤ眞仕ク所ナルヲ以テ細心ノ注意ヲ要スル次第ナルセ一回線¹⁴¹ニ懸ル以上討議ノ傾向ハ予測シ難シテ頗ル心配ノ色ハ見ヤタリ（申ス迄モ無キヨリ乍ラ本件出所極秘トハシタハ）

在欧米各大使、在支公使へ転電ヤリ
在歐米各大使、在支公使へ転電ヤリ

（司 署）

No.137 (署)

Assemblée,

Saisie, sur requête de Chine, aux termes de Art. 15, Al. 9 Pacte, du différend qui s'est élevé entre cette Puissance et Japon;

Constatant que ce différend a abouti à conflit armé et que les hostilités sont déjà engagées entre forces des deux Parties;

Ayant en vue dispositions de Article 11 Pacte où il est déclaré que "toute guerre ou menace de guerre intéresser Société tout entière et que celle-ci doit

prendre les mesures propres à sauvegarder effectivement paix des nations";

Pleinement consciente que son premier devoir est, aux termes de Article 15, Al. 3 du Pacte, de s'efforcer "d'assurer règlement de différend";

Estimant qu'il importe avant tout de faire arrêter sans délai effusion du sang,

Décide

1. D'adresser d'urgence aux deux Parties l'instant appel de suspendre immédiatement hostilité, en leur rappelant que, d'après jurisprudence de la Société des Nations, établie avec leur propre concours, celle d'entre Elles qui refuserait de s'y conformer serait tenue pour l'agresseur; et
2. De charger un Comité de dix membres d'étudier et de lui faire rapport dans plus bref délai sur les modalités que, pour être efficace et durable, devrait comporter armistice proposé aux Parties.

~~~~~

125

昭和7年2月(24日)

在英國沢田臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日中紛争に関する英國下院における審議状況  
立候ニレ

第1〇五号

(1) 「ハングブリー」日支兩國ヲシテ先ツ休戰セシメ次テ商議ヲ開カシムル為英國政府ハ連盟ヲ通シ如何ナル措置ヲ執

ラントシツツアルカ目下上海共同租界ハ最モ危険ノ状態ニアリタルカ其内最セ一般ノ注意ヲ惹キタルバ「ハングブリー」及外相間ノ討論ニシテ大要左ノ通

〔「ハングブリー」日支兩國ヲシテ先ツ休戰セシメ次テ商議ヲ開カシムル為英國政府ハ連盟ヲ通シ如何ナル措置ヲ執ラントシツツアルカ目下上海共同租界ハ最モ危険ノ状態ニ在リ此際英國人ハ非戰鬪員タルト軍隊タルトヲ問ハス一切ノ財産ヲ其儘トシテ引揚ヲ断行スルコト賢明ノ策ナラズヤ本件紛争解決ノ為ニハ政府及連盟理事会ハ今ヤ其本来有スル機能(經濟的方法タルト外交機關ノ引揚タルトヲ問ハス)行使ニ付考慮スヘキ時ナリ連盟理事会ハ先般日本ハ仲裁ヲ拒絶シ連盟規約九国条約及「ケロッグ・パクル」<sup>142</sup>定ムル義務ヲ無視シタルコトヲ明リ「ハコーネ」シタルニ非スヤ余ハ日支何レニ偏スル訳ニハ非サルモ日本カ治外法權

ヨリ離脱シ得タルハ余り遠カラサル過去ノコムナリシカ之ト同様支那モ亦速ニ開港場ニ於ケル自口支配權ヲ回復スルノ権利ヲ有スルモノヘト云ハヘシ支那人一般ハ或國ハ日本ト盟約ヲ結ヒ居ルコト又結局列強ハ日本ニ何等ノ干渉ヲ為シ得キモノニ非ストテ或國ハ日本ノ執り来レル行動ヲ助成シツツアルコトヲ信シ居ルカ如キ處外相ハ其事實ニ非サルコトヲ言明シ得ルカ一九二六年英國人ノ生命財産ノ危険ニ瀕シタル際英國政府ハ新ニ支那ト友好且協調的關係維持ヲ目的トスル既存政策ヲ採択シタル次第ナルカ鞏固ナル中央政府ノ確立ゼンコトヲ主張又ハ待ツコトナク支那ト友好円満ナル關係ノ維持ニ努力スルコトヲ以テ對支根本政策トスベシトノ方針ニ變リナキカ自分ハ日本政府及國民ニ対シ暴力ニ信賴シ約束ヲ破り普通人間ニ為スベカラサルコトヲ敢テスルモノノ落付ク所ハ外面成功ノ如ク見ヨルコトアルトモ結局ハ大ナル失敗ニ帰スルモノナルコトヲ告ケントス勿論日本軍隊ハ支那軍隊ヲ容易ニ破ルヘキモ結局ハ之ニ依リ日本ハ何等得ル所ナカルベシ斯クノ如キハ帝国主義者ニ対スル良キ教訓ト云フベク自分ハ世界ノ平和ハ相互ノ協調ト好意ニ俟ツ外無キコトヲ確信バ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(2)外相ハ先ツ上海ノ現状ヨリ説キ起シ支那ニ於ケル反日「ボイコット」ノ行ハレタル事及本年一月十八日事件発生以来ノ経過及英國始メ連盟其他關係國カ本件平和的解決ノ為今日迄執リタル措置ニ付キ詳細説明ヲ与ヘタル後本件ニ對スル英國政府ノ方針ヲ概説スヘシト前提シタル上第一、英國政府ハ連盟国タルト否トヲ問ハス協調シテ連盟ノ德義的權威ヲ擁護セントス日支両國ハ何レモ連盟ニ対シ其ノ立場ヲ明カニシツツアレハ其ノ内連盟ニ於テモ何等和平的解決ノ途ヲ講スルニ至ルヘキコトヲ信ス

第二、英國政府ハ連盟国及其他ノ國トモ協調提携シテ紛争調停ニ全力ヲ尽スト共ニ出先官憲ニ於テモ事件ノ平和的解決ノ為努力ヲ続ケ來リタル次第ナリ我國ハ今猶日支両國何レトモ友好關係ヲ続ケツツアリ

第三、英國政府ハ英國ノ權益擁護ノ重大ナル責務ヲ有スルモノニシテ吾人ハ共同租界ニ於ケル生命財産ノ安固ヲ期スル為万全ノ策ヲ講シ現ニ兩國政府ニ対シテモ中立人ノ生命財産ニ危害ヲ及ホス如キコトヲ慎ムヘキコト及斯ル事態発生ノ場合ニハ自己ノ有スル権利ヲ留保スヘキ旨ノ申入レヲ為シタル次第ナリ然レトモ根本問題ハ連盟ニ於テ戦争ヲ止

メ悲慘事ヲ終結セシムル為最善ノ方法ニ依リ其ノ力ヲ用フルコトニ在リ今ヤ事件ハ連盟理事会及總会ノ手ニ在リ連盟ノ義務ハ出来得ル限り速ニ所有報告ヲ蒐集シ且日支両國ノ言分ヲモ聽取スルコトニシテ是等手続ノ終了セサル今日中間のノ判断ヲ下スハ適當ナラスト思考ス尚日本ト或國トノ密約説ノ如キ全然事實無根ノコトナリ

連盟、米、支ヘ転電セリ

126 昭和7年2月24日 在仏國栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

仏國新聞記者らの上海事変に対する反応について

本省 2月25日後着  
パリ 2月24日後発

本省 2月25日後着

第一二八号(暗、極秘)

(1)二十四日「ジェロウ」本官ヲ來訪シ内報スル所ニ依レハ右來訪前在当地英國大使ニ会ヒタルカ其際同席ノ同大使館參事官「サー、チャールス・メンデル」カ「チレル」及「ジエロウ」ノ前ニテ「ベルトロウ」カ同參事官ニ対シ若シ支那軍カ日本軍ニ勝ツカ如キコトアラハ支那軍ヲシテ自負心

ヲ強メシメ(現状ニテ抑ヘ居ルタケニテモ既ニ此ノ危險アリ)遂ニハ歐州人ノ支那ニ於ケル地位ヲモ破壊スル結果トナルヘシト述ヘタル由ヲ語リ居リタル趣ナリ「ジエ」ノミナラス本官ノ知己ナル新聞記者ニシテ上海事件ヲ注意シ居ルモノ又ハ寿府ヨリ帰リシモノ等ノ所見ヲ聞クニ歐洲ノ小國中ニハ(例ヘハ波斯等)日本ノ支那ニ於ケル行動ヲ諒解セサルニアラサルモ其唯一ノ懸念ハ日支事件カ歐洲ニ対スル先例トナルヘシト云フ点ニテ右諸國ハ歐州ニ閑スル限り規約ヲ文字通り適用スルコトヲ理想トスルヲ以テ支那ノ現状ノ為日支事件ニ関シテハ適用ヲ異ニスルノ要アリトノ主張ハ内心認メサルニアラサルモ連盟ノ問題トナル限り右主張ニ反対セサルヲ得スト云フニアルモノノ如ク尚日本カ陸ノ際鬼ニ角總会開会前ニ支那軍ヲ擊退シテ少クトモ事實上ニ總会ニ望ムコトハ規約ノ文面ヨリモ認メ能ハサルノミナラス戰闘最中ニ總会ヲ開キ夫レカ十日乃至二週間モ統クニ於テハ各國代表ノ演説及之カ無線放送等ニ依リ日本ニ頗ル不利ナル宣伝トナリ他方援軍ノ抵抗ヲ益々強ムル結果トナ

リ日本トシテハ最モ困難ナル地位ニ立ツコトトナルヘクスル不利ナル狀態ニテ總会ニ望ム位ナラハ寧ロ理師会ノ手続ノ規約違反ナル点等ヲ指摘シテ連盟ヲ脱退スル方日本ニ執り得策ナルヘシト云フニ在リ

右ハ何レモ日本ノ友人ニシテ事態ヲ熟考シ居ルモノノ忌憚ナキ意見ナルヲ以テ敢テ御参考迄ニ電報ス

連盟、英、米、独、伊ヘ転電セリ

127 昭和7年2月24日 在仏國栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛

仏國下院における上海事変に関する討議について

本省 4月2日付  
パリ 2月24日付

昭和七年二月二十四日

公第一三八号

在 仏

臨時代理大使 栗山 茂(印)

外務大臣 芳沢 謙吉殿

仏國下院ニ於ケル上海事変ニ關スル討議ノ件

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

128

昭和7年2月(25)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

連盟総会代表への任命辞退について

「ラヴァル」首相ハニ答ヘテ仏國ハ條約ノ適用ノ為ニ努力ヲ惜シマズ二月二日ノ通牒ノ如キモ不戦条約ノ適用ニ外ナラザル旨ヲ述べ右提案ニ関シテハ日本ハ第五項ノ日支交渉ヲ第三国「オブザーバー」ノ介入ノ下ニ行フベントスル点ニ付テハ之ヲ拒絶シ新タル動員ニ付テハ其上海ニ於ケル現在兵力疲労ノ結果右増援ノ目的ヲ以テ一万ノ派兵ヲ決定シタル今日最早之ヲ中止スルコト困難ニシテ又中立地帯設置案ニ付テハ支那軍ガ撤退スルニ於テハ日本軍ハ現在陣地ヨリ前進セザルベシトスル留保ノ下ニ承諾ヲ与ヘ此ノ点ニ関シ日本海軍司令官ハ列国軍指揮官領事及支那官憲ト協力スベク中立地帯ニハ第三国ノ警察力ヲ入レ右協定ノ態様ハ現地ニ於テ決定セラルベシト述べ右提案ニ付テハ列国ガ目下協議中ナルコトヲ述べ本討議期日延期ヲ力説シ「ムーテ」及「ドリオ」両氏ハ右ニ対シテ反駁ヲ加ヘタルガ議長ハ首相提案ヲ投票ニ付シ三〇〇票二六七票ヲ以テ討議延期可決セラレタリ~~~~~

当國下院ニ於ケル上海事件ニ関スル討議ニ付テハ累次往電問上短期日ヲ決定スベキ旨決議シ居リ右決議ノ趣旨ニ従ヒ同日議長ハ社会党議員「ムーテ」氏(往信第一三一号「ムーテ」動議参照)共産派議員「ドリオ氏」(Doriot)独立左派「アンリ・ゲルヌ」氏(Henri Guernut)及急進社会党議員「マルゲヌ」氏(Margaine)等右派議員ノ質問上程期日決定問題ヲ提出シタルニ對シ政府側ハ延期ヲ要求シタルガ質問者ハ日本ノ不戦条約及連盟規約ヲ蹂躪スル行為ニ対シ連盟及仏國ガ之ヲ侵略者トシテ適當ノ制裁ヲ加フルコトヲ為サズ誓約ノ尊厳及平和確保ノ為ニ力ヲ尽スコトナキヲ遺憾ナリトシテ即日上程ヲ提議シ(「ムーテ」及「ゲルヌ」氏)又日本ノ武力的態度ガ支那ニ於ケル共産派ノ勢力ヲ拡大スル所以ニシテ支那ノ共産派ガ安南ノ共産化ヲ意味スルモノナル以上日支事件ハ仏國ニ採リ直接ノ利害關係ヲ有スルモノナリトテ速ニ上程セソコトヲ要求シ(「マルゲヌ」

(七六文書)(八文書)(八四文書)(九三号及第九五号参照)ヲ以テ報告申進スメ置キタル處ナルカ其委細ニ付左記ノ通報告申進ス記

下院ハ予テヨリ二月九日ノ會議ニ於テ上海事件ニ関スル質問上短期日ヲ決定スベキ旨決議シ居リ右決議ノ趣旨ニ従ヒ同日議長ハ社会党議員「ムーテ」氏(往信第一三一号「ムーテ」動議参照)共産派議員「ドリオ氏」(Doriot)独立左派「アンリ・ゲルヌ」氏(Henri Guernut)及急進社会党議員「マルゲヌ」氏(Margaine)等右派議員ノ質問上程期日決定問題ヲ提出シタルニ對シ政府側ハ延期ヲ要求シタルガ質問者ハ日本ノ不戦条約及連盟規約ヲ蹂躪スル行為ニ対シ連盟及仏國ガ之ヲ侵略者トシテ適當ノ制裁ヲ加フルコトヲ為サズ誓約ノ尊厳及平和確保ノ為ニ力ヲ尽スコトナキヲ遺憾ナリトシテ即日上程ヲ提議シ(「ムーテ」及「ゲルヌ」氏)又日本ノ武力的態度ガ支那ニ於ケル共産派ノ勢力ヲ拡大スル所以ニシテ支那ノ共産派ガ安南ノ共産化ヲ意味スルモノナル以上日支事件ハ仏國ニ採リ直接ノ利害關係ヲ有スルモノナリトテ速ニ上程セソコトヲ要求シ(「マルゲヌ」

氏)タルガ「ラヴァル」首相ハ之ニ答ヘテ(理事會ハ第十二条及第十五条ノ適用ヲ求メラレ居ル處連盟トシテハ右要求ニ付目下研究中ニシテ上海特別委員會ノ報告ヲ待チテ何等ノ措置スル意図ナリ(二)列國ハ二月二日ノ共同通牒ニ對スル日支回答ニ付目下審議中ナリ(三)仏國ハ日支兩國間ノ平常關係恢復ノ為公正ナル立場ヨリ努力スル處アリト説明シ日支兩國ハ一般仲裁々判條約(Acte Général d'Arbitrage)ニ調印シ居ラザルヲ以テ仲裁義務ヲ有セズ従ツテ之ニ仲裁々判ヲ強要スルコト能ハズト論ジ最後ニ政府トシテハ事件未解決ノ今日議會ニ於テ公然之ヲ論議スルコトハ事件ノ性質及諸般ノ事情ニ鑑ミ穩當ナラザルヲ以テ本問題ニ関スル質問延期ヲ要求スル旨声明シタルガ「ムーテ」「ゲルヌ」及「ドリオ」氏ノ反駁ノ後「エドアール・エリオ」氏ハ急進社会党ノ名ニ於テ日本ノ侵略行為ニ付日本ニ抗言ヲ敢テスル旨ヲ述ブ日支紛争事件ガ連盟ノ運命ヲ危殆ナラシムルト共ニ不戦条約ノ根柢ヲ覆スモノナル所以ヲ力説シ仏國ガ一九二二年華府ニ於テ支那ノ独立ヲ容認シタル以上右独立保全ノ為日本ニ仲裁々判ヲ強要シ国際司法ノ前途ヲ擁護スベキ旨ヲ論ジタリ

第一四〇号(極秘)

松平ヨリ

貴電(一八文書)第四四号拝承然ル處軍縮會議ハ略々一般討議ヲ終リ本

日ヨリ一般委員會開催セラレ重要事項ニ関スル審議ニ入ル事トナリタルニ付テハ佐藤全權及本使共臨時總會ニ執掌スル事如何アル可キカト懸念セラル殊ニ本使ニ於テハ軍縮會議ノ首席全權タル以外總會ノ首席代表ヲモ(兼ネル)事ハ微力其重荷ニ堪ヘサルヲ惧ル尚又當方面ノ對日形勢甚タ険惡ナル此際今次總會迄ニ上海方面ノ軍事行動終結セス或ハル場合ハ自然規約第十六条適用ニ至ル場合無キヲ保セススノ如キ場合本使ノ微力ニ依リ大勢ヲ挽回シ得ヘシトノ確信ヲ有セス尤モ右事情ニ拘ラス本使御任命ノ場合ニハ出来得ル限りノ努力ヲ為ス可キモ前記ノ情勢ニ照シ或ハ政府ノ御期待ニ副ハサルカ如キ結果ヲ見ルヤモ計リ難ク斯ノ如キ事トモ相成ルニ於テハ甚タ相濟マサル儀ニ付本使代表御任命ハ御辭退致度ク今一應御考慮ヲ請フ

129 昭和7年2月(25日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

## サイモン英外相日本軍増援部隊の租界外上陸

を要望について

第一四三号(極秘)

松平大使<sup>(1)</sup>  
(一八文書)

貴電第四四号ニ関シ

「サイモン」本二十四日来寿ノ趣通報アリタルニ付帰任ヲ見合セ同使ノ來着ヲ待チ受ケ親シク会談セリ

先ツ本使ヨリ其後ノ上海ニ於ケル我方ノ情報ヲ語リ陸兵到着後成ルヘク租界ニ迷惑ヲ及ホササル事ヲ念トシ出来得ル限り大部隊ヲ租界外ノ北隅ニ集中シ二十日ヨリ運動ヲ開始租界ヲ離レテ再進現在ノ地点迄進出セシ模様支那軍陣地ノ堅牢ナル事支那側ニ於テハ第十九路軍ノ外蔣介石軍ノ一部参加セル事等其ノ実況ヲ述ヘ此際一日モ速ニ増援隊派遣ノ必要ヲ述ヘ其ノ目的ハ單ニ既定計画実行ヲ速ナラシムルノ外無キ旨此ノ際再説明シタル処「サ」ハ日本ノ「プレスティジ」ヲ維持スル上ニ於テ現在ノ部隊ヲ増援セラル事ノ必要ナルハ充分ニ了解セリ但シ右軍隊又ハ其ノ一部ヲ租界内

ト述ヘ尚自分ハ去二十二日議会ニ於テ答弁シタル際目下ノ状況ニ於テ英國政府ノ執ルヘキ態度ヲ説明セリトテ沢田代理大使発大臣宛電報第一〇五号ノ次第ヲ述ヘ(大臣ニ於テ是非一読ヲ請フ)若シ適當ノ機会ニ於テ有効ニ努力シ得ルニ於テハ英國政府ハ何時ニテモ斡旋ノ勞ヲ執ルニ吝ナラサルコトヲ述ヘタリ本使ハ帝國ノ面目上目下ノ如キ状況ニ於テ我方ヨリ斡旋ノ勞ヲ依頼スルコトハ困難ナルヘキモ適当ノ時期ニ於テ英國其他友邦ノ斡旋ノ申出ヲ受クル時ハ帝國政府ニ於テモ之ヲ考慮スルコトアリ得ヘキニ付右ニ就テハ篤ト政府ニ対シテモ貴意ノアル処ヲ伝フヘク尤臨時総会ニ於テ万一勢ノ赴ク處第十六条ノ適用問題等惹起スルニ於テ勿論我方ニ於テ円満解決ヲナシ得サルニ至ルヘキニ付此点ニ就テハ充分我國人心ノ模様モ考慮セラレ度キ旨ヲ述ヘタル処「サ」ハ實ハ自分等ノ閑スル限りトカスノ如キコトナキ様防ク積ナルモ小国等ニ於テハ隨分反感ヲ有スルモノ多キニ付可成リ危険ノ状態ニアルコトヲ懸念シ居ル旨ヲ申居リタリ尚同氏ハ總会迄引続キ当地ニ滯在スル筈ニ付出來得ル丈ケ連絡ヲ保ツ積ナリ

ニ上陸セシメラル時ハ關北方面ノ支那軍ハ之ヲ口実トシテ租界内ニ発砲ス可ク既ニ今日迄英國總領事館「ホテル、アスター」等ノ付近ニ砲弾飛来シ頗ル危険ヲ感スルニ付

<sup>(2)</sup>新來ノ軍隊ハ總テ租界外ニ上陸セシメラル様切ニ希望ス

然ル上若シ支那軍カ租界内ニ発砲スルニ於テハ日本兵上陸等ノ口実ヲ有セサルニ付英米ニ於テモ強硬ノ態度ヲ以テ支那ニ當ル事ヲ得可シ此ノ点ハ日本政府ニ是非伝ヘラレ度キ旨述ヘタルニ付本使モ之ヲ承諾シ置キタリ而シテ「サ」ハ右日本軍ノ增派ハ尤ト考フルモ此ノ際総会ヲ控ヘ居ル際ニ付部隊ノ増援來リ大規模ノ衝突起り双方多大ノ死傷ヲ造ル如キ報道來ルニ於テハ人道上(ノ)見地ヨリ議論一層沸騰シ今回ノ總会ハ極メテ日本ニ執リ不利ナル状況ヲ來ス事ヲ友人トシテ真ニ憂慮ニ耐ヘス目下ノ状況ニ於テ支那軍ヲ破ル可キ兵數ヲ送ラル事ハ已ムヲ得サルトスルモ其ノ愈上陸ヲ了シテ將ニ支那軍ヲ圧倒セントスル暁ニハ日本ニ於テ有利ノ立場ヲ占ムル事トナルニ付其機會ニ於テ何トカ英國其他ノ調停ニ依リ少クトモ(脱)ヲ交ヘスシテ時局ヲ解決スル見込ヲ生スルニ於テハ自分等ハ總会ニ於テ直ニ其旨ヲ述ヘ小国等ノ議論ヲ抑ヘ円満ニ之ヲ解決シ得ヘシト信ス

期停止を希望について

130 昭和7年2月(25日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

## デービス米軍縮代表ら上海における戦闘の早

佐藤理事ヨリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

二十四日軍縮會議会場ニ於テ本使「ギブソン」及「ノウマン・デビス」ト偶然会談セリ両氏共口ヲ挿ヘテ上海ニ於ケル日本ノ行動余リニ極端ニシテ忍耐ヲ欠キ居ル点何レノ方面ヨリ考フルモ諒解ニ苦シムト称シ米國軍隊若ハ海軍中一人ニテモ血氣ニハヤルモノアリテ日本軍ト事ヲ釀スニ於テハ夫レコソ万事休スヘク寒心ニ堪ヘサル状勢ニ在リ斯ノ如キ危険ナル状態ハナルヘク早ク之ヲ終止セシメサルヘカラズ三月三日ノ総会ニ於テ日本側ヨリ進ンテ敵対行為ノ停止ヲ申出且ツ当地ニ於テ関係国ノ円卓會議等ヲ催ス用意アルコトヲ宣言シ得ルニ於テハ誠ニ好都合ニテ事態忽チ緩和シ日本ハ大国ノ權威ヲ保持シツツ時局ヲ解決シ得ヘシ而シテ停戦条項ニ闇シテハ最後通牒ノ条件ニ固執スルコトナク成ルヘク緩和シタルモノトナシ兩軍撤退ニ依リ生スル中間区域ハ之ヲ各（国）軍隊ノ警備ニ復スヘク又日本軍増援ノ噂モ新聞報ニ依リ承知シ居ル處相当ノ増援隊ヲ派シテ氣勢ヲ示メシ日本側及中立国側ノ認メテ以テ妥当ナリト信セラルル停戦条件ニ対シ支那側カ故障ヲ申述フル如キ場合ニハ何時ニテモ之ヲ膺懲スル氣力ヲ示メシ唯實際ニハ自制シテ増援兵力ヲ使用スルコトナキ様善處セハ大国トシテノ体面ハ充

メシ日本側及中立国側ノ認メテ以テ妥当ナリト信セラルル停戦条件ニ対シ支那側カ故障ヲ申述フル如キ場合ニハ何時ニテモ之ヲ膺懲スル氣力ヲ示メシ唯實際ニハ自制シテ増援兵力ヲ使用スルコトナキ様善處セハ大国トシテノ体面ハ充

リボラー上院外交委員長あて書翰について  
第一六〇号  
國務長官ハ上院外交委員長「ボラー」宛書翰（一九四〇年発表）ニ於テ九国條約ニ対スル米國政府ノ態度ヲ宣明セルカ右ハ「ボラー」宛書翰ノ形式トナリ居ルモ内容上芳沢大臣ノA・P声明其ノ他最近日本政府ヨリ理事會議長ニ送レル「ステートメント」等ニ現ハレタル日本側ノ意向ニ対スル米國政府ノ反駁ニ外ナラスト一般ニ認メラレ居リ  
右書翰中國務長官ハ  
(1)支那ニ於ケル門戸開放、領土保全ハ「ジョン・ヘー」以来ノ米國ノ政策ニシテ右ハ九国條約ニ依リ確認セラレタ  
リ九国條約ハ華府會議ノ際他ノ諸条約ト相互関連シテ締結セラレタルモノニシテ「グアム」、比律賓ノ防備問題等ニモ關係アリ然ルニ是等他ノ条約ノ改訂問題ヲ考慮スルコトナク独リ九国條約ノミヲ改訂スト云フカ如キハ考量ノ余地ナシ九国條約ニ含マル強國ノ弱國ニ対スル侵略ヲ排除スルノ精神ハ「ケロッグ」条約ニ依リ更ニ裏書セラレタリ

(2)最近ニ於ケル滿州並ニ上海ニ於ケル事態ハ是等条約ノ改

以上ハ單ニ両氏ノ私見ニ過キス何等米國政府ノ意見ヲ代表スルモノニアラサルハ勿論ナルモ御参考ノ一端トシテ電報ス  
131 昭和7年2月(25日) 在米國出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
九国條約遵守に関するスムソン國務長官よ

分ニ之ヲ維持シ得ヘシト信ス又円卓會議ニ関シテハ參加國ヲ大國ニノミ限ル様ニテハ小國側ノ思惑モアルヘク寧ロ九国條約ノ調印國全部ヲ網羅スルヲ以テ最良ノ策トスヘシ而シテ其議題ハ上海問題ノミナラス滿州問題ヲモ討議スルコトトスヘク其場合ニ於テモ實際會議ニ於テ口ヲ利キ得ルハ大国ノミニシテ他ノ小國ハ勢ヒ緘口スヘク結局小數大国ノミノ會合ト変ラサルヘク又滿州問題ノ付議ニ関シテハ日本側ニ於テ相當反対アルヘキモ之亦滿州ニ於ケル從来ノ歴史ニ顧ミ日本ノ主張ハ充分之ヲ貫徹セシメ得ヘシ兎ニ角九国條約參加國ヨリ成ル円卓會議ヲ開クニ至ラハ日本ノ誠意艶然タルモノアルヘク時局打開ノ誠ニ望マシキコトナリ云々ト述ヘタリ

以上ハ單ニ両氏ノ私見ニ過キス何等米國政府ノ意見ヲ代表スルモノニアラサルハ勿論ナルモ御参考ノ一端トシテ電報ス  
131 昭和7年2月(25日) 在米國出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
九国條約遵守に関するスムソン國務長官よ

別電ト共ニ連盟ニ転電シ在欧各大使ヘ郵送セシム  
132 昭和7年2月(25日) 在英國澤田臨時代理大使より  
英國對日輿論啓發に關する日英協会会长の申出について

第一〇七号（暗、極秘）  
二十三日日英協会評議員會長「チャールス・セール」氏來訪昨今當國ノ對日輿論少クトモ新聞ニ現ハレル限りニ於テ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ハ益々悪化スル傾向アリテ憂慮シ居ル次第ナルカ之ニ対シ  
日英協会トシテ日本ノ立場ヲ闡明シ右輿論啓発ノ為何等手  
段ヲ執ルコト我等ノ実務ナリト痛感シ居ル処大使館トシテ  
右手段ヲ講スルニ異議ナキヤ承知シタク異議無キニ於テハ  
啓発ノ資料適宜供与ヲ得タキ旨申出アリタリ本官ハ之ニ対  
シ趣旨ハ結構ト存スルモ先ツ日英協会ノ名ニ於テ実行スル  
ニ当リテハ予メ松平大使ニ経伺ノ必要アリ而シテ目下反対  
ノ輿論旺ニ火ノ手ヲ揚ケツツアルヲ以テ無暗ニ之ニ打突カ  
リ却テ益々其氣勢ヲ煽ルカ如キ結果トナラサル様篤ト考慮  
ヲ廻ラヌ要アルヘキ旨答ヘタルニ「セール」氏ハ何レ評議  
員会ヲ開キ本案実行ノ時期方法等慎重審議スルコトトスヘ  
ク成案ヲ得ハ之ヲ松平大使宛ニ転達ヲ請ヒ以テ大使ノ指示  
ヲ待ツコトトスヘキ旨ヲ述ヘタリ

次テ同氏ノ語ル所ニ依レハ當地ニ於テ主トシテ支那ニ関係

アル実業家ヲ以テ組織セラレ同氏多年評議員ニ選ハレ居ル  
「チャイナ、アソシエーション」ニ対シ過日上海ノ商業会  
議所及支那協会（右当地協会ノ姉妹協会）ノ「ジョイン  
ト、コミティー」ヨリ今次日支紛争ニ際シ新聞及連盟カ輿  
論ヲ「ミスリード」シツツアルヲ指摘シ列國カ此際該紛争

ニ容喙スルコトハ徒ニ敵ニ氣勢ヲ添ヘルニ過キサルヲ以テ  
事態ヲ静観スルニ如カストノ趣旨ノ來電アリ当地支那協会  
ニ於テハ直ニ評議員会ヲ開キテ右電報ヲ披露シタルニ連盟  
カ「ピース」ノ前ニ「ジャステイス」ヲ求メサルハ誤ナリ  
トノ議論多ク結局該上海電報ノ趣旨ト共ニ支那主要開港場  
ニ安全地帯ヲ設置スル案ノ妥當ナルヲ認ムル旨ヲ加味シ  
同協会ノ名ニ於テ当国外務省ニ対シ陳情書ヲ提出スルコト  
ニ決シタル趣ナリ右ハ在上海總領事発閣下宛電報第三五五  
号ノ件ニ関連アルモノト認ムルニ付電報ス但シ前記上海  
「コミティー」ヨリノ來電末尾ニハ右ハ嚴重ニ貴協会ノ含  
ミ迄ナリトノ付言モアリ旁該電ノ内容並當地協会ノ外務省  
ニ対スル陳情ノ次第何レモ外部ニ洩レサル様御注意ヲ請フ  
トテ「セール」氏ヨリ特ニ依頼アリタルニ付右ニ御含ミア  
リタシ

尚「セール」氏ハ往電第一〇六号「日本ハ西欧諸国ノ為ニ  
戰ヒツツアリ」トノ「ポースト」所載特（脱？）ノ一文ハ  
自分ノ寄書ナリト語リタリ

松平大使、在支公使（往電第一〇六号ト共ニ）へ転電セリ

133 昭和7年2月(25)日

在英國沢田臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に関する国民連合会の対日非難声明  
について

第一〇八号

<sup>(1)</sup>労働党組合総会労働党執行委員会及労働党議員ヲ代表スル  
国民連合会ハ二十三日（英國労働者ノ宣言）ナル表題ノ下  
ニ大要左ノ如キ日支紛争ニ關スル声明書ヲ發表シタリ  
世界各國間ニ於テハ平和的協調ヲ最モ必要トシ支那ニ於テ  
ハ全土ニ亘ル水災ト政治的革命ノ不安ニ惱ミツツアル時ニ  
当リ日本軍ハ幾多条約上ノ義務ヲ蹂躪シ連盟理事会及關係  
各國ニ与ヘ居ル誓約ヲ無視シテ滿州ニ於ケル広大ナル地域  
ニ亘リ支那領土（農鉱產物ノ富源地ニシテ日本資本家ノ最  
大ノ利益關係ヲ有シ且多数ノ日本人ノ在住スル土地）ヲ占  
領シ遂ニ實際上ノ保護領ヲ設定スルニ至リシカ今ヤ更ニ一  
歩ヲ進メテ支那通商上ノ中心地タル上海ヲモ占領セントシ  
ツツアリ日本側カ上海共同租界ヲ戰闘行為ノ根拠地トスヘ  
カラストノ列國屢次ノ抗議ヲ無視シタルコトニ鑑ミ今次ノ  
日支戦争ニ対シ日本カ全責任ヲ負担スヘキコト明白ナリ確

乎タル理由モ無ク日本軍ニ依リ企画セラレタル今回ノ戰闘  
行為ハ若シ日本側カ連盟規約ニ定ムル平和的措置ヲ講シタ  
ランニハ容易ニ満足ナル解決ヲ得ヘカリシモノナリ之ニ反  
シ吾人ハ支那カ当初ヨリ事件ヲ連盟理事会ノ手ニ委ネ其平  
和的解決案ヲ受諾セルコトヲ多トセサルヲ得ス  
<sup>(2)</sup>支那ノ政治的不統一ノ如キハ以テ外國側ノ支那征服ノ理由  
ト為ス能ハス日本ハ九国條約ニ於テ支那カ自ラ有力ナル政  
府ヲ確立維持スル為完全障害ナキ機会ヲ与フルコトヲ約シ  
居レリ一九二六年英國政府ハ對支新自由主義ヲ確立セルカ  
右政策ハ明カニ成功セリ日本モ支那ニ對シ友好協調の政策  
ニ出テテコソ其對支繁榮ヲ期待シ得ヘキニ茲ニ思ヒ至ラス  
敢テ武力政策ニ訴フルニ至レリ戰爭誘發ノ惧アル行為ニ對  
シ世界各國民カ連盟規約擁護ノ措置ヲ講スルコト無カラン  
カ戰闘ハ到ル處ニ行ハレ國際平和ノ期待望ナキニ至ルヘシ  
依テ本總会ハ政府ニ對シ此ノ際凡テノ連盟國及不戰條約國  
ノ在東京外交使節ノ引揚問題ニ付考慮方直ニ連盟理事会ニ  
要求センコトヲ慾憇ス吾人ハ日本ニ於テモ戰爭防止ニ關ス  
ル世界輿論カ圧セラレサルヘク從ツテ事實ニ於テハ前記使  
節引揚ノ必要モ無キニ至ルヘキコトヲ信ス若シ日本政府ニ

シテ飽ク迄輿論ヲ無視シ戦争ヲ継続スルニ於テハ我が國ハ連盟規約、九国条約及不戦条約ニ基キ平和確保、日支紛争解決ノ為連盟総会ニ対シ規約第十六条ノ適用ヲ提議セサルヲ得サルニ至ルヘシ

松平大使ニ転電セリ

134 昭和7年2月25日 在仏国栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中立地帯設置、満州独立問題等に関する仏外務省アジア局長との会談について

第一三〇号(暗)  
(一七七文書)  
寿府宛貴電合第五九二号ニ閲シ

廿四日本官亞細亞局長ニ面会シ陸兵増派ノ件ヲ内話シ右ハナルヘク速ニ戰闘状態ヲ終止セシムルト同時ニ在上海外支人ノ不安ヲ一掃スル趣旨ニ出ツルモノナルコトヲ述へ置キタリ其ノ際同局長ハ増援隊ハ何レノ地点ヨリ上陸セシムルヤト尋ねタルニ付本官ハ上陸地点ハ承知セサルモ我方ニモ租界ニ上陸セシムル權利アルコトハ他国政府ト異ラサル次

135 昭和7年2月(25)日在イタリア国吉田大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変収拾策について

第三八号(暗)

連盟総会ヲ前ニシテ歐州最近輿論ノ傾向ヲ案スルニ連盟擁護平和擁護ノ理想論ト支那ト特殊ノ関係ヲ有スルモノノ所論ハ別トシテ愈縝会ノ開催及其ノ結果如何ニ想到スルニ至リテ從来ノ戦争ノ災害ニ対スル感情的人道論ニ対シ實際政治ニ立脚スル眞面目ナル政治論ノ昨今漸次台頭シ来レル観アリ左ニ其ノ要旨ヲ摘記セハ

(一)支那ノ無政府状態ハ上海事件ノ主因ニシテ日本今回ノ行動モ実ニ已ムヲ得サル事情ノ存スヘク

(二)連盟ノ是迄ノ処置終始必シモ賢明ト云フ可カラス恰モ無

政府ノ支那ニ信頼シテ秩序ヲ有スル日本ノ行動ヲ妨害シ紛争ヲ拡大セシメタル跡アリ

(三)連盟規約ハ組織アル国家ヲ目的トスルモノニシテ連盟從

來ノ事件処理方法ハ直ニ之ヲ支那ノ無政府状態ニ適用スヘ

キニ非ス東西特殊ノ事情モ規約適用上ニ考慮スル要アリ

(四)理事会從来ノ決議勧告ハ事態ニ紛糾ヲ加ヘシメタル嫌ア

第ナルモ前回同様ナルヘク租界ニ迷惑ヲ掛ケサル様ニスルモノト思考スル旨ヲ答へタリ同局長ハ「アントル、ヌー」ナリトテ事件発端ノ責任カ日支何レニ在ルヤハ今トナリテハ詮議スルモ詮無キ次第ニテ日本側カ行動ヲ開始シタル以上事件ノ發展ヲ俟ツ外無シト思ハルルカ今次ノ上海事件ハ大戦中ノ「ダーダネルス」出兵ヲ思ハシメ如何ニモ拙キコトヲナサレタルモノナリト言ヒ尚所謂「ゾーン、デミリタリゼ」ニ付テ戰闘行為ヲ一時中止スル為停戦状態ヲ作ルナラハ兎モ角日本政府ノ意向ナリトシテ新聞ニ伝ヘラルル如キ永久的性質ヲ有スル案ハ如何ナル支那人ト雖モ到底承諾セサル處ナルヘシト思フト述へ尚本官ノ間ニ對シ在上海仏國公使ノ報告ハ極メテ悲觀的ナリト述ヘタリ別レニ臨ミ同局長ハ満州ノ獨立政權問題ニ言及シ日本政府ハ支那ノ行政的保全ノ尊重ヲ約束セラレ居ル次第ナルヤト軽ク述ヘタルニ付本官ハ支那地方政府ノ構成等ハ支那人自身ノ決定スヘキ問題ニシテ日本政府ノ関与スヘキ限りニ非ス日本政府トシテハ在留邦人ノ生命財産ノ安全カ保証サレ我カ條約上ノ権利カ確保セラルレハ足ル次第ニテ右以外他意無シト思フト答へ置キタリ

連盟、支那ニ転電セリ

昭和7年2月25日

在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

136 昭和7年2月25日

### 日本軍の租界利用に関する吳上海市長の各国

#### 領事あて抗議について

往電第三六七号ニ閲シ  
第三七九号  
市長吳鉄城ハ廿四日付書面ヲ以テ当地関係國領事ニ対シ夫

夫「日本軍カ租界ヲ支那軍攻撃ノ根拠地トシテ利用シ居ル事ニ付テハ曩ニ抗議シ置キタル處租界當局ハ租界ノ中立維持ヲ欲スル旨表示セラレタルモ今日迄未タ何等有効ナル手

段ヲ取ラサルノミナラス日本軍ノ租界中立性ノ破壊並ニ中外人民ノ生命、財産ニ対スル危害ニ付テモ制止スル處ナク

他方日本援軍ハ連日租界當局好意的斡旋ノ下ニ虹口方面ヨリ上陸シ支那軍ニ対スル攻撃ノ根拠地ト為シ甚々シキニ至リテハ日本軍艦ハ引続キ虹口ニ碇泊シ租界掩護ヲ利用シテ

支那軍民ニ対スル攻撃ヲ号令シ居レリ此ノ結果各國船舶及ト面談セリ同大臣ハ一両日前顏惠慶ト面談ノ機会アリタル

處顏ハ極ク内明ケ話トシテ実ハ日支両國民ハ互ニ親善ノ關係ニアリタルニ拘ハラス最近紛争ヲ醸シ欧米人ノ前ニテ互ニ相争フコトトナリ洵ニ心外千万ナリト語レリ右顏ノ言辭ニ依リ自分(土耳其外務大臣)ハ一ノ「ヒント」ヲ得タル次第ナルカ若シ日本側ニ於テ強ヒテ御異議ナクハ自分ヨリ顏ニ対シ徒ニ議論ニ走ラス現実ノ事情ニ即シ日本ト和睦スルノ得策ナルヲ説キ其反省ヲ促シタント考フル旨述ヘタリ

右ニ對シ本使ハ其好意ヲ謝スト同時ニ日支問題ヲ連盟ニ提

起シタルハ支那自身ナルコト又支那ニハ統一政府ヲ欠キ政

党ノ争ヨリ上海事件ヲ惹起セルコト及支那ハ古来ヨリ夷ヲ

以テ夷ヲ制スルニ慣レ居リ今回ノ如キモ連盟ノ力ヲ頼リ日本ヲ圧迫セントスルモノナルコト但シ日本人ハ同文同種ノ

關係上支那人トノ親睦關係ヲ一日モ早ク回復センコトヲ衷心希望スルモノナル次第ヲ説明シ同大臣カ其ノ含ヲ以テ

那側ト接触セラルニ於テハ日本政府ハ勿論之ヲ多トスヘシト述ヘタリ同大臣ハ若シ強國タル日本ニ於テ寛容ノ態度ヲ示シ幸ニシテ両國間ノ關係ヲ回復シ得ハ亞細亞人ノ「ブ

ライド」ヲ高調スルコトトナリ歐米人ノ手前欣快此上無カ

各種事業ハ軍事上ノ影響ヲ蒙リツツアル處本市長及本国軍事當局ハ租界内ニ於ケル中外人民ノ生命、財産ノ安全ハ素ヨリ希フ処ナリト雖モ右状況ニ付テハ重ネテ嚴重抗議セサルヲ得ス租界當局カ日本軍ヲ制止セス又租界ヲ支那軍攻撃ノ根拠地ニ利用セシメ居ル事ニ依リテ発生スル事アルヘキ

一切ノ結果ハ本国政府ノ責任ヲ負ハサル処ナリ依テ各國領事ハ戦争地帶及日本軍駐屯付近ノ居留民ニ対シ避難方通達セラルルト共ニ各國海軍當局ニ対シ軍艦其他ノ船舶ヲ日本軍根拠地付近ニ碇泊セシメサル様伝セラレ度キ」旨申入タル趣ナリ

連盟、米ヨリ然ルヘク転電アリタシ

連盟、米、英、北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、広東へ転電シ支へ転報セリ

137 昭和7年2月26日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟、米、英、北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、広東へ転電シ支へ転報セリ

138 昭和7年2月26日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

トルコ外相の中國側説得の意向について

第一四六号(暗)  
佐藤理事ヨリ

二十五日求メニ応シ土耳其外務大臣「リュシッド・ペイ」

第一四七号(至急極)  
<sup>(1) (二四文書)</sup>  
往電第一三六号、往電第一四三号及往電第一四四号ニ閲シ

松平佐藤兩大使ヨリ

本使等目下軍縮關係ニテ寿府滯在中ノ武者小路(公共)、矢田(七太郎)、沢(節蔵)(正略)

田、堀田四公使斎藤(茂徳)、東郷(陽太郎)兩參事官及杉村公使ト慎重協議

ノ結果左記意見上申ス

(1)來ル臨時總會対策ニ付テハ政府ニ於テモ折角御考究中ノ

事ト存スル処申ス迄モ無ク現下焦眉ノ急務ハ上海ニ於ケル

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

局面ノ転回ヲ講スルニアリ右ハ総会ニ於テ直面ス可キ形勢ヲ善導スル唯一ノ策ナルト同時ニ廳テハ日支間時局全般ニ亘ル善後処置ノ端緒タル可シ万一不幸ニシテ此ノ際上海局面転回策ヲ講シ得ス今後益々深ミニ入込ムコトアランカ我界ノ公敵トナルノミナラス其ノ結果昨秋事変発生以来意外ナ曲折ヲ経テ固メ上ケントシ居ル満州ニ於ケル我地歩ヲ破壊シ九仞ノ功ヲ一貫ニ欠ク危険アリ

(2)連盟ノ本義並ニ多クノ先例ニ徴シ敵対行為ノ停止力今后総会付議ノ核心ヲ為ス可キ事想像ニ難カラス若シ各国側カ一致シテ極力停戦ヲ懲懲スルニ拘ラス無下ニ之ヲ拒否シ去ルカ如キ態度ニ出テンカ我方ハ世界ノ公敵トシテ取返シ着カサル難局ニ陥ルノ憂アリ依テ我方ニ於テハ此際必シモ最後通牒中ノ諸条件ヲ固執セス列国ノ妥当ト認ムル範囲ニ於テ速ニ事態ヲ解決スルノ方針ノ許ニ貴電合第六「八号」ノ趣旨ニ依リ租界及居留民ニ関スル緊急ノ危険ヲ除去シ上海ノ平和ヲ恢復スル確実ナル方針立ツニ於テハ直ニ敵対行為中止ノ用意アルノミナラス延テ派遣部隊引揚ニ着手スルニ異存無キ事ヲ予メ関係各方面ニ了解セシメ置キ総会ニ於テ

(3)上海事件其ノモノノ解決ニ至リテハ紛争当事国及利害關係国ヨリ成ル円卓會議ノ開催ヲ我ヨリ提唱シ總会前ニ少クトモ大国ノ内諾ヲ得ルニ於テハ最好都合ナルヘキハ多言ヲ要セスト雖其処迄取運ヒ得ストスルモ帝国政府ノ御決心次第ニテ右ノ如キ會議開催ニ異議ナキ旨總会ニテ予告スルタケニテモ我方立場ヲ相當有利ナラシメ得ヘク而シテ該會議參加國ノ範囲如何ノ如キハ第二次的問題トシテ攻究シ得ヘシ

ルコトハ困難ナルヘク因テ我方トシテモ一応滿州問題ニ関スル我方ノ立場ヲ闡明スルト同時ニ十二月十日理事会決議ニ依ル連盟調査委員モ既ニ現地ニ到着セントシ居ル今日ニモアリ滿州問題ノ善後処置ハ同委員ノ報告ヲ俟チ之ヲ講スルコト当然ノ措置ナルヘシトノ理由ノ下ニ滿州問題ノ討議ヲ打切り事實上上海事件ノ解決ニ重点ヲ置カシムルコトトスルト同時ニ前項円卓會議ノ方ハ全ク上海事件解決ニノミ限定セシムルコト然ルヘン

各方面トノ折衝ノ都合モアリ右卑見ニ対シ大至急御回訓ヲ請フ  
支及在欧米各大使ニ転電セリ

139 昭和7年2月(26日) 在米国出席大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

対日經濟断交等に関する米国下院における討議について

第一六三号

二十四日下院ニ於テ紐育州選出共和党議員「フィッシュ」ハ余ハ戦争ヲ必然ニ誘発スル対日經濟断交ニハ反対ナリ國務省ハ小事故毎ニ多クノ無用ノ覚書ヲ日本ニ送リテ日本ヲ

刺激スルノ愚ヲ止メ連盟ト関係ナク日支間紛争解決ノ為大統領ノ居中調停ノ機ヲ作ルヘシ但シ余ハ厳格ナル軍需品ノミニ限ル「エムバーゴ」ニハ賛成ナリト述ヘタルニ対シ紐育州選出民主党議員「ドラック」ハ日本ノ條約侵犯ヲ停止セシムルニハ政府ノ手ヲ通シテ經濟断交ヲ行フ必要ナク実業家婦女子カ日本品ヲ購買セサルコトニ依リテ平和的ニ目的ヲ達シ得ヘシト論セリ

英ニ転電シ英ヨリ寿府ニ転電セシム

140 昭和7年2月26日 在ニューヨーク・オルリックス佐藤(由己)  
ニュー・オルリックス  
芳沢外務大臣宛(電報)

在留中国人の十九路軍に対する釈金について

第一〇号  
本 省 2月27日前着

当地支那領事ノ談トシテ新聞ニ発表セル所ニ依レハ上海事件ニ關シ在留支那人約四百人ヨリ約五千弗ヲ釈金シ第十九路軍ニ電送セル趣又「ジョージア」州Augusta市ノ支那人三百人ヨリハ既ニ四千弗ヲ送金シ今後事変ノ続ク限り一ヶ

月一千弗宛送金ノ等ニテ在米大多数ノ支那人ハ収入ノ十%ヲ軍資金トシ醸出シツツアル趣ナリ

米、及「ホノルル」ヲ含ム在北米各領事へ転電セリ

141 昭和7年2月(26日) 在英國沢田臨時代理大使より

芳沢外務大臣宛(電報)

### 日中紛争に関する英國下院における討議状況

について

第一一三号

二十四日下院ニ於テ二、三ノ議員ヨリ「政府ハ日支両国政府ニ対シ連盟規約其他現行条約ニ違反スルカ如キ如何ナル事態又ハ取極モ之ヲ認ムル能ハサル旨ヲ予メ通告シ置クコト得策ト思考セサルカ又滿州独立國成立ハ明カニ日本政府

ノ後楯ニ依ルモノノ如ク認メラル処之ニ対シ政府ハ如何ナル措置ヲ採ラントスルカ」トノ質問アリタルニ対シ外務省政務次官ハ「現行条約ニ違反スルカ如キ事態又ハ取極不承認ニ関スル「ノート」ヲ更ニ日支両国政府ニ送付シタリトテ何等有益ナル目的モ達セサルヘシ英國政府トシテハ之等ノ点ニ関スル立場ハ既ニ充分明カニシ居リ又日本政府モ其領土的野心ヲ有セサルコト及門戸開放主義ヲ維持スヘキ

142 昭和7年2月(26日) 在イタリア国吉田大使より

芳沢外務大臣宛(電報)

### 総会対策のための我世論操作について

第三九号(暗)

往電第三八号ニ閲シ

連盟総会近ツクニ從ヒ歐州新聞紙ノ連盟ニ対スル批判ハ益々区々ニシテ或ハ連盟從来ノ行動ヲ非難スルモノアリ或ハ又日本ニ經濟的圧迫迄モ加フヘシト云フモノアリ其ノ所論ノ多岐ナルハ我ニ其間尚策ノ施スヘキモノアルヲ示スモノナリ故ヲ以テ総会ニ臨ムニ先チ我ハ十二分ニ其所見ヲ公開シ我地歩ヲ固ムルノ要アリ今日ノ上海増兵ニ就テモ我輿論ヲシテ連盟ノ態度ニ付相当ノ攻撃ヲ加ヘシムルコト肝要ナ

リ即チ我ハ一ニ邦人ノ権益ト租界擁護ニ已ムヲ得サル丈ケノ措置ヲ講シ一面連盟側ノ意向ヲ尊重シテ陸兵ノ派遣ヲ努力差控ヘ一旦派兵ニ決スルモ最小限度ノ兵数ニ止メタル処連盟ニ於テハ或ハ規約第十五条ノ適用ヲ敢行シ或ハ倉皇作成セル調査委員ノ報告乃至ハ支那側ノ宣伝ヲ信シテ我行為ヲ難シ進ンテハ我ヲ侵略者ト認ムルカ如キ勸告ヲ一方的ニ加ヘ遂ニ啻ニ支那側ヲシテ戰備ノ余裕ヲ得セシメタルノミナラス上海支那側ノ戰爭氣分ヲ煽リ蔣介石軍隊迄モ我ニ対抗スルニ至ラシメ危險ヲ増大セシメ我ヲシテ再ヒ増兵ノ已ムナキニ至ラシメタリ等ノ「ライン」ヲ以テ我輿論ヲ指導シ之ヲ欧米ニ反映セシムル様致シ度シ連盟、支ヘ転電セリ

一、来る臨時総会ハ規約第十五条第九項ニヨリ理事会ヨリ日支事件ノ移送ヲ受ケ理事会ノ招集ニヨリ開催セラルルモノナル處日支紛争ニ第十五条第一項ヲ適用スルコトニ閑シテハ帝國政府ニ於テ明白ナル異議ヲ留保シアルコトハ御承知ノ通りナルヲ以テ從テ第十五条ノ手続開始ヲ前提トスル連盟総会ノ開催ニ關シテモ前記法理上ノ疑点ヲ留保セサルヲ得ス但シ屢次申進ノ通り帝國政府ハ上海事件ニ關スル限り右留保ノ下ニ第十五条ノ手続進行ヲ靜觀スル方針ナルヲ以テ同様ノ趣旨ニヨリ総会ニ於テ上海事件ヲ審議スルコトヲ黙過スルコトシ度キ意向ナリ代表者ノ任命及全權御委任状御下付ハ目下奏請中ナルニ付手續終了ノ上ハ電報スヘシ就テハ代表者氏名ヲ連盟ニ通告スルニ際シテハ帝國政府從來ノ留保(即チ第十五条ニ依リ日支事件ヲ理事会ニ付託スルコトニ対スル異議)ヲ明記シ置カレ度シ

二、右ノ次第ナルヲ以テ帝國政府トシテハ第十五条第二項ノ陳述書ヲ提出スヘキ筋合ニアラサルモ有ユル機會ヲ捉ヘ

帝國ノ立場ヲ闡明スルコトハ帝國從來ノ方針ナルヲ以テ今回ノ総会開催ノ機会ニ於テモ右ノ趣旨ニ基ク説明書ヲ提出スルコトスヘク右ニ付テハ追テ電報スヘシ但右説明書中

貴電(第一二五号請訓ニ關シ左記ノ通御承知アリタシ  
第一号(一九文書)

143 昭和7年2月26日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛

総会における上海事変の審議は黙過の方針について

コトニ就テハ明確ナル保障ヲ与ヘ居ル次第ナリ支那ニ独立國ノ出現シタルコトハ今更初メテノコトニ非ス又九國條約締結後ニ於テモ最初ノ出来事ト言フヲ得ス兎ニ角満州獨立宣言ハ支那地方當局ニ依リ發セラレ居ル次第ニモアリ英國政府トシテハ別ニ九國條約等ヲ引用シテ措置ヲ講セサルヘカラサル何等ノ理由モ認メ居ラス」ト答ヘタリ

松平大使ヘ転電セリ

ニハ单ニ上海事件ニ関スル事項ノミヲ掲クルニ止ムルコト  
トル方針ナリ（往電第二八号ノ四参照）而シテ總会ニ於  
テ万一満州事件ノ内容ニ立入り討議セントスル場合ニ於テ  
ハ當方トシテハ満州事變ハ客年十二月十日ノ決議ニテ一段

落着キタルモノトノ見解ヲ堅持シ進ム考ナルニ付御含置ア  
リタシ

三、總会ニ於ケル代表ノ演説ニ関シテハ貴地ノ情勢ニ応シ  
從来ノ資料ニヨリ貴地ニテ適宜起草セラレタク唯一二ノ論

旨ヲ御参考ノ為近ク電報スヘシ尚貴電第一三一号ノ資料モ  
成ルヘク速ニ電報スヘシ

四、尚序ニ申進度キハ近ク上海ニ増援隊ヲ派遣スルコトニ  
決定シ居ル処右ハ往電合第五九二号(一七七文書)ノ通本月上旬派遣セラ  
レタル部隊ノ引続キトシテ派遣セラルモノニシテ派兵ノ

目的モ亦同様ナリ之ヲ日支ノ開戦ト見ルヲ得サルハ申ス迄  
モナシ

在支公使ニ転電シ南京ニ転報セシム、米ニ転電シ米ヲシテ  
加奈陀、玖馬、墨国及在南米各大公使ニ転電セシム  
露ヲ除ク在欧各大公使ニ転電アリ度シ

144 昭和7年2月26日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛  
芳沢外務大臣宛（電報）  
軍縮會議ノ首席全權タル重任ニ加ヘ困難ナル臨時總会ノ首  
席代表ヲモ兼ネラル貴大使ノ負担ハ御同情ニ堪ヘサル次  
第ナルモ重大ナル時局ニ顧ミ特ニ枉ケテ御引受煩度

第五四号（暗） 総会代表への就任要請について

貴電第一四〇号ニ関シ

松平大使ヘ

軍縮會議ノ首席全權タル重任ニ加ヘ困難ナル臨時總会ノ首  
席代表ヲモ兼ネラル貴大使ノ負担ハ御同情ニ堪ヘサル次  
第ナルモ重大ナル時局ニ顧ミ特ニ枉ケテ御引受煩度

145

昭和7年2月27日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

總会における代表演説の基調について

第一四八号

松平大使ヨリ

今次總会ニ本使参列方ニ付テハ往電第一四〇号申進ノ通ニ  
シテ右確定セサル際ニ兎角ノ意見ヲ上申スルコト如何ト存  
セラルモ左記ノ件ハ参列者ノ何人タルニ拘ハラス必要ノ  
儀ト思考スルニ依リ為念申進ム

今次總会ニテ飽ク迄規約第十六条ノ適用ヲ避クル様取運フ  
ヘシトノ御趣旨ナルニ於テハ其ノ際為スヘキ演説ニ付テモ  
會議ノ空氣其ノ他現場ノ狀況ニ即スル様慎重考慮ヲ加フル  
必要アリ現ニ十二月巴里理事会ニ於テ東京ニテ作成ノ分力  
我方主張ノ貫徹ニ障碍ヲ來スヘキ惧アリタルハ閣下御経験  
ノ通ナルニ付此ノ点特ニ御考慮ノ上今次演説貴方ニ於テ作  
成セラルル場合ニハ當方ニ字句ノ修正補足ヲ御認容相成ル  
カ又ハ貴方ヨリ大体ノ御趣旨ヲ電示セラレ右ニ依リ當方ニ  
テ諸般ノ狀況ニ適合スル様作成スルコト極メテ肝要ト存ス

ツアルニ付今後ノ発展ニ依リ果シテ之ニ対抗シ得ヘキヤ懸  
念ニ堪エス今ヤ日本ヨリハ更ニ軍隊ヲ派遣セラレ其ノ結果  
大規模ノ衝突起ルヘキニ於テハ仮令地方的ノ衝突ナリト主  
張セラルモ世（人）ハ之ヲ戰争ト看做スコト無キヲ保セ  
ス自分ハ日本ノ友人トシテ又全ク個人ノ考ヘニテ何トカ之  
ヲ阻止スル方法ヲ考慮シ居ルカ一時ノ思付トシテハ愈々日  
本ヨリ増兵シ支那ヲ圧倒シ得ル地位ニ達シタル時日本ヨリ  
進ンテ戰鬪行為停止ノ用意アルコトヲ明カニセラルコト  
得策ナルヘキカト述ヘ其ノ他佐藤大使ニ話シタルコトヲ繰  
返シタルニ付本使ハ是亦全ク自分一個ノ思付ニシテ何等政  
府ニ関係ナク話スモノナルコトヲ前置シ現在ノ如キ状態ニ  
於テ日本側ヨリ提議ヲ為スカ如キハ困難ナルヘク英米其ノ  
他友好國ノ斡旋ハ之ヲ多トスヘキモ右ハ之ヲ為ス時期ト方  
法トヲ注意スルコト肝要ナルヘク時期ノ問題ニ付テハ今直  
ニ之ヲ行フ如キハ或ハ適當ニ非サルヤモ知レス之等ハ機微  
ノ関係アルニ付今少シ時局ノ発展ヲ見ル必要アルヘク又其  
ノ方法ニ付テハ貴説ノ如ク關係国間ニ円卓會議ヲ開クコト  
モノノ方法タルヘキモ滿蒙問題ヲ同時ニ議スルカ如キハ到  
底日本政府ニ於テ承諾シ難カルヘシ何トナレハ滿蒙問題ハ

146 昭和7年2月27日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

サービス米代表上海の事態に要慮表明について

第一四九号（極秘）

松平大使ヨリ

二十五日「ノウマン・デビス」ト懇談シタルカ「デ」ハ往電  
(一三〇文書)  
第一四四号佐藤大使トノ談話ニ言及シ今ヤ日本ニ対スル英  
米其ノ他ニ於ケル輿論ハ極メテ悪化セリ經濟絶交等ニ関シ  
テモ両国政府ハ平和論者及団体ヨリ強力ナル圧迫ヲ受ケツ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

極メテ込入りタル又歴史的背景ヲ有スルモノニシテ急速ニ  
之ヲ解決スルコトハ困難ナルヘク從テ連盟ヨリ調査委員モ  
派遣セラレ居ル次第ナルモ上海事件ハ其性質簡単ナルト同  
時ニ急ノ処置ヲ要スルモノナリ此ノ二ノ問題ヲ同時ニ議ス  
ル如キハ目的ノ達成上當ヲ得タルモノニアラスト思考ス又  
仮令将来関係国ノ円卓会談ノ如キモノ行ハルル場合生スル  
コトアリトスルモ現在上海ニ於テ直接利害関係ヲ有シ居  
英米仏伊等ノ協議ナラハ格別余り上海ニ関係ノナキ国迄含  
メテ九国条約加盟国ノ會議トナスカ如キハ徒ニ議論ヲ紛糾  
サス虞アリト思考スト述ヘタル処「デ」ハ実ハ滿蒙ニ於ケ  
ル日本ノ立場ニ就テハ日本カ其土地ヲ自己ノモノト為ササ  
ル限り英米ニ於テモ充分是ヲ認メ居ルニ付寧ロ其解決ニハ  
英米ノ支持ヲ受クルコト日本ノ為ニモ得策ナルヘシト思考  
シタル次第ナルモ成程満蒙問題ハ上海事件ト同時ニ議スル  
コトノ困難ナルハ御尤ナリ又調査委員カ既ニ出発セル後ニ  
於テ上海問題ト同時ニ議スルコトハ不得策ナリ之ハ充分ニ  
諒解セリ但シ九国ト考ヘタルハ露國ノ參加ヲ拒絶スル為ニ  
ハ九国条約ニ標準ヲ置クコト却テ都合良シト考ヘタルコト  
又昨今同条約カ米国ニテモ論議セラレ居ルヲ以テ斯ク考ヘ  
色アリタリ御参考迄申進ス

148

昭和7年2月(27日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍の上海出兵および円卓会談等に関する

英外相との談話内容について

ジュネーヴ

本省 2月27日前着

第一五六号(極秘)  
松平大使ヨリ

(一)(八〇文書)  
二十六日「サイモン」往訪貴電合第六一八号ノ御趣旨ヲ詳細

説明シタル處「サイモン」ハ日本政府ニ於テ上海ニ於テ何等  
自己ノ利益ノ為ニ野心ナキコト日本ノ為ニ租界ヲ設クルノ  
意図及各開港場付近ニ安全地帯ヲ設クル如キ意図ナキコト  
等ヲ承知シ大ニ安心セリ但シ右説明中日本政府ノ意向ヲ窺  
ヒ度キコトハ日本側ニ於テ支那軍ノ安全ナル地点迄(撤退

政府ニ於テハ右輸(送)カ果シテ日本政府ノ意向ニ出テタルモノ(ナル)ヤ否ヤニ付日本政府ニ問ヒ合セ中ナリ唯同方面ハ日本ノ居留民甚タ僅少ナルニ鑑ミ日本軍進出ノ真意果シテ何レニ在リヤ了解ニ苦マサルヲ得ストテ頗ル不平ノ色アリタリ御参考迄申進ス

(一)(八〇文書)  
二十六日「リトヴィノフ」ニ面談セル處莫斯科ヨリノ来電ニ依レハ日本軍ハ東支鐵道東部線「ポグラニチナヤ」迄出兵シ度キ由ニテ右輸送方東支鐵道ニ交渉アリタルモ「ゾ」画通り進出スヘキコト疑ナキモ然ル上円卓会談ヲ催サル御意向ノ如キモ(貴電合第六一八号第二項)其円卓会談ニ於テハ如何ニシテ結果ヲ着ケラル御意向ナリヤト尋ネタルニ付本使ハ芳沢外務大臣ノ説明ハ先日貴大臣ト御話シタル結果ヲ報告シタル其回答トシテ申越シタルモノト思考セス即チ我方ノ陣容整ヒタル上戦ハシシテ列國ノ斡旋ニ依頼スルコト然ルヘキヤ否ヤノ点ニ付テハ目下日本政府ニ於テ研究中ト思ハルモ今日迄的確ナル報道ニ接セス是等ニ付テハ單ニ日本側ヨリ提案スルノミナラス英國等ニ於テモ具体案ニ闇シ考究然ルヘク腹感ナキ意見ノ交換ヲナシタル後決定スヘキモノト思考スト述ヘタル処「サイモン」ハ其場合一時停戦ヲナシ両軍ノ間ニ差当リノ衝突ヲ繰返スコトヲ避クル為他ノ軍隊ノ介入ヲ為サシムルコトモ一案ナルヘキモ第二段トシテハ日本カ軍隊ヲ引揚ケタル後ノ点ニ付テモ

タル次第ナリト話シタルリ本使ハ露國ノ參加問題ノ如キハ全  
ク何等意味ナキコトニテ問題トナル程ノコトナシト述ヘタル  
処「デ」ハ其点モ良ク諒解シタル如ク見受ラレタリ  
右ハ往電(一)(九〇文書)第一四三号「サイモン」トノ話ニモ関連スル様思  
ハルルニ付御参考迄  
尤「デ」ニ対シ「サイモン」トノ会談ノ次第ハ打明クルコトヲ差控ヘ置キタリ  
支、英、米、仏、白、独ヘ転電セリ  
147 昭和7年2月(27日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
ボグラニチナヤへの日本軍出兵説に関する  
トヴィノフの談話について  
ジュネーブ  
本省 2月27日前着  
第一五〇号(極秘)  
佐藤理事ヨリ  
二十六日「リトヴィノフ」ニ面談セル處莫斯科ヨリノ来電ニ依レハ日本軍ハ東支鐵道東部線「ポグラニチナヤ」迄出兵シ度キ由ニテ右輸送方東支鐵道ニ交渉アリタルモ「ゾ」

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

考究ヲ要スルモノト思考ス是等ニ付日本政府ノ意向承知シ得ヘキヤト尋ネタリ本使ハ是等ノ点ニ付テハ今少シ後ニアラサレハ政府トシテモ意見ヲ開陳スルコト能ハサルヘシト答ヘタル處「サ」ハ之ヲ諒トシ更ニ円卓會議ヲ為ストシテモ其範囲ハ如何ナルヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ全ク私見トシテ斯ノ如キ場合ニハ米国辺ニ於テ九国条約ノ締盟國ヲ参加セシムルコトヲ希望シ居ルカ如キモ上海ニ直接関係ヲ有スル国即チ英米仏伊等ニ限ルコト然ルヘシト思考ス又其議スルコトモ満蒙問題ハ之ヲ議題トセス單ニ上海問題ノミヲ議スルコトトスルコト然ルヘシト考ヘ居ル旨ヲ述ヘタル處「サ」ハ暫ク考ヘタル後成ルヘク少數即チ日英米仏伊及支那ニ限ルコト然ルヘシト思考ス但シ満蒙問題ヲ除外スルコトハ困難ナルヘシト述ヘタルニ付本使ハ往電(四六文書)第一四九号「デビス」ニ述ヘタルコト同様ノ趣旨ニテ満蒙問題ト上海問題トヲ混同スルノ不当ナルヲ説明シタル處「サ」ハ自分トシテハ上海問題ノミヲ議スルコトトシ差支ナキモ米国ニ於テ異議ナキヤト恐ルト重ネテ述ヘタルニ付本使ハ右ニ付テハ「デ」ハ個人トシテハ諒解スト述ヘタル旨ヲ語リ置キタリ次テ「サ」ハ外務大臣ノ説明ハ極メテ重要ノモノナ

ルカ之ハ発表セラル御意向ナリヤト尋ネタルニ付本使ハ右ニ付テハ明カナル指示ナキニ付自分トシテハ之ヲ発表セサル積ナルモ貴大臣ノ考ニテハ寧ロ發表スル方効果アリト思ハルヤト尋ネタル處「サ」ハ發表ノ結果ニ付テハ自分トシテモ判然セスト答ヘタリ尚本使ハ来ルヘキ總会ニ於テハ日本ハ満蒙問題ハ十二月理事会ノ決議ニ於テ一段落付キタルモノトシテ之ニ関スル論議ヲ避ケ専ラ上海問題ノミニ付テ論議スル積リナリト同使限リノ含ミトシテ内報シタル處「サ」ハ満蒙問題ニ付テハ可ナリ議論出ツルコトト思考スルヲ以テ之ニ触レサルコトハ困難ナルモ日本ニ於テ之ニ触レストセラルハ之亦一策ナルヘシ自分ハ今回ノ訓電ハ日本ニ取り極メテ困難ナルヘキコトヲ憂フルモノナルカ自分ノ今日考フルコトニテハ總会ニ於テハ連盟ノ精神及権威ヲ維持スル点ニ最モ重キヲ置クコトト思考ス而シテ連盟ハ上海ニ最モ關係深キ諸国ニシテ調停斡旋ノ勞ヲ取ルコトヲ申出ツルヤモ知レス然ル場合ニ於テハ英國其他ハ之ヲ承諾スルコトトナルヘク勿論日支何レカノ正邪ヲ直ニ決定スル力如キコトハ為ササルコト思ハル故ニ調停ノ時期及方法等ニ付自分ハ最大ノ注意ヲ払ヒ居ル次第ナリト述ヘ而シテ

本使ノ正ニ室ヲ出テントスル際「サ」ハ引止メ總会ニ於テ日本カ世界ノ前ニ立ツ時單ニ日本ノ増援隊カ上海ニ到着セリトノ事実ノ外何等世界ニ安心ヲ与フルカ如キ措置ヲ執ラサル場合ニハ日本ノ立場ハ頗ル困難ニ陥ルヘキコトヲ憂フト心配ケニ述ヘタリ右貴電中我方保障ニ関スル部分ハ發表スル方然ルヘシト思考ス

英、米、仏、独、伊、支ヘ転電セリ

149 昭和7年2月(27)日 在米国出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変早期解決の必要性について

第一六六号

日戦鬪絶エサリシ結果世界ノ人心極度ニ緊張シ今ヤ我国ハ真ニ四面楚歌ノ状態ニ陥リタルハ誠ニ遺憾ニ堪エサル処ナリ殊ニ上海事件其ノモノハ満州問題ト趣ヲ異ニシ单ニ我居留民ノ保護及上海地方ニ於ケル排日抑圧ヲ目的トシタルニ過キサルニ顧ミ其ノ払ヒツツアル犠牲ノ如何ニモ大ナルモノアルニ想到シ一層此ノ感ヲ深カラシムル次第ナリ

(2)思フニ今日ノ情勢ヲ以テセハ我國トシテハ國軍ノ士氣及面目保持上飽ク迄支那軍隊ヲ擊破スルニ努力スル外ナカルヘキモ同時ニ支那側ニ於テ世界ノ同情ト自己ノ実力ヲ過信シ天与ノ地形ヲ利用シテ敵対行動ヲ持続スルニ於テハ新増援ノ力ヲ以テスルモ果シテ所期ノ目的ヲ達シ得ヘキヤ何人モ容易ニ予断スルコトヲ得サルヘシ仮ニ上海付近ニ於テ成功ヲ収ムルコトヲ得ルトスルモ南京其ノ他ノ方面ニ於ケル形勢ノ發展如何ニ依リテハ戰線拡大ノ已ム無キニ至リ増兵ニ次クニ増兵ヲ以テシ外ハ益々世界ノ反感ヲ高ムルト共

ニ内ハ經濟問題等ニ於テ容易ナラサル難局ニ逢着シ大兵ヲ擁シツツ遂ニ絶体絶命ノ窮地ニ陥リ啻ニ累ヲ満州ニ於ケル地歩ニ及ホスノミナラス延テハ國家存立ノ根本ニ重大ナル支障ヲ及ホスカ如キコト無キヤト誠ニ痛心ノ至リニ堪エルニ至リ他種事件発生以来殆ト一ヶ月ノ久シキニ亘リ連定セラレ次テ我カ懇請ニ基ク列国ノ調停モ条件折合ハサル而モ事予期ニ反シ今回ニ大部隊ノ増兵ヲ余儀ナクセラルニ至リ他種事件発生以来殆ト一ヶ月ノ久シキニ亘リ連

ス

(三)此ノ重大ナル時局ニ際シ帝国ノ執ルヘキ方策ニ対シ篤ト  
考慮ヲ廻スニ上海事件ナルモノノ本質ニ顧ミ全世界ヲ相手  
トシテ飽ク迄戦闘行為ヲ継続スル必要ナカルヘキニ付結局

適當ノ機会ヲ捉ヘ多ク我カ面目ヲ毀損セサル程度ニ於テ局  
面ノ転換ヲ図ルコト焦眉ノ急ナルヘシト思考ス之力為ニハ

來月早々開カルヘキ連盟総会ヲ利用シ我国ノ目的トスル所  
ハ支那軍ノ租界外安全地帯撤退及排日運動抑圧ニ在リ其レ

以外何等ノ野心無キヲ以テ右ノ目的達成セラルニ於テハ  
何時ニテモ戦闘ヲ中止シ且速ニ撤兵ヲ実行スルノ用意アル  
コトヲ明カニシ同時ニ連盟ノ斡旋ヲ誘導スルノ態度ニ出テ

適當ノ方法ニ依リ互讓妥協ノ方針ヲ以テ時局ノ解決ヲ計ル  
コト緊要ナルヘシ尚右解決方法ハ上海方面ニ於ケル戰局ノ  
発展及其他ノ情勢ノ推移如何ニ依リ適宜按排スルコト必要  
ナルヘキニ付余り窮屈ナルモノトナサス例ヘハ  
(i)支那軍撤退地域ニ付テハ必スシモ二十「キロ」ヲ固守セ  
サルコト

(ii)中立地帯ノ警備ハ差向キ國際軍隊及租界警察ニ委ヌルコ  
ト

スルカ如キコトアラハ我公正ナル態度ヲ世界ニ公表スルト  
共ニ情勢ニ応シ適當ナル措置ニ出ツルコトシ差向キ連盟  
ト折衝中屢々強烈ナル戦闘ヲ繰返スコトヲ差控フルニアラ  
サレハ世界ヲシテ和平ヲ目的トスル我態度ヲ誤解セシメ一  
層其反感ヲ昂メ我所期ノ目的達成上徒ニ支障ヲ及ホスコト  
トナルヘキニ付時局解決ニ関スル大体ノ見据付ク迄ノ間ハ  
暫ク満ヲ持シテ積極的攻勢ヲ差控フル様軍部ノ深甚ナル考  
慮ヲ求ムルコト緊要ナルヘシト存ス

(iv)今ヤ米国ノ輿論日々惡化シ對日排貨運動愈々拡大シツツ  
アリ議会ノ態度ノ如キモ専ラ民衆ノ意(脱)セラル當國  
ノ実情ニ顧ミ目下「ボラー」等ノ有効ナル反対アルニ拘ハ  
ラス何時変調ヲ見ルニ至ルヤモ計リ難ク殊ニ万一二モ連盟  
ニ於テ極端ナル決議ヲ見ルコトトナラハ國論忽チ硬化シ行  
政部ニ於テモ如何トモ致方ナク米国ハ恐ラク實質的ニ連盟  
ト協調セサルヘカラサルニ至ルヘク事態真ニ重大且急迫シ  
ツツアル次第ト認メ右取急キ電稟ス  
連盟ニ転電シ連盟ヲシテ在欧各大使ニ転電セシム

(v)排日運動抑圧ハ事柄ノ性質上短兵急ニ効能ヲ挙ケ得サル  
ニ顧ミ我從来ノ主張ヲ支持スル程度ニ止ムルコト

(vi)円卓會議ヨリ滿州問題ヲ排除スルコト理論上當然ナルモ  
場合ニ依リテハ固クルシク之ヲ固執スルノ態度ニ出ツルコ  
トナク會議ニ臨ミタル際實質的討議ヲ避クルノ方途ニ出ツ  
ルコト

(vii)我陸兵及軍艦ハ絶対必要ト認メヅル程度以外ナルヘク  
速ニ之ヲ引揚クルコト

(viii)前記ノ解決方法ハ二月初メニ於ケル列国トノ交渉及最後  
通牒ノ内容ト符合セサル点アルモ今日ハ國家ノ安危ニ係ル  
重大ナル場合ナルト連盟ナル新相手ト折衝スヘキ事態トニ  
顧ミ大局ノ見通シヲ付ケ虚心坦懐從来ノ行懸リ乃至一時ノ  
面目ニ拘泥スルコトナク専ラ實際的見地ヨリ対策ヲ講スル  
コト必要ナルヘシト存ス尚右ノ方針ニ依リ連盟ト折衝スル  
場合ニハ我全權ヲシテ壽府ニ於テ米国代表者トノ間ニ密接  
ナル連繫ヲ保タシメ米國側ヲ我方ニ引付クル様努力スルコ  
ト必要ナルハ勿論ノ義ト思考ス

(ix)以上ノ如ク我方ニ於テ難キヲ忍ンテ隱忍自制和平ヲ企図  
スルニ拘ハラス連盟側又ハ支那側ニ於テ不当ノ注文ヲ敢テ  
シス」本部ヨリ發表アリタリ

### 民間知名人の対日經濟断交説について

第一六八号

(一)往電(二)七文書

(一)「ブリンストン」大学ノ有名ナル教授連ノ多數及「ロッ  
クフェラー」研究所員ノ全部其他「ブリンストン」在住知  
名ノ士ノ署名ヲ網羅セル對日經濟絶交ノ「ステイトメン  
ト」本日諸新聞ニ發表セラレタル處右ハ日本ノ滿州及ヒ上  
海ニ於ケル行動ヲ以テ連盟規約九國條約不戰條約ニ違反ス  
ルモノトナシ日本ノ條約尊重ニ依リテ極東ノ平和ノ招來セ  
ラル迄絹初メ一切ノ日本品ヲ購買セサル旨ヲ決議セルモ  
ノナルカ尚暗黙ノ宣戰ニ等シキ經濟絶交決議ニ參加スル能  
ハストテ署名ヲ拒絶セル著名ノ教授人士モ多数アル趣ナ  
リ

## ドイツ将校の中国軍參加問題について

### 総会前に我停戦条件明示の必要について

ベルリン 2月27日後発  
本省 2月28日前着

第三五号（暗）

二十七日当地一新聞ハ独逸外務省ハ在外代表ヲシテ「ウエツェル」中将ヲ首班トスル在支旧将校團ニ戰闘行為不参加、中立態度厳守ノ嚴命ヲ下セルカ將校中ニハ之ニ從ハス第十九路軍ノ作戦ニ関与スルモノアル為日本軍ハ在上海独逸人ノ私有財産ノ損害ヲ考慮セサル行為ニ出ツルノ虞アリ同地独逸商人ヨリ独逸軍人ノ戰闘不參加ニ對スル請願出タル旨報ス

尚本件ニ関連シ我方ニ於テ報復手段トシテ独逸商品ニ對スル「ボイコット」ノ企画アリ中ニハ既ニ実行ニ著手セリトノ記事廿三日以来各種ノ新聞ニ散見スルカ「ボイコット」云々ノ如キハ支那側ノ宣伝トモ思考スルモ本使外務當局ト応対ノ際本件ニ言（及）スルコトアルヘキニ付其際ノ参考迄事実御取調御回電ヲ請フ

152 昭和7年2月27日 在イタリア国吉田大使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

日及二月七日ノ帝國政府声明、往電第四八号「ステートメント」、往電合第六一八号其他累次ノ電報ヲ御利用相成可然作成セラレ度

一、右演説ニ於テハ列國側ト論戦スルカ如キ態度ヲ執ルコトナク寧ロ遠隔ノ地ニアルモノカ動モスレハ現場ノ状況

ヲ過大ニ憂慮スル心理ト支那側宣伝等ニ基ク現実ノ事態

ノ誤認トニ依リ殊ニ寿府ノ特殊ノ空氣ノ下ニ極度ニ昂奮

セル連盟側ニ対シ諄々トシテ事実ヲ説述シ以テ連盟側ヲシテ冷静ナル考察ニ立帰ラシムルヲ主旨トセラレ度

二、帝国政府ノ真意ハ今尚ホ列國側ニ充分諒解セラレ居ラサル模様ナルニ付往電合第六一八号等ノ趣旨ニ依リ之ヲ明確ニ徹底セシムル様努メラレ度

三、列国代表者中自然在米大使來電第一六一号「スチムソン」書翰ヲ援用スルモノアルヘキニ付我方ハ支那ニ関スル諸条約ヲ否認セムトスルモノニ非ス唯タ現実ノ事態ヲ明確ニ認識シテ事実ニ即シタル運用ヲナスコトカ右諸条約ヲ生カシ門戸開放機会均等ノ原則ヲ有効ニ実現スル所以ナリトナス次第ナルコトヲ説述セラレ度

四、第十五条適用ニ関スル我方ノ留保ハ往電第五一号ノ一

第四二号（暗）  
寿府発大臣宛電報第一四七号ニ閲シ  
連盟総会ニ於ケル議論ノ重點ハ上海ニ於ケル停戦勧告ナルヘシトセハ我ハ戰闘ハ已ムヲ得サルニ出ツルモノニシテ列國ノ協力ニ依リ戰闘ニ依リテ確保セントスル所期ノ目的ヲ達スルヲ得ハ停戦ハ喜ンテ應スル所ナリトテ往電第三六号第一及第二所載卑見ノ如ク時局收拾ニ閑スル廟議決定セラレ最モ簡明直截ニ我停戦要求条件ヲ總会開催前至急主要理事ニ内示セラレ以テ總会前空氣緩和ニ努メラレテハ如何カト存ス

連盟、支へ転電セリ

153 昭和7年2月27日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）  
芳沢外務大臣宛（電報）

総会における代表演説の作成方針について

第五五号 暗、至急極秘  
往電第五一号ノ三ニ閲シ

総会ニ於ケル我代表ノ演説ハ左記趣旨ヲ体シテ一月二十九

ノ末尾ノ如ク書面ヲ以テ明確ニナシ置ク次第ナルニ付右演説中ニ於テハ殊更之ニ触レサル方可ナルヘシ

五、以上ハ當方ノ意向ナルモ貴地ニ於ケル実情モアルヘキニ付御裁量ニ依リ適宜應酬セラルルコトハ異存ナシ

154 昭和7年2月28日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に対するオランダ外相の見解について

第一五七号（暗）

松平大使ヨリ

二十六日和蘭外務大臣「ベラルト・ファン・プロクランド」（任北平和蘭公使トシテ永ク駐在シ本使ト當時ヨリ懇意ノ間）ヲ訪問シ本使ヨリ目下歐米ニ繰り居ル日本ノ態度及支那ノ実情ニ對スル誤解ノ次第ヲ説明シ上海事件ノ経過ヲ詳述シタル後同氏カ各國代表ト接觸シ感知シタル彼等ノ批評及同氏ノ感想等ヲ尋ねタル処「ベ」ハ自分ハ一週間以上帰國シ居リ本朝寿府ニ帰来セル為同僚ノ意見等ニ付テハ充分承知シ居ラス但シ上海事件ハ特ニ紛糾セル問題トモ思ハレ

サルニ付之カ解決ニハ左迄大ナル困難無カルヘシト思料ス

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ルモ日本ノ「プレステージ」ヲ重ンスル要アルト同時ニ支那側モ亦「プレステージ」ヲ主張スヘキニ付此ノ点ヲ調和スルコトニ困難アルヘシ單ニ日本カ自己ノ陣地ヲ保持シ支那側ノミニ撤退ヲ要求スルカ如キハ元（來）支那ノ領土内ノコト故相当困難アルヘシト考ヘラルト述ヘタルニ付本使ハ支那ハ他国ト異リ自力ヲ以テ外国人ノ安（全）ヲ維持スル能力無キ為北平、天津、山海关等ニ於テハ條約ニ依リ外国兵ノ駐屯ヲ認メ又上海ニ於テハ各国トモ条約上ノ権利無キニ拘ハラス陸海軍ヲ駐屯セシメ居リ長江筋ニ於テモ各国ハ支那ノ意ニ反シ軍艦ヲ碇泊セシメ居ル次第ナルヲ以テ今回ノ上海事件ニ付テモ单ニ支那ノ領土ナル故ヲ以テ自衛ノ為ノ軍事行動ヲ批判シ得スト述ヘタル外務大臣ハ率直ニ云ハ從来ノ他国ノ出兵ト今度ノ日本ノ出兵トハ多少相違スル様認メラル前者ハ秩序無キ暴動ニ対抗スル為ノ措置ニシテ現在ノ事件ハ両国正規軍ノ間ノ衝突ナリト述ヘタルニ付本使ハ從来ニ於テモ支那正規軍ト列国軍トノ衝突ノ例鮮カラス南京事件ノ如キ其一例ナリト思ハル旨述ヘタル處「ベ」ハ同事件ハ支那軍カ指揮官ノ命令ヲ逸脱シタル行動ニ出テタルモノト思ハル旨述ヘ（タル）ニ付本使ハ目下急御回訓ヲ請フ前電通転電セリ

支、英、米、仏、独、伊ヘ転電セリ

156 昭和7年2月(28日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
円卓会議開催に関するサイモン提案受諾方に  
ついて

第一六四号(暗、大至急)  
(一八八文書)  
往電第一六二号及第一六三号ニ関シ  
松平佐藤両代表ヨリ

「サイモン」トノ会談ヲ綜合スルニ停戦ハ即時ニ一定期日ヲ限り敵対行為ヲ停止シ右期日内ニ現地ノ円卓会議ニ依リ不敢両軍ノ撤退区域ヲ定ムルニアルヘシ兎ニ角英、米、

ルモ日本ノ「プレステージ」ヲ重ンスル要アルト同時ニ支那側モ亦「プレステージ」ヲ主張スヘキニ付此ノ点ヲ調和スルコトニ困難アルヘシ單ニ日本カ自己ノ陣地ヲ保持シ支那側ノミニ撤退ヲ要求スルカ如キハ元（來）支那ノ領土内ノコト故相当困難アルヘシト考ヘラルト述ヘタルニ付本使ハ支那ハ他国ト異リ自力ヲ以テ外国人ノ安（全）ヲ維持スル能力無キ為北平、天津、山海关等ニ於テハ條約ニ依リ外国兵ノ駐屯ヲ認メ又上海ニ於テハ各国トモ条約上ノ権利無キニ拘ハラス陸海軍ヲ駐屯セシメ居リ長江筋ニ於テモ各国ハ支那ノ意ニ反シ軍艦ヲ碇泊セシメ居ル次第ナルヲ以テ今回ノ上海事件ニ付テモ单ニ支那ノ領土ナル故ヲ以テ自衛ノ為ノ軍事行動ヲ批判シ得スト述ヘタル外務大臣ハ率直ニ云ハ從来ノ他国ノ出兵ト今度ノ日本ノ出兵トハ多少相違スル様認メラル前者ハ秩序無キ暴動ニ対抗スル為ノ措置ニシテ現在ノ事件ハ両国正規軍ノ間ノ衝突ナリト述ヘタルニ付本使ハ從来ニ於テモ支那正規軍ト列国軍トノ衝突ノ例鮮カラス南京事件ノ如キ其一例ナリト思ハル旨述ヘタル處「ベ」ハ同事件ハ支那軍カ指揮官ノ命令ヲ逸脱シタル行動ニ出テタルモノト思ハル旨述ヘ（タル）ニ付本使ハ目下急御回訓ヲ請フ前電通転電セリ

支、英、米、仏、独、伊ヘ転電シ蘭ヘ暗送セリ

155 昭和7年2月(28日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
円卓会議開催に対する日本政府の内意に関する  
サイモンより照会について

第一六三号(暗)  
(一八八文書)  
往電第一六二号ニ関シ  
松平大使ヨリ

二十七日夕「サイモン」ヨリ仏、米、伊ノ在当地代表者ト  
急御回訓ヲ請フ前電通転電セリ

協議シタル処何レモ総会前ノ時機ニ於テ至急日支双方へ此種ノ申出ヲ為スコト然ルヘシトノ意見ニテ「サ」ノ申出ニ参加スヘキ旨申シ居リタル旨電話ヲ以テ通報シ来り成ルヘク速ニ日本政府ノ内意ヲ承知シタキ旨申添ヘタリ本使ハ早くモ月曜位ナラテハ回答ヲ得ルコト困難ナルヘシト答ヘ置キタルカ先方ニテハ急キ居ルニ付我方回答遅ルレハ冒頭往電所載書翰タケハ本使及顔ニ送付シ来ルヤモ知レス御含ヲ乞フ

157 昭和7年2月(28日) 在米國出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
米国における日貨排斥運動に関するスチムリ  
ノ國務長官の談話について

第一七三号(極秘)  
(一八〇文書)  
二十七日國務長官ニ会見ノ上貴電合第六一八号及合第六三八号等ニ基キ上海事件ニ関スル我方針ヲ内話シタル上先方ノ意向ヲ探リタルニ我方ニ於テ上海方面ニ対シ政治的野心ナキコトハ充分諒解シ居ル模様ナルモ実戦ノ経験ヲ有スル彼ノコトトテ頻ニ戰局ノ拡大ヲ憂慮シ居ルモノノ如シ尚本

日本軍ト直面シ居ル支那軍ハ曾テ南京ニ於テ暴行ヲ働キタル第六十一師ヲ中堅トシ居ル事實ヲ指摘セル處「ベ」ハ興味ヲ以テ之ヲ聞キタル後自分カ支那ニ在勤中某將軍ト会談シタル際同人ハ日本カ其一港又ハ一州ヲ奪取スル事アリモ少シモ意ニ介セス曾テ韓靼人ヤ滿州人カ支那ヲ経略セル事アルモ何時カ彼等カ消滅セリト述ヘ居リタル事アリタルカ日本カ今日支那ニ兵ヲ用フルモ如何ナル実益ヲ得ルヤ疑無キ能ハスト述ヘ最後ニ自分ノ為シ得ル事ハ何事ニテモ御援助スヘシト申シ居リタリ同氏ノ率直ノ話振りハ小国側ノ意向ヲ反映スル点アリト思ハルニ付何等御参考迄英、米、独、仏、伊ヘ転電シ蘭ヘ暗送セリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

使ヨリ国際連盟ニ対スル態度並何等カ調停ノ案ニテモ考ヘ居ルヤヲ試ニ探リタルニ長官ハ寿府ニハ軍縮會議ノ関係上多数ノ米国代表駐在シ居リ從テ連盟關係國トノ間ニ意見交換ノ便利ヲ有スルニ付必要ニ応シ充分接触ヲ計ルヘキモ（昨日モ松平大使ノ意向ヲ「ウイルソン」公使ヨリ電報シ来レリト語レリ）連盟總会ニハ仮令「オブザーヴァー」ノ資格ニテモ何人ヲモ列席セシメサル方針ナリト語リ尚上海事件ニ対シテハ米国政府トシテハ最早進テ執ルヘキ手段ナク徐ニ時局ノ推移ヲ注視スル外ナキモ平和ヲ招来スル目的ノ為ニハ必要ニ応シ何時ニテモ斡旋ノ労ヲ辞セサル考ナリト述へ実ハ最近日本軍上陸地點軍艦錨地移動ニ關シ「フォーブス」大使ヲシテ帝国政府ニ申入ヲ為サシメタルモ右ハ英國側ノ相談ニ乗リタルノミニテ米国側ヨリ進テ主張シタルニ非スト釈明スル所アリタリ次テ本使ヨリ米国ニ於ケル日貨排斥運動ニ言及シ最近該運動ハ愈根強クナリ此勢ヲ以テ進ムトキハ相當重大ナル影響ヲ齎スヘク特ニ日本国民トシテハ之迄米国ニ対シ何等不都合ヲ働キタルコトナキハ勿論太平洋ノ隣邦トシテ親交増進ニ意ヲ用ヒ來レル次第ナルヲ以テ米国ニ於ケル此種運動ニ依リ自然反感ヲ挑発セラレ

ハ素ヨリ自分ノ認ムル処ナルモ平和ヲ愛好スル米国ノ輿論ハ満州問題ハ兎ニ角トシテ日本カ上海ニ於テ迄戦闘行為ヲ敢テシタルコトニ対シ憤慨ノ余り終ニ排貨運動ヲ釀成スルニ至リタル次第ニ付先刻モ申上ケタル通り自分トシテモ出来得ル限り努力スヘキモ日本側ニ於テモ此ノ上激烈ナル戦闘ヲ繰返シ米国ノ國論ヲ刺戟セサル様切望スル旨熱心ニ述フル処アリタリ

本日ノ会議ニ於テ長官ハ其得意トスル法律論等ニ触ルルコトナク只管上海事件発展如何ニ依リ日米国交ニ及ホスヘキ影響ノ真ニ重大ナルモノアルヲ憂慮スルカ如キ態度ヲ示シ頻リニ大規模ノ戦争ニ依リ輿論ノ急転直下スルカ如キコトナカラソコトヲ望ムノ意向ヲ繰返シ述ヘ居レリ

連盟ニ転電シ連盟ヲシテ在欧各大使ヘ転電セシム

158 昭和7年2月(28)日 在仏国栗山臨時代理大使より

在外務省アジア局長に対し日本の態度説明について

第一三二号(暗)  
(一八〇文書)

貴電合第六一八号ニ関シ

二十七日亞細亞局長ヲ往訪シ御訓令ノ内容ヲ逐一読聞カセ

結局日米国交上憂慮スヘキ傾向ヲ齎スヘキカト懸念セラルル處米国ノ外政ヲ處理セラル長官トシテ此情勢ヲ如何ニ見ラルルヤ切出シタルニ長官ハ排貨運動ノ拡大シツツアル情勢ハ自分ニ於テモ深ク心配シ居ルモ何分「ロウエル」博士及民主党ノ有力者タル「ベーカー」等ノ主張ノ下ニ有力ナル大学教授連参加シ居ル關係上行政部トシテ何等手ノ下様ナキハ米国ノ国情ヲ熟知セラル貴大使ノ充分御諒察アルヘキ儀ト考ヘラルカ自分トシテハ力ノ及フタケスル運動ヲ「ディスカレッジ」シツツアル次第ナリトテ鮮力ラス今後ノ發展ヲ憂慮シ居ルカ如キ口吻ヲ示セリ次テ長官ヨリ自分ハ日本ノ友人トシテ且又日本ハ極東ニ於ケルstabilizing forceトシテ世界平和保持上重要ナル役目ヲ引受ケ居ラルコトニ敬意ヲ表シ満州事件発生以来万難ヲ排シテ國論ノ鎮静ヲ計リ努メテ日本ノ迷惑トナラサル様行動シタル積リナルモ自分ノ予期ニ反シ日本陸軍ハ錦州ヲ攻略シテ米国ノ國論ヲ激發セシメ終ニ米国政府ヲシテ進テ其態度ヲ明ニスルノ措置ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタルハ真ニ遺憾ニ堪ヘス日本國民カ日米親善ヲ顧念シ又貴大使ノ曰ハル通リ米国ニ対シ何等不都合ヲ働キタルコトナキ

タル処同局長ハ一々書取りタル後本官説明中重要ナルハ第三及第五点ナルカ本官ノ説明ニ依レハ日本政府ニ於テ円卓會議開催ニ異存ナシトノコトナルカ右ハ同政府ヨリ開催ヲ提議セラルルノ趣旨ニ非サルト共ニ列国側ヨリ開催ヲ提議スルニ異存ナシトノ意ナリヤト問ヒタルニ付本官ハ訓令ノ趣旨ハ正ニ其ノ通リニシテ列国ト云フモ主要列国ト解スル旨ヲ答へ寿府宛貴電(一八〇文書)ノ次第アリタルモ右ハ本官ニ對スル御訓令ニ非サルヲ以テ同局長ニ對シテハ円卓會議開催ノ時期ニ付本官ニ於テ何等承知スル所アラハ更ニ通報スヘシト付言シ置ケリ就テハ前記貴電ノ趣旨ハ仏国政府ニ内報シ差支ナキヤ御回示アリタシ

159 昭和7年2月(28)日 在ベル一国來栖公使より  
(一八〇文書)  
芳沢外務大臣宛(電報)

ペルー外相に対し日本の態度説明について

第一七号(暗)

二十七日外務大臣ニ会見二十三日付帝國政府ノ声明ヲ手交シ又貴電合第六一八号御訓令ノ趣旨ヲ大要説明シタル上十ヶ国会議及連盟臨時總会出席ノ秘露代表ニ於テモ支那其ノ他ノ宣伝等ニ迷ハサルルコト無ク兩国數年ノ親交及本邦在留民多数ニシテ經濟關係相当広汎複雜ナル点ヲモ熟慮シ

冷静公平ナル態度ニ出テラルコト確信スト述へ置キタルカ上海事變ニ関スル「エー・ピー」其ノ他ノ通信ハ殆ど總テ支那軍ノ善戦ヲ称ヘ殊ニ「エー・ピー」ノ如キハ宛然ニ至リテハ我將卒ノ老婦人殺戮ヲ目撃セリトスラ報道シツツアル有様ニシテ一般ノ同情支那ニ集リ折角好転シツツアリタル滿州ニ関スル人心ノ帰向スラ再ヒ悪化セントスル形勢ナルト共ニ何分ニモ政變ノ都度外務大臣始メ主管当局迄頻々更迭シ居ル国情ナルヲ以テ充分徹底ヲ期シ難キヲ遺憾トス蓋シ當國ノ如キハ兎ニ角諸主要國ニ於ケル輿論ノ趨勢モ恐ラク大同小異ト察セラル旁将来ノ外交的帰結痛心ニ堪ヘサル處新聞所報ノ通増兵ニ決セラレタリトセハ今回ハ所謂速戦即決上万違算無キ迄ノ兵力ヲ整ヘラレタル上多少敵側及列國ノ面目ヲモ立テタル条件ニテ更ニ一応支那軍ノ撤退ヲモ求メラル等何トカ局面転換方切望ニ堪ヘス

160 昭和7年2月28日 芳沢外務大臣より  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

連盟総会対策について

ニ至リテハ我將卒ノ老婦人殺戮ヲ目撃セリトスラ報道シツツアル有様ニシテ一般ノ同情支那ニ集リ折角好転シツツアリタル滿州ニ関スル人心ノ帰向スラ再ヒ悪化セントスル形勢ナルト共ニ何分ニモ政變ノ都度外務大臣始メ主管当局迄頻々更迭シ居ル国情ナルヲ以テ充分徹底ヲ期シ難キヲ遺憾トス蓋シ當國ノ如キハ兎ニ角諸主要國ニ於ケル輿論ノ趨勢モ恐ラク大同小異ト察セラル旁将来ノ外交的帰結痛心ニ堪ヘサル處新聞所報ノ通増兵ニ決セラレタリトセハ今回ハ所謂速戦即決上万違算無キ迄ノ兵力ヲ整ヘラレタル上多少敵側及列國ノ面目ヲモ立テタル条件ニテ更ニ一応支那軍ノ撤退ヲモ求メラル等何トカ局面転換方切望ニ堪ヘス

支那側ノ宣伝機関タルカ如キ觀アリ其ノ特派員「ハリス」ニ至リテハ我將卒ノ老婦人殺戮ヲ目撃セリトスラ報道シツツアル有様ニシテ一般ノ同情支那ニ集リ折角好転シツツアリタル滿州ニ関スル人心ノ帰向スラ再ヒ悪化セントスル形勢ナルト共ニ何分ニモ政變ノ都度外務大臣始メ主管当局迄頻々更迭シ居ル国情ナルヲ以テ充分徹底ヲ期シ難キヲ遺憾トス蓋シ當國ノ如キハ兎ニ角諸主要國ニ於ケル輿論ノ趨勢モ恐ラク大同小異ト察セラル旁将来ノ外交的帰結痛心ニ堪ヘサル處新聞所報ノ通増兵ニ決セラレタリトセハ今回ハ所謂速戦即決上万違算無キ迄ノ兵力ヲ整ヘラレタル上多少敵側及列國ノ面目ヲモ立テタル条件ニテ更ニ一応支那軍ノ撤退ヲモ求メラル等何トカ局面転換方切望ニ堪ヘス

第六〇号 暗、極秘、大急  
(二三八文書)  
貴電第一四七号 二関シ  
両大使へ

一、(貴電(1)) 我方ニ於テハ此際直チニ列國側丈ケカ妥当ト認ムル条件ニテ戰闘行為ヲ停止スヘキコトヲ約束スル訳ニハ行カサルモ現場ノ状況ニ即シ兩軍司令官ノ間ニ纏ル相当ノ条件(在支公使宛往電第一一二二号参照)ノ下ニ戰闘ヲ停止スル用意アリ又戰闘停止ノ交渉成立シタル上ハ一日モ速ニ派遣部隊ノ引揚ニ着手シ度意向ニテ叙上ノ次第ハ總会ニ於テ言明セラレ差支ナシ從テ總会ノナスヘキ主義上ノ決定ハ上述ノ趣旨ニ依リ且往電第六一号(1)ノ範囲ヲ逸脱セサル限り我方トシテ異存ナキモ右決定ノ次第ハ總会ニ於テ言明セラレ差支ナシ從テ總会ノナスヘキ主義上ノ決定ハ上述ノ趣旨ニ依リ且往電第六一号(1)ノ範囲ヲ逸脱セサル限り我方トシテ異存ナキモ右決定ノ「テキスト」ニ付テハ一応請訓セラレ度

二、(貴電(2)) 貴案ニ依レハ連盟ト関連セスシテ円卓會議ヲ開クコトトナル次第ナル處右案ニシテ達成セラルレハ固ヨリ我方トシテ異存ナキノミナラス進ソテ之ヲ懲憲セラレ差支ナシ尤モ右案達成セラレーストスルモ往電第六一号(2)ノ範囲ヲ逸脱セサル限り連盟ニ関連シテ円卓會議ヲ開催スルニ異存ナシ尤モ右後者ノ場合ニハ第十五条適用

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

161 昭和7年2月28日 芳沢外務大臣より  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

ポリチス決議案の修正について

第六一号 暗、大至急極秘  
(二一八三文書)  
往電第五三号ノ二ノ末尾ニ関シ

佐藤理事へ

貴電(二四文書)  
第一三七号決議案ニ対スル當方修正意見左ノ通り

一、決議案前文第二節ノ冒頭ヲ「上海地方ニ於テ右紛争カ武力抗争化シ兩当事國軍隊間ニ既ニ」云々ト修正スルコト

五条ニ依ルモノニ非ルコト及滿州問題ハ日支間ニ於テ解決セラルヘク調査委員ハ右日支間ノ解決ニ貢献スル為メ

ノモノナルコトニ充分留意シ同問題ノ解決ヲ連盟ノ手ニリテハ該調査委員ハ規約第十一條ニ基クモノニシテ第十一条ニ依ルモノニ非ルコト及滿州問題ハ日支間ニ於テ解決セラルヘク調査委員ハ右日支間ノ解決ニ貢献スル為メノモノナルコトニ充分留意シ同問題ノ解決ヲ連盟ノ手ニ委スルコトヲ苟モ「コムミット」スルカ如キコトナキ様御配慮相成度

米、支、北平、奉天、廣東、南京ニ転電シ支ヲシテ上海ニ轉報セシム

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

中ニ記載スルコトハ連盟側トシテ困難ヲ感スヘキニ付決議案ハ前記修正ノ通りトシ支那軍撤退問題ハ両軍間ノ交渉ニ委スヘク而シテ連盟トシテハ日支ヲシテ戰闘停止ヲ主義上承認セシムルコトニ依リ一先ツ其ノ面目ヲ保チ得ヘシ)

三、右(一)ノ後半ヲ削除スルコト（連盟トシテハ第十五条ノ範囲ニ於テモ問題ノ解決ノ為メ種々ナル方法ヲ講スヘキコトハ同条规定ノ予定シ居ル所ニシテ右ニ依リ凡有ユル手段ヲ尽スコトナクシテ一足飛ニ第十六条ノ適用ヲ予想スル侵略國ノ決定ヲナスカ如キハ徒ラニ事態ヲ荒クスルモノト云フヘク平和維持機関タル連盟ノ精神ニ全然背致スルモノナリ況ヤ現地ニ於ケル円卓會議開催ノ機運醸釀シ居レルニ於テオヤ尚ホ「ポリチス」カ本決議案ヲ提出セムトスルハ第十五条第三項ニ基ク措置ナルヲ以テ益々

決議案(一)ノ後半ヲ削除スル要アル次第ナリ)

四、決議案(二)ヲ「総会ノ任命スル委員会ハ（委員数ハ必スシモ十名タルヲ要セス）上海ニ於テ利害關係國ノ地方的代表者ニ依ル円卓會議既ニ開催セラレ居ル場合ニハ同會議ヲシテ又若シ右円卓會議開催セラレ居ラサル場合ニハ

米、支、奉天、北平、南京、廣東ニ転電シ支ヲシテ上海ニ転電セシム

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

162 昭和7年2月(29)日 在イタリア國吉田大使より 芳沢外務大臣宛（電報）

スチムソン米國務長官の対日態度批判の必要性について

第四三号（暗）

連盟総会切迫ト共ニ関係國ハ總会ニ於ケル其地歩ヲ作ラントシテ輿論ノ開拓ニ相當注意スルモノノ如ク「スチムソン」「ボラー」宛書翰公表モ其一ナルヘシ從テ我亦特ニ總會前ノ數日ニ於テ輿論指導ニ充分ノ努力ヲ要ス上海現地ニ於ケル対支對列強態度ノ慎重且寛容ニシテ大國タルノ態度ヲ持スルノ當然ナルハ勿論ナルカ對米國及連盟策トシテハ十二分ニ辛辣ナル論評ヲ試ムヘキハ即チ南京漢口事變其他幾多ノ困難アリシニ拘ラス終始統一政府樹立ニ努メ來タレル我多年ノ対支政策ハ九國條約ノ精神遵守ノ証左ナルモ支那爾來ノ行動ハ條約ヲ無視シ内乱ハ其政治ヲ解体シ九國條約違反ノ事實ハアルモ何レニ尊重ノ跡アリヤ（客年在支公使來信機密合第四六六号参照）支那ノ無秩序無政府狀態ハ

極東平和ノ禍源ニシテ日米親善ハ極東平和ノ基調ト信シ我ハ対支對米外交ニ於テ最善ノ注意ヲ用ヒ來レルニ米国今日ノ態度ハ我ニ於テ遺憾トスヘキモノ多シトテ「スチムソン」ノ対日所論ノ謬ヲ反駁シ連盟力平和ヲ提唱シナカラ対日経済断交ヲ暗ニ懲憲スルカ如キ態度ヲ正面ヨリ論駁シ苟クモ帝国ノ利益ト威信ヲ無視セルカ如キ態度ヲ継続スルニ於テ我自ラ守ルノ途自ラ存ス連盟ノ脱退ハ固ヨリ辞スル処ニ

非ストテ此ノ國際的危局ニ直面シ連盟及列國ハ最モ慎重ナル態度ニ出ツヘキヲ暗示シ事態ヲ認識セス輕々シク日本ヲ圧迫セントスル結果ニ付充分ニ考慮スヘキヲ直言スヘキナリ

米、支、連盟ヘ転電セリ

163 昭和7年2月29日 在英國澤田臨時代理大使より 芳沢外務大臣宛

元オーストラリア首相ヒューズの日中事變に  
関する声明書について

ロンドン 2月29日付  
本 省 4月2日着

普通第七四号

昭和七年二月二十九日 在 英

臨時代理大使 沢田廉三（印）

外務大臣 芳沢謙吉殿

前豪州首相「ヒューズ」氏ノ日支事變ニ関スル

声明書ニ關スル件

日支事變カ延テ豪州方面ニ如何ナル影響ヲ及ホスカニ付当

上記總会委員会委員ノ属スル國ノ在上海地方的代表者ヲシテ同地ニ於ケル兩当事國ノ地方的代表者ト共ニ円卓會議ヲ開カシメ前記戰闘停止交渉カ成功スル様斡旋セシメ其他上海地方ノ平靜回復ノ為メ有効ナル措置ヲ協議セシメ其ノ結果ヲ總会ニ報告セシム」ト修正スルコト尤モ右修正ハ上海ニ於テ既ニ円卓會議カ成立シ居ルヤ否ヤノ状況等ニ依リ事態ニ応シ可然改ムヘキハ勿論ナリ（寿府ニ於テ戰闘停止其他上海ノ平靜回復ニ関スル細目ヲ論議スルモ何等ノ実効ヲ挙ケ難カルヘク一方現地ニ於ケル円卓會議開催ノ機運動キ来レルニ顧ミ本案ノ如ク修正スルコト適當ナリ）

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

国議会ヲ初メ各方面ニ於テ多大ノ関心ヲ有シ居ル次第ハ屢次ノ電報ニ依リ御承知ノ通りナル處二月十四日ノ当地新聞ハ「キヤムベラ」電報トシテ歐州戦争當時豪州首相タリシ「ヒューズ」氏カ同地新聞ニ英國カ上海事変ノ渦中ニ投スルコトヲ戒ムル旨ノ大要左ノ如キ声明書ヲ載セタルコトヲ報道シ居レリ

「英國民ノ生命財産ヲ保護シ東亞ニ於ケル通商上ノ利益ヲ擁護スルコトハ英國政府ノ義務ナルモ英國トシテハ夫以上一步モ深入リスヘカラス今回ノ紛争タル日支相互間ノ問題ニシテ吾人ノ関スルコトニ非ス紛争ノ理非ニ付テハ吾人モ亦一個ノ見解ヲ有セサルニ非ルモ兎ニ角引続ク革命戦争ノ為殆ト統一政府ノ存立シタルコトモ無キ國ノ肩ヲ持チ之カ為二十年來我同盟國タリ又友好國タリシ強國ヲ知ラス識ラス敵トスルカ如キコトハ全ク自殺的馬鹿氣タルコトト謂フヘン吾人ハ他国ヨリ進シテ攻撃セラルルカ如キコト無キ限り断シテ世界各国ト平和的關係ヲ維持スヘキ固キ決心ヲ有セサルヘカラス云々」

右何等御参考迄ニ報告ス

写送付先 シドニー

「英國民ノ生命財産ヲ保護シ東亞ニ於ケル通商上ノ利益ヲ擁護スルコトハ英國政府ノ義務ナルモ英國トシテハ夫以上一步モ深入リスヘカラス今回ノ紛争タル日支相互間ノ問題ニシテ吾人ノ関スルコトニ非ス紛争ノ理非ニ付テハ吾人モ亦一個ノ見解ヲ有セサルニ非ルモ兎ニ角引續ク革命戦争ノ為殆ト統一政府ノ存立シタルコトモ無キ國ノ肩ヲ持チ之カ為二十年來我同盟國タリ又友好國タリシ強國ヲ知ラス識ラス敵トスルカ如キコトハ全ク自殺的馬鹿氣タルコトト謂フヘン吾人ハ他国ヨリ進シテ攻撃セラルルカ如キコト無キ限り断シテ世界各国ト平和的關係ヲ維持スヘキ固キ決心ヲ有セサルヘカラス云々」

右何等御参考迄ニ報告ス

「英國民ノ生命財産ヲ保護シ東亞ニ於ケル通商上ノ利益ヲ擁護スルコトハ英國政府ノ義務ナルモ英國トシテハ夫以上一步モ深入リスヘカラス今回ノ紛争タル日支相互間ノ問題ニシテ吾人ノ関スルコトニ非ス紛争ノ理非ニ付テハ吾人モ亦一個ノ見解ヲ有セサルニ非ルモ兎ニ角引續ク革命戦争ノ為殆ト統一政府ノ存立シタルコトモ無キ國ノ肩ヲ持チ之カ為二十年來我同盟國タリ又友好國タリシ強國ヲ知ラス識ラス敵トスルカ如キコトハ全ク自殺的馬鹿氣タルコトト謂フヘン吾人ハ他国ヨリ進シテ攻撃セラルルカ如キコト無キ限り断シテ世界各国ト平和的關係ヲ維持スヘキ固キ決心ヲ有セサルヘカラス云々」

右何等御参考迄ニ報告ス

第一六七号（至急極秘）

松平大使ヨリ

二十八日夕「サイモン」ノ求メニ依リ会見シタル處「サ」ハ総会切迫セル為一日モ早ク日支大衝突ノ勃発ヲ避ケルコト肝要ト認メ仮伊米等ノ同僚ト相談シタル處皆之ニ同意シ（但シ米ハ未タ確定ハセス）且ツ之カ為明二十九日理事会ヲ招集シ其席ニテ議長ヨリ日支大衝突ヲ避ケルコトヲ希望スルニ付テハ上海ニ最モ関係深キ國ニ於テ日支間ニ斡旋シ先ツ直ニ停戦ヲ勧メ而シテ後其他ノ司令官等ノ援助ニ依リ日支両軍間ノ停戦ヲ確実ニシ（immediate cessation of hostilities to be consolidated between Japanese and Chinese commanders）且ツ上海事件ニ付同地ニ於テ日支英仏伊（米モ同意ナレハ参加ス）代表者間ニ円卓會議（満州問題ヲ除外ス）ヲ開クコトトシ一方日本側ニ於テハ上海地方ノ政治的領土の野心ヲ有セス且ツ自分ノ租界ヲ設クル

ノ意思ナキコト各地主要都市ノ周囲ニ中立地帯ヲ置ク意思ナキコト等ヲ明言シ支那側ニ於テハ将来上海租界ノ現状ヲ攬乱スル如キ意思ナキコト等ヲ言明右基礎ノ上ニ上海方面ノ事態ヲ平静ナラシメ度キ旨ノ声明ヲ為シ英、仏、伊等之ニ同意シ日支双方亦之ニ同意ヲ表セラルレハ之ニテ一般ノ空氣ハ極メテ緩和セラレ總会モ無事ニ終了セシムルコトヲ得ト思考スルニ付之ニ同意セラレ度キ旨述ヘタルヲ以テ本使ハ専門家ノ意見ニ依レハ近距離ニ対峙シ居る軍隊ヲシテ直ニ銃砲火ヲ中止セシムルコト實際上殆ント不可能ナル由ニテ銃砲火ノ中止ハ先ツ両軍間ニ間隔ヲ設クルコト必要ナル由ナリ而シテ自分ノ得タル情報ニ依レハ支那軍モ最近ハ稍協調的ノ態度ヲ取り或ハ本日頃両軍間ニ何等カ秘密ニ停戦ニ闘スル話合始マルニアラサルカト思ハル筋アリ（英語セリ）然ルニ其結果モ見シテ明日公開理事会ヲ開キ國側ニテハ當然本件情報を接し居ルモノト察シタルモ重光公使ヨリ特ニ注意アリタルニ付此点暈シ置ケリ且極秘トシテ話セリ）然ルニ其結果モ見シテ明日公開理事会ヲ開キ停戦ニ闘スル斡旋ヲ議スルニ於テハ支那側ニテハ直ニ其話合ヲ打切ルコトアリ得ヘクスケテハ時局平定ノ望ヲ破り更ニ紛糾セシムルコトナルニ付当地ニ於テハ余リニ速急ノ

未タ承知セサル次第ナルモ米国等ニ於テハ田卓會議ノ範囲ヲ満州問題迄拡ケ參加國ヲ九國條約調印國トスヘシトノ見モアル様ニ付此ノ際寧口早キニ及シテ右「サ」等ノ「ラン」ニテ會議開催ニ同意スルコト然ルヘキカト存ス尚三月一日ノ理事会ハ右様ノ次第ナルニ依リ強テ之カ延期ヲ求ムル訳ニモ行カサルヘキニ依リ右「サ」申出ト共ニ同日理事会開催ニ同意スルコト然ルヘシト思考ス何分ノ儀折返シ御回電ヲ請フ

英、米、仏、伊、独、支へ転電セリ

165 昭和7年3月(1日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

#### 日本軍の上海租界利用に關する中國理事の通報について

第一七〇号

二十七日支那理事ハ事務總長宛通告ヲ以テ日本軍ハ引続キ上海租界ヲ支那軍ニ對スル軍事行動ノ根拠地トシテ利用シ居ルニ付支那政府ハ自衛ノ為同租界ニ及ホスコトアルヘキ損害ニ付責任ヲ負ハサルヘキモ同國政府ハ武力ヲ以テ租界ヲ攻撃又ハ占領スル意向ナキコトヲ宣言スル趣申入レタ

リ

佐藤理事ヨリ

二十九日ノ理事会經過別電ノ通ナル處會議ノ空氣ヨリ見ルモ日支兩國政府間停戰協定成立以前ニ於テモ列國側ニハ両國間ニ戰鬪行為ヲ中止セシメ度キ希望歴然タルモノアリ就テハ本件地方的停戰協定受諾前ハ理論上軍ノ行動ヲ差控ユル義務ナキハ勿論ノ儀乍ラ若シ此ノ際大規模ノ攻撃ヲ開始セラルルニ於テハ道德的ニハ帝國ノ立場ヲ極端ニ悪化シ列國ヲ挙ケテ我ニ反抗セシムルニ至ランコトヲ恐ル右政府ニ於テ慎重御考慮アランコトヲ切望ス

支へ転電セリ

166 昭和7年3月(1日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第一七五号、第一七六号

#### 上海における戰鬪行為自重方について

別電 同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第一七五号、第一七六号

二月二十九日の理事会經過ならびに佐藤理事声明

第一七四号(暗、大至急)

it is sure that military naval and ~~は~~ And it is proposed that military naval and →改々

四、伊国理事「グランティ」ハ英ノ通告ニ依リ日支兩軍衝突解決ノ曙光ノ見エタルコトヲ喜フ旨述フルト共ニ議長ノ提案ニ贊意ヲ表ス

五、英國理事ハ同國政府ノ名ニ於テ議長案ヲ支持シ在支英國代表者ニ對シ必要ナル訓令ヲ發スヘキ旨並ニ日支兩軍ノ敵對行為ノ中止カ現ニ既ニ確実トナリ居レリト言フニ非サルモ其実現方切望ニ堪エサル旨ヲ述ヘタル上議長案中円卓會議ノ開催ハ敵對行為停止ノ為ノ地方的協定ヲ前提トストノ点ニ付注意ヲ喚起シ日支兩國力速カニ右協定ヲ成立スル様努力スヘキコトヲ希望シ又本案ニ就テハ既ニ米國トモ協議済ニテ米ハ本案ノ達成ニ協力スヘキ旨嘗テ同國ハ其在上海代表者ニ對シ連盟國代表者ト之カ為協力スヘキ旨命令シタル旨ノ言明ヲ得タリト述フ

一、劈頭議長「ポンクール」ハ往電<sup>(一一一九六文書)</sup>第一七三号第一項冒頭ノ趣旨ヲ述ヘタル後英國理事ヨリ右ニ関シ重要ナル通告ヲナシタキ申入アリタルニ付本日理事会ヲ開催スルモノナリト述フ

二、英國理事「サイモン」ハ次イテ在上海同國代表者ヨリノ電報ニ依レハ昨二十八日上海ニ碇泊中ノ英國艦隊旗艦ニ於テ「ケリー」提督立会ノ上日本側野村司令長官及松岡氏支那側ハ王參謀長顧維鈞會見シ二時間半ニ亘リ友誼的ニ懇談シタル結果両軍共相互ニ且同時ニ撤兵スヘキ主義受諾セラレ且細目ニ闕シ話合アリタルカ両國代表ハ何レモ右協定案ニ付本国政府ニ稟申スルコトトナリタリ余ハ右報道ハ甚タ重要ナルモノト認ムルニ付不取敢理事会開催ヲ要請シタル次第ナリト述フ

(一一一九六文書)

三、議長ハ右英國ノ通告ニ謝意ヲ表シタル後往電第一七三号第一項以下末尾迄読ミ挙ク但シ第三項(3)ノ中段 And

英、米、仏、伊、独、支へ転電セリ

ヲ遺憾ノスルヤ政府ノ許可アリ次第之カ詳細ヲ通牒スく  
シテ前掲シタル後別電第一七六号ノ通声明ベ  
八、支那理事ハ日支衝突防止ノ為連盟及米カ努力ヲ各マキ  
ルコトニ付謝意ヲ表シタル後南京政府ヨリノ電報ニ依レ  
ハ一十八日夕日支会談ノ際英提督ハ日支敵対行為ノ中止  
ノ為先ツ支那軍ハ真茹迄日軍ハ租界内ニ同時ニ撤退スル

コト次ニ支那軍南翔迄撤退シ日軍ハ引揚ノ為乗船スルコ  
ト両軍間ノ地帶ニハ中立軍ヲ入ルルコトヲ提議セリ支那  
側ニ於テハ右案ハ合理的シシテ且受諾シ得キヤノト體  
メ居ル次第ニ付本日議長ノ提案ハ本国政府ニ於テ欣然之  
ヲ受諾スヘキ様政府ニ申入ルシテ述フ

九、次イテ独逸理事ハ関係諸國ノ協力依リ日支同軍衝突  
ノ防止セラルルコトヲ希望スル旨述フ

一〇、西班牙理事ハ英提督ノ調停ニ付敬意ヲ表シ日支問題  
ニ付直接關係國ノミナラス直接關係國ニ非サル國モ干与  
スルノレハ政治問題々局部的問題ニ非スシテ世界的問題  
タルコトヲ示セヤノナリユ遠く且来ル總會ニハ日支間ノ  
協定カ既ニ成立シ居ラムコトヲ希望スル旨述フ

一一、最後ニ議長ハ日支兩國理事ノ受諾ニ付謝意ヲ表シ英

國理事其他ノ理事カ議長案ノ達成ニ協力スル旨申入レタ  
ルコトヲ喜ヒ両國理事ノ言ノ如ク來ル總會迄ノ協定ノ成  
立スルコトヲ希望スル次第ヲ述ベ直ニ閉会ヲ宣ム  
〔一九六文書〕  
往電第一七二号ノ通り転電セリ

### 〔1〕

#### No.176

J'accepte plan que vous venez de me soumettre,  
sous réserve de l'approbation de mon Gouvernement  
auquel je me ferai devoir de la transmettre immédiatement. A l'occasion de proposition  
faite par Président, je tiens à faire déclaration  
suivante: premièrement dans l'affaires de Shanghai,  
l'unique but du Gouvernement japonais est d'écartier  
de concession internationale, ainsi que de ses propres  
ressortissants du danger imminent et de ramener  
tranquillité à Shanghai; deuxièmement Gouvernement  
japonais sera prêt à collaborer avec autres Puissances  
pour régler situation à Shanghai lorsque calme sera  
rétabli dans conditions susceptibles de garantir sécurité

de concession et des ressortissants japonais; à cet  
effet et particulièrement en vue d'assurer à avenir  
sécurité des étrangers dans régions de Shanghai, il

n'aurait aucune objection à ce que s'ouvrirait dans  
cette ville Round Table Conférence à laquelle seraient  
représentées Puissances étrangères ayant intérêts à

Shanghai; troisièmement Gouvernement japonais n'a  
aucune intention de profiter de situation actuelle pour  
réaliser ambitions politiques et territoriales dans  
cette région. Il n'a aucun désir d'établir concession  
japonaise à Shanghai ou d'y obtenir avantages  
exclusifs pour japonais, il tient à maintenir et à  
reforcer caractère international de Shanghai; quatrièmement nouvelles ont été publiées dans presse  
selon lesquelles Gouvernement japonais envisagerait  
l'établissement de zones neutres autour principales  
villes chinoises. Ces informations ne reflètent  
en aucune manière intentions du Gouvernement  
japonais.

167 昭和7年3月1日 ※在ジヨネーヴ沢田連盟事務局長より  
理事会議最提案取扱事情ニハシテ  
往電第一七五号ハ閑ハ

佐藤理事ヨリ  
〔一六六文書〕  
往電第一七六号第一項ニ於テ帝国政府ノ追認ヲ上申本理事  
限リニ於テ議長提案ヲ承諾ヤルハ往電第一七二号議長提案  
〔一九六文書〕  
ニ於テ對敵行動ノ停止ハ凡テ地方的協定ニ讓ルコトメナ  
リ居リ現ニ上海ニ於テ成立セル停戰假協定ノ実施ヲ妨害ス  
ルヤノニ非ス又同提案ノ其他ノ諸項モ從来接受ヤル御訓令  
ノ範圍内ニ於テ是ヲ受諾シ差支ヘナキヤノト體メ政府ノ追  
認ヲ条件トシテ承諾ノ意ヲ表シタルモノハシテ予メ経伺ノ  
時間ナク右様取扱ニタル次第ニ付右御ハ承御追認ヲ請フ  
冒頭往電ノ通り転電セリ

168 昭和7年3月1日 在ジヨネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
理事会議最提案取扱事情ニハシテ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(一六六文書)  
往電第一七五号支那理事ノ声明中旨及セル南京電報重複ノ  
嫌アルモ為念原文左ノ通照電ベ

Last night Admiral Kelly of the British navy invited Wellington Koo and other Chinese and Japanese authorities to a meeting. Admiral Kelly proposed cessation of hostilities and simultaneous withdrawal of Chinese troops to Chenjun (village west of Chapei) and Japanese to within Settlement limits, then Chinese troops to Nanchiang (town on Shanghai-Nanking Railway) and Japanese to embark. Withdrawal of both sides to be supervised by neutrals. Chinese authorities find proposal reasonable and acceptable.

在支公使へ転電ヤフ

171 昭和7年3月2日 在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
総会政策に關するベハコトハノ國代表の  
談話ヨリハシテ

第一八五号(暗)

一日堀田「ミネシヨ」ト会談ノ機会ニ於テ同人ノ臨時総会ニ関スル感想ヲ印キタル処昨日ノ理事会ニ於ケル佐藤代表ノ声明ハ寔ニ機宜ニ適シタルモノニテ日本政府カ同理事会提案ヲ受諾スルニ於テハ恐ラク総会ヲ平穏ニ終了シ得ヘシト観測シ居レリ連盟幹部ハ議事ノ紛糾ヲ避クル為公開ノ総会ニ於テハ議長両当事国代表以外ハ上海ニ最モ利益ヲ有スル國ノ代表トシテ「サイモン」ノ声明ヲ聽ク位ニ止メ直ニ委員会ヲ組織シ「スカンヂナビア」諸國ノ平和擁護論等ハ成ルベク其處ニテ行ハシムル手筈ナルカ如シ知國ハ上海事件ニ直接利害關係無ク日本ノ立場ニ充分ノ理解ヲ有シ居ルモ連盟國中ニハ支那ニ同情ヲ有スルモノ少カラス素ヨリ

大多数ハ日本ニ対シ好ソテ不利ナル態度ニ出テントスルモノニ非サルベシ唯日本ニ於テ全提案ヲ拒絶シ若ハ総会開催ニ際シ上海ニ大戰闘ヲ見ルカ如キ場合ニハ之等ノ國ト雖連

第三八番電

英公使ハD六九ニテ午前六時三十分南京発今夜上海ニ到着スル筈又仮国公使モ仮艦「タヒヨー」ハ午後一時南京発上海

ニ向フ

陸軍くやばくハノ度ン 1日

(續) 本電報は、鳴田繁太郎第三艦隊參謀長、1遣司令官、北岡中國大使館付武官にも発電された。

170 昭和7年3月2日 ※在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
理事会議長提案に対する処置回電方ヨリハシテ

第一八四号(暗、大至急)

三代表ヨリ  
(一六七文書)  
往電第一七七号ニ閑シ

理事会議長提案ニ付テハ折角御詮議中ノコトト存スル処總会ノ形勢指導方ニ付テハ一ニ同案ニ対スル我方ノ回答ヲ待チ總会開会前主要国間ノ議ヲ纏メニ臨ムコトトナルヘキ形勢ナルニ付時日切迫ノ折柄ニモアリ同案ニ付テハ政府御決定ノ次第折返シ大至急御回電ヲ請フ

平日 3月1日後3時0分  
3月1日後5時15分

169 昭和7年3月1日 左近司(政三)海軍次官、高橋(三吉)軍令部次長他宛(電報)  
英、仏公使の南京出發予定ヨリハシテ

第一八五号(暗)

在南京音沼(怒人)武官より

芳沢外務大臣宛(電報)

盟ノ権威支持ノ為ヨリ日本ニ対シ相当強硬ナル議論ヲ唱フルニ至ルヘク事態極メテ重大ヲ加フヘシ自分トシテハ此際日本ニ於テ右提案受諾ト共ニ連盟ノ権威保持ニ関シテモ充分ニ意ヲ用ヒラルコト得策ナルヘシト思考スト述ヘタリ依テ堀田ハ極東ノ事情ノ極メテ複雜ナル所以ヲ説明シ連盟

トシテモ支那側ヲ增長セシムルカ如キ一切ノ措置ヲ差控フヘキ必要ヲ説キタル処「ミ」ハ之ニ同感ノ意ヲ表シ昨日「タルジョー」ヨリ顔ニ支那側ニ於テ妥協的態度ヲ執ル必要ヲ懇々懇懃シタル趣ナリト内話セル由支、英、米、仏、伊、独、知須国ヘ転電セリ

172 昭和7年3月2日 ※在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
理事会議長提案受諾に關するサイモン英外相

第一八六号(暗)

松平大使ヨリ

(一一九八文書)  
三月一日「サイモン」ハ余見シ貴電第七六号我政府ニ於テ理事会議長提案ヲ受諾シタル旨述ヘタル処「サ」ハ日本政府ニ於テ速ニ受諾セラレタル事ニ対シ深ク感謝ノ意ヲ表シ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

尚此上ハ一刻モ早ク停戦協定ノ成立ヲ切ニ希望シ出来得可

クハ総会席上ニテ尚成立ヲ日本代表ヨリ通報セラル事ト

ナラハ日本ノ為好影響アル可シト信スル旨ヲ述へ万一引続

キ戦闘行ハルニ於テハ折角日本ニ於テ受諾サレタル事モ

実効ナキモノトシテ又復会議ノ形勢悪化ヲ來ス虞ナキニ非

サルニ付此点特ニ御考慮願度シト述ヘ本使ヨリ総会ノ空氣

緩和及満州問題除外ニ関シ同氏ノ支持ヲ得タキ旨述ヘタル

處出来得ル限り尽力スル積ナルカ満州問題ハ法律的ニ果シ

テ除外シ得ルヤ否ヤニ関シ疑問アリ之等ニ付テハ明朝同僚

ト協議研究スヘシト述ヘタルニ付本使ハ法律事項ハ別トシ

實際上第十一條ニ依ル調査委員会報告ヲ待タスシテ本総会

ニテ論議スルコトハ徒ニ問題ヲ紛糾セシメ我國民ノ感情ヲ

刺激シ其結果憂慮スヘキ状態トナル虞アルニ付特ニ此点注

意アリタキ旨申置キタリ

英、米、仏、伊、独、支ヘ転電セリ

173 昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

上海現地停戦方針連盟に通報の可否について

第一八八号(暗)

英、米、仏、伊、支ニ転電セリ

174

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

第一八九号(暗、極秘)

英、米、仏、伊、支ニ転電セリ

175

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

上海現地停戦方針連盟に通報の可否について

英、米、仏、伊、支ニ転電セリ

176

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

177

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

178

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

179

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

180

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

181

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

182

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

183

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

184

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

185

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

186

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

187

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

188

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

189

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

190

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

191

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

192

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

193

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

194

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

195

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

196

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

197

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

198

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

199

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

200

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

201

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

202

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

203

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

204

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

205

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

206

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

207

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

208

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

209

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

210

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

211

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

212

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

213

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

214

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

ル理事會議長に申入れについて

215

昭和7年3月(2)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の対象より満洲問題除外方ボンクー

第一九一號（暗）

一日「ドラモンド」杉村ニ対シ「総会開会ノ弊頭日本軍總

攻撃ノ報至ルカ如キ事アランカ総会ハ日本側ニ於テハ二十

九日ノ理事会決議ヲ受諾シ置キ乍ラ実ハ之ヲ無視シテ恰モ

支那側ヲペテンニ掛ケタルカ如クニ誤解シ日本代表ノ立場

ヲ極メテ困難ナラシムル事必然ナリ」ト漏シタル趣ノ處右

ハ往電第一八六号及往電第一八九号ノ見方ト全然其ノ軌ヲ

一ニシ居ル次第ニテ万ー右ノ如キ事態トモナラハ之カ対策

トシテ先ツ我ヨリ進シテ現地ニ於ケル円卓會議又ハ英國艦

隊司令官ノ仲介ニ依ル會談ヲ行ヒ以テ停戦ニ対スル我カ誠

意ヲ披瀝スル事及支那側ニ於テ何等不都合ノ点アルカ為停

戦ノ協定ニ到達シ得サル事情ニテモアラハ當方ニ於テ適宜

之ヲ利用シ以テ我力地歩ノ防護ニ資スル事ト致シ度ク右為

念申進ス

177 昭和7年3月2日 在英國沢田臨時代理大使より

芳沢外務大臣宛（電報）

## 英國下院におけるスチムソン・ノートに関する質疑応答について

ロンドン 3月2日前発

本省 3月2日後着

第一二八號

二十九日下院ニ於テ「コックス」ト外務省政務次官トノ間

ニ大要左ノ如キ質問応答アリタリ

一、曩ニ一月中米國政府ハ「ノート」ヲ日本政府ニ送リ条

約尊重ニ付其注意ヲ喚起シタルニモ拘ラス當時英國政府ハ

日本ノ声明ニ信頼シテ米國同様ノ措置ニ出テサリシハ甚タ

遺憾ノコトニシテ其結果ハ英國ニ於テハ門戸開放主義ニノ

ミ重キヲ置キ其他ノ点ニ就テハ余リニ関心ヲ有セサルカ如

キ感ヲ日本ニ与ヘ延テハ日本軍閥ヲ「エンカレッヂ」シ其

軍事的行動ヲ助長セシメタルニ非スヤ又滿州独立政府ノ成

立モ前記英國政府ノ態度ニ依リ助長セラレタルカ如キコト

無キヤ米國政府ハ最近更ニ現行條約ニ背反スル如何ナル事

態ヲモ承認スル能ハサル旨ヲ明カニシタル処英國モ亦此態

度ヲ遵守センコトヲ希望セサルヲ得ス、上海事變解決ノ交

換条件トシテ滿州ノ現事態ヲ承認スルカ如キコトハ深ク慎

マサルヘカラス云々

二、外務省政務次官、日本政府カ支那ニ対シ何等領土の野

心ナキコト、門戸開放主義ヲ維持スヘキコト、九国条約ヲ

本省 3月3日前着

第三七號（暗）

貴電合第六一八〇号ニ關シ

先方ノ都合ニ依リ一日漸ク外務次官ニ面会御訓令ノ趣旨ヲ

口頭ニテ申入タル上右ニ関シ何等「オブザーベイション」

モアラハ承知シタシト尋ネタル處同次官ハ本来極東方面ノ

知識ニ乏シキ上現地ヨリ来ル独逸官憲ノ報道充分ナラサル

為正確ナル判断ヲ下スニ躊躇シ居ル次第ヲ述ヘタル後日本

今回ノ行動ハ其最善周到ナル「ウイズドム」ニ出テタルモノ

トスル折柄殊ニ連盟総会モ近ク開催セラレントスル時ニ當

リ特ニ連盟ト別個ノ措置ヲ講スルノ要ヲ認メサルカ為ナ

ニシテ連盟モ調査委員カ近ク滿州ニ到着シテ取調ニ当ラン

トスル折柄殊ニ連盟総会モ近ク開催セラレントスル時ニ當

トハ我政府ノ終始一貫セル方針ナリ云々

松平大使ニ転電セリ

178 昭和7年3月2日 在獨國小幡大使より

芳沢外務大臣宛（電報）

## ドイツ外務次官上海における紛争の早期収拾

を希望について

ベルリン 3月2日後着

ノ間ニ事ヲ纏メルノ誠意ナク最近ニ於ケル彼等ノ暴挙醜穢

（アマ）今回ノ衝突ヲ惹起セルニ外ナラス若シ此ノ儘日本カ手ヲ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

引クニ於テハ我権益ハ全然彼等ノ蹂躪ニ委サ（サ）ルヲ得  
サルノミナラス延テ益々其排外思想ヲ煽リ外国人全体ハ遂  
ニ上海其他ノ商港ニ無事居住シ得サルニ至リ懸念頗ル大ナ  
ルモノアリ之今回我国力増援隊派遣ノ已ムヲ得サルニ至リ

タル次第ナリト應酬シ置ケリ

連盟へ転電シ英、仏、伊へ暗送セリ

179 昭和7年3月2日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

「松岡代議士談話」は捏造と本人否定について

第三三九号

貴電第一三五号ニ閲シ

松岡氏ハ何レノ機会ニ於テモ之ニ似寄リタルコトスラ云ヒ  
シコトナク右ハ全然中傷ノ為ノ捏造ナリ但シ第七項ニ閲シ  
「ケロッグ、パクト」中ニ若シ一国ノ政府ニ依リ統制セラ  
レタル經濟「ボイコット」ハ戦争ナリトノ趣旨規定シアリ  
シナラハ同條約ハ一層有効ナリシナラントノ感想タケハ何  
等カノ機会ニ於テ何人カニ漏シタル記憶アリトノコトナリ  
為念連盟、米、其他必要ノ向ヘ転電アリタシ

180 昭和7年3月2日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

第十五条適用に対する決議採決の場合我方の

措置について

第七八号 暗、至急極秘  
往電第五一号ノ一ノ末尾ニ閲シ

我方ニ於テハ書面ヲ以テ明確ニ留保スルモ會議ノ席上等ニ  
テ殊更之ニ言及スルコトナク各種問題討議ノ成行ニ応シ必  
要ノ説明ヲ為スノ態度ヲ執ル次第ナルカ會議力何等決議ヲ  
ナス場合ニハ我方全権ハ前記留保ニ顧ミ投票ニ加ハルコト  
ナク單ニ「アブステーン」スルカ又ハ必要ニ応シ當該決議  
ハ我方ノ意向ニ合致スルモノナリトカ或ハ合致セサルモノ  
ナリトカヲ明ニシタル上「アブステーン」スルコト致度  
米、支、奉天、北平、廣東ニ転電シ支ヲシテ上海、南京ニ  
転報セシム土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

181 昭和7年3月2日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
（電報）

現地停戦交渉方針の理事会あて通報了承について

第八四号 暗、至急  
(一七三文書)

貴電第一八八号ニ閲シ

佐藤理事へ

本大臣発支宛電報第一三四号要領理事会議長ニ通告セラレ  
差支ヘナシ

米、支ニ転電シ支ヲシテ南京、上海ニ転報セシム、英、  
独、仏、伊ニ転電アリ度

182 昭和7年3月(3日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

日本軍の停戦命令をケリー英提督を通じ中國

側に伝達方ポンクール議長より依頼について

第一九三号（暗、大至急）

佐藤理事ヨリ

二日正午「ポンクール」ヨリ面会ヲ求メ來レルニ依リ在支  
公使大臣宛電報第三三六号ノ戰況ヲ伝ヘタル處十九路軍  
総退却トノコトナレハ日本軍ノ權威モ充分發揮セラレタコ  
ト故此ノ際急速日本軍司令官ニ於テ「ケリー」提督ニ対シ

我方ニ於テ理事会決議ヲ受諾セラレタル結果當方ノ空氣一  
旦緩和セル如クナルモ大規模ノ戰闘開始ノ報道ト更ニ激烈  
ナル戰闘起ルヘシトノ期待ノ下ニ又復空氣動搖シ甚タ機微  
ノ情勢ニ在リ從テ戰闘続行セラルルニ於テハ總會ニテハ日  
支双方ニ無条件停戦勧告ヲナシ或ハ又昨秋以来ノ軍事行動  
ヲ以テ戰争ト認定シ右勧告ニ応セサレハ「アグレッサー」

ト認ムルコトニ直進スル虞アリ然ルニ在支公使発閣下宛電報第二九七号ノ通文那軍ハ總退却ヲナセル次第ナルニ依リ遠距離迄之ヲ追撃スルコトナク他方(ヲ)在支公使発閣下宛電報第二九九号稟申ノ通從來ノ態度ヲ変更スルコトナク「ケント」艦上ニ於ケル日支間ノ話合ノ「ライン」ニテ速ニ協議ヲ纏メ彼我ノ主張ニ多少ノ距離アリトモ戰勝ト總会前ノ当地情勢ヲ考慮ニ入レラエ末節ニ拘泥スルコトナク一刻モ早ク停戦協定及円卓會議ニ到達セシメラレンコト切望ニ堪ヘス

英、米、仏、伊、独、支ニ転電セリ

184 昭和7年3月(3日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

### 上海停戦の即時実現の重要性をギブソン米軍

縮会議代表より申出について

第一九九号(暗、至急)

三月二日「ギブソン」ヲ往訪シ(「ウイルソン」同席)前線支那軍總退却開始ノ情報ヲ伝フルト共ニ過日来「ケリ」提督ヲ介シ日支間ニ談合行ハレ居リタル次第並支那軍退却ノ如何ニ拘ラス我方ハ誠意ヲ以テ停戦ニ関スル話合ヲ請フ

日支会合ハ三日夕刻迄延期スル事トナレル趣ナルカ三日總会ニ於ケル我方演説中我停戦ノ意志ヲ明白ニシ少シニテモ我立場ヲ明瞭且ツ有利ナラシムル要アリ就テハ左ノ事項ニ就キ出来得ル範囲内ニテ閣下又ハ在支公使ヨリ同日午後四時(寿府時間)迄ニ當方ニ到着スル様情報供給方御取計ヲ

一、我方追撃続行中ナリヤ追撃停止命令ヲ下セリトセハ如

何ナル線ニ停止セリヤ

二、我戦線ニアル軍隊ニ対シ停戦準備其他特殊ノ命令發セ

ラレタリヤ  
三、我増援隊ノ上陸シタルモノ及途中ニアル者ニ対シ如何ナル処置(ヲ)執リ或ハ執ラントセラルルヤ

186 昭和7年3月(3日) 在獨國小幡大使より 芳沢外務大臣宛(電報)  
ドイツ将校の中國軍參加問題に関する外務次官との会談について

進ムル方針ニテ既ニ必要ノ訓令發セラレ居ル旨ヲ述ヘタル

處兩人ハ右報道ヲ謝シ実ハ自分等カ各國代表其ノ他新聞記者等ト接シ得タル印象ニ依レハ日本ハ理事会ニ於テ氣休メ

ヲ言ヒツツ一方計画的ニ總攻擊ヲ為セリトノ感想ヲ抱クモノ多キ様子ニテ再ヒ日本ニ對スル輿論悪化シ明日ノ總会迄ニ若シ停戦ニ關スル何等カノ意志表示無キニ於テハ總会ニ

於テ激烈ナル日本攻撃行ハルル虞アリ自分等兩人共日本ノ友人トシテ極メテ心配シ居リタル處ナルカ既ニ日本側ニ於

テ勝利ヲ得ラレタル以上一刻モ早ク停戦ノ処置ヲ執リ之ヲ發表セラルル事切望ニ堪ヘス明日ト明後日トノ差ハ總会ニ

於ケル人心ニ對スル甚大ナル差異ヲ來スモノト思考セラルル旨ヲ切言セリ

右ノ次第ニ付此ノ際一刻モ早ク停戦ニ關スル手配成立方切(望)ニ堪ヘス

尚「ギ」ハ米国ハ總会ニ參加セサル趣申居リタリ

英、米、仏、伊、支、独ヘ転電セリ

(編注) 同番号前出。

185 昭和7年3月(3日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

第三八号(暗)

往電(一七八文書)第三七号外務次官ト会談ノ際往電(五一文書)第三五号ノ新聞報道ニ言及セル處次官ハ政府トシテ法律上措置ヲ取ルコト困難ナルモ「ウエツツエル」、「クリーベル」兩名ニ戰鬪不参加方夙ニ嚴重ナル注意ヲ与ヘタルコトアリ「ウ」將軍ヨリハ政府ノ趣意ヲ了承セル旨回答シ来レルカ其ノ後同將軍上海へ再来ノ噂アリシ為更ニ注意ヲ加ヘシメタル處右ハ同地学校ニ在学中ノ娘ニ面会ノ為ノ私的旅行ニ過キシテ直ニ南京へ着セルコト判明セリト述ヘタルニ付本使ハ我方「ボイコット」云々ニ関シ右ハ我國民性ヲ知ラサルモノカ日本

人ヲ支那人ト取り違ヘタル臆測ナリト思考セルモ為念東京ニ問合セタル処果シテ其ノ事實ナキ旨回電ニ接セリト述へ置キタリ

187 昭和7年3月3日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)  
日本軍の戰鬪行為中止を連盟に通知方について

第八六号 暗、大至急極秘  
三代表へ

三日朝陸軍ヨリ「本三日以後ニ於ケル軍ノ行動ハ昨二日ノ戰闘ノ結果ヲ確実ナラシムル為メノ惰性的戰闘動作（攻撃戦闘ノ余勢）ニシテ支那軍ニ於テ大規模ノ反撃行動ニ出テサル限り帝国軍ノ戰闘行為ハ大体本三日ヲ以テ中止スルニ至ルモノト期待セラルト共ニ右ノ趣旨ニ依リ軍司令官ヨリ声明ヲ發スル筈ナル」旨（尚ホ軍ノ行動ハ大体崑山以東ニ制限セラルル由御含迄）通報ニ接セル（支那側ニテハ予定ノ退却ナルヤニ宣伝シ居ル処今回ノ勝利ハ日露戰役當時ノ奉天会戰以来ノ大勝ニテ支那軍ハ徹底的打撃ヲ受ケ一万以上ノ損害ヲ受ケ居ル由ナリ）一方三日（海軍來電ニ依レハ午前十時ノ予定ナル由）英國旗艦ニ於テ日支両國委員間ニ停戦交渉ヲ行フコトトナリタルハ在支公使來電第三四八号ノ通りニテ茲ニ確実ニ上海平靜回復ノ第一歩ニ入ルコトトナリタルニ付テハ叙上ノ次第連盟側ニ披露セラレ（公表差支ナシ）形勢ノ緩和ニ努メラレ度

英、米、仏、支、北平、奉天、南京、廣東ニ轉電シ支ヲシテ上海ニ轉報セシメタリ  
露、独、白、伊ニ轉電アリタシ

トナリタルニ付テハ叙上ノ次第連盟側ニ披露セラレ（公表差支ナシ）形勢ノ緩和ニ努メラレ度

英、米、支、奉天、北平、南京ニ轉電セリ

189 昭和7年3月3日 芳沢外務大臣より  
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

### 上海における停戦状況について

第九一号 暗、至急  
(一八五文書)

貴電第二〇〇号ニ関シ

一、三日午後二時我陸海軍ニ於テ戰闘中止ヲ声明セルコト往電合第六九一號ノ通りニテ我軍ハ大体在支公使來電第三五四四号二ノ線ニテ停止セラモノト思ハル

二、ニ付テハ往電第八六号前段参照

三、増援隊ノ上陸シタルモノニ付テハ未タ当方ニテハ不明又航海ノ途中ニアルモノハ一応上海ニ赴カシメ未タ出發セサルモノニ付テハ上海方面ニ於ケル今後ノ事態ノ推移（万々一支那側カ大反撃ニ出テ來ルカ如キ場合）ヲ見ルコトトシ居レル由ナリ

四、御来示ノ趣旨ハ多分他国代表ヨリ質問アリタル場合ノ準備ト思考セラルル處右等質問ニ対シテハ詳細ノ回答ヲ与フルコトハ茲暫ク可成差控ヘラレタシ

支、米ニ轉電セリ、英、仏、伊、独ニ轉電アレ

~~~~~

190 昭和7年3月3日 芳沢外務大臣より

在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

イタリア大使上海停戦後は現地における交渉

188 昭和7年3月3日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛
中国側の悪宣伝防止措置について

第八九号 暗、大至急

在支公使來電第三四二号冒頭ニモ顧ミ支那側ニテハ停戦交渉ノ遷延ヲ計ルト共ニ我方に對シ惡宣伝ヲナスヘシト思考セラルルニ付テハ在支公使來電第三四八号第三四九号第（一一二〇文書）第三五一号等ハ御裁量ニ依リ連盟側ニ内報シ又ハ一般ニ公表スル等遲滞ナク適當ニ御利用相成リ停戦交渉ニ関スル我方ノ誠意ヲ徹底セシムルト共ニ若シ停戦カ遷延スルトセハ其ノ責支那側ニアルコトヲ明ニシ以テ連盟側ヲシテ前記支那側ノ宣伝ノ為メ誤ラシメサル様精々御努力相成度念ノ為メ

英、米、支、奉天、北平、南京ニ轉電セリ
英、土ヲ除ク在欧各大使ニ轉電アレ

189 昭和7年3月3日 芳沢外務大臣より
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

を重視すべしとの意見表明について

第九二号 暗、至急

三日伊国大使ハ本大臣ニ対シ上海ニ於ケル日本軍ノ大勝ヲ祝シタル後此ノ上ハ連盟ヨリ余リ指図カマシキ措置ニ出テ現地ニ於ケル交渉ノ成行ニ任ス方得策ナルヘキ旨ノ意見ヲ貴地ニ於ケル同国代表ニ電報シタキ処貴見如何ト尋ネタルニ付本大臣ハ之ニ対シ右ノ如キ電報ハ我方ノ最モ歓迎スル所ニシテ是非右様取計アリ度旨依頼シタル処同大使ハ之ヲ快諾セリ尚仏國大使モ略同様ノ電報ヲ發スルコトトナリ英國大使モ多分之ニ倣フヘキヤニ見受ラレタリ右等大使ト会見ノ際本大臣ハ昨日万一不幸ニシテ日本軍ノ敗北ヲ見タリトセムカ上海居留地ハ忽チ支那軍ノ占領スル所トナリタルニ相違ナシト述ヘタル処仏伊両大使共ニ同感ノ旨答へタリ

将又仏國大使ニ対シテハ本大臣ハ停戦會議ニ次キ円卓會議ヲ開クコトナルヘキカ同會議ニ於テハ大上海ノ周囲ニ安全部（在支公使宛往電第一四四号ノ二参照）ヲ設ケ以テ将来支那軍ノ攻撃等ノ危険ヨリ居留地ノ安全ヲ保障スルノ提議ヲ為シタキ希望ナリト内話シタル処同大使ハ是亦同感

ノ意ヲ表セリ

英、仏、伊、米、支、北平、奉天、廣東、南京ニ転電セリ
独、白、露ニ転電アリタシ

(電信番号不明) 号 (暗、至急)

佐藤理事ヨリ

二日午後「ボンクール」ヨリ我方カ議長提案 (往電第一七三号) ヲ受諾シタル旨ノ公文ヲ受領シ之ヲ各理事ニ通告シ

芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英
國沢田臨時代理大使他宛(電報)

上海派遣軍司令官の戰闘中止声明について

合第六九一号 大至急

上海ニ於ケル我陸海軍司令官ハ三月三日午後一時「支那軍カ我方ノ当初要求セル距離以外ニ撤退シ帝國臣民ノ安全ト租界ノ平和ハ回復セラルニ至レルヲ以テ支那軍ニシテ敵対行動ヲ執ラサル限り帝國軍ハ戰闘行為ヲ中止ス」トノ趣旨ヲ声明セリ

(寿府宛ニハ「英土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度」ト付記ノコト)

(編注) 本電報は、米国にも発電された。

191 昭和7年3月3日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

理事会議長より上海停戦の保證方申出について

192 昭和7年3月4日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

定ヲ前提トシ「云々トアリ且ツ理事会ハ右停戦カ急速ニ行ハルヘキ希望ヲ表明セリ依テ本提議ノ成功如何ハ一切ノ戰闘行為停止ニ係ルモノナリ依テ此ノ点ニ関シ貴理事ヨリ何等カノ保障又ハ報道ヲ受ケンコトヲ希望スル旨申越シタルニ付同夜本使ヨリ日本政府ハ効果ノ如何ニ拘ラス成ルヘク速ニ戰闘行為ヲ停止セントスル固キ決意ヲ有ス然レトモ停戦ニ協定ハ現地ニ於テ行ハレサルヘカラサル次第ナルヲ以テ此ノ点ニ付日本政府ハ在支公使ニ訓令ヲ發シ交渉目下進行中ナリトテ閣下発在支公使宛貴電(一九七文書)第一三四号在支公使発大臣宛電報(一九〇〇文書)第三四八号及第三四九号等ノ内容ヲ通告シ置ケリ

英、米、仏、独、伊、支ニ転電セリ

193 昭和7年3月4日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戦問題その他に關するサイモン英外相 との会談について

第二〇四号 (暗)
松平代表ヨリ

三日早朝「サイモン」ニ面談シ在支公使來電停戦声明及円

卓會議ニ閲スル日支間打合セノ狀況ヲ内報セル処「サイモ

ン」ハ喜悦ノ色ヲ示シ謝意ヲ表シタルカ往電第一九〇号松(一七五文書)

岡氏会談(三日「シェルナル・ド・ジュネーブ」ニ掲載セラル)ニ言及シ右ハ大袈裟ノ議論ニテ驚キタル旨並ニ斯クノ如キ言説カ米国ニ伝ヘラルニ於テハ甚タシキ悪影響アル

ヘシト述ヘタルニ依リ在支公使發閣下宛電報第三三九号ノ趣旨ニ依リ事実無根ナル旨説明ヲ加フルト共ニ支那側カ常ニ無根ノ事実ヲ宣伝シ外国新聞モ亦容易ニ之ヲ掲載スルノ傾向アルヲ遺憾トスルコトヲ強ク印象シ置キタリ尚「サ」ハ倫敦「タイムス」ハ日本カ在支主要都市ノ周囲ニ中立地帯ヲ設立スル考案ヲ有セストノ説明(貴電合第六一八〇文書)

ニハ上海ヲ除外スルモノナリト伝ヘ居ル處右ハ自分等ノ諒
ノ結果ニシテ且米国ノ協力ヲ求ムルノ要アリタル為ナリ而

194 昭和7年3月4日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟臨時総会第一回会議の経過大要について

第二〇五号

臨時総会本三日午前十一時開催経過左ノ通り

一、理事会議長「ボンクール」議長席ニ着キ開会ヲ宣シタル後理事会ニ於ケル日支紛争審議ノ大要ニ付説明ス即チ本紛争ハ当事國ノ一方カ社会的革命ニ伴フ混乱状態及錯綜セル条約関係ノ下ニアル為甚タ困難ナル問題ナルモ連盟ハ之カ処置ニ付失敗セルモノニ非ス理事会ノ措置ノ時ニ遅延シタルハ規約第十二条ノ規定スル全会一致ノ必要ニ基ク当然

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

198 昭和7年3月(4日) 在米國出淵大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

上海における日本軍の総攻撃実施に米国務長官不満の意表明について

本日ヨリ一般委員会ヲ開催シタシト提議シ何等反対ナク其通り決定依テ四日午後三時半同委員会開催ト決シ散会ス
米、支へ転電ス

197 昭和7年3月(4日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

臨時総会の空氣緩和の状況について

第二〇九号(大至急)

三代表ヨリ

本日ヨリ一般委員会ヲ開催シタシト提議シ何等反対ナク其通り決定依テ四日午後三時半同委員会開催ト決シ散会ス
米、支へ転電ス

事実及南京政府ハ日本軍カ租界内ニ撤退セサル限り何等交渉ニ応セサル旨ノ声明ヲ読ミ上ケ更ニ日本軍ハ現在保持セル戦線以外ニ進出セサル旨声明セル由ナルモ之ニ拘ラス本三日日本軍ハ吳淞ヲ包囲攻撃シ又南翔ヲ攻撃占領セルノミナラス二十「キロメートル」線以外ニ進出シ且赤十字隊ヲ砲撃セリトノ電報ヲ披露シ斯カル次第ニテ休戦交渉ハ決裂シ敵行為ハ継続シ居ル次第ニ付總会ハ英國理事カ先般理事會ニ通報セルカ如キ条件ノ下ニ速ニ停戦ヲ成立セシムル為努力スルコトヲ要望スト述フ次テ本論ニ入り九月十八日以来ノ事件ノ発展及理事会ノ行動及其席上ニ於ケル支那側ノ主張ヲ一時間ニ亘リ詳述シ要スルニ

一、日本側力理事会ヲ無視セルコトハ明白ニシテ九月三十日及十二月十日ノ決議ハ日本軍隊ニ依リ完全ニ破壊セラレタリ

二、規約違反ノ事実モ亦疑問ノ余地無ク二十万平方哩ノ領域ノ武力的占領及十万ノ軍ノ上海派遣サヘ侵略行為ニ非ストセハ規約ノ下ニ於テ侵略ナラストセラルル行為ノ限度ハ何処ニ之ヲ求ムヘキヤ將又規約第十二条ノ平和的解決ハ何ヲ意味スルヤ

第一九五号(至急極秘)

(1) 三日國務長官ニ面会ノ上上海ニ於ケル戰闘一段落ヲ告ケルニ至リタル経過ヲ説明スルト共ニ戰闘中止ニ関スル軍司令官声明英訳文(在支公使発連盟宛電報第三〇号)ヲ手交シ尚二日我方ヨリ英國司令官ニ交付シタル停戦案英訳文(在支公使発閣下宛第三五二号)ヲ手交シ(日本軍ニ於テ支那軍ヲ擊破シタル今日ニ於テハ本案中最早適用シ得サル点アルコト事実ナル旨ヲ説明シ置ケリ)日本側ニ於テハ此ノ際に成ル可ク速ニ円卓會議開催ヲ見ルニ至ランコトヲ切望シ居ルモ支那側ノ態度煮エ切ラス実ハ本日午後一時会合スルコトニ打合置キタル日支關係者ノ会談モ更ニ四日午前ニ延期セラレタル次第ナルコトヲ内話シタル處長官ハ一応本使ノ如キ紛糾ニ陥ルコトナクシテ本日ノ會議終了シ得タリ右不敢不取敢在米大使、在支公使ヘ転電セリ

三、仲裁裁判ヲ拒否シ戦争ニ訴ヘタル行動ニ依リ日本ハ不戰條約ニモ違反セルコト言ヲ俟タス

四、連盟ハ規約ノ前文ニモ顧ミ九国条約違反ニ對シテモ無関心タルヲ得サルヘシト述ヘ日本ハ宣戰布告ヲ伴ハサル戰争ニ訴ヘ戦争ノ義務ヲ回避シツツ之カ權利ノミヲ濫用シツツアルノミナラス支那側ノ合理的態度ニ對シ連盟ノ斡旋ニモ平和的解決ノ申出ニモ上海ニ於ケル五國ノ調停ニモ頑トシテ応セスト論シ結論トシテ支那ハ今次總会ニ對シ

一、先ツ敵対行動ノ終止及侵略軍ノ撤退ヲ齎シ次テ日支紛争ノ全般ニ亘リ理事会ノ決議及規約ノ精神ニ基ク平和的解決ヲ確保スル為全力ヲ尽シ

二、規約違反ノ事実ヲ確認シ

三、滿州、上海、其他支那ノ他ノ部分ニ於ケル恐ルヘキ現状ニ付テハ支那側ニ毫末モ責任ナキコトヲ嚴肅ニ宣言シ一切ノ道義的圧力ニ依リ今次紛争ノ解決ヲ計ランコトヲ要求セントスト述ヘ

(3) 次テ松平代表演説(電通及連合通信ヨリ電報済)

(4) 議長ハ支那代表ハ總会ノ席上ニテ直ニ日本代表ノ所説ニ答弁スル意思ナキ趣他国代表ニ於テ發言ノ希望ナキ限り明

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

国政府ハ連盟側ヨリノ話合ニ応シ円卓会議ニ代表者ヲ出席セシメ上海方面ノ平和確立ニ貢献スルコトニ決定シタルハ実ハ日支両国間ニ直ニ停戦ヲ見ルヘキモノト諒解シ居リタルカ為ニシテ今日ノ如ク日本軍ニ於テ支那軍ニ向ツテ重大ナル打撃ヲ加ヘ之ヲ所要地点外ニ擊退シタル後ニ於テ円卓会議ニ加ハルカ如キハ支那ニ対シ決シテ公平ナル態度ト言フコトヲ得サルヘシト頻リニ意気込ンテ述へ立テタルニ付本使ヨリ日本ハ「ボンクール」案ヲ受諾シタルモ無条件停戦ヲ約シタルコト無ク停戦促進ノ為支那側ト談判ヲ欲シタルモ先刻モ御話シタル通支那側ニ於テ之ニ応スルコトヲ躊躇シタル為遂ニ今回ノ如キ大戦闘トナリタル次第ナリ支那側ハ上海事件勃発ノ当初ニ於テ停戦ノ約束ヲ無視シテ発砲シタル事実モアリ日本軍トシテハ適確ニ停戦ノ約束成立セサル限り軍事行動ヲ手控フルコトヲ得サルハ戦争ノ経験ヲ有セラル長官モ充分諒解セラル所ナルヘシ要スルニ今回ノ大戦闘ハ誠ニ不幸ナル出来事ナルハ長官ト所感ヲ同フスルモ其ノ責任ハ日本側ニ在ラサリシコトヲ明瞭ニ致置キ度シト繰返シ説明シ尚日本軍ニ於テ支那軍ヲ所要地点以外ニ駆逐シ得タルヲ以テ此ノ善後策就中租界永遠ノ安全ヲ期

スル方法等ニ関シ成ルヘク速ニ円卓会議ヲ開ク必要アリ右會議ハ素ヨリ米國ノ如キ上海ニ重要ナル利害ヲ有スル國ノ参加絶対ニ必要トスル次第ナルニ付長官ニ於テモ一時ノ感情ニ駆ラレ右參加ヲ躊躇セラルカ如キコト無カラソコトヲ希望スル旨篤ト懇談ヲ試ミタルモ容易ニ承服スルカ如キ調シテ上海ノ防備ニ參加シ来レル事実ソノモノハ上海租界ノ不安ヲ裏書スル次第ナルヲ以テ軍事行動一段落ヲ告ケタル此機会ニ於テ租界及外國人ノ安全ヲ保障スル方法等ニ付支那及關係國ト円卓会議ヲ開クコト適切ナルヘシト考ヘラルニ付米國政府ニ於テモ日本政府ノ真意ノ在ル所ヲ了解シ協力アランコトヲ希望スル旨説得シタルニ長官モ相当了解シタルモノト見エ円卓会議參加ノ件ニ付テハ尚充分考慮スヘシト約束セリ本日ノ会談ニ於テ本使ノ得タル印象ニ依レハ長官ハ我國ニ於テ「ボンクール」案ヲ受諾シタルコトヲ以テ直ニ停戦ヲ承諾シタルモノト早呑込シ居リタル結果昨今上海方面ヨリ伝ヘラル戦闘ノ猛烈ニシテ且支那側ニ意外ニ損害多カリシコトニ神経ヲ刺激セラレ居リ

租界安全問題等ニ付深ク考慮スル余裕ナキ様認メラレタルニ付本使ニ於テ此上トモ出來得ル限り我立場ヲ了解セシムルコトニ努ムヘキモ東京上海及寿府等ニ於テモ必要ニ応ス適宜米國側説得方御配慮アランコトヲ希望ス
上海へ転電アリタン、連盟ニ転電シ在欧各大使ニ転電セシム

第三七六号 戰況

往電第三六七号ニ関シ

199 昭和7年3月(4日) 在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海の停戦状況について

那軍沈黙セル為其後戦闘行ハレ居ラス

例ノ通転電ス

200 昭和7年3月(5日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

円卓会議終了まで各國軍隊による日本軍占領 地域警備案について

第二一四号(暗)
⁽¹⁾三代表ヨリ

四日委員会中「ドラモンド」ハ杉村ニ対シ「打明ケテ申サハ連盟首脳部ハ満州ニ対スル日本側ノ遣口ニ顧ミ今回モ租界又ハ居留民ノ保護ヲ口実トシテ日本軍隊カ永久又ハ半永久的ニ上海地方ヲ占領スルヲ虞ルル次第ニテ決議第三項中ノ「撤兵」トハ決シテ日本軍隊全部ノ撤兵ヲ意味スルニアラス租界内ニ於テハ例ヘハ英國カ一千ノ兵ヲ止ムルニ際シ日本カ三千ノ兵ヲ止ムルモ決シテ之ヲ非難セス又租界外ト雖モ決シテ即時無条件全部撤兵ヲ強フルカ如キ意志毛頭ナキ次第ナリ」云々ト述へ総会後「アブノル」ハ「日本軍隊カ現ニ占領スル地域ノ治安維持ノ為円卓会議終了ニ至ル迄ノ間日、英、米、仏、伊各國軍隊若干ヲ該地域ニ止メ兼テ支

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

英國代表ハ支那外交部長ヨリ支那軍撤退ノ意思アル旨ノ通
告ニ接シ居リタルカ昨二日同軍ノ全線ニ亘ル撤退ヲ見ルニ
至レリ右ノ事情ニ依リ日本当局カ本三日二時（上海時刻）
ヲ期シ戰闘中止命令ヲ出シタルコトヲ茲ニ報告シ得ルハ余
ノ欣快トスル処ナリ「ケリー」司令官ハ直ニ予テ同様ノ停
戰命令ヲ出スコトヲ約シ居ル支那側ニ対シ前記ノ事情ヲ通
告シタル趣ナリ右地方的交渉ノ成功ハ「ケリー」及「ラム
ブソン」両氏ノ斡旋ニ負フ処大ナルモノアリ一方連盟ニ於
テモ事件ノ解決ノ為努力ヲ継ケタル結果今ヤ満足ナル解決
ニ到達スヘキ光明ヲ認ムルニ至レリ斯ノ如キ事態ノ良好ナ
ル進展ハ「サイモン」外相ノ努力ト米国及連盟理事国ノ協
調的態度ニ依ルコト鮮カラサルヲ認メサルヲ得ス」ト答へ
拍手喝采ヲ以テ迎ヘラレタリ
松平大使ヘ転電セリ

203 昭和7年3月(6日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

上海駐在英國武官等の停戦状況視察について

第二二六号（暗、至急）
本官発支宛電報

那軍隊ノ監視ニ宛テシムル事ト為サハ日本側ニ対スル無用
ノ疑惧モ消ヘ且ハ円卓會議ノ急速開催ヲ支那側ニ迫ルニ資
シ得ヘシ」云々ト述ヘタル由ナルカ右ハ支那宛貴電第一二
二号（）ノ（）ヲ以テ御垂示ノ如ク各國軍隊ヲ以テ租界ヲ防備
スルノ趣旨ニ合スルト共ニ円卓會議終了迄ニハ今尚相当ノ
時日ヲ要スヘク而シテ其間各國軍隊カ前記地域ニ占拠スル
ノ事実ハ円卓會議ニ於テ安全地帯等ノ設定ヲ図ル上ニ既成
事実ノ承認ヲ支那側ニ強制シ得ルノ便宜モアリ此際総会決
議第三項ノ協定ニ対シ我方ニ於テ右ノ如キ腹案ヲ有スル旨
ヲ主要国側ニ内示セラルニ於テハ一方連盟側ノ誤解ヲ解
キ他方円卓會議ノ急速開催及安全地帯設定ニ対シ形勢ヲ我
方ニ有利ニ展開セシメ得ヘキカト思考セラル
英、米、独、仏、伊、支ヘ転電セリ

201 昭和7年3月(5日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

日本軍の即時撤兵開始方について

第二二五号（至急極秘）

三代表ヨリ

本四日一般委員会ニ於テ戰闘停止ノ後ニ至リ我大軍続々到

着シツツアリトノ報道ハ議場ノ空氣ヲ悪化シ或ハ我方ニ対
シ此上援兵到着阻止勧告ノ決議案提出セラレントスルノ形
勢トナリタルモ幹部会ニ於テ大国側ニ於テ其必要無キ事ヲ
強調シタルモノノ如ク其結果往電第二二一號ノ決議案トナ
リタル經緯ナル處今後若シ大部隊ノ駐兵長引クニ於テハ遂
ニ撤兵強要論ヲ招来シ且ハ撤兵時機ヲ失スルノ虞ヲ生スヘ
シ就テハ往電第二〇七号稟申ノ通出来得ル丈ヶ速ニ撤兵開
始ニ御決定ナリ無用ニ列國ノ疑惑ヲ誘ヒ事態ヲ悪化シテ滿
州問題ノ解決ニ迄累ヲ及ホスカ如キ事無キ様深甚ノ御考慮
ヲ請フ

202 昭和7年3月(5日) 在英國沢田臨時代理大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

英國下院における上海停戦に関する外務省の
説明について

第一三四号

三日下院ニ於テ「ランズベリー」ヨリ日支紛争ニ関スル最
近ノ情報ヲ求メタルニ対シ外務政務次官ハ「戰闘停止ニ關
スル提案ハ其ノ後在上海日支兩国當局ヨリ夫々本国政府ニ
請訓セラレ日本政府ヨリハ昨夜確答アリ又三月一日在南京

第八号
三代表ヨリ

五日午前ノ一般委員会ニ於テ英國代表其他ヨリ停戦ノ実狀
視察ノ為在上海武官ヲ前線ニ派遣スヘキ旨声明アリタリ一
般委員会ハ是等大国側ニ於テ成ルヘク平静ニ済マセ度キ意
向ニテ斡旋シツツアルカ如ク而シテ右武官ノ報告ハ本委員
会ノ今後ノ進行ニ關係鮮カラサルヲ以テ彼等ニ対シ充分ノ
便宜ヲ与フルト共ニ間違ノ起ラサル様特ニ御配慮アリタク
支那側ハ總会ニ対シ日本側ノ攻擊ニ依リ停戦カ實際行ハレ
サルカ如キ印象ヲ与フルニ努メ居ルニモ鑑ミ右特ニ申進ス
陸海軍司令官ニモ御伝達ヲ請フ

大臣ヘ転電セリ

204 昭和7年3月(6日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

三月五日前の總会一般委員会の経過大要に
ついて

第二二七号

本五日午前ノ一般委員会経過左ノ通り
一、開会劈頭事務総長ハ昨日ノ總会決議ヲ在「ベルン」米

國公使ニ通知シタル處本朝同公使ヨリ米国政府ハ其在上海司令官ニ対シ右決議ニ基キ他国代表ト協力スヘキ旨命令セル趣回答アリタリト披露ス

二、次テ佐藤代表ハ支発貴大臣宛電報第三七六号ノ訳文ヲ

(一九九文書)

読ミ上ケタル後支那代表ハ昨日本委員会ニ於ケル演説及事務局宛通告ヲ以テ我軍カ崑山ニ上陸シ同地ニ戰闘起リタル旨指摘セルモ我軍ハ上海ヨリ二十基以外ノ地点ニ進出セス又崑山ハ内地ナレハ同地ニ日本軍カ上陸セル筈無キノミナラス上陸セル増援隊ノ兵員カ三万五千ナリトハ甚シキ誇張ナリ又支那代表ハ日本軍カ引続キ支那市民ヲ殺シ私有財産ヲ破壊シツツアリトノ「ナシヨナル、クライシス、サルヴェーション、アソシエーション」ノ電報ヲ事務局ニ通告シ居ルモ斯カル報道ハ全然虚構ナリ爾來上海ハ虛構宣伝ノ中心地ニシテ各種ノ宣伝行ハレ右ハ外国通信ニ依リ外国新聞ニモ転載セラルルコト多キニ付総会ハ斯カル偽報ニ誤ラレサルコトヲ希望スト述フ

三、支那代表之ニ答ヘ自分ハ日本軍カ崑山ニ上陸セリト言ヒタルニ非ス同地ヲ攻撃スル為瀏河ニ上陸セリト述ヘタルナリ又只今行政院副院長ヨリ受取リタル電報ニ依レハ日本

軍ハ尚南翔ヲ攻撃シツツアル由ナリト酬ヒ上海ヨリ各種ノ虚報カ外國通信、外國新聞ニ掲載セラルコトモ右ハ支那政府ノ責任ニ非ス支那ノ宣伝盛ナリト言フモ右ハ日本ノ宣伝ニ到底及ハス日本ハ之力為歐米ニ於テ新聞紙買収等ノ為數百万円ヲ投シ居レリ何レニシテモ輿論ハ事實ノ真相ヲ知リ公平ナル判断ヲ与フヘシト述フ

四、佐藤代表再応之ニ答ヘ支那代表ノ言ノ中承服シ難キ点アリ自分ハ上海ヨリノ外國通信ニ依ル虛報ニ付強チ支那政

府ノ責任ヲ問フ次第ニハ非ス之ニ対シ一般委員ノ注意ヲ喚起シタルニ止マル但シ支那代表ノ通告中ニモ屢々虛報アリ

トテ支発本(省)宛第三三九号松岡氏會見談ノ件ヲ引用シ

説明シ且欧米ニ於ケル日本宣伝ニ関スル支那代表ノ所言ノ全然事實無根ニシテ同代表ニシテスルコトヲ公言スル以上其根拠提示ヲ求メ度シト酬フ仏代表ハ今ノ如キ時局ニ際シテハ当事国双方ノ報道ノ矛盾ハ有勝ノコトナルカ今日ノ場合委員会トシテハスルコトニ拘タルコトナク總会ハ目

下現地ニ於ケル調査委員等ヨリ公正ナル報告ヲ期待シツツアル際ニ付之ヲ待ツコトスル方然ルヘク仏國政府ハ其ノ上海代表者ヨリ日支両軍ハ三日午後二時ヨリ事實上停戦

シタリトノ電報ヲ受領セリト述フ

五、英代表モ仏代表ノ申出ヲ支持シ自分モ上海英國司令官ヨリノ電報ヲ受領セリトテ之ヲ讀上ケ英國側ハ上海地方戰線広大ナルヲ以テ詳細ヲ知リ得サルモ日本十一師団ノ一連隊瀏河ニ上陸シ十四師団ハ目下輸送ノ途ニ在ル処右ハ多分吳淞付近ニ上陸スヘシ且主タル戰闘行為ハ停止セラレ唯南翔方面ニ於テ銃砲ノ交換アルニ過キサル由ニテ日本陸海軍司令モ公式ニ右情報ヲ確証セリ尚本五日同國一武官ハ南翔地方ニ一參謀ハ江湾ニ赴キ実状ヲ報告スヘキ手筈ナリト披露シ以上ノ報告ニ依ルモ大体戰闘ハ停止セラレ居ルコトト信スルニ付日支両代表モ此ノ点ニ付テノ争論ヲ中止スル様希望スト述ヘ議長之ニ賛シ一般討議ニ入ル

六、斯くて諾威、「コロンビア」、墨西哥、瑞典、芬蘭、和蘭諸代表意見ヲ開陳セルカ何レモ原則論ニ立脚シ世界平和ノ為規約擁護ノ必要ナルコト武力ノ行使ヲ非トスルコト連盟カ本紛争ノ解決ノ為強キ手段ヲ執ルコト望マシキコトヲ述ヘ陰ニ陽ニ本邦ノ態度ヲ非難セリ即チ諾威代表ハ理事會ハ第十一条及第十五条第三項等ニ依リ専ラ両当事國ヲ調停シ実際的解決ヲ求メントシタルモ充分ノ結果ヲ見ス依テ

總会又場合ニ依リテハ理事会ハ第十五条第四項ニ依リテ戰鬪停止ノ為嚴格ナル勸告ヲ為スヘク若シ当事國カ之ヲ容レサル場合ニハ規約ノ他ノ条項ヲ引用スルノ必要アルヘシトシ「コロンビア」代表ハ連盟トシテハ未タ侵略者ヲ決定シ又ハ規約ニ違反セル領土侵害ノ事實ヲ宣言スルノ時機ニハ達シ居ラサルヘキモ必要ナル場合ハ何時ニテモ之ヲ為スノ用意アルコト肝要ナリト論シ且十二月十日理事会ニ於ケル秘露代表ノ述ヘタル原則ヲ確認スルノ必要ヲ説ク墨西哥代表ハ主權擁護ノ必要ヲ高唱シ國際關係ニ於テモ一国自身ノミノ判断ニ依リタル行為ヲ是認シ得ス連盟ハ審判者タル地位ニ在リト述ヘ瑞(同)瑞典代表ハ最モ激烈ナル言辞ヲ以テ極東ニ於テ戰爭カ行ハレツツアル事實ハ之ヲ否定シ得ス他國領土ニ軍隊ヲ送ルコトハ規約及不戰條約ニ違反スルモノナリ瑞典ハ十二国理事ノ勸告ヲ直ニ總会ノ勸告トセシコトヲ希望スルモノナルカ總会ノ任務ハ先ツ戰闘ノ中止ヲ行ヒ然ル後紛争ノ平和的解決ヲ求ムルコト然ルヘク斯カル交渉ハ如何ナル場合ニモ兵力ノ圧迫ノ下ニ為サルヘキニ非スト述フ芬蘭代表ハ連盟ハ各國ノ安全ヲ保障スルノ任務ヲ負フモノニシテ規約ノ公正ナル適用ヲ主張スルハ小國ノ義務ナリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ト為シ単ナル戦争ノ脅威ト実際上ノ侵略トハ区別ヲ要スルコト紛争ノ本体ト紛争ノ結果タル侵略トハ区別スヘク紛争解決手段トシテハ侵略ハ規約違反ナルコト第十条ニ違反セル侵略ハ開戦ノ宣言無キ場合ニモ行ハレ得ヘキコトニ付注意ヲ喚起シ目下ノ紛争力如何ニ複雑ナリトモ連盟ハ手ヲ拱メテ傍観スヘキモノニ非ス有効ナル手段ヲ必要トスト論シ蘭国代表ハ目下ノ紛争ハ名義ハ兎ニ角事實上戦争ナリ理事會ノ道德的圧迫ハ武力ノ行使ヲ停止シ得サリシモ両国間ノ商議ニ依リ平和的妥協ノ余地ヲ生シ得ヘキコトヲ切望スト述フ

英、米、支ニ転電シ伝、独、伊ニ郵送セリ

205 第二二八号 昭和7年3月(6日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

三月五日午後の総会一般委員会の討議経過について

五日午後三時半一般委員会再開、一般討議ヲ継続ス、議事経過左通り

第二二八号
三代表ヨリ

ついて

三月五日午後の総会一般委員会の討議経過について

一、丁抹代表(外相「ムンク」)ハ総会ハ第三國ノ立会ニ依リ日支間ノ紛争解決ヲ為スニ努ムヘク之カ為ニハ理事會ノ事業ヲ繼續シ両國間ニ交渉ヲ促進セシメ上海問題ト満州問題トヲ同時ニ解決セシムルノ要アリト説キ次テ連盟規約ノ下ニ於テハ紛争ノ解決ハ如何ナル場合ト雖モ平和的手段ニ依ルヲ要スル処現下ノ状態ハ全ク之ニ適合セスト言ヒ次テ条約ハ規約第十八条ニ依リ連盟ニ登録セラルヘキモノナル処強力ニ依リ勝チ獲タル條約、約束ハ結局之ヲ登録シ得ス從ツテ実施力ヲ生セサルヘント述フ

二、瑞西代表「モッタ」ハ今朝來ノ各論者ノ諸説ハ期セスシテ一致セリ、規約第十五条ニハ第三項ノ場合ト第四項ノ場合トヲ區別スル要アリ而シテ何レニ依ルモ其前提条件ハ戰闘行為ノ中止ニ在リト説キ次テ紛争ノ解決ニ就テハ第十二条ノ存スルコトヲ忘ルルヘカラサル處不戰条約ノ成立以来武力ノ使用ハ如何ナル場合モ之ヲ許スヘカラス或ハ自衛権ヲ主張スル者モアルヘキモ自衛権ニ隠レテ紛争ノ平和的解決ヲ忌避スルコトヲ認ムル理由ナシ此ノ國際總会トシテハ先ツ調停ヲ試ムヘク調停成功セサレハ一般委員会ハ更ニ小委員会ヲ設ケテ紛争ノ解決ニ当ラシメ

三、⁽²⁾ 西班牙代表(「スルエタ」外相)ハ今ヤ連盟ハ其死活考究スルノ要アリト述フ

四、西班牙代表(「スルエタ」外相)ハ今ヤ連盟ハ其死活問題ニ直面セリ、日本カ支那ニ於テ幾多ノ困難ヲ嘗メ居ルコトハ之ヲ認ムルモ之ニ対シ武力ヲ用フルハ非ナリ仍テ西班牙ハ茲ニ左ノ三原則ヲ提唱セントスト述フ

五、「チエック」代表(「ベネス」外相)ハ本事件ノ複雑ニシテ且特殊ノ性質ヲ有スルコトヲ述ヘタル後左ノ各点ニ注目スルヲ要スト述フ

(a)十二国理事ノ日本宛勧告中武力ニ依リ得タル結果ヲ否認スルノ原則ハ之ヲ確認スルノ要アルコト

(b)「脱?」得ストノ原則ハ弱者ニ対スル恐ルヘキ武器ナルヲ以テ到底之ヲ承認シ得サルコト

六、希臘代表(「ボリティス」)ハ領土ノ保全及国際約束ノ尊重ノ二原則ハ国際生活ノ根本原則ナルカ余ハ此ノ原則ハ之ヲ認ムルモ之カ適用ニ当リテハ實際ニ即スルノ要アルコトヲ主張セントス理事會ハ今日迄實際的ニ行動シ来るル次第ニテ總会モ亦之ト同様ノ行動ニ出ツルヲ可トス連盟ニシテ国際軍ヲ有シ且ツ一九二四年ノ平和議定書カ成立シ居タランニハ或ハ今回ノ如キ戰闘行為ヲ見サリシヤモ知レス然レトモ今日ノ状態ニテハ両国間ニ平和的解決ヲ慾漁スル外途無シ昨四日ノ決議ニ依リ規約第十五条第三項ノ第一歩ノ措置ハ成就セラレントシツツアリ更ニ

(c)本事件ノ特殊性ハ之ヲ認メツツモ尚規約ノ根本ヲ忘ルヘカラス日本ハ「ボイコット」ニ惱マサレ遂ニ武力ニ訴

進シテ上海円卓会議ニ於テ紛争ノ解決ヲ見シコト希望ニ堪エス而シテ斯ル調停ノ措置成就セサル場合第十五条第四項ニ進ムヘキモノナルモ第四項ニ進ムコトハ頗ル慎重ニ考慮セサルヘカラス而シテ総会ハ第四項ニ依ル勧告ヲ

六ヶ月以内ニ提出スレハ足ルモノナルヲ以テ此ノ際ハ此ノ手段ニ依ラサルヘカラサル（脱？）場合ニ立チ至レル時ハ総会ハ委員会ヲ任命シ之ヲシテ上海会議ノ経過ヲ注视セシメ報告ヲ提出セシムルヲ以テ最モ実際的ノ解決方法ナリト思考ス而シテ右会議成就セサル場合総会ハ他ノ手段ニ移ルヲ可トスヘシト述フ

七、次テ波斯、「ウルグアイ」、葡萄牙諸代表発言シタルカ何レモ平和手段ニ依ル紛争ノ解決、規約ノ尊重、安全保障ノ必要等ヲ繰返シ主張シ殊ニ「ウルグアイ」代表ハ武力干渉ノ排除カ羅典亞米利加諸国ノ網領タルコトヲ高唱シ且自國カ組織アル国ナルコトヲ宣伝スルト共ニ極東ノ事態カ特殊ナルモノナリトスルモ右ハ決シテ武力干渉ヲ正当ト為ス理由トナラサル旨ヲ述ヘタリ
以上委員ノ意見開陳ノ後閉会、来ル七日午後三時半ヨリ更ニ一般討議ヲ続行スルコトニ決ス

206 昭和7年3月6日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
芳沢外務大臣より
(電報)

総会決議の了承ならびに各国軍隊による占領地警備案の実現方について

第一〇〇号（暗）
(一二一〇文書)

貴電第二一二三号ニ閲シ

三代表ヘ

一、貴電第二一一四号「アブノール」案ハ我軍隊ヲ含ム

ニ合致スルモノナルヲ以テ第十五条適用反対留保ノ經緯ハ別トシ単純ニ之ヲ採用スルコトニ決シ既ニ出先ニ対シ必要ノ訓令ヲ發シタリ（在支公使宛往電第一五一一号参照）

二、尚ホ貴電第二一一四号「アブノール」案ハ我軍隊ヲ含ム点ニ於テ我方ニ取り極メテ好都合ナルニ付之カ採用ヲ見ル様努力方を支公使ニ電訓セルコト右支宛往電四ノ括弧内ノ通リナルカ貴地ニ於テモ在支公使宛往電第一五三号御含ノ上在支公使ノ努力ト相呼応シ連盟首脳部ニ対シ右

英、米、支ニ転電シ仏、独、伊ニ暗送セリ

我方ノ意向ヲ内示シ事態ノ善導ニ努メラレ度
支、北平、奉天、南京、廣東、米ニ転電セリ
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

207 昭和7年3月7日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

総会の対日空氣緩和のための対策について

第二二一〇号（大至急極秘）

三代表ヨリ

我方カ上海ニ大兵ヲ擁シ支那ニ苛酷ナル条件（ヲ）強要スルニアラスヤトノ懸念ヲ列国側ニ於テ有スル次第ハ累次往電ニ依リ御承知ノ通ナリ五日総会決議中撤兵ニ關シテハ佐藤ヨリ説明ヲ加ヘ之ヲ受諾シタル次第ナルモ支那側モ亦自

己ノ解釈ヲ述ヘタル儀ニモアリ殊ニ小国側ニテハ外国ニ兵ヲ止メ以テ自己ニ有利ナル条件ヲ課スルカ如キハ連盟規約ノ精神ニ反スルモノナリトノ意向旺盛ナルニ依リ万一大国側ニシテ円卓会議成立スル頃迄大兵ヲ止ムルコトニ同意スルカ如キ場合ニモ小国側ニテハ甚タシキ反対ヲナスニ至ル

ヘシ将又停戦ノ今日我増援隊上海上陸ノ報陸續当地ニ到着スルニ於テハ明日以後ノ會議ノ空氣ニ影響シ或ハ累ヲ満州

問題ノ論議ニモ及ホスノ虞アリ然ルニ他方支那側ニテハ上海将来ノ治安維持ニ関スル會議ニ出席セストノ態度ヲ執ルヘキハ客年滿州問題發生後我日支直接交渉提議ニ対スル支那側ノ態度当地ニ於ケル顔ノ演説在支公使発閣下宛電報第三九二号郭ノ談話並ニ先年濟南出兵前後ニ際セル支那ノ態度等ニ微シ想察ニ難カラサル様ナルニ依リ此際我方トシテハ

(一)支那側カ我方ノ大兵増援ヲ宣伝シ総会ノ対日感情ヲ悪化

セシメントスルニ対抗スルト共ニ本電冒頭列国ノ懸念ヲ除去スル為ニモ必要ナルニ付在支公使発閣下宛電報第三七七号所載軍部予定ノ師団交代ヲ速ニ実行セラレ且之ヲ

声明セラルルコト

(二)支那ノ會議參加ニ關スル不誠意ヲ指摘スルト共ニ在上海

主要關係国代表者又ハ司令官ニ對シ支那（軍）撤退区域ノ協同警備（閣下発在支公使宛電報第一二二二号（回））ノ提案ヲ為シ右取極成立ノ上ハ上海駐兵ハ所要最少数ニ止メ爾余ハ成ルヘク速ニ帰還セシムル様取運フコト

最モ必要ナリト存ス尚右（二）ニ付テハ上海ニテ提議シタル上ハ当地ニ於テモ英、米、仏、伊側ニ之ヲ懲憲スルニ努ムヘ

ク尚他方上海来電トシテ之ヲ公表シ総会ノ空氣緩和ニ利用スルコトト致度シ
英、仏、米、独、伊、支へ転電セリ

208 昭和7年3月(7日)※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

三月五日の総会一般委員会における小国代表の発言および動向について

第二二二一号(暗)
(¹四文書)
(²五文書)

往電第二一七号及第二一八号ニ関シ

三代表ヨリ

五日前午後ニ亘ル一般委員会ニ於ケル小国代表者ノ意見ヲ綜合スルニ兎ニ角上海方面一応平靜ニ帰シタル際トテ直接ニ日本ヲ目指シテ其行動ヲ非難スルモノハ無カリシモ専ラ日支紛争ヲ一般的見地ヨリ批判シ抽象的ニ武力行使他國領土ノ侵略ノ違反ナルコト國際紛争解決ハ平和的手段ニ依ルヘキコト武力ノ圧迫ノ下ニ交渉ヲ為シ得サルコト武力使用ノ結果タル既成事實ハ之ヲ承認シ得サルコト等ノ原則ヲ高調シ一方他日自國カ其禍ヲ蒙ルヘキ場合ヲ防止セント試ムルト共ニ(殊ニ南中米諸国ハ米国ニ対シ關係ヲ考慮ス)

連盟ノ權威ヲ維持セント欲スル者多数ヲ占ム中ニハ瑞典代表、西班牙代表等ノ如ク激越ナル言ヲ用ヒテ日本ノ主張ヲ否認シタル者アリ支那視察委員ヨリ小国ヲ排除シタルハ殊ニ西班牙等ノ感情ヲ害シ居ルニ非スヤト観測セラル而シテ議長初メ一般ニ総会ノ任務ヲ上海問題ニ限ルコトヲ肯セス日支問題一般ニ闇シ審議ヲ為ス趣旨ニテ進ミ居リ滿州問題除外ノ意無キコトハ蔽フヘカラス(丁抹、瑞西ノ代表ハ之ヲ言明セリ唯小国代表者中ニモ「ボリチス」ノ如ク比較的穩當ナル論ヲ為ス者モアリ)又大国ノ代表者ハ今日迄沈黙ヲ守リ居ルヲ以テ或ハ英、仏等ノ代表者ハ上海ノ事態ノ好転ヲ機トシ小国ノ抽象的理論ヲ抑ヘテ現実ニ即シタル解決方法ヲ執ルヘキコトヲ主張スルニ非スヤト観察セラレ居ルモ英発閣下宛電報第一三七号ノ通り英國連盟協会ハ引続キ活動ヲ統ケ「セシル」卿ノ如キ理想家ハ別トシ「グレイ」卿ノ如キ外交問題ニ関シ一般ニ多大ノ信頼ヲ有スル人迄其ノ運動ニ積極的援助ヲ与フルニ至ラハ「サイモン」外務大臣ト雖從來ノ如キ態度ヲ維持スルコト益々困難トナル惧アリ尚今日迄演説セル各國代表ノ所論ヨリ察スルニ或ハ今後ノ推移ニ依リ総会ハ過般ノ十二国理事ノ勧告又ハ一月

七日ノ米国覚書ノ「ライン」ニテ日支事件将来ノ解決ノ準則ヲ定メンコトヲ決議スヘシトノ議出ツルヤモ保シ難ク大國モ亦大勢ニ抗シテ之ヲ抑フルコト不可能トナルヤモ知レスト思考ス

英、米、仏、伊、独、支へ転電セリ

209 昭和7年3月(8日)※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

滿州問題をふくむ決議案採択の場合の対策について

第二三五号(大至急、極秘)
三代表ヨリ

総会開始以来当方空氣推移ハ既電ノ通ニシテ今後如何ニ落付クヘキヤ今日ノ處容易ニ予断シ難キ次第ナルモ少クトモ満州問題ヲ全然連盟ヨリ切離シ連盟ヲシテ之ニ関与セシメストスル御訓令ノ趣旨(貴電第六〇号ノ三)ハ到底貫徹ノ見込立タス結局総会ニ於テハ一般討議終了後滿州問題ヲモ含ム決議ヲ採択スルニ至ルナランカト想像セラル而シテ同決議ノ内容カ如何ナルモノナルヘキヤハ目下ノ処全然不明ナルモ

(³六〇文書)

トナルヤモ計ラレス

此場合我方ハ第十五(条)適用ニ関スル一般的留保ヲ声明シタル上棄権スルカ又ハ進シテ之ニ賛成シ以テ決議案ヲ成立セシメ然ル可キヤニ認メラレ

(²)之ニ反シ総会カ小国側ノ所論ニ影響セラレ一步進テ日本軍ノ滿州撤退ヲ要求スルトカ或ハ我ヲ目シテ侵略者ト為スカ如キ我方ニ不利ナル条項ヲ含ム決議ヲ採択セントスルカ如キ場合ニハ我ニ於テ断然之ニ反対ノ投票ヲ為スヘキ事勿論ノ儀ナルモ事態ノ推移如何ニ依リテハ或ハ以上ノ如キ極端ナル主張ヲ斥ケ单ニ総会ハ連盟規約不戦条約及九国条約ニ反馳スル既成事實ハ之ヲ承認セスト謂フカ如キ理論的張ヲ前記(¹)ノ決議ニ転化スルニ止マルカ如キ場合モ予想セラレサルニ非ス

果シテ右様ノ場合展開ノ際ニハ我方トシテハ從来規約其他

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

諸条約ニ違反セルコトナシトノ立場ヲ取り来レル建前モア

リ今後ト雖モ之ニ反馳スヘキ既成事實ハ有り得ヘカラサル

次第二付総会決議ニシテ單ニ之レ丈ケノコトヲ採録スルニ

止マール場合ニハ其字句如何ニ依リテハ強チ之ニ反対シ得サ

ルヤニ存セラル

尤モ右レノ場合ニ於テモ決議案愈上程ノ節ハ我方ハ事件

ノ重大性ト満州問題ニ関スル決議案ノ採択ハ必シモ一日

ヲ争フモノニアラサル次ニ顧ミ請訓ノ上我態度ヲ決定シ

度シト主張シテ其採択ヲ一時延期セシメ御指令ヲ仰クコト

トシ度キ所存ナルモ事態急転ノ場合有之ヤモ計ラレス依テ

前記各項ニ対スル政府ノ御意向予メ承知シ置キ度ク何分ノ

儀大至急御回訓ヲ請フ

支、米、英、仏、独、伊ニ転電セリ

210 昭和7年3月(8日)※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
(芳沢外務大臣宛(電報))

中国側の円卓会議參加を上海列國代表より懇

懇方について

本省 3月8日後着

ジュネーヴ

際我方トシテハ他ニ方策無シト思考スルニ依リ上海ニ於テ
之カ成立ニ努ムルト共ニ当地ニ於テモ出来得ル限り主(要)
關係國ヲ右既定ノ方針実行ニ誘導スル様致シタク何分ノ儀
御回示ヲ請フ

英、米、仏、伊、支、独ヘ転電セリ

211 昭和7年3月(8日)在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
(芳沢外務大臣宛(電報))

三月七日午後の総会一般委員会の経過について

て

第二二八号

① 七日午後ノ総会一般委員会経過大要左ノ通り尚委員会議事
ノ中途議長ハ「ブリアン」逝去ノ報ヲ披露シ懇意ナル弔辭
ヲ述ヘタルニ対シ仏代表ノ謝意表彰アリ委員会ハ弔意ヲ表
スル為十五分間議事ヲ停止ス

一、委員会閉会翌頭支那代表ハ上海地方防備支那軍司令官
ハ去ル四日ノ総会決議ニ基キ戦闘中止ノ確保方ヲ布告セル
コト行政院副院長電報ニ依レハ支那政府ハ総会決議ヲ受諾
シタルニ付戦闘停止及日本軍ノ完全且無条件ナル撤退ヲ基
礎トスル休戦交渉開始ノ用意アルコト但シ在上海中立国代

第二二七号 (極秘)

三代表ヨリ

上海方面停戦協定及治安回復ニ関スル事項ハ客月廿九日理

事会及四日総会決議等ニ明カル通リ主要列国参加ノ円卓

會議ニ依リ之ヲ解決セントスルモノニシテ「サイモン」其

他在当地大国側ニ於テハ常ニ之ニ留意シ居ル次第ナルニ

付テハ在支公使発閣下宛電第四〇一号(四)所載ノ如ク日支

間ノミニテ是等諸問題ヲ協定セントスルハ從來ノ成行ニ反

スルノミナラス列國ノ猜疑心ヲ深クシ其成功ヲ見ルヘキ望

ナシト思考ス一方右理事会及総会決議ハ米國モ之ニ同意セ

ル關係上同國モ爾余主要關係國ト共ニ円卓會議ノ開会ニ尽

力スヘキハ當然ナルニ依リ此際我方ニ於テ右ノ点ヲ指摘シ

在上海重要關係國代表者ヲシテ支那側ヲ円卓會議ニ参加セ

シムルニ努メシメ若シ支那側ニシテ之ニ応セサル場合ニハ

(同國ノ参加ハ在支公使発閣下宛電報第三九二号及往電第
(二〇七文書)

二二〇号所載ノ通可能性少シト信ス)同國ヲ除ク主要關係

國間ニ中立地帶ノ共同警備及上海将来ノ治安維持等ニ付協

議ヲ取纏メ列國トノ共同戰線ニ依リ我方ノ地位ヲ有利ナラ

シムルヲ得策トス尤モ右ニ付テハ相当ノ困難アルヘキモ此

次テ從来ヨリ國際信義ヲ重ンスル日本カ今回ノ如キ措置ニ

出テタルハヨクノ理由アルモノト察スルモ規約上ノ手段ニ依リテモ日本ハ其利益ヲ擁護シ得ヘシト論シ總會カ本紛争處理ノ為根本方針トシテ(=)戰闘ノ絶対停止(=)休戦協定ノ即決(唯右締結ニ當リテハ政治的条件ヲ付スヘカラス)三規約十条ノ完全ナル適用(日本カ此点ニ關シ再三宣

言アリタルヲ喜フト共ニ連盟ハ両当事國ニ対シ実効ヲ挙クル様連盟ヨリ援助スルヲ要ス)四日本在留民生命財産ノ保護ノ必要(将来ノ商議ハ各種條約ノ尊重ヲ基礎トスルコト
(=)連盟ノ原則ハ地理的条件ニ拘ラス单一不変ナルコトヲ確

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(3) 認スルコト肝要ナリト論ス

三、波蘭代表ハ同國ハ領土ノ保全独立ノ原則ノ確認ヲ望ムモノニシテ日本カ本原則ヲ尊重スルノ意思ヲ表示セルヲ欣幸トス同國ハ日支両國カ誠意ニ依リ本紛争ノ満足ナル解決ヲ見ソコトヲ期待スルモノナルト共ニ規約ノ不備ヲ補ヒ以テ連盟ヲ一層完全ナル機関ト為スコトニ努力セサルヘカラスト述フ

四、英代表「サイモン」ハ過日来各國代表ハ何レモ連盟ニ對シ熱烈ナル愛着心ヲ有スルコトヲ披瀝シタルカ右ハ自分モ全然同感ナリ蓋シ連盟ハ國際關係調整並平和維持ノ為欠クヘカラサル機関ナルニ付吾人ハ極力連盟ヲ擁護スルノ必要アリ此ノ見地ヨリ自分ハ日支紛争ニ付連盟ノ執ルヘキ実

際的措置ニ付考慮スルニ(一)総会ノ第一ノ任務ハ十五条第三項ニ依リ両当事国間ノ調停ヲ図ルニ在リ戰闘繼續中ト雖斯カル調停ヲ放棄スヘカラス却テ一層其措置ヲ講セサルヘカラス本總会ニ両当事国及紛争現地ニ直接利害關係ヲ有スル諸國代表ノ參会シ居ル事實ハ現地ノ交渉ヲ容易ナラシムヘク特ニ米國ハ何等ノ留保ナク右ニ協力スル旨ヲ言明シ居ルコトハ吾人ノ意ヲ強ウセシムト述ヘ(二)次テ総会トシテハ未

タ紛争ノ本質ニ閔シ正邪ノ判断ヲ与フヘキ時機ニ達シ居ラス右ニ付テハ十二月理事会決議ニ基ク調査委員ノ報告ヲ待チ審議スルノ要アル處差当リ此際總会トシテ為シ得ヘキコトハ紛争ノ解決ノ手段ノ一般原則ニ付一ノ宣言ヲ為スコトナリ即チ各國ハ如何ナル場合ニモ規約第十二条ノ規定セル平和的手段ノミニ依リ紛争ノ解決ヲ図ルヘキ次第ヲ規約或ハ不戦条約ヲ引用シテ声明スヘキナリ又場合ニ依リテハ右声明中規約第十条ニ言及スルモ可ナルヘン蓋シ右(ハ)連盟諸國何レモ当然受諾シ得ヘキ鐵則ニシテ吾人カ今日ノ機会ニ於テ之等原則ヲ更ニ確認スル措置ニ出ツルコトハ機宜ノ措置ト言フヘク總会ハ以上二箇ノ方針ニテ進ムコトヲ希望スト述フ

五、議長ハ只今「コロンビア」代表ヨリ決議案ノ提出アリタリトテ「總会ノ日支紛争ノ平和的解決ノ為戰闘中止及一切ノ武力圧迫停止ヲ必要トスル旨宣言スルト共ニ(一)支那政府ハ連盟ノ指定スル「オブザーヴァー」ノ協力ノ下ニ日本在留民ノ生命財産保護ノ為必要ナル保障ヲ与フルコト(二)日本ハ上海ヨリ撤兵シ且九月三十日理事会決議ニ基キ滿州ヨリ撤兵スルコト(三)右撤兵ハ總会ノ任命スル委員会ノ定ムヘ

キ期間内ニ之ヲ為スコトヲ勧告ス」トノ案ヲ読上ケ
 (5) 六、伊国代表「ロッソ」ハ只今在上海伊国派遣軍ヨリ受領セル電報ニ依レハ日本軍ハ上海ヨリ約二十「キロ」ノ地点ニテ進出ヲ停止シ日下日支両軍間ノ衝突無ク又日本軍輸送船二隻上海ニ到着セル由ナリト披露シ伊国ハ英代表ノ述ヘタル宣言案ニ賛成スヘク且總会ノ執ルヘキ實際的措置トシテハ昨日希臘代表ノ述ヘタル如ク第十五条第三項ニ依リ調停ヲ試ムヘシ總会ハ夫レカ為既ニ停戰勧告ヲ為シタルカ更ニ又二月二十九日ノ理事会決議ニ依リ上海會議開催方ヲ怨憤スヘク且右會議ノ推移ヲ監視スル為一ノ總會委員会ヲ設置スルコト然ルヘシト述フ

七、独逸代表「ワイスゼッカー」ハ一度戰闘停止セハ紛争解決ノ為ノ平和的商議ノ基礎ヲ見出スノ希望アリ連盟ハ本紛争ノ平和的解決ノ為努ムヘキ処右ハ順ヲ追フテスヘキナリト述ヘ規約及不戦条約ノ原則ヲ高唱スヘシトノ英國宣言案ニ贊意ヲ表ス

八、仏代表「ボンクール」ハ日支紛争ニ關スル從來ノ理事

会ノ努力ヲ力説シタル後二月二十九日ノ理事会案ヲ説明シ上海ノ戰闘ハ事實上殆ト停止セラレタルモ速ニ形式上ニ

案ニ贊意ヲ表ス

英、米、支ヘ転電セリ

日本軍の早期撤退実施による総会切抜け策について

(館長符号) (極秘)

三大使ヨリ

在支公使來電ニ依レハ七日朝以来支那兵ノ我カ前哨線攻撃ト共ニ兩軍衝突ノ徵候アルカ如キ處我方ニテハ過般來当地ノ空氣極度ニ悪化シ居レルニ顧ミ上海方面ノ戰闘ヲ中止シ善後方法ハ總テ之ヲ現地ニ委ネ以テ總会等ノ空氣ヲ緩和スルヲ緊要ト認メ尚佐藤理事宛貴電(一)一八三文書)第五三号御訓令ノ趣旨ヲ体シ客月二十九日理事会議長提案及本月四日總会決議提出前何レモ「サイモン」其他大國代表者ニ申入レ大体右ノ「ライン」ニテ取纏メシメタル次第ナリ而シテ今猶小國ノ對日感情不良ニシテ大國間ニモ我方ニ対スル猜疑心アルトニ顧

ミ此ノ際ハ努メテ兩軍ノ衝突ヲ避ケ寧ロ我方ヨリ進ンテ撤兵ニ着手スルノ決心ヲ示シ總会ヲ切抜クルコト緊要ナリ之ニ反シ支那側ニ於テハ成ルヘク事端ヲ釀シ總会ノ遷延ヲ計

ルト共ニ其ノ同情ヲ利用シ日支紛争ニ閑スル全般的立場ヲ良好ナラシメンコトニ努ムモノナルヲ以テ戰線ニ於テモ我方ヲ挑発スルカ如キ態度ニ出ツヘキハ予想ニ難カラサル

イソ」ニテ取纏メシメタル次第ナリ而シテ今猶小國ノ對日感情不良ニシテ大國間ニモ我方ニ対スル猜疑心アルトニ顧

ミ此ノ際ハ努メテ兩軍ノ衝突ヲ避ケ寧ロ我方ヨリ進ンテ撤兵ニ着手スルノ決心ヲ示シ總会ヲ切抜クルコト緊要ナリ之ニ反シ支那側ニ於テハ成ルヘク事端ヲ釀シ總会ノ遷延ヲ計

ルト共ニ其ノ同情ヲ利用シ日支紛争ニ閑スル全般的立場ヲ良好ナラシメンコトニ努ムモノナルヲ以テ戰線ニ於テモ我方ヲ挑発スルカ如キ態度ニ出ツヘキハ予想ニ難カラサル

右閣下限リトシテ申進ス

213 昭和7年3月8日 在獨國小幡大使より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟における窮境打開に努力方要望について

第三九号 (極秘)

⁽¹⁾ 最近寿府ヨリ到来ノ情報ハ何レモ形勢益々我ニ不利ニ展開シツツアルヲ報シ勢ノ赴ク處規約第十五第十六条ノ適用決議ニ至ル無キヤ保シ難キヲ暗示セサル無ク今ヤ帝國ハ國運堪へス切ニ御考慮ヲ請フ

境ヲ救フ事最肝要ト云フヘク若シ軍事上右中止ヲ困難トスル場合ニハ或ハ在支公使蓋閣下宛電報(一)二〇七文書)第三七七号記載ノ交迭ヲ至急実施シテ現地ノ形勢緩和ヲ図リ居ル誠意ヲ聞示セラル事亦適切ト思考ス対支問題ニ対スル國論ノ極メテ強硬ナル次第ハ屢次ノ貴電ニ依リ之ヲ承知シ居リ殊ニ米國始メ烏合ノ連盟何スルモノソト言語同断ナル氣勢ヲ擧ケル者モ鮮カラサル趣伝聞シ居ルモ現下ノ時局ハ實ニ國家存亡ノ係ル處若シ一步ヲ誤レハ躋ノ緒囁ムモノ及ハサルモノアルヘク万一今回ノ總会ニ於テ我方ヲ侵略者ト看做スカ如キ決定ヲ下スニ至ランカ邦家ノ大難之ニ過クルモノ在ラサルヘシ此國難ノ秋ニ当リ挺身國論ヲ善導シテ難局ヲ收拾スルハ一ニ閣下ノ双肩ニ在リ詳ニ時局ノ推移ヲ見テ痛心措ク能ハス茲ニ重ネテ卑見ヲ上申ス

214 昭和7年3月8日 芳沢外務大臣より

在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

満州問題に関する決議案上程の場合の対策について

廻万一更ニ兩軍ノ大衝突トモナル場合ニハ我方ニテ如何ニ説明スルモ遂ニ列國ノ同情ハ弱者ト目セラレ居ル支那側ヲ去ラス總会又收拾スヘカラサルニ至リ結局支那ノ術中ニ陥ルコトトナルヘキニ依リ我方ニ於テハ成ルヘク隱忍ノ態度ヲ持スルト共ニ往電第二二〇号ノ通速ニ後退ヲ実行スルコト必要ナリト存ス尚又支那側ハ右往電所載ノ通善後會議ニ参加スヘキ可能性少ナキニ鑑ミ此ノ際速ニ在上海主要国代表者等ニ対シ支那敗退区域ノ共同警備ヲ申入レ右話合ヲ進行セシムルト共ニ他面所要最少数以外ノ兵員ハ之ヲ帰還セシムル様取運フコト極メテ肝要ナリト思考ス時局深憂ニ堪ヘス切ニ御考慮ヲ請フ

説明スルモ遂ニ列國ノ同情ハ弱者ト目セラレ居ル支那側ヲ去ラス總会又收拾スヘカラサルニ至リ結局支那ノ術中ニ陥ルコトトナルヘキニ依リ我方ニ於テハ成ルヘク隱忍ノ態度ヲ持スルト共ニ往電第二二〇号ノ通速ニ後退ヲ実行スルコト必要ナリト存ス尚又支那側ハ右往電所載ノ通善後會議ニ参加スヘキ可能性少ナキニ鑑ミ此ノ際速ニ在上海主要国代表者等ニ対シ支那敗退区域ノ共同警備ヲ申入レ右話合ヲ進行セシムル様取運フコト極メテ肝要ナリト思考ス時局深憂ニ堪ヘス切ニ御考慮ヲ請フ

シ居ル旨ノ報道頻々タルニ帰因スルニ顧ミ我方ニ於テ屢次声明ノ通戦闘行為ノ停止ヲ実行スルト共ニ事態ノ変化ニ依リ形勢ノ緩和ニ努メ連盟ニ於ケル大國側ノ時局收拾ヲ容易ナラシメラル事絶対ニ必要ト思考ス殊ニ最近各方面不安カ三日以後ニ於テモ戦闘行為終止セス我増援隊ノ上陸ヲ為ルニ先チ寿府発閣下宛電報(一)七文書)第三二〇号上申ノ如キ措置ニ依リ形勢ノ緩和ニ努メ連盟ニ於ケル大國側ノ時局收拾ヲ容易ナラシメラル事絶対ニ必要ト思考ス殊ニ最近各方面不安

シ居ル旨ノ報道頻々タルニ帰因スルニ顧ミ我方ニ於テ屢次声明ノ通戦闘行為ノ停止ヲ実行スルト共ニ事態ノ変化ニ依リ形勢ノ緩和ニ努メ連盟ニ於ケル大國側ノ時局收拾ヲ容易ナラシメラル事絶対ニ必要ト思考ス殊ニ最近各方面不安カ三日以後ニ於テモ戦闘行為終止セス我増援隊ノ上陸ヲ為ルニ先チ寿府発閣下宛電報(一)七文書)第三二〇号上申ノ如キ措置ニ依リ形勢ノ緩和ニ努メ連盟ニ於ケル大國側ノ時局收拾ヲ容易ナラシメラル事絶対ニ必要ト思考ス殊ニ最近各方面不安

(二〇九文書)
貴電第二二五号ニ関シ
三代表ヘ

総会ニ於テ満州問題ニ関スル決議案殊ニ貴電(一)ノ前半ノ如キ決議案ノ提出ヲ見ルコトナキ様極力御努力相成度又若シ

右努力ニ拘ラス遂ニ決議案上程ノ場合ニハ貴電末尾ノ通り

請訓ノ為メ其ノ採択ヲ延期セシムルニ努メラレ度又右請訓

ノ暇ナキ場合ニハ左記ノ通り措置セラレ度

一、(貴電(一)) 視察員ノ報告ニ基キ何分ノ決定ヲナス迄問

題ノ審議ヲ延期スヘシトノ決議案ニ対シテハ第十五条通

用反対ノ留保ヲ声明シタル上「アブステーン」スルコト

二、(貴電(一)前段) 日本軍ノ満州撤退ヲ要求スルトカ或ハ

日本ヲ以テ侵略者トナスカ如キ条項ヲ含ム決議案ニ対シ

テハ我方ノ正当ナル立場ヲ強硬ニ主張シテ各國側ノ反対

ヲ懲憲シ愈々採択ノ場合ニハ貴見ノ通り反対ノ投票ヲナスコト

既成事實ヲ承認セスト云フカ如キコトヲ前記(一)ノ決議案

ニ付加スル場合ニハ我方トシテハ從來規約其他諸條約ニ

違反セルコトナク又今後モ之ニ反馳スルカ如キコトナカ

収シ得ル方法ヲ協定セル上ハ何時ニテモ右撤収ヲ実行スルノ用意アルニ拘ラス支那側ニテハ停戦交渉ノ開始ヲ遷延スルト共ニ我方ニ対スル惡宣伝ヲ事トシ居ル次第ナルニ付

(累次ノ在支公使來電参照) 右ニ関シ連盟側ノ切実ナル注意ヲ喚起セラレ度(尚ホ現ニ支那軍ト對峙シツツアル日本軍カ何等ノ協定モナク撤収スルノ不可能ナルコトハ軍ノ安

全ヨリ云フモ当然ノコトニシテ撤退前ニ予メ支那軍ノ前進

中止其他支那側攻撃的行動ノ防止并ニ日本軍撤収地帯ノ治

安維持等ノ問題ヲ協議決定スルノ要アルハ何人ニモ明ナル

ヘク連盟総会決議ノ趣旨カ茲ニ存スルコト貴電第二二四号

ニ依ルモ明ナリ)

支、北平、奉天、廣東、南京、米ニ転電セリ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アレ

216 昭和7年3月9日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)
リトヴィノフリ連代表ボグラニチナヤ方面へ

の日本軍の出兵に關し注意喚起について

ジユネーヴ
本 省 3月9日前着

ルヘキ旨明確ニ主張シタル上前記一ト同様第十五条留保ヲ声明シテ「アブステーン」スルコト

英、米、仏、支、北平、奉天、廣東ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報セシメタリ

独、伊ニ転電アリ度

215 昭和7年3月8日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)
芳沢外務大臣より
往電第一〇〇号ニ関シ

中国側の停戦交渉遷延策に關し連盟に注意喚起について

第一〇二号(暗)

第二〇六号(暗)

第三全權ヘ

帝国政府ニ於テハ三月四日ノ連盟総会決議ヲ採用シ參謀本部ヨリ軍司令官ニ対シ三日ノ停戦命令嚴守方訓令スル一方當方ヨリ重光公使ニ対シ右決議ノ趣旨ニ依リ關係國出先官憲ノ援助ノ下ニ支那側トノ間ニ停戦交渉ヲ進ムル様措置方電報シ置キタル次第ニテ(在支公使宛電報第一五二号)我方トシテハ右交渉ニ依リ日本軍カ現在地點ヨリ安シテ撤

リトビノフリ連代表ボグラニチナヤ方面へ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ハナカルヘシトハ思ハルルモノ何ントカ之等ノ疑惑ニ対シテ

処置ヲ執ル必要アルヘシト述ヘタルカ右口吻ヨリ察スルニ
相当疑惑ヲ有スルト同時ニ過般提議セル不可侵協定ノコト
ヲ念頭ニ置キ居ルモノカト察セラレタリ

在欧米各大使、支ニ転電セリ

報アリ

四、日本軍憲ハ開北支那側要人ト交渉シ日本ノ監督ノ下ニ
警察組織ヲ設立ゼンコトヲ申入レタルモ要人等ハ是ヲ拒
絶セリ

五、日本便衣隊ハ南翔ヨリ太倉ニ進攻中ナリ

英、米、仏、伊、独、支ニ転電セリ

217 昭和7年3月9日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

上海方面における日本の軍事行動に関する中

国代表より連盟宛通告について

第二三二号

支那代表ヨリ事務総長宛六日及七日付通告ノ要点左ノ通

一、四日及五日日本飛行機十二台ハ蘇州、崑山方面ヲ飛行
シ機関銃ヲ以テ耕作中ノ農民ヲ攻撃セリ

二、十四師団搭載ノ運送船八隻吳淞到着他ノ増援隊ハ浦東
ニ上陸セリ又上海海關ノ報告ニ依レハ六日午前日本軍ヲ
満載セル日本商船五隻上海ニ入港セリ

三、六日日本飛行隊ハ蘇州、崑山間鐵道沿線ノ都市ヲ爆撃
シ且黃渡、Kingting, Lottang ノ戰線ニ於テ激烈ナル攻
撃ヲ開始シタリ又日本軍ハ杭州攻撃ノ準備中ナリトノ情

第二三三号(至急)

三代表ヨリ

一般委員会ハ本八日午後一般討議ヲアリタル處「ヂュッ
ク」代表 Benes ノ提議ニ基キ

(一) 総会幹部会ヲ構成スル諸國及決議案ヲ提出スル諸国代表
ヲ以テ起草委員会ヲ組織スルコト

(二) 右決議案ノ提出期限ハ明九日正午迄トスルコト
(三) 起草委員会ハ明九日集合シ其結果ニ依リ明後十日中ニ一
般委員会ヲ開催スルコト

ニ決定セリ委細追電ス

218 昭和7年3月9日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

決議案起草委員会の設置について

第二三三号(至急)

三代表ヨリ

一般委員会ハ本八日午後一般討議ヲアリタル處「ヂュッ
ク」代表 Benes ノ提議ニ基キ

(一) 総会幹部会ヲ構成スル諸國及決議案ヲ提出スル諸国代表
ヲ以テ起草委員会ヲ組織スルコト

(二) 右決議案ノ提出期限ハ明九日正午迄トスルコト
(三) 起草委員会ハ明九日集合シ其結果ニ依リ明後十日中ニ一
般委員会ヲ開催スルコト

ニ決定セリ委細追電ス

219 昭和7年3月9日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

八日の総会一般委員会における小国の動向について

別電 同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外
務大臣宛第二三六号

八日の総会一般委員会における各国代表の演説およ
び日中両国代表の応酬について

第二三四号(暗、極秘)

(1) 三代表ヨリ

八日ノ一般委員会ニ於ケル各代表ノ演説ノ要旨ハ別電ノ通
ナル處小国ノ代表者ハ略々五日ノ委員会ニ於ケル各代表ノ
所說ヲ支持シ同様ノ趣旨ヲ述ヘタルモノ多ク七日ノ一般委
員会ニ於ケル大國ノ態度ニ追随スルモノ少キノミナラス
(南阿、愛蘭両代表ノ態度カ英國ト異ルハ注目ニ価ス)起
草委員会ノ構成ニ關シ「ベネシュ」カ議長及事務総長ノ意ヲ
受ケ往電(二二八文書)
第二三三号ノ提案ヲ為スヤ小国代表ハ拳ケテ之ニ
賛意ヲ表シ「ボリチス」カ別ノ提案ヲ為シタルモ殆ト顧ラ

英、米、仏、伊、独、支ヘ転電セリ

(別電)

第二三六号

三代表ヨリ

本八日午後一般委員会開催経過要領左ノ通り(上海中立國
報告ノ件ハ別電第二三五号ノ通り)

一、劈頭議長ハ「ブリアン」逝去ニ因シ昨日総会ノ名ニ於
テ仏国首相宛弔電ヲ發シタル旨ヲ披露シ次テ西班牙代表

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ノ提案ニ依リ来ル十二日「ブリアン」ノ葬儀ニ総会代表トシテ議長及事務総長ヲ参列セシムルコトニ決ス
次テ議長ハ総会ノ任務ノ第一段ハ今週中ニ済マセ度キニ付一般討議ハ本日中ニ終了スル様致度シト述ヘ一般討論ニ入ル

一、劈頭愛蘭代表ハ十二月理事会ニ於テ日本ハ出来得ル限り速ニ満州ヨリ撤退スル旨宣言シ且理事会ハ右撤兵ハ調査委員ノ調査ト関係ナク為サルヘキ旨ヲ声明セル処本総会ハ日支紛争ノ全般ニ亘り審査ヲ要スルモノナレハ此ノ宣言ハ甚々重要ナリト述ヘ總会ハ戦闘ノ停止ノミナラス原状ノ回復ヲ計リ以テ紛争ヲ解決スル要アリト述フ

三、「サルバドル」代表ハ第十一条ノ戦争ナル字句ハ誤解ヲ招ク虞アレハ兵力及暴力ナル語ヲ用フルコト然ルヘク目下ノ条文ニテハ戦争行為ニ出テナカラ戦争ニアラストノ主張ヲ誘起スト述ヘ結論トシテ条約ノ尊重、他国領土ニ対スル干渉行為ノ否認ヲ高唱シ何国モ自國一身ノミノ判断ニテ其ノ行為ヲ「ジャスティフィケイト」シ得スト述フ

四、匈牙利代表ハ日支紛争ハ甚々困難ナル問題ニシテ連盟

七、勃牙利代表ハ紛争ノ平和的解決ノ必要ヲ述ヘ規約及不

戦条約ノ尊重ヲ高唱スルト共ニ規約ノ厳格ナル適用ノ為各国ノ執ルヘキ努力ニ協力スル次第ヲ述フ⁽³⁾

八、「ユーロースラヴィア」代表ハ本紛争ノ解決ハ一ノ前例ヲ為スモノニシテ連盟ノ将来ニ関スルコト大ナルモノアレハ総会ノ決議ハ一般的性質ヲ有スヘク例外的ノモノタルコトヲ得スト述ヘ英代表提案ノ主義ニ賛意ヲ表ス

九、南阿代表ハ今直ニ紛争ノ本体ニ付正邪ヲ判定スル能ハ

サルコト明ナルト共ニ支那ノ現状カ明白ナル戦争ナルコトハ疑無シ而シテ日本カ規約ノ規定セル平和的解決手段ニ依ラス且不戦条約ニ違反セルコトモ亦疑容ル余地ナシ日支両国ハ既ニ其立場ヲ説明シ居ルモ余ハ本総会ニ於テ更ニ日本代表ヨリ何故日本カ平和的手段ニ依リ解決ヲ計ル措置ニ出ツル能ハサリシヤニ付説明ヲ求メタシ余ハ日本国民ノ勇氣、聰明、愛國心ニ付満腔ノ敬意ヲ表スルモノニシテ日本政府カ速ニ戦争行為ヲ捨て平和手段ニ依ル紛争ノ解決ニ入ランコトヲ希望シテ止マス且日本代表カ同国政府ニ対シ之ヲ懲諭セラレンコトヲ切望ス尚本総会ニ列席ノ諸大国カ言葉ニ非ス実行ヲ以テ有効ナル指導

の措置ヲ執ルニ至ルコト希望ニ堪ヘス

一〇、次テ印度代表ハ東洋ノ事態ノ特殊性ニ鑑ミ吾人ハ忍耐ヲ以テ目下ノ問題ヲ處理スル要アリ印度ハ日支両国ト宗教、文化、交通上密接ナル関係ニ在ルヲ以テ両国ニ対シ協調ヲ切望ス且連盟ハ先ツ両国間ノ調停者トシテ行動スヘク之力為両国ニ対スル信愛ヲ失フヘカラス又右調停ハ東洋ニ於ケル将来ノ平和建設ヲ目的トスヘク而シテ其根本方針ハ規約ノ原則ニ之ヲ求メサルヘカラスト述フ

一一、次テ「ラトヴィア」及「ボリヴィア」代表ヨリ武力使用ノ不可ナル所以ヲ説明ス支那代表ハ各國代表カ日支紛争ニ関シ夫々述ヘラレタル事ヲ多トス右意見ハ規約ノ原則ヲ一切ノ場合ニ於テ且無条件ニ尊重スヘシトノ点ニ於テ一致シ居レリト認ム自分トシテハ総会ノ初日ニ於テ

表明セル要求ヲ茲ニ繰返サントスルモノニシテ或ル代表ハ規約第十五条ハ先ツ以テ調停手続ヲ規定シ居ル旨ヲ指摘セラレタルモ調停手続ハ既ニ理事会カ過去五ヶ月之ヲ適用セル處ナルモ其結果ハ不幸ニシテ失敗ニ帰セリ総会ニシテ今一応右手段ヲ適用シ奏効セサルニ於テハ支那政府ハ総会カ第十五条及其他ノ条項ノ適用ヲモ尽サレン事

ハ之カ為從來多大ノ努力ヲ為シタルカ右カ未タ充分ノ効果ヲ挙ケ得サリシトスルモ右ハ決シテ連盟ノ權威ヲ害スルモノニアラストテ平和機関トシテノ連盟ノ重要性ヲ高唱ス

唱ス

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ヲ期待スルモノナリ近ク総会ノ為サントスル宣言ハ一月八日米国政府カ日支両国政府ニ送付シタルモノト類似ノモノナリト了解スル処右宣言後支那調査委員会ノ報告接到スル迄紛争其ノモノニ閑シ何等措置ヲ執リ得ストノ意見ハ非常ナル誤解ニシテ支那政府ハ未嘗テ総会ニ対シ紛争全般ノ解決ニ累ヲ及ホスカ如キ決定ヲ直ニ為スヘキ事ヲ要求シタル事無シ⁽⁵⁾吾人ハ例へハ三十万平方杆ノ地域ノ軍事占領及三千万人ノ同胞カ外国人ノ羈絆ノ下ニアルカ如キ事実並ニ日本カ紛争ヲ絶対ニ仲裁々判ニ付セスト公言セルカ如キ事実ニ依リ規約違反ノ存在スル事ヲ確認セん事ヲ要求スルモノナリ連盟ニ於テ日本ハ兵力ニ依ラス条約所定ノ平和的処理方法ニ依リ紛争ヲ解決スヘキコト又先ツ撤兵ヲ行ヒタル後国際約定ニ依リ紛争ヲ解決スヘキコトヲ宣言スルモ決シテ紛争ノ内容ニ閑スル解決ヲ害スルモノトハ謂フヲ得ス十二月理事会ノ決議モ敵対行為ノ終止及撤兵ノ問題ト紛争自体ノ解決トハ之ヲ截然区別シ居レル次第ニシテ吾人ハ総会カ先ツ以テ右決議ノ事項即日本軍ノ撤兵ヲ確保センコトヲ要望ス右ハ日本ニ於テ満州独立運動ヲ強ク支持シ居ル事実ニモ鑑ミ特ニ

(3) 官憲ハ外国代表者ニ対シ右開始方熱心「デマルシュ」ヲ執リタルコト
 (4) 日本ハ連盟創立以来衷心之カ發達ニ貢献シ来レルカ今尚其權威ノ確立ヲ切望スルニ於テ渝ルコトナキコト
 (5) 日支紛争解決ニ對スル理事会ノ長期ニ亘ル努力ヲ多トシ殊ニ上海事件ニ關スル各理事国及米国政府ノ斡旋ニ對シ謝意ヲ表スルコト
 ヲ述ヘタリ

(7) 一三、此時「チャッコ」代表「ベネシュ」発言ヲ求メ討議モ終了シタルヲ以テ幹部会ヲ構成スル各國代表及決議案提出者全部ヨリ成ル起草委員会ヲ設ケンコト並ニ決議案提出期限ハ之ヲ明九日正午迄ト定ムヘキコトヲ提議シタル處議長ハ「ベネシュ」ノ提案ニ賛意ヲ表シ明日午後起草委員会ヲ開催センコトヲ提議シタリ之ニ対シ希臘代表「ボリチス」ハ「ベネシュ」案ノ如ク各國ノ提案ヲ待ツコトハ起草委員会ノ機能ヲ逕カラシムル憂アリ且連盟ノ慣習ニモ合致セサルヲ以テ寧ロ此際直ニ起草委員会ヲ任命シ今日迄ノ討議ニ基キ決議案ヲ作成スヘシト提議シタルモ諾威代表「コルバン」ハ本件ノ重要性ニ顧ミ起草委

ヲ期待スルモノナリ近ク総会ノ為サントスル宣言ハ一月八日米国政府カ日支両国政府ニ送付シタルモノト類似ノモノナリト了解スル処右宣言後支那調査委員会ノ報告接到スル迄紛争其ノモノニ閑シ何等措置ヲ執リ得ストノ意見ハ非常ナル誤解ニシテ支那政府ハ未嘗テ総会ニ対シ紛争全般ノ解決ニ累ヲ及ホスカ如キ決定ヲ直ニ為スヘキ事ヲ要求シタル事無シ⁽⁵⁾吾人ハ例へハ三十万平方杆ノ地域ノ軍事占領及三千万人ノ同胞カ外国人ノ羈絆ノ下ニアルカ如キ事実並ニ日本カ紛争ヲ絶対ニ仲裁々判ニ付セスト公言セルカ如キ事実ニ依リ規約違反ノ存在スル事ヲ確認セん事ヲ要求スルモノナリ連盟ニ於テ日本ハ兵力ニ依ラス条約所定ノ平和的処理方法ニ依リ紛争ヲ解決スヘキコト又先ツ撤兵ヲ行ヒタル後国際約定ニ依リ紛争ヲ解決スヘキコトヲ宣言スルモ決シテ紛争ノ内容ニ閑スル解決ヲ害スルモノトハ謂フヲ得ス十二月理事会ノ決議モ敵対行為ノ終止及撤兵ノ問題ト紛争自体ノ解決トハ之ヲ截然区別シ居レル次第ニシテ吾人ハ総会カ先ツ以テ右決議ノ事項即日本軍ノ撤兵ヲ確保センコトヲ要望ス右ハ日本ニ於テ満州独立運動ヲ強ク支持シ居ル事実ニモ鑑ミ特ニ

(6) (1) 日本ハ何等特権等ヲ求ムル為支那ニ圧迫ヲ加ヘントスルモノニ非ス關係國ノ協力及規約ノ精神ニ依リ上海事件ヲ急速解決セんコトヲ希望シ居レルモノニシテ三月四日ノ決議ヲ欣然受諾セルモ亦右決議ニ予見セル交渉ノ即開ヲ固執スルモ之カ為ニ外ナラズ現ニ過日モ上海ニ於テ我ト
 (2) 日本ハ連盟規約及不戦条約ノ嚴守ヲ切望スルモノニシテ其執リタル軍事措置ハ支那ノ特殊ナル状態ニ於テ危險ノ切迫及責任ノ重大ナルニ鑑ミ他ニ執ルヘキ途ナキ為已ムヲ得サルニ出テタル仮ノ自衛措置ニ過キス素ヨリ紛争ヲ武力ニ依リ解決セントスルモノニ非ス又支那ノ政治的独立及行政的保全ヲ害スルノ意図ニ出テタルニ非サルコト

英、米、支ニ転電セリ

220 昭和7年3月9日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
 上海における各國代表の入手情報を英國代表
 より披露について

第二三五号

本八日一般委員会ニ於テ英代表ハ在支同國公使ノ電報ヲ披露セルカ右ハ七日上海ニ於テ英、米、仏、伊各代表者及司令官会合ノ結果戰線上海ヨリ遠サカリ居リ情報蒐集仲々困難ナルカ戰闘停止ニ閑スル中立國報告ハ（往電第二三三号參照）右各國代表ノ得タル情報ヲ英國公使ノ許ニ持寄り綜合統一シ同公使ヨリ總会ノ英代表宛電報スルコト致度キ次

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

第申越シタルモノナリ英代表ハ之ニ付言シ右第一回報告ハ既ニ茲ニ受領シ居ルニ付各関係国ニシテ反対ナキ限り茲ニ之ヲ披露シタク且今後モ此方法ニ依リ報告接受ノ都度自分ヨリ総会ニ通報スルコト致度シト述ヘ仮、伊代表之ニ贊シ更ニ事務総長ヨリ米国側ニ照会セル処直ニ之ニ同意スル旨回答アリタル次第ヲ通告アリ依テ英代表ハ大要左ノ第一回報告ヲ披露セリ

三月六日日本軍ハ瀏河西北ヨリ西方一哩ノ地点ヲ過キ黄渡、嘉定ノ（脱）ニ至リ更ニ蘇州「クリーク」ニ沿ヒ真茹ニ達スル線上ノ地点ヲ占領ス（但少許ノ前衛隊ハ右「クリーク」以南ニ在リ）七日日本軍ハ其前衛隊ニ於テ小衝突アリタルモ死傷者ナキ次第ヲ發表セリ同日朝日本増援隊ハ吳淞ノ鉄道埠頭ニ上陸セリ其後ノ情勢ノ変化ニ付テハ報道ヲ有セサルモ瀏河西北ニ於テ勃発セル小衝突ニ付テハ日支双方共相手方ニ責任ヲ転嫁シ居ル處此点ニ付真相ヲ確ムル為更ニ措置ヲ執ルヘシ支那軍撤退ノ結果差当リ日本軍ニ閔スル情報ヲ有スルノミナルモ今後ハ支那側戦線ニ付テモ調査シ得ル様努ムヘシ

英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

米国ハ注意深クモ紛争ノ渦中ニ捲込マルコトヲ避ケタルモ米国カ今日迄示シ来リシ連盟ニ対スル協力ハ予ノ多トスルトコロナリ若シ日本カ滿州問題發生ノ当初ヨリ之ヲ国際連盟ニ訴へ其云ヒ分ヲ開陳シタリシナランニハ凡テノ列強ハ日本ニ同情ヲ寄セタルヘク又日本ハ斯ル手段ヲ執ルヘキ充分ノ時間ヲ有シタル筈ナリ尤モ列強カ日本ノ為ニ努力スルモ失敗ニ終リタルヤモ知レサレトモ若シ列強ノ尽力カ成功シタリトセハ日本ハ一弾ヲモ發スルコトナク又一文ノ戦費ヲモ浪セスシテ満州ニ於ケル其利益ヲ確保シ得又支那ニ何等得ルトコロナシ

〔2〕
「セシル」卿（往電第一三五号「クロニクル」掲載、同卿ノ論文ト同様ノコトヲ述ヘタル後）日支紛争事件ノ当初ヨリ instigator and aggressor タリシ者ハ支那ニ非スシテ日本ナリキ、然ルニ連盟規約ノ根本精神ハ国際紛争ハ平和的手段ニ依リ解決スヘシト言フニアルヲ以テ日本ノ行為ニシテ看過セラレンカ連盟規約ハ粉碎セラレタルト同様ナリ、約五十ヶ国ヲ代表スル連盟総会カ真ニ決心セハ或國家

221 昭和7年3月9日 在英國沢田臨時代理大使より

芳沢外務大臣宛（電報）

英國国際連盟協会大会におけるグレイ等の演説大要について

ロンドン

本省 3月9日後着

第一四一号

往電第一三七号国際連盟協会大会ニ対シテハ同協会ヨリノ希望モアリタルニ付館員ヲシテ之ヲ傍聴セシメタルカ聴衆約八千人ニ及ヒ相当盛会ナリシ趣ニテ八日「タイムス」其他二三ノ新聞ハ大会ノ状況ヲ報道シ居レルカ主タル弁士ノ演説大要左ノ通

「グレイ」

客年往電第五一六号国際連盟協会ニ於ケル同卿ノ演説ト同様ノ趣旨ヲ述ヘタル後最近數年間ノ支那ノ国情ニ注視セルモノハ支那ニ有力ナル中心政府存在セサリシコトヲ承知シ居レルカ一方日本ニハ中央政府存在スルモ夫レニ服従セサル軍閥存在スルノ外觀ヲ呈シ居レリ日本ニ經濟封鎖ヲ行フヘシト主張スルモノアルモ日本ノ地理的地位ヲ見ルトキハ米国ノ協力ナキ限り之ヲ有効ニ行フコト不可能ナリ而シテ

ノ戰爭行為ヲ抑止シ得サル筈ナシ、若シ五十ヶ国カ以上ノ目的ノ為其力ヲ行使セストゼハ彼等モ亦侵略者ト同類者ト看做サルモ弁解ノ辞ナカラシ、吾人国際連盟協会員ハ連盟ヲシテ充分其機能ヲ發揮セシムル様努力スヘキコト勿論ナルカ一方英國政府ヲ促シテ連盟ニ充分ノ支持ヲ与ヘシムルコト肝要ニシテ此ノ目的ヲ達セんカ為ニハ本協会ノ各員ハ自己ノ選挙区ヨリ選出セル代議士ヲ歴訪シテ之ヲ説得スルコト最モ有効ナルヘシ
「アスター」卿夫人
国際連盟誕生ノ當時ハ米国ノ加入ナキ連盟ハ恐らく其ノ効力ヲ示シ得サルヘシト言ハレタルカ事實ハ之ニ反シ極東問題發生ノ今日米国カ其ノ主張ヲ貫カントスルモ連盟ノ協力無クシテハ之カ実現不可能ナルヲ示シ居レリ、連盟ハ今ヤ独立存在トシテ国際平和ノ為欠クヘカラサル機関トナレリ、吾人ハ全力ヲ以テ之ヲ支持シ世界平和ノ為ニ貢献セサルヘカラス

寿府、松平大使ヘ転電セリ

222 昭和7年3月(10)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛（電報）

日本軍撤収の声明発表方に関するマシグリの内話について

第一四〇号（暗、大至急）

那軍カ現在ノ地位ヨリ進出セサル保障サヘアラハ共同租界ニハ必要数ノ守備兵ヲ止ムルコトトシ日本軍ハ直ニ撤退及本国帰還ヲ開始シ得ヘシトノ意味ヲ語リタル趣同大使ヨリ

電報アリ右ハ頗ル重要且機宜ニ適シタル意見ト思ハレ此際日本側ニ於テ寿府ニ於テ同趣旨ノ声明ヲ発シ総会ニ通牒セラルレハ今日ニ迫リ居ル総会決議ノ採択ニ当リ頗ル好影響ヲ与フヘシト言ヘリ又從來頗ル好意ヲ寄セ吳レタル「ボリチス」ノ如キモ日本軍撤退区域ニ連盟ノ名ニ於テスル問題ニ對シテモ日本ノ立場有利ナルヘシト言ヘリ

英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ
~~~~~  
國際軍隊ヲ入レ一時治安ノ維持ニ當ラシムルコトトシ日本軍隊ヨリ進テ之ヲ提議スルニ於テハ總テノ疑惑氷解シ滿州問題ニ對シテモ日本ノ立場有利ナルヘシト言ヘリ  
英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

三代表ヨリ

九日「マシグリ」カ佐藤ニ内話スル處ニ依レハ八日貴大臣「マルテル」大使ヲ引見セラレタル際日本ハ上海ニ於テ支

那軍カ現在ノ地位ヨリ進出セサル保障サヘアラハ共同租界ニハ必要数ノ守備兵ヲ止ムルコトトシ日本軍ハ直ニ撤退及本国帰還ヲ開始シ得ヘシトノ意味ヲ語リタル趣同大使ヨリ

電報アリ右ハ頗ル重要且機宜ニ適シタル意見ト思ハレ此際日本側ニ於テ寿府ニ於テ同趣旨ノ声明ヲ発シ総会ニ通牒セラルレハ今日ニ迫リ居ル総会決議ノ採択ニ当リ頗ル好影影響ヲ与フヘシト言ヘリ又從來頗ル好意ヲ寄セ吳レタル「ボリチス」ノ如キモ日本軍撤退区域ニ連盟ノ名ニ於テスル問題ニ對シテモ日本ノ立場有利ナルヘシト言ヘリ  
英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

三代表ヨリ

第一四一号（暗、大至急）

今九日朝來代表部員重要ナル他国代表ヲ歴訪決議案作成ニ関シ出来得ル丈ヶ我方ニ有利ナルモノト為スヘク努力中ナルカ其ノ中重要ナル会談要旨左ノ通り

松平「サイモン」ヲ往訪シタル処「サ」ハ自分ハ出来得ル丈ヶ穩健ナル決議案ヲ作り度ク努力中ナルモ総会ノ空氣ハ日本ニ甚シク悪化シ居レルニ付果シテ希望通ノ案ニテ繩マルヤ否ヤ疑ハシ何レノ代表モ大兵ヲ擁シテ上海ノ将来ニ関スル商議ヲ有利ニ導カントスルコトニハ全然反対ナルヲ以テ之ニ關シテハ何等カノ文言ヲ挿入セサルヘカラサルコトト思考ス自分ハ日本ニ「アクセプタブル」ト思ハルル案ヲ作成スル積リナルニ付其ノ場合ニハ総会ニ於テ受諾セラレンコトヲ希望ス若シ然ラサル場合ニハ総会ノ結果ハ重大ナルモノトナルノ惧アリト述ヘタルニ付松平ハ貴電第一〇二〔一五文書〕

号其ノ他我立場ヲ綴返シ説明シ撤兵ニ期限ヲ付スルカ如キハ我方ニ於テハ断シテ承諾シ得スト述ヘタル処「サイモン」ハ此点ハ諒解セリト述ヘタリ尚松平ハ更ニ決議案ノ文

言ニシテ我方ニ於テ受諾出来得サルモノハ如何ニシテモ反

対セサルヲ得ス若シ承諾出来ルモノトシテモ第十五条留保ノ関係アルヲ以テ「アブステイン」スヘキ訓令ニ接シ居レリト述ヘタル処「サイモン」ハ右説明ハ諒解セルモ何トカ同意セラレンコトヲ希望ス其案ニ付テハ何レ作成後御相談スヘシ尤モ支那代表ニモ亦相談スル積リナリト述ヘタリ

尚武者小路、和蘭、丁抹代表等ヲ歴訪シテ得タル情報ニ依レハ総会ハ短期ニ於テ終了スル必要アルニ鑑ミ諸問題討究ノ為一研究委員会ヲ組織シ多分九月総会ニ報告ヲ提出セシメ度キ意見アリ其ノ構成ニ関シテハ理事会ニ於ケル十一国及和蘭、葡萄牙及豪州ヲ加フルノ案モアルヤニ聞及ベリトノロトナリ

英、米、仏、伊、独、支へ転電セリ

~~~~~

昭和7年3月(10)日 在ジネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

起草委員会に提出の英國決議案ニハシテ

223 昭和7年3月(10)日 ※在ジネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

連盟総会の決議案に関する松平代表のサイモ

ノ外相との会談について

第一四一號（暗、大至急）

今九日朝來代表部員重要ナル他国代表ヲ歴訪決議案作成ニ関シ出来得ル丈ヶ我方ニ有利ナルモノト為スヘク努力中ナルカ其ノ中重要ナル会談要旨左ノ通り

松平「サイモン」ヲ往訪シタル処「サ」ハ自分ハ出来得ル丈ヶ穩健ナル決議案ヲ作り度ク努力中ナルモ総会ノ空氣ハ日本ニ甚シク悪化シ居レルニ付果シテ希望通ノ案ニテ繩マルヤ否ヤ疑ハシ何レノ代表モ大兵ヲ擁シテ上海ノ将来ニ関スル商議ヲ有利ニ導カントスルコトニハ全然反対ナルヲ以テ之ニ關シテハ何等カノ文言ヲ挿入セサルヘカラサルコトト思考ス自分ハ日本ニ「アクセプタブル」ト思ハルル案ヲ作成スル積リナルニ付其ノ場合ニハ総会ニ於テ受諾セラレンコトヲ希望ス若シ然ラサル場合ニハ総会ノ結果ハ重大ナルモノトナルノ惧アリト述ヘタルニ付松平ハ貴電第一〇二〔一五文書〕

今九日朝來代表部員重要ナル他国代表ヲ歴訪決議案作成ニ関シ出来得ル丈ヶ我方ニ有利ナルモノト為スヘク努力中ナルカ其ノ中重要ナル会談要旨左ノ通り

松平「サイモン」ヲ往訪シタル処「サ」ハ自分ハ出来得ル丈ヶ穩健ナル決議案ヲ作り度ク努力中ナルモ総会ノ空氣ハ日本ニ甚シク悪化シ居レルニ付果シテ希望通ノ案ニテ繩マルヤ否ヤ疑ハシ何レノ代表モ大兵ヲ擁シテ上海ノ将来ニ関スル商議ヲ有利ニ導カントスルコトニハ全然反対ナルヲ以テ之ニ關シテハ何等カノ文言ヲ挿入セサルヘカラサルコトト思考ス自分ハ日本ニ「アクセプタブル」ト思ハルル案ヲ作成スル積リナルニ付其ノ場合ニハ総会ニ於テ受諾セラレンコトヲ希望ス若シ然ラサル場合ニハ総会ノ結果ハ重大ナルモノトナルノ惧アリト述ヘタルニ付松平ハ貴電第一〇二〔一五文書〕

1. Approves the principles laid down by the President of the Council in his Declaration of December 10th, 1931, which twelve Members of the Council again invoked in their appeal to the Japanese Government on 16th February when they declared 'that no

infringement of the territorial integrity and no change in the political independence of any Member of the League brought about in disregard of Article 10 of the Covenant ought to be recognized as valid and effectual by Members of the League of Nations;

(2) Considers that the principles of international conduct and method for settlement of disputes between Members of the League above referred to are in full harmony with the Pact of Paris which together with

Covenant is one of the pillars of the peace organisation of the world and under Article 2 of which 'the High Contracting Parties agree that the settlement or solution of all disputes or conflicts, of whatever nature and of whatever origin they may be, which may arise among them, shall never be sought except by pacific means';

3. Urges the Government of China and Japan to comply without delay with the Assembly resolution of March 4th recommending negotiations for definite

cessation of hostilities and regulation of withdrawal of the Japanese forces,

4. Pending the decision which it may ultimately take for the settlement of the dispute which has been submitted to it,

The Assembly reaffirms binding nature of the principles and provisions referred to above and declares that it is incumbent upon Members of the League of Nations not to recognize any situation, treaty or agreement which may be brought about by means contrary to the Covenant of the League of Nations or to the Pact of Paris.

225 昭和7年3月10日 ※在シネーザ沢田連署事務局長
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮懲罰並正義の如國於譲罪ニハシテ

第1回大時(聖・科)
三代表ニ

各国代表ヨリ起草懲罰令ニ提出ヤル総会決議案ノ大要左ノ

通り(英案ハ就テハ往電第一四五号参照)右ノ内英案稳健

ニシテ希臘「ヒスニア」、諾威案ハ之ニ次キ瑞西、瑞典案最過激ナリ尚是等案ハ事務局側ヨリ内密入手セムモノナル付外部ニ御渡ラシナキ様御取計ヲ請フ

希臘案

総会ハ先ツ第十五条第三項ニ依リ紛争ノ解決ニ努ムベク右解決達成セサル場合ニ於テハ第十二条規定ノ期間内ニ於テ第十五条第四項ノ手続ヲ適用スベキコトヲ認メ左ノ通決議ス

ス

出スルモノ
ハ紛争解決又ハ平和保持ノ為必要ト認ムル一切ノ準備措置、保全措置又ハ調査手段ヲ規定スルコト
(2)「ヒスニア」及「ヒンヘン」共同案
出来得ル限り速ニ日支紛争ヲ解決シ得ル様且總会カ第十五条第三項ノ報告ヲ作成シ解決ヲ計リ得ル様特別委員会ヲ組織シ右委員会ヲシテ適當ナル案ヲ作成セシムクシ
諾威案
總会ハ

丁九月三十日及十月十日理事会ノ決議ヲ承認シ

丁十二回国理事ノ要請ヲ總会ニ於テ承認シ

乙規約第十条第十二条及不戦条約ヲ従通シ紛争解決ノ為ノ武力ノ行使及他国地域内ノ侵入ヲ排斥スル趣旨ノ原則ヲ宣言シ

丙理事會ニ對シ本紛争全般ノ解決ノ為調停ニ努メ之カ為当事國ニ勧告ヲ発スルコト当事國カ右勧告ヲ受諾セヌ又ハ尊重セサル場合ニハ必要ナル措置ヲ審議スルコトヲ要求シ

丁理事會ニ對シ其事業ヲ總令ニ報告ベルコトヲ要求ベ瑞西案

(1)停戦及日本軍撤退ニ関スル交渉並ニ紛争解決ノ為ノ交渉ヲ監視シ報告ヲ提出スルコト
(2)紛争解決セサル場合ニハ両当事國ニ勧告スベキ解決案ヲ審議シ場合ニ依リテハ右ヲ来る八月一十五日迄ニ總会ニ提

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(1) 規約第十五条ノ手続ヲ実施スル為総會議長理事國（当事國ヲ除ク）及他ノ五国代表ヨリ成ル委員会ヲ任命ス

(2) 委員会ノ権限左ノ通

(3) 九月、十二月理事会決議及三月四日総会決議ノ実行ノ確保

(4) 第十五条第三項ニ依ル調停案ノ作成（調停不成功ノ場合ハ総会ヲ招集シ最後ノ調停ヲナスコト）

(5) 右努力不成功ノ場合ニハ第十五条第四項ノ報告ノ作成（此場合ハ至急総会ヲ招集シ右報告ヲ各当事国ニ送付ス）

(6) 遅クモ五月二日迄ニ総会ヲ招集ス

西班牙案

総会ハ左ノ宣言ヲナス

(1) 政治上行政上ノ状態ニ拘ハラス紛争ハ平和的手段ヲ以テ解決スヘシ

(2) 满州問題及上海問題共撤兵前ニ交渉ヲ要求スルハ規約十一条ニ違反ス

(3) 連盟国ハ規約十条ニ違反セル解決ヲ承認セス
「チエッコスロバキア」案

(4) 総会議長ノ下ニ十八名乃至二十名ノ委員会ヲ設ケ

(5) 総会ハ左ノ宣言ヲナス

(6) 政治上行政上ノ状態ニ拘ハラス紛争ハ平和的手段ヲ以テ解決スヘシ

(7) 满州問題及上海問題共撤兵前ニ交渉ヲ要求スルハ規約十一条ニ違反ス

(8) 連盟国ハ規約十条ニ違反セル解決ヲ承認セス
「チエッコスロバキア」案

(9) 総会議長ノ下ニ十八名乃至二十名ノ委員会ヲ設ケ

(10) 規約ニ反スル軍事行動ハ当事国力戦争ト称スルト否トニ拘ラス否認スルコト

(11) 特殊状態ヲ理由トシテ規約ノ規定スル平和手段ニ反シ得サルコトヲ認め

(12) 侵入軍ヲ撤退シ以テ支那ノ領土保全ヲ計ルコトヲ主張シ本紛争ノ解決ハ総会ノ定ムル案ニ依ルヘキコトヲ認メ

(13) 両当事国ニ対シ原状恢復後紛争ヲ司法又ハ仲裁裁判又ハ理事会ノ審査ニ付託スルコトヲ勧告ス
英、米、支へ転電シ、仏、伊、独へ暗送セリ

226

昭和7年3月(10日)

在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案起草委員会の協議経過などについて

第二四七号(暗、至急)

事務局ヨリ得タル情報ニ依レハ九日午後起草委員会(幹部会ヲ構成スル各代表及「サルバドル」、西班牙、諾威、希臘、「コロムビヤ」「チエッコスロバキア」、芬蘭各代表ヨリ成ル)ニ於テハ英國、瑞典、西班牙、希臘各代表ヨリ成ル小委員会ニ於テ原則的声明決議案ヲ議シ大体往電第二四五号英國案ノ「ライン」ニテ一案ヲ得(英國案ニ比シ多少

(1) 右委員会ノ使命左ノ通り

(2) 二月二十七日決議ノ実施ノ監督

(3) 第十五条第三項ニ依ル調停案ノ作成

(4) 次回ノ一般委員会ノ期日ヲ四月十四日トス(但シ当事国ノ同意アルトキハ招集期日ヲ延期シ或ハ一方当事国ノ要求アルトキハ当然右期日ヲ繰上ク)

(5) 必要ナル場合総会ノ名ノ下ニ一切ノ緊急措置ヲ執ルコト

(6) 「サルバドル」案

総会ハ宣戰無クシテ武力ニ訴ヘタル一切ノ国ヲ侵略者ト看做スコトヲ宣言ス

瑞典案

総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(1) 現存条約ノ尊重並ニ規約第十条、第十二条、不戦条約ノ規定ニ付注意ヲ喚起シ

(2) 十二国理事勧告ヲ承認シ

(3) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(4) 国際司法制度ノ実行ヲ不可(能)ナラシムルカ如キ自衛権ノ解釈ヲ認メサルコト

(5) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(6) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(7) 国際司法制度ノ実行ヲ不可(能)ナラシムルカ如キ自衛権ノ解釈ヲ認メサルコト

(8) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(9) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(10) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(11) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(12) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(13) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(14) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(15) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(16) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(17) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(18) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(19) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(20) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(21) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(22) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(23) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(24) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(25) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(26) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(27) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(28) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(29) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(30) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(31) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(32) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(33) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(34) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(35) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(36) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(37) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(38) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(39) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(40) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(41) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(42) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(43) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(45) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(46) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(47) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(48) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(49) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(50) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(51) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(52) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(53) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(54) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(55) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(56) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(57) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(58) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

(59) 総会ハ日本ノ軍事行動ニ基ク事態ニ際シ

(60) 武力ノ行使及軍事占領ニ基ク事態ノ利用ハ以上ノ規定ニ反スルコト

ノ余裕（脱?）得ル様精々努力スル所存ナルモ或ハ予定通り十一日一般委員会直後総会ヲ閉会表決ヲ急クヤモ測ラレス右事情御含ミヲ請フ

228 昭和7年3月(10)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海の事態および中南米諸国の動向に関する
サービス米代表の松平への談話について

第二四九号(暗)

(1) 三代表ヨリ

九日松平「ノウマン・デビス」ニ会見實電(二一五文書)
(二一〇二号)ノ次第及上海ニ於ケル狀況等ヲ説明シ尚総会ニ於ケル中米諸國等ノ意外ナル態度ニ言及シタル處「テ」ハ米国側ニ於テハ既ニ「ジョンソン」ニ訓令ヲ發シタル由ナルカ当地ニ於テ「サイモン」等トモ話シ又顏惠慶ニ対シテ督促方ヲ促シ居レルカ遲々トシテ進マサルコトハ上海方面ノ調停者ニ要求スルコト多過キルニ在ラスヤト「スチムソン」ハ考ヘ居レリ即チ此ノ際上海ノ政治的解決ヲ一氣ニナサンツルコトハ誤レリト述ヘタルニ付我方ニ於テハ政治的解決ハ何等要求シ居ラサルカ右ハ如何ナル意味ナルヤト訊ネタル処

〔2〕「テ」ハ右ハ上海地方ノ安全地帯ノ問題トハ異リ少クトモ英米ノ上海居留民ノ間ニハ租界ノ「ステータス」変更ノ問題ヲ考ヘ居ル向モアル由ナルカ斯ノ如キ事ハ先ツ撤兵後ニアスヘキモノナリ上海ヨリノ情報ニ依レハ日本兵ハ劉河ノ北方一糸ノ地ニ進出シタル旨並ニ日本軍ハ更ニ準備ノ上今一撃ヲ支那軍ニ加ヘントシ居ル旨内密ノ報告ニ接シ居レリト述ヘタルニ付松平ハ前線整理上多少ノ出入ハアリタルヤモ知レサルモ既ニ我方ニ於テハ停戦ノ嚴命ヲ下シアルニ付更ニ大打撃ヲ準備シアルカ如キハ全然無根ト信スル旨強ク打消シ尚日本側ニ於テハ誠意此ノ際速ニ停戦ニ闊スル協定ノ成立ヲ急キ居ル旨及各国側ニ於テモ支那ノ拒否運動ヲ抑ヘテ速ニ協定成立ニ達スルコト目下ノ急務ナル旨説キ置キタリ尚「テ」ハ中米諸國ノ態度ハ全ク米国ニ向ケ居ルモノナリ米国モ十年前迄ハ居留民保護ノ為之等諸国ニ出兵シタルコトアルモ内部ヨリノ反対モアル現今ハ當該国ヨリ依赖アルニアラサル限り之ヲ為ササルコトトシ居レリト述ヘ申ス迄モナキコトナカラ中米諸國ノ態度ハ何等米国ト相談シタルモノニアラスト述ヘ居リタリ

英、米、仏、独、伊、支ヘ転電セリ

229

昭和7年3月(10)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

サイモン英外相より決議案受諾方要請について

て

第二五一号(暗、大至急、極秘)

(1) 三代表ヨリ

(2) 三文書

往電第二五〇号ニ関シ

〔1〕「サ」ハ松平ニ対シ昨日ノ起草委員会ニ於テ各國ノ提案ヲ審議シタル處隨分過激ナル議論アリタルモ自分ハ日本カ受諾シ得ル如キ案ヲ作成セントシ可成リノ困難ニ遭遇シ遂ニ大体日支両國ノ受諾シ得ラルヘシト思ハル点ニ到達シタリ右ニ依レハ大体原則ノ声明ヲ為ス方針ニテ先ツ連盟規約及一般条約ノ尊重、規約第十条ノ主義ノ尊重兵力圧迫ニ依ル紛争解決ハ規約ノ精神ニアラサルコト、武力ニ依リ得タル既成事實ノ否認等ノ原則ヲ掲クルコトナリタルカ自分ノ最モ努力シタルハ此ノ際先ツ第一ニ撤兵ヲ行フニアラサレハ交渉ニ入ルヘカラストノ趣旨ヲ決議案中ニ挿入スヘシトノ論ヲ押ヘタルコトニシテ自分ハ斯カル趣旨ヲ掲クヘシトノ強キ主張ニ反対シ日本ハ自國民ノ生命、財産保護ノ為

右ノ如キ原則ヲ掲クルコトハ日本ニ於テモ從來生命財産ノ保護ノミヲ目的トセラルルコトヲ言明セラレ居ル次第ナルニ付差支無カルヘシト思考ス又貴大使ノ先日申サレタル如ク撤兵ニ期限ヲ付スルカ如キ案ハ到底実行不可能ノ問題トシテ反対シ決議案中ニ挿入セサルコトトナレル次第ニテ此ノ点ニ付テハ日本側ニ於テモ我々ノ苦衷ヲ諒解セラルルコトト存ス御承知ノ如キ総会ノ空氣ニテハ動モスレハ英國カ孤立ノ地位ニ陥ルカ如キ状態ヲ呈シ居ルニ付此處迄持來ニハ多大ノ困難ヲ感シタリ尚他方総会ヨリ成ルヘク早ク本件ヲ分離スル為各理事ノ外四、五人ヲ加ヘ一委員会ヲ組織シ之ニ本件ヲ委スコトト為シ度ク或ハ右委員会ヨリ一、二ヶ月後報告ヲ提出セシムルコトトシ其ノ時迄ニ交渉纏マラサレハ更ニ調停ニ努力スルコトトナルヤモ知レス何レニスルモ自分トシテハ本件ニ付テハ調停ノ範囲ヲ逸脱セサル様力説セリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(3) ト述ヘタルニ付松平ハ現下ノ空氣ニ於テ外相カ率先シテ過激分子ニ反対シ稳健ナル案ヲ作成スルニ努力セラレタルハ

深ク感謝シ居ル次第ヲ述ヘ大体英國案及各國案ヲ内密入手シ居レルカ喚ニ依レハ英國案ハ多少強キ文句ニ変更セラレ

タル趣聞及ヒ居レリ何レニセヨ本件ハ請訓ヲ要スルニ付一刻モ早ク電報シタキニ付如何ナル程度ニ変更セラレタリヤ

承知シタシト述ヘタル処大体英國案採用セラレ唯往電第(三二〇文書)

二五〇号ノ一句ヲ追加シ又冒頭規約尊重ノ箇所ニ一般條約

尊重ノ原則ヲ採り入レタルカ之ハ寧ロ支那ニ対スル警告ノ

趣旨モ含マレ居リ日本ニ都合好キ次第ト思考ス(「ボリチス」案ヲ入レタルモノノ如シ)右ノ如キ事情ナルヲ以テ是

非本決議案受諾方ニ付御努力アリタク然ラサレハ目下ノ事

態ニ於テ如何ナル結果ヲ生スルヤ計リ知ルヘカラスト述ヘ

タルニ付松平ハ右ノ御趣旨ハ政府ニ取次クヘキモ日本側ニ

於テハ万一其趣旨ニ於テ異存ナキ場合ニ於テモ第十五条留

保ノ関係上「アブステイン」スルヤモ計ラレス此点予メ含

ミ置カレタキ旨述ヘ置キタリ

支、英、米、仏、伊、独ヘ転電セリ

230 昭和7年3月10日 芳沢外務大臣より
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

上海における撤兵の順序等について

第一〇三号 暗、大至急
(二一〇文書)

貴電(二二七号及第二四二号ニ関シ)

三代表へ

一、停戦協定ハ関係国出先官憲援助ノ下ニ日支代表者ノ直接交渉ニ依リ行フモノニシテ総会決議ノ三モ此ノ趣旨ヲ明確ニシ居レリ尤モ関係国側援助ノ結果本件交渉ハ自然

実質上列国會議ノ如キ形トナルヤモ知レサル處右実質上ノ列国會議ノ成立ハ固ヨリ我方ニ於テ歓迎スル次第ナルモ在支公使宛往電第一五一号ノ四ノ(2)我軍撤収ノ順序ハ

統帥権ト関係アリ從テ右列国會議ニ於テ右撤退順序ニ付話合ヲナス際ニハ統帥権トノ関係ハ我出先ニ於テ充分慎重ニ考慮スルコトトナリ居レリ

二、円卓会議ニ闘スル當方ノ意向ハ在支公使宛往電第一六五号ニ依リ御承知相成度

三、貴電(二四二号末尾ニ關シ「日本軍ハ其ノ現在地點ヨリ安シテ撤収シ得ル「アレンジメント」即チ現場ニ於ケ

撤収スル為ニ必要ナル「アレンジメント」成立セハ撤収スルモ可ナリトノ事ナリシカ如何ニト尋ネタルニ佐藤代表ハ未タサル電訓ニ接セス答ヘラレタル趣ナルニ付テハ右電訓

発出方ヲ交渉スヘシトアリ同電報後半ハ日本軍ノ撤収セシ後ノ地域ノ警備ニ付テハ支那警察隊ヲ中立國土官及下士官ヲシテ指揮セシメ警備ノ任ニ当ラシムルノ案ヲ佐藤代表ヨリ本大臣ニ上申セムカト思ヒ居レリト述ヘタルニ対シ「マッシグリー」ヨリ右案ハ連盟ノ空氣ヲ改善スル上ヨリモ極メテ望マシト述ヘタル趣記載シアリト述ヘタルニ付右ニ対シ本大臣ヨリ前半ニ就イテハ一昨夜電訓ヲ出シタルモ佐藤代表ト「マッシグリー」氏トノ會見迄ニハ間ニ合ハサリシヤモ知レス尚本日更ニ此ノ点ニ闘スル詳細ナル訓電ヲ發セリト往電(二三〇文書)

ハ極メテ結構ニシテ「マッシグリー」モ満足スヘシト述ヘタリ次ニ本大臣ヨリ前記仏国政府電報ノ後半ニ付テハ我代表ヨリ接到セル電報ニハ「コンミッシュン」案ヲ慾通シ來リ居レリ然レトモ此ノ問題ハ只今研究中ニテ未タ決定ニ至ラスト答ヘ置ケリ

第一〇五号(暗)

231 昭和7年3月10日 芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

日本軍撤収問題に関する仏国大使との会談について

ル 戰鬪中止ノ確保(総会決議一)支那軍前進停止ノ保障及其ノ監視等支那側ノ攻撃的行動防止方法並ニ日本軍撤収地帯警備等ニ闘スル「アレンジメント」(総会決議二)

出来レハ先ツ概不上海吳淞付近ノ地区ニ撤収シ事態ノ平靜ニ伴ヒ逐次本国帰還ヲ開始スルノ用意アル」旨声明セラレ差支ナシ

就テハ叙上ノ御含ヲ以テ右在支公使宛往電ヲモ参考ノ上事態善導方此ノ上共精々御努力相成度

米、支、北平、奉天、廣東、南京ニ転電セリ
英、仏、獨、伊ニ転電セリ

十日在本邦仏国大使來訪本国ヨリ受ケタル電報ノ前半ニ依レハ九日朝「マッシグリー」佐藤代表ニ面会ノ際「マルテル」大使ヨリ八日本大臣ニ面会シタル処日本軍カ前線ヨリ

英、仏、伊、独ニ転電アリ度

232

昭和7年3月(11日) ※在シヨネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

起草委員会の英國決議案採用について

第一一五〇号(至急)

三代表ヨリ

(一一六文書)

往電第二一四七号前段ニ関シ

十日朝「サイモン」ノ求ニ依リ松平会見セルカ(会見談後
報)其内話ニ依レハ昨日ノ起草委員会ニ於テハ大体往電第
(一一四文書)
一四五号英國案ヲ採用セラレ之ニ次ノ字句ヲ挿入サレタル
趣ナリ不取敢

Affirming that it is contrary to the spirit of the
Covenant that the settlement of the Sino-Japanese
dispute as a whole should be sought under the
influence of military pressure.

英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

233 昭和7年3月(11日) ※在シヨネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案承認方要請について

ヨン」ニテハ意味ヲ為ササルヘキニ付上述ノ説明ヲ付スル
コト然ルヘシト存ス)

(2) 「サイモン」外相ハ明十一日出発帰國スル予定ナル趣ニモ

アリ連盟當局ニ於テハ明日ノ一般委員会ニ於テ同決議案ヲ
成立セシムル様努メ居ル趣ニモアリ旁右慎重御詮議ノ上何

分ノ儀大至急御回訓ヲ請フ尤モ其ノ後ノ情報ニ依ルニ同決
議ニ依リ設置セラルヘキ委員会ノ権限ニ付テハ今尚小国側

等ニ相当ノ過激論行ハレ居リ本朝ノ起草委員会ニ於テハ遂

ニ之カ決定ヲ見サリソニ付今後如何ナル發展ヲ見ルヘキ

ヤ不明ナルカ不取敢「サイモン」案ニ対スル政府ノ御意向
至急承知シ置度右稟請ス

冒頭往電通転電セリ

第一一五三号(大至急)

三代表ヨリ

十日午後一時半起草委員会ニ於テ決定セラレタル決議案別

電第二一五四号ノ通多分明十一日午前十時半一般委員会ニ付
議セラルヘキ趣ナリ不取敢

別電ト共ニ英、米、支、仏、伊、独へ転電セリ

(別電)

No.254(Very urgent)

1. L'Assemblée,

Considérant que les dispositions du Pacte sont
entièrement applicables au présent différend et qu'il
en est spécialement ainsi:

1. Du principe du respect scrupuleux des traités.

2. De l'engagement assumé par les Membres de la

Société des Nations de respecter et de maintenir
contre toute agression extérieure l'intégrité territoriale
et l'indépendance politique présente de tous les
Membres de la Société.

起草委員会決議案の一般委員会への付議について

ル

別電

同日着在シヨネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外

務大臣宛第一五四号

起草委員会決定の決議案

第一一五一号(大至急極秘)

三代表ヨリ

(一一九文書)

往電第一一五〇号及一二五一号ニ関シ「サイモン」内報ノ決議

案ハ同外相力種々苦心ノ結果小国側ノ極端論ヲ抑へ漸ク出

来上レルモノニシテ当地現下ノ情勢ニ鑑ミ到底是以上ノモ

ノヲ期待シ得サルヤニ存セラル然ルニ我方ニ於テ之ニ反対

スルトキハ當方面ノ形勢ヲ一層悪化セシメ折角從来我方ニ

好意ヲ表シ來レル大国側ヲ離反セシムルコトトモナル懸念

モアル一方同決議案ハ條約尊重ノ大綱ヲ掲クルコトトナリ

其他ノ点ニ付テモ我方從来ノ主張ニ顧ミ正面ヨリ強テ反対

ノ出来サルモノナルヤニ思考セラル就テハ同決議案愈上程

ノ際ハ我方トンテハ過日來一般委員会ニ於テ小国側ノ披露

セル主張ニ対スル弁護トシテ我方立場ヲ闡明シ十五条ニ依

ル留保ヲ述ヘタル上同決議案ヲ受諾スル方然ルヘキヤニ存

セラル万一政府ニ於テ如何ニシテモ右受諾方困難トセラル

ル事情アルニ於テハ同案内容ニ關シテハ我方ニ於テ異議ア

ル次第ハアラサルモ十五条留保ノ關係モアリ「アブステ

ン」スル旨声明シ同決議案ヲ成立セシムルコト致シ度シ

(我方ハ当事者ノ一方タル關係上單純ナル「アブステンシ

s'élevant entre eux aux procédures de règlement pacifique.

Faisant siens les principes formulés par le Président en exercice du Conseil M. Briand dans sa déclaration du 10 décembre 1931;

Rappelant que douze Membres du Conseil invoquent ces principes à nouveau dans leur appel au Gouvernement japonais le 16 février 1932 en déclarant "qu'aucun empêtement sur l'intégrité territoriale et aucune atteinte à l'indépendance politique d'un Membre de la Société des Nations commis au mépris de l'Article 10 ne sauraient être reconnus comme valides et effectifs par les Membres de la Société";

Considérant que les principes régissant les relations internationales et le règlement pacifique des différends entre Membres de la Société rappelés ci-dessus sont en pleine harmonie avec le Pacte de Paris qui forme l'un des piliers de l'organisation de la paix du monde et dont l'Article 2 stipule que "les Hautes

Parties Contractantes reconnaissent que le règlement ou la solution de tous les différends ou conflits de quelque nature ou de quelque origine qu'ils puissent être qui pourront surgir entre elles ne devra jamais être recherché que par des moyens pacifiques"; En attendant les décisions qu'elle pourra finalement prendre pour le règlement du différend dont elle est saisie,

Proclame le caractère obligatoire des principes et des dispositions susmentionnées et déclare que les Membres de la Société des Nations sont tenus de ne reconnaître aucune situation, aucun traité et aucun accord qu'il pourraient être obtenus par des moyens contraires au Pacte de la Société des Nations.

2. L'Assemblée,

Affirmant qu'il est contraire à l'esprit du Pacte que le règlement du différend sino-japonais puisse être recherché sous l'empire d'une pression militaire de la part de l'une des parties;

Rappelle les résolutions adoptées par le Conseil les 30 septembre et 10 décembre 1931 avec le concours des parties,

Rappelle également sa propre résolution du 4 mars 1932 adoptée avec le concours des parties en vue de la cessation définitive des hostilités et du retrait des forces japonaises et prend acte que les Puissances Membres de la Société des Nations ayant des intérêts spéciaux dans les concessions de Shanghai sont prêtes à offrir tout leur concours à ces fins et prie ces Puissances de fournir le cas échéant leur collaboration pour le maintien de l'ordre dans la zone évacuée.

3. L'Assemblée,

Vu la demande formulée le 29 janvier par le Gouvernement chinois tendant à appliquer au différend la procédure prévue par l'Article 15 du Pacte de la Société des Nations,

Vu la demande formulée le 12 février par le Gouvernement chinois tendant à saisir l'Assemblée

du différend en conformité de l'Article 15 alinéa 9 du Pacte et la décision du Conseil du 19 février,

Considérant qu'elle se trouve saisie de l'ensemble du différend faisant l'objet de la requête du Gouvernement chinois et qu'elle a l'obligation d'appliquer la procédure de conciliation prévue par l'alinéa 3 de l'Article 15 du Pacte et le cas échéant la procédure de recommandation prévue par l'alinéa 4 du même Article;

Décide la constitution d'un Comité de 19 Membres, à savoir le Président de l'Assemblée qui assumera la présidence du Comité, les Membres du Conseil autres que les parties au différend, les représentants de six autres Membres à élire au scrutin secret.

Ce Comité exerçant ses fonctions au nom et sous le contrôle de l'Assemblée sera chargé:

(1) De faire plus tôt possible le rapport sur la cessation des hostilités et la conclusion d'arrangements destinés à rendre définitive ladite cessation ainsi qu'à

régler le retrait des forces japonaises conformément à la résolution de l'Assemblée du 4 mars 1932.

(2) De suivre l'exécution des résolutions adoptées par le Conseil les 30 septembre et 10 décembre 1931.

(3) De préparer les projets d'accord à soumettre à l'Assemblée en vue de faciliter conformément à l'Article 15 alinéa 3 du Pacte le règlement du différend.

(4) De proposer au besoin à l'Assemblée de saisir la Cour Permanente de Justice Internationale d'une demande d'avis consultatif.

(5) De préparer éventuellement le projet du rapport prévu par l'Article 15 alinéa 4 du Pacte.

(6) De proposer toute mesure urgente qui paraît nécessaire.

(7) De présenter un premier rapport à l'Assemblée le plus tôt possible et au plus tard le premier mai 1932.

L'Assemblée prie le Conseil de communiquer au Comité avec ses observations éventuelles la documen-

tation qu'il jugera devoir transmettre à l'Assemblée.

L'Assemblée reste en session, son Président pouvant la réunir dès qu'il le jugera nécessaire.

235 昭和7年3月(11日) ※在ジ^アネーグ沢田連盟事務局長より
(1)(四文書)
芳沢外務大臣宛(電報)

起草委員会による決議案作成経過立証

第115号(臨、解説)
往電第1154号(関)

三代表(ニ)

本件決議案ハ往電第1151号「サイヤン」カ松平ニ内話シタル案ト日支事件今後ノ手続トヲ研究シタル小委員会カ今朝審議シタル結果作成シタル案トニ基キ正午過キ起草委員会ハ更ニ審議ノ上決定セラントタルモノナリ不敢

236 昭和7年3月(11日) 在ジ^アネーグ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案に就きの回覈報告立証

第1157号(臨、大至急)
(1)(四文書)
往電第1154号(関)

本件決議案ハ明十一日午前十時半より開カルくキ一般委員

会ニ於テ表決ヲ見ルヤモ詎ウレス其ノ際ハ請訓ノ暇無カリシ事ヲ述ヘテ表決ノ延期ヲ求ムキモ或ハ之ヲ聞カレサル場合モ可有之ニ付右ニ間ニ合フ様御回訓アリ度シ尚総会ハ午後トナルヤモ知レサルニ付切メテ午後四時頃迄ニ御回訓ヲ請フ尚田下ハ空氣ニ顧ミ本件決議案ハ我方ヨリ修正案ヲ提出スルモ殆ト通過ノ見込無カルベキ処我方カ反対スル場合ニハ第十五条第四項ニ依ル決議ニ移ル惧無キニ非サルニ付右ノ点特ニ御考慮ヲ請フ

237 昭和7年3月(11日) ※在ジ^アネーグ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

総会における決議案採択延期方イーマハス議

取立母丑立ヒ

第一158号(臨、大至急)
(1)(三文書)
往電第1157号(関)

三代表(ニ)

総会議長「イーマハス」ニ対シテハ佐藤ヨリ明十一日前

一般委員会招集ニ關シ明日同委員会ヲ招集シ起草委員会ノ

決議案ヲ提出スルニ反対スル証ニ非サルモ日本側レシテ如何ニヤ重要ナル決議案ナレハ政府ニ請訓ノ要アリ且下其手

統中ニ付同決議案ニ対シ何等賛否ヲ表スルヲ得サル立場ニ在リ就テハ右決議案ヲ採決スヘキ総会ノ開催ハ十一日午後トヤス相当ノ余裕ヲ取り来週初メ十四、五日頃トセラレタキ頭要求セル處同議長ハ総会開始後既ニ十日トナリ連日重要ノ討議統行セラレ世界ノ輿論モ其結果ヲ鶴首シ居ル際ニ付出来得レハ明日中ニ総会ヲ開催シ得ル様日本側ニテ取計ハルニハ真ニ好都合ナリト言ヒ尚御話ノ如キ事情ナルニ於テハ誠ニ已ムヲ得スト述ヘタルモ當方ノ要求ヲ明確ニ承諾スルニ至ラス何レ事務総長ト相談スヘシト言ベリ他方事務総長ニ対シテハ杉村ヲ通シ同様ノ趣旨申入レ且其機会ニ於テ明十一日午前ノ一般委員会ニハ日本政府ノ訓令到底間ニ合ハス其代リ日本代表部ヨリ政府ニ対シ何日頃迄ニ訓令接受シ得ヘキヤニ關シ問合ノ電報ヲ出ス様取計フヘキ旨杉村ヨリ申述ヘ置キタル趣ナリ

就テハ右事情御考察ノ上右往電ニ対シ何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ

238 昭和7年3月(11日) ※在ジ^アネーグ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案に關する回覈到着の由取聞令セリハス

て

第二五九号（暗）

(二三六文書)

往電第二五七号ニ関シ

三代表ヨリ

明十一日午前ノ一般委員会ニ於テ御回訓到着ノ予想時刻ニ付説明ノ要アルヘキニ付右大体ノ御見込折返シ電報請フ

239 昭和7年3月(11)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案に関するイーマンス総会議長などの意

向について

第二六〇号(暗、至急)

(二三四文書)

往電第二五四号ニ関シ

三代表ヨリ

左記三氏ノ佐藤ニ対シ為シタル内話御参考迄

一、総会議長「イーマンス」

今回起草委員会ノ構成ハ幹部会ノ外提案者全部ヲ網羅スル事トシタル為十五名ノ多数ニ上リタル處小人数ニテ起草スルハ却テ後ニ至リ総会ニテ紛糾ノ虞アリタルカ故ニ寧ロ多人数ノ意見ヲ綜合スルヲ得策ト認メタル次第ノ処中ニハ可

二、総会議長「イーマンス」

本件解決案ニ対スル支那側ノ意向未タ承知セス又極端論者ノ不満ヲ買フヤモ知レサレトモ「サイモン」「ボンクール」「ポリチス」「ピロチー」ノ如キ著名ナル政治家法律家ノ努力ノ結果ニ付日本政府ニ於テ之ヲ受諾セラレン事切望ニ堪ヘス又右受諾ニ依リ日本ノ立場好転ス可シ云々

二、「ポール・ボンクール」

日本ノ友人トシテ出来得ル丈ケ尽力セル積リナルモ何分総会ノ空氣甚夕険惡ニシテ起草委員会ニテモ此傾向著シキモノアリ自分等ニ於テ隨分苦心セル次第ナルカ余ハ上海ニ於

成リノ極端論モアリ隨分苦心シタルモ幸ニ自分等ノ観ル處ニテハ相当ノ處ニ落着キ得タリト思考ス過日來ノ一般委員会ニ於ケル三十數国代表ノ殆ドテカ規約尊重ノ主義問題ニ非難ヲ加ヘタルモノナカリシ点ハ日本政府ニ於テモ考量セラレ度ク小国ハ總テ大国ノ圧迫ニ不安ヲ感シ殊ニ南米諸國ノ如キハ必シモ日本ヲ目(標)トセルニ非ス北米ノ脅威ニ対シ出来得ル丈ケ平和的手段ヲ以テ国際紛争ヲ解決セントスル底意ヲ有シ居ル事明ナリ

本件解決案ニ対スル支那側ノ意向未タ承知セス又極端論者ノ不満ヲ買フヤモ知レサレトモ「サイモン」「ボンクール」「ポリチス」「ピロチー」ノ如キ著名ナル政治家法律家ノ努力ノ結果ニ付日本政府ニ於テ之ヲ受諾セラレン事切望ニ堪ヘス又右受諾ニ依リ日本ノ立場好転ス可シ云々

三、「ポーラー・ボンクール」

ケル日本撤退区域ニ対スル治安維持ニ關シ日本ノ主張ヲ採入レ中立地帶ノ設定^(軍力)案ニ依ル治安維持等ノ実現可能性ヲ認ムル様切言シ「サイモン」「ボリチス」ノ援助ヲ得決議案二ノ末項ヲ挿入スルヲ得タル次第ニテ既存条約尊重ニ關シテモ日本政府ノ主張ヲ採入レタル積リナリ決議案三ノ三ハ差当リ上海問題ノ結果ヲ意味シ右ニ依リ五月一日前ニ一応委員会ヨリ報告書ヲ提出スヘク満州問題ニ關シテハ例へハ既ニ派遣セラレタル調査委員ノ行動ニ關シ該報告書中ニ記載スルヲ以テ足レリトスヘキモ調査委員ノ報告提出後該委員会若ハ進テ總会ニ於テ如何ニ満州問題カ取扱ハルヘキヤハ逆モ予見出来難シ但シ藉スニ時日ヲ以テスルコト此際有用ナルヘク又起草委員会ニ於テ自分ハ満州ニ關シ(テ)ハ調査委員ノ報告提出ヲ俟ツヘシト主張シ大体之ニ反対無カリシ模様ナリ云々

三、「ボリチス」

起草委員会ニテ自分ハ既存条約尊重ノ一項挿入ヲ提言シ「サイモン」「ボンクール」ノ熱心ナル援助ヲ得之ニ成功セリ右ハ予テ日本側ノ主張ヲ熟知シ居タルヨリ提議シタルモノニシテ支那側ニ対シ條約ノ一方的破棄ヲ非難シタル意

盟ヨリ切離スカ如キハ到底不可能事ナリトシテ今後六ヶ月モ経過スレハ又事態モ変化スヘク結局夫レ程心配スルコト無カルヘシ又十五条第四項ニ移ル手続モ決議案中ニ記載シアルモ決議案ハ同条三項ノ調停ヲ趣旨トス第四項ノ手続ヲ強調スルモノニ非ス云々

英、米、仏、独、伊、支ニ転電セリ

240 昭和7年3月(11日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案の受諾方要請について

第二六一號(暗、大至急)

三代表ヨリ

(二三四文書)

往電第二五四号総会決議案ニ付當方心付ノ点左ノ通
一、小國側ニテハ右決議案カ自己ノ主張ト多大ノ間隔アル
事ニ相当ノ不満アリ他方支那側ニテモ囊ニ提議セル四要点
(一五六文書)カ大体無視セラレタリトテ不平ナル旨ノ
(往電第一〇八号)聞込アルニ付我方ヨリ修正案ヲ提出スル場合ニハ支那側並
小國側ヨリ更ニ修正ヲ申出ツヘク其場合我方ニ有利ナル形
勢ヲ提出スヘキヤハ逆睹シ難シ

二、右決議案ニ付我方ニテ「アブステーン」スル場合ニハ
其成立ヲ見ルヘキハ勿論ナルモ我方カ反対スル場合決議案
ハ終ニ成立セス其結果ニ付テ見ルニ総会ノ形勢屢次往電ノ
通リ極度ニ險惡ナルニ顧ミ局面急轉シ第十五条第四項ニ依
ル勸告ニ転化スル等我方ニ更ニ不利ナル形勢ヲ現出スヘキ
危険渺ントセス

三、決議案ハ上海事件ノミナラス滿州事件ヲモ包含スル点
ニ於テ我方ノ既定方針ニ背馳スルモ第一第二ノ事項ハ概ね
從来我方ニテ之ヲ遵守シ且将来モ之ニ反スルコト無カルヘ
キコトヲ声明セルカ又ハ理事会等ニ於テ之ヲ受諾セルモノ
ナリ又右第三ノ委員会ノ権限中ニハ或ル我方ニ取り不利ナル如キ事項ヲ包含スルノ嫌アルモ右ハ大体ニ於テ規約第十
五条第三項ニ依ル手続及第四項ニ移ル可キ順序ヲ記載スル
モノニシテ正面ヨリ之ニ反対スルコト甚タ困難ナルノミナ
ラス累次往電ノ通大國側ノ斡旋ニ依リ漸ク此程度ニ取纏メ
タル実状並他方前記(一)ノ次第ニ顧ミ此際ハ右決議案ニ反
対セサルコト得策ナルヘシト思考ス

英、米、仏、独、伊、支ヘ転電セリ

241 昭和7年3月(11日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案の問題点等に關するサイモン英外相との会談について

第二六二號(大至急)

(二二九文書)往電第二五一號ニ對シ

三代表ヨリ

三、決議案ハ上海事件ノミナラス滿州事件ヲモ包含スル点
ニ於テ我方ノ既定方針ニ背馳スルモ第一第二ノ事項ハ概ね
從来我方ニテ之ヲ遵守シ且将来モ之ニ反スルコト無カルヘ
キコトヲ声明セルカ又ハ理事会等ニ於テ之ヲ受諾セルモノ

ナリ又右第三ノ委員会ノ権限中ニハ或ル我方ニ取り不利ナル如キ事項ヲ包含スルノ嫌アルモ右ハ大体ニ於テ規約第十
五条第三項ニ依ル手續及第四項ニ移ル可キ順序ヲ記載スル
モノニシテ正面ヨリ之ニ反対スルコト甚タ困難ナルノミナ
ラス累次往電ノ通大國側ノ斡旋ニ依リ漸ク此程度ニ取纏メ
タル実状並他方前記(一)ノ次第ニ顧ミ此際ハ右決議案ニ反
対セサルコト得策ナルヘシト思考ス

三、決議案ハ上海事件ノミナラス滿州事件ヲモ包含スル点
ニ於テ我方ノ既定方針ニ背馳スルモ第一第二ノ事項ハ概ね
從来我方ニテ之ヲ遵守シ且将来モ之ニ反スルコト無カルヘ
キコトヲ声明セルカ又ハ理事会等ニ於テ之ヲ受諾セルモノ
ナリ又右第三ノ委員会ノ権限中ニハ或ル我方ニ取り不利ナル如キ事項ヲ包含スルノ嫌アルモ右ハ大体ニ於テ規約第十
五条第三項ニ依ル手續及第四項ニ移ル可キ順序ヲ記載スル
モノニシテ正面ヨリ之ニ反対スルコト甚タ困難ナルノミナ
ラス累次往電ノ通大國側ノ斡旋ニ依リ漸ク此程度ニ取纏メ
タル実状並他方前記(一)ノ次第ニ顧ミ此際ハ右決議案ニ反
対セサルコト得策ナルヘシト思考ス

松平十日午後重ネテ「サイモン」ヲ往訪シ決議案第三項ノ
点ニ付幾分不安ノ点アリトテ右ノ内(三)四ヲ指摘説明シタル
處「サイモン」ハ自分ハ専ラ宣言案ノ解決ニ付キ努力シ本
委員会ニ出席セサリシ為其ノ経緯ハ充分ニ承知セサルカ成
ル程文句ニ付テ面白カラサル点アルヤモ知レサルモ實際ニ
於テハ日本側ニ不利益ナラスト思考ス又第十五条第三項ノ
調停不成立ノ場合ニハ第四項ニ移ルコトハ何レニセヨ免カ
レサルヘキモ第十六条ノ適用等ニ対シテハ自分ハ反対ノ意
向ヲ表シ置ケリト述ヘタリ次テ本使ヨリ斯ノ如キ重大問題
底明朝迄ニ政府ノ回答ヲ得ルノ困難ナル点ヲ述ヘタル処
「サイモン」ハ出来得ヘクンハ總会ヲ速ニ終了セシメ度キ
モ日本側ニ於テ強ヒテ反対セラルニ於テハ致シ方ナカル
ヘク右ニ関シテハ「イーマンス」及「ドラモンド」ト交渉
セラルコト然ルヘキ旨申述ヘタリ
尚本使ハ万一總会延期ノ如キコトモナラハ成ルヘク同外
務大臣ノ出発延期ヲ希望スル旨申入レ置キタリ
在欧米各大使、支ヘ転電セリ

242 昭和7年3月(11日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟總会決議第三項における撤兵の解釈について

合第二七七號(暗、至急)

第一六号

貴電第四三号ニ閱シ

三代表ヨリ

(一)總会ニ於テ往電第一三号支那代表声明後直ニ表決シタル
モノニシテ我方ハ右声明ハ總会カ特ニ我方ヲ拘束スルモ
ノニ非スト認メ之ニ対シ何等意見ヲ述ヘサリシ次第ナ
リ

(二)支那側ハ今後ノ交渉ニ際シ右声明ヲ引用スルコトト察セ
ラルモ右声明ニ付總会ハ特ニ我方ヲ拘束スルモ
代表ト議長トノ応酬(当日議事録別電第一七号ノ通り我
方ハ右議長ノ声明ニ信頼シ決議案ニ賛同スル旨ヲ述ヘ之
ヲ受諾セル次第ナリ)ノミニ拘束セラルモノト看做シ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

然ルヘシト存ス尤モ総会ニ於ケル討議ノ経緯ニ鑑ミ右決議ハ日本軍撤退ニ付何等条件ヲ付シ得ルモノト解シ得サ

ルモ撤退問題ニ関連シ貴電ノ如キ提案ヲ為スコトハ撤兵ニ条件ヲ付スルモノニ非シテ撤兵ヲ「レギュレート」

スル為必要ナル事項ナリトシテ之ヲ撤兵交渉ノ一部トシテ持出シ得ルモノト了解ス

(3) withdrawal の意味ハ今般事変ニ際シ特派セラレシ軍隊ハ結局之ヲ本邦ニ帰還セシムルコトヲ意味スルモノト存セラルモ差当リ日支両軍ノ離隔ヲ意味シ全軍即時本邦帰還ヲ意味スル次第ニ非ス而シテ撤兵ノ順序方法等ニ付テハ現地ノ交渉ニ委ヌルコトトスル趣ニシテ租界付近ノ一時的駐兵ノ如キハ地方的協定成立セハ連盟ニ於テモ故障ヲ申立ツルコト無カルヘシト察セラル

大臣、米、英、仏、独、伊ヘ転電セリ

243 昭和7年3月11日 在ニュー・ヨーク堀内総領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

対日経済絶交説に反対の新聞論調等について

ニュー・ヨーク 3月11日後発 本 省 3月12日後着

皆無ノ状態ナルモ其他ハ大差ナキ模様ナリ

寿府ニ転電シ、在欧各大使ニ暗送セシム、在米各館ニ暗送セリ

244 昭和7年3月11日 在英國沢田臨時代理大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

滿洲国独立、上海停戦問題などに關する英國

下院での質疑応答について

ロンドン 3月11日後発 本 省 3月12日前着

(1) 第一四八号

十日下院ニ於ケル日支事變ニ関スル質問応答左ノ通り

一、(問) 米国政府ハ日本ノ対支政策ニ顧ミ日本ニ対スル財政的援助ヲ拒絶スル様紐育金融業者ニ勧告シタル趣ナル處英國政府ハ対日買付停止等ノ方法ニ依リ米国政府ト共同措置ニ出ツル意向ナキカ

(答) (大蔵大臣) 御話ノ如キ事実ノ報告ニ接シ居ラス、

従ツテ本件ニ付英國政府カ如何ナル態度ニ出ツヘキヤノ問題モ起ラス

二、(問) 日本代表カ連盟理事会ニ對シ日本政府ハ滿州獨

第四二号(暗)

往電第三八号()ニ関シ

上海付近停戦以来同地方ヨリノ新聞報道激減シ折柄ノ「リンドバーグ」嬰兒拉致事件ニ押サレタル形ニテ日支問題ノ記事モ下火トナリ殊ニ対日經濟絶交運動ニ関スル記事ハ殆ト姿ヲ消シ一般ノ対日感情ハ依然好転セサルモ右停戦ト共ニ追々冷静ニ復シソアルヤニ認メラルル一方經濟絶交ニ付テハ當方面ノ新聞ハ既報ノ如ク「ワールド」「テレグラム」等ノ一二ヲ除キ其系統ノ如何ヲ問ハス之ニ反対シ右絶交ノ結果日本軍閥ヨリモ無辜ノ民衆ヲ苦シマセ且ツ戦争ニ導ク危険アリ又米国自身ノ損害モ大ナルヘキコトヲ説キ中ニハ此際米人カ日本軍閥ノ行動ニ憤慨スル余リ対日反感ヲ高調スルコトハ却ツテ平和ニ害アルコトヲ警告スルモノモ出テ來リ又實業方面ノ大勢モ經濟絶交反対ニ傾キ居ルモノト観測セラル尚右運動ノ其後ニ於ケル實際的影響ヲ見ルニ当地本邦銀行会社ニ於テハ既報一、三ノ実例以外ニハ取引上ニ格別ノ變化ナク一般ニ金融從来程円滑ナラサルハ事實ナルモ右ハ寧ロ日本ノ財政經濟ニ対スル一般的不安ニ基クモノナルカ如ク又船会社等ニテハ支那行キ貨物ハ相変ラス

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

セラルヘキコトノ基礎条件ノ下ニ上海地方平和確定ニ関スル日支両国及関係国代表者ノ會議開催ヲ提案セリ、右提案ハ日支両国ノ容ルル處トナリタルモ支那側ハ「ケント」号ニテ話合ヒタル内容ヲ基礎トシテ停戦スヘシトノ条件ヲ付シ居レリ、「ケント」号ニ於ケル提案ノ日支両国ノ承認ヲ求メツツアリシ間ニ日本ハ更ニ別案ヲ提出(不日発表スヘシ)シタルカ之ニ対シ支那側ハ未タ承認ヲ与ニ居ラス、兎ニ角日支両国ハ前述ノ通り理事会ノ提案ヲ承認セルト共ニ一方ニ於テハ三月四日ノ連盟総会ノ決議ニ加ハリタル一員タリ、停戦ニ関スル上海地方的商議ノ成立セサル故ヲ以テ前述總会ノ決議ニ依ル會議力決裂セリト言フヲ得ス、又事実右會議ハ未タ開催ノ運ヒニ至ラス尚英國政府ハ問題解決ノ為此ノ上トモ全力ヲ傾倒スヘク且此ノ際本件ト無関係ノコト迄持チ出シ事態ヲ紛糾セシムルカ如キ意向全然無シ連盟、在支公使ニ転電セリ

245 昭和7年3月11日 芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

総会決議案不承認の理由について

第一一〇号(暗、大至急)
(一四五文書)
往電第一一〇七号ニ関シ
三全權く

本件決議案中我方ノ意ニ反スル点ハ例へハ左記ノ通ニ付同往電我方立場闡明ノ際右御利用アリタシ(規約第十一條ニ依ル調査委員カ既ニ極東ニ到着シ事業ヲ開始セル今日滿州問題ヲモ一併十五条適用ノ下ニ置キ不必要ニ事態ヲ荒ケ居ルコト)既ニ我方カ明確ニ反駁ヲ加ヘタル二月十六日ノ

「アッピール」ヲ再ヒ援用シ来リ殊ニ何等ノ必要ナキニ拘ラス規約第十条ノ問題ヲ提起シ又「連盟規約ニ反スル手段ニ依リ獲得セラルルコトアルヘキ情勢、条約、協約等ヲ認メス」トカ「日支紛争ノ解決ヲ武力的圧迫ノ下ニ於テ求ムルコトハ規約ノ精神ニ反ス」トカ妥当ヲ欠キ且何等ノ利益ナキ「アーミング」ノ宣明ヲナシ殊更我方ニ於テ何等異図ヲ藏スルヤノ印象ヲ与ヘ居ルコト(將又委員会ヲシテ第十五条第四項ノ報告案ヲ準備セシムルコトアルヘキヲ予想シ従テ当事国ニ対シ威嚇ヲ加ヘムトスルカ如キ傾向アルコト等

支、北平、奉天、廣東、南京、米ニ転電セリ
英、仏、伊、独ニ転電アリ度

247 昭和7年3月(12)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

決議案に対する一般委員会の修正にについて

決議案ニ左記修正ヲ加ヘタリ経過追電
I'、決議案第一ノ末項 Contraires au Pacte de la Société des Nations ノ次 II et au Pacte de Paris ノ段ノ因終ニ
第II項III en attendant ノ次 II les décisions II les mesures I改ム
I' 決議案第三ノ「III項」 de s'efforcer de préparer le règlement du différend d'accord avec les parties conformément à l'Article 15 alinéa 3 du Pacte et de présenter un exposé à l'Assemblée I改ム
III' 図「ヤ」へ un premier rapport ノ次 II sur la situation ヲ加フ
英、米、支、仏、独、伊ニ転電セリ

248 昭和7年3月(12)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

総会決議案への日本の対応ぶりに關するサイモンの談話にについて

第一一六八号(至急、極秘)

往電第一一五四号ニ関シ

三代表ヨリ

十一日前ノ一般委員会ニ於テ起草委員会ノ決定セル総会

第一一〇七号 暗、大至急
(一三四文書)
貴電第一一五四号ニ関シ
(一三四文書)
ルニ付同案採択ニ當リテハ我方ノ立場ヲ闡明シ且第十五条適用ニ対スル留保ヲ述ヘテ「アブステーン」セラレ度支、北平、奉天、廣東、南京、米ニ転電セリ
英、仏、伊、独ニ転電アリ度

246 昭和7年3月11日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

総会決議案不承認の理由にについて

第一一〇号(暗、大至急)
(一四五文書)
往電第一一〇七号ニ関シ

三全權く

本件決議案中我方ノ意ニ反スル点ハ例へハ左記ノ通ニ付同往電我方立場闡明ノ際右御利用アリタシ(規約第十一條ニ依ル調査委員カ既ニ極東ニ到着シ事業ヲ開始セル今日滿州問題ヲモ一併十五条適用ノ下ニ置キ不必要ニ事態ヲ荒ケ居ルコト)既ニ我方カ明確ニ反駁ヲ加ヘタル二月十六日ノ

ハ昨日貴大使御話ノ次第ヲ篤ト攻究シタルカ決議第三章第四項ノ(3)ニ付テハ御説ノ如ク文句面白カラスト思ハルルニ付（松平ハ原案ノ如クスレハ委員会ニ於テ随意ノ案ヲ作りテ押シ付ケ之ヲ受け入レサル方ニ対シテ責任ヲ負ハセル事ナル根トヨリ處へ置キタリ）右ハ to take such action as may be possible under Article 15, Paragraph 3, of the Covenant, for effecting a settlement of the dispute and to prepare a settlement thereon to be submitted to the Assembly ノ如ク修正スル事然ハくシ（其ノ字句上ニ於テ一般ノ贊同ヲ得ル為往電第二二六六号ノ通変更シタル語リタリ）ト存シ又エノreportナル文字ハ(1)ノ報告ノ意味ハテ(2)ノ報告ヲ意味スルモノハサルモ此ノ点稍々疑ノ余地アリ危険ニ付之ヲ first progress report メ改メ此ノ意味ヲ明カニスル事トン双方トモ議長ニ通告シ置キタリ果シテ通過スルヤ否ヤハ疑問ナルモ精々努力スル積リナリト述ヘタルニ付松平ハ其好意ヲ謝シ置キタリ尚右会談中貴電（四五文書）第一〇七号御訓令接到シタルニ付其内容ヲ詰シタル処「サイモン」ハ前記ノ修正ヲナシテモ日本政府ニ於テハ賛成ノ投票ヲ与ヘラノマシキヤ若シ日本側ニ於テ表決ノ際反対ノ

ハ昨日貴大使御話ノ次第ヲ篤ト攻究シタルカ決議第三章第四項ノ(3)ニ付テハ御説ノ如ク文句面白カラスト思ハルルニ付（松平ハ原案ノ如クスレハ委員会ニ於テ随意ノ案ヲ作りテ押シ付ケ之ヲ受け入レサル方ニ対シテ責任ヲ負ハセル事ナル根トヨリ處へ置キタリ）右ハ to take such action as may be possible under Article 15, Paragraph 3, of the Covenant, for effecting a settlement of the dispute and to prepare a settlement thereon to be submitted to the Assembly ノ如ク修正スル事然ハくシ（其ノ字句上ニ於テ一般ノ贊同ヲ得ル為往電第二二六六号ノ通変更シタル語リタリ）ト存シ又エノreportナル文字ハ(1)ノ報告ノ意味ハテ(2)ノ報告ヲ意味スルモノハサルモ此ノ点稍々疑ノ余地アリ危険ニ付之ヲ first progress report メ改メ此ノ意味ヲ明カニスル事トン双方トモ議長ニ通告シ置キタリ果シテ通過スルヤ否ヤハ疑問ナルモ精々努力スル積リナリト述ヘタルニ付松平ハ其好意ヲ謝シ置キタリ尚右会談中貴電（四五文書）第一〇七号御訓令接到シタルニ付其内容ヲ詰シタル処「サイモン」ハ前記ノ修正ヲナシテモ日本政府ニ於テハ賛成ノ投票ヲ与ヘラノマシキヤ若シ日本側ニ於テ表決ノ際反対ノ

意ヲ表セラルルニ於テハ支那側ハ更ニ決議案ヲ破壊スル如ク試ムル虞アルノミナラス連盟一般ノ空氣及新聞方面ノ空氣モ更ニ悪化スルニ付出来得ヘクハ賛成ノ投票ヲ与ヘラルコトヲ切望スト述ヘタルニ付松平ハ一応政府ニ電報スヘキモ第十五条ノ適用ニ関スル留保ノ次第モアリ満州問題モ包含セラレ居ルニ付反対セサルトンテモ「アブステイン」スルノ外致シ方ナカルベキカト思考スル旨述へ置タリ

英、米、仏、伊、独、支ヘ転電セリ

249 昭和7年3月(12)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

十一日午前の一般委員会における決議案審議

状況レポート

(1) 第二七〇号
三代表ヨリ

十一日午前開催ノ一般委員会経過大要左ノ通

壁頭議長ハ「ブリアン」逝去ノ弔電ニ對スル仏首相ノ謝電ヲ披露シタル後往電第二二五四号決議案ヲ読上ケ右ヲ各章毎ニ審査スル旨宣言ス

第一章ニ閲シ英代表ハ同第四項カ不戦条約ニ言及シ居ルニ

鑑ハ同章末項末段ニ ou contraires au Pacte de Paris comme en ce qui concerne les signataires de ce dernier メ付加方提議シタルニ付シ希國代表ハ決議ノ文体ノ上ヨリ見ハシ en ce qui concerne 以下ヲ付加スルコトニ望マシカラス且又未タ不戦条約ヲ批准シ居ラサル連盟国ヤ斯ル宣言ヲ為スコトニ敢テ反対ナカルベシト察スルニ付英案中ノ en ce qui 以下ノ句ヲ削除方主張シ結局同項末段ニou au Pacte de Paris メ追加ベハコトニ決ス

(2) 次テ英代表ハ同章第五項冒頭 En attendant les décisions メ décisions メ意味狭キニ付mesures (英文steps) メ改メタシト提議シ議長ハ総会ハ紛争解決ノ為決議以外ノ措置ヲモ執り得ル訳ナレハ英案ノ通り訂正シタシト述ヘ可決セラル

第一二章原文ノ儘採択

第三章ニ閲シ「チャッコ」代表ハ第四項ノ(3)ノ意味ヲ明確ニスル為且規約第十五条第三項ノ趣旨ニ一層好ク合致セシムル為(1) de s'efforcer de préparer (メ) 訂正シタシト提議シ議長及瑞西代表之ヲ支持シ結局「チャッコ」案採択セワル（決定文往電第二二六六号ノ通り）英代表ハ第三項ノ

ヤノ報告ハ何ノノ報告ヲ指スモノナリヤ原文ニテハ明カナラサル点アルモ右ハ同項(3)ノ報告ヲ指ス趣旨ニ非サルニ付(2)ノ報告如first progress report ナル意味ヲ明カニシ且(1)ノ le plus tôt possible ノ次ニ et au plus tard premier mai メ加フル方可ナラント提議セル処議長ハ同項(1)及(2)ノ報告ノ意味ハ原案ニテ明確ナルモ(3)ノ報告ハ était des choses de la situation メ閲スル報告ノ意味ナレハ原文メ premier rapport sur la situation メヤハ(1)ナルくシテ述ヘ蘭国代表ハ rapport sur le progrès des travaux メ致シタルシト述ヘタルニ瑞西代表ハ議長案ヲ支持シ其通り決定英文「テキスト」ハ first "progress" report メ改メ右ニテ決議案ニ閲スル討議ヲ終リ更ニ議長ヨリ決議案全般ニ亘リ意見無キヤト詰リタル処發言ヲ求ムルモノナク次テ洪牙利代表ヨリ起草委員会ニ対スル謝辞アリ議長ハ右ニ対スル答辞ヲ述ヘタル上先程日本代表ヨリ申越サレタル所ニヨレハ同代表ニ於テハ本案ニ閲シ未タ政府ノ訓令ヲ接受シ居ラサルモ本日午後迄ニハ右接到ノ由ナル処本週中ニ総会第一段ノ事業ヲ片付ケタキニ付本日午後五時ヨリ一般委員会ヲ開キ其直後ニ総会ヲ開クコトト致シタク日支両国代表

モ其レ迄ニハ訓令ヲ接受セラルヘキコトヲ希望スト述ヘ異議ナク決定散会ス

英、米、支ニ転電セリ

250 昭和7年3月(12日)※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

一般委員会および総会における決議案採択の状況について

別電

同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第二七四号

一般委員会における決議案に対する佐藤理事の声明

第二七三号

(1) 三代表ヨリ

十一日午後五時開催ノ一般委員会及総会ノ経過大要左ノ通り

一、議長一般委員会ノ開催ヲ宣シタル後佐藤代表別電ノ通り声明シ議長之ニ対シ謝辞ヲ述へ次テ決議案ノ討議ニ入り

二、次テ佐藤代表ハ別電第二七四号ノ通り声明ヲ為シタル

五、次テ決議案第三章ノ委員会(爾來十九人委員会ト称ス)ニ参加スヘキ六名ノ委員ヲ選挙(無記名投票)セル處瑞西「チエッコ」、「コロンビア」、葡萄牙、洪牙利、瑞典当选ス

六、議長ハ之ヲ以テ総会第一段ノ事業無事終了セルコトヲ欣幸トスル處十九人委員会今後ノ事業ハ甚々困難ナリ同委員会ニ於テ本案採択セラレントスルニ當リ余ハ本決議案ニ対スル日本政府ノ態度ヲ述へ且我代表部表决ノ趣旨ヲ説明セントス

四、条約ノ侵害ト相並ンテ今回ノ事件ノ根本原因ヲ為スモノハ支那ニ於ケル「ボイコット」其ノ他ノ排外運動ナリ

スル運動ハ國際間ノ良好ナル親善關係ヲ棄リ國際平和ヲ害フコト大ナリ依テ今後総会ハ特ニ此ノ点ニ注意ヲ払ハレンコトヲ切望シテ已マス

五、日本ハ客年九月以来常ニ理事会ニ於テ其ノ眞情ヲ吐露シ理事会亦之ヲ諒トシ第十二条ニ基キ支那調査委員会ヲ

員会トシテ(ハ)第一ニ調停ニ努ムヘキ所日支両国カスカル委員会ノ任務ニ協力セラレントコトヲ望ム極東ノ二大国ハ須ク平和ト法ノ尊重ニ努メラルヘク両國カ本總会及世界輿論ノ希望ニ副ハレンコトヲ切望ストノ趣旨ヲ述へ次テ十九人委員会ヲ來週初ニ招集スル旨ヲ宣シ之ヲ以テ一先ツ總会ヲ閉会ス

別電ト共ニ英仏独伊支ニ転電セリ

(別電)

第二七四号

(1) 決議案ニ対スル日本政府ノ訓令接到セリ依テ今ヤ一般委員会ニ於テ本案採択セラレントスルニ當リ余ハ本決議案ニ対スル日本政府ノ態度ヲ述へ且我代表部表决ノ趣旨ヲ説明セントス

下ニ交渉ヲ行ヒ支那ニ対シ或種ノ条件ヲ強要セント云フカ如キ非難ハ何等事實ニ合セス何トナレハ日本政府ハ去ル九月以来屢々声明シ来レル如ク支那ニ対シ何等ノ領土的野心ナク不幸ニシテ今回ノ時局ニ際シ武力ニ訴フルニ至レルハ窮迫セル日本国民ノ生命、財産ノ危害ヲ除ク為自衛行為トシテ已ムヲ得ス為シタルモノニシテ之ヲ以テ日本ノ平和的紛争解決ノ誠意ヲ疑フハ当ラス

三、本決議案ノ冒頭ニ掲ケラレタル條約尊重ノ原則ハ日本トシテ尤モ重キヲ置ク点ナリ蓋シ極東現下ノ事態ハ支那ニ於ケル幾多條約上ノ權益侵害及正式ニ締結セラレタル條約ノ一方的破棄ヲ目的トスル政策ニ主トシテ起因スルモノナレハナリ

四、条約ノ侵害ト相並ンテ今回ノ事件ノ根本原因ヲ為スモノハ支那ニ於ケル「ボイコット」其ノ他ノ排外運動ナリスル運動ハ國際間ノ良好ナル親善關係ヲ棄リ國際平和ヲ害フコト大ナリ依テ今後総会ハ特ニ此ノ点ニ注意ヲ払ハレンコトヲ切望シテ已マス

五、日本ハ客年九月以来常ニ理事会ニ於テ其ノ眞情ヲ吐露シ理事会亦之ヲ諒トシ第十二条ニ基キ支那調査委員会ヲ

設ケ今ヤ該委員会ハ其ノ事業ヲ開始セントス依テ本決議

(1) 三代表ヨリ

カ特ニ右委員会ヲ設ケタル十二月十日ノ決議ヲ引用セル
コトヲ満足トルモノニシテ右決議ハ引続キ有効ニ実行
セラルヘシ尚此ノ点ニ関シ吾人ハ一月二十九日及三十日
ノ理事会ニ於テ右決議カ有効ニ存在スルニ拘ラス日支事
件ノ全部ニ付第十五条ヲ適用スルコト等ニ付異議ヲ述ヘ
タルコトアリシカ右ハ各人ノ記憶セラル所ナルヘシ

六、右ニ依リ決議案ニ対スル日本ノ主張ハ明瞭トナレルモ
ノト思考スル処尚茲ニ日本ノ主張ハ十二国理事ノ「アッ
ピール」ニ対スル声明ニ依リテモ充分尽サレ居ルコトヲ
付言セントス上述ノ如ク日本ハ第十五条ノ適用ニ付留保
ヲ為シ居リ今回ノ総会ニ対シテモ右留保ノ下ニ参加セル
モノナルヲ以テ吾人ハ右決議案ノ表決ニ加ハル能ハス依
テ決議案ノ成立ニ反対セサル為「アブステイン」スルモ
ノナリ

251

昭和7年3月(12日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

総会決議の成立経過について

第二七六号(暗、極秘)

一、今次総会ノ経過ハ屢次ノ往電ヲ以テ申進メノ通ナル處
今回採択ヲ見ルニ至レル決議ニ付テモ幾多御不満ノ点ア
ルヘキコトハ當方ニ於テモ充分承知シ居ル処ナルモ我方
最善ノ努力ニ拘ラス之レ以上ノ好結果ヲ挙ケ得サリシ事
ハ本代表等ニ於テモ衷心遺憾トスル処ナルカ屢次ノ往電
ニ依リ御察知有之ヘキ通り今次総会ノ空氣ハ当初ヨリ我
ニ対シ頗ル險惡ニシテ小國側ノ意見ハ一致シテ我ニ不利
ナルモノアリ我方ノ態度ニ了解アル大國側殊ニ英国外相
等大イニ努力シ吳レタル次第ナルモ何シロ小國側多数ノ
勢力ニ押サレ結局前記決議案ヨリ以上我ニ都合ヨキ案文
ハ到底實現シ得サリシ事情ハ御諒承ヲ請フ

二、往電第二七四号佐藤カ一般委員会ニ於テ為シタル声明
ハ貴電(245文書)第一〇七号ノ御趣旨ニ依リ準備シタルモノナルカ

其後貴電(246文書)第一一〇号午後ノ委員会開催直前接到セルモ同

電御来示ノ趣旨ハ大体ニ於テ右声明案中ニ包含セラレ居
ルモノト認メタルノミナラス稿ヲ改ムルノ違モ無カリシ
為貴電(246文書)第一一〇号ヲ其儘陳述セサリシ次第付御諒承ヲ
請フ

三、十一日午後ノ會議ニ於テ支那代表ノ述ヘタル通り支那

側ニ於テハ訓令未着ヲ理由トシ右會議ノ延期ヲ希望シ居
ルカ如キモ貴電第一〇七号御訓令カ逸早ク接到シ我方ヨ
リ直ニ之ヲ議長等ニ伝ヘ置キタル為幹部ニ於テモ支那側
ヲ圧倒シ遂ニ延期ヲ断念セシメタル次第ニシテ支那代表

カ常ニ似ス佐藤ノ声明ニ対シ何等応酬ヲ試ミス意氣銷沈
シ居タルモ前記ノ事情ニ依ルモノト想像セラル
英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

252

昭和7年3月12日

芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米
国出淵大使他宛(電報)

滿洲国成立に関する対外説明振りについて

別電

同日芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務
局長、在米国出淵大使他宛合第七六四号

右に関する対外説明振りについて

合第七六五号(暗)

寿府連盟宛往電第八七号ニ関シ

在露大使ヨリ蘇連政府ヨリノ質問ニ対スル我方ノ説明振ニ
関シ改メテ請訓ノ次第アリタルニ付大体別電合第七六四号

ノ趣旨ニ依リ口頭ニテ説明スヘキ旨電報シ置キタリ御参考
ノ

迄

別電ト共ニ連盟ヨリ露ヲ除ク在欧各大公使ニ米ヨリ加奈
陀、紐育、市俄古、桑港ニ転電アリタシ

(編注) 本電報および別電は上海、北平、奉天、廣東、ハルビン
にも発電された。

(別電)

合第七六四号(暗)

本大臣発在露大使宛電報第一二五号

第一二五号

新国家成立ニ関スル我カ対外説明振

一、帝國ノ満州ニ対スル政策ハ三ノ考慮ノ上ニ立ツモノナ
リ第一ニ治安維持(国防ノ第一線タル意味ニ於テ)第二

ニ日本国民ノ感情及歴史的關係第三ニ満州ニ於ケル日本
ノ権益ノ尊重ナリ即帝國トシテハ接壤地域タル満州カ軍
事的ニモ思想的ニモ帝國ノ安全ヲ脅威スルカ如キコト絶

対ニ忍ヒ得サルト共ニ満州ニ於ケル帝國臣民ノ生命財産
及権利利益カ完全ニ保障セラレ門戸開放、機会均等主義
ノ下ニ同地方内外人安住ノ平和境タラム事ヲ冀望スルモ
ノニシテ右ハ東洋ノ平和及帝國ノ国民的存立上絶対必要

ナル三大原則ナリ

二、然ルニ近年国民政府ノ革命外交ハ遂ニ満州ニ波及シ旧東北政権ノ組織的系統的排日政策ハ凡有ル方法ヲ以テ滿州ニ於ケル我カ重大ナル權益ヲ無視シ究極スル所遂ニ満州事変ノ発生トナレリ

三、満州事変勃発スルヤ旧東北政権ノ主ナル官吏ハ殆ト全部逃亡シタルヲ以テ満州各地ノ要人ハ地方維持会ノ組織其ノ他ノ方法ニ依リ当面ノ治安維持ノ急務ニ任シタルカ帝国トシテハ満州ニ於ケル我カ權益ノ重大ナルニ顧ミ之等支那側要人ノ局地的治安維持ノ努力ニ対シテハ同情ヲ以テ之ニ臨ムト共ニ旧東北政権ノ倒壊ニ伴フ支那側要人ノ諸種ノ政治的策動ニ対シテハ固ヨリ敢テ閑知セサルノ方針ヲ確守シ来レリ

四、然ルニ満州ハ元來支那本部ト人情風俗ヲ異ニシ歴史的ニモ経済的ニモ將タ政治的ニモ支那本部ニ対シ別個ノ境域ヲ形成シ先年張作霖カ名実共ニ独立政権ヲ樹立シ張學良亦南京政府ト合流後猶事實上独立ノ形態ヲ維持シ居タルカ如キ何レモ右満州ノ特異性ニ基クモノナルカ一方満州内部ニ於テハ久シキニ亘リ張學良一派ノ軍閥ノ虐政ニ

對スル人民ノ反感甚シキモノアリ其ノ間反張運動殊ニ東北文治運動等モアリテ所謂保境安民ヲ標榜シ学良等ノ閔内進出ニ反対シ居リシ事情モアリ茲ニ前記支那側要人ノ治安維持ノ努力ハ旧東北政権並南京政府ト關係ヲ断絶セル前省長等ヲ主班トスル満州獨立運動ニ転化シ来リ最近機熟シタルモノカ東北三千万ノ民意ヲ基礎トシテ独立ヲ宣言スルニ至レリ

五、要之今次満州ニ成立セル所謂新國家ナルモノハ満州事變ニ伴フ東北政情ノ変動ト満州特異ノ政治的環境ニ基ク東北四省人民ノ希望ト努力ノ發現セルモノト謂フヘク帝國トシテハ満州政情今後ノ推移如何ニ関シ多大ノ関心ヲ以テ之ヲ注視スルモノナルカ何レニスルモ帝国ノ対満政策ノ基調ハ治安維持、日本国民ノ歴史的感情的關係及日本ノ權益ノ尊重ノ三点ニ他ナラズ

253 昭和7年3月(14日)

在長春田代領事より芳沢外務大臣宛(電報)

別電 同日着在長春田代領事より芳沢外務大臣宛第七一號

三月十二日付謝介石満州国外交部總長の對外通告

第七〇号

十二日付満州國政府外交部總長ノ對外通電ハ閣下ニ發電ス(三一)四二文書參照)ルト同時ニ英、米、仏、獨、伊、奧、蘇連、白耳義、丁抹「エストニア」、「ラトビア」、「リトニア」和蘭、波蘭、葡萄牙、「チエツコ」ノ十六ヶ国外相ニモ發シタル趣ナリ公使、北平、天津、在満各領事ニ転電セリ

(別電)

第七一號

⁽¹⁾各館宛合第五二号
往電合第五一号ニ閑シ
通電内容左ノ通

閣下

奉天吉林黑龍江熱河東省特別區域及蒙古即チ數權^(アマ)ノ連盟ハ中華共和国トノ關係ヲ絶チ独立政府ヲ建設センカ為合同シ

「満州國」即チ State of Manchuria ヲ一九三二年三月一日創設セル事ヲ閣下ニ御通報スルノ光榮ヲ有ス

閣下ニ是非御記憶願ヒ度キハ東北各省ヲ統轄シタル張學良ヲ首班トスル旧軍憲當局ハ唯自己ノ利益ノミヲ求ムルニ努

一、政府ハ國際法ヲ遂行スルニ當リ忠實信用ノ本來ノ主義ト和衷協同ノ精神トニ依リ約束ヲ確保シ國際和平ヲ向上スルニ在リ

二、政府ハ國際法及條約ニ從ヒ國際正義ヲ重シス

三、政府ハ國際法及條約ニ鑑ミテ諸外國トノ間ニ協定セラレタル條約ニ依リ中華民國カ負フヘキ法律上ノ義務ハ之ヲ繼承シ而シテ之等ノ義務ハ忠実ニ履行ス

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

- 四、政府ハ滿州國ノ境域内ニ於ケル諸外國民ノ取得シ居レ
ル権利ハ之ヲ侵サス且彼等ノ生命財産ハ完全ニ保護ス
五、政府ハ諸外國民ノ入國ト彼等ノ滿州居住ヲ歓迎シ凡テ
ノ人種ハ等シク平等ト公平ニ取扱フ
六、諸外國トノ通商貿易ハ之ヲ助長シ以テ世界經濟ノ發展
ニ寄与セントス
七、滿州國領域内ノ人民ハ諸外國民ノ經濟的活躍ニ関シテ
貴政府ト滿州國政府間ニ正式外交關係ヲ確立セラレンコト
ハ門戸開放主義ヲ認ム
本政府ハ貴政府カ上述滿州國建設ノ趣旨ヲ充分了解セラレ
ヲ切望ス
我至上ノ尊敬ト卓越セル御考慮ヲ確信ス
大同元年三月十二日

大滿州国外交部總長 謝介石

本電宛ナシ

公使、北平、天津、在満各領事

254 昭和7年3月14日

芳沢外務大臣より
在英國沢田臨時代理大使宛（電報）

滿洲國にたいし差當り不承認の意向を英大使

ヲ承認スルコト能ハサルノミナラス海關問題、治外法權問
題其他幾多ノ難問ヲ伴フ次第ニテ之等ノ点ニ関スル貴見ヲ
承リ度シト述ヘタルニ付右ニ對シ本大臣ハ御承知ノ通張字
良政權ノ去リタル後日本政府トシテハ日支間直接交渉ノ速
開ノ望ナキニヨリ當時各所ニ發生シタル治安維持会ノ發達
ニ関シ好意的態度ヲ持シ来リタル次第ナルカ其後之等ノ維
持会ハ更ニ民治運動ト化シ民治運動ハ更ニ新國家樹立運動
トナリ遂ニ今回新國家ノ出現ヲ見ルニ至リタルモノニシテ
我出先邦人ニ於テハ好意的援助ヲ與ヘタルモノモアルヘキ
モ右ハ治安維持会以来ノ關係ニ依ルモノニシテ独立國家其
ノモノハ支那人ノ樹立ニ係ルト同時ニ東京政府ニ於テハ全
然關係ナキ次第ナルモサリトテ日本ノ満州ニ對スル關係
上勿論無関心ナル能ハス此ノ際獨立國家成立ニ際シ日本政
府トシテノ態度ヲ決定スルノ必要ヲ認メ慎重評議ノ上之ヲ
決定シタル次第ナルカ貴大臣ニ對シ「コンフィデンシャ
ル」ニ告ケントスルコトハ日本政府トシテハ少クトモ差当
リ承認ヲ與ヘサルコトニ決定セリ將又海關治外法權等ノ問
題ハ要スルニ支那ト各国トノ間ノ條約ニ關係スル次第ナル
カ故此ノ考案ノ下ニ處理セラルヘキモノト信ス実ハ日本

四、政府ハ滿州國ノ境域内ニ於ケル諸外國民ノ取得シ居レ
ル権利ハ之ヲ侵サス且彼等ノ生命財産ハ完全ニ保護ス
五、政府ハ諸外國民ノ入國ト彼等ノ滿州居住ヲ歓迎シ凡テ
ノ人種ハ等シク平等ト公平ニ取扱フ
六、諸外國トノ通商貿易ハ之ヲ助長シ以テ世界經濟ノ發展
ニ寄与セントス
七、滿州國領域内ノ人民ハ諸外國民ノ經濟的活躍ニ関シテ
貴政府ト滿州國政府間ニ正式外交關係ヲ確立セラレンコト
ハ門戸開放主義ヲ認ム
本政府ハ貴政府カ上述滿州國建設ノ趣旨ヲ充分了解セラレ
ヲ切望ス
我至上ノ尊敬ト卓越セル御考慮ヲ確信ス
大同元年三月十二日

大滿州国外交部總長 謝介石

本電宛ナシ

公使、北平、天津、在満各領事

254 昭和7年3月14日

芳沢外務大臣より
在英國沢田臨時代理大使宛（電報）

滿洲國にたいし差當り不承認の意向を英大使

政府トシテハ南方政權カ滿州ニ於テ再ヒ出現スルコトモア
ラムカ同地ニ於ケル我甚大ナル權益ハ忽チ覆没ヲ免レサル
ヘク如此事態ハ到底我方ノ容認シ難キ所ナリト述ヘタル所
同大使ハ自分ノ個人的觀察モ亦同様ナリトテ良ク諒解シタ
ルヤニ見受ケラレタリ次テ同大使ハ今回ノ連盟総会ノ結果
ハ大体ニ於テ日本ニ取り不愉快ノ次第ニモアラサルヘシト
尋ネタルニ付本大臣ハ本件ニ関シテハ英国外相ノ好意的
努力ニ對シ先ツ以テ感謝ノ意ヲ表スル次第ナリト前置キシ
タル上我方トシテハ第一上海事件ハ地方的事件ニシテ日支
間ノ戰争ニアラス又滿州事變ノ處理方針ハ既ニ昨年ノ理事
會決議ニ依リ決定セラレ居ル次第ニシテ規約十五条適用ノ
必要ヲ認メサル次第ナリ第二ニ「サイモン」外相ノ多大ナ
ル努力及「ボリチス」ノ斡旋等ニ依リ漸ク決議案作成ニ至
リタルモノニテ我方トシテハ右第一ノ立場ヲ把持スルコト
ノ絶対必要ナルト同時ニ右等好意的努力ノ結果ヲ破壊スル
カ如キ事ヲ避ケ度シトノ希望ヨリ御承知ノ如キ態度ヲ以
テ總会決議ニ對応シタル次第ナリト説明シタル所同大使ハ
ヨク諒解セリトテ謝意ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ更ニ先般既
ニ端緒ヲツケタル日英協調ノ問題ハ今後追々之ヲ盛リ立

十四日英大使來訪先ツ上海ニ於ケル形勢ニ関シ質問シタル
ニ付本大臣ハ過日モ貴大使ニ御話シタル通り日本トシテハ
我軍隊ヲ無条件ニテ居留地付近ニ撤収スル意向ニテ右
ハ当然ノ事ト思ハル尙ほ日本軍ハ居留地付近ニ撤収シタル
上事態ノ改善ニ伴ヒ漸次更ニ日本ニ引揚クル意向ナリ然ル
ニ支那側ニ於テハ連盟ニ於ケル討議ノ發展ヲ考慮シタル
為カ我方トノ交渉開始ヲ回避シ居タルカ最近ニ至リ貴国公
使ノ仲介ニ依リ兎ニ角連絡ノ付キタル事ハ歡迎スヘキ現象
ナリト述ヘタル所英大使ハ其ノ通りナリト答ヘタル上実ハ
本日來訪ノ主要目的ハ滿州新國家ニ関スル御意見ヲ承リ度
キ為ナリトテ独立政權ナラハ對外關係ニ於テ差違懸念スヘ
キ事柄ナキモ新國家トナラハ種々ノ困難ヲ發生スル次第ニ
テ第一吾々外國トシテハ南京政府ヲ承認セル以上新國家

第三四号（暗、極秘）

十四日英大使來談

本省 3月14日後10時50分発

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

テ度キ希望ナリト述ヘタル所同大使ハ至極賛成ニシテ何レ其ノ中此ノ問題ニ付キ更ニ会見ヲ希望スル旨ヲ答へタリ

連盟、米、支、奉天、北平、廣東ニ転電シ連盟ヲシテ英土ヲ除ク在欧各大使ニ支ヲシテ南京ニ転報セシム

リ

芳沢外務大臣より
在英國澤田臨時代理大使、在米國出
淵大使他宛(電報)

255 昭和7年3月14日

満洲海關接收問題に関する日本の意向英國側
に説明について

合第七九三号(暗)

十四日英國大使館「スノー」參事官ハ亞細亞局長ヲ來訪シ「ラムブソン」公使來電ヲ見單ニ自分限リノ考ニテ御伺シタル次第ナルカトテ滿州政權ハ海關ヲ接收セムトシ居ルヤノ趣ニテ現ニ安東ニハ日本人顧問出張シ來レル由ナルカ右ニ對スル日本政府ノ態度如何尚ホ英國側トシテハ「フォーレン、ローン、サービス」ノ維持及「カストム、インテグリチー」ノ確保ニ重キヲ置ク次第ナリト述ヘタルニ付同局長ハ其ノ私見ナル旨ヲ断リタル上海關問題ニ付滿州政權力

如何ナル考ヲ有スルヤ何等承知シ居ラサルモ十二日滿州政権外交部長ヨリ日本其ノ他十七箇國ノ外務大臣ニ宛テタル電報ハ該政權ニ於テ支那政府ノ國際的義務ヲ繼承スヘキコト及外國政府及外國人民ノ既存權益ヲ尊重スヘキコト等ヲ声明シ居ル次第ニテ右ハ結構ノコトト存シ居ル處海關問題ニ付テモ滿州政權カ總稅務司辺リト円滿ナル話合ヲ遂ケ右「サービス」ノ維持及「インテグリチー」ノ確保ニ付善處スルコトハ日本ノ歡迎スル所ナリト告ケ(其ノ際同局長ヨリ廣東政權ハ關稅ノ押収ヲナシ居ル趣ナル處右ニ對スル英國側ノ態度如何ト尋ネタルニ「スノー」ハ廣東ニテハ右「サービス」ハ維持セラレ居リ又「インテグリチー」ハ確保サレ居ル次第ナリト述フ)尙ホ日本人顧問ノ行動ハ固ヨリ政府ト何等關係ナキ次第ナルカ要スルニ日本ハ全然第三者ノ立場ニ居ルモノナリ唯タ大連海關ハ日本ノ統治地域内ニ存スルニ付日本ニ於テ新國家ヲ承認セサル限り同海關ニ對スル手入レハ之ヲ許容シ得ヘキ限りニ在ラス(此点ニ付「ス」ハ之ヲ「アップレシエート」スル旨ヲ述フ)ト述ヘ置キタル趣ナリ右御参考迄

英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電アリ度

奉天ヨリ安東、牛莊、哈爾賓、問島ニ転電アリ度
(編注)本電報は、中國、奉天、北平、南京、廣東にも送電された。

256 昭和7年3月15日

※在ジユネーヴ澤田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

満洲國の承認差控え方について

第二八〇号(極秘)
三代表ヨリ

今次総会ノ情勢及結果ニ関シ日支紛争善後方策ニ付當方氣付ノ点左ノ通り

一、総会ハ今猶終了セス議長ハ何時ニテモ之ヲ招集シ得ヘク他方十九委員会ハ五月一日迄ニ第一次報告ヲ提示スルコトトナリ右委員中ニハ最モ過激ナル決議案ノ提出者タル西班牙、瑞西、瑞典、「コロンビア」委員等ヲ含ム關係上彼等ハ日支紛争殊ニ上海事件ノ将来ニ付注視ノ眼ヲ見張リ居ルヘキニ付我方ニ於テハ成ルヘク速ニ事態ヲ平静ニ導クヲ得策トス

二、上海ニ於テハ漸次撤兵ノ御方針実行セラレ世論安堵ノ色アルモ各國殊ニ小國側ニ於テハ滿州ニ於ケル事例等ニ顧ミ尚日本カ上海地方ニ於テ武力ヲ以テ威圧シ何等カ獲得セ

ント企画シ居ルニ非スマヤトノ猜疑心ヲ有スル如キヲ以テ我方ニ於テハ居留民ノ生命財産ノ保護ニ直接必要ナル兵數以外ハ成ルヘク直ニ之ヲ帰還セシメ以テ我方態度ノ公正ナルヲ実証スルト共ニ帝国ノ威信ヲ高メ滿州問題等ノ解決ニ都合ヨク導ク必要アリト認ム

三、今次総会ニ於テ大国側カ小國側ヲ抑ヘ滿州問題ノ審議ハ支那派遣調査委員ノ報告提出後ニ延引セんコトニ努メタルハ御承知ノ通ナルヲ以テ前項ノ如クニシテ上海方面ノ事態平静ニ歸シ他方面ニ於テ新ナル軍事行動起ラサルニ於テハ総会決議(ノ)予想セル五月一日ノ報告ハ单ニ上海問題ニ限ラルヘキカト思考シ居リタリ然ルニ滿州新國家成立問題ハ昨今各方面ノ注意ヲ喚起シ現ニ同國ハ主要國ノ承認ヲ求ムルニ決セル旨ノ風説サヘ伝ヘラレツツアルヲ以テ若シ右承認問題ニシテ現実化シ殊ニ帝国ニ於テ此際单独ニ承認ヲ与ヘラルル如キコトアラハ世論沸騰シ前記支那派遣調查委員会ノ最終報告ヲ待タスシテ十九人委員会等ニテ論議盛トナリ大國側ニ於テモ亦我方ニ付スル態度ヲ変更スル処アリ結果我ニ対シ甚タ不利益ナル報告ノ提出又ハ総会ノ再招集ニ至ルヘキヲ恐ル本件ハ米國側ニ対シ一層陰惡ナル空

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

氣ヲ作り当地ニ迄反響スルコト勿論ナリ右新國家ニ対スル

政府根本ノ御方針ニ付テハ何等承知セス從テ卑見開陳ニ躊躇スル次第ナルモ前記ノ事情ニ顧ミ新國家ノ正式承認ヲ為スカ如キハ當分之ヲ差控フヘキモノト思考ス

四、無論右調査委員ノ報告カ我方ニ有利ナルヤ否ヤハ之ヲ

予断スルヲ得ス或ハ満州ニ於ケル我行動ニ付相当不利益ナ

ル報告ヲ提出スルコトナキヲ保セスノ如キ場合連盟殊ニ

小国側ノ反対的態度更ニ硬化スヘキハ勿論ナルニ付場合ニ

依リテハ帝国ハ全世界ニ直面シテ争フヘキ破目ニ陥ルヤモ

保シ難シ就テハ其際ニ処スヘキ方策乃至連盟脱退ニ関スル

利害得失等ニ付今ヨリ眞面目ニ考慮ヲ加ヘ置クコト肝要ト

思考ス

五、右ニ関連シテ考へ得ヘキハ米国トノ関係ナリ米国ノ輿論乃至政策カ我方ノ不利益ニ動ク場合常ニ連盟ニ反映シ其形勢ヲ助長スルコトハ御承知ノ通ナリ殊ニ満州ニ付テハ米

国ハ九国条約ノ主唱者タル関係等ニ照シ他国以上ニ右我方

ノ承認等ニ付異議ヲ挾ム懸念ナシトセス兎ニ角連盟関係調

節ノ上ヨリスルモ対米関係ノ善導方ニ付大ニ留意ヲ要スト

思考ス

ナリ

右決議第二章ニ於テ総会ハ各種ノ決議殊ニ三月四日ノ決議

ヲ援用シ居ル処米国ハ上海租界ニ特別利益ヲ有スル國ナル

ヲ以テ既ニ同地代表者ニ對シ他關係團代表ト協力スヘキ事

ヲ命令シ置キタリ

英、米、支ニ転電セリ

258 昭和7年3月15日 芳沢外務大臣より
在米公出席大使、在ジュネーヴ沢田連盟事務局長他宛(電報)

満州新国家に対する日本の態度について

合第七九八号 暗、極秘

(二一三五文書)

「満州新国家問題ニ關シ十二日ノ閣議ニ於テ審議ノ結果

出来得ル限り支障ヲ生セシメサルコトヲ念トシ新国家カ先

ニ條約問題乃至承認問題ノ展開ヲ計ルノ態度ニ出ツル様之

ヲ誘導スルコト従テ新国家ニ對シテハ帝国トシテハ差当リ

國公法上ノ承認ヲ与フルコトナク出来得ヘキ範囲ニ於テ適當ナル方法ヲ以テ各般ノ援助ヲ与ヘ以テ漸次独立国家タ

在欧米各大使、支へ転電セリ

257 昭和7年3月(15)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

三月十一日の総会決議に対し米国公使賛意表

明について

第二八一号

三月十一日総会決議ニ関シ事務總長ト在瑞西米国公使トノ

間ニ交換セラレタル往復文書十四日公表セラレタルカ要領左ノ通り

一、十一日付事務總長発米国公使宛書翰

本日総会ノ採決セル決議ヲ貴国政府ノ参考ニ供スル為茲ニ送付ス貴国政府ト上海租界ニ特別ノ利害ヲ有スル他ノ列国

トノ間ニ屢協力アリタルニ鑑ミ右決議第二章ニ付特ニ閣下ノ注意ヲ喚起シタシ

二、十二日付米国公使発返翰

米国政府ハ総会ノ執リタル措置ニ對シ満足ノ意ヲ表ス特ニ

各國カ諸種條約ニ違反シテ獲得セル結果ヲ承認セズストノ政

策ヲ遂行スルニ一致セルヲ確認スルヲ欣幸トス右ハ國際法ニ對シ真ニ貢獻スル所アルヘク平和建設ノ基礎ヲナスモノ

ルノ實質的要件ヲ具備スル様誘導シ将来國際的承認ノ機運ヲ促進スルニ努ムルコト」

ニ決定シタリ右貴官限リ絶対極秘ノ含トシテ電報ス

本電宛先 米、寿府、露

寿府ヨリ在英、仏、独、白、伊各大使ニ転電アリタシ

(編注) 本電報は、在ソ連広田大使にも発電された。

259 昭和7年3月(16)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

総会決議受諾に関する中国理事の通告について

て

別電 同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外

務大臣宛第二八五号

中国理事の通告文

十一日総会決議ニ関シ十二日付支那理事ノ総會議長ニ宛テ

タル書翰十四日公表セラル大要左ノ通

「余ハ訓令ニ基キ支那政府ニ於テ十一日総会ノ決議ヲ受諾セル旨茲ニ通告ス本受諾申入ノ遲延ハ本国政府ト電信往復ニ時間ヲ要シタル為ニシテ他ニ何等ノ理由ナシ

支那政府ハ日支紛争勃発当初より主張ン来ノル最ヤ重要ナル原則カ決議中「包含ヤハニ居ル事ヲ欣幸テスルヤノ」シテ特ニ左ノ三點ヲ指摘シタシ」(以下原文別電)〔八五〕別電ト共ニ英、米、仏、伊、露、独、白、支々軽電ヤリ

(附 載)

No.285

- That the settlement of the dispute should not be sought under the stress of military coercion, which it takes to mean that the evacuation of Japanese troops must precede negotiation.

2. That it is the obligation of Members of the League to submit any dispute which may arise among them to procedures for peaceful settlement, which absolves the Republic of China from all responsibility for the present terrible state of affairs in Manchuria, Shanghai and other parts of China, and,

3. That it is incumbent upon Members of the League not to recognise any situation, etc., brought about contrary to the Covenant of the League or the

Pact of Paris.
The word "situation" must, of course, cover present state of things created in Manchuria through Japanese manipulation, instigation and military support—in particular to the puppet Government in Manchuria.

260 昭和7年3月17日 ※在シヨネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)
一般委員会におけるナリ代表演説差控ハ事情

上ハシテ

第11八九号

佐藤代表ヨリ

十六日本使総領ノ智利代表「メヌカル」(社田義公使)ト会談ヤル處「メ」へ過般一般委員会ニ於ト三十余國ノ演説アリタルモ智利政府ハ「メ」へ主張ヲ容レ從来日本トノ親善關係ニ鑑ニ此ノ際演説スルコトヲ差控ヘタルノミナハス「メ」ヨリハ中南米代表ニ対シ交渉セル結果「キョベ」「ミネカル」モ智利ト同様ノ態度ヲ執リタリ(「グワテマラ」モ同様ナリシヤ右ハ智利ノ運動ニ依ルモノカ他ノ理由ニ基クヤノナリヤ承知セバ)又南阿代表カ強硬意見ヲ述べ

タルコトハ一般ノ人氣ヲ博シ同代表ヲ十九人委員会ニ選出ヤシトノ運動盛ニテ(現ニ投票ノ結果同國ハ二〇票ヲ得タリ)中南米諸代表モ内々南阿選出ノコトニ決議シ居リタルモ「メ」ハ之等諸代表ニ対シ紛争ノ調停ニ力ムヘキ委員会ニ一方ニ偏セル人物ヲ選出スルコト不可ナル且ツ説キ諸代表ハ同決議ニ拘束セラハスレノ動議ヲ出シタル結果「メ」ト同意見ノ諸國ハ南阿ニ対シ投票ヲ差控ヘタリト内話セリ「メ」ニ対シテハ本使ヨリ厚ク礼ヲ述べ置キタルカ以上何等御参考迄報告ス
米ヨリ智く軒報アリ度シ

261 昭和7年3月17日 ※在獨國小幡大使より

芳沢外務大臣宛(電報)

ペルリハ止むべくハ爾ハ等の手中問題に關

アユ体観立ヒシテ

ペルリン 3月17日後発

本 省 3月18日後発

⁽¹⁾第四四号(暗)
(長岡大使ヨリ脱)

一、十六日柏林着直後新聞記者団会见ヲ希望シ居ル由ニ付小幡大使ト打合セノ上引見スルコトトセルカ右ハ外務省側

逸ノ危急ヲ救フ手段ヲ失フヘシトノ見地ヨリ日本ノ行動ニ反対ノ氣勢ヲ擧ケ居ル次第ナルカ外務省トシテハ出来得ル限り斯ノ如キ論説ヲ記載セシメサル様力メツツアル次第ナリト述ヘタリ

四、本使ハ右ニ對シ支那ノ現状カ独逸其ノ他完全ナル統一國家ト異ル所以並ニ各事変ハ悉ク之ニ伴フ特異性ヲ有スルニ付現時ノ事件ニ付支那ヲ援護スルコトカ独逸万ノ場合役立ツヘシトハ到底想像シ得サル旨ヲ強調シ置ケリ尚右ト同様ノコトヲ「ストレーュエ」モ言ヒ居リタルニ付彼ニ対シテモ其ノ極メテ理由無キコトヲ説示スルト同時ニ支那ノ現状ニ於テ日支ノ紛争ヲ中心トシテ觀察スルハ肯綮ニ当ラス支那軍閥間ノ闘争ヲ起点トシ日本カ迷惑ヲ蒙リツツアルコトヲ諒解スルヲ要ス十九路軍カ頑強ニ抵抗セサルヘカラサルニ至レル経路之ナリト指摘シ置キタリ

五、「ゾルフ」ハ日本カ満州ニ領土的野心無シトノ宣言ハ朝鮮ノ例ニ依リ独逸民衆ヲ首肯セシムルコト困難ナリト言ヘルニ付本使ハ満州ハ日本ニ倍加スル地域ニシテ日露戦後日本ノ活動圈ニ入りテヨリ二十余年ヲ経過セル今日此地ニ移住セル日本人僅ニ二十余万人ニ過キサル状態ニ鑑ミ今後

多数ノ移住民ヲ送リ得ル望ハ甚タ少キニ付此地ヲ併呑スルカ如キコトハ財政上到底引合ハサル証故斯クノ如キハ全然架空的危惧ニ過キス日本トシテハ同地ノ富源ヲ各国ト共同シテ利用スル以外何等ノ野心モ無ク又右以外ニハ何ノ利益モ無キコト故此点ハ篤ト独逸国民ニ周知セシメラル様致シタシト述ヘ置ケリ

六、「ブリューニング」宰相ハ外相ヲ兼摂シ居ルモ実務ハ「ピューロー」次官取扱ヒ居レルニ付十七日同次官ヲ訪問シ独逸新聞論調ノコトニ言及セルニ独逸政府トシテモ余リニ其反日本のナル為幾回トナク注意ヲ与ヘ又記事論説ノ材料ヲモ供給セルカ結果ハ却テ惡ク外務省カ何カ理由アリテ日本ノ肩ヲ持ツモノノ如ク曲解シ反対氣勢ヲ煽ルニ過キサリシニ鑑ミ目下行動ヲ差控ヘ居ル處昨日本使ノ為セル會見談ノ如キハ極メテ有効ナル処置ト考ヘラル旨ヲ述ヘタルニ付右會見ノ一部ヲ「ウォルフ」通信社ニ提供シ独逸ノミナラス中欧諸国ニモ周知セシムルコトニ同次官ト打合セスケノ如ク処置セリ

七、尚「ゾルフ」ハ「フォレッヂ」大使ハ日本人ノ氣分ヲ呑込ムコト能ハスシテ非常ニ評判悪ク或ハ近々賜暇名義ニ

トシテハ日支紛争ニ第十五条ヲ適用スル事ニ異議アル趣旨本使ハ小幡大使ヨリ本件内聞シ居タルニ付「フオ」大使ノ後任出来ル迄「ゾ」カ臨時日本ニ来ルヘシトノ説ヲ聞ケルカ如何ト尋ネタル処「ゾ」ハ斯カルコトハ官ノ配合上絶対ニ無ク自分トシテハ極メテ希望スルモ到底不可能ナルヘシ「フオ」大使ノ後任ハ全然未知数ナリト語リタリ
〔見當ラズ〕別電第四五号ト共ニ仮ニ暗送セリ

262 昭和7年3月(18)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会満洲問題審議の場合の対策について

第二九三号(暗、極秘)
松平、佐藤両代表ヨリ

去ル十一日総会決議ニ對シテハ御訓令ニ基キ規約第十五条適用ニ際シ留保ヲ為シ棄権シタル次第ハ既報ノ通ナルカ右留保ハ一月二十九日及三十日理事会ニ於ケル當方ノ声明(往電第二四号及第二六号)ニ指摘セル留保ヲ繰返シタルモノニシテ(前記理事会ニ於ケル我方声明全文ハ當時送付セシ関係議事録ニ付既ニ御承知ノ事ト存ス)要スルニ我方

トシテハ日支紛争ニ第十五条ヲ適用スル事ニ異議アル趣旨ヲ表示シ置ケル次第ナリ而シテ三日総会開会ノ際松平代表演説中満州問題ハ帝国政府ノ意見ニ依レハ本総会ニ於テ討議ス可キ事項ニ非スト認ムル旨ヲ声明シ且ツ他国代表及事務総長等ニ對シテハ直接間接満州問題ノ総会付託ニ反対ノ意向ヲ夫々伝へ置キタルニ拘ハラス總会ハ遂ニ満州問題ヲモ含ム決議ノ採択ヲ見タル事本使等モ遺憾トスル処ナリ然シ乍ラ各方面ノ意向ニ微スルモ満州問題ヲ除外スヘント当方ノ主張ハ規約ノ規定ヨリ見ルモ根拠乏シク今後我方ヨリ前記留保ヲ楯ニ取り満州問題除外ノ件ヲ正面ヨリ総会ニ持出サハ却テ我ニ不利ナル決定ヲ見ルヤノ惧充分ナリト認メラル旁々形勢スノ如ク發展セル以上當方トシテハ連盟側特ニ十九人委員会等ニ對シテハ満州問題ニ付テハ既ニ調查委員モ派遣セラレ居ル次第ニモ有之ニ付實際問題トシテ当分ノ間手ヲ触レヌ方得策ナリトノ趣旨ニ依リ出来得ル限り本件審議ヲ遷延セシメ置ク様努力シ度ント存シ居ルモ本件ハ満州國家成立ニ刺戟セラレ右當方ノ抗議ニ拘ラス速急確定トナルヤモ計ラレサルニ付本件ニ関スル政府ノ御方針

在歐米各大使、支へ転電セリ

263 昭和7年3月18日

在英國沢田臨時代理大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戦問題に関する英國下院における討議

について

ロンドン 3月18日後発
本省 3月19日前着

第一五七号

十七日下院ニ於テ「ランズベリー」ヨリ連盟ノ提案実施ノ為上海ニテ如何ナル措置カ議セラレ居ルヤトノ質問アリタルニ対シ外相ハ「三月十一日ノ連盟臨時総会ノ決議ニ基キ組織セラレタル委員会ノ第一ノ「ステップ」ハ上海方面ニ於ケル日支間敵対行為ヲ徹底的ニ止メシムル事ニ在ルカ最近ノ情報ニ依レハ多少ノ小競合ハアルモ事實上戰闘行為ハ終熄シ居ルモノノ如シ連盟ノ特別委員会ハ昨日会合セルカ之ニ先立チ上海ニ於ケル休戦後第二段ノ措置ヲ講スル為ノ商議ハ順調ニ進展セル旨ノ報告ニ接シタル趣ナリ右上海商議ハ「ランプソン」公使ノ招請ニ依リ伊仏米各代表ヲモ加ヘタル日支両国代表者間ニ開催セラレタルモノニシテ多少

第三〇二号(暗、極秘)
佐藤代表ヨリ

十七日十九人委員会公開會議ニ引続キ開催セラレタル日支両国代表ヲ除キタル秘密会ニ閑シテハ往電第三〇一号ヲ以テ不取敢報告シ置キタル処其討議ノ経過ニ付「チエッコ」外相「ベネシュ」ヨリ内聞スル所左ノ如シ

同秘密会ニ於テハ往電第三〇〇号支那代表提出ノ「メモランダム」ニ閑シ主トシテ滿州問題ニ付意見交換アリ西班牙代表「マダリアガ」ハ委員会ニ於テ滿州問題ヲモ審議スヘキ旨ノ声明書ヲ発スルコト必要ナルヘシトノ意見ヲ述ヘタルニ対シ「ベネシュ」ハ予テ日本ノ意向ヲモ承知シ居リタルニ付斯クテハ徒ニ感情ヲ刺戟シ本委員会ノ使命トスル調停ノ趣旨ニモ反スル結果ヲ來スヘシト述ヘ議長及「モッタ」(「モッタ」ハ最初「マダリアガ」ノ説ヲ支持シタルモ後ニ至リ「ベネシュ」ト同説ヲ称ヘタリト云フ)モ同様ノ見解ヲ述ヘ南米二国西班牙代表ヲ支持シタルモ結局此際何等ノ声明ヲ發セス「リットン」調査委員ノ報告ヲ待ツコトニ協議調ヘリ

本件ニ関シ「ベネシュ」ハ歐州諸国及南米各国代表ノ懸念

難点ハアルモ大体順当ニ進捗シ居ルモノノ如シ尚連盟ノ委員会ハ本日再開ノ筈ナルカ自分ハ四国代表ノ斡旋ニ依リ近ク實際ノ決定的結果ニ到達スヘキコトヲ衷心ヨリ信シ且希望スルモノナリ云々」ト答ヘタリ

連盟ニ転電セリ

264 昭和7年3月(18)日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会討議に関する意見について

第四九六号(暗、大至急)
(一)(二)(六文書)

十九人委員会ハ当地ノ交渉ノ議題及内容ニ種々討議及決定ヲナシタルカ如キ處既ニ寿府ニ於テ右電報ノ如ク定リタル以上結局之ニ從フノ外ナキニ至ルヤモ計ラレス當方ニ於テハ素ヨリ最善ヲ尽スヘキモ右ハ予メ御含置アリ度シ連盟ヨリ必要ノ在欧各大使ヘ転電又ハ転報アリ度シ

265 昭和7年3月(19)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会におけるベネシュチエッコ外相

の好意的斡旋について

スル所ハ各自國ノ休戚ニシテ連盟規約ノ尊重ニ出テ且一國ノ兵力援助ノ下ニ独立國家ヲ設立スル如キ先例ヲ作ルハ連盟自体ニトリ其自殺ヲ意味スルモノナリトノ点ニ在リ實ハ歐州ニ於テモ例ヘハ一九一九年「チエッコ」國新設當時「スロバキア」ハ「ハンガリイ」人及「ポルセビイキ」ノ為ニ占領セラレ「ブラーゲ」政府ト分離セル独立自治政体ヲ同地方ニ設ケタル実例アリ今後ニ於テモ伊太利カ「クロアチア」ヲ占領シ独逸カ「コリドール」地方ニ占拠シ茲ニ独立國家ヲ設立スル如キ種々ナル場合モ想像シ得ヘク滿州ノ先例カ累ヲ後日ニ及ホス事ヲ惧ルル次第実ニ已ムヲ得ス但シ自分ハ日本ノ直面スル緊切ナル利益ヲ充分了解シ得ト信スルカ故ニ必要ニ応シ何等自分ニ於テ努力シ連盟ニトリテモ極メテ困難ナル滿州問題ノ解決上一臂ノ援助ヲ提供シ得レハ自分ノ最モ幸トスル所ナリ依テ日本政府ノ腹蔵無キ意見ヲ拝聴シ得間敷キヤトノ話アリ右ニ対シ本使ハ同大臣ノ好意ヲ謝シ実ハ十九人委員会ニハ日本ハ代表セラレ居ラサルカ故ニ我ニ都合良キ提案ヲ自ラ提出スル事不可能ナル状態ニ在ルニ付同外相ノ好意的斡旋ハ我方ノ頗ル便利トスル所ナルヘシト答ヘ且既ニ同外相モ知ラル通リ日本国

内ニハ満州問題ニ関スル限り第三者ノ容喙ヲ許サストスル傾向極メテ鞏固ナルモノアリ此間ニ处シ連盟員タル日本トシテ十九人委員会ノ満州問題ニ関スル措置振りニ対シ如何ナル方策ニ出ツヘキヤハ我代表部ニ於テモ充分政府ト打合ヲ要スル次第ニテ其結果何等同外相ノ好意的考量ヲ煩ハス事トモナラハ堀田公使ヲ通シ申入ルヘキ旨ヲ述ヘ引取りリタリ

同外相カ寿府ニ於テ巧ニ大国間ヲ斡旋シ又小国側ニモ人気アルハ閣下ニ於テ夙ニ御承知ノ通ニシテ此際同外相ノ好意的申出ヲ利用スルハ或ハ我方ノ為利益ナル事アルヘキヤニ察セラル右御考量ヲ請フ

尚十七日午前「イーマンス」議長ヨリ外務総長ト面談午後ノ委員会ニ付打合セタル際本使ハ本日ノ委員会ニ於テ万一支那側ヨリ満州問題ニ関シ討議ヲ開始スル事アルモ自分トシテハ休日ヲ前ニ控ヘタル理事会ニ於テ本件討議ニ参加スルノ要ヲ認ムルヲ得スト述ヘタル処両氏共差当リ上海問題討議ニ限ルニ異議ナク総会決議モ問題ノ緊急ノ程度ニ依り処置振りヲ異ニスト諒解シ得ヘキ次第ナルニ付テハ満州問題ニ閣シテハ調査委員ノ報告ヲ待ツ事トシ差支ヘ無カルヘ

ments de Chine et Japon à l'informer des mesures que ceux-ci ont prises ou comptent prendre dans avenir prochain afin donner effet aux résolutions adoptées par Conseil 30 septembre et 10 décembre.

Je suis, en conséquence, chargé par comité de vous prier de bien vouloir prendre mesures afin que ces informations me soient communiquées à date la plus proche possible pour transmission au comité.

Sawada.

267 昭和7年3月(20)日 ※在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より
(1)(2)(文書)
芳沢外務大臣宛(電報)
往電第三〇三号ニ閲シ

九月三十日および十一月十日の連盟理事会

議の実施ぶりに關する報告並提出方について

第三〇五号(極秘)
(1)(2)(文書)
佐藤代表ヨリ
総会ヨリ満州問題ヲ除外セシムルコトノ困難ナル事情ハ屢次電報所報ノ通ナルカ今般十九人委員会カ事務総長ヲ通シ冒頭往電ノ如キ申出ヲ為シ來レルコトハ同委員会トシテハ

内ニハ満州問題ニ関スル限り第三者ノ容喙ヲ許サストスル倾向極メテ鞏固ナルモノアリ此間ニ处シ連盟員タル日本トシテ十九人委員会ノ満州問題ニ関スル措置振りニ対シ如何ナル方策ニ出ツヘキヤハ我代表部ニ於テモ充分政府ト打合ヲ要スル次第ニテ其結果何等同外相ノ好意的考量ヲ煩ハス事トモナラハ堀田公使ヲ通シ申入ルヘキ旨ヲ述ヘ引取りリタリ

同外相カ寿府ニ於テ巧ニ大国間ヲ斡旋シ又小国側ニモ人気アルハ閣下ニ於テ夙ニ御承知ノ通ニシテ此際同外相ノ好意的申出ヲ利用スルハ或ハ我方ノ為利益ナル事アルヘキヤニ察セラル右御考量ヲ請フ

尚十七日午前「イーマンス」議長ヨリ外務総長ト面談午後ノ委員会ニ付打合セタル際本使ハ本日ノ委員会ニ於テ万一支那側ヨリ満州問題ニ関シ討議ヲ開始スル事アルモ自分トシテハ休日ヲ前ニ控ヘタル理事会ニ於テ本件討議ニ参加スルノ要ヲ認ムルヲ得スト述ヘタル処両氏共差当リ上海問題討議ニ限ルニ異議ナク総会決議モ問題ノ緊急ノ程度ニ依り処置振りヲ異ニスト諒解シ得ヘキ次第ナルニ付テハ満州問題ニ閣シテハ調査委員ノ報告ヲ待ツ事トシ差支ヘ無カルヘ

266 昭和7年3月(19)日 在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟理事会の九月三十日および十一月十日決議の実施振りに関する報告提出方にについて

別電

同日着在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第三〇四号

右報告要請について

第三〇三号(暗)
(1)(2)(文書)
往電第三〇一号ニ閲シ

本十八日事務総長ヨリ佐藤代表宛別電第三〇四号ノ書翰アリ右不取敢電報ス

本電別電ト共ニ支、在欧(土ヲ除ク)米各大使ヘ転電セリ

(別電)

No. 304

Lors de sa séance 17 mars comité spécial, créé par Assemblée à sa séance 11 mars a, en exécution de tâche que lui a confiée Assemblée, décidé d'inviter Gouverne-

当方ノ留保ニ関係ナク満州問題ニ迄モ立入り審議スル積リナリト認メラレ而モ往電第三〇一号報告ノ通り同委員会ハ取急キ「ロットン」委員会報告提出方促進シ居ル模様ナレハ満州問題モ早晚十九人委員会ノ議ニ上程セラルニ至ルくハト予想セラル而シテ此ノ際當方ニ於テ事務総長ノ求ニ応シ理事会決議ノ実施振ニ関スル報告ヲ提出スルニ於テハ総会又ハ其決議ニ基キ成立セル十九人委員会カ満州問題ニ付テモ審議スルコトヲ容認スルノ結果トナリ結局第十五条適用ニ関スル留保ヲ事実上自ラ撤回セルモノト認メラルルニ至ルベク而モ同委員会ハ其上海問題ニ関スル昨十七日ノ討議振ニ鑑ミルモ相当仔細ノ点ニ亘リ満州ノ事態ニ付彼是容喙スルモノト覚悟スルヲ要スト存ス

然ルニ九月三十日及十二月十日ノ理事会決議ハ當方ニ於テ之ヲ受諾セルノミナラス其ノ後種々ナル機会ニ於テ帝国政府ハ飽迄同決議ヲ尊重スベキコトヲ声明シ来レル次第ニテ総会トシテ其ノ実施振ヲ問合セ来ルコトモ亦當然ノコトト云ヒ得ヘク從テ當方トシテ此ノ際第十五条ニ関スル留保ヲ橋ニ前記事務総長ノ照会ニ対シ報告ヲ提出セス乃至ハ何等カノ手段ニ依リ飽迄総会又ハ十九人委員会ノ審議ヲ拒ムニ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

於テハ我方トシテ從来ノ誓約ニ違反シ居ルヤノ疑ヲ招ク嫌アルノミナラス十五条留保問題ハ法律問題トシテ司法裁判所ノ問題トナサル虞アリ（十一日総会決議第三章ノ四参考照）斯ル場合ニハ當方トシテ勝算頗ル少ナク甚タ困難ナル地位ニ置カルヘキ次第ニ付本件事務總長照会ニ対スル回答振ニ付テハ慎重考慮ノ要アリト存ス當方ニ於テモ本件対策ニ付テハ折角研究中ナルモ政府ノ御方針承知致シ置キタキニ付往電（二六二文書）第二九三号稟申ノ件トモ併セ御詮議ノ上何分ノ儀御回訓ヲ請フ

土ヲ除ク在欧米各大使支へ転電セリ

268 昭和7年3月20日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛
芳沢外務大臣より
（二六九文書）
中国側に対し円卓會議遷延の術策を弄せざる
よう警告方にについて

第一一八号（暗）
貴電第三〇七号ニ関シ
佐藤代表へ

貴代表ノ説明振ハ機宜ニ適ス即チ我方トシテハ停戦協定成

聞電報トシテ當地ニ伝ハル所ニ依レハ日本政府ハ上海停戦交渉ニ関シ「セパレート、ノート」ヲ撤回シ「ポイコット」問題ハ停戦ノ条件トセサルニ同意シタルモノ右交渉ト同時ニ他ノ會議ヲ開キ「ポイコット」問題ヲ提議セントスルヤニテ果シテ右新聞報ニシテ事実ナリトセハ十七日ノ十九人委員会ノ経過ニ顧ミ再ヒ困難ナル問題発生スヘシト述べタルニ付本使ハ停戦交渉ニ関シ東京、上海間ニ往復セラレタル電報ヨリ考察スルモ日本政府ハ自己ノ發意ニ依リ「セパレート、ノート」ヲ撤回シタルモノニ付停戦条件トシテ排日問題提議セラルコトナキハ自明ノ理ト思考セラル但シ該交渉ト離テ開催セラルヘキ上海問題ノ善後処理ニ関スル円卓會議ニハ排日問題ハ當然主要課題ノ一トシテ上程セラルヘキモノナルモ今日ノ處ニテハ該円卓會議開催ノ日取モ決定シ居ラサル有様ニ付新聞電報ノ報スル如キ心配ハナキ筈ナリト思考スルモ為念政府ニ問合セ追テ確報ヲ与フヘキ旨ヲ約シ置ケリ就テハ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

尚「ド」ハ「イースター」迄当地ニ在リ其後「アブノル」ト交代ノ筈
英、米、仏、支ニ転電セリ

立上ハ直ニ円卓會議ヲ開キ排日問題其他ヲ審議シ一日モ速カニ上海地方事態ノ平靜確立ヲ計リ度意向ニテ右ハ二月二十九日理事会ノ「プラン」ノ趣旨及三月十七日十九人委員会討議ノ經緯ニ合致スル次第ナリ然ルニ我方ニ於テ各般ノ情報ニ顧ミ支那側ニ於テ円卓會議ノ開催ヲ遷延シ之ヲ有耶無耶ニ葬リ去ラムトシ又ハ円卓會議ヲ開クモ排日問題ノ討議ヲ避ケムトスル（貴電（二六九文書）第二九四号末尾参照）モノニ非ルヤニ付多大ノ疑惑ヲ有シ居ル訳ナルニ付連盟側ニテ此点ヲ含ミ支那側ヲシテ右様ノ術策ヲ弄セシメサル様適宜警告ヲ与フルコト肝要ト存ス就テハ右ノ趣旨ヲ以テ可然「ドラモンド」ニ応酬セラレ度

支、米ニ転電セリ、英、仏ニ転電アレ

269 昭和7年3月22日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）
上海停戦交渉の際のセパレート、ノート撤回
に関するドラモンドとの会談について

第三〇七号（暗）
佐藤代表ヨリ
十九日「ドラモンド」ノ求メニ依リ面談セル処「ド」ハ新佐藤代表ヨリ
（二六九文書）
往電第三〇七号「ドラモンド」トノ会談ノ際「ド」ハ滿州問題ニ言及シ本件ニ関スル限り日支紛争ノ一部トシテ総会ノ管掌事項中ニ包含セラルヘキコト今日ニテハ問題ナキ所ナルカ日本側ニ於テハ万一從來ノ留保的態度ヲ持続セラレ総会ノ容喙ヲ拒否セラルニ於テハ必然総会ト正面衝突ヲ來シ其ノ結果決シテ日本ニ有利ナラスト思考ス実ハ去ル十七日ノ十九人委員会秘密会ニテ滿州問題ニ対スル総会ノ態度ヲ明確ナラシムヘシトスル議論モ出テタレトモ（脱）單ニ日支両国政府ニ対スル要請（往電第三〇四号）トナリタルモノニシテ同時ニ理事会議長ニ対シ「リットン」調査委員ノ満州關係報告ヲナルヘク早ク提出スル（様）要求セル次第ナリ（往電第三〇六号）而シテ之トテ提出期間ヲ限定セル訳ニアラス又三月十一日総会決議末段（最後ヨリ二項

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

目) の規定ニ依リ一旦理事会ニ提出セラレタル該調査委員

会ノ報告ハ先ツ理事会ニ於テ審議セラルヘク理事会ハ両當

事国ノ参加シタル審議ノ結果「オブザーベイション」ヲ付

シテ総会ニ之ヲ移牒スルコトナルヘキカ故ニ理事会ノ審

議中幸ニ当事国間ニ協定成立スル場合ニハ総会ハ単ニ之ヲ

「テークノート」スルニ止マルコトトナルヘク協定不成立

ノ場合初メテ総会自ラ調停ニ任スル段取トナルヘシ事情右

ノ如クナル処日本政府ヨリ総会ニ提出ノ説明書ハ上海問題

ノミニ閔スルモノナルモ支那側ヨリハ滿州問題ニ付テモ詳

細其ノ陳述書中ニ言及シ居リ同問題ニ関シテハ支那側ノ文

書ノミニ存在スルコトトナリ日本側ニトリ甚タ不利益ト思考

セラルニ付日本政府ニ於テモ上述ノ事実考慮相成リ此ノ

際滿州問題ニ関シ追加説明書提出セラレテハ如何トノ話ア

リタリ就テハ右「ド」ノ内話御参照ノ上往電第三〇五号具

申ノ件御考究アリ度シ

英、仏、米、支へ転電セリ

271 昭和7年3月(22日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

円卓會議の早期開催に關しドラモンドと会談

様注意シ置キタリト答ヘタリ
(一一二三九文書)

以上ハ大臣發在支公使宛電報第二〇三号及在支公使發閣下
宛電報第五二九号(文書)ノ次第アルニ付本使ニ於テ特ニ念ヲ押シ

タル次第ナリ唯冒頭貴電後段ニ關シテハ「ド」ノ注意ヲ喚
起スル事ヲ失念セルニ付其内面談ノ節申入ルヘキモ二月二

十九日理事会「プラン」一ノ趣旨ノ通当然排日問題ハ議題

ノ一タルヘキモノト察セラレ勿論支那側ハ重光公使電報ニ
モアル如ク或ハ之ヲ滿州問題ト引き掛け或ハ連盟ノ十九人
委員会ニ於ケル顔惠慶ノ言ノ如ク「ボイコット」ハ支那各
地ニ起ル現象ニシテ其原因サヘナクナレハ自然消滅スヘシ
トカ種々ノ口実ヲ設クルニ努ムヘキハ想像ニ難カラサルモ
我方ニモ亦之ヲ日支国交ノ円満ヲ妨害スル手段ナリトシ別
箇ノ問題トシテ上程スル理由モ多々アルヘク之ヲ以テ押シ
切ル外ナシト思考ス尤モ「ド」ハ前回会見ノ際「ボイコ
ット」ノ問題ハ之ヲ他ノ名称例へハ排日問題トシテ上程ス
ルヲ可トスヘク「ボイコット」ト云へハ最近ノ米国ニ於ケ
ル日貨不買英國ノ外貨不買問題ヲモ意味スルヤニ聞ヘ不便
ナリト云ヘリ何等御参考迄

英、米、独、仏、伊、支へ転電セリ

について

第三一二二号(暗)

(二六八文書)
貴電第一一八号ニ関シ

佐藤ヨリ

二十一日「ドラモンド」ニ面会貴電末段ノ趣旨ヲ通報セル
处「ド」ハ之ニ對シ謝意ヲ表シ且ツ上海ノ停戦交渉順調ニ
進ミ居ル由伝聞シ大ニ安心セリト答ヘタリ本使ハ更ニ帝国
政府ニ於テハ排日問題ノ審議ヲ重要視シ停戦交渉纏リ次第
成ルヘク速ニ円卓會議開催ヲ希望シ居ル次第ニテ今次ノ停
戦交渉中少クトモ該會議開催ノ日取ニテモ協定出来レハ日
本政府ハ安心スヘシト考フル旨ヲ述ヘタル處「ド」ハ支那
側ハ日本軍全部撤退前ニハ如何ナル交渉ニモ慮シ難シト強
硬ニ突張リ居タルモ停戦交渉纏リ日本軍引揚ノ階梯(エ
タップ)ニテモ協定セラレタリトセハ円卓會議招集ノ日
取ヲ取極ムコト困難ナラサルヘク其際支那側ニテ之ヲ回
避セントスルモ不可能ニシテ又支那側カスノ如キ態度ニ出
ツル場合列國ノ同情ヲ失スヘキハ必然ニシテ実ハ自分モ貴
大使ト同様ノ懸念ヲ持チ居タルカ故ニ支那側ノ虞ルル列國
ノ同情ヲ失スヘキ点ヲ指摘シ円卓會議ヲ回避スヘカラサル

272 昭和7年3月22日 芳沢外務大臣より
在英國沢田臨時代理大使、在米国出
淵大使他宛(電報)

朝鮮、滿州間の密輸に關し英國側より注意喚
起について

合第八三五号(暗)

一、二十二日英國大使館「スノー」參事官ハ谷局長ヲ來訪
シ鴨綠江ヲ挾ンテ鮮満間ノ密輸多額ニ上リ英國商人トシ
テハ甚タ不利ナル地位ニ置カルル訳ナリト述ヘタルニ付
谷局長ヨリ右密輸ニ付テハ日本商人モ同様損失ヲ蒙ル次
第ニ付我關係當局ノ注意ヲ喚起スルコトトスヘシト告ケ
タル處「ス」ハ新國家カ本件取締ヲ勵行スルコトハ其前
途ノ為ニモ歓迎スヘキコトナルヘシト述ヘタルニ付「ス」
ノ好意的注意ハ新國家當局ニ伝ハル様取計フヘシト答ヘ
置キタル趣ナリ

二、尚其際谷局長ヨリ往電合第七九三号ニ言及シ日本領事
ノ集メ得タル情報ニヨレハ新國家ハ此際強制接収ヲナス
カ如キ態度ニ出テスシテ専ラ調和的態度ヲ以テ總稅務司
ト交渉シ居ル模様ナリト告ケタル處「ス」ハ自分ノ得タ

ル情報モ大体右ト一致シ居リ頗ル好都合ナリト述ヘ居リタル趣ナリ

英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電アリ度奉天ヨリ安東、牛莊、哈爾賓、間島ニ転電アリ度

(編注)本電報は中国、奉天、北平、南京、廣東にも発電された。

273 昭和7年3月(23)日 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

スチムソン書簡および米国内の対日感情等に

に関するキャップスル次官との会談について

第二四五号(極秘)

「キャップスル」客月下旬一人娘ヲ失ヒ暫ク欠勤シ居リ今一二日初メテ会見ノ機ヲ得タルニ付去十五日長官ト会見以後ノ上海方面ノ一般状況ヲ説明シ貴電合第八二四号ニ基キ海軍内地帰還ノ事実ヲモ告ケ尚貴大臣ノ議会ニ於ケル演說全文ヲ手交シ満州國政府ヨリノ通牒ニ對シ非公式ニ「アックナレッヂ」シタルコト満州ニ對シテハ政治上重大ナル利害関係ヲ有スルモ支那本部ニ對シテハ専ラ経済的利害関係ヲ有スルニ過キサルコトノ一点ニ對シ特ニ「キャ」ノ注意ヲ喚起シ置キタリ右ニ對シ「キャ」ハ日本政府ニ於テ支那文中ノ it can not admit the legality of any situation 以下ノ趣旨ヲ再ヒ高唱シ世界ヲシテ確認セシメント努メタルコトモ其一動機ナリト告ケ日米関係ノ重大ナルコトハ素ヨリ心アルモノノ何レモ充分弁へ居ル処ナルヲ以テ上海方面ノ善後処置順当ニ進行シ日本軍ノ撤退トナリ同時ニ満州方面ノ事態モ落着キ人心ヲ刺激スルカ如キ戰闘ノ繰返サルコトナキニ於テハ対日感情モ自ラ改善セラルニ至ルヘキニ付此ノ上ハ両国民ニ於テ互ニ感情ヲ刺激スルカ如キコトナキ様一段ノ努力ヲ為スコト肝要ナルヘシト述ヘ尚自分ハ「ハーバード」出身タル関係上「ロウエル」博士カ排

貨運動ニ加ハリタルコトヲ意外トスルモノナリ同博士ハ日本ニ対シ平素好感ヲ有シ居リ昨年春高松宮兩殿下「ボストン」御視察ノ際ノ如キハ特ニ午餐会ヲ催シ御歎待申上ケタ

側トノ間ニ停戦ニ関スル話合ヲ纏メラレ陸海軍ノ引揚ニ着手セラレタルハ米国政府ノ頗ル満足トスル處ニシテ上海方面ニ對シ日本ハ何等政治的野心ヲ有スルニアラスマトノ一部米国人ノ疑惑ヲ追々氷解シ昨今新聞紙ノ論調モ著シク緩和スルニ至リタルハ日本ノ友人トシテ喜ニ堪ヘス尚日本政府ニ於テ差当リ満州國ヲ承認セラルル意向無キコトモ承認問題ノ「デリケート」ナルニ顧ミ寔ニ好都合ナル次第ナリト語レリ

右ニ對シ本使ヨリ貴説ノ通米国新聞紙ノ論調昨今相當緩和シ支那問題ニ関スル記事論評著シク減少シタルコト事實ニシテ又一時頻リニ宣伝セラレタル日貨排斥運動モ昨今殆ト影ヲ潜メタル模様ナルモ本年一月以来昂マリタル米国内ノ対日反感ハ容易ニ拭ヒ去ラルヘキモノニモ非サルヘク殊ニ米国内ノ対日感情ハ日本ニモ反映シ可成り感情鋭敏トナリ居ルニ付貴官ノ如ク日本ノ事情ヲ承知シ居ラル人ハ日本国民ノ感情融和ノ為特ニ尽力アランコトヲ希望スル旨述ヘ尚「スチムソン」ノ「ボラー」ニ宛テタル書面ニ言及シ比律賓「グアム」等ノ名称迄モ列記シテ防備問題ニ論及セラレタルコトハ可成リ日本国民ノ感情ヲ刺激シタル模様ナル

274 昭和7年3月23日 在英國松平大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

日中間諸問題に関する英國下院における討議

について

第一六二号

⁽¹⁾二十二日下院ニ於ケル討議ハ大部分日支問題ニ集中セラレタルカ其内主ナル質問応答左ノ通り

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

日本ハ常ニ国際義務ニ違反シテ自己ノ手ニ依リ解決ゼンコト
ヘシ支那ハ当初ヨリ事件ヲ連盟ノ努力ニ委ネタルニ拘ラズ日
本ハ常ニ国際義務ニ付テハ英國政府ハ如何ニモ無関心ナルカ
如ク伝ヘラレ居ルカ政府ハ新政府承認ニ対シ如何ナル考ヲ
ノ所迄漕着ケ得タルコトニ付テハ外相ノ努力ヲ多トセサル
ヲ得ス滿州問題ニ付テハ英國政府ハ如何ニモ無関心ナルカ
テ其対滿政策ヲ正当ナリト主張スルモ何人モ斯クノ如キ理
由ニ依リ他國ヲ支配シ得ル権利アリト云フヲ得サルヘシ支
那ニ於テハ日本ノ戰慄スヘキ大失態ニ依リ非戰鬪員ノ殺傷
セラレタルモノ無辜ノ良民ノ家ヲ失ヘルモノ無数ニテ其財
産上ノ損害ハ実ニ一億磅ニ及フト称セラル之カ犠牲ニ対ス
ル賠償問題ノ話合付カサル限り本件紛争ノ解決モ容易ナラ
サルヘシ余ハ此機会ニ於テ列國カ國際會議ヲ開催シ法權ヲ
撤去シ支那ノ平等待遇ニ付考量ヲ加ヘンコトヲ希望ス

(二)「オースチン・チャムバーレーン」

徒ニ過激ノ言辞ヲ弄スルモ之ニ依リ紛争ノ解決ノ助ケトハ
催セラレ其ノ後極メテ順調ニ進行中ナリシカ愈々原案ノ妥
結ヲ見明日正式会議開催ノ運トナリ居ル趣ナリ一方今ヤ戰
鬪行為モ完全ニ停止セラレ今朝日本大使ノ來訪ノ際ノ説明
及最近ノ情報ニ依レハ在上海日本艦隊ノ大部分ハ既ニ帰還
シ又ハ帰還ノ途ニアリ又陸軍中ノ混成旅团ハ既ニ上海ヲ去
リ第十一師団モ亦帰國ノ途ニ就カントシツアリトノコ
トナリ本件ニ関シ在上海英國官憲ノ一方ナラサル努力及閑
係國ノ共助ト連盟カ全会一致決議ヲ為シ以テ現地ノ措置ヲ
援助シタルコトハ真ニ多トセサルヲ得ス英國政府カ当初ヨ
リ事態ヲ公平ニ裁断シ且連盟ノ主義ヲ忠実ニ實行スル為閑
係諸國ト密接ナル連絡ヲ保チツツ平和的解決ニ全力ヲ傾倒
シ来リタルハ御承知ノ通りナリ連盟ノ措置振ニ付テハ余ハ
「チャムバーレーン」氏ト全然同感ニシテ紛争ノ解決ハ力ヲ
用フルヨリモ寧ロ調停ニ努力スルコト其効果ヲ挙ケ得ルモ
ノナルコトヲ確信スルモノナリ滿州問題ニ付テハ連盟調査
員ノ報告ヲ待チ事態ノ真相ヲ明カニシタル後ニ非サレハ
日本ノ措置ヲ彼は批判スル能ハス或ハ貴説ノ如ク滿州新政
権ハ日本側ノ設立セルモノニシテ且其援助ノ下ニアルヤモ
計ラレサルモ何人モ事実ノ取調ヲ為サス而モ当事者カ否

日本ハ今猶満州ヲ占領シ居リ遂ニ新政権ヲ樹立セシメタル
カ同政府ハ日本ノ軍事的援助無クハ一日モ存在シ能ハサル
ヘシ支那ハ当初ヨリ事件ヲ連盟ノ努力ニ依リ上海問題ヲ今日
本ハ常ニ國際義務ニ違反シテ自己ノ手ニ依リ解決ゼンコト
ヲ計リタルカ遲蒂キ乍ラ連盟ノ努力ニ依リ上海問題ヲ今日
ノ所迄漕着ケ得タルコトニ付テハ外相ノ努力ヲ多トセサル
ヲ得ス滿州問題ニ付テハ英國政府ハ如何ニモ無関心ナルカ
如ク伝ヘラレ居ルカ政府ハ新政府承認ニ対シ如何ナル考ヲ
有スルカ日本側ハ常ニ滿州ニ対スル投資ノ巨額ナル故ヲ以
テ其対満政策ヲ正当ナリト主張スルモノ何人モ斯クノ如キ理
由ニ依リ他国ヲ支配シ得ル権利アリト云フヲ得サルヘシ支
那ニ於テハ日本ノ戰慄スヘキ大失態ニ依リ非戰鬪員ノ殺傷
セラレタルモノ無辜ノ良民ノ家ヲ失ヘルモノ無數ニテ其財
産上ノ損害ハ実ニ一億磅ニ及フト称セラル之カ犠牲ニ対ス
ル賠償問題ノ話合付カサル限り本件紛争ノ解決モ容易ナラ
サルヘシ余ハ此機會ニ於テ列國カ國際會議ヲ開催シ法權ヲ
撤去シ支那ノ平等待遇ニ付考量ヲ加ヘンコトヲ希望ス

ナラス「ランズベリー」氏ハ從來屢々上海事件ニ関連シ現地保護ヲ加フルヨリモ寧口在留民引揚ヲ敢行スルニ如カストノ希望ヲ述ヘラレタルカスノ如キハ対支貿易ヲ根底ヨリ覆スモノナリ日本ハ他面我友邦タルコトヲ忘ルヘカラス吾人ノ支那ニ望ム所ハ鞏固ナル政府樹立セラレ通商貿易力平和裡ニ行ハルルコト之レニシテ又英國政府ノ對外政策ハ連盟ヲ基礎トシ連盟ヲ通シテ平和的政策ヲ遂行スルニアリ今次ノ日支紛争ニ就キテハ日本ノ取りタル行動ニ對シテハ相当ノ理由ハ存シタルモ「ボイコット」等ニ对抗スル為武力ニ訴フルコトハ妥当ノ措置ト云フヲ得サルヘシ左レハトテ吾人ハ特定國ヲ目標トシテ而カモ政府ニ依リ援助セラルル執拗ナル「ボイコット」ヲ決シテ看過スルモノニアラス兎ニ角事件ハ連盟ニ依リ解決セラレントシツツアリ連盟ハヨモヤ武行使即チ制裁規定ノ適用ヲ為スコトハナカルヘク連盟ノ唯一ノ武器ハ忍耐、熟慮、慰撫及時日ニアルコトヲ忘ルヘカラス

上海事件ニ付テハ三月四日連盟臨時総会ノ決議ニ基キ上海ニ於テ英、米、仏、伊各關係国代表者参加ノ上停戦商議開定スルニモ拘ハラス然リト判断スル能ハサルヘク現ニ日本ハ他国同様新政権ヲ承認スルカ如キコトナカルヘキコト、新政府カ日本ノ守立テタルモノニ非サル旨ヲ声明シ居ルコトヲ特ニ指摘シ置キタシ自分ハ満州新政府ノ現状ハ未タ各國カ之ヲ承認セサルヘカラサルカ如キ状態ニハ達シ居ラスト思考ス九国条約ノ一員タル我国ハ他署名国同様条約ノ精神ニ反スルカ如キコトヲ企画スルコトハ篤ト慎マサルヘカラス之ト同時ニ自分ハ支那ノ如キ国柄ニ有リテハ新満州政府ノ如キ独立政府ノ出現ハ必シニモ稀有ノコトニ非サルコトヲ認メサルヲ得ス尚今次ノ事變ニ関シ列国ノ共同政策殊ニ英國ノ政策遂行ニ関連シ

(イ)連盟ノ主義、主張ヲ貫徹シタルコト
(ロ)紛争調停ニ当リ乍ラ日支両国トノ友好関係ヲ持続シ得タ
ルコト

(イ)各自夫々異ナル意見ヲ有スルニモ拘ハラス大小各国力兔ニ
二角協力一致ノ美ヲ發揮シタルコト

二角協力一致ノ美ヲ發揮シタルコト
(ニ)米国ノ支持援助ヲ受ケタルコト

権ハ日本側ノ設立セルモノニシテ且其援助ノ下ニアルヤモ
計ラレサルモ何人モ事実ノ取調ヲ為サス而モ当事者カ否

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

275 昭和7年3月(24)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

円卓会議に関する杉村・ドラモンド会談につ

いて

第三一六号(暗)

佐藤ヨリ

(二七一文書)

往電第三一二号後段ニ関シ

数日來微恙ノ為引籠リ中ノ杉村公使出勤セルニ付貴電第
(二六八文書)
一一八号後段ノ件二十三日同公使ヲ通シ「ドラモンド」ニ

申入レ其注意ヲ喚起セル处「ド」ハ円卓會議開催ノ上ハ排
日問題ノ如キハ平和若ハ安全ヲ害スル問題トシテ当然上程

セラルヘキモノト思考スルモ上海事件ニ関連シテ開カルヘ
キ円卓會議ナルニ依リ同地方關係ノ排日問題ニ限ルコト必
要ナルヘシト述ヘタル由ナリ

尚拙電前段「ド」ノ言トシテ(日本軍引揚ノ階梯ニテモ協
定セラレタリトセハ云々)トアルハ本使ニ於テ聽取ノ儘ヲ
記載セルモノナルモ「ド」ノ本使トノ会見録ニハ(日本軍
引揚「サフィシェントリ」ニ進捗シ右引揚ノ最終日取予見
セラルル場合ニハ其日取ノ前後ニ於テ円卓會議ヲ開催スル

コト至当ナルヘシ)トノ意味ニテ記述シアル由ニテ杉村ニ
モ同様ノ文句ヲ用ヒテ「ド」ノ私見ヲ説明セル趣ニ付右ニ
御訂正相成度シ
英、米、仏、独、伊、支へ転電セリ

276 昭和7年3月24日 在ニューヨーク堀内総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

対日経済絶交説に関するイブニング・ポスト
紙の批判的論説について

ニュー・ヨーク 3月24日後発
本 省 3月25日前着

第五三号

当方面ノ対日経済絶交ノ声カ漸次下火トナリ来レル次第ハ
既報ノ通リナル處二十三日「イーグニング・ポスト」ハ右
賛成論者ハ之ヲ以テ平和手段ト考ヘ居ルモ這ハ「ボラー」
ノ説ノ如ク戦争手段ニシテ米国ハ武力ノ後援ナクシテ結局
戦争ニ導ク惧アル対日政策ヲ採用スル能ハサルノミナラス
輿論モ亦米国カ極東問題ノ為開戦スルコトニハ全然反対シ
居レリ又世上米國カ右經濟的「ボイコット」適用ノ為他国
ト協調セサルヲ云々又之ヲ以テ保護關稅ト同一視スル者

スラ有ルカ事實上未タ各國共單獨ニモ共同的ニモ正式ニ斯
カル方策ヲ提案シ居ラス且右ハ閔稅ト異ナリ日本ニ差別的
待遇ヲ与ヘ米國ノ政策ニ背馳スルト共ニ或ハ日米通商條約
侵犯トモナルヘク現ニ米国ハ極東ニ利益ヲ有スル諸國ト共
ニ右適用ニ反対シ居ルモノナリト論セリ

277 昭和7年3月(24)日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

滿洲國成立通告に対する仏、イタリア等各國
の回答について

第八七号
(二一四九文書)
貴電第一七号ニ関シ

謝介石カ在滿外國領事ニ各本国政府ニ宛テタル通電写ヲ送
付セルニ対シ十八日付仏、伊、白、「エストニア」、十九

日付「ラトヴィヤ」各國在哈爾賓領事ヨリ右書翰ヲ受領セ

ル旨ノ単純ナル回答ニ接シ居レルカ(各本国政府ヨリノ回
電ニ接シ居ル次第ニアラス)右内容ハ大同小異ナルモ何レ

モ封筒ニハ滿州国外交部總長ノ宛名ヲ用ヒ伊、白ハ受領書

類ノ写ヲ駐支自國公使ニ転達セル旨及「エストニア」ハ滿
州国「エストニア」両国間ニ正式外交關係ノ速ニ樹立セラ

第一八一号(暗)

二十三日本使挨拶ノ為「タルジュー」首相ヲ往訪セル折「タ」
ハ滿州問題ニ言及シ同問題ノ将来ニ付テハ仏國及英、伊側
ニハ困難無カルヘク専ラ米國ノ態度如何ニ懸ルヘシ一般ニ
日支紛争ニ関シ連盟事務局ノ空氣カ日本ニ極メテ惡シキハ
困ツタコトナリト述ヘ又日仏ノ關係ニ付テハ自分(タ)
トシテハ先ツ經濟問題ヲ片付ケ然ル後政治問題ヲ話シタキ

本省 3月26日前着
パリ 3月25日後発

希望ナリ尤モ右希望ノ実現ハ総選挙ノ決スヘキ内閣ノ運命如何ニ懸ル旨語レリ

尚新駐日米国大使「グルー」土耳其ヨリ赴任ノ途次当地ニ立寄リ本使ヲ來訪セルカ其際同大使ハ自分ハ日支事件ニ付テハ全然白紙ニテ赴任シ赴任ノ上充分研究シタキ意向ナルカ満州ニ関スル日本ノ主張ニ付テハ充分了解シ居ル積ナリト述ヘタリ

279 昭和7年3月(25日) 在イタリア国吉田大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

総会におけるイタリアの好意的態度に謝意表

明について

第五一号(暗)

(引用電報番号脱?)

二十三日本使「グ」外相ヲ往訪シ貴電ニ基キ支那ニ於ケル現事態ヲ適宜説明ノ後過クル連盟総会ニ於テ我ニ対スル伊國側ノ好意ニ付不取敢本使一個トシテノ謝意ヲ表シタル処「グ」ハ總会ニ於テ兎ニ角支那側ヲ或程度迄押ヘ得タルハ日本ノ為好都合ナリ自分ハ極東ノ事情ハ深ク承知セサルモノニテ日支紛争モ然ルヘク解決ニ至ルヘシトテ甚々安心セ

280 昭和7年3月(28日) ※在シユネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会において滿州問題上程の場合の

対策について

第三一九号(極秘)

(二六七文書)

往電第三〇五号及第三一一号ニ関シ

佐藤ヨリ

四月十一日以後休会明ケノ十九人委員会ニ於テハ上海ニ於

ケル停戦交渉ノ結果ニ付審議ヲ見ル可キハ勿論更ニ進シテ

支那側ハ満州問題上程ヲ志シテ突進シ来ル可キハ想像ニ難

カラス委員会ニ於テモ支那ノ言分ヲ支持スル急進派モ有ル

事トテ「リットン」委員会ノ調査報告提出アル迄審議ヲ延

ハサシムル事サヘ相当困難ヲ伴フヘシ察セラル右ノ事態ニ鑑ミ本邦側ニ於テモ先ツ往電第三〇五号稟申ノ件ニ關シ

取急キ何分ノ御決定相成ル事必要ナルヘク手続問題ニ關シ連盟トノ正面衝突ヲ避ケ満州問題ニ付テモ十九人会又ハ總会ニ於テ帝国ノ立場擁護ニ努メラントスルノ御意向ナルニ於テハ單ニ從来ノ主張ヲ繰返スノミニテハ不充分ニテ更ニ陣容ヲ新タニシ満州ニ於ケル我方条約上ノ権利特殊権益

ル体ニテ總会ノ結果ヲ満足トスル意ヲ述ヘタルニ付本使ハ今後モ支那側ノ宣伝モアルヘク其ノ出様ニ依リテハ解決迄ニハ多少曲折モアルヘク又總会ニ於テ小国側カ何等極東ノ事情ヲ知ラスシテ日本ヲ難セルカ如キ態度ニ出テ決議案ニ於テ「ボイコット」等ニ関スル我主張ニ対シ充分ノ満足ヲ与ヘサリシ等我輿論カ頗ル不満トスヘク從テ連盟トノ我将来ノ関係ニ於テ念図スヘキモノアリ今回ノ總会委員会ニ於テ大國側特ニ伊國カ其ノ空氣ヲ緩和スルニ足ル情報ヲ適宜披露シ穩健ナル解決ヲ主張セラレタルハ深ク多トス今後モ同様極東ニ関係深キ大國側ノ好意ト理解ニ依頼セサルヲ得サル事多々アルヘシト述ヘタル處外相モ之ヲ首肯シテ伊國政府トシテ努力ハ惜ム所ニ非サル旨縷述シ居レリ伊國ノ連盟總会ニ於ケル好意的態度ニ關シテハ總会関係議事録ニテ御承知ノ通ニテ伊國ハ連盟ノ上海調査委員首席タル關係モアリ閣下ニ於カレテモ御序ノ節在本邦伊國大使ニ対シ然ルヘク御挨拶ヲ得ハ今後ノ事件處理ニ甚々好都合カト存セラル

連盟ヘ轉電セリ

281 昭和7年3月(28日) 在仏國長岡大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

仏国上院における日中紛争に関するタルジュ

一首相の説明について

本省ヨリ適宜支那ニ転報アリタシ

英、米、仏、伊ヘ転電セリ

第一九三号

本省 3月28日前着
パリ

廿五日上院ニ於ケル外務省予算案ノ審議ニ際シ「タルデュ」首相ハ外交問題ニ關シ演説ヲ為セルカ日支事件ニ關シニ於テハ單ニ從来ノ主張ヲ繰返スノミニテハ不充分ニテ更ニ陣容ヲ新タニシ満州ニ於ケル我方条約上ノ権利特殊権益

其権威ヲ發揮シ得サルヲ惜ム旨述ヘタルニ答ヘ同事件ハ當事國ノ一方カ國際秩序上統一國家トシテノ権威ヲ欠キ又列強中米國ハ連盟ノ外ニ在リ英國モ米國ノ參加ナキ限り極東ニ於テ深入リスルヲ好マサルカ為頗ル困難ナル事件ナリ又連盟ノ権威ヲ充分發揮出来サリシハ連盟創立以來寿府ノ傾向カ規約ノ威信ヲ弱ムルニアリタルカ為ニテ理事會トシテハ出來得ル丈ノコトヲ為シタリ尤モ上海ニ於テ未タ戰鬪休止協定署名セラレサルモ平和維持ニ対スル信念ヲ回復シ戰争勃発ノ危險去レリトノ趣旨ヲ述ヘタリ

282
昭和7年3月(28日)
在独國小幡大使より
芳沢外務大臣宛(電報)
各国輿論の啓発について

各國輿論の動向について

当国新聞ノ日支紛争ニ対スル態度ハ今尚既報ノ通極右党方面ニ於テハ我方ノ主張ニ相当ノ理解ヲ示スモ共産党ハ素ヨリ左党方面ニテハ軍国主義ニ基ク侵略的意思ヲ包藏スルモノトシテ批評ヲ逞ウシ其勢ハ上海事件ニ依リ更ニ向上セリ然ルニ他方帝国在外公館報告等ニ依リ承知スル他国輿論ノ傾向モ略同様ノ推移ヲ示セル力加ク這般ノ形勢ハ熟慮ニ值

第四八号（暗）

右卑見幸ニシテ御採用ヲ得ハ當国内ノ實際的方法ニ付テハ
ニ啓發方法ヲ講スルノ必要アルヘシト存ス
英、米、仏、伊、連盟ヘ轉電セリ

更ニ申進スヘシ

芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

昭和7年3月28日

283

次回連盟総会への方針決定および連盟主要国
への申入れについて

昭和7年3月28日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛

別電
同一芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛第一二四号

二 次回連盟総会に対するわが方針
同日芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛第一二五号

わが方針の連盟主要国への申入れ方要旨

一、前回ノ総会ニ於テハ三代表其他ニ於テ「サイモン」外相等ト協力シ種々御努力相成リタル結果貴電(二三四文書)第一二五四号程度ノ決議ヲナスニ止レルカ（右決議ノ内容ニシテ具体

ス
ヘ
シ

日支紛争善後方法ニ付テハ内ニアリテ一部極端派ノ妄動ヲ抑ヘ軍事行動ヲ戒慎シ確固不抜ノ国策ヲ樹テ世界各国ヲ之上ニ我方態度ヲ曲解シ非難ヲ加ヘ居ル虞ナントセス現ニ「ソルフ」氏ノ如キモ当國輿論ニ付同様ノ見解ヲ有シ居ル次第ニテ當國新聞ノ善導ニハ今尚幾分ノ余地ナシトセス無論今迄ニ於テモ相當ノ努力ハ之ヲ為シ来リタル儀ナルモ折角御送付ノ宣伝資料モ多クハ其儘利用シ難ク整理翻訳ヲ要スル處之ニ要スル人手及費用足ラス手廻リ兼ネタルト共ニ斯ノ如ク悪化セル局面ニ於テハ外国人ヲシテ運動セシムルコトモ必要ナルモ之ニ要スル費用支出ノ方法更ニナキ次第ナリ多数在外公館ニ於テハ當方ト同様ノ事情ニアルモノ鮮カラスト存スルニ付テハ聊カ手遅レノ感ナキニアラサルモ先以テ宣伝組織ノ改善ヲ計ル必要アルヘシト思考セラル今後殊ニ滿州問題ノ解決迄ニハ幾多ノ曲折ヲ見ルヘキ處我方主張ノ貫徹ハ結局列國輿論ノ理解ニ依ルニアラサレハ徒ニ労多クシテ功之ニ伴ハスト思考スルニ依リ國費多端ノ際化セラルルニ於テハ我方ニ取り甚タ不利ナル結果トナル次第ナルモ該決議ノ程度ナラハ我方カ從來諸條約及理事會決議等ニ依リ負担セル義務以上ニ何等新ナル是具体的ノ義務ヲ負担セシムルモノニ非スト認メ单ニ投票不參加ニ止メタルコト御承知ノ通リナリ) 最近十九人委員会ノ経過等ニ鑑ミルニ小国側ノ純理論ハ依然トシテ旺盛ナルモノノ如ク旁々次回總会ニ於テハ勢ノ赴ク所滿州問題ニ付テモ相當立入りタル審議ヲ行ハムトスル形勢ナルヤニ認メラレ場合ニ依リテハ我方ヲ具体的ニ拘束スル決議迄モ敢テセムトスル虞ナキニ非スト存ス

二、惟フニ連盟側ニ於テハ我方カ上海事件ニ関シ妥協的態度ヲ示シタルコトヲ以テ滿州問題ニ付テモ從來ノ強硬ナル方針ヲ変更スルモノナルヤニ想像シ居ル向モアルヘキ処果シテ然ラハ右ハ非常ナル認識ノ錯誤ト云フヘク元來我方ニテハ滿州問題ノ前途ヲ円滑ニスル為メ支那本部等ニテハ出來得ル限り事端ノ發生ヲ避クル方針ヲ執リ居リ(軍部モ同意見ナリ) 上海事件ニ関スル我方ノ妥協的態度モ亦前記考慮ニ出テタル次ニテ右妥協的態度ハ我方カ滿州問題ニ付確固タル決意ヲ有スルコトヲ默示コソス

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

レ 同問題ニ対スル我カ既定方針ノ変化ヲ意味スルモノニ
非サルナリ

三、従テ連盟側ニシテ我方ノ態度ヲ誤認シ殊ニ現在着々進行シツツアル「リットン」委員会ノ事業ハ今後連盟ノ健全ナル活動ニ対シ有益ナル貢献ヲ為スヘキ徵候ヲ示シ居ル次第ナルニモ拘ラス（今日迄ノ所同委員会ノ調査ハ相当合理的態度ヲ以テ進メラレツツアルモノト認メ居レリ）之ヲモ無視シ遠隔ノ地ニ於テ且不充分ナル智識ヲ以テ而モ極東ニ重大ナル利害ヲ有セサル多数小国側ノ純理論ニ從ヒ万ニモ満州問題ニ付干渉ガマシキ審議ヲ行ヒ且例へハ新國家問題ニ付我方ノ責任ヲ問フトカ又ハ我軍ノ撤退ニ期限ヲ付スルトカ等九月三十日及十二月十日理事会決議ノ範囲以上ニ我方ヲ具体的ニ拘束スル決議ヲ為サムトスルカ如キコトアラムカ右ハ我方ノ到底容認シ得サル所ナリ

四、尤モ右ノ如キ事態ノ発生ハ我方トシテハ極力之ヲ防キ度考ナルモ左レハトテ連盟側カ勢ニ乘シ前記ノ如キ不合理ナル態度ニ出テ来ルニ於テハ我方トシテハ最早連盟ニ對スル我民心ヲ繋キ得サル次第ナルニ依リ二十五日閲議

ニ於テ慎重熟議ノ結果次回総会ニハ別電第一二四号ノ方針ヲ以テ臨ムコトニ決定セルニ就テハ叙上御含ノ上英（サイモン）仏（タルジュ）伊（グランヂー）各國政府当局及「イーマンス」「ボリチス」「ベネショ」ニ対シ松平、長岡、吉田、佐藤各大使及堀田公使等ヨリ夫々從來ノ好意ヲ謝スルト共ニ別電第一二五号ノ趣旨ヲ口頭ヲ以テ申入レラル様致度尚ホ「ドラモンド」ニ対シテモ佐藤代表辺リヨリ右申入レノ次第可然内報セラレ又出淵大使ヨリ米国側ニ本件申入レノ次第ヲ可然内報セラレ度（尚ホ右何レノ場合ニモ書物ヲ先方ニ交付セサル様致度又我方ニテハ最悪ノ事態ノ発生ヲ避ケムトスル誠意ヨリシテ予メ連盟首脳部等ニ申入レヲ為ス次第ニシテ何等宣伝若クハ脅迫ノ意ヲ寓スルモノニアラサルニ付本件ハ必要ノ方面以外ニハ絶対ニ漏洩セサル様先方ノ注意ヲ求メ置カレタシ）

リタシ又米ヲシテ別電ト共ニ参考トシテ加奈陀、玖馬、墨、伯ニ転電シ伯ヨリ在南米各公使ニ転電セシメラレタшиб電ト共ニ参考トシテ支、北平、奉天、廣東ニ転電シ又支ヲシテ南京上海ニ転報セシメタリ

（別電一）

第一二四号 暗、極秘

（一）我方ニ於テハ規約第十五条八日支事件ニ適用アルヘキモノニ非ストノ異議ヲ引続キ明確ニ留保シ置クコト

（二）満州事件ニ関シ総会カ九月三十日及十二月十日ノ理事会決議ノ範囲内ニ於テ原則的決議ヲ為スニ止ル間ハ前回総会ニ於ケル上海事件審議ノ際我方カ第十五条適用ニ関スル留保ヲナシツツモ連盟側ト誠意ヲ以テ協力セルト同一ノ態度ヲ以テ之ニ臨ミ我方ノ意向、措置振等ニ付然ルヘ

ク説明ヲ与フルコト（從テ今次十九人委員会ノ要求ニ基キ事務総長ヨリ九月三十日及十二月十日ノ決議ノ実行振等ニ関スル声明書提出ヲ求メ来レルニ対シテモ右両決議ヲ援用スル適當ノ形式ヲ以テ之ニ応シ差支ナカルヘシ）

第一二五号（暗、極秘）

対連盟総会方針

3月28日後発

（三）総会カ右範囲以上ニ出テ苟モ具体的ニ我方ノ行動ヲ束縛シ

一、由來帝国政府ハ国際連盟ノ事業ニ誠実ニ協力シ常ニ其ノ権威ヲ増進スルニ努メ来レリ從テ連盟カ極東平和ノ確保ノ為メ健全ナル道程ト合理的方法ニ依リ充分ナル寄与ヲナスコトハ帝国政府ノ希望スル所ニシテ我方トシテ之ニ対シ眞面目ナル協力ヲナスノ覺悟ヲ有スルコト多言ヲ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

要セス現ニ昨春連盟ノ支那建設事業援助問題起リタル際

帝国政府カ連盟ニ対シ先ツ技術的方面ヨリ着手シ徐ロニ
政治的方面ニ進ムノ可ナル所以ヲ忠言シタルモ全ク右精
神ニ基キ将来永年ニ亘ルヘキ極東ニ於ケル連盟ノ活動ノ
発足点ヲ過マラサラシメムトスル趣旨ニ出テタル次第ナ
リ

二、然ルニ不幸ニシテ昨秋滿州事件発生スルヤ連盟ハ何等
ノ準備ナクシテ支那ニ閲スル最モ重大且複雜ナル政治問
題ニ逢着スルノ余儀ナキ立場ニ置カレ予ネテ我方ノ憂慮
セルカ如キ困難ナル事態ヲ現出スルニ至レルカ帝国政府
ニ於テハ連盟カ右難関ヲ打開シ極東ニ於ケル其ノ地歩ヲ
永遠ニ保持センカ為ニハ眼前ノ事件ニ付焦慮スルコトナ
ク先ツ以テ極東ノ全般的事態ヲ充分ニ理解スルコト最モ
肝要ト認メタル次第ニシテ曩ニ我方ヨリ進シテ支那調査
委員派遣案ヲ提唱シタルモ亦前記ノ如キ精神ニ出テタル
モノナリ右我方ノ提案ハ幸ニシテ理事会ノ採用スル所ト
ナリ該委員ハ既ニ極東ニ到着シ着々其ノ事業ヲ進捗セシ
メツツアル処偶々上海ニ於ケル地方的事件ノ発生ハ支那
側ニ対シ策動ノ機会ヲ与へ我方ノ反対ニ拘ラス遂ニ総会

三、而シテ総会ニ於テハ極東ニ現実ノ利害ヲ有セス從テ極
東ニ於ケル特殊ノ事態殊ニ支那ノ実情ニ通セサル多數代
表者ノ純理一点張リノ主張甚タ優勢ニシテ實際ノ事態ニ
即セル我方ノ主張ハ兎角ニ無視セラレ結局三月十一日決
議ノ通過ヲ見ルニ至レルカ該決議ハ前述ノ如ク支那調査
委員ハ既ニ極東ニ到着シ着々事業ヲ進行セシメツツアリ
又滿州地方ニ於テハ本年初頭以来何等新規ノ戰闘行為モ
ナク形勢ハ次第ニ平靜ニ向ハムトスルノ兆候アルニ拘ラ
ス（新國家ノ成立ヲ以テ我方ノ責任ニ帰スヘカラサル所
以ハ露宛往電第一二五号ノ通）殊更滿州問題ヲ規約第十
五条適用ノ下ニ置キ且同条第四項ノ適用ヲ予定シ居ルカ
如キ「サイモン」外相等實際政治家ノ尽力ニ拘ラス尚頗
ル現実ノ事態ニ添ハサルモノアリシヲ以テ我代表ハ我方
ノ立場ヲ闡明スルト共ニ第十五条ノ適用ニ対スル異議ヲ
留保シツツ投票ニ參加セサルノ態度ヲ執レリ

四、然レトモ我方トシテハ上海事件ノ勃発ニ依リ一時ニ昂
奮セル世界輿論モ事態ノ判明ト共ニ漸次冷静ニ帰スヘク
旁々諸友好國側ノ斡旋ト相俟ツテ右決議カ慎重且妥当ニ
留保シツツ投票ニ參加セサルノ態度ヲ執レリ

運用セラルヘキコトヲ私カニ期待スル次第ナル處一面總
会十九人委員会ノ経過ヲ見ルニ前記認識不足ノ純理論ハ
依然トシテ旺盛ナルモノノ如ク來ルヘキ總会ニ於テ滿州
問題ニ閲シ立入りタル審議ヲ行ハムトスル策動モ行ハレ
居ルヤニ推セラル節アリ果シテ然ラハ右ハ前記ノ如ク
滿州ノ形勢力次第ニ平静ニ帰セムトスル兆候アリ又支那
調査委員ノ事業モ堅実ニ進行シ居ル今日不必要ニ事態ヲ
荒ララケムトスルモノニシテ三月十一日決議ノ運用ニ閲
スル我方ノ期待ニ反スルト共ニ我方カ規約第十五条適用
問題ニ関スル異議ニ拘ラス上海事件ニ付連盟側ト誠意ヲ
以テ協力ヲ為シ來レル協調的態度ニ顧ミ我方ノ甚タ遺憾
トスル所ナリ

五、日本カ存立ヲ賭シタル二大戦役及該戦役後ニ於ケル絶
大ノ努力ノ結果滿州地方ニ於テ政治上及經濟上極メテ重
大且複雜ナル特殊ノ地歩ヲ有スルコトハ世界ニ歴然タル
事実ニシテ而モ右対満地歩ハ精神的且物質的ニ我カ国民
生活ト不可分ノ關係ニ立チ其ノ消長ハ即チ帝國々運ノ重
衰ヲ意味スルコト今ヤ日本國民ノ確信ヲ成セリ然ルニ排
外運動ト利權回収熱ニ駆ラレタル支那側ハ連盟規約及不

戰條約ノ精神ヲ無視シ凡有ル不法且惡辣ナル手段ヲ講シ
我方ノ正当ナル地歩ヲ覆滅ゼンコトヲ計リタル結果遂ニ
今次滿州事變トナリタル次第ナル處我カ對満地歩ノ重要
性及複雜性並ニ該地歩ニ對スル日本國民ノ確信ニ鑑ミ
且内ニ鞏固ナル統一政府ヲ有セス又外ニ対シ國際約定尊
重ノ誠意ナキ支那ノ現状ニ照シ國際連盟ニ於ケル一般的
純理論ニ依リ滿州事變ノ円満ナル解決ヲ期スルカ如キ固
ヨリ不可能事ニ属シ右解決ノ唯一ノ方法ハ前記各般ノ特
異ノ事情ヲ充分ニ省察シ現実ニ即シタル實際的措置ヲ講
スル外ナキコト我方ノ累次主張シ來リシ通りナリ要スル
ニ滿州事變ニ閲シ第三者カ現実ヲ離レタル措置ヲ以テ我
國ヲ強要セムトスルカ如キ場合ニハ如何ナル犠牲ヲ払フ
モ断乎トシテコレヲ排除セムトスルコト実ニ我國民的信
念ニシテ右信念ハ如何ナル政府ト雖モ之ヲ左右シ得サル
所ナリ（右ハ我方カ滿州問題ニ対シ第十五条ヲ適用スル
ニ反対スル重大ナル政治的理由ナリ）

六、或ハ連盟側ニテハ叙上ノ如キ滿州問題ノ取扱振リヲ以
テ将来歐州又ハ南米等ニ發生スルコトアルヘキ紛争事件
ニ対スル悪例トナルヘキコトヲ憂慮スルモノアルヤモ知

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

レサルモ右ハ全ク杞憂ニ過キス蓋シ日本ノ満州ニ於テ有スルカ如キ特殊ノ地歩ハ他ノ連盟國中ノ何レノ地方ニモ存在セサルコト明ナルト共ニ支那ノ現状ノ如ク其ノ國家組織瓦解シ且國際約定尊重ノ誠意ナキモノハ他ノ連盟國中ニハ一国モ無キ筈ニテ満州問題ハ世界ニ於ケル唯一ノ特例ニ過キサレハナリ將又支那本部ニ対シテハ日本ハ主トシテ經濟的利益殊ニ貿易ノ可能ヲ重要視スル次第ニシテ（此ノ日本ノ立場ハ列國ノ夫レト甚タ類似シ居レリ）右ノ如ク日本ノ満州ニ對スル立場ト支那本部ニ對スル立場トニ根本的差異アルコトハ關係各國ニ於テ充分ニ諒解スルヲ要スル点ナルカ這般ノ消息ハ「リットン」委員会ノ調査ニ依リテモ逐次明白トナルヘキコトヲ信ス

七、固ヨリ我方ニテハ來ル總會ノ會合ニ於テモ大國側其他穩健分子ノ斡旋ニ依リ結局「コンモンセンス」ト「ステーツマンシップ」トカ勝利ヲ得ヘキコトヲ信頼スルモノナリト雖モ前記一部極端論者ノ策動ニモ顧ミ總會合ニ於テ万々一一ニモ九月三十日及十二月十日ノ理事会決議ノ範囲以上ニ出テ我軍ノ撤収ニ期限ヲ付スル等（此ノ際日本軍ニシテ撤収セムカ満州ハ忽チ混亂狀態ニ陥リ延テハ赤

化ノ禍因ヲ釀成スヘシ）具体的ニ我方ノ行動ヲ束縛スルカ如キ決議ヲナサムトスル場合ニハ帝国政府トシテハ前記日本國民ノ信念ニモ顧ミ最早投票不參加ノ如キ妥協的態度ニ止マルコトヲ得ス我代表ヲ總會ヨリ引揚ケシメ爾後我方ノ連盟ノ態度ヲ靜觀シツツ自ラ正シト信スル所ニ向テ進ムノ余儀ナキニ至ルヘシ

八、然レ共斯ノ如キ不幸ナル事態ノ發生ハ從来連盟ヲ信賴シ且日本ノ連盟ニ對スル協力ハ世界ノ平和ヲ確保シ人類ノ幸福ヲ増進スル所以ナルコトヲ確信シ來レル帝国政府ノ甚タ苦痛トスル所ナルト右ノ如キ重大ナル我國策ノ変更ニ關シテハ帝国政府トシテ一大決意ヲ要スル次第ナル一方連盟側トシテモ充分ナル時間ノ余裕ヲ以テ慎重周密ノ考量ヲ之ニ加フルヲ要スル儀ト思考スルニ付茲ニ我方トシテ何等連盟側ニ對シ威迫ヲ加フルカ如キ考ナクニ最惡ノ事態ノ發生ヲ避ケムトスル誠意ヨリシテ主要列國及我方ニ同情アル各國代表者ニ對シ卒直ニ帝国政府ノ苦衷ヲ披瀝シ其ノ深甚ナル考慮ヲ煩ハス次第ナリ

284

昭和7年3月28日

芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

日本の連盟脱退説に關し英國大使に眞意説明
について

第一二六号 暗、極秘

二十八日英國大使來訪一兩日來頻リニ新聞紙上満州問題カ連盟ノ討議ニ上ル場合ニハ日本ハ連盟ヲ脱退スヘキ旨ノ報道伝ヘラルル処自分ハ本国政府ヨリ電訓ヲ受領シタル次第ニアラサルモ日本カ連盟ヲ脱退スヘシト云フカ如キ事ハ重大事件ト思ハルニ付若シ真相ヲ承知スルコトヲ得ハ幸甚ナリト述ヘタルニ付本大臣ハ極秘トシテ左ノ通り答へ置キタリ

御承知ノ通り連盟總会ハ目下休会中ナルモ三月十一日ノ決議ニ基ク十九人委員会ハ時折会合ヲ催フシ日支紛争ニ付協議ヲ為シ居リテ五月一日迄ニハ報告書ヲ提出スル筈ナリ右報告書提出ノ上ハ總会再ヒ開催セラルヘキ處右十九人委員会ニ於テ小國側代表等ハ稍モスレハ満州問題ニ付キ日本ニ不利ナル説ヲ為ス向モアリトノ事ニテ其ノ結果十九人委員会ノ報告書ノ提出トナリ總会ニ於テ満州問題ノ討議ヲ為シ進

285

昭和7年3月(30)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

連盟、仏、伊、白、独及「チエコ」ニ転電アリ度

日本の連盟脱退意向に關するロイテル電報に

ついて

第三二二号

二十日当地諸新聞ハ二十六日東京発路透電報トシテ

満州問題ニ規約第十五条ヲ適用スル場合ニハ日本政府ハ連盟ヲ脱退スル意向アル旨ヲ正式ニ事務局ニ通告スヘシ右ハ「ドラモンド」氏カ佐藤氏ニ対シ連盟側カ第十五条適用ニ決スヘント語レルニ基ク如シ

トノ記事ヲ掲ケタルカ二十八日更ニ倫敦経由電報トシテ右ニ関シ

満州問題ニ付テハ「リットン」卿ノ報告ヲ待ツノ要アリ若シ同報告ニシテ極東ノ実状ヲ依然正解セサル場合ニハ日本ハ連盟脱退ノ外ナシ

トノ趣旨ノ荒木陸相ノ談話ナルモノヲ掲載セリ
286 昭和7年3月(31日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会各国代表の帰国について

第三二二号

本官発支宛電報

第二三三号

定方について

第五五号(暗)

(二八三文書)

連盟宛貴電第一二三号ニ関シ

前回ノ総会決議カ小国側ノ理論ニ影響セラレタルハ當時上海ノ事態ハ最悪ノ場合ニテモアリ又総会ニ於ケル我方ノ態度ニ於テ多少過度ニ小国側ニ対シ挑戦的ナリシ嫌モナキニ非ス其後上海ノ事態モ漸次平静ニ向ヒ我出兵ニ関スル帝国政府ノ存意モ了解セラルルニ至ラハ十九人委員会乃至次回

佐藤ヨリ
「イーマンス」ハ目下帰国田舎ニ休養中ニシテ何日頃武府ニ帰還スヘキヤ明カナラサル処若シ近日中帰還ノ場合ニハ本使武府ニ帰任シ御訓令ヲ執行スヘキモ然ラサル場合ニハ「イ」ノ来寿ヲ待ツコトト致スヘキニ付右御含置ヲ請フ尚独逸代表ハ十二国理事ノ会合及十九人委員会ニ於テ常ニ我方ニ好意アル態度ヲ示シ来レルコトニモアリ貴電第一二五号ノ趣旨ヲ英、仏、伊三国ニ申入レラルル場合ニハ等シク常任理事国タル独逸当局ニモ同様申入レシメラルルコト然ルヘキヤニ思考ス

総会モ我方ノ容認スル能ハサル事態ヲ強フルカ如キコトナク冷静ナル態度ニ立返ルニ至ランカトモ思考シ得サルニモ非ス将又帝国政府トシテハ十九人委員会等ヲシテ益々合理的態度ヲ執ラシムル様言動スルニ努メラルヘキナリト存ス就テハ御電訓ノ趣旨ハ洵ニ御尤モ乍ラ目下十九人委員会ハ「イースター」休会中ナレハ此際本件ニ関スル措置ハ先ツ一応英米仏ニノミ限ラレ予メ右三国ニ対シテ御訓電ノ趣旨ヲ説明シ依テ以テ之等三国ヲシテ小国側ヲ説服セシムル様仕向ケラレ爾余ノ國ニハ右三国ノ態度ヲ見タル上御来示ノ申入ヲ為スヤ否ヤヲ決スル方穩當ニシテ其目的ヲ達成スルニ却テ有効ナルヘキカト存ス心付ノ儘申上ク一応御詮議ヲ請フ

英、仏、米、独、白、致、連盟ヘ転電セリ

288 昭和7年4月(1日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

次回連盟総会への我方針申入れ國にドイツを追加方について

第三二四号(暗)
(二八三文書)
貴電第一二三号ニ関シ

貴電第五七号及貴電合第五九一号ニ関シ

佐藤ヨリ

軍縮會議ノ休会ニ伴ヒ十九人委員会ノ各国代表モ引続キ帰國中ナルノミナラス当地ニ於テハ支那側ニテモ宣伝等ヲ為シ居ル形勢ナク上海撤兵交渉ノ内容ニ関シテハ目下ノ所何等問題トナリ居ラサル現状ナリ勿論今後ノ模様ニ依リテハ貴電ノ趣旨ニ依リ充分手配スヘキモ右不取敢

大臣ヘ転電セリ

287 昭和7年3月(31日) 在イタリア国吉田大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

我が対連盟総会方針申入れは英米仏三国に限

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

臘兩代表ニ対シ極ク内密ニ通報スル次第ニシテ万ー外間ニ洩レ日本カ連盟ニ対シ脅迫ケ間敷キ態度ニ出ツルモノナル如キ誤解ヲ招ク様ノコトアリテハ意外ノ困難ヲ惹起スルヤモ計ラレサル次第ニ付此ノ点特ニ御留意アリ度シト付言セリ

右ニ対シ「ベ」ハ大国側ト共ニ自分ニ対シスル重大ナル決意ヲ内報セラレタルハ自分ノ日本ニ対スル好誼ニ信任ヲ置カレタルモノニシテ特ニ感謝スル所ナリト冒頭シタル後右申入中ニ支那ハ歐州又ハ南米等トハ事態ヲ異ニスル云々ノ一点アリ自分モ至極同感ナルカ唯連盟規約上ハ斯ル区別ハ為シ有ラス日支問題ノ複雜困難ナルハ能ク了解シ居レルモ遠ク歐州ヨリハ容易ニ事態ヲ解シ難ク各国カ夫々自己ノ立場ヨリ立論スルコトハ已ムヲ得サル所ニテ自分トシテモ先

ツ欧洲ノ一国タル自國ノ立場ヲ忘ル能ハサルハ容易ニ諒解セラル所ナルヘシ又政治カ理論ノミヲ以テ律シ難キハ勿論ナルヘキカ故ニ日支問題モ實際的見地ヨリ解決ノ必要アリトノ見解ハ全然同感ナリ寿府ニ於テ余カ佐藤代表ニモ内話セル如ク過般ノ委員会ニ於テ滿州問題ニ付何等宣言ヲ為スヘシトノ議アリタル際余カ極力之ニ反対シタルモ右ノ

趣旨ニ出ツルモノナリ唯問題ノ困難ハ此實際ノ状況ト連盟規約遵守ノ理論トノ調和点ヲ如何ニシテ見出スコトヲ得ヘキヤノ点ニ在リ本件ニ関スル日本ノ希望ハ要スルニ調査委員会ノ帰来スル迄ハ十九人委員会ハ滿州問題ニ關シ何事ヲモ為ササルコト適當ナリト云フニアル如クナルモ現ニ五月一日迄ニハ第一回経過ヲ総会ニ提出セサル可カラス且支那側ヨリ種々ノ申出アルヘク委員会開催ノ場合滿州問題ニ關シ種々ノ議論出ツ可キハ自然ノ趨勢ニテ到底防止シ難キ處タル可シ自分ハ連盟規約ト調和ヲ計リ得ル範囲ヲ出テサル限り委員会ノ議論ヲ日本ニ有利ニ導ク事ニ努力スルモ左スルカ為ニハ是亦寿府ニ於テ佐藤代表ニ語リタル通りテサル本側ノ具体的解決案ヲ承知スルヲ得ハ至極好都合ナリト述ヘタリ

依テ本使ハ右ハ既ニ佐藤代表ヨリ本国政府ニ電報アリタル答ト思考スルモ尚本使ヨリモ早速我政府ニ伝フル旨ヲ答ヘ更ニ滿州カ政治上、經濟上又国防上日本ニ執リ極メテ重大ナル事ハ詳細説明シタル通りニテ從テ滿州ノ治安ハ日本ノ最モ重要視スル処ナリ⁽³⁾這ハ全然一個ノ私見ナルカ滿州問題解決ノ要点ハ實際的見地ヨリ如何ニセハ滿州ニ於ケル治安

維持ノ実ヲ挙ケ得ヘキヤニ在リ滿州ノ平和カ確保セラルレ

ハ極東ノ平和モ確保セラルヘク即チ世界平和確保ノ機關タル連盟ノ目的ニモ副フ所以ナレハ此見地ヨリ連盟規約遵守ノ理論ト調和シタル解決案ヲ見出シ得サルニアラサルヘシ

抑支那カ今日ノ混亂状態ニ在ルハ支那人ニ政治的組織能力

ノ欠ケタルコトヲ証スルモノニシテ從テ支那人ノ手ニ放任

セハ滿州ノ治安維持ハ到底実現ノ望ナク勢ヒ日本ノ援助ヲ

必要トスル次第ナリ而シテ日本トシテハ何等領土的野心ヲ

抱カサルノミナラス門戸開放主義ヲ忠実ニ支持スルモノナ

ルコトハ既ニ声明セラレ居ル通ナリ滿州問題ヲ考察スル

ニ当リテハ是等ノ点ヲ念頭ニ置カルルコト必要ナルヘシ
⁽⁴⁾ 尚我方申入ノ趣旨ハ要スルニ前回總会ニ於ケルカ如キ多數小國側カ空論ニ走リ複雜極マリナキ滿州問題ヲ簡単ニ解決シ去ランツスルカ如キ事態ヲ阻止シ特別委員会ノ審議カ満

州ノ実状ヲ考慮ニ入レテ慎重ニ行ハレンコトヲ希望スルモ

ノニシテ調査委員会ノ報告サヘ提出セラレサル間ニ輕挙盲動例ヘハ期限ヲ明示シテ日本兵ノ撤退ヲ決議スト云フカ如

キ九月三十日及十二月十日ノ理事会決議ヲ逸脱スル措置ニ出テサル様充分ノ考慮ヲ加ヘラレソコトヲ求ムル次第ナリ

ト述ヘタル処
「ベ」ハ日本政府申入ノ趣旨ハ良ク了解シタリ連盟規約ノ原則ト實際問題トノ調和ヲ計ルハ頗ル困難ナルモ更ニ寿府ニ於テ日本代表部側ト密接ナル連絡ヲ取り適當ナル解決ヲ求ムルコトニ努力スヘシト答ヘタリ
英、仏、伊、白、連盟、米ヘ転電セリ

290 昭和7年4月1日

芳沢外務大臣より
在獨國小幡大使宛（電報）

次回連盟總会への我方針トイツ政府に申入れ

について

第三〇号 暗、至急

（二八三文書）

寿府宛往電第一二三三号ニ関シ

責任国当局ニモ可然申入アリ度

米、支、北平ニ転電セリ

寿府、英、仏、伊、白、智ニ転電アリ度

芳沢外務大臣より
在イタリア国吉田大使宛（電報）

次回連盟總会への方針をイタリア政府に説明

第二八号 暗、至急

貴電(二八七文書)第五五号ニ関シ

本件申入ハ連盟関係ノ要所ヲ逸セサルコト肝要ナルノミナラス英仏側ニ申入レ且米国ニモ内報スル以上從来我方ニ同情的態度ヲ示シ且大国タル伊太利ヲ除外スルハ面白カラス又議長タル「イーマンス」事務総長タル「ドラモンド」及我方ニ同情アル「ボリチス」「ベネシュ」(殊ニ「ベ」ハ寿府來電(二六五文書)第三〇一号ノ經緯モアリ)ニモ同時ニ申入又ハ内報ヲナスコト可然ト存スル次第ナルニ付往電(二八三文書)第一一二三号通り御取計相成様致度

訓令トシテ米ニ転電セリ

訓令トシテ英、仏、智ニ転電シ参考トシテ独、白ニ転電アリ度

292

昭和7年4月2日

(※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報))

アブノル事務次長に次回総会への我方針説明について

第三二九号(暗)
(二八三文書)
貴電第一二三三号ニ関シ

佐藤ヨリ

三月三十一日「アブノル」ニ面会(「ドラモンド」ハ休暇中)帝国政府ハ英、米、仏其他二、三ノ大国及友好國ニ対シ極ク内密ニ左ノ趣旨ノ通告ヲ為ス筈ニテ事務総長ニ対シテモ右ノ次第内話センカ為ニ來訪セリト前置キシ貴電ノ趣旨ヲ口頭ニテ説明セリ右ニ付「ア」ハ(我)政府ノ好意ヲ謝シ且ツ左ノ如キ私見ヲ申述ヘタリ

滿州問題ニ関スル日本政府ノ御懸念ハ自分モ宜ク了解スル所ナルモ同問題トテ一ノ國際問題ナルハ明カニシテ日本政

府モ之ヲ國際問題トシテ容認セラレタルカ故ニ從来理事会ニテ論議ニ参与セラレタルモノト云ハサルヲ得ス唯國際問題トシテ連盟力取扱フ範囲内ニ於テ日本カ滿州ニ於テ有スル特殊權益ヲ主張シ連盟ヲシテ其特別ノ地位ヲ容認セシメントスルハ了解シ得ヘキコトニシテ深ク不審トスルニ足

ラス然ルニ万一日本政府ニ於テ絶対的態度ニ出テ「リットン」報告提出前ニテモ断然タル処置ニ出テラルルカ如キコトナリテハ第一日本ハ從来執り来レル態度ニ違背スルコトトナリ輿論モ之ヲ了解ス間敷キニ付テハ先ツ該報告ノ提出ヲ待チ且理事会ニテ審査決定ノ模様ヲ觀ラルル様致度ク理

事会ノ審査ハ多分十一條ノ下ニ為サルヘシト觀ルヲ妥當トスヘシ云々

右ニ対シ本使ハ日本政府訓令ニ依ルモ何レモ早急ニ事ヲ荒立テル趣旨ニアラサルヘキハ只今御話シタル通ナル処理事會カ十一條ニ依リ審議ノ場合ハ從来ト異ナル處無キニ付日本政府ニテモ異議ナカルヘキモ理事会カ仮令十一條ニ拠ラントスル場合ニ於テモ總会ハ既ニ十五条ニ依ル支那ノ要求ヲ取上ケタル今日斯クノ如キ理事会ノ態度ヲ容認ス間敷ク茲ニ總会、理事会間ノ紛議ヲ來ス惧アルヤニ感セラルト述ヘタルニ「ア」ハ理事会ニテ幸ヒ或ル協定ニ達シ得タリトセハ実ハ十一条トモ十五条トモ大差無ク不幸妥協成ラサル場合初メテ總会ニ移サル事トナルヘシト答ヘタリ

尚本使ヨリ本日ノ申入ハ絶対外部ニ洩ラササル様致度ト念ヲ押シ置キタリ

英、米、仏、伊、独、「チエッコ」ヘ転電セリ

293 昭和7年4月2日
在英國松平大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

我が次回連盟總会への方針申入れを英米仏三国に限定方支持について

第一六六号(暗、至急、極秘)
(二八三文書)
連盟宛貴電第一一二三号(三十一日接到)(ハ)帝国政府ノ連盟ニ対スル重大ナル御方針ナル処右ハ對列國關係ニ於テ滿州問題ノ解決ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキニ付之カ執行ニ当リテハ其文言其他ニ付最モ慎重ナル考量ヲ要スヘク一日ヲ争ヒテ急進シ却テ誤解ヲ生スル如キコトナキ様目下篤ト研究中ナリ右ニ関シ吉田大使ヨリ閣下宛電報(二八七文書)第五五号ヲ以テ稟申ノ意見ハ本使ニ於テモ全然同感ニシテ此ノ際御訓令ノ如キ広キ範囲ニ於テ之ヲ話スニ於テハ忽チ小国ニモ知レ渡リ連盟ニ対スル強迫ト認メラルル惧レアルノミナラス動モスレハ連盟小国間ニ開陳セラタル(大)國ニ対スル嫉妬心ヲ起サシムル惧アリ極メテ機微且危險ナル狀態ヲ起スコトナキヲ保セス(二八七文書)ハ規約ノ解釈上已ムヲ得ス滿州問題ノ除外ヲ拒否スル能ハナル情勢ニ陥リタルモ成ル可ク滿州問題ノ論議ヲ後廻シトハ規約ノ解釈上已ムヲ得ス滿州問題ノ論議ヲ後廻シトナシ其ノ内調査委員会ノ報告ヲ待チ且ツ事態ノ緩和セラル模様ニ依リテハ小国側ノ過激分子ヲ抑ヘント考ヘ居ル様看取セラルルニ付(勿論滿州問題ニ關シテモ我方ニ於テ企圖スルコトハ如何ナル形ニテモ承認セントスル意向ニハ非

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ス) 此ノ際成ル可ク少数ノ者(脱)ニ語リ其ノ結果ヲ見テ漸次之ヲ拡クルモ決シテ時機ヲ失スル惧ナシト思考ス(此ノ点ハ出淵大使ノ意向ヲ尊重スヘキ事勿論ナリ)

右不取敢卑見上申ス

米、仏、独、白「チエコ」連盟へ転電セリ

294 昭和7年4月2日

(在英國松平大使より
芳沢外務大臣宛(電報))

次回連盟総会への我方針をサイモン外相へ申

入れについて

第一六八号(暗、極秘)

四月一日「サイモン」ニ会見連盟宛貴電第一一五号ヲ英訳

シ之ヲ読み聞カセタル處「サ」ハ熱心ニ聽取り時々遅リテ質問ヲ試ミ満州問題ニ関シテモ九月三十日決議ニ於ケル如ク成ル可ク速ニ鉄道付属地ニ兵ヲ撤収スルコトノ希望ニ付テハ将来ニ於テモ論議セラルコト避ケ難カルヘシト述べタルニ付本使ハ右決議ノ範囲内ニ於テハ我方ニ於テモ苦情ヲ有スルニ非ス十一月十日及九月三十日ノ決議ノ範囲ヲ越ヘテ不当ナル拘束ヲ加フル如キ場合ニハ我方ニ於テ総会ヨリ脱退ノ已ムナキニ至ル趣旨ナリト連盟宛貴電第一二五号

(二八三文書)

「サ」ハ出来得ル丈ヶ努力スヘキモ上海事件ハ英國人ニ取リテハ特ニ痛痒ヲ感セシメ過般來議会ニ於ケル答弁ニ当リテモ頗ル苦闘セル次第ニテ此ノ方面ノ事態速ニ解決セハ満州問題ノ取扱上大ナル差異アルヘキ様思考スル旨述ヘタリ

アリタキ旨希望シタル処

「サ」ハ出来得ル丈ヶ協調ノ態度ヲ以テ速ニ事件解決ニ努メ居ルモ支那側ニ於テ殊更遷延ノ策ヲ取り居ルコトハ遺憾ナリト述ヘタリ

「サ」ハ更ニ本日ノ御話ハ他ノ大国ニモ内報セラルヘキヤト尋ねタルヲ以テ大国及「ベネシュ」「ポリチス」「イー

マンス」等從来比較的公平ノ態度ヲ取りタル代表者ニハ内報ノ筈ナルカ自分一個ノ考トシテハ先ツ徐々ニ開陳スル方外部ニ漏洩シ惡宣伝ニ供セラル虞ヲ幾分防キ得ヘシト思考シ政府ニ意見ヲ稟申セルモ既ニ「ベネシュ」等ニハ訓令執行セラレタル旨話シタルニ独逸ニハ話サレサルヤト問ヒタルニ付右ハ訓令中ニハ無キ旨ヲ答ヘタリ

「サ」ハ自分ノ方トシテハ漏洩セサル様充分注意スル積りナリト述タリ

右質問ハ早晚「ダニユーブ」問題等ニ関連シ独、仏、伊等ノ外務大臣來英ニ付其際ニ於ケル話等ノ為予メ確メタルニアラスヤト思ハル

米、仏、独、伊、連盟、「チエコ」、白ヘ転電セリ

295 昭和7年4月2日
(在仏國長岡大使より
芳沢外務大臣宛(電報))

次回連盟総会への方針をタルジュー首相へ申

入れについて

ノ(2)ノ趣旨ヲ答ヘタルニ「サ」ハ総会脱退トハ連盟自身ヲ脱スル意味ニ非サルヤヲ尋ネ本使ハ訓令ニハ総会ヨリ代表ヲ引揚ケシマルコトノミ記載シアル旨ヲ答ヘタリ「サ」ハ右御来示ヲ謝シ日本ノ右態度ハ遺憾ナルモ英國政府トシテハ是迄出来得ル丈ヶ緩和ニ尽力シタルコトハ御承知ノ通ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ同外務大臣ノ過激分子ヲ抑ヘテ右訓令記載ノ如キ不祥ナル事態ノ発生セサル様引続キ尽力

ノ(2)ノ趣旨ヲ答ヘタルニ「サ」ハ総会脱退トハ連盟自身ヲ脱スル意味ニ非サルヤヲ尋ネ本使ハ訓令ニハ総会ヨリ代表ヲ引揚ケシマルコトノミ記載シアル旨ヲ答ヘタリ「サ」ハ右御来示ヲ謝シ日本ノ右態度ハ遺憾ナルモ英國政府トシテ

ノ(2)ノ趣旨ヲ答ヘタルニ「サ」ハ総会脱退トハ連盟自身ヲ脱スル意味ニ非サルヤヲ尋ネ本使ハ訓令ニハ総会ヨリ代表ヲ引揚ケシマルコトノミ記載シアル旨ヲ答ヘタリ「サ」ハ右御来示ヲ謝シ日本ノ右態度ハ遺憾ナルモ英國政府トシテ

英、伊、白、米、連盟ニ転電セリ

三、就テハ右諸点ニ付当方ニテ含ミ置ク可キ点アラハ至急
御回電相成度シ尚本使御信任状捧呈ハ四月七日ト決定セ
リ

ニ於ケル立場ヲ惡シクシタリト思考ス今ヤ英國ハ米國ノ
鼻息ヲ窺ヒ居ル故ニ只今ノ御話ニ付テモ英國カ何ノ程度
迄煮ヘ切りタル事ヲ言フカ明カラサルモ御内報ノ問題
ト共ニ更ニ御話シタキ故ニ英國ヨリ帰巴ノ上再ヒ会見シ
タシト述ヘタリ

憾トシ居ルモノ故ニ此際再ヒ從来ノ如ク結束ヲ固ムル必
要アリト思考ス若シ幸ニ御同感ナルニ於テハ倫敦ニ於テ
右ノ方向ニ話ヲ進ムル様御尽力ヲ願ハレハ好都合ナリ
ト述ヘタルニ「タ」ハ至極同感ナリ一体事ノ起リハ英國
カ惡ク英國カ日英同盟ヲ廢棄セシハ英國殊ニ日本ノ支那

正解シ吳レ居ル「ベネシュ」及「ポリチス」ニ話ス筈ニ
ナリ居レリト答ヘタル処（在伊吉田大使発貴大臣宛電報
（二八七文書）
第五五号ヲ以テ稟申ノ次第アリタルカ既ニ堀田公使ニ於
テ「ベネシュ」ニ通告シタルコトヲ承知シ居リタルニ付
御訓電通運フ外無カルヘシト考ヘスク答ヘタリ）「タ」
ハ更ニ仏國以外ニ内報済ナリヤト問ヘルニ依リ自分ハ何
レヨリモ通告済ノ電報ニ接シ居ラスト答ヘタルニ満足氣
ナル面持ナリキ

一、上海交渉ハ漸次進捗シ居ル模様ナルモ最後ノ瞬間ニ責
任ヲ執リテ調印スル支那人カ有リ得ヘキヤ治外法權問題

ニテ英國カ遭遇セル如キ破目ニ陥ル場合ハ甚タ面白カラ
スト考ヘシ故ニ右ノ趣旨ヲ敷衍シテ両当事国モ満足シ又

現ニ妥協ニ骨ヲ折リ居ル列国代表者モ妥當ナリト認ムル
協定案ニ對内事情ノ為支那カ調印ヲ拒ミ再ヒ上海事件カ
連盟ニ持出サルルカ如キコトナル場合ハ騒カスニ済ム
事件ヲ又蒸返スコトニナル故ニ甚タ好マシカラスト思フ

ニ付斯ル場合ハ列強カ共同シテ支那ヲ圧迫スルコトカ極
東平和ノ為最モ必要ナリト考フ自分ハ閔税會議以来列強
ノ結束カ乱レ殊ニ英國ノ漢口、九江租界事件等ハ頗ル遺

別電 同日芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務

局長宛第一四七号、第一四四号

連盟事務総長あて回答について

第一四六号 暗、至急

佐藤理事へ

貴電第三〇三号ニ閔シ

（二六六文書）

別電第一四七号ノ送状（往電第一二二四号（括弧内ノ趣旨ニ
依レルモノナリ）ヲ付シ別電第一四四号ノ情報ヲ「ドラモ

ンド」ニ送付アリ度尙ホ右送付済ノ上ハ直ニ電報アリ度

別電ト共ニ支、奉天、北平、廣東及米ニ転電シ支ヲシテ南

京、上海ニ転報セシメ又米ヲシテ加奈陀、玖瑪、墨国、伯

国ニ転電セシメ伯国ヲシテ在南米公使ニ転電セシメタリ

別電ト共ニ在欧各大公使ニ転電アリ度尙ホ「チエコ」ニハ

御裁量ニ依リ往電第一三二号乃至第一三四号等ヲモ転電ア

リ度

（別電）

（）

九月三十日および十二月十日理事会決議実施

情報の連盟への提供について

連盟事務総長宛

佐藤理事

帝国政府ハ九月三十日及十二月十日理事会決議ニ基キ日支紛争事件ニ関スル事態ノ進展ニ関シ隨時情報ヲ理事会ニ供給シ來リタル次第ナルカ本理事ハ政府ノ訓令ニ依リ茲ニ別添ノ通り更ラニ右二回ノ決議ニ基キ本件ニ関スル概括的情報ヲ提出ス

第一四四号（暗）

、日支間ノ紛争事件ニ関シ帝国政府ハ客年九月三十日及十二月十日理事会決議ノ趣旨カ其ノ既定方針ニ合致スル所ナルヲ認メ欣然之ニ参加スルト共ニ之カ誠実ナル遵守ヨ期シ殊ニ帝国臣民ノ生命財産ニ対スル安固カ充分ニ確保セラルルニ於テハ出来得ル限り速ニ帝国軍ノ撤収ノ行ハレムコトヲ希望セリ

一、然ルニ客年九月十八日ノ事変發生ト共ニ旧東北政権ノ主ナル官吏ハ殆ト全部逃亡シ其ノ支配下ニ属シタル多数ノ正規兵ハ無統制ニ帰シ満州各地ノ治安著シク乱レタル処當時支那側ノ手ニ依ル治安回復ノ方法トシテ考慮スルコト可能ナリシモノ左ノ二個アリ即チ第一ハ支那本部ヨリ人ヲ派シ無統制ニ帰シタル支那軍隊ヲ再ヒ集結シテ各

設立セラレタルカ帝国政府ハ第一項ノ精神ニ基キ之ニ對シ同情的態度ヲ以テ臨ミタリ（関係文書トシテ客年九月二十九日付及十月一日付支那側トノ往復文書ヲ引用ノコト）

四、然ルニ支那側ニ於テハ形勢ノ緩和ニ資スヘキ何等ノ誠意ヲ示サス前記帝国政府トノ直接交渉ニモ応セサルノミカ却テ事態ヲ悪化スルカ如キ態度ニ出テ殊ニ張學良ハ九月二十三日所謂錦州政厅ナルモノヲ設立シ満鉄沿線其他日鮮人居住地方ニ於ケル治安ノ攪乱ヲ計ラシメ同政厅ハ南北滿州各地ニ於テ兵匪馬賊等不逞分子ヲ使用シテ帝国臣民ノ生命財産ニ対シ多大ノ脅威ヲ与ヘタルヲ以テ我軍ハ止ムヲ得ス必要ノ地方ニ出動シ之カ討伐ニ任せサルヲ得サリキ（客年九月三十日以後大体同年末迄ノ兵匪馬賊等不逞分子ノ跳梁状況及我軍出動状況ニ付テハ往電第一三二号ヲモ参照ノ上関係文書ヲ引用シ又ハ付属書ヲ作成スル等セラレ度）

六、帝国政府ハ第四項ニ所述セル我軍累次ノ出動殊ニ客年
末遼西地方ニ於ケル不逞分子ニ対シ我軍ノ行ヒタル比較
の大規模ノ討伐ニ依リ且ハ満州各地ノ自治的機關ノ実力

三、右第一ノ方法ニ付テハ帝国政府ハ支那軍隊ノ集結力單純ニ治安回復ノ目的ヲ以テ行ハルモノナリトスルモ日支両國間ノ国民的感銘ノ著シク昂奮セル折柄殊ニ一度日本軍ト衝突セル支那軍隊力事變直後ノ緊張セル事態ノ下ニ再ヒ日本軍ト對峙スルカ如キ地位ニ立ツコトハ重大ナル危險ヲ包藏スルモノナルヲ以テ若シ該方法ヲ實行スルトスルモ之カ實行ヲ有効ナラシムルカ為メニハ先ツ以テ日支双方協力シテ両國間国民的感銘ノ緩和ヲ図リ殊ニ空氣緩和ノ第一歩トシテ両國間ニ直接交渉ヲ開始スルノ要アリトノ見解ヲ執リ累次右趣旨ヲ支那側及世上一般ニ対シ表示シ來レリ（關係書類トシテ客年十月十日付及十二月付ノ理事会トノ往復文書、十月五日付及九日付ノ支那側トノ往復文書、十月二十六日付帝国政府聲明、十月二十七日付及三十一日付支那側トノ往復文書、十一月四日付及十六日付支那側トノ往復文書等ヲ引用スルコト）次ニ第一ノ方法ニ付テハ事變以來奉天吉林其他滿州各地ノ支那要人ニ依リ地方的治安維持ヲ目的トスル自治機關增加ニ依リ早キニ及ソテ充分ニ治安ノ回復スヘキコトニ多大ノ期待ヲ懸ケタル次第ナルカ其後ニ於ケル事態ノ推移ハ帝国政府ヲシテ滿州ニ於ケル治安回復ノ極メテ困難ナルコトヲ益々明瞭ニ認識セシメタリ蓋シ前記自治的機関ハ漸次地方政府ノ形態ヲ具ヘ來リ或ハ曰東北政權ノ軍隊ヲ收編シ又ハ警察隊ヲ新設スル等ノ方法ニ依リ次第ニ其ノ治安維持能力ヲ増加シ最近ニハ或程度ニ於テ奥地方面ノ不逞分子ノ討伐ヲ行ヒ得ルニ至レルカ而モ其ノ力ハ今尚ホ甚タ不充分ナルヲ免レサル一方支那本部側殊ニ張學良ノ満洲治安攪亂策ハ依然トシテ繼續セラレ居ルヲ以テ一般的の治安カ大規模ニ攪亂セラレ又ハ帝国臣民ノ生命財産ニ對スル安全カ著シク危殆ニ瀕スルカ如キ虞アル場合ニハ我軍自ラ不逞分子ノ鎮圧ニ当ラサルヘカラサル現状ナリ（最近ニ於ケル兵匪馬賊ノ跳梁狀況、支那側新權力ノ治安維持能力充実狀況及右ニ依ル不逞分子討伐狀況並ニ我軍出動狀況ニ付テハ往電第一三三号及第一三四号ヲ利用シ可然付屬書ヲ作成セラレ度）

形成シ居ルト共ニ（先年張作霖カ名実共ニ独立政権ヲ樹立シ（一九一四年五月ノ露支協定カ滿州ニ閔スル限り同年九月ノ奉露協定成立ニ依リ初メテ実施セラレタルコト往電第九五号ノ通り）次テ張学良南京政府ト合流後ト雖モ事實上ニ於テ独立ノ形態ヲ維持シ居タルカ如キ何レモ右滿州ノ特異性ニ基クモノナリ）一方滿州内部ニ於テハ久シキニ亘リ張家ヲ主班トスル軍閥ノ虐政ニ対スル人民ノ反感甚シキモノアリ其ノ間東北分治運動等モ存シタル次第ナルカ前記支那要人ニ依ル地方的治安維持ノ努力ハ右各般ノ事情ヲ背景トシテ自然ニ前省長等ヲ主班トスル滿州獨立運動ニ転化シタルモノノ如ク最近ニ至リ此等人士ハ国民政府其他支那本部ノ政権ノ滿州ニ波及スルコトニ反対セル一ノ新政府ヲ樹立セリ帝国政府トシテハ滿州地方ニ於ケル我方權益ノ重大ナルニ顧ミ同地方ニ於ケル政情ノ推移ニ關シテハ多大ノ関心ヲ以テ之ヲ注視スルモノナル処叙上滿州政情變化ノ結果第二項所載ノ治安回復ニ関スル第一ノ方法ハ其ノ日本国民政府其他支那本部ノ權力ニ反対シテ樹立セラレタルモノナルコト及一旦無統制ニ帰シタル旧東北政権ノ軍隊ハ其後第五項所述ノ如ク

七、支那本部ニ於ケル排日運動力事實上国民政府ノ操縦スルモノナルコトハ何等ノ疑ナキ所ナルカ我方ニ於テハ右行動ハ啻ニ事件不拡大、事態不悪化ニ閔スル理事会ノ決議ニ背馳スルニ止マラス武力ニ依ラサル敵対行動ト認ムヘキモノナリトノ見解ヲ執リ幾度トナク同政府中央及地方官憲ノ深甚ナル反省ヲ求ムルト共ニ累次連盟側ノ注意ヲ喚起シ來レリ然ルニ国民政府ニ於テハ排日運動ニ対シ何等ノ取締ヲ行ハス却テ之ヲ獎励スルノ態度ヲ執リ排日運動ハ益々暴威ヲ逞ウシツツアル次第ニシテ敍上ノ状況ハ上海事件ニ閔スル説明書（往電第六九号）ニ詳記セリ尚ホ上海事件ノ經緯ニ付テハ右説明書（往電第六六号）中ニ記載シ置キタル通りナリ

新政府ニ依リ漸ク収編セラレ居ルコト等ニ顧ミ益々其ノ實行性ヲ欠キ來レルモノト認メラル次第ニシテ結局帝國政府トシテハ新生ノ独立政府ノ下ニ滿州全般ノ治安力充分ニ維持セラルカ如キ事態ノ一日モ速カニ到来セムコトニ多大ノ希望ヲ懸ケ居レリ尚ホ右治安ノ回復及維持ノ為メ日本軍ハ現ニ友好的態度ヲ以テ該政府ノ警備力ト必要ノ連絡ヲ保チツツアリ

297 昭和7年4月5日 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

日本紛争と米国の貿易の将来に関するクライ
ア商務次官の演説について

第二六六六号

Assistant Secretary of Commerce, Kleinハ三日「ラヂオ」演説ニ於テ米国ノ貿易カ独逸等ノ競争ニ打克ツテ次第ニ日本及支那ニ於テ地歩ヲ獲得シ居ル状況ヲ述ヘタル後上海時局ニ言及シ概括的ニ云へハ支那自体ニ閔スル限り日貨排斥ハ米国貿易ノ利益ヲ意味セス何トナレハ米国ノ対支輸入品ト日本ノ其レトハ種類ヲ異ニスルヲ以テナリト云ヒ更ニ吾人ハ屢々滿州ニ於ケル最近ノ軍事行動及此ニ伴フ行政組織ノ変更カ米国貿易ニ如何ナル影響ヲ与フルヤトノ質問ニ接スル次第ナルカ滿州ノ新事態カ果シテ幾何ノ永続性ヲ有スルヤ予断ヲ許ササルモ現在ノ計画ニ依レハ滿州ニハ大道路ノ建設都市計画ノ実行学校ノ設備改善各種研究所ノ設立及凡ユル形式ノ経済的活動ニ対スル一層健全ナル投資ノ発展ヲ見ルヘク旁々右計画具体化ノ暁ハ外国ノ資本及其他ノ援助ヲ必要トスヘク要スルニ極東ノ「モダニゼーションコ

298 昭和7年4月5日 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

滿州問題と連盟規約第十五条、九国条約等との関係に関する米国務長官の談話について

第二六七号（極秘）

國務長官病氣ノ為最近二週間引籠り居リ今四日前会見ノ機ヲ得タルニ付連盟宛貴電第一一二三号御訓令ニ從ヒ同第一二五号ノ趣旨ヲ然ルヘク内話シタル處同官ハ篤ト本使ノ所言ヲ聽取り且要件ヲ書留メタル上差当リノ所見トシテ大要左ノ通り語レリ

（）米国ハ連盟ニ加ハリ居ラサル關係上滿州問題ニ対シ十五条適用ノ當否ニ閔シ何等意見ヲ述フルコトヲ得サルモ日本政府ノ予テ主張セラルカ如ク直接交渉ノミニ依リ解決ヲ計ラントスルモ到底其目的ヲ達スルコト困難ナルヘシト信スルモノニシテ從テ自分ハ屢々貴大使ニモ申上ケタルコトアル通り第三者ノ仲介ニ依リ解決ヲ計ラレンコトヲ希望スルモノナリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(2) 満州事件発生直後ニ於テ日本政府ノ執ラレタル方針ト現

ニ満州ニ於テ為サレツツアル事柄トハ可成ノ相違アリ昨

今満州方面ヨリ受取リタル報道ニ依レハ満州新政府ノ役

人ハ日本人ヲ同道シ郵務塩務等ノ機関ヲ接収シツツアル

趣ナルカ右ハ九国条約ノ規定スル行政保全ノ趣旨ニ反ス

ルモノト認メラレ米国政府トシテハ連盟トノ関係ヲ離レ

九国条約ノ関係ニ於テ大ニ言分アル次第ナリ

依テ本使ヨリ

(1) ニ対シテハ満州問題ニ対シ国民ノ感情銳敏ナルコト殊ニ

最近国内輿論ノ高潮ニ達シ居ル次第ヲ述ヘ第三者ノ仲介

ノ如キハ思モ依ラスト告ケ

(2) ニ対シテハ郵務、塩務等ノ接收ノ如キハ從来支那各地ニ

於テ其事例ニ乏シカラス又日本人同道云々ト言ハルルカ

右ハ恐ラク新政府ノ傭人ナルヘキヲ以テ九国条約違反ト

言ハルルハ筋違ナルヘシト反駁シ置タリ

別レニ臨ミ本使ヨリ長官ノ歐州行ニ言及シ其ノ旅程等ニ付

尋ネタル處今回ノ旅行ハ軍縮会議進捗ヲ計ル目的ヲ以テ約

二週間位寿府滞在ノ予定ニ付來ル八日紐育ヲ出發シ大体五

月上旬華府ニ帰還ノ予定ナリ寿府滞在中支那問題ニ關シ連

言ハルルハ筋違ナルヘシト反駁シ置タリ

盟側ヨリ種々相談ヲ受クルニハ相違ナカルヘキモ連盟ニ対スル米國ノ態度方針ハ貴大使ノ御承知ノ通りニテ問ハルレハ米國政府ノ方針ヲ述フヘキモ自分ヨリ積極的態度ヲ以テ満州問題等ニ口出ヲ為スカ如キコトハ決シテ為ササルヘキ積リナリト語レリ

尚長官ノ希望モアリ七日木曜日ニ今一度会談スルコトトナレリ

連盟及支那ヘ転電シ連盟ヨリ英、仏、伊、白、独、「チエ

ッコ」ヘ転電セシム

299 昭和7年4月5日

在獨國小幡大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

次回連盟総会への我方針トイツ外務省に申入

れについて

ベルリン 4月5日後発
本省 4月6日前着

第五一号(暗)

(二九〇文書)

貴電第三〇号ハ訓令入手遲レト翻訳ノ為手間取り漸ク四日

本使外務次官代理「キワブケ」ニ面会極秘トシテ訳文ヲ読

ミ聞カセタル處同氏ハ同日夕停車場ニテ倫敦ニ出発ノ「ビ

考スルヨリ少クモ当分ハ日本側ニテ甚タシク重大ナル難

関ニ直面セラルル如キ事ハナカル可キカト思考ス尙満州新

國家ニ付独逸政府ハ二、三國ヨリ其ノ意見ヲ求メラレタル

カ独逸トシテハ列国トモ之ニ干渉スル事ナク暫ク傍観スル

ノ外ナカル可シトノ意向ヲ有スル次第ナリ尤モ新國家ニ於

テハ門戸開放ノ主義ヲ遵守スルノ必要アル可ク尚独逸政府

ハ自國民ノ張学良時代ニ於ケル債權關係ニ特ニ関心ヲ有ス

ル次第ナリ

考スルヨリ少クモ当分ハ日本側ニテ甚タシク重大ナル難
関ニ直面セラルル如キ事ハナカル可キカト思考ス尙満州新
國家ニ付独逸政府ハ二、三國ヨリ其ノ意見ヲ求メラレタル
カ独逸トシテハ列国トモ之ニ干渉スル事ナク暫ク傍観スル
ノ外ナカル可シトノ意向ヲ有スル次第ナリ尤モ新國家ニ於
テハ門戸開放ノ主義ヲ遵守スルノ必要アル可ク尚独逸政府
ハ自國民ノ張学良時代ニ於ケル債權關係ニ特ニ関心ヲ有ス
ル次第ナリ

英、米、仏、伊、連盟ヘ転電セリ

300 昭和7年4月7日 ※在パリ沢田連盟事務局長より
(二八三文書)
芳沢外務大臣宛(電報)

次回連盟総会への我方針ベルギー外相に申入

れについて

佐藤ヨリ

本使五日「イーマンス」外務大臣ニ面会貴電御訓令ノ趣旨

ヲ書キ物トシテ読上ケタリ同外務大臣ハ熱心ニ聽取シタル

サル限り連盟内ノ昂奮状態モ相当緩和セラレ一方前記委員会ノ報告モ九月総会ノ頃ナラテハ提出セラレサル可シト思
當多ク從テ上海事件ニシテ鎮静シ他ニ軍事行動新ニ發生セ
逸トシテハ満州問題ハ先ツ以テ「リットン」委員会ノ報告
ヲ待ツヲ適當トストノ意見ニテ過般寿府ニテモ再三此ノ趣旨
旨ヲ述ヘタル次第ナリ大臣側等ニ於テ之ニ賛成ナルモノ相

限リノ問題トスル事ハ實際のニモ甚タ困難ト思考スルモノ相
逸トシテハ満州問題ハ先ツ以テ「リットン」委員会ノ報告
ヲ待ツヲ適當トストノ意見ニテ過般寿府ニテモ再三此ノ趣旨
旨ヲ述ヘタル次第ナリ大臣側等ニ於テ之ニ賛成ナルモノ相

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

- テハ直ニ外務省官房長外務大臣ノ名ニ於テ本使ニ陳謝セリ（）今日迄実質的損害ナカリシカ五日夕共産党員日本料理店二軒ニ投石（拳銃発射ノ説アルモ不明）窓硝子ヲ破壊シ各七八百麻克ノ損害ヲ与ヘ戸外ニ帝国主義反対、資本主義反対、日本ノ対支犯行膺懲等記載セル「ビラ」ヲ撒布セル事件アリ店主ヨリ當館ニ事実ヲ申告スルト共ニ此種政治的暴行ニ就テハ保護契約アル場合モ除斥約款ノ適用アルヲ以テ独逸ニ対スル先例モアリ警視庁ヨリ特別保障ヲ受クル様尽力アリ度シト申出テタルヲ以テ先ツ本人等ヨリ保険会社其他ト交渉スヘク必要ノ場合ハ當方ヨリモ助力スヘシト申聞ケ置キタリ不取敢
- 303 昭和7年4月7日（在イタリア國吉田大使より）
芳沢外務大臣宛（電報） 次回連盟総会への我方針を外務次官へ伝達について
- 第五八号（暗） 寿府宛貴電第一二三号ニ閲シ
（二八三文書）
貴電第二二八号御来訓ニ基キ直ニ「グランジ」ニ会見ヲ求メタルカ「グ」ハ三日迄「バック」ノ休暇旅行ニ出テ四日早
- 304 昭和7年4月7日（芳沢外務大臣より）
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報） 十九人委員会の委員選挙などに關し照会について
- 第一四九号（暗） 仮宛電第一一四号ニ閲シ
（三〇五文書）
（）三月十一日十九人委員会ニ参加スヘキ六名ノ委員選挙ニ際シ日本全権ニ於テ投票セシ事実アリヤ
- （）「ドラモンド」ヨリ佐藤代表ニ対シ調査委員ノ報告提出前總会トシテハ強制的勧告ヲ採択シ得サル旨指摘セルコトアリヤ
- 回電アリ度
- 冒頭往電通り転電アリ度
- 305 昭和7年4月7日（芳沢外務大臣より）
在仏國長岡大使宛（電報） 連盟総会における満洲問題討議は不可避との仏國大使談話について

急倫敦ニ出発シ其出発ノ際会談不可能ナリシ事情ヲ述ヘ外務次官ニ面会シ吳レトノ意ヲ特ニ申通シ來リシニ付同様旅行中ナリシ次官ノ帰ルヲ待チ六日面会セリ先ツ往電第五一号「グ」トノ会談ニ言及シ先般総会ノ小国側態度及決議ニ申述ヘ置キタルカ政府ニ於テモ重大ナル決意ヲ為スノ已ムヲ得サル事情ニ差迫レリト考フルニ至リシモノノ如ク之ヲ極秘トシテ貴國政府ノ承知ニ入ルヘキ旨訓令ニ接シタリトテ貴電第一二五号仮訳ヲ読ミ聞セ右ハ「グ」ニ面会申入ルヘシトノ訓令ナルモ不幸面会ノ機ヲ得サリシカ自然倫敦四国会議ノ機会ニ本件ニ關シ意見交換アルヘキカト考ヘラルニ付至急外相ニ伝達方取計ハレ度キ旨ヲ述ヘ我方ノ本件ヲ内報スル所以ハ今後不幸ナル事態ニ万々立チ至ラサル様切ニ希望スルカ故ニシテ予メ友邦特ニ伊国政府等ノ好意ニ訴ヘ事ナキヲ得度キカ為此ノ措置ニ出ツル次第ナル旨念ヲ入レ申添ヘタル処同次官ハ右ノ趣旨及日本ノ満州ニ於ケル立場及小国側ニ対スル不満ハ良ク諒解シ得ル処ナリ早速外相ニ伝達スヘシト答ヘタリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

ノ効力ヲ失フモノニ非ス（我方ハ未タ曾テ右留保ヲ放棄シタルコトナシ）從テ第十五条ノ適用ヲ前提トスル十九人委員会ノ存在ニ付テモ我方ハ異議ノ留保ヲ付シ居る立場ニアル次第ナリ尚又我代表カ仮令選挙ニ参加シタリトスルモ

（此点報告ナキニ付問合中）之ヲ以テ我方カ右留保ヲ放棄シタルモノト解スルハ不当ナリ（二）「ド」ノ佐藤大使ニ対スル談話ハ（右我方留保トハ別問題トシテ考フル場合ニ於テモ）三月十一日ノ決議ノ精神ヨリ見テ極メテ当然ノコト存セラル

尤モ此ノ際仏國側ニ対シ斯種法律問題ヲ捕ヘテ論争スルハ我方ノ本意ニ非ルニ付適當ノ機会ニ仏國大使ニ対シ前記（一）ノ点ヲ一応「リマインド」スルト共ニ此ノ上共仏國側ノ好意的措置ヲ希望スル旨申入ル積ナリ右御含迄

寿府、英、伊、独、白、「チエッコ」ニ転電アリ度

米、支、北平ニ転電シ北平ヲシテ吉田大使ニ転報セシム

306 昭和7年4月8日 在英國松平大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

沢田局長宛貴電第一二三三号ニ依レハ來ル總会ノ形勢如何ニ依リテハ我代表ヲ總会ヨリ引揚ケシムル御決心ナルモ必シモ直ニ連盟ヲ脱退スト云フ御趣旨ニハ非スト解セラル

（二八三文書）（一）然ルニ同第一二五号ノ通告ヲ相当広範囲ニ為シタル結果

我態度ハ自然各國ニ周知セラルヘク又如何ニ弁解スルモ此

ハ表ノ撫消運動ト了解セラルヘキニ付大国側及穩健分子ノ

努力ニ拘ラス我方ノ懸念スルカ如キ事態発生スル場合ニハ

之等小國ノ代表ハ我執ルヘキ態度ヲ承知シ乍ラ横車ヲ押シ

居ルモノト見ルヘク此ノ際單ニ總会ヨリ引揚クルカ如キハ

徒ニ彼等ノ嘲笑ヲ買フニ止マリ其反省ヲ期待シ得サルハ勿

論結局欠席裁判ヲ受クルタケニテ輿論ノ心証ハ益々我ニ不

利トナリ徒ニ支那側ノ宣伝策動ニ委ス結果トナルヘシ之ニ

加フルニ臨時總会ヨリ引揚ケタル我代表ハ九月ノ通常總会

ニ欠席スヘキ根拠ナク右總会迄ニ「リットン」委員会カ我

ニ非常ニ有利ナル報告ヲ提出シテ理事会乃至總会ノ空氣好

転スルニ於テハ幸ナルモ右報告カ我期待ニ背カストモ限ラ

タル以上九月ノ總会カ容易ニ其態度ヲ改メ得ルヤ疑ハシク

満州國承認問題に関する英國下院での外務次官応答について

ロンドン

本省 4月8日前着

第一七六号

六日下院ニ於テ一議員ヨリ英國政府ハ滿州政府ヨリ何等通牒ニ接シ居ルヤ又之ヲ承認スルノ意向アリヤトノ質問アリタルニ對シ外務政務次官ハ「英国外相ハ滿州新政府ノ外務大臣ト称スルモノヨリ正式ニ外交関係ヲ開始シタキ旨ノ照会ヲ接受シタルモ之ニ対シ未タ何等回答ヲ發シ居ラス又承認問題ニ付テハ嘗テ外相ヨリ同様ノ質問ニ對シ答ヘラレタルカ如ク之迄ノ情報ニ顧ミ斯クノ如キ措置ヲ執ルハ猶早計ナリト言フ外ナシ云々」ト答ヘタリ

寿府ニ転電セリ

307 昭和7年4月8日 在仏國長岡大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

307 総会引揚げより連盟脱退の実施方について
第三二七号（極秘）

旁同總会ニ対スル我立場ハ何ノ道極メテ困難ナルヘシ故ニ來ルヘキ總会又ハ十九人委員会ニ於テ我方ノ懸念スル事態ノ發生スル場合单ナル代表引揚位ノ中途半端ナル態度ニテハ右形勢ヲ轉換セシムル能ハサルヘキノミナラス或ハ十五条適用ノ解釈ニ関連シ海牙裁判所ノ意見ヲ求ムヘシト云フカ如キ形勢トモナレハ更ニ「オウカード」ナル事態ヲ招来スト思考スルニ付時ノ形勢如何ニ依リテハ連盟脱退ノ宣言ヲ現代表ニ於テ為シ得ル様予メ廟議御決定ノ上總会ニ臨ムコト必要ナルヘシト存セラル

（二）上海事件ニシテ一段落付ケハ輿論ハ多少沈静スルニ至ルヘキモ支那ハ今後機會アル毎ニ滿州問題ヲ總会及理事会ニ持出シ策動スヘキコト申迄モナク右ハ第十五条ヲ援用スル場合ハ勿論仮ニ一步ヲ譲リ十一条ノ適用ニ満足スル場合ト雖モ同様ナルヘク然ルニ今ヤ滿州ノ事態ハ九月及十二月決議當時トハ著シク趣ヲ異ニスルヲ以テ右支那ノ策動ニ依リ我方ハ次策ニ引摺ラルルコトトナレハ遂ニ抜差シナラヌ破目ニ陥ルヘク右支那ノ策動ハ暫ク措クトスルモ連盟内小国側過激分子ノ策動ニ至リテハ輿論ノ手前大国ト雖モ之ヲ掣肘シ兼ネ不本意乍ラ之ニ引摺ラルヘキハ先般總会ノ経験ニ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

見ルモ明カニシテ結局累ヲ満州問題ノ将来ニ及ホスコトトナラスヤト憂フル次第ナリ右ノ困難ナル事態ヨリ免レンカ為ニハ予メ連盟脱退ノ決意ヲ以テ事ニ臨ムヨリ外ニ途ナク脱退ノ場合満州問題ハ事實上連盟ノ手ヲ離レ稳健ナル意向ヲ有スル大国側ハ右過激分子ノ撃討ヲ免レ同問題ニ付自由ノ立場ニ置カルヘキ様存セラル尤モ連盟ヲ脱退スルモ我方カ満州ニ於テ我儘勝手ナル行動ニ出テ得ヘント云フニアラス飽ク迄堅実公正ナル態度ヲ持スヘキハ勿論ノ儀ニシテ満州問題ノ将来ハ結局英、米、仏等ノ態度如何ニ掛ルヘク而シテ右各国ノ態度ハ専ラ我方及新政府カ関税衛生鉄道等国際的利害関係アル問題ヲ如何ニ処理スルヤニ依ルモノト云フヘク更ニ角満州問題ノ處理ハ同問題ニ直接利害関係ナキ多數国ヲ含ム連盟ヨリ離レテ主要国ノミヲ相手トスル方得策ナリト思考ス尚脱退ノ為我南洋委任統治権ニハ何等ノ影響ヲモ蒙ラサルヘク又軍縮其他公益關係ノ諸委員会ニシテ非連盟國ノ參加シ居ルモノニハ引続キ協力スルコト然ルヘシ為念申添フ

米、英、独、伊、支ニ転電セリ

判所ノ意見ヲ求メントノ議出ツルカ如キ事起ルヤモ計ラレススクテハ徒ニ事態ヲ紛糾セシムルノミナラス問題ノ解決ニ対シ何等貢献シ得サルヲ以テ成ル可ク之ヲ避ケ度ク当分ノ間ハ第十五条ノ留保問題ヲ *laisser dormir* セシムル事然ル可ク貴見如何
ト問ヒタルヲ以テ杉村ハ
連盟ハ超國家ニ非ス從テ連盟國殊ニ常任理事国タル日本ノ自由意志ニ反シテ其ノ重大問題ヲ裁決シ得ストノ点ハ日本ニ於テ連盟ヲ説ク者カ從来常ニ一致シテ高調シタル所ナルニ拘ハラス連盟カ支那側ノ要求ニ盲従シテ機械的ニ同条ヲ適用シタルニ対シ日本ノ國論カ沸騰シタルハ無理モナキ処ト認メラル⁽²⁾ 総会殊ニ十九人委員会ニ於ケル小国側カ弱國乃至未開國ノ立場ヲ擁護スルニ急ナル為支那ニ於ケル実際ヲ無視シ单ニ純理論ニ終始シ殊ニ十九人委員会カ上海ニ於ケル撤兵条件ノ如キ主トシテ現地ニ於テ討議セラル可キ事柄ニ迄立入りテ議論シタルニ対シ日本ノ國論カ其不当及輕率ヲ難シスル機關ニ一国ノ運命ヲ決ス可キ重要問題ノ解決ヲ托シ得スト為スニ至リタルハ大ニ理由アリト認メラルト言ヘルニ總長ハ

308 昭和7年4月9日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

連盟における満州、上海問題審議について 村・ドラモンド会談について

ジュネーヴ 4月9日後発 本省 4月10日後着

第三四五号(暗、極秘)

九日杉村、「ドラモンド」ト会見政局及日支問題ニ付長時間内談セル要点左ノ如シ

(1)「ド」曰ク本年欧洲ノ政情益々険悪トナリ「ダニュー」ブ」沿岸諸国モ救済ノ見込薄ク十二日ヨリ開カル可キ臨時理事会モ殆ント策ヲ施シ得ス「スチムソン」ノ渡欧ニ対シテモ大ナル望ラ繋ク能ハス云々

(2)四月八日付満州ニ関スル佐藤理事ノ通報(貴電第一四六号)ニ付「ド」ヨリ

右ハ直ニ理事会及各連盟國ニ転達ス可シ尚将来十九人委員会等ニ於テ日本ハ何故ニ総会ニ対シ其ノ要求セル通報ヲ為ササルヤノ点ヲ指摘スルモノ出テニ対シ日本代表ヨリ規約第十五条ノ適用ニ対スル裏ノ留保ヲ援用シテ抗弁シ論議ノ上三月十一日総会決議第二ノ(四)ニ依リ連盟(ハ)司法裁

第(1)「ド」曰ク本年欧洲ノ政情益々険悪トナリ「ダニュー」ブ」沿岸諸国モ救済ノ見込薄ク十二日ヨリ開カル可キ臨時理事会モ殆ント策ヲ施シ得ス「スチムソン」ノ渡欧ニ対シテモ大ナル望ラ繋ク能ハス云々

(2)四月八日付満州ニ関スル佐藤理事ノ通報(貴電第一四六号)ニ付「ド」ヨリ

右ハ直ニ理事会及各連盟國ニ転達ス可シ尚将来十九人委員会等ニ於テ日本ハ何故ニ総会ニ対シ其ノ要求セル通報ヲ為ササルヤノ点ヲ指摘スルモノ出テニ対シ日本代表ヨリ規約第十五条ノ適用ニ対スル裏ノ留保ヲ援用シテ抗弁シ論議ノ上三月十一日総会決議第二ノ(四)ニ依リ連盟(ハ)司法裁

第(3)連盟ニ於ケル日支問題ノ解決ノ手続ニ付「ド」曰ク「リットン」委員会ノ報告ヲ理事会ニ於テ審議シ総会ハ右理事会審議ノ結果ニ付討議スルコト然ルヘク右理事会ノ審議ニ付「モッタ」ハ反対ナル旨ヲ述ヘ本件全部ヲ総会ノ手ニ依リ解決スヘシト主張シタルモ其不(可)ナル所以ヲ説

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

キタル結果「モ」及十九人委員会ハ前記ノ手続ヲ承認シ只今ニテハ殆ト確定ノモノトナリタル次第ナレハ此点日本側ニ於テ吳々モ誤解無キヲ望ム

次ニ満州問題解決ノ鍵ハ「リットン」委員会之ヲ握ルト云フモ不可ナク而シテ同委員会力幸ニ日本側ノ信頼ヲ贏チ得タリトノ報ヲ耳ニスルハ日支問題解決ノ将来ニ対シ真ニ心強ク感スル所ナリ尚前記総会討議ハ實際上理事会審議ノ結果ヲ变更シ得ルモノニ非斯カル变更ニ対シテハ總会ニ出席スル理事會員十二名ノ同意ヲ必要トスルコト云フ迄モナケレハ總会ハ事實上単ニ理事会ノ決定ヲ形式的ニ確認スル以上ニ出テ得サルヘシ云々

(4) 上海問題ニ付杉村ヨリ

「ランプソン」公使等ノ斡旋アルニモ拘ラス撤兵交渉行惣ノ実状ヲ述ヘタルニ対シ「ド」ハ

同問題ハ飽ク迄地方的問題トシテ現地ニ於テ解決ヲ計ラサル可カラス但シ「ボイコット」ノ問題ハ結局満州問題ノ解決ニ至ル迄ハ解決シ得サルヘシト思ハル

ト述ヘタレハ

上海ノミナラス支那各地ニ於ケル「ボイコット」問題全部

ニ亘リ考フルトキニハ或ハ右ノ如キ結論トナリ得ルヤモ計ラレサレト現ニ上海ニ於テ問題トナリ居ルハ便衣隊ノ活動及本邦人ノ生命、財産ヲ脅ス抗日運動ニシテ右ト純然タル商業上ノ「ボイコット」ニシテ個人ノ自由意志ニ出ツルモノトヲ混同ス可カラス從テ「ボイコット」ナル名称ハ上海ニ於ケル現地ノ安全ノ問題ヲ議スルニハ適當ナラス日本側ノ求ムル所ハ上海出兵ノ原因タル本邦人及租界ノ安全確保ニ存スレハ此ノ点ヲ明瞭ニ為シ置カレ度シ

ト述ヘタルニ「ド」ハ之ヲ首肯シ次テ円卓會議ニ論及シ撤兵協定ニシテ幸ニ近ク成立シ得ルニ於テハ一般ノ事態モ平靜ニ復シ円卓會議ノ事業モ順調ニ進メ得ヘキヤニ認メラルル旨述ヘタルカ右ニ対シテハ杉村ヨリ何等意見ヲ述フルヲ避ケ唯上海問頭ノ解決ト満州問題ノ解決トハ別個ニ取扱フヘキモノナル点ニ付念ヲ押シ置ケル由

(5) 滿州問題ニ付「ド」曰ク

「リットン」委員会ハ先ツ満州國ノ正体ヲ突止ムルニ努力スヘク新國家カ果シテ民族自決ノ主義ニ基キ設立セラレ且存続ノ理由アルモノナルヤ否ヤ換言スレハ日本ノ軍事的又ハ財政的援助其他日本人顧問ノ協力アルニ非サレハ今後久

シキニ亘リ国家トシテ存続スルノ能性ナキモノニ非サルカ等ノ点ヲ充分ニ取調フヘク然ル上ニテ何等カ實際的解決案ヲ提示スヘシト期待セラルルカ満州ヲ以テ内外人安住ノ地ト為シ支那人及外国人ノ共存共榮ヲ計ル点ニ就テハ何人モ異存ナキモ余リニ露骨ニ既成事実構成ノ為猪突スル遣方ハ攘斥セサルヲ得ス

ト述ヘタリ

尚最近事務局内ニハ日本側ニ於テ満州ノ事態ヲ急速ニ確定シ「リットン」委員会到着スルモ既成事実ヲ以テ之ニ対抗セントスルノ風アルヲ察シ総会ヲシテ同委員会ノ報告ヲ待タス此ノ際何等カノ政策ヲ執ラシメント焦ルモノアリト内聞シタルカ總長トノ談話ヨリ得タル印象ニテハ斯ル短慮ハ嚴ニ自制セントスルヤニ認メラレタル由土ヲ除ク在欧各大使及米ヘ転電セリ

309 昭和7年4月(9日)
在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

國務長官のボラー、ビンガムあて書翰に關し

日本側の反応等説明について
第二七九号(極秘)

311

(一) 貴電三前段ノ引用事項ノ最初ニ事件当初ノ重光公使ノ宋子文宛回答（客年閣下発支宛電報第一四四号ニ左ノ如キ些少ノ追加ヲ為シタルニ付御含ミ置キアリ度シ）

(二) 貴電三後段ノ支那側トノ往復文書ハ連盟ニ通告未済ナリシニ付付属書トシテ之ヲ添付ス尙本文三ノ後段中ニ右我方回答ノ文句ヲ然ル可ク取り入レ御来示ノ字句ヲ補足シ置キタリ

昭和7年4月(10)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

310 昭和7年4月(10)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟あて回答に若干の修正追加について

第三四三号（暗）
往電第三四二号ニ関シ
佐藤大使ヨリ

本件情報事務総長ニ送付ノ際貴電第一四四号ニ左ノ如キ些少ノ追加ヲ為シタルニ付御含ミ置キアリ度シ

(一) 貴電三前段ノ引用事項ノ最初ニ事件当初ノ重光公使ノ宋子文宛回答（客年閣下発支宛電報第一四四号ニ左ノ如キ些少ノ追加ヲ為シタルニ付御含ミ置キアリ度シ）

(二) 貴電三後段ノ支那側トノ往復文書ハ連盟ニ通告未済ナリシニ付付属書トシテ之ヲ添付ス尙本文三ノ後段中ニ右我方回答ノ文句ヲ然ル可ク取り入レ御来示ノ字句ヲ補足シ置キタリ

トヲ切望スト述ヘタリ

英及「マニラ」ニ転電シ英ヨリ在欧各大使へ転電セシム

310 昭和7年4月(10)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

十九人委員会委員選挙に参加の事情について

第三四四号（暗）

貴電第一四九号（^{（一九六文書）}四〇四文書）ニ関シ

(一) 当時我方ハ第十五条留保ノ下ニ決議案其物ニ対シ棄権セル次第ナルヲ以テ十九人委員会選挙投票ニモ加ハラサル事論理的ナルヘシト考ヘラレタルモ代表部ニ於テ各般ノ事情考究熟慮ノ結果既ニ決議ハ成立セル後ノ事ニモアリ協調ノ趣旨ニ顧ミ且出来得ル限り我方ニ都合良キ委員ノ選出ヲ見ル様努ムル事然ルヘシトノ実際的見地ニ基キ終ニ之ニ投票セル次第ナリ（支那側モ棄権セルニ拘ラズ投票セリ）

(二) 此点ニ付「ド」ヨリ佐藤代表ニ対シ御来示ノ通ノ話アリタル事ヲ承知セス恐らく往電第三一一号中段ノ趣旨ヲ云フモノナルヤニ認メラル

英、仏、独、伊、米、白、支、「チエ」ヘ転電セリ

312 昭和7年4月(10)日 在仮国長岡大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

仏国財界の対満投資意向に関する情報について

下サレタルモノト認メサルヲ得ス第三点ノ極東ハ混亂状態ニ陥リ今ニモ全世界ヲ壊乱スルカ如キ大事發起ルヤニ推論セラレタルコトハ如何ニモ大袈裟ニ聞ユル處長官ニ於テ極東ノ事態ヲ果シテ斯ク悲觀シ居ラルルトセハ右ハ事実ニ副ハサルコト甚タシキモノナリト思考セラルルカ如何ト述ヘタルニ「ス」ハ頗ル当惑シタルカ如キ様子ニテ支那又ハ日本ノdomination云々トハ全ク「エコノミックドミニエーション」ノコトヲ意味シタルモノニシテ自分ハ決シテ日本ノ領土的野心ヲ疑ヒ居ル次第ニアラサルニ付吳々モ誤解ナカラシコトヲ希望スル旨苦シキ弁解ヲナスト共ニ第三点ニ就テハ當時日本ニ於テ米国ノ予期ニ反シ続々陸兵ヲ練り出サレタル為如何ナル事態ニ立至ルヘキカ殆ト見当付カサリシ為右ノ如ク述ヘタル次第ナルカ其後上海方面平静ニ帰シ大体ニ於テ極東ノ状況reassuringトナリタルヲ以テ今日ニ於テハ當時ノ考ヲ変ヘ居ル次第ト御承知願ヒ度シト証明セリ

本書面ニ就テハ同日「キヤッスル」ニ面会ノ際ニモ言及シタル處「キヤ」ハ長官ハ御承知ノ通多年比島總督タリシ關係上比島ニ対シ深キ愛着ノ念ヲ有シ独立運動ニ對シ本件ニ就テハ同日「キヤッスル」ニ面会ノ際ニモ言及シタル處「キヤ」ハ長官ハ御承知ノ通多年比島總督タリシ關係上比島ニ対シ深キ愛着ノ念ヲ有シ独立運動ニ對シ

飽ク迄反対セントセラルル余リ自ラ今回ノ如キ書面ヲ起草シテ「ビンガム」ニ送ラレタル次第ナリ該書面ハ國務省ノ書面ト云フヨリモ寧ロ長官一己ノ意見ヲ表示シタルモノニテ極ク内々ノ話シ乍ラ現ニ自分ノ如キモ何等右ニ付相談ヲ受ケタルコトナシト語リ御話ノ通隨分思ヒ切りタル云ヒ方ヲナシ居レルカ時恰モ上海問題ノ高調ニ達セル際ニモアリ独立論ヲ打破セントスル一念ニ驅ラレ右ノ如キ書面ヲ発シタルモノニテ事実日本カ比島領有ノ野心ヲ有スルモノト考ヘ居ル次第ニアラスト述ヘ頻リニ長官ヲ弁護シ居タリ

(二) 七日ノ「ボルチモア・サン」ニ國務省ノ消息通トシテ知ラルルPearsonノ特電トシテ「スチムソン」歐州行ノ使命中支那問題ハ最モ重キヲナスモノナリトノ趣旨報セラレ相当世人ノ注意ヲ喚起シタル模様ナルヲ以テ長官ニ会见ノ際右ニ言及シ夫レトナク意向ヲ探リタルニ「ス」ハPearsonノ記事ヲ強ク否定スルト共ニ支那問題ニ就テハ唯今ノ處別段新ナル措置ニ出ツル考ヘナク暫ク状勢ノ推移ヲ見送ル積ナリト述ヘ自分カ一ヶ月後華府ニ歸ル迄ニ上海及滿州方面ノ状況幾分ニテモ改善ヲ見ルニ至ランコ

本省 4月10日前着 パリ

第二三五六号（暗、極秘）

仏國財界有力者ト關係アリ又東洋ノ事情ニ通スル某仏人過般「デバルドン」ニ対シ広東政府側ニ出資シ度キ話ヲ為シタリトテ「デ」ヨリ栗山ニ内報シ来リタルニ付栗山ハ滿州ニ投資スル様慾懃スヘキ旨ヲ「デ」ニ説示シ置キタル処其後「デ」慾懃ノ結果右仏人ハ早速關係者ト協議シ滿州投資ノコトニ決定シタル趣ニテ八日「デ」ト同道シテ栗山ヲ私宅ニ來訪シ滿州ニ於テ日本財界ト共同シ又ハ単独ニテモ可ナルカ投資ヲ為シ度キ處右ニ関スル日本側ノ意向ヲ承知シ度キ旨申出タリ

同人ハ栗山ノ問ニ對シ仏国外務當局ハ仏人ノ滿州投資ニ反対スルカ如キ意向ナシト言ヒ仏国市場ニハ資金ハ充分有レトモ若シ投資ト共ニ仏国工業ヲモ進行セシムルカ如キモノ例ヘハ鉄道航空電氣瓦斯等ノ公共事業ニ投資スルヲ得ハ誠ニ結構ナルヘク投資ノ額ニ付テハ何程ニテモ日本側ノ必要丈ケ出資スヘシト述ヘタリ依テ栗山ハ滿州政府當局又ハ滿鉄其他日本側ノ意向ニ付何等承知シ居ラサルモ材料ヲ得次

第内報スヘシト答ヘ置キタル趣ナリ同人ハ当國財界ニ有力ナルComité de Forges ム関係アルラシク右Comitéハ「タルジュウ」ヲ「バック」トシ居リ從テ「タルジュウ」ハ本件ヲ承知シ居ルモノト思ハル

尚同人ハ栗山ヨリ辞去ノ後「デ」ニ對シ日仏銀行側ニハ絶対ニ秘密トシ度ク日仏ノ「ジュウモン」カ之ヲ知ラハ水ヲ差ス虞アリト言ヒタル趣ナリ本件ハ國際的關係モアリ外部ニハ絶対漏レサル様致度ク又本件ニ付仏国外務當局ニ於テ何等反対ノ意向ナク且相當額ノ投資ヲ為サシメ得ハ将来仏國側ノ滿州問題ニ對スル態度ヲ我ニ有利ニ導ク方法ノ一トナルヘシト思考ス何分ノ儀御回電アリタシ

313 昭和7年4月11日 在イタリア國吉田大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

連盟脱退は慎重に対処方について

ローマ 4月11日後発 本省 4月12日前着

第五九号（暗、極秘）

滿州事件發生後既ニ半歲ヲ越ヘ更ニ上海事件ノ加ハリ我對支貿易ノ打擊ハ甚大ナルモノアルヘク左リトテ其善後处分ス或ハ既ニ必要ノ御措置アリシ後ト考フルモ存意ノ儘申上ク

ノ誤解モ解キ得ヘキカト存セラル同大使ニ於テハ或ハ閣下ヨリ特ニ御訓令ナクテハ進テ「ス」トノ交渉ニ自然多少ノ遠慮アルヤモ計ラレス為念特ニ御訓令アル方宜シキカト存ス或ハ既ニ必要ノ御措置アリシ後ト考フルモ存意ノ儘申上ク

314 昭和7年4月(12)日在英國松平大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会の委員選舉に参加事情について

第一八二号（暗）
(三〇四文書)

連盟宛貴電第一四九号(一)ニ閲シ

タルヘキハ寿府宛貴電第一二三号ノ御趣旨ト承スル処「スチムソン」近ク寿府ニ来ルトノ趣ナルニ付テハ此機會ニ松平大使ト「サイモン」トノ關係ヲ利用シ彼ヲ通シ若ハ直接「ス」ニ対シ同大使ヨリ成ルヘク早目ニ叙上支那ノ態度ト連盟トノ關係及右貴電連盟ニ対スル帝國政府ノ意向等重ネテ説明シ支那及連盟ニ対シ改メテ「ス」ノ斡旋ヲ求ムル様仕向ケラレテハ如何カト存ス右ハ既ニ出淵大使ニ於テ努力シ来レル処ナルモ新ニ松平大使ヨリノ協議ハ前者ノ所言ヲ裏書シ「ス」ニ一層ノ印象ヲ与ヘ我ニ対スル從来多少

依リ特ニ我從来ノ立場ニ何等變化ヲ來シタルモノト思考セ
(三二一文書)
 ス右連盟往電第三四四号補足旁電報ス
 仏、独、米、伊、支へ転電セリ

315 昭和7年4月(12)日 在英國松平大使より
 芳沢外務大臣宛(電報)

日中紛争に関する英國輿論の現状について

第一八三号(暗)

最近日支問題ニ対シ当國輿論ニ付左記御参考迄ニ電報ス
 一、過去三週間當國新聞中日支問題ニ付論説ヲ掲ケタルモノ甚タ稀ニシテ極東方面情報トシテ上海ノ停戦交渉ニ関スル電信ノ外記事モ著シク減少シ他方國際連盟協會支部其他ノ平和団体又ハ労働団体ヨリハ一時相當猛烈ナル文句ノ抗議文、決議等ヲ送付シ来るモノノ頗ル多數ナリシモ上海事変ノ鎮マント共ニ最近ニハ余程減シ来リ又警察側ニ於テハ大使館及事務所ニ対シ依然トシテ日夜嚴重ナル警護ヲ統ケ居ルモ其後労働者ノ示威運動等モ無ク對本邦輿論ハ今後滿州及支那本部ニ於ケル事態ノ進展ニ伴ヒ如何ニ變化シ行クヤハ勿論予測シ得サルモ先ツ差当リ鎮静シ居ル状態ナリ

316

昭和7年4月(13)日

在英國松平大使より
 芳沢外務大臣宛(電報)

満洲・上海事変における我が立場に関するマクドナルド首相に説明について

第一八四号(極秘)

「マクドナルド」首相ニハ当地政變以来久シク面会ノ機会無カリシ處一応日支紛争ニ關スル我方立場ヲ説明シ置クコト然ル可シト考ヘ四月十二日会見、概略日支紛争ノ経緯ヲ語リ尚動モスレハ世人ハ他國ノ領土ニ兵力ヲ使用スルコト自身カ連盟規約ノ精神ニ違反スルモノト認メテ本件紛争ヲ判断セントスルモノ多キモ一切ノ条約上ノ義務ヲ嚴格ニ尊重スルコトハ連盟規約ノ根本原則ノ一ナルコト規約冒頭ニ記載シ在ルニ依リテモ明カナリ然ルニ支那ハ自己ノ好マサト」ヲ行ヒ無責任ナル私的團体ニ於テ強力ヲ以テ外國品ノ不買ヲ強制スルノ拳ニ出テ居レリトテ詳細「ボイコット」ノ性質ヲ説明シ日本国民ノ激昂爆發シテ遂ニ上海事変ヲ惹起シタルコト又滿州事変ト上海事変ト其ノ性質ノ異ルコト

二、主タル新聞中「タイムス」ハ比較的公平ナル立場ヲ採リタリト云フヘク終始我方ニ有利ナル説ヲ掲ケシハ「モーニング・ポスト」(「ジャパン・ソサエティ」)ノ「セール」(同紙ハ日本最負ト云フヨリモ連盟嫌ナル関係アリ)、「オブザーバー」等ニシテ「テレグラフ」モ概シテ好意的(脱?)ヲ持シ居リ之レニ反シ徹頭徹尾我方ニ反対ノ態度ヲ取リシハ「ガーデアン」、「ヘラルド」ニシテ「ニュース・クロニクル」モ概シテ好カラサリシコト予テノ電報ニテ御承知ノ通リナリ

三、輿論緩和ニ就テハ我方ニ同情アル人々ノ努力即チ「レイディス・エースリング」及「ゼール」初メ「ジャパン・ソサエティ」幹部カ或ハ日本ニ閔スル講演ヲ試ミ又ハ重要ナル方面ニ対シテ日本ノ立場説明ノ任ニ当リ其ノ他「サー、エドワード・クロー」及「ピゴット」カ其ノ現職上公然タル活動ハ為ササリシモ裏面ニ於テ常ニ好意ヲ寄セ我方ノ弁護ニ当リシ等何レモ効果鮮カラサリシハ見逃スヘカラサル処ナリ

最近上海交渉ニ対スル我方ノ態度及支那カ遷延政策ヲ執り且之ヲ連盟ニ移シテ更ニ紛糾セシメントシツツアルコト等ヲ説明シタルニ「マ」ハ熱心ニ之ヲ聴取り支那ノ條約不尊重及一方的廢棄等ニ付テハ充分之ヲ承知シ居ル旨ヲ語リ又本使カ連盟ニ於テ小国等カ感情及理想論ヨリ日支問題ヲ紛糾セシムル如キ結果アルコトヲ話シタルニ対シテハ之ヲ首肯シ自分ハ暫ク病氣ノ為日支紛争及連盟トノ経緯ニ對シテモ其ノ成行ヲ「フォロー」セサリシモ連盟カ熱狂論者ノ為ニ本件取扱ニ害ヲ及ホシタルコトアリシコト自分モ承知シ居レリ、連盟ハ平時ニ於テハ真ニ有益ナルモ重大ナル問題ニ付余り熱中スルニ於テハ時ニ却テ事ヲ面倒ニスル恐アリ當國ニ於テモ一時ハ強硬ナル議論行ハレ各團体ニ於テ日本ト經濟絶交ヲ為スヘキ決議ヲ齎シテ政府ヲ強硬ニ圧迫シ之ニ对抗スルコト困難ヲ感シタルコトアリ又上海事件ヲ解決セラルルコト日本ノ為得策ナリト思考スト述ヘタルニ付本使ハ更ニ日本トシテ可成速カニ上海事件解決ノ希望切ナル次第尤モ軍隊帰還後再ヒ支那軍租界ニ復帰シ過般ノ事件繰返サルル如キコトハ断シテ妨ケサルヘカラス、此ノ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

点ニ関スル保障ヲ取ルコトノ必要ナル旨ヲ述へ置キタリ尚

説明ヲ補足スル為本使カ過般連盟総会及最近倫敦銀行家ニ
対シテ為シタル演説写其他必要ノ文書ヲ交付シ置キタリ尚

「マ」ハ本月二十一日寿府ニ赴キ軍縮會議ニ出席「スチム
ソン」、「ブリューニング」等ト会談シタキ希望ナル旨語
リタリ

連盟、米、仏、独、伊ニ転電セリ

317 昭和7年4月14日 在英國松平大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州新政府承認および上海撤兵問題などに關
する英國下院における質問応答について

ロンドン 4月14日後発
本省 4月15日後着

(1) 第一八七号
十三日下院ニ於ケル日支事変ニ関スル質問応答左ノ通り

一、(問) 满州新政府承認ニ関スル日本政府ノ意向ニ付何
等報道ニ接シ居レリヤ又門戸開放ニ関スル日本政府ノ声明
ニ顧ミ今後日本側カ承認問題ニ付更ニ進ンテ措置ヲ執ラン
トスル場合ニハ予メ英國其ノ他關係國ト交渉スヘキ様日本
タシ

(答) 混成廿四旅団及第十一師団ハ三月下旬日本ニ帰還ヲ
了シタリ在上海友好諸国代表者ヨリ三月廿一日付連盟事務
総長宛通告ニ依レハ目下在上海日本軍數ハ大約三万七千人
位ナル趣ナリ、日本ノ撤兵ト保障問題トノ關係ノ如キ目下
折角商議中ノ問題ノ是非ヲ云々スルコトハ此ノ際之ヲ避ケ
タシ

四、(問) 上海日支交渉ノ経過如何、支那側ハ「ボイコット」
反外國運動又ハ上海ノ安全問題ニ付テハ交渉セサル旨
ノ不義的声明ヲ為シタルニ非スヤ若シ英國カ此際「フィー
サム」報告ヲ基礎トシテ上海将来ニ関スル商議開始ノ用意
アルコトヲ声明セハ日支兩国交渉平和的解決促進ノ為効果
無キカ

(答) 上海商議進捗ノ程度ハ先般説明(往電第一七三号参
照)シタル外別ニ変リ無シ本交渉ハ三月四日ノ連盟総会ノ
決議ニ基キ開始セラレタルモノニシテ今日何ノ程度迄交渉
ヤ只今説明スル能ハス

五、(問) 满州新政府及同政府ノ日本人顧問ヨリ連盟調査
委員及「アッセッサー」ノ満州入国ニ付異議ノ申出アリタ
リタリ

政府ニ提議スル考ナキカ

(答) (外務政務次官) 日本政府カ近キ将来ニ於テ満州新
政府承認ノ意向ヲ有スルカ如キ何等ノ表示ニ接シタルコト
モ無シ、満州承認問題ト門戸開放問題トノ關係ハ此ノ際質
問ノ如キ特別ノ措置ヲ講スルノ要アル程密接ナルモノニ非
ス

二、(問) 門戸開放政策ニ多少ノ変更アルヘシトノ満州新

政府声明ニ鑑ミ英國政府ハ満州ニ於テ絶対的通商ノ自由ヲ
希望スル旨ヲ更ニ明瞭ニシ置ク要ナキカ

(答) 本件ニ関スル英國政府ノ態度ハ從来最モ明瞭ニ声明
セラレ居ルヲ以テ在満英國ノ利益カ大ナル影響ヲ蒙ルカ如
キ事実ノ発生セサル限り改メテ此ノ種措置ヲ執ルノ必要無
シ

三、(問) 上海付近ニ於ケル日本ノ現在兵數如何、日本側
トシテハ其ノ国民ノ生命財産ノ安全ニ付保障ヲ得ル迄ハ上
海ヨリ撤兵スル能ハサルコトハ明白ノ事実ナラズヤ又客年
英國前内閣ハ上海ニ於ケル英國ノ権利放棄ヲ支那側ニ申出
テタルカ如キ英國ノ態度ハ前述日本カ撤兵ニ關シ有スル懸
念ヲ益大ナラシムル所以ナラスヤ

ルコトニ対シ英國政府ハ如何ナル措置ニ出テントスルカ
(答) 顧維鈞カ調査委員ト共ニ満州ヲ訪問スルコトニ付満
州当局側ニ異議アリトノ新聞報道ノ外御話ノ如キ異議アル
コトヲ承知セス而シ新聞ノ伝フル所ニ依レハ「リットン」
卿ハ調査委員ハ顧ト共ニ入満スルカ然ラスンハ全部満州訪
問ヲ中止スヘキ旨ヲ声明シタル趣ナリ本件ハ若シ地方的ニ
解決ヲ見サル場合ニハ連盟理事会ニテ処理スヘキ問題ニテ
英國政府カ茲ニ行動スヘキ筋合ノモノニ非ス

六、(問) 满州事變ニ対スル連盟規約適用ニ關シ日本政府
ノ為シタル通告ナルモノノ内容如何又之ニ対シ英國政府ハ
如何ナル措置ヲ執ラントスルカ

(答) 本件通告ハ英國政府ノ含ミ迄ニ為サレタルモノニシ
テ從テ其内容ヲ説明スル能ハサルヲ遺憾トス
連盟ニ転電セリ

318 昭和7年4月(15)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

日本の総会引揚げは不得策とのポリチスギリ

第(脱)号(暗)

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

十三日「ポリチス」ハ杉村ニ対シ先般長岡大使ト面談（仮発閣下宛電報第二二八号）ノ後更ニ熟考セルカ日本ノ總会退席ハ第十五条ノ適用留保ニ関スル其從来ノ主張ヲ無意義ナラシム且種々不利ナル誤解ヲ起ス虞アリ或ハ日本ハ自ラ好ンテ國際的孤立ニ陥ルノ観ヲ呈スルコトサヘ無シトセス從テ之カ断行ハ充分自重セラルコト然ルヘシト認メラル他面連盟トシテモ問題ノ解決ヲ主トシテ時ノ力ニ依リ容易ナラシム方策ヲ執ルコト然ルヘク自分トシテハ總会ノ報告提出期間タル六箇月ノ期間ハ差向キ上海事件ニノミ第十五条ヲ適用シ満州問題ニ付テハ「リットン」報告提出ヲ起算点トシテ六箇月ノ期間ヲ計算スルコト事情ニ適合スル方法ナルヤニ思考セラル云々ト内話セル由
英、米、仏、伊、独、白、知恵古ヘ転電セリ

319 昭和7年4月(15)日 在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

米國艦隊の太平洋岸碇泊事情について

第二二八六号（暗）

十四日「ボルチモア・サン」華府通信（「ピアソン」）ハ目下米國艦隊ハ全部太平洋ニ在ル処國務省ニ於テハ東洋ノ

ナレル次第ニテ其責全ク日本側ニ在ル事ヲ了解スヘシト記載シアリ
覚書要領左ノ通
一、九月三十日決議中事態ノ悪化ノ防止ニ關シテハ支那側ハ忠実ニ之ヲ遵守シ其軍事行動モ全ク正当防衛ノ範囲ニ限ラレタルニ拘ハラス日本側ハ之ヲ遵守セス又同決議第三項及第四項ニ付テモ支那側ハ直ニ日本軍撤退地域治安維持方ニ関シ適當ナル訓令ヲ發シ且之ヲ日本側ニ通シタリ（理事會書類C665 C669 C668等ヲ引用ス）然ルニ日本側ニ於テハ日本軍ノ撤収ニ付テハ所謂根本原則ニ付協定ノ成立スル事ヲ必要ナリトシ（691ヲ引用ス）タルヲ以テ支那側ハ二月十二日ノ回答ヲ以テ（C708）其態度ヲ明ニセリト述へ
二、次テ十二月二十四日ノ決議案成立ノ事情ヲ叙シタル後支那側ハ該決議案ニ対シ贊意ヲ表シタルモ日本側ハ依然根本原則ニ関スル協定ヲ固執シ右決議案（ニ）反対セリ而シテ十二月二十七日支那政府ハ右決議案第五項ニ從ヒ撤收地域引継トスル委員ヲ設ケ日本側委員ノ任命ヲ要求シタルモ日本側ハ理事会ノ意向ヲ無視シテ之ニ応セス
(C841ヲ引用ス)ト述へ

321 昭和7年4月(17)日 在スペイン國大田（為吉）公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟におけるスペインの態度に関するスルエタ

時局解決スル迄之ヲ大西洋岸ニ廻航セシメサル方便宜且經濟的ナリトノ意向ニテ之ヲ海軍側ニ通牒シタルカ海軍側ニ於テハ軍略上ヨリモ寧ロ主トシテ経費ノ関係ヨリ國務省ノ申出ヲ考慮中ナルヲ報シタルニ付同日「キャッスル」ニ面会ノ際為念右ニ言及シタル處「キャ」ハ國務省トシテハ艦隊移動ニ關スル海軍側ノ計画ニ付何等承知スル所無ク仮ニ右記事ノ如ク全艦隊ヲ當分太平洋岸ニ留メ置クトスルモ右ハ全ク海軍側ノ都合ニ依ル次第ニシテ時局トハ素ヨリ何等關係無キ次第ナリト述ヘタリ

320 昭和7年4月(16)日 在ジュネーヴ茨田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

九月三十日及び十二月十日理監会決議の実行
振りに関する中国側回答要領について

第三六五号

⁽¹⁾代表ハ十三日付ヲ以テ往電第三〇四号十九人委員会ノ要求ニ応シ九月三十日及十二月十日理事会決議ノ実行振ニ関スル覚書ヲ提出シタルカ右覚書送り状中ニハ右覚書ニ依リ十九人委員会ハ支那政府カ本件決議ヲ誠実ニ実行セントスルニ拘ハラス日本側ノ不履行ニ依リ支那側ノ努力カ無効ト

外相に注意喚起について

第二七号（暗）

「スルエタ」外相ハ一両日中ニ寿府ニ赴ク模様ナリシニ依リ十六日帰朝挨拶ヲ兼ネ往訪、連盟ニ於ケル西国ノ態度特ニ過般総会ニ於ケル夫レカ日本ノ輿論ヲ激昂セシメタル事ヲ告ケ注意ヲ促シタル處外相ハ西国ノ立場ハ連盟擁護ト両当事国ニ対スル公平維持ニ有ルモノナルモ日本ニ対シテハ出来得ル丈ヶ友情ヲ害セサル様努力セル次第ニテ輿論ノ反感ヲ買フカ如キハ寧ロ意外ナル旨ヲ縷述シ如何ナル点ニ輿論ハ満足セサルヤヲ反問セルニ依リ本使ハ右ハ寿府発新報道ニ基クモノノ如キニ依リ詳細ハ確説シ得サルモ大体ハ西国ノ態度カ現実ニ対スル認識ヲ欠キ専ラ理屈ノミニ走ル傾有ルコト及特ニ規約第十五条ヲ満州事件ニモ及ホサン

ト企図セルカ如キ点ハ最モ強烈ニ感情ヲ刺戟セル如ク観察セラルル事ヲ述ヘ先方ハ凡テノ國際紛争ハ連盟ノ取扱ヒ得ヘキモノナルカ故ニ満州事件モ当然其範囲ニ入ルヘキモノト論シタルコト有ルモ規約第十五条ノ適用ヲ及ホサント企テタル事無ク右ハ何等カ誤解ナルヘシトテ種々弁解ヲ試ミ相当心配セル模様ナリシニ依リ更ニ事ノ満州ニ関スル場合

日本輿論カ如何ニ敏感ナルモノカヲ説キ現ニ之カ為連盟ノ信用ハ日本ニ於テ殆ト地ニ墜チントシ居ルコト從ツテ今般連盟ノ態度如何ニ依リテハ頗ル憂慮スヘキモノアルヲ述へ一層ノ注意ヲ喚起セル處先方ハ「ソビエット」露國及米國ノ加盟シ居ラサル連盟カ更ニ重要一員タル日本ヲ失フ如キ事アランカ是レ人類ノ一大災厄ナルカ故ニ吾人ハ斯ノ如キ事態ノ發生セサル様充分努力セサルヘカラスト述ヘタリ

連盟ヘ転電シ在欧各大使ヘ暗送セリ

322 昭和7年4月(19)日 ※在シユネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

米国世論の動向に関するラモントの談話について

第三八五号（暗）

松平大使ヨリ

本使当地出張ノ途次十七日巴里ニ於テ偶然「ラモント」ニ会合シタル處「ラ」ハ実ハ今少シク遅レテ渡欧ノ筈ナリシモ先頭「スチムソン」ノ求ニ応シ華府ニ赴キ自分カ日本ト関係深キ因縁ヨリ日支問題ニ関スル意見ヲ徵セラレ尚「フ

シテ此ノ上刺戟セラルルコト無キヲ得ヘキカト思考ス何等御参考迄

本会談ハ絶對外部ニ洩レサル様特ニ御注意相成度シ
在歐米各大使（土ヲ除ク）在支公使ヘ転電セリ

323 昭和7年4月20日 在英國沢田臨時代理大使より 芳沢外務大臣宛(電報)

我が連盟総会方針公表方に關し外務次官補との会談について

別電 同日着在英國沢田臨時代理大使より芳沢外務大臣宛第一九四号
日本の連盟脱退問題等に關する公表文案

ロンドン 4月20日前発
本省 4月20日後着

第一九三号（暗）

十九日「ウエルズレー」外務次官補ノ求ニ依リ往訪シタル處往電第一六八号松平大使「サイモン」外務大臣会談ニ言及シ本件ハ當方含迄ニ内報セラレタルモノナリシヲ以テ爾來極秘ヲ厳守シ来リシ処去ル九日ノ「タイムス」紙上ニ連盟規約第十五条ノ満州事変適用問題ニ関スル日本政府ノ見解ハ主要關係國ニ通告セラレタルモノナリト（ノ）趣旨及

キヤト尋ネタルニ「ラ」ハ日本側ニ於テ上海事件ニ関シ寛大ナル態度ヲ執リ速ニ事件ヲ收拾スルニ於テハ満州問題ニ付テハ日本ハ既ニ繰返シ領土的野心無ク門戸開放主義ヲ遵守スヘク又満州ニ於テハ平和ノ確立条約ノ尊重及經濟的發展以外ニ何等望ム処無キコトヲ確言セラレ居ル以上今後充分日本側ニ於テ説明ニ努力セラルルニ於テハ米国輿論モサ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

右適用ハ日本側ノ連盟脱退ヲ誘発スルモノナリト了解セラルル旨ノ同紙特派員ノ東京電報掲載セラレタル為議会ニ於テ本件通告ノ内容ニ付質問スル者アルニ至リ英國政府ハ日本政府ノ希望ニ鑑ミ然ル可ク答弁シ内容ノ発表ヲ避ケタルカ(往電第一八七号^(三一七文書)参照)其ノ後次第二一般ノ注意ヲ惹キ議員中ニハ満州問題ニ対スル規約第十五条適用問題並日本ノ連盟脱退問題ニ関スル日本ノ通告発表方ニ付日本政府ノ了解ヲ取付ケンコトヲ要求スル者アルニ至リ(往電第一八九号^(三一七文書)参照)政府ニ於テモ答弁上甚タ困難ヲ感シ居ル次第ナリ就テハ一般ノ誤解ヲ避ケル為本件ニ対スル日本政府ノ態度ニ関シ大体別電第一九四号ノ如キ趣旨ニテ之カ発表方日本政府ニ於テ御承諾アルマシキヤ若シ又斯ル「ステートメン」ヲ為スニ御異存アルニ於テハ発表シ差支無キ他ノ適當ノ代案無キヤ承知シ度シ右ニ関スル帝国政府ノ意向問合アリ度キ旨依頼アリタリ就テハ之ニ対シ何分ノ回答振至急御回電アリ度シ
米、仏、独、伊、連盟へ転電セリ
(別 電)

No.194

就テハ一般ノ誤解ヲ避ケル為本件ニ対スル日本政府ノ態度ニ関シ大体別電第一九四号ノ如キ趣旨ニテ之カ発表方日本政府ニ於テ御承諾アルマシキヤ若シ又斯ル「ステートメン」ヲ為スニ御異存アルニ於テハ発表シ差支無キ他ノ適當ノ代案無キヤ承知シ度シ右ニ関スル帝国政府ノ意向問合アリ度キ旨依頼アリタリ就テハ之ニ対シ何分ノ回答振至急御回電アリ度シ
米、仏、独、伊、連盟へ転電セリ
(別 電)

No.194

"While prepared to co-operate in the execution of the resolutions of the Council of the League of September 30th and December 10th, 1931, the Japanese Government would be obliged to withdraw their delegates from Genève if the Assembly were to attempt to impose additional restriction on Japanese action in Manchuria, though they do not intend to withdraw from membership of the League."

Sawada.

324 昭和7年4月22日 芳沢外務大臣より
在英國沢田臨時代理大使宛(電報)

我が連盟総会方針公表には不同意にて

第五一号 暗、至急

貴電第一九二号^(三一三文書)ニ関シ

寿府宛往電第一一二号申入ハ連盟側ニ於テ帝国ノ生死ニ関スルカ如キ干渉ヲナス場合帝国政府ハ我代表ノ寿府引揚ヲ行フノ止ムヲ得サルニ至ルヘシト云フニ存スル處右寿府引揚ハ当然ニハ連盟脱退ヲ意味スルモノニ非ルモ連盟側ニシテ飽迄我立場ヲ否認スルニ於テハ結局脱退ノ外ナキ次第ナ

325 昭和7年4月(23)日 在英國沢田臨時代理大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

我が連盟総会方針公表には不同意の国外務次官補へ申入れについて

第一九八号(暗)

二十二日「ウヨルズレイ」次官補ヲ往訪シ貴電第五一号御回訓ノ趣旨ヲ述ヘテ我方立場ヲ説明シ本件発表ニ同意シ難キ旨申入レタル処同次官補ハ御説明ノ次第ハ善ク了解セリ但シ最モ困難ヲ感スルコトハ本件既ニ新聞ニ漏洩掲載セラレタル為無用ニ追求セラル(脱)ニアル次第ナルカ新聞ニ洩レタル程度ノモノナラハ発表シ差支無キニ非セヤト尋ねタルニ付本官ハ仮令新聞程度ノモノニテモ日本政府ノ公式ノ通牒トシテ発表セラル時ハ又新ニ興味ヲ唆リ前述我

方ノ極力避ケントスル事態発生ニ導ク惧アルハ同様ナリト答ヘ尚英國政府ニ於テハ本件発表方ニ関シ日本政府ト交渉スヘキ旨既ニ議会ニ約束セラレ居ル次第ナリヤト聞キタルニ同次官補ハ約束シタル次第ニハ非サルモ追求サルニ於テハ右交渉シタル旨何等カノ形ニテ答弁ヲ余儀無クセラルニ至ルヤモ知レスト述ヘタリ依テ本官ハ本件ニ関スル英

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

国政府ノ苦衷ハ帝国政府ニ於テモ充分了解シ居ル旨申シ來リ居ルニ顧ミ今後議会ニ於ケル質問ニ對シテモ本件ハ「コソフィデンシャル」ノ申入ナルニ依リ内容ヲ語ル能ハストノ從来通ノ答弁ヲ以テ進マルニ於テハ日本政府ニ於テモ之ヲ多トスヘク右特ニ希望スル旨ヲ述ヘタルニ同次官補ハ出来得ル限り御希望ニ副フ様努ムヘキ旨ヲ答ヘタリ

米、仏、独、伊、連盟、支へ転電セリ

昭和7年4月(28日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

326 昭和7年4月(28日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
十九人委員会決議案採択のため総会開会決定

について

第四二五号(暗、大至急)
(一三二文書)

往電第四二〇号ニ関シ

二十七日「ドラモンド」ノ杉村ニ對スル内話要領左ノ通十九人委員会ノ決議案採択ノ為公開會議ヲ開クヘキヤ又ハ

総会ヲ開クヘキカニ付「イーマンス」ト協議セル處(イ)十九人委員会ノ決議力果シテ總会決議ノ如ク連盟各國ノ全部ニ

対シ効力ヲ有シ得ヘキヤ否ヤノ点ニ付テハ大ナル疑問ヲ有スル向鮮カラサルヘキコト(ロ)十九人委員会ナラハ日支代表

ニ對シ賛否ノ意見回示方ヲ求ムル要アルニ立至ルコトアリ得ヘキモ總会ナラハ採択ノ際仮ニ日支双方又ハ何レカカ棄権スルモ決議ハ有効ニ成立スヘキコト等ノ理由ニ依リ此ノ際寧ロ總会ヲ開ク方然ルヘシトノ意見ニ一致シ三十日午前總会開会ニ確定セリ

右總会ハ十九人委員会ノ提出スル決議案採択ヲ目的トスルモノナルカ該決議案ハ既ニ委員会一致ノ同意ヲ得居ルヲ以テ總会ニ於テハ之カ採択上別段紛糾ヲ惹起スル処ナキ見込ナリ云々

在欧米各大使、在支公使へ転電セリ

327 昭和7年4月(28日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

十九人委員会無留保參加方について

第四二九号(暗、大至急)
(三二六文書)

往電第四二五号ニ関シ

長岡代表ヨリ

愈總会開催ノ場合ニハ十九人委員会ノ場合ト異ナリ既ニ過般ノ總会ニ我カ代表參列ノ際留保シ居ル次第(往電第一八二号)ニモアリ此ノ際更ニ留保ヲ繰返シ為ニ法律問題等ノ

約ト何等關係ヲ有セサル旨ノ演説ヲ為シタル趣ニシテ右ハ甚々重要ナル演説ト思考セラルカ右ニ付取調ヲ為ス考ナキカ

(答) 自分ハ斯ノ如キ演説ヲ承知セス
連盟へ転電セリ

328 昭和7年4月28日 在英國沢田臨時代理大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

九国条約満州適用問題に関する英國下院の討議について

ロンドン 4月28日後発
本省 4月29日前着

329 昭和7年4月(30日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

中国代表より事務總長宛提出の日本軍の満洲占領と題する覚書について

第四三九号

二十七日下院ニ於ケル日支事變質問應答左ノ通り

一、(問) 九国条約満州適用問題ニ關スル日本政府ノ態度ニ付何等情報ニ接シ居レルヤ

(答) (外務政務次官)、日本政府ハ九国条約ノ義務ヲ充分尊重スヘキ旨ヲ声明シ居レリ且自分ノ承知スル處ニ依レ

ハ日本政府ハ本件条約ハ満州ニモ適用アルモノト思考スル元來支那ニ関スル條約ハ時々刻々ニ變化スル同國々内事情ヲモ篤ト考慮ノ上之ヲ適用スヘキモノナリトノ主張ヲ有スル次第ナリ

二、(問) 日本陸軍大臣ハ日本ハ満州ニ關スル限り九国条

右覚書中支那側ハ客年九月以来満州ニ起レル各般ノ事變ニ關スル支那側ノ見解ヲ述ヘ之ニ從来日支兩國ノ提出セル通告新聞記事理事会總会ニ於ケル演説等ノ内支那ニ都合良キ条項ヲ配置シ日本ハ連盟規約不戰條約九国条約及理事会ノ決議ニ違反シ満州ヲ占領シ恐怖政治ヲ行ヒタル結果満州ハ現ニ混亂狀態ニ陥リ居レリトノ趣旨ヲ高調シ結論トシテ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

332

昭和7年5月6日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

考迄

リットン調査団中間報告の総会移牒問題につ

「ボラー」「スチムソン」宛書翰ヲ引用シ支那政府ハ総会
カ右米国政府ノ見解ノ如ク現在ノ状態ハ規約ト両立セス日
本ニシテ規約ヲ遵守セシナランニハ斯カル事態ノ発生ナカ
リシナラントノ趣旨ノ宣言ヲ採択スルニ至ルコトヲ疑ハス
又米国政府ノ見解及三月十一日総会決議ノ当然ノ結論トシ
テ占領地域ニ独立政府ナルモノヲ創設セルモ日本ハ依然ト
シテ軍隊ヲ撤退シ以テ規約ト両立セサル事態ヲ終了セシム
ヘキ義務ヲ有スルト共ニ他ノ連盟国ハ規約第十条ニ依リ侵
略ニ対シ支那ノ領土及政治ノ保全ヲ保護スヘキ義務ヲ引続
キ有スルモノナリト述ヘ居レリ

米、支ニ転電セリ、土ヲ除ク在欧各大使ニ郵送セリ

331 昭和7年5月4日 在ジャム国矢田部公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

330 昭和7年5月4日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の活動妨害を中国側非難について

第四五七号

支那代表ハ二日付事務総長宛書面ヲ以テ大要左ノ如キ四月
本 省 5月5日前着 ジュネーヴ 5月4日後発
晩食後寝室ニ帰リタルニ一日日本人室内ニ在リ驚キテ飛出シ
タルニ戸口ニ数人ノ日本人在ルヲ見大声ニテ救ヲ求メ且委
員会ノ一委員来リタル為該日本人ハ逃出シタリ委員会一行
ト雖監視ノ眼ヲ免レス

米、支、奉天へ転電シ、土ヲ除ク在欧各大使ニ郵送セリ

331 昭和7年5月4日 在ジャム国矢田部公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

満洲国よりの承認要請問題に関するシャム外
相の談話について

第四四号(暗)

三日常例会見日ニ付外務大臣ヲ訪問シタル處他ノ要談ヲ終
リタル後大臣ハ実ハ本日満州國ヨリ新國家承認要請ノ公文
ニ接シタリ日本政府モ同様ノ要請ニ接セラレタルコト存
スル処右ニ対シ既ニ承認ヲ与ヘラレタル趣ナリヤトノ質問
アリ本使右ニ付テハ本国政府ヨリ公報ニハ接シ居ラサルモ
新聞等ニテ承知スル処ニ依レハ未タ承認ハ与ヘ居ラサルナ
リト答ヘ暹羅政府ノ措置振ニ付反問シタル處暹羅ハ支那ト
ハ從来全ク条約関係ヲモ有セサル程ニテ嘗テ広東政府ヨリ
承認要求アリタル際ニハ握リ潰シタリトテ今回モ單ニ公文
接受ノ旨回答スル位ニ止ム可キ口吻ヲ洩ラセリ右何等御參
考迄

いて

第四六二号(暗)

往電第四五三号後段ニ関シ

長岡理事ヨリ

「リットン」報告総会移牒ノ形式ニ閑シ懇理事会ノ正式決
議ヲ以テスルカ如キ場合ニハ我方トシテハ第十五条ノ適用
留保ニ閑スル從來ノ立場上之ヲ不問ニ付スルコト如何カト
存セラルル處他方連盟側ニ於テハ日本カ之迄総会決議ニ對
シ再度ニ亘リ「アブステン」シタル次第モアリ此上我方ニ
於テ第十五条適用問題ニ閑シ飽迄反対ノ態度ヲ示スカ如キ
事アランカ海牙裁判所ノ意見ヲ求ムル事トセサルヘカラス
トノ空氣頻リニ醸釀シ来レル様子ニモアリ来ル理事会ニ於
テ「リットン」報告移牒ノ形式ニ閑シ問題トスル場合ニハ
益々上記連盟側ノ空氣ヲ具体化セシメ遂ニ問題ヲ「プレシ
ピテ」スルノ結果ヲ招來セサル無キヤヲ惧ル依テ此際ハ鬼
ニ角右決議ニ依リ移牒ノ形式ヲ避ケシムル事適切ナリト認
メ四日杉村ヲ通シ「ドラモンド」ニ此点熟慮方申入レタル
上「ド」ハ今回ノ報告ハ單ニ事實ヲ述ヘタルニ止マルヲ以
テ何等意見ヲ付スルコト無ク之ヲ総会ニ移牒スルコトト為布

シ其形式ニ付テハ決議ト為スニハ及ハサルヘク議長ニ於テ
予メ用意セル声明ヲ為スコトトスルモ可ナルヘシトノ意向
ヲ示スニ至レリ

就テハ固ヨリ右声明ノ内容如何ニモ依ルコト乍ラ此際斯ル

形式問題ニテ「プレシビターション」ヲ招来スル事ハ策ノ得タルモノニ非スト認メラルニ付上記声明ノ如キ形式ニテ本件ヲ默認シ置ク事機宜ノ处置ト存セラル（声明ノ内容ニ付テハ予メ議長及事務総長ト打合セスル積リナリ）就テハ右ノ方針ニテ進ミ度ク至急何分ノ儀御回電アリタシ

在欧米（土ヲ除ク）各大使、支へ転電セリ

333 昭和7年5月8日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

リットン調査団中間報告に関する中国代表の見解について

第四六五号

〔1〕「リットン」報告ニ関シ支那代表ハ四日付ニテ連盟ニ対シ大要左ノ通報ヲ為シ七日發表セラル

九月三十日及十二月十日ノ理事会決議ニ於テ日本ハ速ニ其軍隊ヲ付属地内ニ撤収スル事支那ハ日本軍ノ撤収ニ連レ付

屬地外ノ日本人ノ安全及財産保護ニ付責任ヲ取ル事又両國共ニ事態不拡大ノ措置ヲ採ル事ニ付夫々約束ヲ為セリ
委員会ハ最後ノ点ニ付之カ審査ヲ今後ノ報告ニ留保セリ支那側ノ約束ニ関シ該報告ハ新事態ノ発展ニ鑑ミ支那側ノ之カ実行ニ関スル實際問題ハ起リ居ラスト述へ居ル處右新事態トハ滿州偽國家ノ樹立ト日本軍不撤収トヲ指スモノナル可ク右ハ當然支那側ノ約束不履行ノ責任ヲ解除スルモノナリ日本側ノ約束ニ関シ同報告ニ依レハ日本軍ハ單ニ撤収セサルノミカ日本側提供ノ情報ニ依ルモ其数ヲ増シ居レリ、而シテ實際ノ兵數ハ日本側ノ言フヨリモ遙ニ多數ナラサルヘカラスト存ス所謂滿州國軍ハ何レノ点ヨリ云フ日本ノ不正規軍ト称スル方良カル可シ反日軍及滿州國軍ノ數ニ関シ支那側及日本側ノ言分ニ差異アリ仮ニ日本側ノ言フ通りトルモ猶滿州ニハ現政権ニ反対スル大ナル組織的軍隊存在シ居ル事及日本軍並ニ其友軍ハ日本ノ言フカ如キ不正規兵又ハ匪賊ト交戦シ居ル訛ニアラストノ結論ニ達ス可シ同報告ハ滿州ノ諸軍隊ヲ區別スルニ当リ新事態即チ地方行政ノ変革ナル文句ヲ使用シ居レルカ日本ハ理事会決議ニ反シ先ツ治安維持会ノ設立ヲ援助シ右ハ後ニ滿州國トナリタリ

此新事態ハ理事会ノ予見セサリシ処ニテ九月三十日及十二月十日ノ両回決議案ニ反スル事ハ云フ迄モナシ

〔2〕該報告ハ匪賊ノ横行及諸軍隊ノ衝突ヲ記述シ居ル處斯カル悲シムヘキ事態ハ日本軍國主義者ノ行動ノ拙劣ナルコトヲ示スモノニテ日本軍カ常ニ口ニスル平和、秩序、治安ノ維持ナル其ノ使命ハ全然果サレ居ラス結局事態ハ日本軍ノ撤収及支那ノ正当ナル政権ノ設立ニ依リテノミ匡正セラルトノ帰結ニ達スルノ外ナシト認メラル

要スルニ同報告ハ東三省ニ関スル日支紛争ニ対スル支那ノ態度ヲ正当ト認メ居リ又日本ハ昨年両回ノ理事会決議ノ拘束ヲ果シ居ラストノ明白ナル意見ヲ述へ居レリ日本カ其ノ東三省征服ニ向フ一階梯トシテ満州ニ武断國家ヲ樹立シ自己ノ指揮監督ノ下ニ置カントスル意思ニ就テハ最早疑ノ余地無クスカル計画ハ到底連盟及世界ノ許スヘキモノニ非ス米、支、奉天へ転電シ、土ヲ除ク在欧各大使へ郵送セリ

334 昭和7年5月8日 芳沢外務大臣より
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

リットン調査団中間報告の総会移牒形式につ

いて
第二〇六号 暗、至急
貴電第^(三三二文書)四六二号ニ関シ
長岡理事へ

一、理事会カ「リットン」報告ノ総会移牒ヲ決議スル場合ニハ我方トシテハ第十五条留保ヲ援用シ棄権スル外ナキコト貴見ノ通りナルニ付貴理事カ右決議ニ依ル移牒ノ形式ヲ避ケシムル様御尽力相成居ルハ時宜ニ適スルモノト認ム

尤モ元來我方ハ今次臨時総会ニ対シ第十五条ノ適用ニ関スル異議ノ留保ヲ付シ居ル次第ナルニ付仮令議長ノ声明ヲ以テ移牒スル場合ニモ右我方ノ總会ニ対スル立場ハ之ヲ堅持スルヲ要スル義ナルモ（尚議長声明ハ自然貴電第三〇六号總会議長書翰ヲ援用スヘキ處我方カ該書翰中ニ掲記セル三月十一日總会ノ拘束力ヲ認メス從テ十九人委員会ヲ否認スル立場ニアルコトハ御承知ノ通リナリ）理事会側カ議長声明ノ如キ比較的の穏和ナル移牒ノ形式ヲ採用スル以上我方トシテモ会議ノ席上態々前記我方ノ立場ヲ援用シ問題ヲ荒ララクルコトハ本意ニ非ルニ付理事会

開会前予メ貴理事ヨリ議長宛書翰ヲ『リットン』報告書總会移牒ノ件ニ関シ我方トシテハ右報告ノ内容カ總会ヲ構成スル各國側ニ對シ「インフォーム」セラルコトニ関シ何等異存ナキ所ナルカ同時ニ我方ハ臨時總会ニ對シ第十五条ノ適用ニ關スル異議ノ留保ヲ為シ居ル次第ナル旨ヲ「リマインド」スルモノナリ】トノ趣旨ヲ申入レラレ度（右ハ我方ノ立場ニ付為念「リマインド」スルニ過キスシテ何等新ナル主張ニ非ルニ付議長ノ回答ヲ予期シ居ラサルノミナラス何等問題起ラサル限り本書翰ヲ外部ニ發表スル意向モナキ次第ナルニ付其ノ旨議長及「ドラモンド」ヘ可然説明シ置カレ度又尚當方トシテハ今次理事会終了後ニハ九月ノ定期總会迄ハ成ルヘク臨時總会ヲモ開カシメス穩便ニ進ミ度考ナリ）

二、尚「リットン」報告書カ理事會ニ提出サレタル際我方トシテハ其ノ内容ニ付進シテ可否ノ論議ヲ為ス意向ナキモ万一支那側等カ右内容ニ關連シ我方ニ不利ナル言説ヲ為スカ如キ場合（貴電第四六一號「ドラモンド」ノ口吻ニモ顧ミ万々右様ノコトハ無カルヘシト存ス）ニハ必要ニ応シ往電第一四六号ノ趣旨ヲ体シ可然応酬セラレ度

会ニ移牒スヘキコトヲ報告スル積リナリト述ヘタルニ付本使ハ日本トシテモ右ニテ異存無キ次第ナルカ自分限リノ案トシテ斯クノ如キ議長宣言案ヲ作成シタリトテ別電第四六九号ノ案ヲ示シタル処「ド」ハ大体自分トシテモ此「ライ」ニテ宣言案ヲ作成シ度ク唯精クスルヤモ知レス兎ニ角参考トシテ其案ヲ残サレ度シト述ヘタルニ付更ニ本使ハ最モ難関ハ十五条ノ留保ノ問題ナルカ東京ヨリノ訓令ニ依レハ本件留保ニ付テハ書キ物トシテ差上クルモ良ク又日本側トシテハ問題ノ起ラサル限り右書キ物ヲ公表スル意思ナキ次第ナリト述ヘ「ド」ノ此点ニ關スル意見ヲ尋ネタル処（本使ハ書キ物トシテ之ヲ議長ニ送リ公表セサルコトハ連盟事務局從来ノ取扱振りニ鑑ミ困難ナルヲ以テ却テ理事會ノ席上本使ヨリ軽ク本件留保ヲ述フル方可ナランカト思ヒ居リタルニ付此点ハ先ツ試ミニ「ド」ノ意見ヲ求メタリ）
「ド」ハ本件留保ハ四月三十日ノ總会ニテモ言及セラレ何人モ問題ヲ起ササリシニモ鑑ミ簡単ナル形式ニテ又之ヲ繰返サレテモ差支無カル可シト云ヒ別電第四七〇号ノ案ヲ手交シタルニ付本使ハ本使トシテモ右案ニ異存無キニ付議長カ声明ヲ為シタル直後之ヲ讀ミ上ク可シト約スルト同時ニ

支、北平、奉天、米ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報セシメタリ
土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリタシ

335 昭和7年5月10日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛（電報）

リットン調査団中間報告總会移牒の形式について

別電 同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第四六九、四七〇号
長岡理事作成の議長宣言案ならびにドラモンド提出の日本代表留保案について

第四六八号（暗）

⁽¹⁾長岡理事ヨリ

一、九日ノ理事會ニ於テ仏國大統領及「アルベール・トマ」葬儀ノ為理事會ヲ一旦休会シ更ニ十八日ヨリ引続キ開會スルコトトナレルヲ以テ「リットン」中間報告上程ノ日取其他貴電第二〇六号御來示ノ次第ニ関シ内協議ノ為九日午後「ドラモンド」ヲ訪問シタル処「ド」ハ本件報告ニ關シテハ議長ヨリ報告接到シタルコトヲ述ヘタル上簡單ニ臨時總

リ リ 謹り居リタリ

士 ラ 除ク在欧米各大使及支 リ 転電ヤニ

(司 署)

丁

No.469 (電報)

Le premier rapport daté Moukden, le 30 avril 1932, a été reçu par Secrétaire-général de Commission d'étude, nommée conformément à la résolution du Conseil du 10 décembre. Il a été distribué aux Membres du Conseil et de la Société.

Le rapport est l'exposé de faits et s'abstient de commentaires, qui sont réservés pour plus tard. Dans ces conditions, je propose que le Conseil ne procède pas en ce moment à un examen du document et le communiquer à l'Assemblée, à titre de documentation, conformément au voeu exprimé dans la résolution du 11 mars, sans y ajouter d'observations.

丁

No.470 (附)

Japon accepte la proposition du Président mais cette acceptation n'implique pas l'abandon des réserves que Japon a antérieurement formulées.

334

336 昭和7年5月10日 ※在ジ ネーガ沢田連盟事務局長宛
貴電第468号 (電報)

日本の顧問團提出書面

第111号 暗 大至急

貴電第468号 (電報)

長岡理事<

貴電第470号ノ前半「日本ハ議長ノ提議ヲ受諾ス但シ右

受諾」、「日本ハ此ノ際特ニ議長ノ提議ニ異議ナシヘナ

ベシハ但シ右ハ」ニ密メハ度

支 奉天、北平、米 リ 転電ヤニ

士 ラ 除ク在欧各大使 リ 転電ハ

337 昭和7年5月11日 ※在ジ ネーガ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛 (電報)

理事會公開會議上提出シテハ委員会報告

總領事團の承認立ヒマ

Commission, celle-ci devrait adresser au Conseil le rapport sur la situation aussi rapidement que possible".

La Commission a expédié ce rapport de Moukden le 30 avril. Il a été distribué au Conseil et aux Membres de la Société sous C 407.

Ce rapport est l'exposé des faits; il ne renferme pas de commentaires, la Commission se réservant d'en présenter dans un rapport ultérieur. Etant donné la nature du dit rapport, je pense que le Conseil ne désirera pas en délibérer et qu'il voudra, conformément au voeu exprimé dans la résolution de l'Assemblée du 11 mars, le communiquer à celle-ci pour sa documentation et sans y ajouter d'observations.

~~~~~

En soumettant au Conseil le 9 décembre le projet de résolution qui fut adopté le lendemain le Président du Conseil fit déclaration qui contenait notamment paragraphe suivant:

"Si les engagements de la résolution du 30 septembre n'ont pas été exécutés au moment de l'arrivée de la

338 昭和7年5月11日 ※在ジ ネーガ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛 (電報)

我代表顧問團の提出書面

第四711号 (電報)

長岡理事<

貴電第111号ノ理賛会閉会後接到タルリ 杜御來示ノ変

335

更ヲ加ヘ得サリシハ遺憾ナルモ實質上大差ナキヤニ思考セラルニ付惡カラス御諒承ヲ請フ  
米、支へ転電セリ、在欧各大使へ暗送セリ

339 昭和7年5月(13)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
別電 同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会第一次報告要旨について  
務大臣宛第四七六号  
右報告結論について

第四七五号

事務総長ハ十一日付十九人委員会議長ノ依頼ニ基ク趣ヲ以テ三月十一日決議第三部第七項ニ依ル同委員会第二次報告ヲ総会ニ移牒セルカ其要旨左ノ通り(十一日各連盟国ニ通告セラル)

十九人委員会ハ既ニ四月二十九日上海ニ於ケル状況及停戦交渉ニ付報告ヲ提出セルヲ以テ(往電第四五一号)本報告ハ滿州問題ノミヲ取扱フ旨ヲ前置シ

(<sup>(1)一九三六年文書</sup>丁)往電第三〇四号十九人委員会ノ要求ニ対シ四月十三日支那側ニリ回答アリ(往電第三六五号)又日本理事ヨリハ

別電トシテ採録スル趣ヲ述ヘ別電第四七六号ノ通り結論ス

(別電)

No.476

It would therefore appear that the situation can be summarized as follows:

As regards Shanghai, Special Committee thinks it may say that Assembly's resolutions aiming at the definitive cessation of hostilities and the withdrawal of Japanese forces are in process of being carried into effect. The agreement negotiated on the spot in accordance with Assembly's recommendations seems likely to ensure complete withdrawal of the Japanese forces in a short time.

As regards Manchurian question, Special Committee did not feel called upon to open its examination until it had received from the Council a report by Commission of Enquiry together with any observations the Council might desire to make.

340 昭和7年5月(20)日 在米国出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
上海田中相談ノ題マニ米國務長官、次回ヨリ  
正體立ヘシ

四月八日付滿州ノ一般状況ニ閔シ事務総長宛通告アリ右通告ハ各連盟国ニ配布セラレタル趣並支那側ヨリ往電第4一八号及第4三九号ノ通告アリタル趣ヲ述ヘ次テ  
(1)「リットン」委員会報告促進方ニ閔スル十九人委員会決定及往電第三〇六号ノ書翰往復ノ次第ヲ述ヘ  
(2)「リットン」委員会ハ滿州ノ状況ニ付調査ヲ開始シタル処現場ニ代表者ヲ有スル理事国及米国ハ之ニ援助ヲ与フルコトトナリタル趣(往電第三五三号及第三六一号)ヲ掲ケタル後「リットン」委員会カ四月三十日付ヲ以テ奉天ヨリ滿州ノ事態ニ付予備報告ヲ提出シタル事ハ総会ヲ構成スル各連盟国ノ知悉セラル所ナルカ連盟理事会ハ五月十日ノ会議ニ於テ右報告ニ何等意見ヲ付スルコト無ク総会ノ「ニキュメンテーシヨン」トシテ移牒スルコトヲ決定シタルヲ以テ便宜右「リットン」報告ヲ本報告ノ付録トシテ採録スル趣ヲ述ヘ別電第四七六号ノ通り結論ス  
別電ト共ニ土ヲ除ク在欧各大使、支、米へ転電セリ  
(別電)

第311四号(暗、極秘)  
十九日仏国大使ニ面会ノ際同大使ハ先般貴大臣ヨリ上海及其付近ニ於ケル恒久的平静維持ノ問題ニ閔シ四国代表者ニ内話ヤハレタル御趣旨ハ仏国政府ニ於テ能ク了解セルモ支那代表者ヲ除キテ詰合ヲ進ムルコトハ同政府ニ於テ不安ナリト思料シ居リ其眞本日國務長官ニモ内報スル積リナリト洩シタルニ付同日本使長官ニ面会ノ際長官歐州旅行中ニ帝國政府ニ於テ上海方面派遣陸軍全兵力ノ内地帰還ニ決定セル次第ヲ内話スルト共ニ貴大臣ト四国代表者トノ内話ニ言及シタルリ「ス」ハ日本政府ニ於テ撤兵ニ決定セラレタルハ頗ル満足ニ感シ居ル処ナリト述フルト共ニ上海ニ於ケル平静維持問題ニ付テハ自分ニ於テ帰國早々未タ研究ヲ遂ケ居テヤハレタル御趣旨ヘタリ本問題ニ付去ル十五日「キャッスル」ニ面会ノ際閣下ノ御趣旨ノ有ル処ヲ述ヘ其意向ヲ探リタルニ貴大臣御詰ノ趣旨ハ「ネビル」ヨリモ報告ニ接シ充分了解シタルモ支那側ヲ除外シ東京ニ於テ会談スルカ如キハ自然世ノ中ニ洩レ支那側ノ感情ヲ無益ニ刺戟スル惧アリテ面白カウサルノマニラス実際ノ所不日日本政府ニ於テ撤兵ヲ実行セラレタル後ニセラルル事或ハ適切ナラスヤト自分

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

限り考へ居ルモ委細長官帰國ノ上相談スル積リナリト述ヘタリ以上御参考迄電報ス

英、支へ転電シ、英ヨリ在欧各大使及寿府へ転電セシメ、支ヲシテ上海及南京ニ転報セシム

341 昭和7年5月(27)日 在米国出淵大使より  
斎藤外務大臣宛(電報)

斎藤内閣の成立ならびに日ソ関係に関するス

チムソンとの会談について

別電 同日着在米国出淵大使より斎藤外務大臣第三三

四号 日本の東支鐵道買収に関するニューヨーク・タイ

ムス記事について

第三三六号(暗)

二十六日国務長官ニ面会ノ際新内閣成立ノ次第ヲ内話シタル處長官ハ斎藤子爵ノ為人殊ニ朝鮮総督トシテノ治績ハ夙ニ承知シ居リ尚恰モ昨夜「アドミラル、プラット」ヨリ寿府会議ニ於ケル同子爵ノ処置振りニ付詳シク聞込ミ今回子爵ノ如キ公明ナル政治家カ日本内閣ヲ組織スルニ至リタルコトハ國際政局ノ多事ナル今日自分ノ衷心ヨリ喜ヒニ堪ヘ

サル処ナル旨ヲ述ヘタリ

在英大使ニ転電シ、在欧各大使及連盟ニ転電セシム

(別電)

第三三四号

二十五日巴里発紐育「タイムス」特派員「フィリップ」通信

信ハ日本政府ハ東支鐵道ノ露國側持分ヲ買収セントシ本件

交渉ハ仏亞銀行頭取 Massenetニ依リテ目下東京ニ於テ行

ハレ居ル旨ヲ報シ相当注意ヲ引キタルカ同日同紙華府通信

ハ國務省當局ノ談トシテ右ニ付テハ國務省ハ未タ確報ニ接

セサルモ米国政府ノ該鐵道ニ對スル關係ハ單ニ國際交通機

関トシテ利害關係ヲ有スルニ過キス過般露支紛争ニ際シ

「スチムソン」長官ハ不戦條約ニ基テ両國ノ注意ヲ喚起シタル事有ルモ右ハ全ク國際平和ノ為ニシテ該鐵道ノ地位ニ関連シテ為サレタルモノニ非サル次第ナリト述ヘタル旨申シ居レリ

英ニ転電シ英ヲシテ在欧各大使及連盟ニ転電セシム

~~~~~

342 昭和7年5月30日 在ハルビン長岡總領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

ランブソン英公使の帰國について

ハルビン 5月30日後発

本省 5月30日後着

第五八四号

「ランブソン」公使昨二十九日午後當地發西比利亞經由帰

国ノ途ニ就ケリ

公使、北平、露へ転電セリ

往電第一五号ニ閲シ

三十日事務總長ヨリ長岡理事宛書翰ヲ以テ「リットン」委

員会経費トシテ連盟ヨリ支出セル額ハ近ク五〇万法ニ達ス

ヘキニ付日本政府ニ於テ予テノ約束ニ從ヒ其ノ分担額ノ第

一回払込金トシテ米貨五万弗ヲ成ルヘク速ニ支払方希望シ

来ルト共ニ其後ノ月割払込金ハ六月十五日以降一万二千五百百弗ト致度ク且委員会費用總額ハ決算次第通知スヘキ旨申越アリ回答振何分ノ儀御回電ヲ請フ

仮へ転電セリ

満洲における日本軍の行動調査方中国側より

覚書提出について

第四八九号

支那代表ハ二十七日付ヲ以テ満州ニ於ケル日支衝突ニ関スル覚書ヲ連盟ニ提出シタル趣ニテ右ハ本三十一日公表セラレタリ右覚書中支那ハ先ツ十一月十日理事会決議及其ノ採決ニ際シ支那代表ノ為セル解釈ヲ引用シタル上

(1) 戰闘ハ未タ休止セス

(2) 日本軍ハ撤収セス

(3) 日本カ満州政府ヲ作りタル為事態悪化セルコト

(4) 日本軍増派ハ更ニ戰闘ヲ拡張シ人命喪失ヲ來スヘキコト

(5) 理事会ハ関係列国代表者ヨリ現地ノ状況ニ付何等情報ニ接シ居ラサルコト

ヲ指摘シ次テ「リットン」委員会第一報告ハ満州ノ事態悪化セルコトヲ示シ居ル處其ノ後日本ハ第十四師団ヲ満州ニ派遣シタルノミナラス最近支那側ニ達シタル情報ニ依レハ日本ハ更ニ増兵シ北満ノ支那軍隊ヲ攻撃セントシ居リ大規

(1) 現場ニ代表者ヲ有スル諸國（支那側トシテハ特ニ哈爾賓ニテ松花江付近ノ日本軍ノ活動ニ付調査ヲ為スコト最モ肝要ナルヘキコトヲ指摘ス）

(2) 「リットン」委員会

ヨリ之ヲ徵スヘキモノナリトノ趣旨ヲ述ヘ居レリ

米、仏、支ニ転電シ、他ノ在欧各大使ニ郵送セリ

345 昭和7年6月5日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

総会報告作成期間延長に関する連盟事務局の意向について

第四九一號(暗)

原田^(健)ヨリノ内報ニ依レハ事務局側ニテハ日支紛争ニ関スル総会ノ報告ハ規約第十二条第二項ニ依リ事件ノ総会付託後六ヶ月以内ニ之ヲ作成スル要アリト為シ居ルモ同期間内ニ右報告ヲ作成スルコトハ目下ノ処実際上殆ト不可能ナリト

認メラルルニ付軍縮會議一般委員会ノ為遠カラス各国ノ主ナル代表者当地參集ノ機會ニ於テ十九人委員会及臨時總会ヲ開キ其決議ニ依リ前記期間ノ延長ヲ決定シ置キ度キ意向ニテ昨今内々準備中ノ由ナリ右聞込ノ儘不取敢
米、仏、支へ転電シ、仏ヲ除ク在欧各大使へ暗送セリ

346 昭和7年6月7日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
(斎藤外務大臣宛(電報))

総会報告作成期間延長問題に関する杉村事務

局次長の内報について

ジュネーヴ 6月7日後発
本 省 6月8日前着第四九五号(暗)
(三四五文書)
往電第四九二号ニ関シ

杉村次長ト種々懇談ノ結果不取敢同次長ヨリ「ドランソン」ノ意向ヲ尋ネ貰フ事ニ取計ヒ置キタルカ昨六日午後「ド」ト会談ノ機会アリタル趣ニテ其ノ際「ド」ノ内話トシテ杉村ヨリ大要左ノ通内報アリ

「期間延長問題決定ニ付テハ次ノ如キ二ツノ方法ヲ考へ得
ヘシ

尚且下ノ処「イーマンス」ハ軍縮一般委員会出席ノ為来ル十三日頃来寿ノ予定ナル趣ナルカ右「ド」ノ考案並ニ臨時

総会開会日取等ハ「イ」着寿ノ上協議ヲ重ネ何分ノ決定ヲ
ナスニ至ルナラント察セラル。
英、米、仏へ転電シ在欧各大使へ暗送セリ。

347 昭和7年6月11日 ※在パリ沢田連盟事務局長より
寿府沢田発閣下宛電報第四九五号ニ関シ

総会報告作成期間延長問題について

第四一号（暗、至急）

（三四六文書）
寿府沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛（電報）

長岡代表ヨリ

日支事件総会報告提出期間延長問題ニ関シ連盟ノ取ルヘキ
態度ハ「イーマンス」カ寿府ニ赴キ連盟首脳部ト協議ヲ遂
クル迄確タル決定ニ達シ難キ次第ナルモ我方トシテハ予メ
之ニ善処スル対策ヲ考究シ置クヲ要スヘシ仮リニ冒頭電報
ヲ基礎トシテ案スルニ期間延長ハ実際問題トシテ我方ニ有
利ナルコト申迄モナキ次第ナルニ付此ノ際ハ規約第十五条
ニ関スル我方從来ノ留保ヲ維持シツツ實質上期間延長ノ提
議ニ贊意ヲ表シ以テ同電（）ノ如キ紛糾ヲ避クルヲ得策ト思
考ス就テハ大体「日本ハ從来主張シ來レル留保ヲ維持シツ
ツ第十二条ノ期限延長ニハ異議ヲ挾マサルヘシ」トノ「ラ
サルコト」ノ間違ト解ス）

二、尚ホ寿府連盟來電第四九五号ニ依ルニ「ドラモンド」
ハ我方カ何處迄モ第十五条ノ適用ニ反対從テ決議ニ際シ
単ニ棄権スルニ止ムルニ於テハ第十五条ヲ日支事件ニ適
用シ得ヘキカ否カニ付海牙裁判所ノ意見ヲ求メムトスル
說多數ヲ占ムルニ至ルヘキ虞アリト申シ居ル趣ナル処連
盟側カ斯ノ如キ説ニ從ヒ我方ニ対シ圧迫的態度ニ出テ來
ルカ如キ場合ニハ我方トシテハ連盟側ト正面衝突ヲナス
外ナキ次第ナルニ付（我方ハ前記海牙裁判所付託ノ決議
ハ全会一致ヲ要ストノ見解ヲ固執スルモノナリ）此ノ辺
ノ事情ハ適當ノ機会ニ杉村公使辺ヨリ「ド」ニ対シ可然
説示シ置カル様致度

米ニ転電セリ、土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

349 昭和7年6月12日 在仏國長岡大使より
（三四六文書）
斎藤外務大臣宛（電報）

満洲問題に関するエリオ新首相の好意的発言
について

イン」ニテ回答ヲ与ヘ右電報（）ノ方法ニ依リ本件ヲナルヘ
ク簡単ニ片付ケル様仕向ケ度ク本件ハ早晚擡頭シ来る問題
ト考フルニ付寧ロ早キニ及ゾテ「イーマンス」「ドラモンド」等ト話合ヒヲ遂ケ置ク方可然在寿府諸官ト熟議ノ結果
本使ハ十三日朝同地ニ着スヘキニ付前記方針ニ対スル貴見
十三日迄ニ寿府宛御電報相成様致度シ
米、連盟へ転電セリ、在欧米各大使へ暗送セリ。

348 昭和7年6月11日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
（三四七文書）
（電報）

長岡代表ヨリ

第二三七号（暗）
（三四七文書）
巴里発貴電第四一号ニ関シ

長岡代表ヘ

一、貴見ノ如ク寿府連盟來電第四九五号（）ノ方法ニ依ルコ
トハ好マンカラサルニ付（）ノ方法ニ依ルコトシ巴里連
盟來電第四一号ノ通り取計ハレ度（寿府連盟來電第四九
五号（）ニ「同意ヲ表サルルコト」トアルハ「同意ヲ表サ

第五二〇号（暗、極秘）

十一日「エリオ」首相新任後最初ニ面会ノ節本使ハ同氏
從来ノ親日態度ヲ感謝シタル後満州問題ニ言及シタル処
「エ」ハ本問題ニ対スル日本ノ立場ハ良ク之ヲ了解シ居ル
モノナルカ本問題ニハ実際的ノ方面ト共ニ法律上ノ方面モ
アリトノ趣旨ヲ述ヘタルニ付（右趣旨ハ急進社会党側ノ意
見ヲ反映セルモノト思ハル）本使ハ満州問題カ日本ニ取り
死活ノ案件ナル点ヲ強ク説明シタルニ「エ」ハ本問題ニ付
テハ未タ閣僚ト意見交換ヲ為シタルコトナキモ（之ハ新内
閣ニハ自党以外ノ閣員モアルニ付政府ノ方針トシテ前記趣
旨ニ幾何ノ重要性ヲ置クヤヲ知ラストノ意ト解セラル）將
來滿州問題ニ関シ日本カ困難ニ遭遇セラレタル場合ニハ忌
憚ナク申出テラレ度ク自分ハ真摯御援助致スヘシト述ヘタ
リ

右ノ語氣ヨリスレハ「エ」ハ日本ノ友人トシテ党議ヲ離レ
行動スヘシトノ意ヲ漏ラセルカ如キ感アルモ実際問題起レ
ル際何處迄彼ニ信頼シ得ヘキヤ勿論未知数ナルカ同首相ノ
挨拶振何等御参考迄報告ス
米ニ転電シ、在欧各大使、寿府ニ暗送セリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

350 昭和7年6月(14日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

総会報告作成期間延長問題に関するドキュメント
ムとの会談」について

第四九八号(暗)
(三四八文書)
貴電第一二一七号ニ関シ

長岡代表ヨリ

十三日午後「ドラモン」ト会見、本使ヨリ第十二条ノ期限ヲ延長スル論アリトノロトナルカ右ニ関シ貴見ヲ承リ度シト述べタル處「ド」ハ之ニ付テハ「リットン」ヲシテ満州問題解決意見ヲ取急キ提出セシメ是ヲ基礎トシテ期間内ニ報告書ヲ作ルカ或ハ右期限ヲ延長シテ委員会ノ報告完了ヲ待ツカ一箇ノ方法アルベシト答ヘタルニ付本使ハ前段ノ如キ中間報告書取寄ノ可能性アリヤト反問セルニ勿論ナリト色ヲ正セルニ付果シテ然ラハ之亦妙ナルベシト応答セル處「ド」ヨリ折レテ此方法ニ依ルハ希望スヘキ事柄ニ非スト言ヒタルニ付本使ハ日本カ期限延長ニ異存アリトハ思ハスト述ヘタルニ「ド」ハ頗ル満足氣ニ実ハ前段案ニ依ル時ハ理事会ニ於テ審査スル期間極メテ僅少トナルヘキニ付自

分トシテモ期限延長ヲ希望シ居ル次第ナリ自分ノ考ニテハ過日杉村次長ニ話シタル如ク日本カ其ノ留保ハ留保トシテ維持シツツ延長ニ異存無キ旨ヲ明カニセラレ本件ヲ円満ニ片付クル方法ヲ講シ度キ積リナリト述ヘタルニ付本使ハ議長ヨリ書面ヲ貰フ場合ハ夫ニ対シ例くハ

“je n'ai pas d'objection à la prorogation du délai fixé à l'article 12, sans que je renonce au bénéfice des réserves antérieures” トノ趣旨ニテ回答スルコトシ度シ

トテ右文句ヲ一度繰返シ且今回ハ第十二条ノ問題ナレハ第十五条ト云フコトニハ特ニ言及セサル次第ナリト説明シタル處「ド」ハ自分限リニテハ右ニテ結構ナリ就テハ「イーマンス」議長今夜到着ノ筈ナレハ明日右ノ「ライン」ニテ相談ノ上結果ヲ御知ラセスヘク更ニ明後日本使「イ」ニ会見ノロムトシ三人間ニ行違乃至誤解無キ様充分打合セラ遂ケ度シト述ヘタルニ付(「ド」カ明後日ト云ヒタルハ「イ」ノミナラス他ノ主ナル国ノ代表トモ打合セタキ意向ナルベシ)本使ハ之ヲ諾シタルニ「ド」ハ更ニ幸ニ右ニテ話纏リタル際ハ総会ノ席上一人ニテモ之ニ反対スルモノアリテハ不可ナルニ付総会ニテハ議長ヨリ期限延長ニ関シ両当事国

トモ異存ナキ旨ヲ披露シ之ニテ異議ナキヤ否ヤ形式的ニ総会ニ詔リ以テ簡単ニ片付クルコトト致度ク此ノ為ニハ事前ニ措置ヲ要スルニ付総会ハ多分今月末頃トナルベシト述ヘタルニ付本使モ此際平地ニ波瀾ヲ起スカ如キハ日本ノ本意ニアラス又調停ノ任ニ当ル連盟ノ職分ニモ反スヘシト述ヘタル處「ド」モ全然同感ノ意ヲ表シ期限延長ハ大体三ヶ月ト為サントスル積リナルカ委員会報告ハ多分九月中旬入手シ得ヘキニ付秋ノ通常総会ハ十月初旬ト為シ理事会ニ充分右報告ヲ審議スル余裕ヲ与ヘ度シト述フルト同時ニ頻リニ「リットン」報告カ单一解決案ヲ提議シ取扱ヒ易キモノタランコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ居リタリ

在欧各大使(仏、土ヲ除ク)及巴里連盟ヘ転電シ、巴里連盟ヨリ仏ヘ転電セシム

351 昭和7年6月(14日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

滿洲国承認問題について

第四九九号(暗、極秘)

長岡代表ヨリ

最近東京ヨリノ新聞電報ハ日本ニ於テ滿洲国ヲ即急承認ス

ヘシトノ論據頭シ居ル趣ヲ報シ居ル處往電第四九八号期限延長ノ為総会ヲスラスラ通サ(シ)メント腐心シ居ル矢先其ノ理由ノ如何ニ拘ラス満州國承認ノ擧アルニ於テハ或ル一派ノ者ハ之ヲ以テ連盟ニ對スル挑戦ト看做シ思ハサル波乱ヲ生スル惧鮮カラス就テハ本使赴任當時ノ廟議御変更ノ必要有之承認ニ決定相成ル場合ニハ其ノ時期ニ関シ予メ當方ト御打合ヲ得度ク又新聞方面ヲモ然ル可ク右ノ趣旨ニテ御指導相成様致度シ

在歐各大使(土、仏ヲ除ク)巴里連盟ヘ転電シ仏ヘ転報セシム

352 昭和7年6月14日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛
斎藤外務大臣より

滿洲事変に対する連盟規約第十五条適用打切
り方にについて

第二二九号 暗、至急
(三四八文書)
往電第一二一七号ニ関シ

長岡代表ヘ

一、報告提出期間延長問題ニ付テハ右往電申進メノ次第ア

ル処当方研究ノ結果ニ依レハ右期間延長ハ仮ニ今回ノ事件ニ限ルトスルモ規約第十二条第二項ノ変更ナルニ付各連盟本国政府ノ同意又ハ規約第二十六条ニ基キ連盟側ノ批准ヲ要スル義ニシテ総会ノ決議ノミヲ以テ決定シ得ヘキ問題ニ非ル次第ナリ

二、元来本年一月開催ノ定例理事会開催前ニ於ケル連盟側ノ空氣ニ依レハ右理事会ニ於テハ事新シク満州問題ヲ論議スルコトナク支那調査員ノ報告接到ヲ待チツツ事態ノ推移ヲ静観スルノ態度ヲ執ルコトトナルヘキヤノ模様ナリシ處偶々上海事件ノ勃発ヲ見タル結果連盟側トシテモ第十五条適用ニ閑スル支那側ノ要求ヲ思止マラシムルコトヲ得ス遂ニ我方ノ反対ニ拘ハラス同条ヲ日支事件ニ適用スルコトトナリタルコト既ニ御承知ノ通リナリ

三、然ルニ其ノ後上海方面ニ於テハ停戦協定ノ成立ヲ見我上海派遣軍モ五月三十一日ヲ以テ全部引揚ヲ了シタル次

第二有之又滿州ニ於テハ日本軍及滿州國軍ニ依ル兵匪等不逞分子ニ対スル警察行為行ハレ居ルノミニテ日支間ニ戰争發生ノ危険ハナキ現状ナルニ付旁々今日ニ於テハ連盟側ヨリ言フモ最早第十五条ヲ適用セムトシタル目的存

在セサルニ至レルモノト言フヲ得ヘシ

四、果シテ然ラハ連盟側トシテハ從來ノ行懸等ニ捉ハルルコトナク前記ノ実情ヲ淡白ニ受入レ上海事件ニ基ク一時ノ衝動又ハ誤解ニ原因スル第十五条適用ヲ打切ルコトトスルコト策ノ得タルモノナルト同時ニ前掲第一項ノ如キ違法措置ヲ執ルコトヲ避け得ル所以ト存ス（右第十五条適用打切りノ方法トシテハ本年一月第十五条適用以来ノ問題ノ成行ヲ述ヘタル上）（イ）第十二条所定ノ期間内ニ適當ノ解決案ヲ見出スコト困難ナルニ付第十五条ノ適用ヲ打切り第十二条ニ依ル処置ニ委スル旨又ハ（ロ）最近第十五条ノ適用ノ要ナキニ至レルニ付之カ適用ヲ打切り第十二条ニ依ル処理ニ委スル旨ヲ決議スルコトトスレハ可ナルヘキヤニ存スル處右ハ何レニスルモ連盟側ニテ第十五条打切ノ気持ニナレハ打切ノ方法ハ如何様ニモ案出シ得ヘシト思ハル

五、尤モ右ノ如クニシテ第十五条ノ適用ヲ打切ルトスルモ来ル九月定例総会開催ノ上ハ支那側ハ口実ヲ設ケ又々第十五条適用方ニ付策動スルナラント想像セラルモ其ノ際ハ上海事件勃発當時トハ著ルシク事情ヲ異ニシ居ルニ

付連盟側トシテモ支那側ノ要求ヲ抑ユルコト比較的困難ナラサルヘシト存セラル

第五〇一一号（暗）
（三五〇文書）
往電第四九八号ニ閑シ

長岡代表ヨリ

六、就テハ前記ノ次第御含ノ上一方総会ノ決議ノミニ依リ期間ノ延長ヲナスコトノ違法性ヲ可然指摘シツツ（此ノ点ハ連盟側トシテハ甚タ痛キ問題ナルヘク從テ余り強ク此ヲ「プレス」スル結果即時報告提出論ノ擡頭ヲ見サル様注意ノ要アルヘン為念）他方第十五条ノ適用（延イテハ滿州問題自体）ヨリ手ヲ引クコトカ連盟トシテ最モ賢明ノ策ナルコトヲ強ク印象セシムル氣持ニテ連盟首脳部ニ折衝シ何トカ第十五条適用打切ノ実現ヲ見ル様懇談ヲ試ミラレ度結果回電アリ度（尚ホ右御懇談ニ拘ラス矢張リ期間延長トナル場合ニハ冒頭往電第二二七号ノ趣旨ニテ措置セラレタシ念ノ為メ）

米、支ヘ転電セリ

土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度

353 昭和7年6月（15日）※在シヨネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛（電報）

総会報告作成期間延長問題に関するイーマン
スとの会談について

題ヲ荒立テサル精神ニ基クモノナルカ故ニ此ノ精神ハ

他ノ連盟國ニ於テモ多トセラレテ可ナルヘシト信ス若シ之ニ拘ラス何人カヨリ我カ留保ニ関連シ問題ヲ起スカ如キ場合ニハ日本トシテハ勢ヒ之ニ対応スル方策ニ出ツルノ外無カル可シト述ヘタルニ「イ」ハ多分斯ル事態ニ立至ル事無カル可シト信スト答フルト共ニ我方回答ノ文句中 *pas d'objection* ヘ *accepte* ト改メ得サルヤト尋ネタルニ付本使ハ夫ハ字句ノ問題ニ過キス帰スル処同一ナルニ付之力変更方「インシスト」セラレサル様シタント答へ置キタリ（右ハ貴電第二二一號ノ次第モアリタルニ付スク応答セル次第ナリ）

二、次テ「イ」ハ其ノ内ニ支那側ノ内諾ヲモ取付ケタル上約一週間後ニ十九人委員会ヲ招集シ御相談致シタル通りノ「ライン」ニテ日支両國ニ延期ノ承諾ヲ求メル積リナル事ヲ披露シ其ノ同意ヲ得タル場合ニハ両國ニ書面ヲ送リ正式ノ回答アリ次第形式的ニ総会ヲ開ク事トシ度キ積リナリ実ハ総会ヲ開ク迄ノ事モ無キ次第ナルカ盛ニ邪推スルモノモアル事故矢張リ総会ヲ開カサレハ収マラス

尚本使十五日一応巴里ニ帰任ノ筈尙期限ノ延長ハ最初ハ三ヶ月ノ積リナリシモ「リット

二、上海事件結果ヲ告ケタル今日連盟側トシテモ最早十五条適用方ヲ固執スル必要ナカルヘシトノ意見ハ我方トシテハ至極尤ニ存スル處累次ノ電報ニテ御了解モ有之ヘキ通り第十五条ノ適用ニ関シ当初ヨリ連盟一般ノ空氣ハ右ハ支那ノ要求ニ基ク当然且ツ適法ノ処置ト考ヘ居リ又日本カ三月十一日ノ決議ニ対シテ為シタル棄権乃至十九人委員会構成国ノ選択ニ対シテ採リタル態度等ニ付第十五条適用ニ対スル日本ノ留保ハ意義甚タ不明瞭ナリトノ感ヲ抱カシメ居ル今日御訓令ノ問題ヲ提起スルニ於テハ我方ノ第十五条留保ニ関シ司法裁判所ノ意見ヲ求ムヘシトノ議論ヲ徒ニ挑発スルニ過キサルヘン

ン」卿ヨリ事務局ニ内報アリタル通り「リットン」報告カ九月中旬ニ到達スルモノトシ理事会カ充分之ヲ審議スル為ニハ六ヶ月延長スルノ要アリトノ「ドラモンド」ノ意見ナルヲ以テ六ヶ月延長ヲ提議スル筈ナリ依テ定時總会ハ正規通りニ開キ紛糾ヲ避ケル為日支問題ヲ討議セサル事トシ「リットン」報告到着迄理事会ニテ充分研究ノ上意見ヲ付シテ總会ニ回付スル事トシ總会ハ之ヲ十一月頃招集スルヲ可トス可シト「ド」及自分ニテ考ヘ居レリト語レリ

冒頭往電通り転電セリ

354 昭和7年6月(16)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
貴電第一二一九号ニ関シ（同電ハ往電第五〇一號「イーマンス」トノ見後接到）

第五〇三号（極秘）

長岡代表ヨリ

貴電第一二一九号ニ関シ（同電ハ往電第五〇一號「イーマンス」トノ見後接到）

一、第十二条ノ期限延長カ所謂規約ノ修正事項ニ該当スルヤ否ヤノ問題ハ當方ニ於テモ相當研究シ又元ヨリ事務局

三、如何ニシテ第十五条ニ対スル當方留保ノ結果ヲ付クヘキヤニ付テハ慎重熟議ノ結果沢田局長ヨリ次官宛客月末發書面ヲ以テ内申セリ右ハ不日到着ノコトト察スル処幸ニシテ「リットン」委員会報告カ我方ニ不利益ナラス且ツ理事会ニ於テ之ヲ考究ノ結果我方ヲ満足セシメ得ヘキ結論ニ達シタル場合斯ル意見ヲ付シテ報告ノ回付ヲ受ケタル總会カ之ニ対シ異議ヲ述フヘシトモ思ハレス旁此最後ノ段取ニ於テハ第十五条ノ留保ヲ高調スルコト無ク總会ヲシテ理事会ノ意見ヲ承認セシムル方得策ナリト思考ス換言スレハ本邦カ第十五条ノ留保ヲ飽ク迄維持シツツアルハ「リットン」委員会ノ報告乃至理事会ノ意見カ本邦トシテ承諾不可能ノ場合總会ノ無權限ヲ主張スル為ノ取テ置キニテ其ノ以前ニ之ニ関シテ具体的議論ニ入ルハ極メテ不得策ト存セラル

四、本使着任以來當方面ニ於テハ三月十一日ノ決議カ日本ノ棄権即チ不在ノ意味ニテ満場一致總会ヲ通過シテヨリ第十二条ニテ取扱ヘル「リットン」委員会ニ対スル万端ノ權限ハ當然總会乃至十九人委員会ノ權限ニ移リタルモノニシテ「リットン」委員会ノ報告書モ理事会ニテ審議

スルノ権限ハ無シト云フカ如キ空氣著シク充滿シ居リ大國ノ法律家中ヨリモ此ノ意見ヲ耳ニシタル次第ナルカ最近ハ幸ニ此ノ空氣改善セラレ報告書ハ先ツ理事会ニテ充分ニ討究スヘシトノ意見ニ好転シ来レル次第ニテ此ノ事態ハ本邦トシテ充分留意ヲ要スル事柄ト思ハレ旁輕々ニ十五条ノ問題ヲ持出シテ以上ノ空氣ヲ打壊ス様ノ事ナキ様細心ノ注意ヲ払フ必要アリト存セラル

355 昭和7年6月(16)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)
総会報告作成期間延長問題に関するドラモン

ドとの会談について

第五〇五号(暗)
長岡代表ヨリ

一、十五日「ドラモンド」ヲ訪問シ前日本使「イーマンス」トノ会見ノ次第^(三五三文書)二号ノ趣旨ヲ語りタル処
「ド」ハ「イ」ヨリモ右ト同様ノ話アリタリト答へタルニ付誤解無キ為トシテ往電第四九八号本使ノ回答文句ヲ書キ物ニシテ交付シ置ケリ其ノ際「ド」ハ期限延長ノ期間ヲ六ヶ月トスル様「イ」ト打合セタルカ右ニテハ少シ

ゾ」報告ヲ接受シタル後ニ至リ十九人委員会ニテ決定スルコトトシ此ノ際ハ單ニ期限ヲ延長スル旨ノミヲ決定スルコトニ意見一致セリト内話セル趣ナリ(杉村ノ看ル所ニ依レハ「ド」カ斯ノ如ク意見ヲ変更シタルハ「ド」ハ同日朝顔惠慶ト会見シタル由ナルニ付今ヨリ四ヶ月ト謂フカ如キ長期間ヲ定ムルコトニ付願ヨリ苦情出テ又小国側ヨリ非難ノ出ツルコトヲ惧レタル為ナル可シト謂フ)

寿府連盟、在欧米各大使へ転電(仮、土ヲ除ク)シ、仮ヘ転報セリ

357 昭和7年6月(22)日 在パリ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)
十九人委員会・総会開催期日について

第五一号(暗)
寿府発大臣宛電報第五〇五号ニ関シ

十九人委員会ハ支那側回訓ノ都合及「ローザンヌ」會議トノ関係上二十四日開催総会ハ二十八日開催ノコトニ決定セル趣事務局側ヨリ内報アリタリ

寿府連盟、在欧米各大使へ転電セリ

長過キ種々誤解ヲ起ス惧有ルニ付四ヶ月トスル事トシ度キニ付御含置キヲ請フト述ヘタリ尚期限延長ノ為ノ總会ハ本月二十四日頃ニスル事ニ打合セ置ケリ

二、「ド」ノ言フ処ニ依レハ定期總会開催ノ時期ハ軍縮会議ノ経過如何ニ懸ルニ付今ヨリ確定日取ハ定メ難キモ定期總会ニハ連盟予算ノ事項ヲ除キ別ニ大シタル問題無キ見込ナリトノ事ナリ

在歐米各大使(仮土ヲ除ク)へ転電シ、巴里連盟へ転電シ仏へ転報セシム

356 昭和7年6月(18)日 在パリ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)
総会報告作成期間延長問題に関する杉村・ド

ラモンド会談について

第四四号(暗)
寿府発往電第五〇五号ニ関シ

十六日午後「ドラモンド」ハ杉村ヲ招キ規約第十二条ノ期限延長ニ関シ十五日長岡大使四ヶ月延長ヲ提議スヘキ旨内報セルカ其ノ後熟考ノ末「イーマンス」トモ協議シタル処右延長期間ハ總会カ理事会ヨリ其ノ意見ト共ニ「リット

360

昭和7年6月(24)日 在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

日本議会における満洲國承認決議に関する中

存ナルモ果シテ今ノ處日本政府ハ満州國ヲ承認スル意無シト説明スルノミニテ先方ヲ納得セシメ得ルヤ否ヤ疑問無キ能ハス元来「リットン」委員会ノ任務ハ十二月十日ノ決議ニテハ其後成立シタル満州國ノ「ステイタス」ヲ取扱フカ如キ重大問題ニ触ルル権限ヲ包含シ居ラストモ思ハルルカ當方ニテ了解スル所ニ依レハ「リットン」委員会カ満州ニ赴キテ以来ノ行動ニ徴シ又日本ノ新聞論調其他ヨリ案スル時ハ我国ニテハ同委員会カ相當立入りタル解決策迄モ報告中ニ掲クル事ヲ默認シ同委員会ニテモ亦其氣分ナルカ如ク観測セラル果シテ斯ノ如キ氣分カ双方ニ釀成シ居ルモノトセハ同委員会カ報告ヲ提出スル以前ニ満州國ヲ承認スルハ畢竟同委員会ノ事業ヲ破壊スト云フ事ニ帰着スヘク今回ノ支那側ノ要求電報カ北平ヨリ発セラレタルモノノ如ク思ハルルニ付此ノ点ニ闕スル「リットン」委員会ノ氣分モ同電報ニ反映シ居ラスヤトモ考ヘラル節アリ本使カ寿府発往電(三五一文書)第四九九号ヲ以テ卑見上申ノ際ハ模様ニ依リテハ今回ノ臨時総会無難ニ済ミタル後例ヘハ或ハ八月中旬頃承認ヲ決行シ委員会報告ノ連盟到着前既成事實ヲ作り置ク方可ナルニ非スマト考ヘ居リタルモ其後建川少将等ハ承認ハ報告提

報ニ反映シ居ラスヤトモ考ヘラル節アリ本使カ寿府発往電(三五一文書)第四九九号ヲ以テ卑見上申ノ際ハ模様ニ依リテハ今回ノ臨時総会無難ニ済ミタル後例ヘハ或ハ八月中旬頃承認ヲ決行シ委員会報告ノ連盟到着前既成事實ヲ作り置ク方可ナルニ非スマト考ヘ居リタルモ其後建川少将等ハ承認ハ報告提

在欧米各大使(仮土ヲ除ク)へ転電セリ
359 昭和7年6月23日 斎藤外務大臣より
在英國斎藤臨時代理大使、在米國出
渦大使他宛(電報)
本省 6月23日後8時発
合第一三九二号(暗、極秘)
滿州國承認問題
(二二三一文書)往電合第一三八九号ニ闕シ

出後ニスヘキモノナリト高調シ居リタリ若シ幸ニ此ノ意見ニ共鳴スル分子カ東京殊ニ満州ニ於テ相当多キモノナラハ斯ノ如ク行動スルコト時宜ニ適スト思考セラル換言スレハ本電冒頭ノ説明ノミニテ連盟側ヲ納得セシメ得サル場合本使ヨリ日本ニテハ自己ノ発起シテ送リタル委員会カ今折角報告作成中ナルカ故ニ該報告完成前承認ノ問題ヲ起スカ如キ事ニハ考サヘ及ヒ居ラスト言フ事ヲ明言シ得ハ好都合ト思考ス就テハ此点ニ闕スル政府ノ御意向大至急寿府宛御回示アリ度シ

在欧米各大使(仮土ヲ除ク)へ転電セリ

359 昭和7年6月23日 斎藤外務大臣より
在英國斎藤臨時代理大使、在米國出
渦大使他宛(電報)

本省 6月23日後8時発

合第一三九二号(暗、極秘)

滿州國承認問題

(二二三一文書)往電合第一三八九号ニ闕シ

別電 同日着在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より斎藤外務大臣宛第五〇八号

中国代表より十九人委員会議長宛書翰

第五〇七号

支那代表ハ十九人委員会議長「イーマンス」ニ宛テ一九三一年付別電第五〇八号書翰ヲ送付セリ

別電ト共ニ土ヲ除ク在欧米各大使ニ転電セリ

(別電)

第五〇八号

Under the instructions from my Government I have

the honour to transmit to Your Excellency the following telegraphic message, dated June 22nd and signed by His Excellency Dr. Lo Wen-kan, Minister for Foreign Affairs, with the respectful request that

contents of the telegram be brought to the knowledge of the Committee meeting of tomorrow.

In view of serious situation created by the Japanese Diet passing resolution for recognition of Manchukuo, please make an urgent appeal to the Special Committee

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

of Nineteen to take immediate steps calling upon the Japanese Government to observe obligations under September and December resolutions of the League Council to refrain from taking initiative which will further aggravate the situation and to desist from such recognition which is sure to render the work of the Commission of Enquiry abortive and prepare the way for grave conflict in Far East.

361 昭和7年6月24日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛（電報）

滿州国賠償承認の日本議会決議に対する中国

側書翰に關する件ハニシの御談に付

ハニシネーヴ 6月24日後発
本省 6月25日前着

第五一〇号（至急、極秘）
(三五八文書)

巴里連盟発電報第五二一號ニ閲シ

長岡代表ヨリ

一十四日正午「ムカヤンヌ」ト会見、本使ヨリ今朝書面
(三五九文書)
(往電第五〇八号) ヲ入手シタリト述ヘタル処（右書面ハ

十九人委員会及日本ノミリ配布セラル）「ム」ベ実ハ支那側ヨリ此ノ際スカル要求ヲ為スハ甚々面白カラスト思考シ之カ中止方顔ニ勧告シタルモ顔ハ上海停戦協定成立スルヤ國論ノ非難ヲ捲起シ為ニ政府主席ハ辞職ノ已ム無キニ立至ル事情モアリ政府ハ此ノ際何トカ面子ヲ整ヘル必要ニ迫ラレ居レリトテ右要求撤回ヲ肯セサリシ次第ナリト語レル付本使ハ日本ノ議会決議ナルモノハ先例ヨリ見テ自分ノ了解スル処ニテハ勧告又ハ希望表示ト解スヘキモノニシテ政府カ之ニ如何ナル考量ヲ加フルヤハ自ラ別問題ナル処本使トシテハ今直ニ政府カ右決議ヲ取上クルト云フカ如キ報道ニ接シ居ラス然ルニ若シ此ノ際十九人委員会又ハ総会カ支那側ノ要求ニ関連シ或種ノ措置例ヘハ議長ヨリ日本政府ニ対シ勧告ヲ發スルト云フカ如キコトアランカ折角今迄手前此ノ上國論ヲ抑ヘ得ルヤ否ヤ疑問無キ能ハス從テ其ノ結果ハ計リ知ル可カラサルモノアリト述ヘ本件支那側要求ノ取扱振ニ付「ド」ニ於テ何等カ考案ヲ立テタリヤト尋ネタル処「ム」ハ自分ニモ目下ノ處何等ノ成案ナン併シ其取扱方如何ニ依リ十九人委員会等カ予期スルト正反対ノ結果

支、北平、米、在欧各大使（土ヲ除ク）ニ転電セリ

362 昭和7年6月24日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
貴電第五〇八号ニ閲シ

滿州国承認問題に關する連盟との対応に付

本省 6月24日後9時発

第一三五号（暗、大至急）

満州国承認問題ニ閲スル支那側ノ対連盟覚書ニ

閲スル件
(三六〇文書)

長岡代表ヘ

トナリ面白カラスト思考スルニ付此ノ際ハ右ヲ通告セサル方得策ナルヘシト答へ（「ド」ノ語氣ヨリ察スルニ同人ハ既ニ本件ヲ承知シ居リ若シ十九人委員会ニ於テ本件英國政府ノ措置ノ内容ノ説明ヲ求ムルコトアラハ連盟ト九国条約トノ機微ナル關係ヲ惹起シ事態却テ紛糾スルコトアルヲ怖ルモノニアラスヤトノ印象ヲ得タリ）御話ノ次第ハ充分了解シタルニ付本日十九人委員会前「イーマンス」ト会見篤ト打合スベシト述ヘタリ

（一）帝国政府トシテハ満州国承認問題ニ閲スル我國輿論ノ趨向殊ニ六月十四日衆議院カ満州国承認ヲ決議セルノ事實ハ之ヲ考慮ニ入レサルヲ得サル義ナルカ右決議ノ趣旨モ之カ採択ノ際ニ於ケル各党代表者ノ演説ニモ顧ミ現在直チニ承認スヘシト云フニ非スト解セラル次第ナリ要スルニ本件ニ閲スル帝国政府ノ態度ハ本大臣カ議會ニ於テ宣明セル通り出来得ル限り速ニ承認スヘシト云フニアルモ内政關係其他諸般ノ事情ノ許ス限りハ慎重ヲ期シ度キ

考ナリ（以上ハ内政問題ノ関係モアリ連盟首脳部ニ於テ
絶対ニ嚴秘ニ付スル様篤ト念ヲ押シ置カレ度）
（1）若シ連盟側カ本件支那側申出ヲ取上ケ我方ノ満州國承認
ヲ禁止スルカ如キ趣旨ノ決議等ヲナスコトアラムカ我方
トシテハ主義上ノ問題トシテ右決議等ヲ否認スルノ外ナ
ク其ノ結果連盟トノ正面衝突ヲ來スニ至ルノミナラス本
邦輿論ヲ刺戟シ却テ我方ノ承認実行ヲ促進スルコトナ
ル虞アリ

（2）元来今次連盟側カ報告提出期間ノ延長ヲナサムトスルハ
不必要ニ事態ヲ荒ラクルコトヲ避ケムトスル用意ニ出
ツル次第ナルヘキ處一方右ノ如キ慎重ナル態度ヲ執リツ
ツ他方我方トノ正面衝突ノ危険ヲ賭スルカ如キ措置ニ出
ツルハ固ヨリ連盟首脳部ノ本意ニ非サルベク殊ニ我方カ
仮ニ此ノ際満州國ニ対シ承認ヲ与フルトスルモ右ハ九月
三十日及十二月十日理事会決議ニ所謂事態ノ悪化ト称ス
ヘキモノニ非ス

（3）就テハ叙上ノ趣旨御含ノ上連盟側ニ於テ支那ノ申出ヲ取
上ケ前記ノ如キ危険ナル状態ヲ招来スルカ如キコトナキ
様連盟首脳部ト驚ト懇談ヲ遂ケラン度

（4）[五八文書]（三五八文書）「今接到セル處同電末尾ノ通り
調査委員報告完成迄ハ承認セスト云フカ如キ言明ナス
コトハ嚴ニ避ケラレ度此ノ点ニ関スル応酬ハ前記（1）ノ程
度ヲ越エサル様致度」

（5）[六〇文書]（三六〇文書）「五〇八号及巴里連盟來電第五二号ト共ニ
貴電第五〇七号、五〇八号及巴里連盟來電第五二号ト共ニ
支、北平ニ転電シ本電ノミ米ニ転電セリ」

本電土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

363 昭和7年6月25日 ※在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より
別電 同日着在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より斎藤外
務大臣宛第五一三号

総会議長より日中両国代表あて書翰

より日本両国代表あて書翰にて

別電 同日着在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より斎藤外
務大臣宛第五一三号

総会議長より日中両国代表あて書翰

第五一三号（暗、大至急）

長岡代表ヨリ

一、一十四日午後十九人委員会ノ結果總會議長ヨリ別電第
五一三号ノ通りノ書簡ヲ日支両代表ニ送リ其回答ヲ求メ
一十九日（予定ヨリ一日延期）総会を開クコト決定セ

リ（別電冒頭引用書類ハ巴里連盟発閣下宛第四十六号）
（1）尚事務局ヨリ得タル情報ニ依レバ承認問題ニ闕スル
支那側書面（往電第五〇八号）閲シテハ同委員会ニ於テ
相当議論アリタルモ結局別電書翰「en vous présentant
cette proposition 以テハ一節ヲ加ハルトムニシテ十九人
委員会乃至総会トシテ此ノ上何等ノ措置ニ由ハサルコト
ニ決定ヤル趣ナリ」

（2）別電第五一三号議長書翰「一十四日付ヨリテ即夜本使
宛送付シ來レル」付往電第四九八号中段ノ文句（仏文）
ノ前ニ「一十四日付貴輸了承ノ旨ヲ簡単ニ付加スルノミ
en vous présentant 以テハ一節ヲ何等触ノベ回知
スル積ラナコ

本電別電と共に在欧米各大使、支、北平、韓電ヤニ

（完）

No. 513

La dernière communication reçue de la Commission
d'étude et qui a été distribuée le 15 juin au Conseil
et aux Membres de la Société sous No. C519 se ter-
mine par ces mots; "la Commission espère présenter

qui siègent dans son Comité Spécial, j'ai l'honneur de
vous soumettre la proposition suivante qui, si elle
reçoit votre agrément et celui du représentant de
Chine, pourrait être présentée à l'Assemblée que je
réunirais en séance plénière un de ces prochains
jours;

“Tout en insistant sur le caractère exceptionnel d'une mesure qui lui est imposée par les circonstances,

l'Assemblée, constatant que les représentants des Gouvernements chinois et japonais ont l'un et l'autre

notifié à son Président leur accord sur la prorogation

du délai prévu au deuxième alinéa de l'article 12

du Pacte, décide la prorogation de ce délai dans

la mesure strictement nécessaire et étant entendu que ladite prorogation ne saurait constituer un précédent.

Après réception du rapport de la Commission d'étude l'Assemblée fixera sur la proposition de son Comité la durée de la prorogation.

Il va sans dire qu'en décidant cette prorogation, l'Assemblée n'a nullement l'intention de prolonger indûment ses travaux: elle veut les terminer aussi vite que les circonstances le lui permettent. Elle compte en particulier que son Comité sera en mesure de commencer à examiner le rapport de la Commission

d'étude avant le premier novembre.

En vous présentant cette proposition j'ai devoir d'ajouter que je compte fermement que l'engagement de ne pas aggraver la situation pris par les deux parties devant le Conseil et enregistré le trente septembre et le dix décembre dans les résolutions qui gardent toute leur force exécutoire sera scrupuleusement observé: je suis certain que vous estimerez comme moi que ces résolutions continueroient d'être entièrement valides pendant la période pour laquelle le délai de six mois sera éventuellement prolongé. Je me réfère également à la résolution que l'Assemblée a adoptée le onze mars et dans laquelle elle a rappelé les deux résolutions du Conseil.

Si la proposition que j'ai l'honneur de vous soumettre rencontre, comme je l'espère, votre agrément, je vous serais reconnaissant de vouloir bien me le faire savoir aussitôt que possible afin de me permettre de réunir l'Assemblée en séance plénière.

364 昭和7年6月(25)日 在南京上村總領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

日本の九国条約違反に關する中國の關係國宛 公文翻訳立ヒシテ

第四八八号

「十五日ノ新京日報ニ依レバ外交部ハ最近九国条約關係國ニ対シ日本ノ滿州國承認及條約破壊ニ関スル確証ヲ列挙ヤル約八百字ヨリナル公文ヲ發送セルカ其ノ要旨ハ先ツ滿州國ハ日本人ノ一手請負ニシテ日本政府カ遂ニ之ヲ承認スルハ支那領土ノ保全ヲ破壊スルモノナルコトヲ述べタル後日本ハ締約國ノ一ツシテ支那領土ノ保全ヲ尊重スヘキ義務アル處右日本ノ行動ハ実ニ九国条約ノ精神ニ違反スルコトヲ指摘シ最後ニ締約國ハ等シク同條約擁護ノ義務アルコトヲ述く其ノ注意ヲ喚起シタルモノナル由御参考迄尚英國公使館書記官「ホルマム」ノ談ニ依レバ右公文ハ114日受領セルカ其内容ハ日本ノ九国条約破壊ニ関スル極メテ抽象的ノモノナル由

支、奉天、北平、長春、輕電ヤニ

365 昭和7年6月25日 在英國斎藤臨時代理大使、在米國出淵大使他宛(電報)

滿州國承認既體立關する本田次官の英大使宛 の相談立ヒシテ

本省 6月25日後10時發
合第1回10号 暗、極秘扱、至急

⁽¹⁾⁽¹⁾⁽¹⁾⁽¹⁾⁽¹⁾ 滿州國承認問題

往電合第一三八九号ニ關シ

「十五日有田次官ヲシテ英國大使ノ來訪ヲ求メ外務大臣ノ意見ヤ一昨日自分ノ私見トシテ述へタル所ト同ニシテ即チ日本政府トシテハ十四日衆議院ノ決議ニ明示セラシタル國論ノ趨勢ヲ考慮ニ入レサルヲ得スト言フニ在り然シ乍ラ右決議ハ其際ノ各派代表ノ演説ヨリ判断スルモ必シシヤ時承認ト言フニ非ス寧ロ出来得ル限り速カナル承認ヲ必要スル趣旨ニテ從来外務大臣カ議会ニ於テ質問ニ答ヘ居所ト合致シ即チ政府ト議会トノ間ニハ何等意見ノ相違ナキモノト認メ居レリト答ヘシメタルニ大使ハ実ニ英國議会ニ於テ本件ニ關スル質問アルヤモ知ニサル処御話ノ次第英国外務当局ヨリ答弁シ差支ナキヤモ尋ねタルリ付次官ニ

リ英國当局カ外務大臣ノ議会ニ於ケル答弁即チ日本政府ハ

成ル可ク速カニ承認ノ意向ナリト述ヘ居ル所ヲ日本政府ノ

意見トシテ表示セラレ今日御話セル所ハ同当局自体ノ解釈

トシテ付加セラル程度ナラハ差支ナカルベシト述ヘ更ニ

同大使ヨリ連盟調査団カ東洋ヲ去ル迄ハ承認ヲ行ハサルヘ

シト言フ如キコトヲ言明セラルコト不可能ナリヤト推問

セルニ付次官ヨリ自分ハ此ノ点ニ付政府ヲ義務付クル如キ

何等ノ言明ヲ為シ得ス然シ乍ラ純然タル私見トシテハ目下

ノ情勢ニテハ調査団ノ東洋退去前承認ノ如キコトハナカル

ヘキヤニ思考セラル尤モ今回支那側ハ承認問題ニ付連盟ニ

「アビール」セル處若シ連盟ニテ之ヲ取上ケ日本ノ承認ヲ

禁スル如キ趣旨ノ如何ナル意味ノ決議等ニテモ為ス如キ

コトアラハ日本國論ヲ刺戟シ政府ヲシテ承認ノ時期ヲ早ム

ルノ余儀ナキニ至ラシムルコトアルヤモ知レスト述ヘ置キ

タル趣ナリ

本電宛先冒頭往電同様

寿府ヨリ英士ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ
支ヨリ南京ニ転報アリタシ

(奉天宛ニハ「谷局長ノ裁量ニ依リ長春ニ転電アリタシ」)

ト付記ノコト)

(編注) 本電報はジユネーヴ、上海、北平、奉天にも発電された。

366 昭和7年6月(26)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より斎藤外

務大臣宛第五一六号

総会議長書翰に対する日本代表の回答にハ

て

別電

同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より斎藤外

務大臣宛第五一六号

往電第五一二号(3)ニ関シ

第五一五号(暗)

(⁽¹⁾六三文書)

長岡代表ヨリ

二十五日付ヲ以テ別電第五一六号ノ通り回答セリ

本電別電ト共ニ冒頭往電通り転電セリ

(別電)

No.516(暗)

En vous accusant réception de votre lettre en date du 24 juin j'ai l'honneur de vous faire savoir que je n'ai pas d'objection à la prorogation du délai fixé à

l'article 12 du Pacte, sans que je renonce au bénéfice des réserves antérieures.

367 昭和7年6月27日 蒜藤外務大臣より
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

総会報告作成期間延長問題に関する態度にハ
ハシテ

第113(七号 暗、至急

貴電
(⁽¹⁾六三文書)
第五一二号ニ関シ

長岡理事く

(⁽¹⁾六三文書)
二十九日總会ニ於テ貴電第五一二号中段決議ヲ採択スル場

合ニハ貴代表ニ於テハ規約第十五条適用留保ノ関係上投票ニ参加セラレサルコト致度(右ハ累次ノ往電ニヤ顧ミ申

ス迄モナキ義ナルモ貴電第五一二六号回答ニ從来ノ留保ヲ拠棄セサル旨付加シアルニ拘ハラス決議案ニハ日支両国代表

カ規約第十二条第二項ノ期限延長ニ同意セル旨通報セリトアリテ留保保持ニ言及シ居ラサルニモ鑑ミ念ノ為メ申進ス)

尚其ノ際必要アルニ於テハ期間延長ニハ實質上反対ナキモ

規約第十五条適用留保ノ関係上投票スヘキ立場ニアラサル
迦述ヘラレ差支ナシ

米、支、北平、奉天ニ転電シ支ヲシテ南京ニ奉天ヲシテ長
春ニ転報セシメタリ、士ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

368 昭和7年6月27日 蒜藤外務大臣より
在欧各大使、在米国出牒大使他宛
(電報)

間島におけるマイン人神父殺害事件の真相に
ハシテ

合第一四一二号(暗)

間島地方ニ於ケル独逸人神父殺害事件A.P等ニ於テ各地ニ

打電セラレタル模様ニ付真相大略御参考迄左ノ通

間島龍井村(Lung ching tsun)天主教神父独逸人「コノド
ラ・ラップ」ハ葬儀ニ列スル為六月五日同地ヲ出発同夜九

時頃新馬里(Hsin ma li)ヲ通過シ(此ノ地ニ於テ土匪警
戒中ノ日本軍哨兵前ヲ通過シ誰何ヲ受ケタル事實ニ依リ判

明ス)大嶺洞(Ta ling tung)ニ向ヒタルカ其ノ後新馬里
市外西方約三里ノ布爾巴通河(Pu erh pa tung)左岸ニ於
テ何者カニ刺サレ殺害セラレ居ルコト一鮮人ニ依リテ發見

セラレタリ右報知ニ接シ最寄日本警察ニ於テ犯人捜査ニ手ヲ尽シタルカ右警察官一行ハ途中神父周聖道(Chou sheng tao)カ「ラップ」ノ死体ヲ局子街(Chu zu kai)ニ運搬スルニ会ヒ周神父ノ承諾ヲ得テ該警官ノ同伴セル局子街医師金東弼ヲシテ実地検証セシメタル結果犯行及同地方共匪ノ活動情況上ヨリ見テ其ノ反宗教運動ニ原因セル共匪ノ所為ナリトノ推定ヲ得タルモ未タ加害者ヲ発見スルニ至ラス

在伯大使宛ニハ「亞爾然丁ヘ転電アリ度」ト付記ノコト
(編注) 本電報は、ソ連、トルコ国を除く在欧各大使およびブルジル国にも発電された。

369 昭和7年6月(28日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
貴電第一二三七号ニ閲シ

総会報告作成期間延長問題に対する対処方針について

第五一八号(暗)

(三六七文書)
貴電第一二三七号ニ閲シ

長岡代表ヨリ
(三五〇文書) (三五三文書)
往電第四九八号第五〇一号等ニテ御承知相成ルヘキ通り本件期限延長ハ当事国ノ同意ヲ根本トセルモノニシテ(往電

二参照) 従テ期限延長問題ヲ不成立ニ終ラシムルハ申迄モ無ク其余波如何ニ拡大スヘキヤハ御想像モ有之ヘキ通リナリ
尚冒頭貴電括弧内ニ付テハ往電第五〇二号ノ一中段参照相成度ク畢竟先方ヨリ当方ノ留保ニ付言及セサルヲ以テ回答ニ於テ之ヲ為セル次第ナリ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

土ヲ除ク在欧各大使、米、支、奉天ヘ転電セリ

370 昭和7年6月28日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(三六九文書)
貴電第五一八号ニ閲シ

総会における報告作成期間延長問題に関する

態度について

第二二三八号(暗)

(三六九文書)
貴電第五一八号ニ閲シ

長岡理事へ

(1) 総会ニ於テ本件決議案ニ付投票ヲ行フ場合我方トシテハ第十五条留保ノ關係上投票ニ参加スルコト到底不可能ナルニ付是非共冒頭貴電前段ノ如ク投票ヲ用ヒサル形式ニ依ル様連盟側ト充分ニ懇談ヲ試ミラレ度又若シ右不可能ナルニ於テハ(2)ノ通り措置セラレ度

(2) 当方トシテハ我方ニ於テ既ニ書面ヲ以テ議長提案ヲ實質上受諾シタル以上總会ニ於テ事情ヲ具シ投票不參加ノ態度ヲ執ルトスルモ目下ノ連盟側ノ空氣ニモ顧ミ貴見ノ如

キ「シリヤス」ナル事態ヲ招來スヘシトハ想像シ難ク
(尚ホ本件ニ関シ從来我方ニテハ第十五条留保ノ關係上

セラレタリ右報知ニ接シ最寄日本警察ニ於テ犯人捜査ニ手

ヲ尽シタルカ右警察官一行ハ途中神父周聖道(Chou sheng tao)カ「ラップ」ノ死体ヲ局子街(Chu zu kai)ニ運搬スルニ会ヒ周神父ノ承諾ヲ得テ該警官ノ同伴セル局子街医師金東弼ヲシテ実地検証セシメタル結果犯行及同地方共匪ノ活動情況上ヨリ見テ其ノ反宗教運動ニ原因セル共匪ノ所為ナリトノ推定ヲ得タルモ未タ加害者ヲ発見スルニ至ラス

在伯大使宛ニハ「亞爾然丁ヘ転電アリ度」ト付記ノコト
(編注) 本電報は、ソ連、トルコ国を除く在欧各大使およびブルジル国にも発電された。

362 第五〇三号ノ一) 当方ノ了解ニテハ総会席上議長ヨリ往電
(三六三文書) 第五一二号議長書翰ヲ送リタル事之ニ對スル日支双方ノ回答アリタル事ヲ披露ノ上諸員ニ於テ期限延長ニ異議無キヤ
ヲ詰リ投票ヲ用ヒス満場一致同意ノ形式ニテ期限延長ヲ可決スル考案ナリト心得居レリ若シ期待ニ反シ指名採決ノ方法ニ依ル場合ニハ予々 Je voterai la résolution dans le sens indiqué par ma réponse à la lettre du 24 juin de Monsieur le Président ト説明ノ上採決ニ当リテハ「ウエイ」
スニ於テハ本代表之迄ノ言ハ(議長等ニ於テハ無論政府ノ同意ヲ以テ行動シ居ルモノト了解シ居レリ) 総テ先方ヲ欺瞞セル事ニ帰着スヘク又之迄期限延長ノ為議長其他力苦心セル果実ヲ水泡ニ帰セシムル事トナリ(往電第四九五号ノ二参照) 従テ期限延長問題ヲ不成立ニ終ラシムルハ申迄モ無ク其余波如何ニ拡大スヘキヤハ御想像モ有之ヘキ通リナリ
尚冒頭貴電括弧内ニ付テハ往電第五〇二号ノ一中段参照相成度ク畢竟先方ヨリ当方ノ留保ニ付言及セサルヲ以テ回答ニ於テ之ヲ為セル次第ナリ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

371 昭和7年6月(29日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
貴電第五一八号ニ閲シ

総会前に十九人委員会開催の事情について

第五二〇号(暗)

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(三六三文書)
往電第五一二号(1)ニ関シ

事務局ヨリノ情報ニ依レハ其後十九人委員会ノ代表中往電

(三六三文書)
第五一三号議長書翰中ニ en vous présentant 云々ノ一節

ヲ挿入シタルノミニテ満州国承認問題ヲ片付ケントスルコトニ関シ不満ヲ抱クモノ鮮カラス中ニハ総会ノ席上修正案

シメント考ヘ居ルモノスラアリ連盟首脳部ニ於テハ右形勢ニ鑑ミ免ニ角二十九日午後今一度十九人委員会ヲ開キ其席

ニ上充分議論ヲ尽サシメ総会ニ於ケル紛糾ヲ避ケルニ努ムルコトトナリ從テ総会ハ三十日午後三時半開催ノ筈ナリト云

フ右聞込ノ儘不取敢

冒頭往電通転電セリ

372 昭和7年6月(30日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

総会開催予定変更について
(三六三文書)
第五二四号(暗)
昭和7年6月(30日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

一、往電第五一三号議長書翰、同第五一六号我方回答、同第五二三号支那回答二十九日総会書類トシテ配付セラル

二、総会ハ三十日招集ノ旨二十九日朝正式ニ通告アリタル

ニ拘ハラス「イーマンス」議長二十九日「ローザンヌ」ヲ絶対ニ去リ難キ事情発生セル為十九人委員会三十日総会一日開催ノコトトナレリ
土ヲ除ク在欧米各大使及支ヘ転電セリ

373 昭和7年7月(1日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

総会報告作成期間延長問題取扱いぶりに關するドラモンドとの会談について

第五二五号(暗)
(1)長岡代表ヨリ

三十日午後開催ノ筈ナリシ十九人委員会ハ一日総会直前ニ

セラルルコトトナリタルニ付「イーマンス」ト会談ノ機ヲ失スルヲ慮リ三十日午後「ドラモンド」ト会見過日「ベネシュ」「マダリアガ」等小国代表者カ「ローザンヌ」ニ「イーマンス」ヲ訪問シ総会ノ議事ニ付或種ノ要求ヲ為シタリトノ新聞記事ニ言及シタル処「ド」ハ右「イーマンス」訪問ノ主ナル目的ハ総会ニ於テ各員自由ニ発言スルコトヲ許サレ度シト云フニ在リテ「イ」ハ議長トシテ之ヲ争フ訳ニハ行カサルモ此ノ場合各員ハ其ノ言議ノ結果ニ付当

然ノ責任ヲ執ルヲ要スト答ヘタル趣ナリ尚明日ノ十九人委員会後ニ非サレハ確定セサルモ「イ」ハ総会ノ席上先日ノ書翰(往電第五一三号)ノ決議尊重ノ一節ト同様ノ趣旨ノ声明ヲ為スコトトナルヘシ固ヨリ右声明ハ何等同意等ヲ取付クル性質ノモノニ非ス⁽²⁾尚期限延長決定ノ形式ヲ如何ニスルカト云フコトニ付テハ確定議ニハ非ラサルモ自分トシテモ日本ニ同意ノ投票ヲ求メル場合困難ナル事情ハ充分諒解シ居ルニ付何等カノ形式ニテ之ヲ避ケ度キ積リニテ議長ヨリ両国ノ回答ヲ披露シ諸人異議ナシト云フ形式ニテ決定スレハ最簡単ナルモ右不可能ニシテ指名投票ヲ行フ場合ニハ日本ハ回答ノ内容ヲ確認スル旨ヲ声明セラルニ止メル様取扱ヒ度キ考ヘナリト述ヘタリ

次テ本使ヨリ先夜「マダリアガ」ト会食ノ際「マ」ハ自分ハ此度ノ総会ニテ発言スル積リナルモ夫ハ極メテ抽象的ノコトヲ述ヘル丈ケノコトナリト語レルモ(「マ」ハ本使ニ對シ自分ノ発言スルハ毫末モ日本ノ行動ニ付彼此批評セントスル次ニ非ラス満州事件カ特殊ノ問題ナルコトハ自分モ良ク諒解ス然レ共ニニ関連シテ執レル手段カ先例トナリ今後歐州ニ何等カノ事件起レル際ニ採用セラルルコトアリ

テハ困ルト云フ見地ヨリ意見ヲ開陳スル為ナリト内話セリ)万ー何カ具体的ニ問題ノ核心ニ触ルルカ如キコトアラハ自分トシテモ発言スル必要ヲ見ルヘキモ出来得ル限り無用有害ナル討論ニ入ルヲ避ケ度シト述ヘタル処「ド」モ此ノ期待ニ副ヒ度ク考慮シ居ル旨答ヘタリ

374 昭和7年7月(1日) 在ベルシャ国箇間(果雄)公使より
斎藤外務大臣宛(電報)

ベルシャの満洲国承認の意向について

第一九号(極秘)

満州問題ニ関シテハ當國要路ニ対シ終始啓發ヲ怠ラサル処最近宮中親近者ノ内話ニ依レハ此程宮内大臣ヨリ皇帝ニ対シ満州国承認ノ必要ヲ奏上シタル処皇帝モ大体是認セラレ好機ヲ待ツ可キ旨内諭アリタル趣ナリ右ハ滿州独立力當國主要財源タル専売阿片ノ輸出ニモ関連スルカ為ニシテ満州国ハ日本ノ後見ニ依リ必スヤ文明的施設ヲ行フ可ク從来世界ノ麻薬密売地タル惡評ヲ去リ我国殖民地ノ専売制度ノ模範ニ則リ完全ナル阿片統制ヲ布クハ明カナル可ク且ツ新國家ノ財政上ニ最も重要ナル資源タル可キ見地ヨリ予想シ居ルモノニシテ波斯ハ從來世界ニ氣兼シ乍ラ支那ニ対シ阿

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

片ヲ輸出シ居ル現状ナルモ行々適法輸出以外ハ絶対禁止ノ理想ニ近付カント試ミ居リ新滿州國ノ阿片専売ハ此立場ヲ助成スルカ故ニ波斯トシテハ一日モ早ク其獨立ヲ承認シ正式國交ニ入ルコトヲ有利トス可ク宮相ノ進言ハ日波親善自外交ノ実ヲ示ス目的ノ外ニ右ノ底意アルモノト考ヘラル就テハ當國ガ率先シテ滿州國ヲ承認スルコトハ我國トシテハ左迄希望スル次第ニ非サルヘキモ何等御見解モ有ラハ満州ニ於ケル右專売制度ノ可能性其進行程度ニ関スル情報ト共ニ小官心得迄ニ御回示ヲ請フ

375 昭和7年7月(2)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

総会における議長声明案について

第五二七号(暗、極秘)
長岡代表ヨリ

七月一日十九人委員会ニ於テ議長ノ為スヘキ説明振りニ付事務局ニ於テ用意セル案ヲ内密入手セル處右ニ依レハ(同日)總会ニ於テ為スヘキ議長ノ声明ハ先ツ往電第五一三号書翰ノ決議尊重ノ一節ヲ援用シタル上当事國カ「リットン」委員会ノ事業ノ成功ヲ妨クヘキ「イニシアチブ」

尚一日總会ニ於ケル議長ノ声明カ前記(同)ノ如キモノニ止マル場合ニハ殊更此レニ受答ヘ議論ヲ為ササル事ト致スヘキニ付右御含ミ置キヲ請フ

376 昭和7年7月(2)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
斎藤外務大臣宛(電報)

七月一日の總会経過について

第五二八号(暗、大至急)
長岡、佐藤両代表ヨリ

往電(三七二文書)第五二五号ノ通一日午後十九人委員会ニ引続キ總会開催(三六三文書)吉田代表ハ支障ノ為欠席聞ク処ニテハ十九人委員会ニ於テ主トシテ議論ノ目的トナリタルハ書類配付ノ問題ナリシ由

総会ニテハ先ツ土耳古加入問題ヲ西班牙ヨリ提議シ希臘之ヲ支持シ一週間後ニ招請決定ノ為總会ヲ開ク事ヲ決議セリ(日本モ招請國ニ加ハリタリ)次テ議長ハ往電第五一三号書翰前段ノ趣旨ヲ敷衍シタル後期限延長ニ關シ日本ヨリ異議無キ旨支那ヨリ承諾ノ旨夫々回答ニ接セル趣ヲ披露シ夫レヨリ弁論ニ移リ支那ヨリ相当立チ入りタル陳述ヲ為シ瑞西「チャーチコスロヴァキア」墨西哥、西班牙各代表相次テ

ヲ採ラサルヘキハ總会全員ノ希望ナルヘキ旨ヲ述へ三月十一日決議ノ中「連盟國ハ規約ニ違反スル方法ニ依リ獲得セラレタル一切ノ状態條約協定ヲ承認セス」トノ一節ニ付注意ヲ喚起スルニ止メソ事ヲ提議シ居レリ

(2)往電第五一二三号書翰ニ對スル支那側回答ノ説明ヲ委員会ニ為ス腹案トシテ支那側ハ第十二条ノ期間延長ニ同意スルト共ニ右延長期間中ニ總会ハ軍事占領戰鬪行為ノ拡大日本ノ支持スル滿州偽政府ノ設立其他日本側ノ「イニシアチブ」ニ依ル事態ノ悪化ヲ認容セサルヘキモノト了解セル旨ヲ掲ケ居リ往電第五二三号支那側回答ヨリ語氣強シ右ハ往電第五二五号「ド」ト会談ノ際「ド」カ小国代表ハ議長ニ對シ一切ノ關係文書配布方ヲ要求シ居レリト語リタル事及事務局側係官カ原田ニ對シ支那側回答ハ最初ハ相當強キモノナリシカ此レヲ緩和セシムルニ骨ヲ折リタリト内話セル事並ニ二十六日付ノ回答カ漸ク二十八日ニ至リ配布セラレタル事等ヨリ察スルニ支那側回答ハ最初ハ恐ラク右ノ如キ字句ヲ用ヒ居リタルナランモ議長事務總長等ノ注意ニ依リ文句ヲ緩和シタルモノト察セラル

発言セルカ何レモ抽象的声明ニ過キス此ノ場合支那ニ對シ議論ヲ交フルハ却テ議長及事務總長ノ苦心ヲ無視スル嫌アリ且陳述ノ大体ハ一方的意思表示ニ過キサルニ付之ニ掛り合ハヌ事トシ發言セス

次テ往電(三六三文書)第五一三号中ノ提案投票ヲ用ヒスシテ可決セラレタル後議長ハ往電第五一七号(同)ノ趣旨ヲ声明シ閉会ヲ宣ス議事詳細追電スヘシ

士ヲ除ク在欧各大使ヘ転電セリ

貴電第二四四号ニ閑シ

累次往電ノ通日下ノ処今後新事態ノ發生セサル限り九月總会ニハ日支問題ノ上程ヲ見ル事ナカルヘク從テ我代表部ノ仕組ハ御來示ノ如ク大体例年ノ通トシ差支ヘナキモ「リットン」報告ハ目下ノ処右總会直後ノ理事会ニ於テ審議ノ上臨時總会ニ廻付ノコトニ相成ヘシト察セラレ居リ旁新聞其

他ニ対スル啓発事務ニ関シテハ九月總会當時ヨリ出来得ル
限り努力ノ要アリト存セラルルヲ以テ特ニ同事務処理ノ為
一、二職員ヲ代表部員ニ加ヘ度ク又立博士ノ出張方ニ付テ
モ併セテ御考慮ヲ請フ

当国民心並一般加特力教徒ニ及ボス影響ヲ顧慮シ主要新聞代表ヲ招致ノ機会ニ於テ本件ニ關スル批評ヲ差控ユルノミナラス單ナル之力報道ニモ相当注意ヲ払フヘキ旨申聞ケ置キタル次第ナルカ目下ノ事態ニテハ本件カ早晚新聞紙ノ問題トナレコトヲ免メナレヘフ中ニ、政府ノ昔置辰巳村説明

378 昭和7年7月(8日) 在独國小幡大使より 内田外務大臣宛(電報)
ドイツ人神父殺害事件に関する外務省東方局

次長の談話について

貴電合第一四二三

貴電合第一四二三號二閩

シ

2

ヲ与ヘラレ政府ハ必要ニ応シ發表スルヲ得ハ大イニ民論緩

ト」派延吉地方管区長ヨリ「ラップ」氏カ日本兵ノ暴行虐
害事実モ亦日本（兵）カ少クトモ其ノ官服ヲ纏ヘル者ノ所
為ナルコト動カスヲ得サル如シトノ報告ニ接シタルヲ以テ
在奉天獨逸總領事ヲシテ右材料ヲ直接東京ニ送付セシメ在京
獨逸代理大使ヲシテ法王厅代表ト連絡ノ上本件解決方ヲ
日本政府ニ懇（談）セシムルコトトセリ從來獨逸側トシテ
ハ日本兵ノ所為云々ノ事実ヲ信セサリシ一方此ノ種事件カ

右趣旨ヲ声明シ得ラレ間敷キヤト申述ヘタリ依テ七田ハ右
遭難ニ対シ弔意ヲ表スルト共ニ我方ニ於テハ共産系匪賊ノ
所為ト見居ル旨ノ情報ヲ有スルノミニテ今尚日本兵ノ行為
ナリトハ信シ得サルモ御申出ノ次第ハ大使ニ報告スヘク或
ハ東京ニ電報ノ必要アリトモ思考セラレ返答ハ何レ両三日
後トナルヘキカ其ノ間人心ヲ刺戟スルカ如キ記事等ノ出現
ヲ見サル様注意方希望スル旨答ヘ置ケリ

テ独逸代理大使ヘノ御応対ト調子ヲ合スルノ必要モアルヘ
キニ付先方ヘノ回答振至急御回電相成度シ

昭和7年7月(19日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)

事務局のパリ移転について

貴電第五四四号ニ閲シ
九月二十六日ト決定セルハ「リットン」委員会報告ヲ通常
総会ニ於テ審査スルコトヲ予定シ居ルモノニアラサルヤ我
方代表部ノ構成其他ノ都合モアルニ付（往電第一四四号參
照）至急事務局側意向其ノ他ノ情勢回電アリ度シ

サル限り九月迄休止ノ状態トナリタルヲ以テ一十日本官一
応巴里ニ帰任スヘキニ付同日以後「リッテン」委員会國遙
其他連盟ニ関係アル事項ハ追テ電報スル迄 Remmei Paris
ニテ電報アリ度シ寿府ヘハ巴里ヨリ転報ノ筈

通常総会期日決定の内情について
第五四号（暗、至急）
（三八〇文書）
寿府宛貴電第二五一号ニ関シ
幹部会ニ於テ十九日ニ延期方決定ノ際既ニ當方ニ於テモ貴

支ヨリ北平、奉天、長春へ転電アリ度シ
在欧各大使へ暗送セリ

ニ尋ネタル処「ド」ハ「リットン」報告總会前ニ到着スト
スルモ翻訳印刷等ニ相當ノ時日ヲ要スヘク又各員ニ充分研

昭和7年7月19日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
内田外務大臣より
(電報)

内田外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

務局長宛
(電報)

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

「リ」報告ヲ審査スルコトトナラスヤト質問シタル処同官ハ右報告ハ先ツ理事会ニテ充分審査スルノ要アリ又議長等ノ関係ヨリ日支事件ハ通常総会ニテ取扱フコト適當ナラスト考フル旨述ヘ居リタル次第ニテ総会期日ノ延期ハ十八日総会ノ討議ノ経過等ニ徵スルモノ主トシテ軍縮會議ノ為疲労セル各國代表部及事務局員ニ成ルヘク長キ休養ノ期間ヲ与ヘントスル趣旨ニ出テタルモノニシテ必シモ通常総会中「リ」報告審査ヲモ予定シテノコトニアラスト存ス尤モ「リ」報告カ予定ヨリ早ク提出セラルトカ或ハ九月迄ニ何等情勢ノ変更アルカ如キ場合ニハ右事務局側ノ意向ニ不拘支那側乃至小国側ノ策動ニ依リ通常総会中又ハ其直後臨時総会ヲ開キ該報告ヲ審査スルコト相成ル懸念モ之アリ然ラストスルモ報告審査ノ理事会ハ其頃開カレ引続キ臨時総会開催セラルヘキヤニ存スルニ付右事情ヲモ御考慮ニ入レ我カ代表部ヲ構成シ準備ヲ備へ置クコト万全ノ策ト存シ何レ其ノ内代表御任命有之へク又軍縮會議休会中ノ本邦代表部ノ構成方針モ遠カラス確定スルコト察セラルニ付代表決定ノ御通報ヲ待チ軍縮會議トノ関係モ考慮シ代表代理以下ノ組立ニ付卑見稟申ノ積リナルモ差当リ寿府発電報

第四一〇号

本省 8月8日後着

「スマムソン」長官ハ大統領選挙ノ為八日紐育「カウンシル、オブ、フォーリン、リレーション」ニ於テ演説ヲナス答ニテ其「アドバンスコピー」ヲ入手シタル次第ナルカ右ハ不戦条約ニ関スルモノニシテ從来米国政府ノ声明シタルモノヲ綜合シタルニ過キサルモ要旨御参考迄ニ左ノ通

一、從前ノ国際法ニ於テハ戦争ヲ権利トシテ認メ人類ノ殺

戮及財産ノ破壊ヲ紛争解決ノ手段トシテ認メ來リタルカ

近代科学ノ進歩ト産業ノ發展トハ戦争ヲ大規模ニシ且文

明ニ対スル破壊ヲ一層甚シカラシメ又何レノ国ト雖モ昔

日ノ如ク中立性ニ基イテ戦争ニ無関係ナル地位ニ止ル能

ハサルニ至レルコトハ歐州大戦ノ示ス所ナリ

二、連盟規約ハ未タ戦争発生ノ余地ヲ残シアル条件ノ下ニ

武力ノ使用ヲ許容シ居ルモ不戦条約ハ其成立ト共ニ人類

思想ニ一大革命ヲ起サシメ戦争ヲ以テ不法ナリトナスニ至ラシメタリ而モ其根柢ハ戦争防止ノ為ニ何等カノ手段ヲ執ルニ非サレハ文明ノ前途危シトノ動機ヨリ来レルモノナリ

「リ」報告ヲ審査スルコトトナラスヤト質問シタル処同官ハ右報告ハ先ツ理事会ニテ充分審査スルノ要アリ又議長等ノ関係ヨリ日支事件ハ通常総会ニテ取扱フコト適當ナラスト考フル旨述ヘ居リタル次第ニテ総会期日ノ延期ハ十八日総会ノ討議ノ経過等ニ徵スルモノ主トシテ軍縮會議ノ為疲労セル各國代表部及事務局員ニ成ルヘク長キ休養ノ期間ヲ与ヘントスル趣旨ニ出テタルモノニシテ必シモ通常総会中「リ」報告審査ヲモ予定シテノコトニアラスト存ス尤モ「リ」報告カ予定ヨリ早ク提出セラルトカ或ハ九月迄ニ何等情勢ノ変更アルカ如キ場合ニハ右事務局側ノ意向ニ不拘支那側乃至小国側ノ策動ニ依リ通常総会中又ハ其直後臨時総会ヲ開キ該報告ヲ審査スルコト相成ル懸念モ之アリ然ラストスルモ報告審査ノ理事会ハ其頃開カレ引続キ臨時総会開催セラルヘキヤニ存スルニ付右事情ヲモ御考慮ニ入レ我カ代表部ヲ構成シ準備ヲ備へ置クコト万全ノ策ト存シ何レ其ノ内代表御任命有之へク又軍縮會議休会中ノ本邦代表部ノ構成方針モ遠カラス確定スルコト察セラルニ付代表決定ノ御通報ヲ待チ軍縮會議トノ関係モ考慮シ代表代理以下ノ組立ニ付卑見稟申ノ積リナルモ差当リ寿府発電報

第五三四号ヲ以テ申進タル事項及「リットン」委員会本邦参与員隨員一名総会ニ間ニ合フ様特派方予メ御考慮置願度シ

寿府へ転電セリ

382 昭和7年7月27日 内田外務大臣より
在ペルシャ国箇間公使宛（電報）

ベルシャ國の滿洲國承認問題について
第一八号 暗、極秘
貴電第一九号ニ閲シ

滿州國側ニ於テハ阿片專賣制度ヲ設クルノ意向ヲ有スル趣ナルモ差當リ熱河產阿片ヲ目當トシ居ル模様ナリ就テハ右御含ノ上責任國ノ滿州國承認ニ付テハ之ヲ特ニ「エンカレッヂ」モセス又「ディスカレッヂ」モセサル態度ヲ持セラレ度

383 昭和7年8月7日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛（電報）

不戦条約に關するスマムソンの演説要旨について
ワシントン 8月7日前発

三、不戦条約ニ對スル唯一ノ例外ハ自衛権ナルモ右ハ明白ナル事項ナルヲ以テ該条約中ニ規定セサリシモノナルカ或國カ帝國主義的政策ヲ實行スル為ニ自衛権ヲ仮装スルコトアリトスルモ通信機関ノ進歩セル今日ニ於テハスル仮装ハ決シテ輿論ヲ欺ク能ハス

四、不戦条約ハ武力制裁ノ規定ヲ欠クモ本条約ハ元々最強キ制裁手段タル世界輿論ヲ背景トナシタルモノニシテ米国政府ハ本条約成立以來常ニ輿論ノ制裁ヲ有効ニシ以テ本条約ヲ世界ノ「生ケル力」タラシムルコトニ努力セリ

五、一九二九年夏露支紛争ニ際シ本条約ヲ適用シテ戦乱ノ拡大ヲ防止スルニ効ヲ奏シタルカ更ニ一九三一年九月満州ニ於テ起リタル日支間ノ紛争ニ際シ本条約ヲ適用シテ戦乱ノシテ本条約所定ノ義務ニ付日支両国ノ注意ヲ喚起シタル

處日本カ満州全部ヲ占領スルニ及ヒ本年一月七日ヲ以テ

米国政府ハ日支両国ニ對シ公式ニ本条約ニ背反スル手段ニ依リテ獲得セラルルコトアル可キ事態、條約、又ハ協定ヲ承認スルコトヲ得スト論告シタルカ米国政府ノ右ノ行動ハ三月十一日連盟総会ノ裏書スル所トナリ同総会ハ日本ヲ除ク全会一致ノ投票ヲ以テ連盟規約又ハ巴里条

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

約ニ反シテ得ラルコトアル可キ条約協定等ヲ承認セサ

ル旨決議スル所アリタリ之等各般ノ手段ハ前述ノ世界輿論ノ変革ヲ念頭ニ置クニ非サレハ適当ニ判断スル能ハス

世界思想ノ変革無ク又右両条約ノ存セサリシ時代ノ国際観念ノ下ニ於テナラハ遠隔ナル満州ニ於ケル事件ノ如キ

ハ米国並ニ他ノ五十余國ノ列国ニ取りテ大ナル関心事ニテハ非サリシモ不戦条約ノ儀存スル今日ニ於テハ斯ノ如キ紛争ハ凡テノ条約國ノ関心事タルヲ免レス挑戦ノ過失ヲ認メストノ宣言ハ或ハ挑戦者ニトリテハ比較的重大事

ナラサルヤモ計り難キ米国政府ノ主唱ニ基キ全世界ノ文明國ヲ網羅シテノ不承認ハ国際法上未タ曾テ見サル重

大事ニシテ世界ノ輿論カ未タ曾テ斯ノ如キ組織立テラレテ動員サレタルコト無シ

本演説ハ当地ニ於テ九日朝刊ニ発表ノ筈ニ付夫レ迄ハ公表サレサル様致シ度シ

384 昭和7年8月9日 内田外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛（電報）

満洲国に特命全権大使派遣に関する通告につ

いて

別電 同日内田外務大臣より在パリ沢田連盟事務局長宛

第四九号 第四九号 特命全権大使派遣に関する通告

貴電第六二号ニ関シ

貴見ノ如ク本件ハ支那側ノ宣伝振ニモ顧ミ之ヲ連盟側ニ通告スルコト適當ト思考スルニ付別電ノ通告セラレ度

別電ト共ニ米、支、北平、奉天ニ転電シ支ヲシテ南京ニ又奉天ヲシテ長春ニ転報セシメタリ

別電ト共ニ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

（別電）

第四九号

予テ帝国政府ハ在満帝國諸機関ノ円満ナル連絡ニ資スル為メ適當ノ施設ヲナスノ要アルコトヲ認メ居リタル處今般現在ノ機関即チ領事館、関東厅及軍隊ノ組織及權限ハ從來ノ儘ニ止メツツ此等機関ノ首脳ニ同一人ヲ立テ以テ右連絡ノ目的ヲ達スルコトトシ八月八日武藤陸軍大將ヲ関東軍司令官ニ補シ同時ニ満州派遣臨時特命全権大使及関東長官ニ任セラレタリ

本件臨時特派大使ハ特ニ重要ナル任務ヲ處理スル為メ外交官ヲ国外ニ派遣スル必要アルトキハ臨時ニ特命全権大使又ハ公使ヲ置クコトヲ得ル旨ヲ定メタル一九一七年勅令第六四号ニ依レルモノニシテ満州ニ於ケル新ナル現実ノ事態ニ応シ在満帝國領事ノ指揮監督其ノ他必要ノ事務ヲ處理スル為メ派遣スルモノニシテ御信任状ヲ持參スルコトナク單ニ我方限りニテ任命セラレタル次第ナリ

385 昭和7年8月10日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛（電報）

不戦条約擁護演説に關し國務長官祝明について

ワシントン 8月10日後着
本 省 8月11日後着

第四一四号（暗、至急）

八月四日「キヤスル」ニ面会貴電合第一六〇九号ニ基キ遠カラス満州ニ対シ新制度実施ヲ見ルニ至ルヘキコトヲ説明スルト共ニ満州國承認ニ関スル我方針ヲ詳細内話シ國務長官ニ伝達方ヲ依頼シ置キタル処長官ハ來週ヨリ暑中休暇ノ為旅行スルコトトナリタルニ付今十日往訪シ本使賜暇候

モノニシテ此機会ヲ利用シ特ニ日本ヲ攻撃セントシタル次第ニ非ス從テ字句ニ付テハ細心ノ注意ヲ用ヒタリ現ニ東京ニテ問題トナリタリト伝ヘラルル「アグレッサー」ナル言葉ニ付テモ（脱）ナル冠詞ヲ付シ抽象的意味合トナシタル次第ナリト特ニ説明スル処アリタルニ付本使ヨリ米国政府ハ不戦条約ノ發案者タリシ關係上之ヲ擁護スルカ為ニ機会

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

- アル毎ニ努力セラレントスル精神ハ素ヨリ了解スルモ從来
米国当局ノ所言ハ往々ニシテ日本國論ヲ刺激シタル事實ア
ルハ甚タ遺憾トスル処ナリ屢々述へ置キタル通支那問題ニ
関連シ両國ノ人心相当緊張シ居ルニ當リ此ノ上感情ヲ刺激
スルコト無キ様用語ニ意ヲ用フルコト緊要ナルヘキ旨申聞
ケ置キタリ
- 英ニ転電シ在欧大使及連盟ニ暗送セシム
- 386 昭和7年8月11日 在サン・フランシスコ若杉總領事より 内田外務大臣宛(電報)**
- スチムソン演説への日本側の反応に関する新聞社説について
- サント・フランシスコ 8月11日後発
本省 8月12日前着
- 十一日「クロニクル」紙社説
- 日本政府ハ「スチムソン」ノ演説ニ憤慨シ同演説カ果シテ
日本ヲ満州侵略者ナリトスルニ於テハ之カ説明ヲ求ムル由
ナル處「スチムソン」ノ言フ所ハ既ニ直接公式ニ日本ニ通
告済ミニテ世界各国モ連盟ヲ通シテ同様声明シ居レリ各國
- 然米国民ノ為ニ協議ノ義務ヲ受諾セル事ヲ強調セル点ナ
リ
- 惟フニ右声明ハ冒頭往電ノ通当国新聞論調カ「スチムソ
ン」ノ演説ニ對シ一般ニ冷淡ニシテ中ニハ愚弄的態度ニ出
ツルモノサヘルニ顧ミ同條約ノ発案國政府トシテ之ヲ匡
正スルト共ニ之ヲ機会ニ「スチムソン」ノ考ヘ居ル以上ニ
米國ヲ安全保障問題ニ引込マントノ腹ナルヤニ察セラル
尚右声明ハ日支事件ニ關シテハ直接ニモ間接ニモ何等触レ
居ラス
- 米ヘ転電シ英、独、伊、白、連盟へ暗送セリ
- 388 昭和7年8月(13)日 在パリ沢田連盟事務局長より 内田外務大臣宛(電報)**
- リットン報告審査開始の期日について
- 第七〇号(暗)
- 貴電第五二号ニ閲シ
- 事務局側ノ意向問合セタル処目下首脳部休暇中ニテ確実ノ
事ハ判明セサルモ日支問題主任官「ヴィヂエ」ニ於テハ本
秋軍縮本會議開カレサルコトト為リタル關係上通常総会直
後ニ引続キ「リットン」報告審査ノ十九人委員会乃至総会
- 「スチムソン」ノ演説ノ要点ハ不戦条約ニ関スル協議外交
政策ノ採用ニ在リ該條約ノ違反ハ署名國全体ニ対スル違反
ナルヲ以テ署名國ハ協議ノ上如何ナル協同措置ヲ取ル可キ
ヤヲ決定ス可シ此ノ協議政策ハ孤立主義ノ米国ニ取り新シ
キ重要ナル主義ナリ
- 一致ノ判定カ誤ニシテ日本独リ正シトセハ日本ハ全人類ニ
対シ抗議ス可シ
- 「スチムソン」ノ演説ノ要点ハ不戦条約ニ関スル協議外交
政策ノ採用ニ在リ該條約ノ違反ハ署名國全体ニ対スル違反
ナルヲ以テ署名國ハ協議ノ上如何ナル協同措置ヲ取ル可キ
ヤヲ決定ス可シ此ノ協議政策ハ孤立主義ノ米国ニ取り新シ
キ重要ナル主義ナリ
- 387 昭和7年8月12日 在仏國長岡大使より 内田外務大臣宛(電報)**
- スチムソン演説に対するエリオ仏首相の談話について
- パリ 8月12日後発
本省 8月13日前着
- 第六四七号(暗)
- 往電第六四四号及第六四六号ニ閲シ
- 「エリオ」首相ハ十一日「プレス」ニ對シ「スチムソン」
ノ演説ヲ多トスル趣旨ノ声明ヲ為シタルカ右声明中重要ト
認メラルハ「スチムソン」カ今回ノ演説ニ依リ不戦条約
自身カ關係國間協議ノ必要ヲ認メ居ルモノトシ之ニ依リ断
開催セラルコトアリ得ヘク又同報告ノ翻訳印刷等ハ二週
間ニテ出来得ヘク仮ニ同報告九月十五日迄ニ到着スルモノ
トセハ場合ニ依リテハ通常総会中十月上旬ニモ理事会ヲ開
キ之カ審査ヲ開始スルコトモ有リ得ヘク少ク共同人ニ於テ
ハ右予想ノ下ニ準備ヲ進メ居レル趣ナリ右ハ「ヴィヂエ」
限ノ意向ナルモ其後諸般事態ノ推移ニ顧ミ同人ノ予想実現
ノ可能性頗ル多ク為リ來レリト認メラレ旁々本官ニ於テモ
現ニ其氣持ニテ當方限ノ手配ヲ進メ居ル次第ナリ何レニセ
ヨ冒頭貴電御來示ノ予定ハ遅キニ失ス可ク我方トシテハ往
電第五四号末段上申ノ趣旨ニ依リ通常総会開催後ハ場合ニ
依リ何時「リットン」報告ノ審査開始セラルルヤモ計リ難
キモノトシ来ル十月以降ハ何事カ起リテモ直ニ之ニ対応シ
得ル様取急キ諸般ノ準備ヲ整ヘラルル事絶対肝要ナリ
- 第三六号

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

國務長官ノ不戦条約演説ニ関スル十五日「トリビューン」論説左ノ通

実際ニ即シタル国際関係ニアル国家ヲ対象トシテ斯ノ如キ言説ヲナシタルヲ好マス日本ノ政策ハ華府政府ニハ侵略的ニ見ユルナランモ東京政府ヨリ見レハ國家ノ安寧ニ関スル重大問題ナリ「スチムソン」氏カ反対シタレハトテ日本ハ滿州ヨリ手ヲ引クモノニアラス

尚日本カ英仏蘭ニ外債ヲ申込ミタルモ拒絶セラレタル旨ノ九日発「デーリー・ニュース」東京特派員電報ト関連シ十日ノ「デーリー・ニュース」ハ左ノ如ク論評セリ

日本ハ英仏蘭ヨリ外債ヲ拒絶セラレ財政的ニ行詰リ極メテ神經質ニナリ居ル折柄「スチムソン」氏ノ不戦条約演説ハ多大ノ刺戟ヲ与ヘタルカ如シ演説ノ何レノ部分カ日本ノ気ニ入ラヌカハ不明ナレトモ恐ラク侵略國ナルカノ如ク暗示セラレ居ルトテ之ヲ不満トスルモノノ如シ然レ共斯ノ如キ暗示ノ材料ヲ供給セルモノハ滿州ニ於ケル日本ノ行動ナリ

若シ世界平和ニ関スル約定ニ違反セル國ニ対シテハ外債ニ応セサルコトトスル時代來ラハ右ハ一大進歩ヲ画スルモノナリ

390 昭和7年8月16日 在サン・フランシスコ若杉總領事より

内田外務大臣宛（電報）

スチムソンの演説に関する新聞社説について

サン・フランシスコ 8月16日後発
本 省 8月17日後着

第五回号

十六日「ハースト」系新聞社説（サン・フランシスコ・エクザミナー）

「スチムソン」ノ「カウンシル、オブ、フォーレン、リレーションズ」ニ於ケル演説ハ目的効果ニ於テ何等益スル所無シ右ハ不戦条約ニ関スル彼カ個人的新規ナル解釈ヲ表明セルモノニシテ本年一月ノ書翰ニ依リ世界ニ發表シ更ニ国際連盟ニ依リ支持セラレタル所謂該条約違反ノ結果ヨリ生セル事態等不承認ノ主義ニ論理的帰結ヲ与ヘントセルモノニ外ナラス彼ハ不戦条約ヲ以テ戦争ヲ否認スル高遠ナル理想トセシテ國家間ノ契約ト為シ契約国全部ニ契約違反ニ

対スル cause of action ヲ認メントスル者ナリ、「スチムソン」ノ主義ニ依レハ戦争カ戦争当事国ニ限ラレタルハ過去ノコトニシテ最早中立國ノ権利ヲ存セス世界各国殆ト皆不戦条約加入國ナルヲ以テ各國悉ク戦争ニ捲込マレ、他国ノ紛争ニ干渉スル権利及義務ヲ有スルコトト為ル、斯ノ如クンハ他國ニ干渉スヘキ権利義務ヲ規定スル新國際法ヲ制定セルモノト謂フヘシ、是「スチムソン」主義カ仏國ニ於テハ徒ニ「イデオロギー」ヲ弄スルモノトシテ現ニ不同意ム表セラレ日本ニ於テハ外交抗議ト為リテ憤慨セラレ、英國ニ於テハ其老猶ナル政策ニ依リ他國ヲシテ火中ノ栗ヲ拾ハシメンカ為生緩キ声援已ニテ賛同ヲ受ケサルハ怪ムニ足ラス愚ヲ海外ニ繰返シ我ニ対スル友情ハ憤激裡ニ変化シ国防ノ必要益々増加スルニ拘ラス「フーバー」政府ハ我國防ヲ盲目的ニ縮小ス

391 昭和7年8月16日 内田外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛（電報）

連盟総会に対する準備状況について

第六〇号（暗）

有田次官宛貴電ニ関シ

尚ホ調査団報告書ヲ何等カノ方法ニ依リ早目ニ入手シ之ニ対応シテ帝国ノ立場ヲ闡明スヘキ詳細ナル「メモランダム」ノ如キモノヲモ用意シ度キ考ナリ

右御参考迄

392 昭和7年8月19日 内田外務大臣より
※在北平中山書記官宛（電報）

リッplen調査団の申入れ方にハシト

別電 八月二十日内田外務大臣より在北平中山書記官宛

第一九七号

右申入れ方内容

第一九六号 暗、大至急

吉田大使へ

第五九号

一、調査委員会ノ権限 (term of reference) ハ支那ノ全般的事態ニ付調査スルニ止リ勧告ヲ提出スル任務ヲ有セサルコトハ同委員会成立ノ經緯及客年十二月十日ノ理事会決議ノ文面ニ依ルモ明瞭ナル次第ナルカ從来我方ニ於テハ委員会カ我方ニ有利ナル勧告ヲ提出スル場合ニ迄前記権限問題ヲ持チ出ス必要ナカルベシトノ見地ヨリ今日迄格別問題ニセサリシ處最近ノ状況ニ依レハ委員会ハ其報告中我方ニ対シ相当不利ナル勧告ヲ提議セムトスルモノノ如クナルニ付テハ此ノ際委員会ニ対シ其ノ権限ニ付注意ヲ喚起シ置クノ要アリト思考スルヲ以テ別電第六〇号ヲ書面トシテ委員会ニ提出セラレ度

11' 委員会側ニテハ十二月十日決議中リ to contribute

possible report to the Council on the situation

with such recommendations as it may think fitトアリ而モ決議中ニ挿入シアリタルモノナルカ十一月五日ノ起草委員会ニ於テ我方ヨリ前記ノ趣旨及其ノ他ノ理由ニ依リ之カ削除ヲ主張シ「ムラモンド」モ亦調査委員会ニ勧告ヲ為サンムルコトカ日本側ノ反対ノ重點ナリトテ右削除ニ同意ゼル次第アリ結局前記ノ如キ文句ニ改メラレ議長宣言中ニ挿入スルコトナレルモノナリ（前記ノ事情ニ付テハ伊藤參事官ニ於テ熟知ノ筈ナリ）從て調查委員会側ニ於テ前記 to contribute toward a solution等ノ辞句ニ藉口シ勧告ノ権限アリト主張スルカ如キハ全然理由ナキコトナリ加フルリ to contribute 因々ノ辞句ヲ含ム一節ハ委員会設定ノ動機ヲ明ニシタルニ止リ委員会ノ権限ヲ定メタルモノニ非ス委員会ノ権限ハ第二節以下ニ定メラレ居ル次第ニシテ第一節リハ to study on the spot and report on the circumstances トアリ即チ状況ノ調査報告ヲナスコトヲ定メ居ルニ過ギス其他決議ノ何レノ部分ニモ勧告ヲナスノ権限ヲ付与シ居ラサル次第ナルニ付委員会側カ前記ノ如キ主張ヲナス場合ニハ叙上ノ趣旨ニ依リ口頭ヲ以テ反駁ヲ加ヘラレ度

11' 尚帝国政府ニ於テハ先般調査委員一行來朝ノ際本大臣ヨリ「言明シ置キタル通り滿州國承認ノ確固タル決意ノ下ニ着々必要ノ準備ヲ整ヘ来リシ處右準備モ大体出来上リタルニ付適當ト認ムル最近ノ機會ヲ捉ヘテ日滿間ノ関係ヲ規定スル基本協定ノ締結ヲ行ヒ之ヲ以テ滿州國ニ对スル承認トスル筈ナリ然ルニ委員会カ其ノ権限ヲ逸脱シテ迄モ右現実ノ発展ニ添ハサル勧告ヲ報告中ニ掲ケ置カハ委員会乃至連盟側ニ於テ極メテ「オーケワード」ナル地位ニ立ツノミニテ（我方カ承認ヲ取消シ得サルハ云フ迄モナシ一方我方ハ委員会ノ権限逸脱ヲ攻撃スヘク又報告書全部ニ付難癖ヲ付ケサルヲ得サルニ至ルヘシ）何等事態ノ收拾ニ資スル所ナカルベシト存ス就テハ貴官ハ前記書面ノ提出ト共ニ叙上ノ次第ヲ口頭ヲ以テ忌憚ナク委員側ニ申入レ前記ノ如キ権限逸脱ノ行為ニ出テサル様反省ヲ促サレ度

別電ト共ニ支、奉天、巴里連盟及米ニ転電シ支ヲシテ南京ニ奉天ヲシテ長春ニ転報シ巴里連盟ヲシテ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電セシム

(別電)

toward a solution by the two governments ハタトアル

コトニ藉口シ勧告ヲ提出スルノ権限アリト主張スルヤモ知レサルモ右 by the two governments ノ辞句ハ原案ニハ between the two governments メハシシモノナルカ我方ニテハ連盟側(調査委員会モ然リ)ハ解決案ヲ提出シ出シテ日支両国ニ押付クルモノニ非ルコトヲ特ニ明ニスル為メ十一月二十九日起草委員会ニ対シ修正案ヲ提出シbetween 代ハルリ by ロ以テスルコトヲ強硬ニ要求シ遂ニ其ノ実現ヲ見タルモノナリ又客年十二月十日ノ理事會議長宣言第五項「The Commission will have full discretion to determine the questions upon which it will report to the Council and will have power to make interim report when desirable. ネタル所該文句ハ客年十一月一日至十一理事ノ作成セタル原案ニ依レハ Should the undertakings given by the two Parties according to the resolution of September 30th not have been carried out by the time of the arrival of the Commission, the Commission shall as speedily as possible report to the Council on the situation

(1) It appears to the Japanese Government as though it might possibly be the intention of Your Commission to include in its report to the Council of the League of Nations recommendations or suggestions regarding the solution of the Sino-Japanese dispute. If such is really the case, the Japanese Government feel it necessary to call your attention to the scope of the terms of reference of the Commission as that was intended and accepted by the Japanese Government.

(2) Japan proposed the appointment of the Commission with a view to its investigation of the peculiar and abnormal conditions prevailing in China in order to supply the Council of the League with accurate information about China, but not at all for the purpose of its drafting and presenting

The Council's resolution of December 10 providing for the appointment of the Commission and defining its scope of the terms of reference merely says in Paragraph 5 that it "decides to appoint a Commission of five members to study on the spot and to report to the Council on any circumstance which affecting international relations threatens to disturb peace between China and Japan or the good understanding between them upon which peace depends", and nowhere provides that anything like recommendations be drafted and presented.

(3) It is obvious as a matter of legal principle that the activities of a commission of enquiry such as yours cannot go beyond its appointed scope embodied in the terms of reference—it is inadmissible, for instance, that it should investigate subjects extraneous to the designated field of enquiry, or that it should prepare and present recommendations, which it is not within its competence to make. Moreover,

such recommendations as are mentioned above. The Japanese view on this point was not only fully explained at that time to the League, but it was further elucidated by Mr. Yoshizawa in his address delivered on 21 November last at a meeting of the League Council in which he proposed that the Commission be appointed, "So as to be able to pursue our efforts usefully on the basis of Article 11 of the Covenant and of the resolution of September 30th, it is essential that we should have a clear view of realities, and I think that everyone will agree in desiring to obtain impartial information on the situation. Accordingly, the Japanese Government consider that the essential condition of a fundamental solution of the question is a real knowledge of the situation as a whole both in Manchuria and in China itself. It is for this reason that it proposes that the League of Nations should send a Commission of Enquiry to the spot."

precedents that have been established by similar commissions of enquiry appointed by the League of Nations, leave no room for doubt on the point, if any could exist, to wit:

At the meeting of the Council of the League held on January 22, 1931, at which the report of the Commission of Enquiry upon Slavery in Liberia was taken up for discussion, the Liberian representative vigorously and without contradiction criticized the report for dealing with the policy of his government, a matter which lay beyond the jurisdiction of the Commission. (*Vide Annex No. 1*)

The reports of the above-mentioned Commission of Enquiry, of the Opium Commission of October, 1930, of the Commission on the Gracco-Bulgarian Disputes of October, 1925, and of the Commission on the question of the frontier between Turkey and Iraq, all contain recommendations. But these recommendations were made in accordance with the specific

provision for the presentation of such recommendations by the respective commissions. (*Vide* Annex No. 2)

No. 2)

In all these cases cited above, recommendations were presented because the presentation of such recommendations was specifically provided for as part of the commission's appointed task. Obviously Your Commission has no inherent authority to make recommendations, since the drafting and presentation of recommendations are not specifically included within the scope of the Your Commission's work.

whether in view of the purpose for which it was appointed, or in view of the designated scope of the terms of reference, is only charged with the investigation of facts in order to assist the League in its deliberations on Chinese questions. There can therefore exist no authority on the part of Your Commission to draft and present recommendations regarding the

第一七二三二号ノ通り時局処理方針ヲ申合セ且總理大臣其他閣僚ノ諒解ヲ得タリ就テハ右方針遂行ノ為メ必要ナル具体的措置ニ關シテハ隨時申進スルコトアルヘキモ全般的ニ其ノ趣旨御含ノ上各種ノ問題ニ対応セラレ帝国ノ立場ヲ有利ナラシムル様此ノ上共御努力相成度

尚ホ本電及別電写貴地陸海軍武官ニ内示セラレ度將又申ス迄モナキコトナカラ本件秘密保持方特ニ御注意相成度
宛先 仮、米、訓令トシテ別電ト共ニ仮ヨリ巴里連盟ニ暗送シ英、伊、独、露ニ転電アリ度又蘭及白ヘハ信頼シ得ヘキ方法ニ依リ託送アリ度

別電合第一七二〇号(一)

国際関係ヨリ見タル時局処理方針

我力対支關係ノ将来ハ種々ナル波瀾アルヘク殊ニ満洲問題ハ今後共幾多ノ難関ヲ包藏セルモノト思考セラレ将来形勢ノ推移如何ニ依リテハ連盟側ヨリ又ハ列国共同シテ帝国ニシテ重大ナル現実ノ圧迫ヲ加フルカ如キ極端ニ険惡ナル事

solution of the disputes between Japan and China.

(5) The Japanese Government feel that this is too plain for argument, and that it cannot possibly have escaped Your Excellencies' notice and attention.

and of the rumours already alluded to, they permit themselves to bring the point directly before Your Commission, in the full confidence that the Commission will concur with their sentiments on the subject.

内田外務大臣より
（編注）付属書省略

〔電〕内田外務大臣より
在米国出淵大使、在仏國長岡大使
昭和7年8月24日
「國際關係より見たる時局処理方針」通報に
編注 付屬書省略

別電 同日内田外務大臣より在米国出淵大使、在仏国長岡大使宛合第一七二〇、一七二一、一七二二号

國際關係より見たる時局処理方針
合第一七一九号

帝国ノ対支那本部策ハ帝国ノ対満蒙策ト切離シ主トシテ
其ノ貿易及企業市場タル性能ヲ發揮セシムルヲ以テ主旨
トスヘク從テ我カ満蒙經略ニ支障ヲ及ホササル限り列国
ト協力シテ支那本部殊ニ經濟上列国ト重要關係ヲ有スル
地域ノ和平ヲ保持シツツ其ノ門戸ヲ開放セシムルニ努ム
ヘシ尚ホ帝国ノ対満蒙政策ト対支那本部策トニ本質的区
別アルコトヲ機會アル毎ニ如実ニ示シ關係各国側（中華
民国ヲ含ム）ヲシテ帝国ノ支那本部ニ對スル政策ニ付無

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

用ノ危惧ヲ抱カシメサルニ努ムルヘク差当リ別紙甲号ニ
依リ処理スルコト

(2)連盟

此ノ上トモ帝国ノ満蒙ニ対スル多大ノ関心ト我公正ナル
態度ニ関シ充分認識セシムル如ク誘導スル一方我方ヨリ

挑発的態度ヲ示スコトヲ避クヘキモ連盟側ヨリ進ンテ帝

国満蒙経略ノ根本ニ触ルル干渉ヲ敢テセムトスルカ如キ

場合ニハ差当リ三月二十五日閣議決定ノ方針（連盟宛往

電第一一二四号）ニ基キ処理スヘク而シテ連盟側カ右ニ拘

ラス依然トシテ反省スル所ナキノミラス更ニ進ンテ帝
國満蒙経略ノ根本ヲ覆シ我方國運ノ将来ヲ脅威スルノ虞
アル現実的圧迫ヲ加ヘムトスルカ如キ情勢ニ立到ル場合
ニ於テハ帝国ハ最早連盟ニ留ルコトヲ得サル次第ナルカ
如斯場合ニモ我方トシテハ連盟側ノ不当ナル行動ニ依リ
已ムヲ得ス右態度ニ出ツルノ余儀ナキモノナルコトヲ世
論ヲシテ充分ニ諒解セシムル様措置スルコト

(3)列国

世界各国中米蘇等連盟ニ加入シ居ラサルモノハ勿論英仏
其他ノ連盟國ト雖モ其ノ連盟國トシテノ立場以外ニ夫々

固有ノ立場ヲ有スル次第ナルニ顧ミ前記対連盟策ノ如何
ニ拘ラス各國側ノ特殊事情ヲモ利用シテ列國トノ間ノ友
好關係ヲ増進シ帝国ノ國際的地位ノ向上ニ努力スヘク差
当リ別紙乙号ニ依リ処理スルコト

(2)合第一七二二号

別紙甲号

(1)最近支那本部ニ於ケル地方政権ノ分立状態ハ益々顯著ト
ナル傾向アル処我方ニ於テハ右政局ノ推移ヲ注視シツツ
比較的穩健ナル態度ヲ執ル政権ニ對シテハ成ル可ク其ノ
立場及面目ヲ尊重シ或ハ進ンテ好意的態度ニ出テ我方ニ
有利ニ誘導スルコト各種案件ハ事情ノ許ス限り各地方政府
権トノ間ニ實際的解決ヲ計リ以テ事端ノ發生ヲ避クルニ
努ムルコト前記兩項ノ實行ニ當リテハ努メテ列國ニ対ス
ル抜駆的行動ヲ避ケ列國ヲシテ帝国ト協力セシムル様誘
導スルコト

叙上ノ見地ニ基キ上海方面及其ノ他各地ニ於テハ左記要
領ニ依リ措置スルコト

必要ノ財政的援助ノ途ヲ講スルコト居留民中好ンテ事端
ノ惹起ヲ計ルカ如キ徒ニ對シテハ外務出先官憲ニ於テ陸
海軍側ト協力シテ嚴重取締ヲ加フルコト

(1)上海方面ノ平靜確立及安全保障ニ關シテハ専ラ外交手
段ニ依リテ之カ解決ヲ図ルコトトシ円卓會議ノ開催ニ依
リ若クハ現地在留外人及支那側有力者間ノ機運ヲ助成シ
テ可及的速ニ右目的達成ニ努ムルコト

(2)支那本部ノ沿岸及長江沿岸ニ於テ今後万一居留民ノ生
命財産危殆ニ瀕スルカ如キ重大ナル事態発生ノ場合ニハ
上海、青島及漢口以外ノ沿岸各地ニ於テハ適宜居留民ノ
引揚ヲ行フコト

尚漢口ニ於テ事態重大化シ海軍ヲ以テ現地保護ヲ行ヒ得
ル見込ナキ場合亦同シ

(3)山東地方及北支ニ於テハ差当リ前記ノ如キ危險(1)(2)ノ
地方ヨリモ歛シト認メラルルヲ以テ出来得ル限り平靜ヲ
保持スルニ努ムヘク右ニ付テハ外務及陸海軍出先官憲ニ
於テ特ニ協調努力スルコト尤モ叙上努力ニ拘ラス万一般
方面ノ治安カ著シク乱レ帝國臣民ノ生命財產其他重要権
益ノ保護上絶対的必要アル場合ニハ派兵ヲ行フコトアル
ヘシ

(4)支那本部ニ於ケル我方商權ノ進展及同方面居留帝國臣民
ノ生活安定ノ為メ政府ニ於テ適當ニ之ヲ指導スルト共ニ

(1)支那問題ニ關スル日英協調回復ノ望マシキコトハ申ス迄
モナキ儀ナルカ一九二六年未英國政府ノ採用シタル所謂
對支新方針カ最近ニ至リ多少トモ変動ノ傾向アルニ顧ミ
(本年一月突然英國ヨリ我方ニ對シ支那治外法權問題ニ
関スル協調ニ付交渉方申出アリ我方ハ直ニ之ニ応シ將ニ
必要ノ交渉ヲ開始セムトシタル折柄偶々上海事件ノ勃發
ヲ見タル為メ其ノ儘トナリ居レル次第ナル處右協調方申
入モ前記新方針変動ノ傾向ヲ示スモノノ如シ尤モ英國側
ニ於テ引続キ本件交渉ニ対スル熱心ヲ有スルヤハ探索ノ
要アルヘシ)此ノ際右趨勢ヲ助長シ日英協調ノ回復ニ努
ムルコト(尚ホ英國側ノ重點ヲ置ク所カ支那本部就中上
海、廣東其他長江沿岸及南支方面ニ存スルニ鑑ミ該地方

ニ於ケル英國ノ立場ヲ適當ニ尊重シツツ協調ノ歩武ヲ進

ムルコト可然)

(認メラル)

(一)前項ノ日英提携ヲ急速ニ実現スルコトハ相當困難ナルヘキヤニ認メラル。次第ナル處由來仏國政府ハ我方ニ近似ニ付テモ我方ニ對シ比較的有利ナル態度ヲ示シ来レル一方仏國側トシテハ其ノ歐州制覇政策遂行ノ關係上極東ニ於ケル日仏兩國ノ政治的接近ヲ求メムトスル空氣アルモノノ如キニ付最近ノ機會ヲ捉ヘテ極東ニ於ケル日仏間ノ一般的諒解ニ関スル話合ヲ促進スルコト(尚ホ極東ニ於ケル日仏ノ接近ハ日英協調ニ對スル英國側ノ熱心ヲ増スニ与テ力アルヘシト認メラル又右日仏間ノ一般的諒解ヲ促進スル為メニハ現存ノ日仏協約ヲ最近ノ事態ニ応シテ日仏兩國當局者ノ間ニ読ミ直スコトトンテ話ヲ進ムルモ一策ナルヘク又本邦ニ於ケル安南革命派取締問題、上海仏國租界ニ於ケル不逞鮮人取締問題等具体的な案件ニ関スル交渉ヲ糸口トシテ話ヲ進ムルモ一策ナルヘシ将又仏國側ノ滿蒙方面ニ對スル借款投資ハ其ノ政治的色彩ヲ伴フコト比較的勘キニ顧ミ英米資本ヨリモ歡迎スヘキモノト

(二)目下ノ形勢ニテハ米國側ヲ我カ對滿政策ノ實行ニ有利ニ誘導スルコト最モ困難ト認メラルモ前記(一)、(二)等ノ實行ヲ計ルト共ニ門戶開放機會均等主義ノ運用ニ依リ米國側ヲシテ滿州國ニ於ケル經濟的利益ニ相當ニ均霑セシムル等ノ方法ヲ講シ以テ米國側態度ノ牽制乃至緩和ヲ計ルト共ニ我カ滿蒙經營ニ對スル極メテ強力ナル障礙ノ原因カ米國側ニ存スルノ事實ニ顧ミ同國ニ對シ内外諸般ノ準備ヲ速ニ進メ置クコト

(四)近時北滿方面ノ形勢ニ關シ日蘇關係ハ相當ノ危機ヲ藏シ居ルモノト認メラル。ルヲ以テ我方トシテハ万ノ場合ニ応スル為メ速カニ軍事外交其他内外諸般ノ準備確立ニ努ムルト共ニ現下ノ國際關係ニ顧ミ少クトモ此際ハ蘇連トノ衝突ヲ避クルコト極メテ肝要ナルヲ以テ我方ヨリ進ンテ蘇側ヲ刺戟スルカ如キ措置ニ出テサル様留意スヘク殊ニ蘇連側ニテハ我方ノ蘇領又ハ東支鐵道ニ於ケル蘇連側権益ニ對スル野心又ハ我方ノ白系露人トノ關係ニ付疑惑ノ念ヲ抱キ居ルモノノ如キニ付右等ノ点ニ関シ出来得ル限り蘇連側ヲ安神セシムル様措置スルコト但シ蘇連カ進

ソテ帝國ノ滿蒙經略ヲ阻止妨害スル等積極的態度ニ出テ來ルカ如キ場合ニハ断乎トシテ之ヲ排除スルコト

(五)其他ノ各國ニ対シテモ出來得ル限り友好關係ノ增進ヲ計リ且通商ノ円滑ヲ期スヘク殊ニ蘭國トノ間ニハ曩ニ同國側ノ希望ニ基キ開始セラレタル仲裁裁判及調停條約締結方ニ関スル交渉ヲ促進スヘク又若シ此ノ際同國トノ間ニ前記条約締結交渉ヲ急速ニ促進セシメ難キ事情アルニ於テハ太平洋ニ於ケル領土の現状維持ニ関スル取締(華府四国条約ノ趣旨ヲ日蘭間ニ拡充スル結果トナル)ノ交渉ヲ同國トノ間ニ開始スルコト尚ホ狀況ニ応シ其他ノ歐米諸國トノ間ニモ逐次仲裁裁判及調停條約締結ニ関スル交渉ヲ進ムルコト

394 昭和7年8月26日 内田外務大臣より 在仏國長岡大使宛(電報)

日仏協商推進方について

第三九一号 暗、極秘

往電合第一七一九号ニ関シ

(一)帝国政府ニ於テ近ク満州國ヲ正式ニ承認スル暁ニハ帝国

ノ連盟及米國ニ對スル關係ハ一段ノ緊張ヲ加フヘキ处翻テ連盟トノ關係ヲ離レテ各國殊ニ英仏等トノ諒解提携ノ余地ナシト謂フヘカラサルハ往電合第一七二〇号及合第(三九三文書)一七二二号ノ通リナリ就中仏國側ノ態度ハ引続キ比較的我方に良好ニシテ例へハ最近ニ至リ多年ノ懸案タル印度支那關稅協定問題ノ解決ヲ見タルカ如キハ其ノ間何等カノ政治的考慮ノ存シタルニ非スマト想像セラレ又支那調查委員ノ内ニ在リテ「クローデル」將軍ノ表示セル好意的態度ノ如キモ同將軍ノ一存ノミニ基クモノニハ非ル様思考セラルル次第ナリ(尚ホ仏國「コミティー、ド、フォーデュ」筋ノ對滿投資申出ニ付同「コミティー」ト緊密ナル關係ヲ有スル當時ノ首相「タルデウ」等力何等力諒解ヲ与ヘ居リタルヤニ想像セラルルハ貴電御來示ノ通りニ有之又現首相「エリオー」カ就任ノ際貴大使ニ對シ満州問題ニ付日本ヲ援助スヘキヤノ口吻ヲ洩シタルハ貴電第(三四九文書)五一〇号ノ通リナリ)而シテ右仏國側ノ態度ハ自然我國ニモ反映シ目下本邦各方面ニ於テ仏國トノ提携ヲ希望スル機運強ク一般輿論モ同國ニ對シ頻リニ好意ヲ寄セ居る現状ナルニ付此ノ雰囲気ヲ利用シテ兩國ノ關係ヲ一層緊

密ナラシムル建前ノ下ニ虚心坦懐ニ仏國側ト意見ノ交換ヲ開始スルニ於テハ結局何等カ両國間ノ「アンタント」ニ達シ之ヲ我國際的立場ノ開拓ニ利用スルコト不可能ニ非スト存ス

(2) 右會議ノ題目トシテ當方差当リノ思付ハ

一、今後極東ニ於ケル（就中対支政策ニ関スル）両国ノ協調

二、帝國ノ滿州國承認後ニ於ケル仏國ノ滿州ニ對スル希望条項

三、軍縮會議ニ於ケル共同歩調

四、明治四十年ノ日仏協約ノ読ミ直シ

五、蘇連邦ニ對シ採ルヘキ態度例ヘハ帝國政府カ蘇國側ヨリ不侵略條約締結方ニ関スル提議ヲ受ケ居ルコト御承知ノ通リナル處右ニ関連シ仏國カ同條約ノ仮調印ヲ為スニ至リタル動機ヲ確ムルコト（尤モ不可侵條約締結問題ヲ初メ蘇國ニ對スル我方ノ態度ニ關シテハ未タ廟議充分ニ決シ居ラサルニ付我方ノ態度ヲ「コンミック」セサルハ勿論其他余リ深入りセサル様特ニ御留意アリ度）等ナリ

第七七号

（普通情報）

一、滿州國ニ對スル滿州一般民心ノ趨向

滿州國ノ現在ノ実況等ニ關スル資料左ノ通
滿州國ハ建国以來歩一步健全ナル發達ノ道程ヲ辿リツツアリ殊ニ最近一二ヶ月ノ變化ハ著シキモノアル処（即連盟調查団在滿當時ト現在トハ情勢大ニ異ルモノアリ）其ノ主ナル点ヲ挙クレハ大要次ノ如シ

ルカ如キモ其ノ一例ナリ

二、滿州國ニ對スル滿州國人官吏ノ態度

滿州國ノ滿州國人官吏中ニハ純滿州國系ト帰順派ト見ル
官吏ノ整理充実、兵匪ノ討伐等着々進行シ就中張學良ノ滿州攪乱策モ何等為ス所ナキコト一般ニ判明シ新國家ニ、
對スル信賴ノ念増大スルニ伴ヒ滿州國建設ニ對スル一般人民ノ熱意ハ日ト共ニ旺盛ニ赴キツツアリ殊ニ最近大都市ニハ新興氣運横溢シ就中首都新京ニ於テ最モ著シク同地ニ於テハ貧都當時ノ所謂俄カ景氣ハ底景氣ニ転シ人口ハ茲一ヶ年内ニ倍加スヘシト称セラレ又貧都以來各國系統ノ外商ニシテ同地進出ヲ画策スルモノ鮮カラス殊ニ最近ニ於テハ急激ナル自動車ノ需要増加ノ結果各種ノ自動車会社ニシテ同地ニ營業所ヲ設クルモノ增加スルニ至レ

三、滿州國ニ對スル旧政權時代ノ要人ノ態度

日政權時代ノ要人ハ事變後一時影ヲ潛メ或ハ反滿州國軍側ニ投シタルモ新國家ニ對スル認識一般ニ徹底スルト共

尚ホ往電合第一七二二号ノ(2)ニ掲ケタル安南革命派取締問題ハ先方ヨリ申出アルヲ俟チ考慮スヘク我方ヨリ口ヲ切ラサルヲ要ス

(3) 尤モ右等ノ点ニ關シ仏國政府トノ間ニ「アンタント」ヲ成立セシムル為メニハ相當ノ迂余曲折ヲ要スヘキコト勿論ナルモ早キニ及シテ仏國側ト話合ヲ開始シ置クニ於テハ自然滿州問題ノ連盟上程ノ際仏國ノ態度ヲ我方ニ有利ニ導ク手懸トモナルヘク又若シ我方ト連盟トノ關係力決裂ニ立至ル場合ニモ我方ノ立場ヲ有利ナラシムニ資ス

ヘシト認メラルルニ付費官ハ貴地陸海軍武官トモ連絡シ最近ノ機會ヲ捉ヘ可然筋道ヲ辿ツテ本件話合ヲ進ムル様御配意アリタシ

米ニ轉電セリ

巴里連盟ニ暗送シ土ヲ除ク在欧各大使及蘭ニ轉電アリ度支、北平、南京及駐滿全權大使ヘハ追テ暗送ノ筈（往電合

支、北平、南京及駐滿全權大使ヘハ追テ暗送ノ筈（往電合
第一七一九号末尾參照）

395 昭和7年8月30日 内田外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛（電報）

滿州國の現況通報について

ニ漸次新國家ニ復帰シツツアリ即チ事變前吉林省府委員タリシ王之佑カ反吉林軍ノ将来ニ見切りヲ付ケ本年四月以来新國家ニ復帰シ目下軍政部内ノ要職ニアルカ如キ或ハ財政家トシテ名望アル前吉林省財政厅長栄厚カ本年七月新國家ノ招請ニ応シテ中央銀行總裁ニ就任シタルカ如キ或ハ曾テ東北代表トシテ南京北平方面ニ於テ活躍セル張学良系要人邢士廉（事變前遼寧省政府委員タリ）カ張學良ト絶縁シ近ク新國家ノ要職ニ就ク予定ナルカ如キ其ノ一例ナリ

四、治安状態

累次往電ノ通兵匪ノ討伐ハ着々進捗シ居リ從テ地方治安モ漸次回復セラレツツアル訳ナルカ右兵匪ノ討伐ハ高梁繁茂期終了（九月頃）ト共ニ一層容易トナルヘキヲ以テ治安状態ハ本年冬期ヲ一段落トシテ一層好転スルモノト認メラル

五、財政状態

財政状態ハ建国以来良好ニシテ本年三月ヨリ六月迄ノ四個月間ニ於ケル実績ハ大体収入一千八百万元ニ対シ支出二千四百万元差引収入不足六百万元ヲ示シ之ヲ滿州国側

396 昭和7年8月31日 在仏國長岡大使より
内田外務大臣宛（電報）

日仏協商の困難なる事情について

パリ 8月31日後発
本省 9月1日前着

第六八四号（暗、極秘）
⁽¹⁾
貴電第三九一號ニ関シ
^{(3)九四文書}

御來示日仏「アンタント」ハ要スルニ對支政策就中滿州問題ニ関スル仏國ノ態度ヲ我方に有利ニ導カントスル御方針ト察セラルル処率直ニ鬼見ヲ申サハ貴電（）御列挙ノ諸点ヲ以テシテハ日仏「アンタント」ヲ成立セシムル基礎タルコト困難ナルト共ニ我方カ手ヲ焼ク如キ結果ヲ招来セスヤト思ハル例へハ対支問題ニ關スル日仏ノ協調ニ付支那本土ニ有スル列強ノ利益關係ニ鑑ミ英米ノ參加無ク仏国単独ニテ日本ト握手セントハ到底言フマシク又軍縮會議ニ於ケル同步調ニ付本使カ会議ノ模様ヲ仄聞セル所ニ依ルモ斯ル放胆ナル約束ヲ為スコトハ不可能且危險ナル可ク卑見ヲ以テセハ支那問題ニ關シ日仏「アンタント」ヲ作ル場合ニハ直ニ英米トノ機微ナル關係ヲ生シ仏國モ英米ニ氣兼スルヲ以テ實現性乏シカルヘク日仏「アンタント」ノ端緒ハ之ヲ過般上海ニ於ケル爆弾事件ニ引掛ケ貴電合第一七二二号ノ二御來示ノ上海仏租界等ニ於ケル不逞分子及安南革命派取締問題ニ關スル情報交換ニ求ムル外ナシト思考セラルル処本件ニ關シ我方ヨリロヲ切ラサル様トノ御趣旨ノ内情一応承知致度幸ニ右ニ依リ交渉ノ緒ヲ得ハ更ニ一步ヲ進メ日仏ノミカ極東ニ利害關係ヲ有スル問題ニ話ヲ及ホシ例へハ極

建国当初ノ予想ニ比スルニ収入ニ於テ一千四百万元ヲ減シタル趣ナリ
而シテ更ニ七月以降向一個年間ノ収入状況ヲ見ルニ大体歳入七千万元（内訳、關稅收入千九百万元、塩稅收入千五百万元、其他稅收二千七百万元、計租稅收入六千百万元、官業及官產收入八百万元、雜收入七十万元）歳出八千七百万元、差引歳入不足千七百万元ト予測セラレ居ル由ナルカ建国勿々ニシテ而モ世界的不況ノ今日歳入不足カ右程度ニ止マルモノトセハ滿州國トシテハ満足スヘキモノト云フヘク尚今後治安状態ノ改善産業ノ振興ト相俟ツテ同國財政次第ニ堅実ヲ加フルハ言ヲ俟タサル所ナリ

東ニ於テ仏國カ最モ関心ヲ有スルハ印度支那ノ安全保障ノ問題ナレハ結局我方ニ於テ印支ノ安全ヲ保障シ仏ハ亞細亞大陸ニ於ケル日本領トシテ朝鮮ノ安全ヲ保障スト云フカ如キコトトセサルニ於テハ日仏丈ノ提携案トシテ仏國ヲ渦中ニ投セシムルコト殆ト望ナキ様ニ思ハル尤モ三月十三日日印支協約調印了ヘタル際本使ハ「タルジュウ」首相カ故「クレマンソウ」ノ直系トシテ親善關係ノ急務ヲ説キ全然私見トシテ近來極東ニ於ケル支那ノ事態全ク混乱シ加之共產派ノ運動益々甚シク日仏亞細亞大陸領モ不安ヲ感スル次第ナルカ此ノ際一步ヲ進メ右領域ノ安全ヲ保障スル途ヲ講スル事相ハ右ニ關シ自分モ大ナル関心ヲ有スル次第ナルカ英國モ之ニ加フルヲ要ス可ク又米國ハ支那問題ニ付テハ頗ル神経過敏ナルニ付テハ米國ヲ除外シテハ其ノ「サッセブチビリチ」ヲ害ス可シト言ヒ「タルジュウ」サヘ躊躇ノ色ヲ示シタル程ナレハ「エリオー」首相カ個人トシテノ親日相當強シトルモ「ラジコウ」ノ一般空氣ニ鑑ミ果シテ如何程ノ乘氣ヲ示スカ何レニセヨ御趣旨ノ次第ハ本使ニ於テモ東

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

京出発前既ニ共鳴シ居ル儀ニ付テハ其ノ成功ノ為出来得ル
限リノ努力ス可キ決心ナルカ之ニ先立チ予メ前記二点ニ関
シ何分ノ儀御回示有之様致シ度シ

在欧各大使、米、蘭へ転電シ連盟へ転報セリ
英、仏、米、連盟ニ暗送セリ

397 昭和7年9月(4日) 在イタリア 国岡本(武三) 臨時代理
大使より 内田外務大臣宛(電報)

満洲問題に対するイタリア政府の態度について

第九五号(暗)

満洲問題ニ対スル伊国ノ態度ハ從来比較的我ニ好意アルカ
如ク思ハシメ又最近伊国内ニ連盟反抗ノ言論行ハレ居リ連
盟脱退ノ氣勢ヲ示シツツアルハ既電ノ通リナルカ是等事情
ヲ以テ同問題カ連盟ノ議ニ上ル場合ニ伊国ノ態度カ直ニ我
方ニ有利ナリト即断スルヲ許サス伊国トシテハ本件ニ関シ
英米ヲ向フニ廻シ我ニ味方スヘキ因縁モ亦勇気モ無ク大勢
ニ雷同シテ寧ロ我主張ヲ非トスル態度ヲ示スヘキハ從来ノ
例ニ徵シ先ツ間違無キ所ト思考セラル要スルニ伊国ノ念ト
スル所ハ大国トシテノ「ブレスティヂ」ノ維持及自己ノ利

益ノ擁護乃至ハ拡張ニ過キス
右伊國ノ態度ニ付篤ト御了解ノ次第トハ存スルモ本件カ連
盟ノ議ニ上ルモ遠カラサルニ付為念御参考迄電報ス
英、仏、米、連盟ニ暗送セリ

398 昭和7年9月(6日) 在パリ 沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)

リットン報告書の審議について

第八三号(暗)

第六八回理事会來ル二十三日開会ト決定事務局作成ノ議題
中ニハ「リットン」報告審査ノ件掲ケラレ居ル处「ウォー
タース」カ原田ニ語ル所ニ依レハ右ハ同会期中ニ報告ノ提
出セラルヘキコトヲ予想シタル迄ニテ実際ノ審査ハ同会期
中ハ到底不可能ニテ次回即チ三理事改選後トナルヘキ見込
ノ由尚其ノ際「ウォータース」ハ事務局ニ達シタル報道ニ
依レハ「リットン」ハ九月三十日「ベニス」着寿府ニ来ル
筈ニテ報告ハ同人持參スルカ或ハ途中ヨリ飛行機ニテ送付
セラルヘシト内話セル趣ナリ

399 昭和7年9月8日 ※在パリ 沢田連盟事務局長宛(電報)

出セラレ我方ノ要求貫徹方御努力相成度尚ホ理事会側ニテ
ハ六週間ヲ待ツコトニ難色アルヤモ知レサルモ我方トシテ
ハ実ニ国家ノ大事ナルノミナラス前記要求ハ充分ナル根拠
アル次第ナルニ付此点篤ト連盟側ニ説示セラレ度

別電ト共ニ米ニ転電セリ

別電ト共ニ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

(別電)

第八六号(暗)

総テ一国又ハ數国ニ関係アル報告ハ当事国ヲシテ「オブザ
ーヴェーション」ヲ為スノ必要ヲ認メシムルモノニシテ且
該「オブザーヴェーション」ハ報告審査ニ先シシテ右審査
機関ノ構成員ノ手許ニ提出サルヘキモノナリ而シテ本件報
告ハ当事国政府及他ノ理事国ニ対シ同時ニ通報セラルル
ノナルニ顧ミ尚早ナル討議又ハ新聞漏洩ヲ予防スルコト肝
要ナリ將又帝国政府ハ本件報告ノ重要性ニ鑑ミ帝国政府ノ
「オブザーヴェーション」完成ノ上ハ本邦ニ在ル有力ナル
人物ニ必要ノ訓示ヲ授ケ右「オブザーヴェーション」ヲ携
帶シテ寿府ニ出張セシメ該人物ノ寿府到着ヲ俟チテ理事会
ノ審議ニ臨ミ度考ナリ仍テ本理事ハ帝国政府ノ訓令ニ基キ

就テハ理事會議長ニ対シ別電八六号ノ趣旨ノ書翰ヲ至急提
吉田大使來電第三五一號並ニ巴里連盟來電第七七號及寿府
連盟來電第五四九號ノニニ閔シ長岡理事ヘ
第八五号(暗)
別電 同日内田外務大臣より在パリ沢田連盟事務局長宛
第八六号
リットン報告書審査期日に關する申入れ要旨
(別電)
第八五号(暗)
吉田大使來電第三五一號並ニ巴里連盟來電第七七號及寿府
連盟來電第五四九號ノニニ閔シ長岡理事ヘ
第八六号(暗)
我方ニ於テハ「リットン」委員会調査報告ハ提示後充分慎
重ナル研究ヲ遂ケタル上「オブザーベーション」ヲ理事会
ニ提出スル意向ニテ理事会ハ右「オブザーベーション」ノ
接到ヲ俟チ報告書ノ審議ヲ開始スヘキコト当然ナリ又帝国
政府ハ事柄ノ重大ナルニ顧ミ特ニ本邦ヨリ有力ナル人物ニ
必要ノ訓示ヲ授ケ右「オブザーベーション」ヲ携行シテ寿
府ニ赴カシメ(実ハ打合ノ為メ貴理事ノ帰朝ヲ希望スルモ
貴理事ハ在仏大使タル本務モアリ又時間ノ節約ノ為メ右ノ
如ク特別ニ本邦ヨリ人ヲ派スル訳ナリ)其ノ上ニテ理事会
ニ臨ミ度キ意向ナリ

就テハ理事會議長ニ対シ別電八六号ノ趣旨ノ書翰ヲ至急提

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

左記各事項ヲ理事会議長ニ要求スルモノナリ

(イ) 本件報告ニ関スル帝国政府ノ「オブザーヴェーション」

ヲ作成シ且右「オブザーヴェーション」ヲ寿府ニ携行ス

ル為メ最短六週間ノ期間ヘ「オブザーヴェーション」作

成ノ為メ四週間及寿府ニ携行ノ為メ二週間)ヲ与フルコ

ト而シテ右期間ハ帝国政府カ報告ノ全部即チ報告及付属

書類ヲ入手セル日ヨリ起算サルヘキコト

(ロ) 理事会ノ報告審査ハ帝国政府「オブザーヴェーション」

ノ理事会接到後ニ非レハ開始セラレサルヘキコト

(ハ) 理事会ニ提出サルヘキ報告ハ帝国政府ノ「オブザーブエーション」ヲ付スルコトナク他ノ連盟国ニ通報セラレサ

ルコト

(二) 新聞紙ノ不当ナル論争ヲ避クル為報告ハ帝国政府ノ「オブザーブエーション」ヲ付スルコト無クシテ之ヲ新聞ニ

発表セサルコト

右ニ対シ至急何分ノ回答アリ度

400 昭和7年9月9日 在仏國長岡大使(内田外務大臣より)
内田外務大臣宛(電報)

日仏協商に関する試案について

モ有効ト認メラルニ付右ニ御異存無キニ於テハ來週早々
話ヲ始メ度キ所存ナリ右ニ関シ何分ノ儀往電(三九六文書)第六八四号ニ
対スル御意見ト共ニ御回電相成度シ

401 昭和7年9月9日 内田外務大臣より
在仏國長岡大使宛(電報)

日仏協商推進方に關し重ねて回訓について

第四一八号 暗、極秘

貴電(三九六文書)第六八四号ニ関シ

往電(三九六文書)第三九一号訓令ノ趣旨充分徹底セサル所アルヤニ認メ

ラルニ付左ノ通更ニ申進ス

日仏両國間諒解提携ノ達成上種々困難ノ存スヘキハ御来示

ノ通ナルモ現下ノ重大時局ニ顧ミ此ノ際出来得ル限り我方

ニ有利ナル國際環境ヲ作ル趣旨ニテ從來列國中比較的我方

ニ友好的態度ヲ示シツツアリト認メラル仏國側ノ政府筋

ハ勿論信頼シ得ヘキ方面トノ間ニ各般ノ問題ニ付「フリ

ー、トーキング」ヲ試ミ以テ何トカ「アンタント」ノ緒口ヲ

引キ出シ仮令急速ニ具体的結果ニ到達セストスルモ其間仏

國ノ同情好感ヲ繋キ度キ考ナリ而シテ往電(三九六文書)第三九一号ノ(二)

ニ掲ケタル所ハ右会談ノ題目トシテ當方ノ思付キヲ例示シ

本省 9月10日前着
巴黎 9月9日後発

第七〇九号(暗、至急極秘)
貴電(三九六文書)第三九一号ニ関シ

当方ニ於テハ往電第六八四号ニ付スル御回訓ヲ俟テ如何ニ
本問題ノ口ヲ切ルヘキカニ関シ種々考慮ヲ運ラシ居ル次第
ナルカ仏國カ最モ重キヲ置クハ對独閑係ニシテ殊ニ最近独
逸側ノ軍備平等權ニ関スル申出アリ政府トシテモ目下之力
対策ニ腐心シ自己ノ主張ヲ支持スル國ノ一國ニテモ多カラ
ンコトヲ望ミ居ル實狀ナル處実ハ勞山會議ニ於テ我方ヨリ
然ルヘキ向ヲ通シ「エリオ」ニ対シ我方トシテハ仏國ノ死
活問題タル賠償問題ニ付テハ仏國ニ不快ナル態度ヲ執ラサ
ルヘキニ付仏國ニ於テモ支那問題ニ關シ同様ノ態度ニ出ツ
ヘキヲ期待スル旨通シタル趣ナルカ之等ノ事情ニ鑑ミ
ハ右我方態度ヲ多トシ居リタル趣ナルカ之等ノ事情ニ鑑ミ
日仏「アンタント」ヲ結ハントセハ「ベルサイユ」條約維
持ノ点ニ関シ我方ニテ仏國ヲ支持スル代リニ日本ノ満蒙ニ
於ケル權益ニ関シ仏國ハ日本ヲ支持スルト謂フ如キ「ライ
ン」ヲモ組入レテ話ヲ進ムルコト彼ヲ引付クル上ニ於テ最

タルモノニシテ其ノ他ニモ種々ナル題目アルヘク要スルニ
貴官ノ御裁量ニ依リ先ツ最好都合ト思考セラルル題目ニ依
リ成ルヘク速ニ仏國側ト話合ヒヲ開始シ上記趣旨ニ添フ様
極力御努力方ヲ希望スル次第ナリ
尚支那問題ニ關シ日仏「アンタント」ヲ図ル場合ニハ英米
トノ間ニ機微ナル關係ヲ生スルコトヲ顧慮シ居ラル専處米
國トノ關係ハ暫ク措キ此ノ際我方カ仏國トノ間ニ極東問題
ニ関シ接近ヲ計ルコトハ之ニ依リ或ハ英國ヲ誘引シ日英協
調ヲ促進スルコトアリ得ヘキハ往電合第一七二二号時局処
理方針中ニ申進シタル通ナリ又会談題目中印度支那ノ安全
保障問題ハ往電(三九四文書)第三九一号(二)中ノ一及四ノ目的ニ合致スル
次第ニテ之ニ付会談ヲ試ミラルルコト固ヨリ差支ナキモ我
方ノ對償ヲ朝鮮ノ安全保障ニ求ムルコトニ付テハ尙ホ篤ト
考慮ノ要アルニ付差当リ極東ニ於ケル我特殊權益ノ尊重ヲ
要求スル趣旨ニテ話合ヲ進メラレタシ
將又本邦ニ於ケル安南革命派問題ハ之等一派カ我国政界其
ノ他ノ有力ナル筋ヨリ永年義俠的庇護ヲ受ケ来レルカ如キ
機微ナル關係アルニ付積極的取締ヲ行フ為ニハ予メ国内的
ニ充分準備ヲ為スノ要アリ從テ此ノ際仏國側ノ態度ヲ見極

ムルコト無クシテ進テ本問題ニ関シロヲ切り我方ヲ「コムミット」スルコトハ之ヲ避ケ「フリー、トーキング」ノ間ニ仏国ヨリ本件ニ関シ提議シ来ルニ於テハ之ヲ利用スルコトトシ以テ其ノ間本邦ニ於ケル準備ヲ進ムルコトト致度シ

シ

貴電第六八四号通転電、転報アリタシ

402 昭和7年9月(10日) ※在パリ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)

リットン報告書審議期日延期についての連盟

側への申入れに関する疑義について

第八七号(暗、至急)

(1)
(三九九文書)
貴電第八五号ニ関シ

長岡理事ヨリ

「リットン」報告ノ審査カ我方ニ執リ重大ナル意義ヲ有スルコトハ申迄モナキ儀ナルニ付本使トシテモ愈本報告提出ノ曉理事会カ早急ニ本件ノ審査ヲ開始セントスル氣配アリ且我方ニ「オブザベイション」ヲ提出スル充分ノ機会ヲ与ヘサルカ如キ態度ニ出スル場合ニハ本件カ我方ニ執リ國家ノ大事ナルコトヲ強調シ以テ該報告ニ対シ充分我方ノ意ナリ

見開陳ノ余裕ヲ与ヘシムル様努メ度キ所存ナリシ處偶々貴電ニ接シタル次第ナルカ此ノ際貴電第(三九九文書)八六号ヲ理事会議長ニ申入ルルニ関シテハ更ニ諸点ニ付篤ト考究ノ要アルヘシ

(2)
(三九九文書)
貴電第八六号ハニ関シ

累次ノ往電ニテ御承知相成ヘキ通り臨時総会及十九人委員会成立後「リットン」報告ノ審議權ハ右機関ニ移リタルモノナリトノ空氣相当濃厚ナリシ處漸ク理事会ノ方ニ引戻シタル経緯モ有之ニ付理事会ハ報告書ヲ入手シ得ルモ十九人委員会ノ他ノ「メンバー」ハ之ヲ見ルコトヲ許サレスト云フカ如キ事態ヲ日本側ヨリ惹起スルトキハ日本ニ対スル反感ト無用ノ誤解トヲ生スル虞アルノミナラス之ニ加ヘテ貴電(2)ノ如ク公表ヲ差止ムヘシトノ提議カ日本ヨリ為サレタルコト判明ゼンカ該報告ノ公表ヲ一日千秋ノ思ヲ以テ待チ居ル新聞界ハ日本ニ対シ如何ナル声ヲ挙クヘキヤ其結果當方ノ啓発運動ニ如何ナル影響ヲ与ヘキヤハ篤ト考慮ニ値スル次第ナリ

(2)当方ヨリ右(1)及(2)ノ申出ヲ為ス以上理事会カ何等カノ決定ヲ為ス迄報告ハ事務局側ヨリ之ヲ漏洩スヘカラサル次

第ナル處今迄ノ実情ニ徵シ之ヲ保障スルコト實際上困難ナルノミナラス支那側カ之ヲ入手スル以上報告書中我ニ不利ナル部分ノミ洩スカ如キ場合ナキニモアラサルヘク又本件ハ議長ノ一存ニテハ決定シ得ス結局手続問題トシテ理事会ノ多数決ニ依リ決定スルコトナルヘキ処議事及文書ノ公開ヲ本旨ト為シ居ル理事会カ支那側ノ反対アル場合之ニ拘ラス我方ノ要求ニ賛成スルヤ否ヤ頗ル疑問ナリ

キ申入レヲナシタリトカ或ハ日本ハ審議ヲ遷延シテ滿州ノ事態ヲ固定セシメントスルモノナリトカ左ナクトモ懷疑ノ念ヲ以テ事件ヲ見居ル連中ハ種々ノ邪推ヲナスヘク決シテ我方ニトリ有利ニアラス寧ロ「リットン」報告カ日本ノ手ニ渡リタル後ニ於テ種々「オブザベイション」ヲナス要アルニ付充分ノ余裕ヲ要求スル旨強ク主張スル方自然ニシテ又思ハサル疑惑ヲモ惹起セシメス且不幸ニシテ我要求貫徹難ノ場合今之ヲ言ヒ出セハ或ハ行詰リトナル虞アルニ反シ右ノ機会ニ譲レハ之ニ処スヘキ対策ヲ見出スニ融通性アルヘシト思考ス依テ此ノ際ハ來週早々寿府ニ赴ク沢田局長ヨリ「ドラモンド」(理事会現任議長「グアテマラ」代表「マトス」ハ万事「ド」ニ相談スルノミ故ニ交渉ノ対手方トシ不適當ナルノミナラス「アイルランド」代表ト更迭ス)ニ対シ「リットン」報告ノ内容如何ニ依リテハ我方ヨリ種々ノ「オブザベイション」ヲ提出スルノ必要アルヘシ等其他必要ノ説明ヲ与ヘ報告カ日本ニ手交セラルル日ト理事会審議開始ノ日トノ我方ヨリ本件ノ如キ申入ヲナシタリトセンカ恰モ我方カ

(4)(3)而シテ右(1)及(2)除クトスルモ此ノ際(1)及(2)公文ヲ以テ理事会議長ニ申入ルルコト果シテ我方ノ目的貫徹上得策ナリヤ否ヤ甚タ疑問ナリ前記ノ通本件ノ決定ハ結局来る二十三日ヨリノ理事会ノ際迄持越サルヘキニ付今若シ我方ヨリ本件ノ如キ申入ヲナシタリトセンカ恰モ我方カ「リットン」報告カ日本ニトリ不利益ナリト見テ斯ノ如

アリ度キ旨申入レ可成具体的ニ口頭ニテ注意ヲ喚起スル

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

程度ニ止メ置ク方得策ニアラスヤト思考ス

右ノ諸点ニ付御意見至急御回示アリ度シ

土ヲ除ク在欧米各大使ヘ転電セリ

403

昭和7年9月10日

在米国出席大使より
内田外務大臣宛(電報)

日本の満州國承認の場合の米国側の態度に關する観測について

第四六二号(暗)

日本カ愈満州國ヲ承認シタル場合米國側カ如何ナル行動ニ出ツヘキヤニ付確タル見当ハ付ケ兼ヌルモ一二國務省関係官吏及新聞方面一致ノ觀測ヲ綜合スルニ

一、米国政府ハ「リットン」委員会ノ報告提示迄仮令日本カ満州國ニ正式ノ承認ヲ与フルモ何等ノ处置ヲ執ラス委員会ノ報告カ世間ニ如何ナル反響ヲ与フルヤア先ツ見届ケ場合ニ依リテハ「リットン」報告ニ対スル理事会又ハ総会ノ審議振りヲモ見且之ニ伴フ世論ノ動キヲモ能ク見極メタル上ニテ其独自ノ立場ヨリ必要ト認ムルタケノ措置ヲ執ルコトナルヘシ

二、其理ハ満州問題ニ關スル米国政府ノ立場ハ一月七日ノ

三、又日本ハ現ニ財政及経済上極メテ困難ノ地位ニ在リ国内ノ政情亦不安ナルニ加ヘ新タニ満州統治ノ事實上ノ責任ヲ負担スルコトナリタル處在満支那人統御ノ困難支那本部ヨリノ執拗ナル策動又ハ妨害運動及欧米諸国ヨリノ援助ヲ期待シ得サルコト等ノ理由ニ依リ全日本ノ期待タル満州ノ経略ハ近キ将来ニ於テ恐らく失敗スルニ至ルヘク其時ニ至ラハ比較的容易ニ日本ヲシテ其対満政策ヲ変更又ハ緩和セシムルコトヲ得ヘキニ付夫迄ノ間ハ成ルヘク自然ノ成行ニ任せ時々起ル個々ノ問題ニ対シテハ臨機善処スル以外他ニ方法無カルヘシ

ト言フニ在ルカ如シ

右ハ勿論責任者ノ言明ト言フニモ非ス又事情ノ変化ニ依リ今後如何様ニモ変更セラルヘキ程度ノモノニ過キサレトモ

404 昭和7年9月11日 内田外務大臣より
在米国加藤臨時代理大臣宛(電報)

英ニ転電シ英ヲシテ土ヲ除ク在欧大使及連盟ニ転電セシムル

英ニ転電シ英ヲシテ土ヲ除ク在欧大使及連盟ニ転電セシムル
中国の九国条約会議開催運動について

第一七八号(暗)

十日在広東吉田總領事代理カ朱兆莘(同人ハ数日前顧維鈞及調査団一行ト香港ニテ会見セリ)ト会談ノ際満州問題ニ

関シ種々論議セル結果ニ依レハ支那側ハ既ニ連盟頼ミ難キヲ知リ不戦条約殊ニ九国条約ヲ持チ出し條約国会議ヲ開カシムルコトニ最後ノ努力ヲ試ムルニ非スマトノ印象ヲ得タリトノコトナルカ尚ホ當方ニテ別途入手セル比較的信頼スヘキ情報ニ依ルニ支那側ハ九国条約会議ノ開催方ニ付内密米国側ノ意向ヲ探リ居ルヤノ趣ニモアリ

右御参考迄

英ニ転電シ英ヲシテ仏、伊、和蘭、白、葡及連盟ニ暗送セシメラレ度シ

405 昭和7年9月12日 内田外務大臣より
※在パリ沢田連盟事務局長宛(電報)

リットン報告書審議期日についての申入れ一

第九二号(暗)
(四〇二文書)

貴電第八七号ニ閑シ

長岡理事ヘ

一、此ノ際往電(三九九文書)第八六号ノ(イ)(ニ)ハ申入レサル方得策ナリトノ貴見ハ尤モト存ス

二、次ニ右貴電(四)ニ付テハ「リットン」報告書ノ重大性ニ鑑ミ何レノ途我方ヨリ「オブザーベーション」ヲ提出スヘキハ極メテ当然ノコトナルニ付寧ロ早キニ及シテ連盟側ニ明確ニ此ノ点ヲ申入レ置クコト後日ノ紛糾ヲ避ケル所以ト存ス(此ノ際「ドラモンド」等一、二ノ人ニ対シ口頭ニテ申入ルモ「ド」等ハ其ノ都合ニ依リ一般ノ理事等ニハ取次カサルヤモ知レス又之ヲ取次クトスルモ我方ノ趣旨ハ連盟側ニ対シ充分徹底セサル虞アリ矢張り書面ニテ申入ルルコト肝要ト存ス)之ニ反シ我方報告書入手後ニ至リ「オブザーベーション」ノ期間ヲ要求セムカ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(2) 次テ本使ヨリ対独条約ニ関スル事項ニ付テハ從来日本ハ
仏國ヲ支持シ來レルコトハ御承知ノ通ニテ賠償問題ニ付
テハ海牙及勞山ニ於テ仏國ヲ助ケ居リ軍備問題ニ付テモ
日本ハ右態度ヲ持続スルコトト思ハル処対独条約ノ問
題ハ仏國ニ取り死活ノ問題タル如ク滿州問題ハ日本ニ取
り死(活)ノ問題ナレハ仏國モ前記日本ノ態度ニ照應シ
滿州問題ニ関シ殊ニ寿府ニ於テ我方ヲ支持セラレンコト
ヲ期待ス⁽²⁾若シ連盟ニ於ケル過激分子カ從来同様ノ態度ヲ
持続セハ本使ノ觀ル處ニテハ妥協ノ余地ナク行詰リトナ
ルヘク甚タ遺憾ニ存セラルニ付テハ何トカ此行詰打開
策ヲ考慮スル要アリ之ハ全然本使限リノ私見ナルカ例へ
ハ連盟側ヨリ日、支、滿三国間ノ交渉ヲ勧奨スルカ如キ
方法ニ依リ時局ヲ好転セシメ得ルニハ非サルカト思ハル
日本ハ支那本部ニ付テハ單ニ商業上ノ關係ヲ有スルノミ
ニテ爾余列強ト全然同一立場ニアリ日英同盟ノ廢棄ハ日
英両國ノ孰レニモ相當惡影響ヲ及ホシ支那ノ排外運動ヲ
強ムル結果トナリ英國ハ漢口租界ヲ失ヘリ御承知ノ通ニ
ヤ支那ニハ共産党カ非常ナル勢力ヲ得ツツアリテ事態極
メテ險惡ナリ就テハ列強カ共同シテ支那ニ臨ム政策ヲ復

我方ニ於テ報告ノ不利ナルヲ發見シタルニ依リ之カ審議
ノ遷延ヲ計レルモノナリトノ疑惑ヲ生スル懸念モアルヘ
ク又連盟側ニテ初メヨリ予定シ居ル審議開始ノ時期ニ差
迫リテ殊更疑問ヲ提出スルヤノ印象ヲ与ヘ面白カラスト
思考ス(此ノ場合ニハ日本側カ早キニ及シテ本件申出ヲ
ナセハ他ノ理事ニ報告ヲ渡ス前ニ予メ当事国タル日支ノ
ミニ提示シ得タルナリトノ非難モ起ルヘシ)
三、就テハ往電第八六号⁽³⁾ノ点ハ之ヲ削除シ⁽⁴⁾ノ点ノ
ミヲ書面ニテ申入ルコト致度ニ付右往電ヲ之ニ応シ
可然修正ノ上至急理事会議長ニ提出セラレ度
四、尚右(ハ)ノ点ヲ申入レサル結果「リットン」報告書カ我
方ノ「オブザーベーション」ヲ俟タスシテ連盟ニ交付セ
ラル場合ニ於テモ理事会力總会ニ對シ正式ニ右報告書
ヲ移牒スル以前報告書審議ノ為メ十九人委員会ノ会合ヲ
見ルカ如キハ有リ得ヘカラサルコトナルモ此ノ点為念
「ドラモンド」ニ對シロ頭ヲ以テ念ヲ押シ置カレ度
米ニ転電セリ
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

思考ス(此ノ場合ニハ日本側カ早キニ及シテ本件申出ヲ
ナセハ他ノ理事ニ報告ヲ渡ス前ニ予メ当事国タル日支ノ
ミニ提示シ得タルナリトノ非難モ起ルヘシ)
三、就テハ往電第八六号⁽³⁾ノ点ハ之ヲ削除シ⁽⁴⁾ノ点ノ
ミヲ書面ニテ申入ルコト致度ニ付右往電ヲ之ニ応シ
可然修正ノ上至急理事会議長ニ提出セラレ度
四、尚右(ハ)ノ点ヲ申入レサル結果「リットン」報告書カ我
方ノ「オブザーベーション」ヲ俟タスシテ連盟ニ交付セ
ラル場合ニ於テモ理事会力總会ニ對シ正式ニ右報告書
ヲ移牒スル以前報告書審議ノ為メ十九人委員会ノ会合ヲ
見ルカ如キハ有リ得ヘカラサルコトナルモ此ノ点為念
「ドラモンド」ニ對シロ頭ヲ以テ念ヲ押シ置カレ度
米ニ転電セリ
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(4) ニ尽力シ日本ノ期待ニ副フヘシト述ヘタリ

本使ハ今法律的方面云々トノ御話ニ依レハ何カ日本ニ条約違反ノ行為アルヤニ思考セラル様ニモ聞コユトテ事変以前ニ於ケル支那ノ行動及事変勃発當時ノ事情等ヲ説明シ我方ノ行動カ自衛権ノ範囲ヲ越エサルヲ力説シタルニ「エ」ハ実ハ之等ノ事実ニ付テハ兎ニ角知ル處ナキカ故ニ何レ研究ノ上本問題ノ法的方面ニ関スル事項モ研究シ度ク思ヒ居ル旨述ヘタルニ依リ本使ヨリ日本側參與員ヨリ「リットン」委員会ニ提出セル書類ヲ近々入手スル筈ナレハ之ニ依リ研究セラレ度シト述ヘ「エ」ハ之ヲ謝シ興味ヲ以テ研究スヘキヲ約シ書類接到ノ上ハ持參セラレ再ヒ意見ヲ交換シ度シト言ヒタルニ付斯ク打合セタリ終リニ本使ヨリ只今述ヘタル一般支那問題乃至印度支那問題ニ付テハ何カ御考アリヤト尋ネタルニ「エ」ハ日本側ヨリ提議セラルレハ之ヲ研究スルニ吝カナラスト答ヘタリ

連盟、米、在欧各大使（土ヲ除ク）ヘ転電セリ

（別電）

第七二〇号（別電）暗

貴電（四〇〇文書）第七〇〇九号ハ往電（四〇一文書）第四一八号回訓ト入違ヒトナレルモト察セラルル処右貴電御来示ノ趣旨ニテ話ヲ進メラレ差支ナシ尚貴電後段中「日本ノ満蒙ニ於ケル権益ニ付日本ヲ支持ス」トアルハ稍狭義ニ失スルヤノ嫌アルニ付「満蒙問題ニ付日本ヲ支持ス」トスルコト適切ナリト思考ス右御含ミ迄

408 昭和7年9月15日 在パリ沢田連盟事務局長より 内田外務大臣宛（電報）

リットン報告書審議予定などに關するドラモンド事務総長の内話について

第九〇号（暗）

「ドラモンド」帰寿以来杉村ニ対シ為シタル内話中御参考トナルヘキモノ左ノ通

（）「リットン」報告ハ九月下旬到着スヘク翻訳印刷ニ約十日ヲ要スヘキ処之カ配付後二週間ヲ経テ臨時理事会ヲ招集更ニ一週間ヲ経テ十九人委員会ヲ開キ臨時総会ハ多分十一月中旬以後ニ招集ノコトトナルヘシ右ハ單ナル予定ニ過ギサルヲ以テ日支両国側ノ都合ニ依リ臨時理事会を一週間延期スルコト位ハ出来得ヘシ

仏国回答ハ十頁ニ亘ル大部ノモノナルカ其ノ要領ハ独逸ノ

提起セル問題ニ付飽ク迄交渉ヲ阻ムト云フ趣旨ニハ非スシテ平和条約ニモ連盟規約ニモ軍縮条約カ当然平和条約ニ代ルモノナルコトヲ予見シ居ラサルヲ以テ軍備ニ関スル権利平等ノ主張ハ平和条約署名國ノ合意ノ下ニ於テノミ解決ヲ見得ルモノナルカ仏国政府ハ總テノ決定ハ軍縮會議ニ留保シ権利平等ノ問題及安全ノ問題ニ付独逸政府ト意見ヲ交換スルノ用意アリト為シタル後八月二十九日付独逸政府覚書交付ト同時ニ陸軍大臣ノ為シタル声明ヲ見ルニ仏独交渉ノ真ノ目的ハ単ニ権利平等ノミナラス殊ニ「ライビスウエーア」組織ノ變更独逸兵力ノ増加等ニアルカ如キモ仏国政府ハ独逸ノ再軍備「ライビスウエーア」ノ組織變更ヲ受諾スル能ハス右ハ独逸ノ兵力增加ヲ意味スルモノニシテ新タナル軍備競争ノ危険ヲ惹起スルモノナルヘシト述ヘタルモノナリ

407 昭和7年9月14日 内田外務大臣より 在仏国長岡大使宛（電報）

日仏協商推進方について

第四二五号 暗、極秘

第九一號（四〇五文書）

409 昭和7年9月15日 ※在パリ沢田連盟事務局長より 内田外務大臣宛（電報）

理事会開会時期に關する書翰の理事会議長への送付について

（）英國ノ朝野ニ対シ「タイムス」東京派出員ノ勢力ハ日支問題ノ関スル限り殆ト決定的ナリ英國ノ輿論政府ノ方針モ彼ノ通信ニ依リ動カサル所甚タ多シ
在歐米各大使（土ヲ除ク）ヘ転電セリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

理事会議長「マトス」南仏ニ旅行中ナルヲ以テ常例ニ従ヒ不取敢本件書翰十四日付事務局氣付ニテ送付シ置キ（沢田局長「ドラモンド」ニ手交ノ筈）十八日頃「マトス」帰巴ノ由ニ付更ニ本使ヨリ右書翰写ヲ同氏ニ渡ス積リナリ右御含ミ置キヲ請フ

在欧米各大使ニ転電セリ

410 昭和7年9月(16日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より 内田外務大臣宛（電報）

リットン報告書審査期日にに関するドラモンド

事務総長との会談について

第五五三号（暗）
（四〇九文書）

巴里発往電第九一号ニ関シ

本十五日「ドラモンド」往訪議長宛書面ヲ手交右転送方依頼スルト共ニ其写ヲ示シタル処「ド」ハ一読ノ上種々日取ヲ計算シ六週間ノ期間ハ稍長キニ過キスマトスルカ如キ面持ヲ示シタルニ付当方トシテハ本件ハ國家ノ重大問題ニシテ從テ右期間ハ正ニ当然ノ要求ト心得居ル旨詳説セル処「ド」ハ本件ハ何レ理事会ニ諮リ決定スル事トナルヘク從テ差当リ何等確言ノ限りニ非サルモ自分一己トシテハ右當

方ノ立場ハ善ク之ヲ了解セリ正ニ理由有ル要求ト思考スルニ付議長トモ相談精々尽力スヘキ旨述ヘタルニ付是非正当方要求達成ノ為斡旋アリタキ旨依頼シ置ケリ序ヲ以テ巴里宛貴電（四〇五文書）第九二号ノ四ニ言及シ當方トシテハ理事会カ總会ニ対シ報告書移牒前十九人委員会ニ於テ報告自体ニ付審議スルカ如キ事無カルヘシト了解シ居ル趣述ヘ「ド」ノ見解ヲ確メタル處同人モ正ニ其ノ通了解シ居ル旨答ヘタリ次テ「ド」ヨリ進ンデ「リットン」報告理事会ニ配布ノ節ハ他ノ連盟国ニモ同時ニ通報シ且公表スル積リナリ從来ノ経験ニ微スルニ斯ル書類ヲ一度理事会ニ配布セハ必ス何レヨリカ漏洩シ頗ル好マシカラサル結果ヲ招來スルニ付寧ロ右ノ通公表方取計フ事ト為シ居レリト述ヘ居タリ

土ヲ除ク在欧米各大使ヘ転電セリ

411 昭和7年9月(16日) 在独國小幡大使より 内田外務大臣宛（電報）

日本の満洲國承認問題に関するドイツ外相と

の会談について

第一四〇号（暗）

十四日外務大臣ヲ往訪満州問題ニ關スル独逸政府ノ態度ト

シテハ前内閣時代独逸ハ同地方ニ政治的関心ヲ有セス唯其經濟的利益ヲ重要視スルモノナルト共ニ連盟擁護ノ方面ヨリ極東ノ事態又変シ我国ハ將ニ満州國ヲ承認セントスルノ時機ニ達シ居レハ此ノ際腹蔵ナキ独逸政府ノ御意見ヲ伺ヒ度シト申入レタル處外相ハ自分ハ未タ本問題ヲ充分研究シ居ラス且政府ノ意見ヲ申述フルニハ閣僚ト相談ノ要モアレハ日ヲ更メ会見シタシト答へタリ依テ本使ヨリ一応其後ノ事態並帝國カ右承認ヲ以テ極東ニ於ケル唯一ノ和平維持方法ト認ムル所以ヲ説明スヘキ旨ヲ述ヘ閣下議會演説ノ趣旨

ヲ敷衍陳述セルニ對シ外相ハ熱心ニ之ヲ聽取シタル上満州独立後ニ於テ果シテ外國筋貿易上ノ活動力保障セラルヘキヤ否ヤ尚滿州現下ノ治安ハ事變前ヨリ著シク惡化シ居ル点ヲ指摘シ本使ノ意見ヲ尋ネタルニ依リ前段ニ關シテハ最近外務大臣カ帝國議會ニ於テ此点ヲ確言セルノミニラス從来日本ハ幾回トナク之ヲ保障シ來レル次第ニシテ全然懸念ノ要ナク又第二ノ点ニ關シテハ要スルニ認定ノ問題ニシテ満州ノ匪賊ハ古來著聞スル処ナレハ一朝ニシテ平定シ難カルヘキモ承認ニ依リ新國家ノ基礎確定シ且日本カ新協約ニ満

リ現在以上ニ必要ノ兵力ヲ用フルコトヲ得ルニ至ラバ近キ将来ニ於テ平定ヲ見ルコト疑ヒナシト答へ置ケリ
尚同外相トノ約束ニ基キ日滿議定書發表後之ヲ送付シ置キ兩三日中会見、独逸政府ノ意向聽取ノ筈英、仏、白ニ転電セリ

412 昭和7年9月(18日) 在獨國小幡大使より 内田外務大臣宛（電報）

満洲國の将来に対するドイツ側の観察について

第一四三号（暗）

⁽¹⁾満州國ノ現在及将来ニ對シ當國官吏及識者階級ニ差当リ二個ノ疑惑ヲ存スル様認メラル第一點ハ日本カ既ニ幾度トナク声言セルニ拘ラス結局ハ朝鮮ト同様門戸ヲ閉鎖スルニ至ラスヤトスル懸念ナリ此ノ疑惑ヲ解クニハ此ノ際口頭ヤ紙上ノ声明ヲ繰返スノミニテハ到底大ナル効果有リトハ考ヘラレサルニ付寧ロ實際的ニ昨今夥シク外国人ノ猜疑ノ中心トナリ居ルヤノ惑有ル新政府内日本人官吏ノ人目ヲ惹キ易キ活動振リヲ今少シク控目ト為シ同時ニ日本ハ満州ニ於テ利益ヲ壟断スルモノニ非サル所以ヲ示ス為外國筋關係者ニ

対シ相当利益分配ノ恩恵ニ浴セシムルノ必要アルヘク将又之迄ハ必要上日本ハ満州國ノ代弁ヲ為シ来レルナランモ最早満州國独立ヲ認識セシムル為ノ日本ノ代弁ハ却テ猜疑ノ念ヲ強ムルニ過キサル様考ヘラルヲ以テ速ニ各地ニ満州國人ヲ派遣シ満州國人ノ満州ヲ強調セシムル事肝要ナルヘ

(2) 次ニ彼等ノ懷ク第一ノ不安ハ満州ノ治安カ昨今著シク乱れ來リタリトスル感想ニシテ此結果彼等ノ間ニハ漸時我軍部

ノ能力ヲ疑ヒ始メ若シ現在ノ如キ不秩序ノ状態カ長ヒキ治安カ充分ニ維持セラレサルニ於テハ満州独立モ何等価値ナシトスルニアリスクノ如キ感想ノ存在ハ自然延イテ新國家承認ノ氣運ヲ停滞セシムルノ惧アリ就テハ此疑惑ヲ解クニハ新協定ノ適用ニ依リ有力ナル増兵ヲ行ヒ且ツ徹底的ニ土匪鼠賊ノ掃蕩ヲ決行シ速ニ秩序ヲ回復シ以テ彼等ヲシテ日本カ新國家ヲ承認セルノ無意義ナラサリシヲ認識セシメ同時ニ彼等カ商業貿易上安住ノ地ヲ得タル事ヲ覚ラシムル事必要ナルヘシト思料ス

以上二ケノ不安ハ独り当國ノミナラス歐州一般ニ於テ懷力ルル感想ナリト認メラルニ付右対策卑見上申シ御参考ニ

(2) 次テ話題ヲ満州問題ニ転シタルニ外相ハ最近ノ情報ヲ詳ニセス何等意見ヲ述ヘ難キ次第ナルカ連盟ニ於ケル議論ハ「リットン」報告ニ依リ左右セラルヘシト觀測セラル自分ハ未タ同報告ノ内容ヲ承知セサルカ恐ラク穩和論者ト雖モ同報告ノ趣旨ハ之ヲ強調スル事ヲ躊躇セサルヘク又如何ナル強硬論者ト雖モ同報告ノ意見ヲ越エテ議論ヲ徹底セシメ重大ナル責任ヲ負フ事ヲ敢テスル者無カルヘシト述ヘタルニ依リ本使ヨリ「リットン」報告ニハ満州ニ名目的ノ支那ノ主權ヲ認ムルヲ可トスルノ意見ヲ含ミ居ル由ノ新聞報道ニシテ眞実ナリトセハ満州新國家ヲ承認セル日本ノ立場トシテ此点ハ絶対ニ承認シ難キ所ナルヘク連盟カ此点ヲ固執スルカ如キ場合ニハ日本政府ハ不本意乍連盟脱退ノ決意ヲ余儀無クセラルニ至ルヤモ計リ難シ満州國ノ独立ハ理論ニ非スシテ事實ナリ満州ニ於

供ス

英、米、仏、白、伊及連盟ニ暗送セリ

413 昭和7年9月(18)日 在チエック・コスローヴ・キア 国堀田(正昭)

内田外務大臣宛(電報)

連盟内部における強硬論の緩和に努力とのべ

ネシュ外相談話について

第三七号

(1) 十七日「ベネシュ」外相ヲ往訪

(1) 軍縮會議今後ノ情勢ニ付感想ヲ尋ネタル處外相ハ既ニ各國間ニ意見ノ一致ヲ見タル問題例ヘハ化学戦禁止、空爆禁止等ニ付直ニ事務局ヲシテ條約案文ノ起草ニ着手セシムヘク各國間ニ略々主義上ノ合意ヲ見タルモ細目ニ付討議ヲ要スル問題例ヘハ重砲口径ノ決定等ノ如キニ付具体的ノ討議ヲ進ムル事トスヘク其他未タ各國間ニ主義上ノ異論アル問題例ヘハ条約違反ニ對スル制裁等ニ付主義上ノ討議ヲ行フコトトスヘキ趣旨ニテ一般委員会ニ提議スル積リナリ独逸ノ国防平等論ニ付相当ノ議論ヲ見ルヘシト予期セラルモ之ヲ會議ノ議題ニ入ルル事ヲ承認シテ

ケル治安維持ノ実際ノ責任ニ當ル日本トシテハ實際上ノ見地ヨリ新國家ノ承認ヲ必要トシタルモノナル一事ニ深ク留意セラレンコトヲ希望スト述ヘタル處御趣旨ハ充分了解シタリ理論ト實際トノ調和カ困難ナル点ナルカ其調和点ヲ発(見)スルコトハ必スシモ不可能ニ非サルヘシ連盟ノ尊重カ「チエッコスロバキア」ノ對外政策ノ根幹タルコトハ御承知ノ通ナルカ自分トシテハ今日迄連盟内部ニ於テ強硬論ノ緩和ニ相當努力シタル積リナリ今後ニ於テモ日本ノ友人タル自分ノ此態度ニハ変化アルヘキ筈無ク從テ寿府ニ於テハ日本全權部ト密接ナル關係ヲ保チ難問題ノ無事解決ニ尽力致シ度キ所存ナリト述ヘタリ英、米、白、連盟ヘ転電シ仏、伊ヘ暗送セリ

414 昭和7年9月(20)日 ※在パリ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)
第九五号(暗)
往電第九一號ニ関シ

申入れへの回答について

長岡理事ヨリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

(1) 本使書翰ニ対シ十七日付ヲ以テ「マトス」議長ヨリ「理事会議長ハ本件日本側ノ要求ニ付決定ヲ為ス権限無キモノト思考スルヲ以テ次回理事会ニ於テ本件ヲ審議シ得ル様直ニ事務総長ヲシテ各理事宛貴理事書翰ヲ配布セシメタル」旨回答アリ

(2) 他方「マトス」帰巴セルヲ以テ十九日朝往訪シ右書翰及貴電第九四号御通報（十六日事務局氣付ニテ送付ス）写ヲ手交シタル處「マ」ハ本件日本側ノ要求ハ至当ナルヲ以テ理事会ニ於テモ何人モ異論無カルヘシト述ヘタルニ付本使ヨリ最小限度六週間ヲ要スル事情ヲ篤ト説明シ置キタリ

土ヲ除ク在欧米各大使及寿府連盟ニ転電セリ

415 昭和7年9月20日 在英國松平大使より
内田外務大臣宛（電報）

日本の満洲國承認問題などに関するサイモン

外相との会談について

ロンドン 9月20日前発
本 省 9月20日前着

第三三四号 暗、極秘

ヲ北平ニテ英國代表者ニ交付シ又本日支那公使ハ自分ヲ來訪シ日本今回ノ措置ヲ九国条約ニ違反スルモノトシテ取扱ハレ度旨ヲ申出テタリ⁽²⁾

右ハ他ノ主ナル国ニモ申出テタル事ト思ハルカ自分ハ之ニ対シ意見ヲ述フル能ハサル旨且「リットン」報告ヲ研究スル事必要ナル旨ヲ述へ置キタリ「リットン」報告提出後連盟ニ於テハ可成リ重大ナル論議起ル事ト思考スル処目下ノ處ニテハ其ノ内容スラ承知セストテ慎重ニ「コンミット」スル事ヲ避ケタリ本使ハ来ルヘキ會議ニ於テハ日本ニ於テモ充分其態度ヲ説明スル筈ナルカ今日迄外務大臣カ連盟ニ於テ公平ナル（態度）ヲ以テ斡旋セラレタル事ハ我方ノ多トスル所ナルカ本問題ハ日本國家ニ対シ極メテ重大ナル事件ナルヲ以テ此点ハ外務大臣ニ於テモ充分念頭ニ置カレ支持セラレン事ヲ希望スト述ヘタル處「サ」ハ「吾々トシテハ何人ニ対シテモ公平ニ為スヘキ立場ニ在リ」（同氏ハ從来モ斯クノ如ク言フヲ常トス）ト述ヘ本使ハ小国等ノ不当ナル非難ニ対シ公平ナル見地ヨリ論セラルル事ハ吾人ノ最モ希望スル所ナリト述へ置キタリ

次テ「サ」ハ英國政府ノ対独対案ニ言及シ「只今「グラン

(1) 滿州國承認ニ関シ當國官憲及主ナル新聞カ沈默ヲ守リ居ル次第ハ既電ノ通ナル處本件ニ關シ外務大臣ニ対シ直接英國政府ノ態度ヲ尋ヌルモ「リットン」報告提出時期迄何等「コンミット」スルコトヲ避ケルコトハ必然ナルノミナラス或ハ却テ我ニ不利ナル如キ形勢ヲ馴致スルコト無キヲ保證スト思考シタル為今日迄外務大臣トノ会見モ特ニ差控ヘ居リタル處「サ」ハ明日寿府ニ出張シ本使ハ当地ニ暫ク留マル関係上挨拶旁会見シ軍縮問題及日支問題ニ対シテモ夫ト無ク態度ヲ探ルコト然ルヘシト考ヘ本十九日往訪シ雑談ノ後本使ハ満州國承認ヲ実行セルコトノ已ムヲ得サル事情即チ先般來議会ノ決議及國論等ニ鑑ミ政府トンテハ此際躊躇スルコト能ハサル立場ニアリシコトヲ説明シタル處「サ」ハ今日ノ形勢ニ至リタルコトハ英國政府ニ於テ何等非難セラルヘキコト無シ（英國新聞中ニモ亦其ノ他ノ方面ニ於テモ斯ノ如キ事態ハ英國政府カ今日迄決定的態度ヲ採ラサリシ為ナリトノ非難アルニ対スルモノカトモ思ハル）英國政府トシテハ「リットン」報告ノ提出セラレタル上慎重ニ之ヲ考究シタル上ニアラサレハ其態度ヲ決定スルコト能ハサル旨ヲ語リ支那政府ハ日本政府ニ宛テタル文書ノ写

416 昭和7年9月20日 在英國松平大使より
内田外務大臣宛（電報）

第三三六号（暗、極秘）
(四)一五文書
往電第三三四号ニ関シ

本使ノ観測ヲ述フレハ今回ノ満州國承認ハ「リットン」委員会及之ヲ推薦セル「サイモン」外相ノ面目ヲ或ル程度迄傷ケタル形ト看ラレ居ル處同外相カ昨冬以来連盟ニ於テ我方ト大多数ノ連盟國トノ間ニ立チ實際的見地ヨリ見テ我立場ヲ潰ササル様斡旋ノ労ヲ採リタルコトハ日英從来ノ友好關係及支那ニ於ケル英國ノ利害關係等考量ノ結果ト思ハ

ルル処来ルヘキ臨時総会ニ於テ愈「リットン」報告審議ノ

際我方ト連盟ト正面衝突ヲ起ス如キ場合ニ立至ラハ英國政
府ハ余地アル限り調停ノ勞ヲ採ルコトハ思ハルモ若シ

連盟ノ權威ヲ潰スカ或ハ我方ノ連盟ヲ傷クルカ二者一ヲ採
ルヨリ外無キ場合ニ立至ラハ英國政府ノ對歐州方針カ連盟

ニ重キヲ置ク關係上及英國連盟協会カ英國ノ輿論ヲ動カス

上ニ大ナル勢力ヲ有スル關係上英國政府ノ態度ハ決シテ樂
觀ヲ許サスト思考ス今日外相及英國ノ主タル新聞カ冷靜ニ
事態ヲ観望シ居ルコトハ必シモ我方ニ好意ヲ有スルモノ
トノミ解スル能ハス我方ト米國トノ關係カ逆ニ發展スルヤ
連盟ト我方ト正面衝突ヲ為斯場合如何ニ事態カ進展スルヤ
見極メタル上英國政府ノ採ルヘキ態度ヲ決定スルノ自由ヲ
存シ置カソカ為今日ニ於テ少シモ「コンミット」セサル様
細心ノ注意ヲ用ヒ居ルモノト觀察セラル

米、仏、独、露、巴里連盟ヘ転電セリ

417 昭和7年9月20日 在仏國長岡大使より

内田外務大臣宛(電報)

日仏協商に対するエリオ首相の反応について

パリ 9月20日後発

第七四五号(暗、極秘)
(四〇六文書)
往電第7一九号ニ関シ

「エリオ」二十日出発「ゼネバ」ニ向フニ付出發前冒(頭)
往電會談ノ統ヲナシ置クコト然ルヘシト認メ同日往訪セ
リ

先ツ本使ヨリ過日會議ノ要領ハ早速政府ニ報告シタル処政
府ハ之ヲ承認シ此「ライン」ニテ話ヲ続クル事ヲ許可シ來
レリ就テハ日本ニトリ死活問題タル滿州問題ニ對シ仏國側
ノ支持ヲ得タク日本ハ仏國ノ直面セル對獨問題ニ付出來得
ル限りノ支持ヲ与フル用意アリ右ニ関シ仏國政府ノ意見承
知致シタシト述ヘタルニ「エ」ハ右後段ノ点ニハ余リ多ク
ノ興味ヲ有シ居ラサル模様ニテ少シモ之ニ言及セス前段ニ
関シロヲ開キ過日モ御話セル通り自分ハ仏國カ調印セル條
約ニ関スル問題ヲ除ク外ハ出来得ル丈貴國ヲ支持スル積ナ
ルカ條約尊重ノ問題ニ付テハ仏國ノ立場モ存スル事ナレハ
ト云ヘルニ依リ本使ハ口ヲ挾ミ日本政府ハ其調印セル條約
ニ違反スル何等ノ行為ヲモ執リタル事ナキヲ確信シ居リ此
事ハ七月十二日及十四日兩日ニ亘り内田外務大臣ヨリ詳細

「リットン」委員会ニ説明セラレタルニ依リ委員ハ納得シ
タルヘキヲ吾人ハ期待シ居ルモノナルカ何レニセヨ日本ノ
主張ト之ニ反対ノ意見トハ追テ討究ノ上ニアラサレハ輕々
ニ批判ヲ下スヘキモノニアラス今一方ノ意見ノミニ基キ如
何ニモ日本ヲ條約違反國ノ如キニ考フルハ宜キヲ得サル事
ナル事態サエ明カトナレハ此問題ハ解決セラルヘシ
(2) 巴里新聞中(ニ)ハ日本ノ滿州國承認ニ関連シ日本カ條約
違反者ナルコトヲ前提トシテ論評ヲ為シタルモノ有リ如何
ニモ「ケドルセイ」ノ旨ヲ含ミテ書カレタル如キ感想ヲ抱
カシメタリト言ヘルニ「エ」ハ彼カ抱キ居ル意見ニ鑑ミ本
使ノ攻撃カ彼ニ対スルモノノ如ク感シタルモノト見エ自分
ハ決シテ斯ルコトヲ新聞記者ニ語リタルコト無ク今後モス
ルコトヲ口ニセサルヘシト頻リニ弁解シタルニ依リ本使ハ
斯ル意味ニテ言ヒタルニ非サルコトヲ説明セルニ「エ」ハ
ス若シ有リトセハ今後斯ノ如キコト無キ様充分警告シ置ク
ヘシト約シタリ(本使ノ趣旨ハ「レジエー」)近來「エ」ノ信
任ヲ得来レリトノコトニ付其親支那態度カ「ブリアン」当

時ノ如ク「エ」ヲモ感化シテハ一大事ト心得又既報「タ
ン」ノ論説ハ「レ」ヨリ「インスピレイト」サレシ形勢有
ル故夫ト無ク間接射撃ヲ為セシナリ)
「エ」ハ更ニ自分ノ意思ハ實際的見地ヨリ本問題ノ解決ヲ
計ルニ努力シ之ニ依リ日本ヲ支持セントスルニアル處之カ
為ニハ事件ヲ「ブレシピティ」セス出来得ル限り慎重ニ
事ヲ運フヲ最モ必要ナリト信シ寿府ニ於テモ此意味ニテ行
動シタキ考ヘナリ調査委員報告ニ對スル日本「オブザベ
イション」提出ニ要スル期間問題ニ付テハ無論日本ノ主張
ヲ内々支持スヘシ現ニ自分ハ昨日モ有名ナル在巴里支那人
來訪ノ際事件ヲ「ブレシピティ」セサル様懇々説得シタ
リト述ヘタリ

本使ヨリ「リード」カ倫敦ニテ極東問題ニ付テハ英國當局
ト會談セル趣ノ新聞記事ニ言及シタル処「エ」ハ「リ」ト
ハ其赴英前及昨日面会シ極東問題ニモ触レタルカ彼ニ對シ
テモ速急ニ事ヲ荒立ツルノ不得策ナルヲ力説シ置キタル次
第ナルカ右以外ニモ日本ノ御希望アラハ遠慮ナク申出ラレ
タシト繰返シ本日會談ノ内容ハ自分ニ於テモ此ノ室以外ニ
洩ササルニ付右含ミ置カレタシト付言シタリ本使ハ首相本

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

日ノ友誼的付言ハ早速之ヲ東京ニ電報スヘク日本政府ハ必
ス多トスルコトナルヘシト述へ置ケリ

尚外務長官「パガノン」ハ「グルノーブル」選出下院議員

ニシテ同地ニ我留学生ノ行クコトヲ喜ヒ先日モ日仏親善論
ヲ本使ニ説キタル次第モアルニ付右会談後同人ヲ訪ヒ本電

冒頭我方ノ意向ヲ内話シ何レ「エ」ヨリ話アルヘキカトテ
間接ニ其ノ支持ヲ依頼シ置キタリ

連盟、米、在欧各大使（土ヲ除ク）ヘ転電セリ

418 昭和7年9月(21) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛（電報）

日本の満州國承認非難の中國側申入れについ

て

別電

同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より内田外

務大臣宛第五六一號

右申入れ

第五六〇号

滿州國承認ニ関スル理事会議長宛我方通告及總會議長宛支
那側申入レ全文二十日事務局ヨリ配布セラル後者ノ要訳別

電第五六一號ノ通

（別電）

第五六一號

日本カ東三省ヲ支那ヨリ分割セントスル多年ノ野望ヲ実現
センカ為客年九月十八日以来公然且執拗ニ暴力及陰謀ノ政

策ヲ遂行シ來レル事實ニ対シ再ヒ總會議長ノ注意ヲ喚起セ
ントス右政策ノ実行ニ當リ日本ノ行動ハ絶エス其ノ重大性
ヲ増シツツアリタルカ今ヤ所謂滿州國ノ正式承認ニ依リ其

ノ頂点ニ達セリ

日本ハ朝鮮ニ於ケル先例ニ倣ヒ滿州傀儡政府ト締結セル協
定ニ依リ事實上滿州ニ保護領ヲ設定セルモノニシテ是レ併

合ノ前提ナリ右協定ニシテ日本ニ對シ滿州駐兵及防禦ノ權
利ヲ与フルモノナルニ於テハ右事態カ世界殊ニ極東ノ平和

ニ及ホス危險ハ余リニモ明白ナルヘシ

滿州傀儡政府ノ真相ニ付テハ支那代表部ハ既ニ屢々通告セ

リ日本ノ干渉ニ對スル連盟國及米國ノ態度ハ一月八日「ス
チムソン」ニ依リ明カニ説明セラレタリ（不戰條約又ハ連

盟規約ニ反スル方法ニ依リ獲得セラレタル事態及約定ノ不
承認ニ關スル一節ヲ引用ス）

日本ハ承認ニ依リ其ノ國際約定違反ノ政策ヲ貫徹セリ即チ

次官の談話について

ベルリン 9月21日後発
本省 9月22日前着

第一四七号（暗）

往電第一四〇号ニ關シ

日本ハ九国条約連盟規約及不戦条約ノ義務ヲ無視セルノミ
ナラス連盟國及米國ヲ拘束スル國際約定上ノ義務ヲ基礎ト
シテ公平ナル解決案ヲ提議スル為派遣セラレタル調査委員
会ノ報告ヲ事実上事前ニ拒否セリ

支那政府ハ常ニ紛争ノ公平ナル解決案ヲ議スルノ用意ヲ有

シ右目的達成ヲ助クルモノトシテ該委員会ノ報告ヲ歓迎ス
然レトモ新事態ニ鑑ミ今ヤ連盟ハ条約ノ神聖殊ニ支那ノ領
土ノ保全及政治的独立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ対シ之ヲ擁
護スルノ義務ヲ擁護スベキ措置ヲ執ル時機到来セリト信ス
(トテ規約十二条所定ノ期間延長中両当事国ハ事態ヲ更ニ
悪化セシメサルヘシトノ点ニ関スル七月一日總會議長及支
那代表ノ声明ヲ引用ス)以上ノ事実ヲ議長ノ考慮ニ供シ余
ハ現下ノ事態ニ鑑ミ連盟ノ行動ヲ促進セラレ臨時總会ノ過
去ノ決議ヲ尊重セシムルニ適當ナル措置ヲ考慮セラレンコ
トヲ要請ス

英、仏ヘ転電セリ

419 昭和7年9月21日 在独國小幡大使より
内田外務大臣宛（電報）

連盟の権威保持を重視する旨のドイツ外務

日本カ東三省ヲ支那ヨリ分割セントスル多年ノ野望ヲ実現
センカ為客年九月十八日以来公然且執拗ニ暴力及陰謀ノ政
策ヲ遂行シ來レル事實ニ対シ再ヒ總會議長ノ注意ヲ喚起セ
ントス右政策ノ実行ニ當リ日本ノ行動ハ絶エス其ノ重大性
ヲ増シツツアリタルカ今ヤ所謂滿州國ノ正式承認ニ依リ其
ノ頂点ニ達セリ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

コトアリテハ日本政府ハ囂タル民論ニ強要セラレ結局連盟脱退等ノ挙ニ出テサルヲ得サルヘシト指摘シタルニ対シ次官ハ其處迄ニ至ラサル迄ニ於テ何等解决ノ途モアラント考ヘラル旨並ニ「リットン」報告ノ審査前「オブザベーション」作製ニ六週間ノ期限ヲ必要トセラレタル日本政府ノ希望ハ至極妥当ニシテ wise ナリト考フル旨ヲ語リタ

冒頭往電ノ通り転電セリ

420 昭和7年9月(23日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 内田外務大臣宛(電報)

リットン報告書審議期日に関するドラモンド

との会談について

第五五六六号(暗、大至急)

⁽¹⁾長岡理事ヨリ

(一)二十二日午後「ドラモンド」ト会見巴里連盟発電報第九号理事会議長宛申入レニ言及シタル処「ド」ハ「リットン」報告ハ昨日着印刷ニ廻シタルニ付来ル三十日ニハ理事会及連盟国ニ配布シ得ヘシト考フ若シ三十日ニ配布出来得レハ理事会ノ審査ハ六週間後即チ十一月十一日ト

ヲ以テ貴理事ノ言ハルル如キ実際上ノ困難モ良ク了解セラルニ付六週間ニ予メ六日ヲ加ヘ例ヘハ九月三十日ニ配布セラルレハ十一月十七日トシテ之ヲ理事会ニ披露シ度シト述ヘタルニ付早速東京ニ問合スヘシト答ヘ置ケリ

(二)次テ「ド」ハ期限延長ノ問題ハ二十四日ノ理事会ノ際成ルヘク上程スル心組ナルカ目下ノ処別段ノ故障無ク通過スヘキ見込ナルモ顔ハ何カ發言スルヤモ知レス但手続問題ナレハ多数決ニテ解決スヘキモ顔ニ対シ何等カ応酬スルノ要アルヘク之ヲ議長ニテ引受クルヤ貴理事ニ一任ス

ルヤハ議長ノ考ニ依ル次第ナルカ議長(愛蘭首相「デバラ」)ト相談シ居ラスト内話セリ事務総長ハ議長ニ引受ケサセ度キ意向同様見受ケタリ

(三)本使ヨリ往電第五五六一号支那側要求ニ言及シタル処「ド」ハ右ニ付未タ「イーマンス」ノ確定的意見ヲ聞カサルモ

自分ハ間モ無ク「リットン」報告モ配布セラルコトニモアリ右報告ハ承認問題ニモ触レ居ルヤモ知レス今此ノ

問題丈ヶヲ切離シテ報告ノ内容ヲモ知ラサル此ノ際議論スルコトハ有害無益ナリト思考シ其ノ趣旨ニテ各方面ヲ

ナルヘシ尚三十日ニハ寿府ニテハ付属書ノ配布出来サルモ日本側ハ付属書トモ入手セラル次第ナルニ便宜多カルヘシト述ヘタリ右ニ付巴里宛貴電第八五号末段ヨリ推断スレハ六週間ニテ充分トノ見込ナル様存セラルム為念本使ハ日本側ハ六週間アラハ先ツ充分ナリト思考シ居ルモ今日ノ交通状態ニテハ敦賀浦潮線ハ一週間一回ニ過キスト思考スルヲ以テ日取ニ依リテハ尚一週間延ヒルコトモ有リ得ヘク日本トシテハ報告ノ審査ヲ徒ニ遷延セシムル意向毛頭無キモ斯ル心配アルカ故ニ期限ヲ明定セラルコトニハ迷惑ヲ感スル次第ナリ又日本側ニテハ付属書トモ入手セラルニ付利益ナリト言ハレタルモ日本ニテハ一部ヨリ入手シ得ス從テ之ヲ印刷シ日本語ニ翻訳スル要アルヲ以テ今直ニ日本政府ニ交付シ公表ハ三十日トセハ日本側ニテ今ヨリ印刷シ得定期限等ヲ定ムルニ付テモ便宜ナリト思考スト述ヘタル処「ド」ハ熟考ノ後若シ日本政府タケナラハ異存ナキモ支那側ハ公表ニ先タチ自分ニ都合良キ部分ノミ外間ニ漏シ宣伝戦ヲ開始スル虞充分アルニ付面白カラス又何分ニモ審査期日ハ何日ト明定セサレハ集合スル各代表モ事務局モ当惑スル次第ナル

説得シ居リ今ノ処十九人委員会ノ委員モ支那ノ要求ヲ取上ケントスル模様無シト述ヘ居リタリ

(四)就テハ前記(一)末段期限ヲ十一月十七日トスル点二十三日中ニ御返電ヲ請フ

土ヲ除ク在欧米各大使ヘ転電セリ

421 昭和7年9月(23日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 内田外務大臣宛(電報)

リットン報告書に対する連盟事務局部内の反

響について

第五五六七号(暗)

諜報者ノ内報ニ依レハ連盟事務局内ニ於テ「リットン」報告ヲ通覽セルモノハ事務総長ノ外「ウォルタース」「ウイジエー」「コムメール」ノ三名ニ過キス厳秘ニ付シアルモ

其ノ大要ヲ洩レ聞キタル部内支那聰眞ノ連中ハ同報告カ必スシモ日本ニ有利ナリト見ヘヌ迄モ予期ニ反シ一向支那ノ為ニ有利ナラサル点ニ付頗ル失望シ居レリトノコトナリ

422 昭和7年9月(24日) 在ジュネーヴ連盟代表より 内田外務大臣宛(電報)

満洲問題に関するウイルソン米公使との意見

交換について

(1) 第一号（極秘）
佐藤ヨリ

二十二日先方ヨリノ希望ニ基キ軍縮幹部会ニ代表トシテ來レル「ウイルソン」ト会談其ノ要領左ノ如シ

(2) 「ウ」ハ来ルヘキ理事会若ハ臨時總会ニ於テ滿州問題ノ

取扱振ニ関シ何等貴見承知シ得ヘキヤト述ヘタルニ付本

使ハ打明ケテ言ヘハ本使個人トシテハ承認問題ニ付異見

ヲ有シ居タルモ日本国内ニ於テハ格段ノ必要ニ基キ過般

承認断行セラレタルハ御承知ノ通りナリ而シテ内田外務

大臣就任後ニ於テハ滿州ニ對スル政府ノ政策モ確立セラ

レ最早滿州ニ関シテハ何等疑問ヲ挾ム余地無ク在外帝国

使臣ニ於テモ確立セル政府ノ方針ヲ体シ理事会ナリ總会

ナリニ臨メハ事足ルヘキ事態トナレリ尤モ今後連盟ニ於

テ本問題ノ解決ニ際シ幾多ノ困難ニ遭遇スヘキハ已ムヲ

得サル所ナルモ日本ノ執ルヘキ態度トシテハ夙ニ決定シ

居リ何等遲疑スル必要無キ次第ナリト答フ

(3) 次テ本使ヨリ互ニ腹蔵無キ意見交換ヲ為シ度シト前置シ

最近上海問題滿州問題ニ関連シ日米両国民間ノ感情ニ大

ナル疎隔ヲ生シ両国國交上ニモ好マシカラサル影響ヲ及ホサントシツツアルハ遺憾ニ堪ヘ斯両国ノ為政家ニ於テ速ニ何等カ適當ノ措置ヲ講スルノ要アリト思考ス日本國民ノ感情力何故ニ興奮セルヤニ関シ篤ト考

ニ説明スヘク米國側ニ於テモ其ノ辺ノ事情ニ関シ篤ト考

慮セラレンコトヲ希望スル次第ナリ

(4) 日本国ハ滿州問題ニ関スル日本側ノ措置ニ付米國ノ官

辺又ハ民間ニ於テ不満反対ノ声アルヲ聞クハ了解ニ苦シ

ム所ト為セリ蓋シ日本カ滿州ニ於テ執リタル措置ハ英米

等カ埃及若ハ中米諸国ニ於テ執リタル措置ヲ真似タルモ

ノニアラスシテ自己ノ生存上已ムヲ得サルニ出テタルモ

ノナルコト言フ迄モナシ而シテ米國自身必要ノ場合ニ於

テハ日本カ今回滿州ニ於テ執リタル如キ处置ヲ既ニ屢々

中南米ニ於テ実（行）シタル事実ハ今尚日本人ノ記憶ニ

新ナル所ニシテ日本カ自衛ノ必要上已ムヲ得ス滿州ニ對

シ執リタル態度ニ関シ之ト同一ノ態度ヲ執リタルコトア

ル米國ヨリ彼此非難攻撃ヲ受クルハ日本國民ノ了解シ得

サル所ニシテ貴下モ之ヲ諒トセラルルナルヘシト思考ス

ト述フ

右ニ対シ「ウ」ハ米國モ過去ニ於テハ御話ノ如キ過失ヲ犯シタルハ事實ナリ然レトモ右措置ニ對シテハ国内ニ於

テモ熾烈ナル反対アリタルノミナラス米國ノ出兵ハ多ク

ノ場合米國民ノ保護引揚ニアリタル点多少趣ヲ異ニスル

カ如シ加之連盟規約及不戦条約ノ締結ハ近代國際關係上

及國際法上一新紀元ヲ画スルモノニシテ凡ユル國際關係

カ此等條約ノ精神ニ依リ律セラルルコトトナリタル以上

日支紛争ノ如キモ亦新ナル見地ヨリ検討セラルヘキモノ

ナリト述ヘタルニ付本使ハ米國ノ中南米ニ對スル干涉ニ

ハ国内ニ強キ反対論アリタルハ承知シ居ルモ此等反対ニ拘ラス其ノ干渉ノ結果ハ依然残存シ居レリ又滿州問題カ

不戦条約締結ノ後ナルカ故法律的ニ不法ナリトセハ中米

諸国ニ対スル米國ノ行為ハ仮令當時ノ條約ニ抵触スル所

ナシトスルモ政治道德的ニハ等シク不法行為トシテ非難

セラルヘキモノニシテ米國カ過去ニ於ケル自國ノ非行ヲ

自認シ且償ヒタル上ノコトナレハ格別然ラスシテ日本カ

滿州ニ於テ執リタル行為ニ付忠言ヲ与フルスルモ日本

人ハ米国人ヨリ非難ヲ受クル筋合ニアラスト信スヘキハ

已ムヲ得サル所ナリ

(4) 本使ヨリ不戦条約違反ト認メラル場合締約國カ互ニ善

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

- 後策ニ付意見ヲ交換スヘシトノ「スチムソン」ノ論旨ハ別段新規ノ感ヲ与ヘストスルモ右ハ歐州問題ニ関シテモ当然其ノ適用ヲ見ルコトトナルヘク其結果ハ米國ノ伝統政策タル「モンロー」主義トハ大分掛離レ米國カ歐州問題ニモ引込マル機会ヲ作ルモノト認メラル又万一極東問題ニ関シテノミ締約国間ニ意見交換ヲ行ハントスルノ意ナラハ誠ニ不公平ニシテ輿論ハ之ヲ理解シ得サルヘント述ヘタルニ対シ「ウ」ハ「スチムソン」ノ政策ハ米國從来ノ態度ニ對シ一革新ヲ來スモノナルモ現在ノ世界状勢ニ於テハ米國ハ歐州ノ紛争ニ付テハ中立ヲ守リ得ス米國ノ大戰參加ハ其ノ証左ナリ露支紛争ノ際ノ共同措置提案ノ如キ以テ「スチムソン」ノ政策カ日本關係ノ問題ヲノミ目的トシ居ラサルヲ知ルヘシ
- (4) 「ウ」ハ滿州問題ニ関連シ日本対「ソビエト」関係一時緊張セルモ昨今少シク沈静ノ模様ニ見受ケラル處其ノ辺ノ事情如何ト尋ネタルニ付本使ハ去ル五六月頃「ソ」側ニ於テハ何故カ頻リニ神經過敏トナリ殊更國交ヲ緊張セシメタルカノ感アリ右ハ二三本邦新聞ノ無責任ナル論說及滿州ニ於ケル軍事行動等ニ依リ刺戟セラレタルモノ
- 423 昭和7年9月(24日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)
- 貴電第二六〇号ニ関シ
- 長岡理事ヨリ
- 本件ハ二十四日午前十一時ヨリ開カルル理事会ノ最後ニ上程セラルル筈ナル處顔ハ別電ノ通り本二十三日ノ理事会ニ於テ本件ニ関シロヲ切り議長ノ執成ニヨリ万事明日決定ヲ見ルコトトナリタル次第モアリ本使トシテハ理事会全問題ノ内容乃至議場ニ於ケル其取扱振ニ付「ド」其他ト打合ノ必要有之又我方最終期限ヲ十一月十七日ト仮定スルモ實際上ハ事務局ニテ右書類ノ印刷等ニテ結局二十一日ノ月曜トナルモノト思考セラル明二十四日ノ理事会ニ上程ヲ延期シ又ハ前記期間ヲ更ニ長期延長スル場合甚々面白カラサル空氣起り問題ノ根幹ニ迄影響スルカ如キコトアリテハ極メテ不得策ニ付二十四日午前九時迄ニ御返電ニ接セサル場合ニハ往電(四二〇文書)第五六六号()ノ通りニテ折衝ヲ開始スヘキニ付右御含ミ置ヲ請フ
- 424 昭和7年9月(24日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より内田外務大臣宛(電報)
- 別電 同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より内田外務大臣宛第五七一号
- 議題順序に関する顏中国理事の提議について
- リットン報告書の審議および公表時期に関する
る折衝について

第五七〇号(暗、大至急)

ナルヘキモ其後事態改善セラレ昨今ニテハ「ソ」ニ於テ最早斯ノ如キ根拠ナキ懸念ヲ有セアルモノノ如ク日露漁業問題モ最近ニ至リ無事解決セリ但右事態ノ改善ハ日本側ニ於テ特別ノ措置ヲ執リタルニ依ルモノニアラスシテ寧ロ「ソ」側ニ於テ自ラ其ノ疑念ノ根拠ナキヲ悟リタルニ依ルモノノ如シト答ヘ置キタリ

(4) 「リード」カ英仏外務大臣ニ対シ独逸軍備平等問題ニ関スル米國ノ支持ノ代償トシテ滿州問題ニ関シ米國ノ対日本態度支持方申入レタル旨ノ新聞記事ニ付本使ヨリ右記事ハ日本側ニ対シ多少不安ノ感ヲ与ヘタルカ如ク万ー米國ニ於テ斯ル底意アリトセハ勿論國際關係上容易ナラサル結果ヲ生スヘシトノ危惧ヲ抱カサルヲ得スト述ヘタル處「ウ」ハ自分モ右記事ハ一読セリ「リード」カ英仏外務トノ会談ニ際シ滿州問題ニ論及シタルヘキコトハ想像セラルモ彼ノ人物ニ微シ日本ニ対抗センカ為國際間ノ結合ヲ作ラントスルカ如キハ殆ト考ヘラレサルノミナラス過般「リ」ト会食ノ際ニモスル考ヲ耳ニシタルコトナシト答ヘタリ(本電()ノ趣旨ハ今後米國新聞記者団啓発ニ際シ必要ニ応シ説述シタキ考ナリ)

第五八回理事会二十三日非公開會議ヲ以テ開始議事日程ノ審議ニ入レル處劈頭支那理事ハ調査委員会報告ノ件ハ議

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

題ノ最後ニ掲ケアルモ同報告ハ既ニ寿府ニ到着セルノミナラス問題ノ重要性ニ鑑ミ理事会トシテ急速之ヲ取扱フ要アルヘキニ付右ヲ議題ノ初ノ方ニ移サレ度シト提言セリ右ニ對シ議長ハ同報告ニ関シ今期理事会ノ取扱フヘキコトハ單ニ日本側ノ提出セル審査時期延期ノ問題ノミニシテ右ハ手続上ノモノニ過キス何レノ途明二十四日ノ會議ニ於テ之ヲ議スル手筈トナリ居ルニ付右ニテ差支ナカルヘシト述ヘ結局其儘トナレリ

在欧米各大使へ転電セリ

425 昭和7年9月(24)日 在米國齋藤臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

*米国の対日態度緩和に關するラモントの談話

第五〇〇号(極秘)

赴任ノ途次二十二日紐育ニ於テ「ラモント」ヲ往訪シタル処「ラ」ハ六ヶ月以前ニ比シ米国対日感情モ著シク緩和シ居リ承認問題モ余り輿論ヲ刺激セスシテ済ミタルハ幸ト考ヘ居レリ一時ハ米国陸海軍ニ於テモ日本カ挑戦シ来ルニアラスヤトノ危惧ノ念ヲ抱キ興奮シ居リタルコトモアリシカ

当時「スチムソン」ハ自分ニ対シ日本ハ兵器購買ノ目的ヲ以テ「モルガン」ヨリ借款ヲ為シタリトノ風説アリ果シテ左ル事實アリヤト尋ネタルニ依リ本官ハスル風説ハ全然事実無根ナルノミナラス日本ノ財政当局ハ今日ノ米国ノ輿論ノ状態ニ於テハ到底不可能ナルコトヲ知ラサル程不賢明ナラス兵(器)購買ノ為ノ借款ハ勿論其他何等借款ノ申込ヲナシタルコトナシ又大統領ニ面会シタル際大統領ハ日本人カ米国ニ挑戦スル「プロバビリティ」アリヤト尋ネタルニ予ハ言下ニ日本ノ賢明ナル政府當局ハスル愚策ニ出ツル筈ナシト明瞭ニ答ヘ置キタリ然シ事態ハ非常ニ改善シ今日「スチムソン」モ此ノ上其輿論ヲ刺激スルカ如キ言辞ハ一切為サストノ決心ヲ以テ対日外交ノ衝ニ当ラント為シ居リ予モ亦之ヲ同感ナリト考ヘ居ルヲ以テ「ス」ノ態度ヲ喜ヒ居レリ米国側ニテ斯ル態度ニ出テントシ居ルコトハ日本側ニテ諒トセラレ亦日本側ニ於テモ余リ米国ノ輿論ヲ刺激セラルルカ如キコトナキ様致度クスノ如クシテ時日ノ経過ト共ニ日米関係ノ燃ヲ戻スコト最緊要ト考フトヘタリ英ニ転電シ英ヲシテ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電セシム

426 昭和7年9月24日 内田外務大臣より

※在シュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

*リットン報告書の審議開始および公表時期について

第二六一號 暗、大至急

(四二〇文書)
貴電第五六六号ニ関シ

長岡理事へ

(一)理事会ノ報告書審議開始期ヲ我方カ報告書及付属書ヲ入手

手セル日ヨリ四十七日目(即チ九月三十日ニ入手ストセ

ハ十一月十七日トナル訳ナリ)トスルコトニ異存ナシ

(二)尚ホ貴電ニ依レハ事務局ハ報告書ヲ理事国ニ配布スルト

同時ニ其ノ他ノ連盟国ニ配布シ且公表セムトスルモノノ如シ然ルニ我国ニテ之ヲ公表スル為メニハ翻訳ヲ要シ且

其ノ為メニハ少ク共一週間ヲ必要トスヘキ处(此ノ点ハ

支那側モ同様ノ立場ニアルモノト存ス)理事国ニ対スル配布ノ時(即チ我方ノ入手スル時)ト同時ニ事務局ニテ

公表スルニ於テハ当事国タル日本ノ国民ハ英仏語国民ハ勿論右両語ニ近似セル國語ヲ有スル國民ヨリモ遲レテ報

告ノ内容ヲ知ルコトトナリ我国ノ輿論ニ対スル関係モアリ如何ニモ不当ト認メラル就テハ報告公表ノ時期ハ理事国ニ対スル配布後一週間日ト致度(尤モ貴理事ノ「ドラモンド」ニ対スル説示ノ如ク当事国タル日支丈ケニ早日ニ提示スルコトスレハ右一週間ハ夫レ丈ケ短縮セラルル訳ナリ尚ホ「ドラモンド」ハ報告書公表前支那側ニテ宣伝戦ヲ行フヘキコトヲ恐レ居ルキ若シ支那側ニテ右様ノコトヲナセハ一週間後報告書公表ト共ニ其ノ化ケノ皮ヲハカルル訳ニテ却テ自國側ニ不利ナルヘクヨモヤ支那モスル愚策ハ執ラサルヘシト存ス又万一其ノ虞アリトセハ予メ支那側ニ前記ノ次第ヲ篤ト説示シ置カハ可ナルヘシ必要ニ応シ此ノ点「ドラモンド」ニ説明セラレ度)又理事国以外ノ連盟国ニ対スル配布ニ付テハ元來本報告書ハ理事国以外ニ配布セラルヘキ性質ノモノニ非ルモ既ニ公表セラル以上ハ我方トシテ之レニ賛成ハセサルモ特ニ反対セサルヘシ唯漏洩ヲ避クル為メ右配布ハ是非共公表ノ時期ト同時トスルコト致度万止ムヲ得サルニ於テハ各連盟国ニ於テ秘密ヲ厳守スルコト条件トシテ理事

右ノ我方ノ要求ハ極メテ理由アルコトナルニ付「ドラモンド」等ニ篤ト説明ノ上目的達成方極力御努力相成度

(3) 尚ホ十一月十日ノ理事会決議第五号ノ第二項ニ所謂「report to the Council」ハ貴電ノ趣旨ニヨレハ九月三十日ニ行ハレタルコト解シ差支ナキヤ後日ノ紛糾ヲ避クル為念ヲ押シ置カレタシ

貴電ト共ニ米、支、北平、南京、武藤大使ニ転電セリ
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

427

昭和7年9月(25日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)

リットン報告書審査期日に関する九月二十四

曰理事会の討議経過について

第五七三号

二十四日午前ノ理事会ニテ「リットン」報告審査期日ニ関スル我方要求ヲ議ス其ノ結果

一、議長ヨリ「マトス」宛長岡書翰ノ内容ヲ説明シ日本ノ要求通り審査期日ヲ定ムルニ於テハ規約第十二条第二項ノ期間ヲ延長シタル七月一日臨時総会ノ決議中ニ十九人委員会カ本件報告ヲ十一月一日前ニ審査シ得ル事ヲ期待

ストアルニ反シ十一月中旬以後トナル次第ナルモ日本ノ要求ニハ充分ナル理由アリト思考スルノミナラス連盟ノ世界性ニ鑑ミ各国ノ意見ヲ徹底セシムルニ充分ナル期日ヲ与フル必要アルヲ以テ日本側ニ満州國承認ノ事實ナクハ理事会ハ快ク前記ノ要求ヲ受入レタルナルヘシ然ルニ日本ハ最近是ヲ承認シタルノミナラス議定書ヲ締結シ日支事件解決ニ障害ヲ來スカ如キ措置ニ出テタルハ遺憾ナリ然レトモ吾人ハ日支事件カ当事国双方ノ死活ニ関スル重大問題ナル事ヲ充分了解スルヲ以テ此ノ際各理事カ日本ノ要求ヲ受諾セラレン事ヲ期ス依テ若シ右受諾方主義上異議ナキニ於テハ更ニ理事会ノ日取ニ付各理事ノ意見ヲ求ムヘシトテ先ツ右主義ノ点ニ関シ意見ヲ求ム

二、長岡ハ日本ノ要求ノ理由ハ議長宛書翰中ニ尽シアルヲ以テ之ニ加フヘキ点ナキモ日本側要求ハ専ラ實際上ノ必要ニ基キ為サレタルモノニシテ何等本件報告審議ヲ遷延セントスル意ナキハ各理事ノ了解セラル所ナルヘシ唯理事会ノ日取ヲ何日ト定ムヘキヤノ技術上ノ問題ニ関シテハ目下ノ欧亞ノ連絡状態ニ顧ミ余リニ嚴格ナル日取ヲ決定セラレサランコトヲ希望ス尚唯今議長ハ満州國承認

問題ニ言及セラレタルモ本理事ハ日支問題ハ全部一体トシテ論スヘキモノト信スルヲ以テ此際本問題ニ付討論ニ入ルヲ避クヘント述フ

三、次テ顏惠慶ハ日本政府ハ理事会ニ対シ意見ヲ提出セントスル希望ハ良ク了解スル處ナルモ之カ為六週間ノ猶予ヲ必要トストノ申出ハ了解シ難シ日本ハ整頓セル政府ヲ有シ寿府ニハ充分權限アル多人数ノ有力ナル代表部ヲ有シ居リ本国トノ打合ハ電報ニテ足ルヘク意見提出ノ為態

態使節ヲ派遣スル要アリトノ説ハ了解シ難シ且又日本カ

其期間内ニ何等事態ヲ悪化スヘキ措置ヲ執ラストノ確信ヲ有スルニ於テハスル申出モ審議ノ要アルヘキモ從来ノ経験ハ總テ之ヲ裏切レリ日本ハ事件ノ解決ヲ遷延セシメ置キ其ノ間傀儡政府ヲ建テ又支那ノ郵便関稅税ノ諸制度ヲ破壊シ且最近ハ熱河占領ノ野望ヲ抱キ十七日兵数百ヲ山海關方面ニ送リ天津ニテモ擾亂ヲ煽動シ居ル由昨日本

國ヨリ電報アリスル次第ニ付速ニ報告審査ノ開始ヲ希望ス尚手続問題トシテモ第十二条所定ノ六ヶ月ハ夙ニ満了セリ七月一日総会ハ延長ヲ決議セルモ右ハ現ニ必要ナル期間ヲ超エサルコト及前例トナラサルコトヲ条件トス

ストアルニ反シ十一月中旬以後トナル次第ナルモ日本ノ要求ニハ充分ナル理由アリト思考スルノミナラス連盟ノ世界性ニ鑑ミ各国ノ意見ヲ徹底セシムルニ充分ナル期日ヲ与フル必要アルヲ以テ日本側ニ満州國承認ノ事實ナクハ理事会ハ快ク前記ノ要求ヲ受入レタルナルヘシ然ルニ日本ハ最近是ヲ承認シタルノミナラス議定書ヲ締結シ日支事件解決ニ障害ヲ來スカ如キ措置ニ出テタルハ遺憾ナリ然レトモ吾人ハ日支事件カ当事国双方ノ死活ニ関スル重大問題ナル事ヲ充分了解スルヲ以テ此ノ際各理事カ日本ノ要求ヲ受諾セラレン事ヲ期ス依テ若シ右受諾方主義上異議ナキニ於テハ更ニ理事会ノ日取ニ付各理事ノ意見ヲ求ムヘシトテ先ツ右主義ノ点ニ関シ意見ヲ求ム

四、右ニ対シ議長ハ支那理事ノ所謂七月一日ノ総会決議ニ依リ理事会ノ報告書審査期日延期ニ関スル權限ヲ有セス

トノ論点ニ対シテハ其議論ノ根拠ヲ疑ハサルヲ得ス即チ調査委員会ハ客年十二月十日ノ理事会決議ニ依リ設定セラレ且其ノ報告書ハ理事会ニ宛テ來ルヘキモノナリ從テ其審査ニ関スル有ユル点ニ付理事会ハ權限ヲ有スル次第ナリ成程二月十九日ノ理事会決議ニ依リ日支紛争ハ總会ニ繫属スルコトトナリタルモ右ハ理事会ノ報告書受領ニ関スル權限ヲ滅却スルモノニアラス總会繫属ノ結果理事会ノ權限ニ或種ノ制限ヲ加ヘラレタルハ明ナル事實ナリト雖報告書ニ就キ理事会カ審議スルコトハ其一般的權限

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

上当然ノコトニ属ス而シテ此ノ解釈ハ正ニ三月十一日ノ総会決議第三節第六項ニ理事会ハ総会ニ対シ意見ヲ付シテ回付ストアル趣旨ニモ適合スルモノナリト説ク

五、西班牙理事ハ只今議長ヨリ決定的ノ意見ヲ伺ヒタルカ

先刻日本理事所言ノ最終ノ点ニ就キ率直ニ謂へハ右ハ甚タ危険ヲ伴フ議論ト云ハサルヘカラス日支紛争ニハ両面アリ其一ハ紛争ノ根本ニ関スルモノニシテ其二ハ日本カ鐵道付属地外ニ長ク駐屯スル事実ナルカ此ノ点ニ関シテハ事変以来日本ノ諸代表カ理事会席上屢々右ハ短期間且一時的ノ現象ナル旨述ヘラレタルニ拘ラス今猶事実ハ嚴存ス而シテ第一ノ点ハ日支両国ノミニ関係スル問題ナルモ第二ノ点ハ一ノ國際問題トシテ当然連盟乃至規約ノ関係スル問題ナリ換言スレハ日本対連盟ノ問題ナリ然ルニ日本ノ滿州國承認ハ右第二ノ点ニ属スルモノニシテ連盟規約トノ関係ノ問題ニ外ナラス而シテ右承認ハ時ノ経過ニ依リ発生シタルモノナル関係上今次日本ノ要求タル審査ノ延期ハ甚タ危険ヲ包含スルコト先刻支那理事所言ノ通ニシテ延期ハ必スヤ事態ノ悪化ノ結果ヲ招クモノト信ス仍テ自分ハ以上ノ所言ヲ留保シ日本ノ要求受諾ニ閔ス

ル議長ノ勧説ニ從フモノナリト述フ
之ニ対シ長岡理事ハ今日ハ手続ノ問題ノミヲ議シツツアリ故ニ自分ハ問題ノ根本ニ立入ル意思ヲ有セス右ニ就キ誤解ヲ有セラル向アルヲ遺憾トスト述フ

(4) 六、支那理事ハ自分ハ茲ニ総会及理事会ノ権限ノ問題ニ付

再言シタシ二月十九日ノ理事会決議及三月十一日ノ総会決議ニ依リ紛争ハ全部総会ニ移リタルモノナリ理事会ハ爾余第十二条及第十五条ニ付何等ノ権限ナキニ至レルモノナリ総会ハ義務トシテモ紛争全部ヲ取扱フヲ要スル訳ナルヲ以テ理事会ニハ果シテ如何ナル権限カ残存スルモノナリヤ総会ノ自動的権限ハ何等理事会ニ依リ妨ケラルルモノニアラサルナリ一体日本今次ノ要求ハ事務的法律家ノ研究ヲ經タルモノナリヤト迫ル、議長ハ本件ハ事務局全部ノ最モ慎重ニ研究シタルモノニシテ其ノ意見ハ報告書ハ理事会ニ於テ先ツ取扱フヘキモノナリトスルニ一致シ居レリトテ顔ノ申立ヲ撥付ケタル後理事会ハ主義上日本今次ノ延期要求ヲ受諾セルモノナル旨ヲ宣ス

七、次テ議長ハ理事会ノ審査開始期日ヲ定メタシト述フ事務総長ハ右ハ十一月二十一日トシ度キ考ナルカ九月二十

二日接到ノ報告書ハ甚タ広汎ナルノミナラス付属書ハ未タ接到セサル様ノ有様ナルニ付翻訳印刷等ノ関係上之カ配付公表ニハ相当ノ時日ヲ要ス目下ノ都合ニテハ次ノ三案アリ即チ十月一日ナラハ本文ノミニ五月五日ナラハ本文ニ地図ヲバラバラニ加ヘタルモノ十月八日ナラハ本文ニ右地図ヲ夫々適當ノ場所ニ入レ整頓セルモノヲ配付公表シ得ヘシト説明ス⁽⁵⁾依テ長岡理事ハ日本ハ付属書ヲモ一括公表方ヲ希望スト述ヘタルニ事務総長ハ夫レニテハ付属書未着ノ関係モ有リニ、三週間ヲ要シ審査時期非常ニ遲延ス可キヲ以テ之ニ同意シ兼ヌル旨説明セルヲ以テ長岡理事ハ更ニ自分ノ希望ハ寿府ニ於テ公表ト同時ニ東京及南京ニ於テ報告書ヲ渡ストセハ之ヲ翻訳スル関係上日本ノ新聞社ハ其ノ掲載ヲ甚タ遅延スルコトナリ其ノ立場サヘ無クナル可ク右ハ支那モ同様ナル可キヲ以テ純然タル手続ノ問題トシテ日支語訳文モ英仏文ト同時ニ公表出米ニ転電、在欧各大使ニ郵送セリ

算スルモノナリト念ヲ押シタルニ支那理事ハ十月一日ヨリ六週間ハ十一月十二日ナルヘキニ拘ラス審査期日ヲ十一月二十一日トスル事ハ了解シ難シト述フ依テ議長ハ前記公表時期ニ関スル事務総長三案ノ一ヲ選ヒ度シト述ヘ十月一日本文ノミニ公表シ地図ト付属書ハ出来次第公表トシテハ如何ト諮リ遂ニ右ノ通り決定ス而シテ議長ハ報告書ハ十月一日日支両政府ニ渡スヘシト宣言ス

八、更ニ議長ハ理事会ノ審査期日ハ十一月二十一日トシテハ如何ト諮リ支那理事ハ右ハ長過キルニ付六週間トシ度シト希望セルニ西班牙理事ハ両意見ヲ折衷シ十一月十四日トシテハ如何ト提案ス議長ハ万ノ事態ニ依ル延期ニ付明確ナル良法無ク之ヲ取り上ケントシタルニ付長岡理事ハ滿州方面ノ交通状態ヲ説明ノ上西班牙理事ノ提案モ有ルニ付十一月十七日トシ度シト提言セル処議長ハ理事会ハ十一月十四日開催スヘク但シ日本ノ「オブザーヴェーション」ノ不可抗力ニ依ル遅延又ハ理事會員ニ於テ特ニ研究ヲ要スル場合ニハ右開催ヲ一週間延期シ得ル事トシテハ如何ト諮リ右ニ決定散会ス

昭和7年9月(25日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)

リットン報告書公表期日に関する折衝について

第五七四号(暗)
(四二六文書)

貴電第二二六二号ニ関シ

長岡理事ヨリ

本朝理事会開会前「ドラモンド」接客詰り居り面会出来サ
 リシ為杉村ヨリ開会直前貴電ノ趣旨篤ト「ド」ニ申入レタ
 ル處「ド」ハ事務局ノ立場モアリ余り長ク公表ヲ遅ラスコ
 トハ困難ナルヲ以テ十月一日ニ配布セラル場合同日ハ土
 曜日ナルヲ以テ公表ハ之ヲ三日ノ月曜日ト為ス位ノコトニ
 テ我慢セラレ度キ旨ヲ述ヘ本使理事会ノ部屋ニテ「ド」
 ニ同様申入レタルニ対シテモ意見ヲ変エス理事会ニ臨ミタ
 ル次第ナルカ理事会ニテハ往電第五七三号ノ通本使ヨリ日
 本新聞ノ立場ヲ説明シタルニ対シ(「ボンクール」ハ本使
 ノ意見ニ共鳴シ居リタリ)「ド」ハ眼前ニ居並フ各国通信
 員ニ対スル思惑ヨリ之ヲ支持セス結局十月一日公表ノコト
 ニ決定シタル次第ナリ会議後更ニ杉村次長「ド」其他ト打

昭和7年9月(26日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)理事会公開会議における議長演説に対するわ
が代表部の観察について第五七五号(暗)
(四二七文書)

往電第五七三号ニ関シ

議長ノ演説中滿州國承認ニ関スル声明ニ付從来ノ經緯ヨリ
 観測スルニ往電第五六一号文那側ノ申出有リタル為「モッ
 タ」首魁トナリ議長「イーマンス」之ヲ支持シ十九人委員
 会ヲ開催セントスル運動相當氣勢高カリシ処事務總長ハ
 「リットン」報告間モ無ク到着シ其ノ審査遠カラサルニ付
 テハ此ノ問題ヲ切離シ論議ス可キニ非スト強調シタル結果
 彼等急進論者ヲ説得シ得タルモノノ如ク從テ往電第五六六
 号(三)ノ如キ事ヲ大使(本電冒頭長岡理事ヨリ)ニ語リタル

次第ナルカ以上ノ經緯ヨリ案スルニ理事会議長本件声明ハ
 右ノ運動ニ対スル妥協的処置トシテ挿入セラレタルニ非サ
 ルヤト思ハレ之ヲ其儘聞流シ置ク事ハ我方将来ノ立場上不
 得策ト考ヘタルヲ以テ一言シタル次第ナルカ之ニ対シ「マ
 ダリアガ」ノ反駁アリタルヲ見テ以上ノ想像ハ当リ居ルモ
 ノノ如ク殊ニ其ノ間ニ立ツテ細工セルモノハ「マ」ナリシ
 カトモ思ハル、此ノ經緯ニ付テハ是迄情報ヲ電報シ居ラサ
 ルニ付為念

430 昭和7年9月26日 内田外務大臣より

在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛

(電報)

リットン報告書の交付および公表期日について

第二六八号 暗、大至急

貴電(四二八文書)

第五七四号ニ関シ

我方ノ報告書入手ト寿府ニ於ケル報告書ノ公表ト力同日ニ
 行ハルニ於テハ我方ニ翻訳発表ノ暇ナキ間ニ本邦新聞
 紙ハ不完全ナル寿府電報等ニ想像ヲ加ヘテ不正確ナル報道
 ヲナシ其ノ為メ不必要ノ紛糾ヲ釀スヘキニ付寿府ニ於ケル

報告書ノ公表ト同時ニ本邦ニ於テモ其ノ要領ニテモ翻訳ヲ
 発表スルノ極メテ肝要ナルハ何人ニモ諒解セラルコトト
 存ス而シテ本省ニ於テ報告書ヲ一読シタル上其ノ要領丈ケ
 訳出スル為メニハ最少限度二昼夜ノ余裕ヲ必要トスルニ付
 冒頭貴電末尾ノ如ク十月一日ニ交付シ同月三日ニ公表スル
 コトニ話合付カサルニ於テハセメテ九月二十九日日支両国
 政府ニ交付シ(報告書ヲ本邦ニ持參スル「バスクホフ」ハ
 二十八日朝着京ノ筈)十月一日公表ノコトトスル様是非共
 話合ヲ付ケラレ事務局ヲシテ必要ノ指示ヲ「バ」宛電報ヲ
 出サシムル様御取計相成度右話合ノ結果至急回電アリ度

431 昭和7年9月(27日) 在ジュネーヴ連盟代表より

内田外務大臣宛(電報)

連盟総会議長および副議長の選舉について

第三号

第十三回連盟総会ハ二十六日理事会現任議長愛蘭代表司会
 ノ下ニ開会先ツ議長ノ選挙ヲ行ヒ次テ午後各委員会(今年
 ハ差当リ第三委員会ヲ設ケス)議長及副議長ノ選挙ヲ行ヒ
 タルカ其結果左ノ通

合セタル結果例ハ十月一日午前十時(東京時間)日本政
 府ニ交付シ東京三日午後(寿府同日午前)公表スルコトト
 シ以テ二昼夜以上ノ余裕ヲ置クト云フカ如キ案ニテ話ヲ進
 メ居レリ事情右ノ如ク充分貴意ニ副ヒ得サリシハ遺憾ナル
 モ右御諒承ヲ請フ

「¹⁴ 委員会議長、第1 Beelaerts (和蘭)、第11 te Water (南ア連邦) 第4 Vasconcellos (葡萄牙)、第14 Carton de Wiart (田耳義)、第六 Lange (諾威) 議題委員会 Tevfik Rouchdy Bey (土耳其)

〔1〕副議長、括弧内ハ得票数

伊太利 Aloisi	(四四)
仏蘭西「ユリオ」	(四一)
英 国「サイモン」	(四一)
独 逸 Neurath	(四一)
「ニカラガ」 Medina	(三八)
長 岡	(三四)

尚議長ノ提議ニ依リ瑞西「モッタ」及白耳義「イーマンス」ヲ特ニ名譽副議長ニ推薦スルニ決ス右十五名ヲ以テ幹部会ヲ構成ス

432 昭和7年9月(27)日 在ジニエーヴ連盟代表より 内田外務大臣宛(電報)

総会における理事會議長の演説中滿洲問題関連部分について

第五号

「十六日総会ニ於ケル開会ノ辞中理事會議長ハ過去一年間ニ於ケル連盟ノ事業ヲ「レビューア」シ平和確保軍縮賠償経済問題等ニ触レ最後ニ愛蘭ノ平和主義ヲ高唱シタルカ右ノ内日支問題ニ言及セル一節左ノ通

余ハ極東ニ於ケル紛争ニ言及スルノ要アリト信ス臨時總会カ本問題ノ審議ヲ開始シタル際ニハ上海地方ニ於テ幾多ノ人命ヲ失ハシメタル重大ナル戰鬪行ハレソツアリタリ幸ニシテ今ヤ其ノ事無シ然レトモ右紛争ニ関連スル一層広キ問題ハ今尚未解決ニ属ス日本ノ発案ニ基キ理事会カ現地ニ派遣セル委員会ハ今回報告書ヲ提出セリ右報告書カ本紛争ノ公正且終極的解決ヲ齋サンコト並ニ規約ノ運用及原則カ本問題ニ纏ハレル總テノ困難ニ打勝チテ其ノ「ジャスチフィケーション」ヲ示サンコトヲ希望スルハ本總会全部ノ感情ナルベシト確信ス

433 昭和7年9月(27)日 在ジニエーヴ連盟代表より 内田外務大臣宛(電報)

総会における副議長選挙について

第六号 (暗)

國落選ノ前例ニ鑑ミ日支事件カ我方ノ票数(ニ)影響スヘキコトハ予想ニ難カラサリシ次第ナリシモ當方ニ於テハ故ト運動カマ敷キ行動ニ出ツルヲ避ケ万一千伊國ノ先例ヲ辿ルカ如キ事アラハ之ヲ以テ連盟ヨリノ挑戦ト見做シ万事ノ腹案ヲ作ル可ク決心シ居タル処殊ニ二十六日朝南米各國代表參集対総会策ヲ議シタル時日本ノ副議長問題出テタル際ニモ予テ大國ヲ副議長ト為スコトニ主義上反対シ来レル〔三〕國ヨリ日本ニ投票スルコトニ反対ノ意見ヲ表明シタル者アリタル外大体我方ニ有利ノ空氣ナリシ趣ナルカ副議長ノ選挙直前ニ行ハレタル委員會議長ノ選挙ニ於テ西班牙ハ第五委員会ノ議長ヲ白耳義ニ奪ハレタル為副議長自薦運動ヲ為シタル由ニテ彼是相俟テ我方ノ票数ニ影響ヲ及ホシタルモノト察セラル

434 昭和7年9月(27)日 在米國斎藤臨時代理大使より 内田外務大臣宛(電報)

滿洲国における門口開放実現の重要性について

第五〇七号 (極秘)

満州問題モ漸ク列國ノ態度ヲ顧慮スルコトナク我所信ニ邁

進スルノ外ナカリシ創業時代ヲ終リ之カ永遠ノ解決ヲ策スヘキ建設時代ニ移ラントシ從テ今後ハ漸次列國ノ諒解支援ヲ集メ事態ノ健全ナル進展ヲ計ルコト最モ緊要ナルヘク此点ヨリ見テ累次御電訓ノ各國輿論善導ハ重大ナル意義ヲ有スルモノナリト存セラル但シ新聞出版物講演等ニ依ル所謂狭義ノ宣伝ハ單純適確ナル積極的攻撃目標ヲ有スル場合即チ歐州大戰末期ニ於テ「ノウスクリフ」卿カ獨國國民ノ士氣ヲ挫カント試ミタル場合ノ如キニ於テ始メテ其効果大ナルモノニシテ一國ノ立場ノ公正ナルコトヲ善解セシメントスルカ如キ防禦的目標ヲ達セントスル場合ニハ早急ニ其効果ヲ見難キモノト云ハサルヘカラス人ヲ惡人ナリト云フ宣伝ハ易ク自ラ正シトノ宣伝ハ難シ左レハトテ今日國家ノ重大時期ニ於テ此ノ種狭義ノ宣伝モ亦忽ニスヘカラナルハ申ス迄モナク本官等ニ於テ其最善ヲ尽スヘキハ勿論ナルモ唯之ノミニ依頼シテ事態ノ好転ヲ期スヘキモノニアラス更ニ別個ノ方面ヨリ根本的ニ輿論ノ転換ヲ誘致スヘキ広義ノ宣伝策ヲ講スルコト喫緊ノ必要事ナルヲ痛感ス米國ノ輿論力近來稍々冷靜ニ向ヘルコトハ既ニ御承知ノ通ナルカ尚米國人一般殊ニ有識者ノ拳テ抱懐スル危虞ノ焦点ハ日本国政府

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

カ屢々声明シタルカ如ク果シテ満州國ニ於テ機会均等門戸

開放ノ原則ノ実ヲ遵守セラルヘキヤ否ヤニアリ米國「ラヂオ」会社々長「ヂエネラル、ハーボード」ノ如キスラ本官

赴任ノ途紐育ニ於テ会談ノ際満州ニ於ケル日本ノ行動ハ充

分了解シ得ル処ナルモ今後自然ノ勢トシテ其ノ門戸ハ閉鎖

セラレントスルニ非スマト述ヘ居リタリ満州國獨立ト不戦

条約乃至九国条約トノ関係ノ如キ法律的論義ハ今後ト雖モ

屢々繰返サルニ相違ナキモ是ハ我々モ亦相当ノ立場アリ

且ツ実際的常識的見地ヨリ観察シテ我ヲ認容セントスルモ

ノ米国人中ニモ決シテ鮮カラス結局水掛論ニ終ラシメ得ヘ

シト信ス

果シテ然ラハ今日最緊要ナルハ外国ニ向ツテ門戸開放ノ実ヲ示スニアリ思フニ日本産業ハ既ニ非常ノ発達ヲ遂ケ満州國ノ需要スヘキ物資モ例ヘハ石油煙草農業及鉱山用機械類等ヲ除ク殆ト總テ内地ヨリ供給シ得ヘク其ノ価格モ亦米國品等ニ比シ甚タ低廉ナルモノ多シ是ニ加フルニ経済的不況

ニ苦シミ来レル我産業界カ此ノ期ニ於テ回生ヲ計ラント欲スルハ当然ノ事態ト言ハサルヘカラス從テ是ヲ自然ニ放任スル時ハ門戸開放ト云フモ其ノ実ハ閉鎖ノ結果トナルヘキ

ハ自明ノ經濟的法則ナリ

此ノ故ニ若シ此ノ際門戸開放ノ実ヲ示サントスレハ勢ヒ經濟的法則ニ逆ヒテ政治的一大英断ニ出ツルノ外ナシ而シテ

此ノ際満州國政府ト御協調相成リ兎ニ角政府ヨリ米國ニ対シ近ク相当巨額ノ機械類等ニ對スル注文ヲ發セシムル事ヲ

得ハ米国人ヲシテ満州國カ既ニ着々建設的事業ニ歩ラ進メ居ル事而シテ是カ遂行上門戸開放ノ実ヲ挙ケ居ル事ヲ感セシムヘク新國家ノ經濟的発達ニ伴フ利益ニ均霑セル事ヲ願フモノ統出シ米國ノ輿論ニ一転機ヲ与フル事難カラサルヘシト存ス右案ノ實行ハ自然我国當業者ニ不利ナル影響ヲ及ホス事トナリ我國經濟不況ノ今日或ハ其ノ方面ノ反対ヲ招ク虞ナキヤニ非サルヘキモ我對満経緯ノ成否如何帝國ノ威信ト國ノ消長ニ閑スル所以ナルニ想到セハ此ノ際國家百年ノ大計ヨリ當面ノ困難ヲ排シ或程度本邦人ノ犠牲ヲ払ヒテモ同案ノ遂行ヲ期セサルヘカラス且又一度米國其他列國ノ満州國ニ對スル誤解ヲ解キ却テ其ノ實際的利益關係ヲ惹起シタル上ハ漸次自然ノ經濟的法則ニ從ヒ将来我カ利益ヲ打開確立スルノ時機到ルヘキハ予想ニ難カラサル處ナリ

シタル上ハ漸次自然ノ經濟的法則ニ從ヒ将来我カ利益ヲ打開確立スルノ時機到ルヘキハ予想ニ難カラサル處ナリ
右ハ貴電合第一七二二号ニ御訓示中(三)ノ御方針ニモ副フ所
(三九三文書)

トヲ得ハ初テ漸次対満投資ノ氣運ヲモ釀成スルニ至ル可シト考ヘラル

本件巨費注文案ニ付注意スヘキ諸点ハ(一)相当巨額ニ上り且キ处今日俄ニ斯ル投資ヲ期待スルコト至難ナルハ明カニシテ仮ニ実業者間ニ其ノ希望アル者アルトスルモ到底國務省ノ贊認ヲ経ルコト能ハサル可シト思考ス而シテ前ノ巨額注文案ニ依リ一般輿論殊ニ実業方面ノ空氣ヲ一新セシムルコトヲ得ハ初テ漸次対満投資ノ氣運ヲモ釀成スルニ至ル可シト考ヘラル

本件巨費注文案ニ付注意スヘキ諸点ハ(一)相当巨額ニ上り且纏リタル注文ナル可キコト巨額ニ非サレハ其ノ目的ヲ達セサルヘキハ申ス迄モナク又多クノ製造業者ニ散布セラルル時ハ輿論ヲ刺戟スルコト少カルヘシ(二)急速且極秘裡ニ實行セラルヘキコトト事ノ性質上早ケレハ早キタケ効果アルヘキハ申ス迄モナク且日本當業者中之ヲ(一語不明)此ノ利益關係ニ顧ミテ反対運動ヲ起ス者出ツル時ハ實行不可能ニ陥ルノ虞アリ(三)本案実行ト同時ニ満州國ヲシテ數名ノ米人

ヲ招聘セシムヘキコト之カ実益ハ兎モ角トシテ右ハ対米宣伝上相當ノ効果アルヘシ(四)右注文案ノ背景トシテ五年計画又ハ十年計画等ノ開発案ヲ作成シ老大ナル数字ヲ中外ニ宣明シ得レハ可ナル可キコト等ナルヘシ之等ノ点ニ付テハ固

ヨリ精査熟考ヲ要スヘキモノタルヘキモ差当リ考察トシテ併セテ申進スル次第ナリ

本案ハ本官當地転勤拝命以来熟考ニ熟考ヲ重ね倫敦紐育ニ於ケル本邦實業家中信賴スヘキ數名ノ意見ヲモ夫レトナク探り紐育總領事、加藤參事官當地陸海軍武官トモニ熟議ヲ加ヘタル處ニシテ此ノ際政府ニ於テ御審議アランコトヲ懇請スル處ナリ

本電ハ堀内總領事ノ出張ヲ煩ハシ合議ノ上起草セリ

在巴里連盟局長ヘ転電セリ

連盟局長ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリタシ

435 昭和7年9月27日 内田外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在
米國出席大使宛(電報)

謝外交部總長の満洲國承認要求説について

合第一九一〇号(暗)

過般大橋次長カ紐育「タイムス」記者トノ会見ニ於テ「満州ノ門戸ハ長春政府ノ独立ヲ承認シタルモノニ對シテノミ開放セラルヘシ」ト述ヘタルヤノ趣伝ヘラレ列國側ノ輿論ヲ刺激シ居ル矢先二十一日新京発朝日特電トシテ謝介石ハ

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

近ク列国ニ対シテ承認ヲ要求シ其ノ後四ヶ月乃至六ヶ月以内ニ右承認ヲ実行シ又ハ承認ノ交渉ヲ開始セサル國家ニ対シテハ同國カ滿州国内ニ有スル權益ヲ認メス無条約国トシテ遇スヘシトノ宣言ヲ發表スヘク目下準備中ナル旨言明セル趣報道セラレタルヲ以テ在滿全權大使等ニ対シ真相取調方訓令ヲナシタル上ハ列國ニ対シ承認ノ要求ヲナスコト面ノ席上ニ於テ在長春總領事代理ニ対シ日本以外ノ一國カ正式承認ヲナシタル上ハ列國ニ対シ承認ノ要求ヲナスコト面白カルヘキ旨氣焰ヲ上ケタルコト等アル由ナルモ右ハ滿州國ノ方針ニハ非ストノコトニテ（右朝日特電ハ特派員カ強ク文飾シテ特種ニ造り上ケタルモノナリト）大橋其他外交部本邦人官吏ニ於テモ滿州國ノ對外政策ハ飽迄常道ニテ進ムヘシトノ意見ナル趣ナリ尚外交部ハ二十四日在京記者ニ対シ右否定ノ談話ヲ發表シテ夫トナク打消ノ措置ヲ講シタル趣ナリ

御参考迄

米ヨリ紐育、シカゴ、桑港ニ転電アリタシ

連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

郭泰祺中国代表の演説要旨について

第七号

二十七日總会一般討議ニ於テ郭泰祺ハ日支紛争ニ關シ大略左ノ通り述ヘタル上連盟カ水害、知的協力各種専門家派遣等ニ関シ支那ニ与ヘタル援助ニ対シ謝意ヲ表シ連盟支那間ノ緊密ナル關係ヲ高唱セリ

日支紛争ニ対スル連盟ノ昨年來ノ努力ヲ感謝シタル後客年総会以来連盟ノ各種事業ニ關シ事務総長ヨリ提出セル報告

ハ支那ニ極メテ重大ナル關係有リ支那ハ客年来未曾有ノ危機ニ遭遇セルカ右ハ連盟ニ取リテモ重大ナル問題ナリ本件

紛争ハ臨時總会ニ於テ審議セラル事トナリ居ルモ今次總会ニ於テモ之ヲ黙過シ得サル可シ本件ハ議題ニハ無キモ一般討議ニ於テ之ヲ議スルハ何等差支無シト思考ス本件ハ規約不戦条約ヲ基礎トシテ判断スルヲ要シ殊ニ一月七日ノ米國務卿ノ声明及三月十一日總会決議ニ声明セラレタル侵略行為ニ基ク自治体ノ不承認ノ原則ニ主要意識ヲ有セシムルヲス支那ハ素ヨリ事件ノ平和的解決ヲ促進スルニ吝ナラス又軍縮ノ実行ニハ國家ノ安全ヲ第一ニ考慮セサル可カラス況ソヤ日本軍閥ノ行動ニ依リ支那ノ領土保全ノ破レタル

現状ニ於テヲヤ云々

438 昭和7年9月(29)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

内田外務大臣宛第五八三号

リットン報告書の交付および公表期日について

別電

同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より内田外

務大臣宛第五八三号

報告書公表期日に関する内定案

第五八二号（大至急、極秘）

（四三〇文書）

貴電第一六八号ニ関シ

其後事務局情報部長ト種々交渉ノ結果別電第五八三号ノ如キ案ニテ（事務総長モ同意ス）支那側説得ニ努メタルモ支那側ハ報告配布ト公表トノ間ニハ二十四時間アレハ充分ニテ夫レ以上ハ無用ナリト称シ之ヲ固執セルヲ以テ已ムヲ得ス情報部長ノ名ニテ右案ヲ支那側ニ示シ公文ノ回答ヲ取付クル事トナレリ然ルニ其後顏ハ事務総長ヲ訪ネ交付ト公表トノ間ニ長時間置ク時ハ日本側ニテ之ヲ漏洩スル惧アリト称シ同案ニ反対ヲ表明シタルヲ以テ事務総長ニ日支双方ヨリ両国政府ハ報告書ノ内容並ニ之ニ関スル感想等一切漏洩

436 昭和7年9月27日 内田外務大臣より

在ジユネーヴ沢田連盟事務局長、在米國出淵大使宛（電報）

満州国特派使節丁士源のジユネーヴ行について

合第一九一四号（暗）

長春発本大臣宛電報第六四二号

本官発駐満全權宛電報

第六八号

大橋ノ内話ニ依レハ丁士源ノ寿府行ハ愈確定シ旅券ノ査証ヲ得次第当地出発西比利亞經由渡欧ノ筈ナリ旅券ノ査証ハ

哈爾賓ニ於テ各國領事ニ交渉シタル処何レモ公用査証ヲ与フルコトニ同意セリ尚同人ハ執政ヨリ英國仏國露國独逸伊國瑞西白耳義等歐洲主要國ノ元首並ニ連盟ニ宛テタル承認促進ノ親書及執政ノ自署シタル写真ヲ携行シテ各国ニ捧呈スルコトナリ居ル趣ナリ

駐滿全權ヨリ奉天ヘ転報アリタシ

大臣、哈爾賓、北平ヘ転電セリ

437 昭和7年9月(28)日 在ジユネーヴ連盟代表より

内田外務大臣宛（電報）

事項4 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

スル事無カルヘキ旨ノ保証ヲ与ヘ（別電記載ノ事実タケハ
発表差支無キ事勿論ナリ）漸ク別電ノ案ニ纏レリ

（別電）

第五八三号（暗、大至急）

（一）九月三十日東京時間午後七時（南京時間六時）日支両国

政府へ内密ニ交付ス

（二）十月一日夕報告書ヲ各理事国政府宛郵便ニテ発送ス

配布

（三）二日午後一時寿府ニ於テ新聞及連盟各国代表部へ同時ニ

右ト同時ニ東京（午後九時）及南京（同八時）ニ於テ公

表、右時刻迄ハ両国政府ハ報告ノ内容ニ関シ如何ナル情

報ヲモ洩ラサルコト

（四）「リットン」委員会ノ作成シタル「レジュメ」ハ東京

（青木ノ手ニテ）及南京ニ於テ前項公表ト同時ニ配布セ

ラルヘシ、当地事務局ハ「レジュメ」ヲ出サス

昭和7年9月(29) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

内田外務大臣宛（電報）

中国側要求に基づく十九人委員会の招集につ

いて

触ル所無シ

次ニ英代表「セシル」ハ連盟ニ対スル故意ニ誇張セラレタ
ル悲觀論ハ問題トスルニ足ラサルモ眞面目ナル批判論ハ之

ヲ無視シ得ス即チ連盟ハ多大ノ経費ヲ費シ乍ラ其ノ行動ハ

大ナル効果ヲ挙ケ居ラスト為ス非難アルモ右ハ連盟其ノモ

ノヨリモ連盟国ニ対シ向ケラル可キモノニシテ近時各国ノ

平和ニ対スル熱心ノ減退セルコトハ其ノ主因ヲ為セリトテ

日支問題ニ言及シ本件ノ責カ日支両国ノ何レニ有リヤハ茲

ニ断定シ難ク今茲ニ其ノ何レヲ非難スル次ニ非サルモ若

シ規約カ完全ニ履行セラレタリシナランニハ極東現下ノ困

難ハ存続セサリシナルヘシ本件ニ関シ制裁ノ適用ヲ云為ス

ルモノアリ予ハ本日深ク之カ論議ニ入ラントスルモノニ非

サルモ当事国ノ何レカ規約ノ義務ニ違反ノ事實有ラサル可

カラスト述ヘ世界現下ノ不況ノ原因ノ七割ハ専ラ独仮關係

ニアリト言フモ過言ニ非サル可キ處之亦規約ノ精神ニ依リ

ハ伊國ノ対連盟政策不变ヲ説キ軍縮及經濟問題ニ関スル同

国從来ノ態度ヲ繰返セリ

第五八四号（暗）

往電第五七八号ニ関シ
「イーマンス」議長ハ二十八日付ヲ以テ支那側ノ要求ニ応
シ近ク十九人委員会ヲ招集スヘキ旨回答セル趣發表セラレ
タルカ「ウォータース」ヨリ聞ク所ニ依レハ来る三十日又
ハ十月一日同委員会開催セラルヘシトナリ

米ヘ転電シ在欧各大使ヘ暗送セリ

（イーマンス）議長ハ二十八日付ヲ以テ支那側ノ要求ニ応

シ近ク十九人委員会ヲ招集スヘキ旨回答セル趣發表セラレ
タルカ「ウォータース」ヨリ聞ク所ニ依レハ来る三十日又

ハ十月一日同委員会開催セラルヘシトナリ

440 昭和7年9月(30) 在ジユネーヴ連盟代表より
内田外務大臣宛（電報）

九月二十九日の総会の模様について

第九号

二十九日総会一般討議ニ於テ仏代表「エリオ」ハ過去ニ於
ケル連盟ノ功績ヲ称ヘ殊ニ本年軍縮會議ノ成果、不戦条約
ノ活用、「スチムソン」声明ヨリ明カトナレル米國ト連盟
ノ協力、労山會議及「ストレザ」會議ノ成功、世界經濟會
議ノ招集、土耳其「イラク」ノ連盟加入及近々亞爾然丁ノ

復帰スヘキコト等ヲ挙ケテ連盟ノ将来ニ対スル悲觀論ノ根
拠無キ事ヲ説キ仏國ノ根本方針ハ Pacte, tout le Pacte,

rien que Pacteナリト述ヘ仏獨關係、日支問題等ニハ直接
往電第五八二号ニ関シ
(四)〔文書〕

441 昭和7年9月(30) ※在ジユネーヴ連盟事務局長より
内田外務大臣宛（電報）

リットン報告書公表問題に関するドラモンド

総長の顔代表との交渉経緯について

第五八五号（暗、至急）

往電第五八二号ニ関シ

其後「ドラモンド」ヨリ本件ニ関シ顔惠慶ト同氏トノ間ニ

往復シタル文書ノ写ヲ送付シ來レルカ右ニ依レハ顔ハ「往

電第五八三号」ノ案ハ交付ト公表トノ間ニ昼夜ヲ置ク為

「リットン」報告ノ内容ニ付一方ニ都合良キ報道カ新聞紙

ニ現ハルル虞アルノミナラス同報告ヲ同日中ニ各國政府ニ

交付シ且公表スルコトトナシタル理事会ノ決定ニモ反スル

次第ナルヲ以テ若シ同案カ採用セラルトセハ支那政府ハ最

大ノ留保ノ下ニ於テノミ之ヲ受諾スヘシ」ト申送リタルニ

對シ「ド」ハ「二十四日ノ理事会ニ於テ余ハ報告書ヲ同時

ニ日、支両国及各連盟国代表部ニ交付スヘキ旨述ヘタルモ

其後若シ右ト同時ニ公表セラルコトナラハ報告書一部

ノミヲ受領シ且翻訳ノ要アリ当事国政府ニトリ不公平ナリ
依テ之ヲ公表ニ先立チ交付セラレタキ旨ノ申出アリ依テ

事項5 中国およびその他各地における排日状況

日、支両国代表部ト協議ノ上一案（往電第五八三号）ヲ作成セル次第ナルカ余ハ右案ノ実行ニ関シテハ公表時刻迄絶対ニ秘密扱ト為スコトニ付両国政府ニ信頼セサルヲ得ス而シテ右ニ関シテハ情報部長ハ両代表部ヨリ明確ナル保証ヲ取付ケタリ依テ両国政府ハ交付ト公表トノ間ニ何等漏洩ノ虞ナキ様之ヲ確保スルコトト確信シ居レリ」云々ト回答シ

居レリ

本件ハ種々困難ナル交渉ヲ重ネタル末右ノ如キ経緯ヲ以テ事務局側ハ漸ク支那側ヲ抑ヘタル次第ナルニ付支那側カ如何ナルコトヲ為スヤハ別問題トシ我方トシテハ公表迄報告ニ関スル一切ノ情報外間ニ漏レサル様嚴ニ御処置相成度シ（本電長岡理事ヨリ）

事項5 中国およびその他各地における排日状況

1 昭和7年1月1日 在広東須磨（弥吉郎）總領事代理より
犬養外務大臣宛（電報）
広東において邦人殴打殺害事件発生について

広東 1月1日後発
本省 1月2日前着

第七号（至急）

病院ニテ死体ヲ検視セルニ三十歳前後ノ中肉ノ服装余り宣シカラサル一見職工風ノ者ニテ刃物ニ依ラサル鈍体ニ依ル打撲傷無数アリ致命傷ハ後頭部ノ破壊ナル趣ナリ

三、遭難現場ハ広九鉄路停車場ノ西北方四丁ノ地点ニシテ公安局秘書ノ語ル処ニ依レハ被害者ハ手荷物ヲ持ソテ徒步ニテ右地点ニ至リ人力車ヲ雇ハントセルニ言語不通ノ為口論シタルニ付近ノ群衆ノ為殴打セラレタルモノノ如ク現場ニ急行セシ公安局巡警數名ハ極力群衆制止ニ努メタルモ群衆多勢ニテ遂ニ四名傷ツキ中一名ハ重態ナルカ急報ニ接シ最寄公安局ニ応援巡警ヲ派遣セル時ハ最早群衆四散ノ後ナリシモ逃げ遅レタル苦力一名ヲ逮捕シ目下嚴重取調中ナル趣ナリ

四、尚矢野ヨリ右両秘書ニ対シ正月早々斯ル不祥事ヲ惹起查セシメタルニ名刺及書簡等ヨリシテ被害者ハ大阪市此花区玉川町一〇二番地居住多羅尾義広ナル者ニテ台灣經由來広シタル者ト推定セラレタル趣ナリ

二、依テ矢野及博愛会医師ハ右公安局秘書ト立会ノ上私立